

名古屋大学防災関係資料集

平成17年11月

名古屋大学災害対策室

名古屋大学施設管理部施設管理課環境安全支援課

名古屋大学防災関係資料集（平成 17 年 11 月）

名古屋大学災害対策室／名古屋大学施設管理部施設整備課環境管理室

1. 防災関係の基本計画・規程・マニュアル等（全学・本部関係）

- 名古屋大学地震防災計画（平成 17 年 4 月改訂版）【資料 1】
- 名古屋大学自然災害対策規程（平成 17 年 4 月 1 日）【資料 2】
- 名古屋大学災害対策統括本部防災隊要項（平成 17 年 6 月 17 日）【資料 3】
- 名古屋大学災害対策統括本部の基本方針（案：平成 17 年 12 月 17 日役員会審議予定）【資料 4】
- 名古屋大学防災無線運用要項（平成 17 年 6 月 22 日）【資料 5】
- 名古屋大学防災無線運用マニュアル【資料 6】
- アマチュア無線運用細則【資料 7】
- 異常気象に関する警報等情報の連絡網について（平成 16 年 10 月 6 日環境安全防災委員長通知）
【資料 8】
- 暴風雨等による災害予防のための当面の対応方針（平成 16 年 8 月 16 日揭示）【資料 9】
- 名古屋大学と名古屋大学消費生活協同組合との間における災害時の相互協力に関する協定
（平成 17 年 4 月 1 日）【資料 10】
- 名古屋大学医学部附属病院と財団法人共済団との間における災害時の相互協力に関する協定
（平成 17 年 10 月 24 日）【資料 11】
- 名古屋大学環境安全防災委員会規程（平成 16 年 5 月 31 日）【資料 12】
- 名古屋大学環境安全防災委員会専門委員会細則（平成 16 年 5 月 31 日）【資料 13】
- 防災備蓄品（資器材）一覧及び保管場所の位置図【資料 14】

2. 防災ガイド

- 学生のための名古屋大学地震防災ガイド（平成 17 年度版）【資料 15】
- 留学生のための名古屋大学地震防災ガイド（案：平成 17 年 11 月 25 日 自然災害等対策専門委員会資料）【資料 16】

3. 現状評価・提案資料

- 部局版・地震防災計画の状況（平成 17 年 9 月 20 日 環境安全防災委員会資料、平成 17 年 9 月 15 日 自然災害等対策専門委員会資料）【資料 17】
- 建物内地震対策の推進状況（平成 17 年 9 月 20 日 環境安全防災委員会資料、平成 17 年 9 月 15 日 自然災害等対策専門委員会資料）【資料 18】
- 防災備蓄品の購入の指針（平成 17 年 10 月 21 日 自然災害対策専門委員会資料）【資料 19】
- 名古屋大学災害時安否確認のあり方（平成 17 年 10 月 21 日 自然災害対策専門委員会資料）
【資料 20】

4. 地震防災訓練

- 平成 15 年度地震防災訓練
 - ポスター、名大トピックス 127 号記事【資料 21】
 - 実施用資料【資料 22】
- 平成 16 年度地震防災訓練（2回）
 - ポスター、名大トピックス 139 号記事【資料 23】
 - アンケート集計結果【資料 24】
 - 実施用資料【資料 25】

平成 17 年度地震防災訓練

ポスター、名大トピックス 150 号記事【資料 26】

地震防災訓練アンケート集計結果（平成 17 年 11 月 25 日 自然災害対策等専門委員会資料）
【資料 27】

部局独自の防災訓練結果報告（平成 17 年 11 月 25 日 自然災害対策等専門委員会資料）
【資料 28】

実施用資料【資料 29】

名古屋大学防災訓練におけるアマチュア無線による情報伝達訓練【資料 30】

5. 防災啓発

学内地震防災セミナー、防災訓練講演

開催概要【資料 31】

防災訓練講演会資料【資料 32】

留学生センター防災ワークショップ

開催概要【資料 33】

留学生センター防災ワークショップ資料【資料 34】

防災アカデミー

開催概要【資料 35】

ポスター等【資料 36】

6. 各部局関係

部局防災マニュアル（別冊）

地震防災計画

目 次

| | |
|--------------------------------------|----|
| 1. 目的 | 1 |
| 2. 名古屋大学における防災組織 | 1 |
| 3. 東海地震注意情報・予知情報発表又は警戒宣言発令時における対応 | 1 |
| (1) 勤務時間内における対応 | 2 |
| (2) 勤務時間外における対応 | 2 |
| 4. 地震発生時の対応 | 3 |
| (1) 災害対策統括本部及び統括本部防災隊の対応 | 3 |
| (2) 部局災害対策本部及び部局防災隊の対応 | 3 |
| (3) 研究室等における対応 | 3 |
| (4) 勤務時間外の突発的な地震又は警戒宣言発令後の対応 | 4 |
| 5. 復旧にあたっての注意事項 | 5 |
| (1) 電気の使用 | 5 |
| (2) 都市ガス及び水道の使用 | 5 |
| (3) 高圧ガスボンベの使用 | 5 |
| (4) エレベーターの使用 | 5 |
| 6. 地震に対する日常の備え | 6 |
| (1) 日常的に取っておくべき対策 | 6 |
| (2) 防災訓練・防災啓発活動 | 6 |
| (3) 避難場所の設定と避難路の整備 | 8 |
| (4) 非常持ち出し品の選別 | 8 |
| (5) 食料・飲料水・生活必需品と災害対応で必要となる資器材の備蓄と管理 | 9 |
| (6) 情報収集、情報伝達手段の確保 | 10 |
| (7) 安否確認手段の確立 | 10 |
| (8) 避難場所の運営 | 10 |
| (9) 職員、学生・保護者への情報伝達 | 11 |
| (10) 建物の耐震度合の周知徹底 | 11 |
| (11) 居室、実験室等に於ける安全対策 | 11 |

関係規程等

- (1) 名古屋大学自然災害対策規程
 - (2) 名古屋大学災害対策統括本部防災隊要項
 - (3) 名古屋大学災害対策統括本部マニュアル
- 付 録 学生のための名古屋大学地震防災ガイド

1. 目的

本計画は、名古屋大学（以下、「本学」という）における地震被害軽減を図り、責任体制を明確にすることを目的に、地震発生時の対応、復旧時の諸注意及び平常時の防災計画の基本を定め、全体像を示す。

具体的な対応策については、全学的対応を、名古屋大学自然災害対策規程、災害対策統括本部防災隊要項、名古屋大学災害対策統括本部マニュアル及び学生のための名古屋大学地震防災ガイド等に纏める。また、本計画に基づく部局毎の対応については、各部局の地震防災計画や地震防災マニュアルにおいて定めるものとする。

2. 名古屋大学における防災組織

地震発生時又はその発生が予知された場合には、本学の本部に災害対策統括本部を、各部局に部局災害対策本部を設置する。また、本学には、火災を想定した消防隊が既に組織されているが、地震発生時には本部及び部局の責任体制および役割分担の明確化を図り、より機動的に行動できるよう、本部並びに各部局に「防災隊」を組織し、被害軽減、救援・救護活動、復旧支援活動等を行う。

3. 東海地震注意情報・予知情報発表又は警戒宣言発令時における対応

東海地震の観測データの異常が一定のレベルを超えた場合、気象庁はその異常の程度に応じて、「観測情報」「注意情報」「予知情報」を発表する。危険度の最も高い「予知情報」が出ると、地震防災対策強化地域判定会が招集され、「地震発生の可能性が高い」と判断された場合には、最終的に内閣総理大臣によって「警戒宣言」が発令される。

警戒宣言が発令されると、公共交通機関は原則的にストップし、帰宅手段は極めて制限される。そのため本学においては、注意情報段階ですべての教育研究活動および通常の大学業務を中止にし、災害対策統括本部並びに防災隊の要員等、災害対策要員以外の職員及び学生等は速やかに帰宅することとする。

予知情報あるいは警戒宣言が発表された場合の対応も同様である。しかしこの段階になると、帰宅困難者が多数出るため、帰宅困難者の安全確保を図る。

注意情報もしくは予知情報、警戒宣言が出た場合の基本的対応は以下の通りである。

(1) 勤務時間内における対応

① 災害対策統括本部の設置

総長は、注意情報発表（予知情報発表、警戒宣言発令を含む。）の一報を受けて、災害対策統括本部及び統括本部防災隊を設置すると共に、各部局に部局災害対策本部の設置を指示する。本部には、本部長、副本部長、災害対策室長をはじめとする統括本部要員が参集し、防災対策を指揮・統括し、各種情報収集活動、情報の伝達及び帰宅状況等の把握に努める。

② 部局災害対策本部の設置

部局長は、災害対策本部及び部局防災隊を設置し、各種情報収集活動、情報の伝達及び帰宅状況等の把握に努める。

③ 研究室等における対応

- ・ すべての授業、実験、研究を速やかに中止する。
- ・ 研究室等においては、実験、研究、業務等を速やかに中止し、以下のような災害防止措置（対策は日頃行っておき、確認程度にする）を講じた後、帰宅する。
- ・ 装置の停止、火源・熱源の遮断、冷却水等の供給停止措置を行う。都市ガス、水道の元栓を閉じ、配電盤のブレーカーを遮断する。
- ・ 薬品棚、薬品保管庫の点検をする。棚・保管庫の転倒防止措置、容器の落下防止措置、容器同士の接触破壊防止措置、混触危険性回避の有無を点検し、適切な処置を行う。薬品保管冷蔵庫に関しても、同様に点検する。
- ・ 高圧ガスボンベの点検をする。転倒防止措置を確認し、元バルブを完全に閉めておく。
- ・ 研究室内の機器類、机、ロッカー、棚等の固定状況、キャスター付き台車等の走行防止状況を点検し、転倒・落下等の危険性があるものについては、適切な処置を行う。
- ・ ガラス、照明器具等の破損・落下防止措置を確認する。
- ・ 研究室等の構成員の帰宅状況を、部局災害対策本部に報告する。

(2) 勤務時間外における対応

注意情報（予知情報、警戒宣言を含む）が夜間・休日等の勤務時間外に発表された時も、勤務時間内と同様に、本部に災害対策統括本部及び統括本部防災隊を設置し、各部局は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置する。

大学内に残っている教職員、学生等には、大学の各地区に設置してある防災無線による放送等により通報する。残っている職員、学生等は、直ち

に防災対策をとった上で、部局災害対策本部等に報告した後、帰宅する。装置を停止するなどの安全対策を行う必要のある研究室等においては、予め災害時の応急活動に当たる要員を決めておく必要がある。

4. 地震発生時の対応

気象庁発表の震度で、名古屋市内の少なくとも1カ所で震度6弱以上が観測された場合、総長は災害対策統括本部を設置する。なお、この基準に満たなくとも、本学の施設及び本学の職員・学生等が被災した場合等、総長の判断でこれに準じた対応をとることもできる。

(1) 災害対策統括本部及び統括本部防災隊の対応

総長の指揮下において、本学は、災害対策統括本部及び統括本部防災隊を設置し、職員・学生、患者・病院関係者等の安全確保並びに救援・救護、本学施設の被災状況の把握、二次災害の抑止、早期復旧等を図ると共に、国や地域と連携した災害対策を進める。

(2) 部局災害対策本部及び部局防災隊の対応

部局の長は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置し、当該部局の職員、学生等の安否確認、避難状況、人的・物的被害状況を把握し、被災者の救助、負傷者の処置、資器材の確保等、必要な措置を講じる。また、災害対策統括本部と密接な連携の下に、各種情報の収集・伝達に当たる。

(3) 研究室等における対応

研究室等では、前述の、対応すべき突発的な地震規模（震度6弱）に該当するか否かにかかわらず、地震の強い揺れを感じた場合、以下の対応をとる。

[初期対応]

- ・ 地震の規模や周りの状況を冷静に判断し、まず身の安全をはかる。
- ・ 避難路となる扉を開放し、脱出口を確保する。この際、扉に物をかませ、扉が閉まらないようにする。
- ・ 転倒や怪我の恐れのある物（棚、保管庫、装置類、ガラス窓等）から速やかに離れ、丈夫な机や実験台の下に身を隠す。身を隠す物がない場合には、壁際や柱の多い場所に身を潜める。地震の規模が大きい場合には、書棚や保管庫は、中身の落下や飛び出しの恐れがあり、キャスター付きの装置類は、それが動いて身体を挟まれることがあるので注意する。また、窓

際は、ガラスの破片で怪我をする危険性がある。

- ・ 火気の使用を中止し、ガス、水道の元栓を閉じる。配電盤のブレーカーを切る。高圧ガス、特に可燃性、毒性、支燃性ガスの元弁を閉じる。
- ・ 実験台上にある可燃性、毒性及び混触危険性を有する薬品を、落下のおそれがない床等に置く。
- ・ エレベーター内で地震に遭遇し、閉じこめられた場合は、エレベーター内に設置されている非常電話で連絡を取る。

[消火・救出作業]

- ・ 火災が発生した場合は、「火事だ！」と叫び、次の措置を行う。付近に人がいる場合は、応援を求める。
- ・ 都市ガス、ボンベ等の元栓を閉じ、電気のスイッチを切り、可燃物を取り除く。
- ・ 火災報知器のボタンを押し、警務員詰所に通報する。電気及び電話網が切断された場合には、通報は不可能となるので注意する。
- ・ 初期消火が可能な場合は、消火器を使って消火する。ただし、火炎が天井まで達するなど、消火が不可能な場合は、「消火不可能！」と叫び、付近の人に知らせた後、直ちに避難し消防署に通報する。
- ・ 負傷者や救助を必要とする人がいる場合は、周りの状況を慎重に判断し、救助する。付近に人がいる場合は応援を求め、防災隊救護班に通報する。

[避難]

- ・ 避難が必要と判断した場合、又は部局災害対策本部或いは部局防災隊から避難指示があった場合には、次の点に留意し、避難する。
- ・ 2次災害を防止するため、火災の危険性回避、電源の遮断、都市ガス・高圧ガスの元栓閉鎖、水道の元栓遮断等の措置を取った後、速やかに本学指定の避難場所に避難する。
- ・ 壁や建物上方からの落下物、特にガラス等や足下に十分注意して、避難する。防災隊が機能している場合は、避難誘導班の指示に従う。
- ・ エレベーターによる避難は、途中で停止し、閉じ込められるおそれがあるので絶対にしてはならない。
- ・ 避難先では、各研究室単位、学部生にあつては各学年単位で、防災隊の避難誘導班に不明者の有無、負傷者の有無等、避難状況を報告する。

(4) 勤務時間外の突発的な地震又は警戒宣言発令後の対応

- ・ 勤務時間外に突発的に地震が発生した場合、以下のような問題が生じるので注意する必要がある。

- ・ 夜間に地震が発生した場合は、停電等のために避難に時間を要する。
- ・ 人が少ないため、消火・救出、救助等の活動が困難となる。また、通信網の切断に伴い、情報の収集・伝達も困難となる。
- ・ 防災隊が編成されるまでにかかなりの時間を要する。従って、防災隊が編成されるまで、在学している者だけで臨機応変に対応する必要がある。
- ・ 勤務時間外に発生した突発地震に対しては、各自の身の安全を最優先に、できる範囲内で以下の対応をとる。
- ・ 初期対応、消火・救出作業、避難等に関しては、「勤務時間内の突発地震に対する対応」と同様である。
- ・ 負傷者がいる場合は、救急処置を行い、必要に応じて病院等への搬送を行う。
- ・ 在館者の安否確認を行う。
- ・ 電話網が遮断され、情報が伝達できない場合は、警備員詰所に行き、負傷者の有無、火災発生の有無、避難者数、被害状況等に関する情報を伝達する。

5. 復旧にあたっての注意事項

(1) 電気の使用

避難する際は、配電盤のブレーカーを遮断するが、復旧する際は、決してそのままの状態に通電してはならない。建物内の配線のチェックが完了し、室内の電気器具等が切断されていることを確認した上で、通電しなければいけない。これを怠ると、思わぬ火災を招くことがある。

(2) 都市ガス及び水道の使用

避難する際は、都市ガス及び水道の元栓を閉めて避難するが、地震後にそれらを使用する際は、配管からの漏れ試験が済んだ後に行わなければならない。

(3) 高圧ガスボンベの使用

避難する際は、ボンベの元バルブを閉じて避難するが、地震後に使用する際は、配管からの漏れ試験を行った後に行わなければならない。特にボンベ倉庫からの集中配管で使用している場合には、注意する必要がある。

(4) エレベーターの使用

地震後、エレベーターの使用は、点検が終了してから行わなければならない。転落等の危険性がある。

6. 地震に対する日常の備え

(1) 日常的に取っておくべき対策

地震は、警戒宣言が発令されてから来るとは限らない。突然の地震に対しても、適切に対応できる態勢を常日頃取っておく必要がある。過去の大地震からの教訓として、地震動そのものによる被害（1次災害）よりも、その後の火災や津波による被害（2次災害）が大きいことが挙げられる。従って、「備えあれば、憂いなし」のことわざ通り、火災が発生しないような対策（危険物の保管方法等）、万一火災が発生しても即座に対応できる体制の整備や機器類等の転倒・落下防止対策を日頃からとっておけば、被害をかなり軽減できる。地震による被害の程度は、日頃の安全対策にかかっていると言っても過言では無い。

更に各部局は、各部局の実態に沿った地震防災計画もしくは地震防災マニュアルを作成し、地震発生前の事前対策と地震発生後の事後対応等について取り決めを行う。

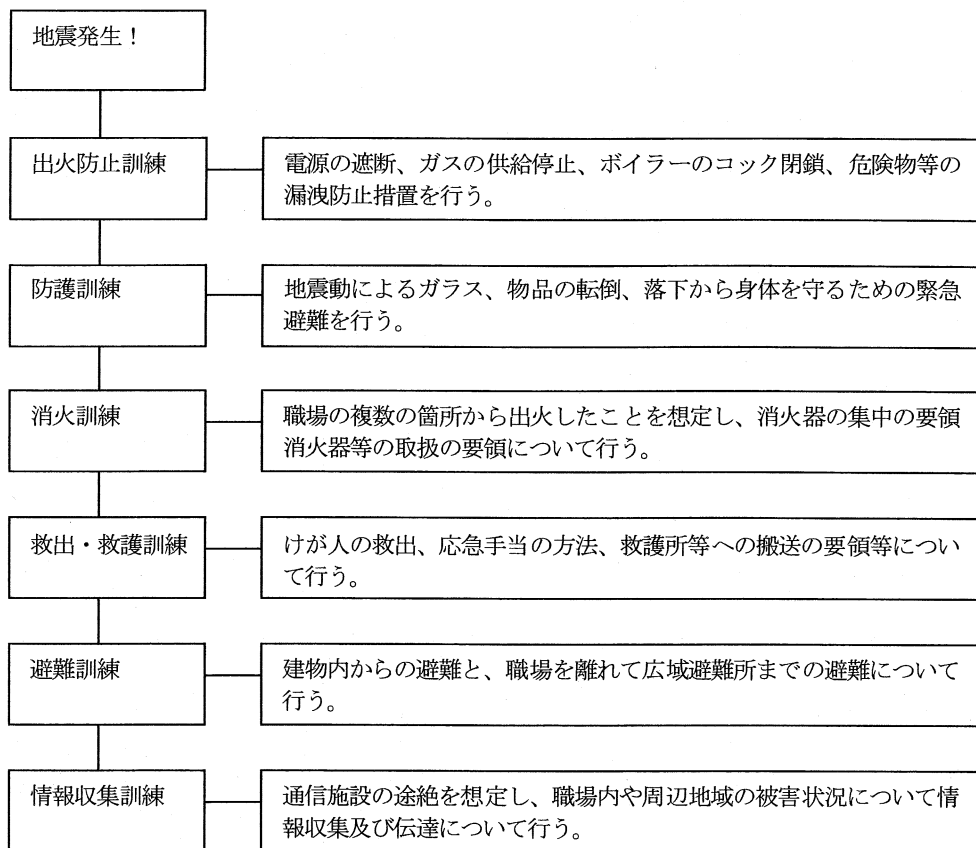
(2) 防災訓練・防災啓発活動

防災訓練は、突発地震を想定した訓練と注意情報発表を想定した訓練を全学的に行う。本学の訓練の日時は国際防災の日の10月第2水曜日の第2限目等を充てる。

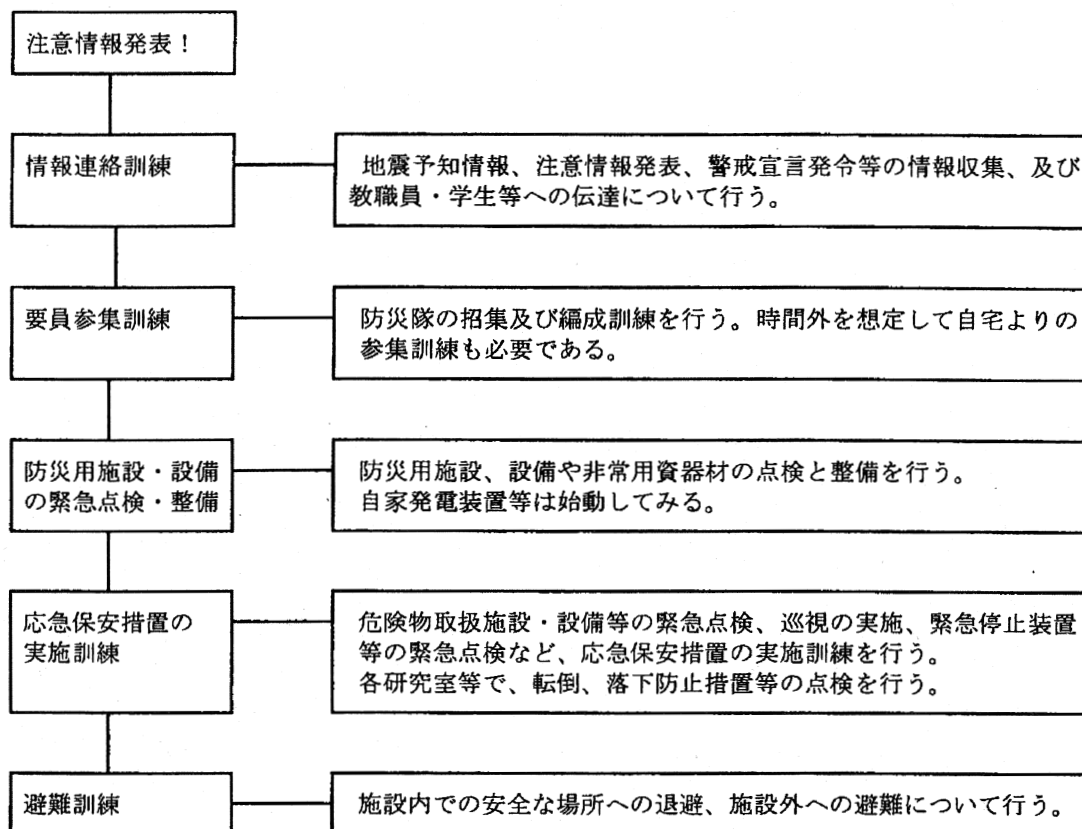
各部局ごとの防災訓練は、全学の訓練と相補的な位置づけになる。具体的な部局や研究室での防災訓練は、部局の自主的な防災意識に基づく内容で実施しないと、効果を上げることはできない。このため、全学の防災訓練の日もしくはその前後に、部局毎で独自の防災訓練を実施する必要がある。

また、防災訓練の他に、各部局は平時から防災啓発活動も行う。災害・防災に関する基礎知識、災害応急対策活動に関する知識などについて、各部局の地震防災計画・地震防災マニュアルに明記したり、講座・講演等をとおして構成員に周知徹底する必要がある。

地震発生を想定した訓練



東海地震注意情報発表を想定した訓練



(3) 避難場所の設定と避難路の整備

突発的な地震や警戒宣言が発令された場合に備えて、部局毎に避難場所を指定し、地震防災計画・地震防災マニュアル、防災訓練等を通して構成員に周知徹底しておく必要がある。また、日常的には、防災隊による危険個所の把握と点検及び避難場所までの経路の整備が望まれる。各部局の避難場所に関しては別に定める。

なお、何時、何処で遭遇するか分からない地震にあつては、これとは別に名古屋市が指定する広域避難所を利用することも念頭に入れておく必要がある。

(4) 非常持ち出し品の選別

各部局が主体的に働きかけ、「研究室、事務室等において、災害発生時に緊急に持ち出す必要がある物品を整理し、1カ所に纏めておく」ことが望ましい。また、非常持ち出し品の管理担当者を決めておくことが望ましい。

(5) 食料・飲料水・生活必需品と災害対応で必要となる資器材の備蓄と管理

地震が発生すると、救助・救急、消火活動における必要資機材が必要となる。また、ライフライン（電気、ガス、水道）等の供給がストップすると、組織的な救援活動が行われるまでの間（3日間と言われている）は、自力で対応しなければならない。全学的な規模で救助・救急、消火活動における必要資機材や、非常用食料・飲料水・生活必需品、災害対应用資器材等を確保することが必要である。

また各部局は、全学から配備又は各部局で備蓄したこれらの備蓄品について、その備蓄・配置場所または管理体制について取り決めておく。また、その内容について、各部局の構成員に計画・マニュアル、防災訓練等により周知徹底することも併せて必要である。

・非常用食料・飲料水・生活必需品

食料品としては、飲料水（1人1日当たり3L）、食料、燃料が少なくとも3日分必要である。これらは、基本的に自主的に用意し、備えることが原則である。

ちなみに、愛知県は、阪神大震災を教訓に備蓄食料を算出し、約180万食（県内市町村：約170万食、愛知県：9.3万食）を用意している。これは、阪神大震災の避難者が阪神淡路地域の人口の9.7%であったことから、愛知県の人口にこの比率をかけて算出されたものである。これとは別に、名古屋市は各家庭に7日分の非常用食料の備蓄を呼びかけている。従って、警戒宣言発令時に避難した住民に、備蓄食料の支給はしない方針である。また、生活必需品についても特に各部局の災害対応要員のものを中心に日頃から備えておく必要がある。

本学における備蓄食料の使用目的は、①注意情報発表時・突発地震発生時において、職務上学内に留まり災害対策に当たる要員への支援、および②被災者・要援護者等、人道的に支給することが必要であると総長が判断したもの、の2つに限定する。これらの経費は原則全学で負担する。

なお、警戒宣言発令時等の帰宅困難者への非常用食料は、生協等との連携を図るほか、部局毎の状況に応じて、部局の判断で別途備蓄することもあり得る。

・救護用資器材

倒壊した建物や土砂崩れの中から救出するための道具として、スコップ、つるはし、バール、ジャッキ、ハンマー、ノコギリ等を常備しておく。必要数について原則全学で購入し、部局毎で維持管理し、使用する。

・応急手当用品

応急手当に必要な物として、消毒液、外用薬、包帯、三角巾、絆創膏、ガーゼ、カッ

ト綿、はさみ、ナイフ、ピンセット、毛抜き、体温計、水枕、氷のう、タオル、バスタオル、シーツ、毛布、副木、担架等を準備しておく必要がある。

なお、保健管理室（保体センター）では災害時医療用品、医薬品を備蓄しておき、救急処置を行う。

(6) 情報収集、情報伝達手段の確保

大規模地震発生において組織としての的確な対応行動をとるためには、正確な情報を速やかに収集し、伝達する手段を確保しておくことが重要である。このような災害時には、携帯電話による通話は回線輻輳を生じるため極力避けるべきである。情報の収集、学内の連絡、他機関への連絡等で有効な手段を検討し、必要機器を常備しておく必要がある。具体的には、災害時優先電話、非常用電源（発電機等）、防災無線、非常用インターネット、災害時用ホームページ等の活用が望まれる。

各種情報についての収集・伝達方法については、各部局の地震防災計画・地震防災マニュアル等に明記し、防災訓練等を通して担当者等に周知徹底する必要がある。

(7) 安否確認手段の確立

大規模な災害に備えて、日頃から職員及び学生等の安否を確認する方法を講じておく必要があるので、職員及び学生等の所属、住所、連絡先、被災状況、被災後の所在地等が明瞭に分かる名簿を用意しておく必要がある。

防災訓練の際、地震直後に最低限把握すべき、各建物内における被災状況・安否情報の迅速な収集を継続的に実施する。これに向け、各部局・各建物において、上述の名簿を、必ず新年度最初に更新する必要がある。

また、インターネットメールの活用等、災害発生から数日間以内に、学外にいる教職員・学生等も含めて安否確認ができるよう、補助的手段を整備する必要もある。

安否確認手段については、各部局の地震防災計画・地震防災マニュアル等に明記し、防災訓練等を通して各部局の構成員全員に周知徹底する必要がある。

(8) 避難場所の運営

本学附属中・高等学校は、名古屋市により避難所に指定されている。このため近隣住民の避難が想定され、地域の救援・救護活動への支援が必要となる。これ以外の大学キャンパス（病院を含む）は、避難所・避難場所等には指定されていない。しかし、災害時には近隣住民や地下鉄駅構内等からの避難者が集まる可能性があり、一時避難場所の提供等、臨機応変な対応が必要となる。

各部局では、全学的な避難場所運営計画の決定に基づいて、帰宅困難者や避難

者の受け入れ、災害弱者への配慮などについて、避難所の運営方針・運営体制を取り決める。

(9) 職員、学生・保護者への情報伝達

学校の再開に数日以上のかかるような場合には、全学の方針のもと、学生・保護者に対して、学校再開時期、講義・試験・成績の取り扱い、各種証明書の発行等についての情報伝達を行う必要がある。また教職員に対しても、出勤の有無や業務等についての情報伝達が必要である。これらの連絡方法、問い合わせに対する対応方法等についても、各部局で事前に取り決めておくことが必要である。

(10) 建物の耐震度合の周知徹底

各部局の建物がどの程度の耐震性を有するものなのかについて、建物の耐震度合や耐震化に関する基礎知識などを、各部局の構成員に対して、地震防災計画・地震防災マニュアル等で、事前に周知徹底しておくことが必要である。

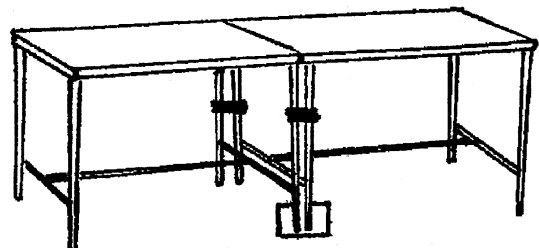
(11) 居室、実験室等に於ける安全対策

事務室及び居室等には、棚、机、ロッカー、パソコン等、地震が発生すると転倒・落下しやすい物が多数あり、避難する際の妨げとなるばかりでなく、場合によっては人命そのものを傷つける恐れがある。また、研究室及び実験室等には、可燃性・有毒性ガス類や、引火性・可燃性・発火性薬品、混触危険性を有する薬品類が多数存在しており、更に比較的重量のある測定機器類や実験装置類が存在しており、転倒・落下防止措置や固定をしっかりとっておく必要がある。地震の場合、下方に比べて上方は激しく揺れる。建物は、10階は1階に比較して震度が1程度違うほど激しく揺れる。また、棚の上部は、下部より激しく揺れる。従って、建物の上層階では、より綿密な安全対策が必要であり、また、棚の上部には、たとえ落ちても安全な物を収納するなどの配慮が必要である。地震対策は、形式的ではなく、効果的なものでなければならない。あくまでも人命を守る立場に立って、しっかりした安全対策を施す必要がある。

① 事務室・居室における安全対策

机

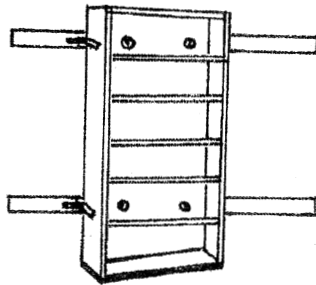
- ・ 机の脚を縛る。束ねる机が多いほど効果的。
- ・ 机の脚にゴム製の台座（または両面テープ）を付ける。



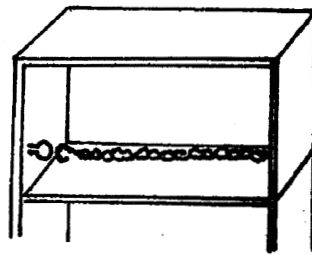
棚・ロッカー・キャビネット類

- ・ 棚を壁面に固定する（L型金具、または直接固定）。（a）
- ・ 転落防止用の鎖とフックを取り付ける。（b）
- ・ ガラス戸は、市販の落下防止用フィルムを貼る。

a)



b)



パソコン等

市販されているパソコン固定用ブロックやディスプレイ固定用バンド及びテープまたは粘着性のマットを敷く。

窓ガラス等

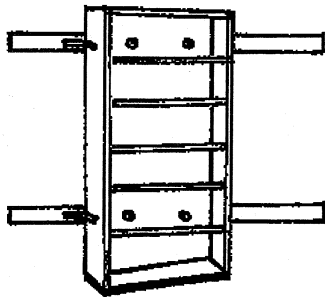
窓ガラス等、破損して落下する危険性のあるものには、市販の落下防止用フィルムを貼付しておく。フィルムとしては、省エネも兼ねた熱線遮断フィルムの使用を推奨する。

② 研究室・実験室等における安全対策

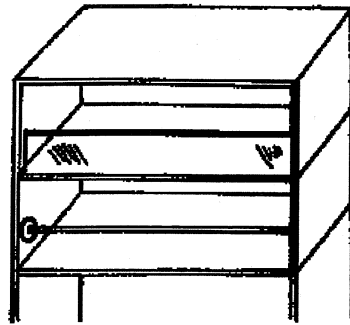
薬品戸棚

- ・ 棚を固定する（L金具、または直接固定等）。（a）
- ・ プラスチック製板（上）、またはステンレス製パイプ（下）による落下防止。（b）
- ・ コンテナに仕切板を入れ、薬品容器を収納する。混触危険性（混触発火、有害ガス発生等）のある薬品類は異なる部屋に保管するか、離れた場所に保管する。引火性、可燃性、発火性薬品は棚の下部へ収納する。薬品保管冷蔵庫についても、冷蔵庫自体の固定、容器のコンテナへの収納、容器同士の接触による破損防止、コンテナの飛び出し防止措置を行う必要がある。（c）

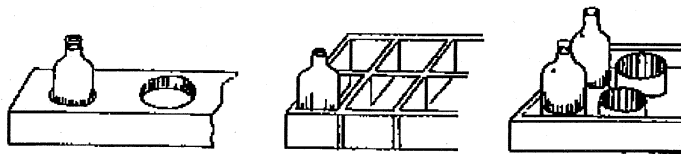
a)



b)

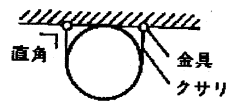
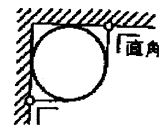
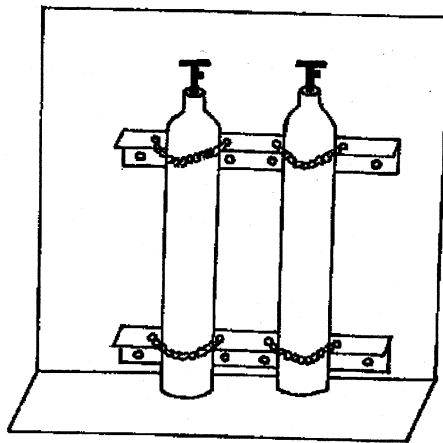


c)



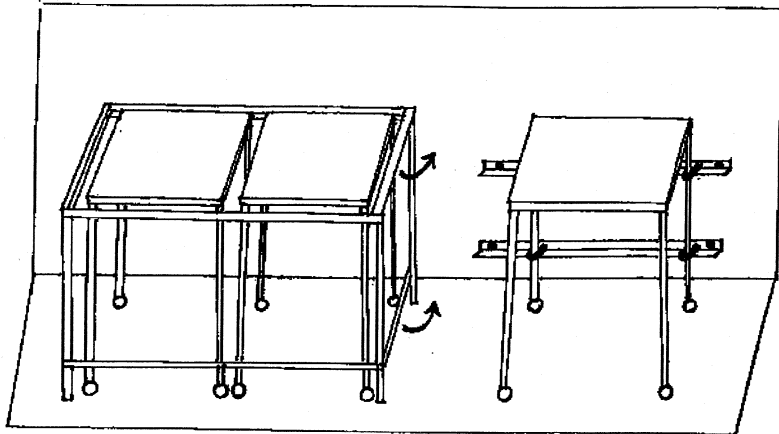
ボンベ（高圧ガス容器）

- ・ ボンベ固定用金具（アングル等）を壁に固定する。
- ・ ボンベの胴体部分（ゲージ部分への固定は厳禁）の上下2カ所を十分な強度の鎖で1本ずつ壁面に固定する。



キャスター台上の機器類

- ・ 固定用金具（アングル等）を2本、壁に固定する。
- ・ フックあるいはクランプを用いて、上下4カ所でキャスターを固定する。
- ・ キャスター台上にゴム製マットを敷き、機器類の落下を防止する。
- ・ 同じような大きさのキャスター台が多数ある場合には、アングルで枠を作成し、その中に収納する方法を採るとよい。



実験台上の機器類

固定できるものについては固定する。その他のものについては、ゴム製マットを敷いた上に機器類を置く。応急処置として、両面テープを利用することも可能である。

床上の機器類について

床上の機器類で転倒する危険性のないものについては、滑り止めとしてゴム製マットを敷く。転倒する恐れのある大型の機器類については固定する。

更に詳しい対策については、「地震に対する家具の転倒防止対策」（工学部教室安全委員長会議、1996年10月）を参照すると良い。また、混触危険性については、「化学薬品の混触防災ガイド」（名古屋大学工学部安全委員会編）に詳しい。

名古屋大学自然災害対策規程

(目的)

第1条 この規程は、名古屋大学（以下「本学」という。）における地震、風水害等による自然災害を防止し、又は災害が発生した場合における被害の軽減を図るとともに、災害の復旧を円滑に行うため、災害対策に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において「部局」とは、事務局、学務部、学部、研究科、附置研究所、エコトピア科学研究所、附属図書館、医学部附属病院、学内共同教育研究施設、地球水循環研究センター、情報連携基盤センター及び総合保健体育科学センターをいう。

2 この規程において「部局長」とは、前項の部局の長をいう。

(法令との関係)

第3条 本学における災害対策に関しては、法令に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(災害対策の審議等)

第4条 総長は、災害対策上の必要に応じ、名古屋大学環境安全防災委員会に対して、全学的な災害対策等について諮問するとともに、災害対策に関する部局間の連絡調整を図る。

(災害対策統括本部の設置)

第5条 総長は、大規模地震対策特別措置法（昭和53年法律第73号）に基づく東海地震注意情報が発表（警戒宣言発令を含む。以下同じ。）されたとき、又は地震、風水害等により災害が発生したときは、学生、職員、患者等の安全確保及び救援、本学施設の早期復旧、地域社会に対する貢献等を図るため、名古屋大学災害対策統括本部（以下「統括本部」という。）を設置する。

2 統括本部の設置場所は、本部1号館第1会議室とする。ただし、当該設置場所が倒壊等により危険な場合は、環境総合館等、より安全な場所に設置又は移設する。

3 統括本部に本部長を置き、総長をもって充てる。

4 本部長は、統括本部の災害対策業務を統括するとともに、部局及び関係機関と密接な連絡調整を図る。

5 総長は、理事のうちあらかじめ総長が指名した者にその職務を代行させることができる。

6 統括本部の組織及び担当業務は、別表のとおりとする。

7 本部長は、夜間、休日等勤務時間外に統括本部を設置したときは、直ちに関係職員を招集する。

(統括本部防災隊の設置)

第6条 本部長は、前条に規定するもののほか、東海地震注意情報の発表時から東海地震発生時に備えるため、又は地震、水害等が発生したときに災害対策業務に当たるため、統括本部防災隊を設置する。

2 統括本部防災隊の担当業務は、別に定める。

3 本部の職員は、災害時においては、相互に協力して緊急事態に対処しなければならない。

(部局災害対策本部等の設置)

第7条 部局長（事務局及び学務部の長を除く。以下同じ。）は、第5条第1項に規定する事態が生じたときには、部局災害対策本部を設置し、部局における災害対策業務を総括する。

2 前項の災害対策業務を遂行するに当たっては、本部長及び他の部局長と密接に連携し業務を遂行するものとする。

3 部局長は、前条第1項に規定する事態が生じたときには、部局防災隊を設置し、災害対策業務に当たるものとする。

4 第1項の部局災害対策本部並びに前項の部局防災隊の組織及び担当業務については、部局において、別に定める。

(職員の応急活動)

第8条 職員は、勤務時間内に統括本部が設置されたときには、災害対策業務の応急活動を優先させなければならない。

2 職員は、勤務時間外に東海地震注意情報の発表を知ったとき、又は統括本部設置の連絡を受けたときは、やむを得ない場合を除き、直ちに災害対策業務の応急活動に当たるものとする。

3 前項に規定する勤務時間外に応急活動に当たる職員については、別に定める。

(情報収集)

第9条 部局長は、災害に関し、迅速に情報を収集するとともに、これを本部長に報告し、その指示を仰ぐものとする。

2 部局長は、災害に対して当該部局が講じた措置を、速やかに本部長に報告するものとする。

(避難)

第10条 部局長は、学生、職員、患者等の生命又は身体に危険が及ぶと予想されるときは、それらの者を避難させるものとする。

2 部局長は、被災した学生、職員、患者等の避難場所として、学内の安全な施設を可能な限り利用に供するものとする。

(安否の確認等)

第11条 部局長は、学生、職員、患者等の安否の確認を、速やかに行うものとする。

2 部局長は、災害による行方不明者及び負傷者の発見に努めるとともに、負傷者の救護に必要な措置を講ずるものとする。

3 部局長は、学生、職員、患者等の安否の確認、被災者の救助、避難誘導等の業務を命じる場合は、職員に対して、当該職員の健康管理及び衛生管理上の配慮をするとともに、危険区域への立入禁止措置等、二次災害の防止に努めるものとする。

(災害対策業務遂行要員の確保)

第12条 本部長及び部局長は、災害対策の業務を遂行することが可能な職員の把握及び要員の確保に努めるものとする。

(緊急避難住民の受入れ)

第13条 本部長は、国、地方公共団体等関係機関から近隣住民の緊急避難場所として施設の提供の要請があったときは、当該施設を管轄する部局長と協議の上、支障のない限り、提供できるものとする。

2 部局長は、近隣住民が緊急避難してきたときには、一時的に管轄区域内の適当な施設を緊急避難場所として提供できるものとする。

3 部局長は、前項により緊急避難場所を提供した場合は、直ちに本部長に報告し、その指示を仰ぐものとする。

(施設の提供)

第14条 本部長は、国、地方公共団体等関係機関から被災地域における人命救助その他の救援活動のため、施設の提供の要請があったときは、当該施設を管轄する部局長と協議の上、支障のない限り、提供できるものとする。

(ライフラインの確保)

第15条 本部長は、電気、ガス、水道その他のライフラインの確保及び早期復旧に努めるものとする。

(災害復旧)

第16条 部局長は、教育、研究、診療活動等を回復させるため、次の各号に掲げる事項の遂行に努めるものとする。

- 一 学生等に係る教育環境の整備
- 二 職員に係る勤務環境の整備
- 三 施設、設備及び土地の復旧
- 四 備品等の調達及び修繕
- 五 その他災害復旧に関し必要な事項

(二次災害の防止)

第17条 部局長は、災害復旧に当たり、崖崩れ、建物等の倒壊等のおそれのある危険区域の発見に努めるとともに、施設への立入禁止等の安全措置を講じ、二次災害の防止に努めるものとする。

(援助要請)

第18条 本部長は、災害対策業務の遂行に当たり、必要に応じて他大学等に対し救援物資、職員の派遣等の援助を求めるものとする。

(被災状況把握等)

第19条 本部長は、被災状況を的確に把握し、国、地方公共団体等関係機関と連絡を密にして、事態の収拾に努めるものとする。

(危機管理意識の啓発)

第20条 総長及び部局長は、学生、職員等に対し研修等により災害対策及び防災対策に関する知識を付与し、危機管理意識を啓発するものとする。

2 研修等においては、次の各号に掲げる事項について知識等を付与し、啓発に資するものとする。

- 一 災害及び防災に関する基礎知識
- 二 災害対策及び防災対策に係る学生、職員等の役割
- 三 備品、実験設備、書籍、ガラス等の転倒・落下・破損の防止対策
- 四 化学薬品、放射性物質、病原微生物、実験動物等（以下「危険物等」という。）に関する基礎知識及び災害防止方法
- 五 防災訓練
- 六 その他災害対策及び防災対策に関し必要な事項

(防災対策)

第21条 総長及び部局長は、学生、職員等に対し、次の各号に掲げる防災対策を行うものとする。

- 一 施設及び設備の倒壊、火災、崖崩れ等についての安全対策
- 二 危険物等についての安全対策
- 三 情報収集及び伝達方法の整備
- 四 避難場所の整備等の避難対策
- 五 飲料水、食料、医薬品、燃料等の災害時に必要な物資の調達計画
- 六 警備等の防犯対策
- 七 その他防災に関し必要な事項

2 前項第2号の安全対策を行うに当たっては、次の各号に掲げる事項を特に推進するものとする。

- 一 危険物等の安全保管及び使用方法の点検
- 二 危険物等の在庫管理の徹底
- 三 危険物等の保管施設の安全対策
- 四 危険物等及びその保管施設の所在の周知徹底

(防災マニュアルの作成)

第22条 部局長は、当該部局の実情に即した具体的な部局防災マニュアルを作成し、所属学生、職員等に周知するものとする。

(事務の担当)

第23条 災害対策に関する事務は、関係部・課の協力を得て、施設管理部施設整備課において処理する。

(細則)

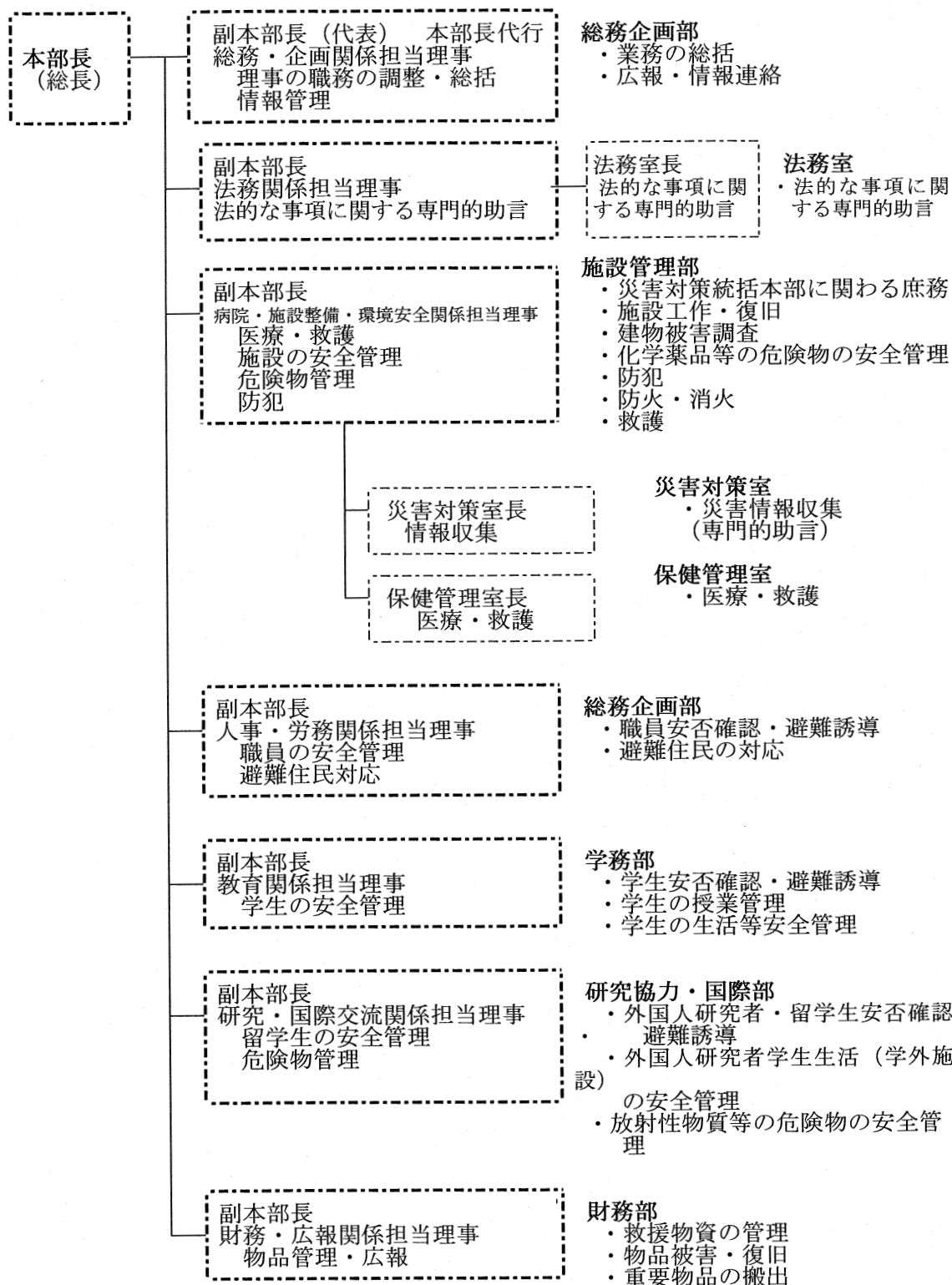
第24条 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な事項は、地震防災計画等で、別に定める。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

別表（第5条第6項関係）

名古屋大学災害対策統括本部の組織及び担当業務



注1 総長に事故がある場合は、総務・企画関係担当理事がその職務を代行する。

注2 総務・企画関係担当理事及び統括本部役職員に事故がある場合は、総長が指名する者がその職務を代行する。

名古屋大学災害対策統括本部防災隊要項

(趣旨)

第1 名古屋大学自然災害対策規程(平成16年度規程第372号。以下「規程」という。)第6条第2項の規定に基づく統括本部防災隊(以下「防災隊」という。)の担当業務等に関する事項は、この要項の定めるところによる。

(組織)

第2 防災隊は、本部各部ごとに設置するものとする。

2 防災隊に隊長を置き、各部の長をもって充てる。

3 防災隊に副隊長を置き、各課の長をもって充てる。

(協力組織)

第3 規程別表に規定する法務室、災害対策室及び総合保健体育科学センター保健管理室は、統括本部防災隊協力組織(以下「協力組織」という。)として、防災隊との連絡・協力の下に、災害対策に関する専門的業務を行うものとする。

(担当業務)

第4 防災隊及び協力組織の担当業務(業務遂行上の留意事項を含む。)は、別表1及び別表2のとおりとする。

附 則

この要項は、平成17年6月17日から実施する。

別表1 (第4関係)
防災隊担当業務

| 組 | 織 | 業 務 |
|--------------|-------------------|---|
| 総務企画部 防災隊 | 業務の総括担当 | 1. 災害対策統括本部の業務全体を総括する。 2. 文部科学省、地方公共団体等との連絡体制をとる。 |
| | 広報・情報連絡 担当 | 1. 情報収集及び伝達 (1) 災害対策室、各課、各部局等から情報を得て、学内の状況を迅速かつ正確に把握する。 (2) 得られた情報の中で有用なものは、各課、各部局等へ伝達する。 2. 報道機関及び訪問者との対応 (1) 学内の状況等の情報を報道機関に提供する。 (2) 学外諸機関及び個人の訪問に対応する。 |
| | 職員安否確認・ 避難誘導担当 | 1. 職員の安否を確認する。 (1) 各課、各部局等からの報告・連絡を受理し、整理する。 (2) 確認できた者から順次各課、各部局等へ報告・連絡させる。 (3) 調査に当たっては、各課、各部局等と連絡を密にし、全学の状況を正確に把握するよう努める。 (4) 調査・確認に当たっては、電話、FAX、電子メール等あらゆる手段を活用する。 2. 避難場所への誘導、通行障害物の撤去等の安全確保を図る。 |
| | 避難住民の対応 担当 | 1. 避難所として指定されていない場所において、緊急避難者を一時受け入れる場合は、関係部局等の長と連絡調整を行う。 (1) 名簿を備え付け、氏名、人数等を把握する。 2. 緊急避難者が既に各部局等に避難し、一時的に当該部局等で受け入れている場合は、速やかに関係部局等の長と連絡調整を行う。 (1) 名簿を備え付け、氏名、人数等を把握する。 3. 緊急避難者の避難所への移動が、迅速かつ正確に行われるように配慮する。 (1) 正確に避難住民に情報を伝達できるよう、受入れ部局等と地方公共団体からの派遣職員との連絡を密にする。 4. 避難所として指定されている部局等は、地方公共団体からの派遣職員と密接に連携する。(以下は地方公共団体が行うべき事柄であるが、派遣職員が配置されるまで対応が必要と考えられる事項) (1) 避難住民からの要望等を、地方公共団体に正確に伝えるよう努める。 (2) 避難所として必要な設備(炊事・洗濯、仮設電話、簡易トイレ、保安措置等)の設置に協力する。 (3) 避難住民に自治組織を作らせ、大学及び地方公共団体との調整窓口の一本化を図る。 (4) 秩序を守り、相互援助を行い、不自由な生活をできる限り快適なものにする。 |

| | | |
|--------------|------------------|---|
| 施設管理部 防災隊 | 災害対策統括本部に関わる庶務担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害対策統括本部の設置 2. 災害対策統括本部要員のための毛布，食料等を準備する。 3. 保健管理室と救護の連携体制をとる。 4. 要員の確保に努める。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 災害業務を行うに当たっては，職員の心身の健康に十分に留意する。 (2) 部局等から職員の派遣要請があった場合は，派遣できるよう全学的な調整を行う。 (3) 宿日直体制をとる。 5. 防災無線による放送 6. 電話，FAX，地方公共団体広報誌，新聞，ラジオ，テレビ，インターネット，民間無線局等あらゆる情報手段を用いて迅速かつ正確な情報収集に努める。 |
| | 施設工作・復旧・建物被害調査担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 倒壊のおそれのある建物等の現状把握及び情報提供をする。 2. 施設，設備及び土地の被災状況を把握する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各課，各部局等と協力し，写真，ビデオ等により，被災状況を記録し，整理する。 (2) 2次災害のおそれのある施設等については，直ちに立入禁止等の措置及び応急処置を講ずる。 (3) 被災状況については，復旧作業を行う前に日付入りで写真，ビデオ等を活用して記録を残すように努める。 3. ライフラインを確保する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 電気，ガス，水道，電話等ライフラインの早期復旧に努める。 (2) 自家発電設備の始動（保守・点検）を行う。 (3) 必要な場合は，関連企業（中部電力，東邦ガス等）へ応援を要請する。 (4) 仮設トイレ等の設置に向け関連企業へ応援を要請する。 4. 施設の被災状況の把握，施設の立入禁止措置等を行う必要から，専門家の下に応急危険度判定士班を設置し，速やかに判定に当たる（建物の安全確認を行い，被災状況を把握する）。 |
| | 危険物・防犯・防火・消火担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 不審者への対応及び現場周辺への立入規制を行う。 2. 消火栓及び消火器の位置確認及び設置図面の作成 3. 初期消火活動，消防署消防隊の誘導等を行う。 4. 化学薬品等の危険物による火災，汚染等の予防 5. 危険物倉庫の管理 |
| | 救護担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健管理室医療・救護担当と連携し，負傷した職員，学生等の救護に当たる。 |

| | | |
|---------------------|---|--|
| 学務部防災 隊 | 学生安否確認・ 避難誘導担当 | <p>1. 学生の安否を確認するとともに、家屋等の被災状況を調査する。</p> <p>(1) 各部局等からの報告・連絡を受理し、整理する。</p> <p>(2) 調査に当たっては、各部局等と連絡を密にし、全学の状況を正確に把握するよう努める。</p> <p>(3) 調査・確認に当たっては、電話、FAX、電子メール等あらゆる手段を活用する。</p> <p>2. 学生の避難場所への誘導、通行障害物の撤去等の安全確保を図る。</p> <p>3. 学生の学内外におけるボランティア活動の状況の把握に努め、必要な指導及び情報の提供を行う。</p> <p>4. 学生関係諸行事の実施に関し、速やかに学内の連絡調整を行い、その結果を適当な広報手段により学生等関係者に伝達する。</p> <p>5. 学生の課外活動の状況の把握に努め、必要な指導を行う。</p> <p>6. 学生会館及び課外活動施設の安全確認を行い、被災状況を把握する。</p> |
| | 学生の授業管理 担当 | <p>1. 授業等の対策を行う。</p> <p>(1) 授業の再開、学業成績の認定方法等について、学内における連絡調整を行う。</p> <p>(2) 授業の再開のスケジュール等について、教員及び学生に対し、速やかに漏れなく伝達する。</p> <p>2. 受験生の対策を行う。</p> <p>(1) 災害発生時期によっては、入学試験会場、実施日時等について、学内の連絡調整を行う。</p> <p>(2) 入学試験会場、実施日時等の変更等がある場合には、速やかに受験生に対し伝達する。</p> |
| | 学生の生活等安全 管理担当 | <p>1. 寮生の安否確認及び学生寮の被災状況を把握する。</p> <p>(1) 調査・確認に当たっては、電話、FAX、電子メール等あらゆる手段を活用する。</p> <p>2. 学生の宿舎の確保に努める。</p> <p>3. 学生の福利厚生施設の安全確認を行い、被災状況を把握する。</p> |
| 研究協力・ 国際部防災 隊 | 外国人研究者・ 留学生の安否確認・ 避難誘導及び学生生活の 安全管理担当 | <p>1. 外国人研究者及び留学生の安否を確認するとともに、家屋等の被災状況を把握する。</p> <p>(1) 各部局等からの報告・連絡を受理し、整理する。</p> <p>(2) 調査に当たっては、各部局等と連絡を密にし、全学の状況を正確に把握するよう努める。</p> <p>(3) 調査・確認に当たっては、電話、FAX、電子メール等あらゆる手段を活用する。</p> <p>2. 外国人研究者及び留学生の宿舎の確保・斡旋に努める。</p> <p>3. 避難場所への誘導、通行障害物の撤去等の安全確保を図る。</p> |
| | 放射性物質等の 危険物の安全管 理担当 | <p>1. 各施設ごとに実施される放射性物質等の拡散による汚染対策及び防止対策の状況を把握する。</p> |

| | | |
|--------|-----------|---|
| 財務部防災隊 | 救護物資の管理担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 救援物資，食糧等の受入れに関し，地方公共団体からの派遣職員との連絡調整を行う。 2. 救援物資等の搬出入及び保管のための場所を確保する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) トラックの運転要員を確保する。 3. 他大学，地方公共団体等からの救援物資，食料等を受け入れる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 数量等の管理を行う。 (2) 総務企画部防災隊避難住民の対応担当と連絡を密にし，避難住民，災害対策統括本部要員等に配給する。 (3) 搬入の時間が予測できないことに留意しつつ，受入れ要員の確保に努める。 4. 職員宿舎の確保 <ol style="list-style-type: none"> (1) 職員宿舎の安全確認を行い，被災状況を把握する。 (2) 被災職員（他大学等の職員についても考慮する。）の状況に応じ職員宿舎の確保に当たる。 5. 財産の使用許可 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各部局等における施設提供に伴う使用許可について，手続きを行う。 |
| | 物品被害・復旧担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 物品の被害状況を把握し，整理する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各課，各部局等と連絡を密にし，事務・研究用機器等物品の被害状況調査を速やかに行い，取りまとめる。 |
| | 重要物品の搬出担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 重要物品及び重要書類の搬出及び保管に関し，本部各部を統括する。 |

別表2 (第4関係)
協力組織担当業務

| 組 織 | 責 任 者 | 業 務 | |
|-------|--------|---------|---|
| 災害対策室 | 災害対策室長 | 情報収集 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の規模・範囲, 今後の予測情報等について情報収集を行う。 2. 他大学, 研究機関, 国・地方公共団体等と密接な連携を図り, 蓄積された資料をもとに, 災害対策統括本部への情報提供及び専門的立場からの助言を行う。 |
| 保健管理室 | 保健管理室長 | 医療・救護担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 負傷した職員, 学生等(避難住民を含む。)の応急手当を行う。 2. 災害対策統括本部及び施設管理部防災隊救護担当と連携を図り, 診療が可能な病院を調査し, 把握する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 負傷した職員, 学生等に受診を指示するとともに, 必要に応じて搬送を行う。 (2) 搬送リストを作成し, 家族等からの照会窓口を設置する。 (3) 必要な医薬品等について財務部防災隊救護物資の管理担当及び地方公共団体等と連携し, 確保に努める。 |
| 法務室 | 法務室長 | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 防犯等に対する専門的助言 |

名古屋大学災害対策統括本部の基本方針（案）

（平成17年 月 日役員会決定）

名古屋大学自然災害対策規程（平成16年度規程372号）第5条に規定する名古屋大学災害対策統括本部（以下「統括本部」という。）における災害対策の基本方針は、以下のとおりとする。

1. 統括本部の設置基準

統括本部は、名古屋市内で震度6弱以上の地震が発生した場合及び東海地震注意情報が発表（警戒宣言発令を含む。）された場合に設置するものとする。ただし、この基準を満たさない場合であっても、地震、風水害等により名古屋大学（以下「本学」という。）の施設又は学生、職員等が被災した場合は、総長の判断で設置することができる。

2. 本部長

総長は、統括本部の本部長（以下「本部長」という。）となり、災害対策業務を統括する。

3. 本部長の職務代行順位

- ① 総長に事故がある場合は、総務・企画関係担当理事が本部長の職務を代行する。
- ② 総長及び総務・企画関係担当理事がともに事故がある場合は、病院・施設整備・環境安全関係担当理事，人事・労務関係担当理事，教育関係担当理事，研究・国際交流関係担当理事，財務・広報関係担当理事の順により本部長の職務を代行するものとする。

4. 統括本部の組織

統括本部は、本部長，副本部長（各理事），法務室長，災害対策室長，保健管理室長で組織する。

5. 統括本部防災隊の組織

統括本部防災隊は、総務企画部防災隊，施設管理部防災隊，学務部防災隊，研究協力・国際部防災隊，財務部防災隊で組織し，防災隊長は各部の長をもって充てる。

6. 勤務時間内における災害対策

① 注意情報発表時・警戒宣言発令時の対応

ア 総長は、直ちに統括本部及び統括本部防災隊を設置し、要員を招集する。

イ 本部長は、部局の長に部局災害対策本部及び部局防災隊の設置並びに各部局における対応措置を講ずるよう要請する。

ウ 本部長は統括本部要員，統括本部防災隊員，災害対策本部要員及び部局防災隊員（以下「統括本部要員等」という。）以外の本学の学生，職員等に対し，防火等の防災措置を講じた上，安全に留意して速やかに帰宅するよう促す。ただし，帰宅困難者については，学内施設を利用させる等の安全対策を図るものとする。

エ 統括本部要員等のうち，やむを得ぬ事情があると各人が所属する統括本部，統

括本部防災隊，部局災害対策本部又は部局防災隊（以下「統括本部等」という。）の長が認めた者については，帰宅することができる。

- オ 本部長は，統括本部防災隊に災害予防措置を講ずるよう指示する。
- カ 本部長は，情報を収集し，必要に応じて部局の長等へ伝達する。

② 地震発生時の対応

- ア 総長は，直ちに統括本部及び統括本部防災隊を設置し，要員を招集する。
- イ 本部長は，直ちに部局の長に対して部局災害対策本部及び部局防災隊の設置並びに災害への対応を要請する。
- ウ 本部長は，統括本部の要員及び統括本部防災隊員に被災情報の収集，被災者の救護，消火，避難誘導，安否確認，施設の復旧等の災害対策活動を指示する。
- エ 本部長は，学内施設の被災状況，本学の学生，職員等の安否確認等の情報を収集及び分析し，対応方針を決定する。
- オ 本部長は，エにおいて決定した対応方針を副本部長及び部局の長に指示の上，連携して，災害対策業務に当たる。

7. 勤務時間外における災害対策

① 注意情報発表時・警戒宣言発令時の対応

- ア 総長は，できる限り速やかに理事及び別に定める時間外の応急活動要員及び対応可能な職員を招集し，統括本部及び統括本部防災隊を設置する。
- イ 本部長は，部局の長に部局災害対策本部及び部局防災隊の設置並びに各部局における対応措置を講ずるよう要請する。
- ウ 本部長は，本学に残っている統括本部要員等以外の学生，職員等に対し，防火等の防災措置を講じた上，安全に留意して速やかに帰宅するよう促す。ただし，帰宅困難者については，学内施設を利用させる等の安全対策を図るものとする。
- エ 本部長は，統括本部防災隊応急活動要員及び対応可能な職員に災害予防措置を講ずるよう指示する。
- オ 本部長は，情報を収集し，必要に応じて部局の長等へ伝達する。

② 地震発生時の対応

- ア 総長は，できる限り速やかに別に定める時間外の応急活動要員及び対応可能な職員を招集し，統括本部及び統括本部防災隊を設置する。
- イ 本部長は，できる限り速やかに部局の長に対して部局災害対策本部及び部局防災隊の設置並びに災害への対応を要請する。
- ウ 本部長は，統括本部防災隊応急活動要員及び対応可能な職員に災害対策活動を指示する。
- エ 本部長は，学内施設の被災状況，本学の学生，職員等の安否確認等の情報を収集及び分析し，対応方針を決定する。
- オ 本部長は，エにおいて決定した対応方針を副本部長及び部局の長に指示の上，連携して，災害対策業務に当たる。

8. 理事の担当業務

理事は，統括本部副本部長として，本部長を補佐し，関係部課等と連携の上，次の業務を担当する。

① 総務・企画関係担当理事の業務

- ア 各理事の災害時の担当業務の調整・総括

- イ 情報管理
- ② 人事・労務関係担当理事の業務
 - ア 職員の安全管理
 - イ 避難住民等への対応
- ③ 病院・施設整備・環境安全関係担当理事の業務
 - ア 医療及び救護
 - イ 施設の安全管理
 - ウ 危険物管理
 - エ 防犯対策
- ④ 教育関係担当理事の業務
 - ア 学生の安全管理
- ⑤ 研究・国際交流関係担当理事の業務
 - ア 留学生の安全管理
 - イ 放射性物質等の安全管理
- ⑥ 財務・広報関係担当理事の業務
 - ア 物品管理
 - イ 災害に係る広報
- ⑦ 法務関係担当理事の業務
 - ア 法的事項に関する専門的助言

名古屋大学防災無線運用要項

(目的)

第1 この要項は、東海地震注意情報が発表（警戒宣言発令を含む。）されたとき、又は地震、風水害等により災害が発生したとき、名古屋大学（以下「本学」という。）における緊急連絡、災害対策要員の招集、災害情報の提供等災害対策に係る防災無線の適正な運用を図るため、必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第2 この要項において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- 一 防災無線 本学で使用するMCA陸上移動通信無線による通信をいう。
- 二 無線局 防災無線の無線設備及びその操作を行う者の総体をいう。ただし、受信のみを目的とするものを除く。
- 三 屋外拡声装置 防災無線の無線設備と接続され、任意の無線局から拡声放送ができる設備をいう。

(総括責任者)

第3 防災無線の運用に関する業務を総括し、管理責任者を指揮するため、総括責任者を置く。

2 総括責任者は、環境安全を担当する理事をもって充てる。

(管理責任者)

第4 総括責任者を補佐し、無線局の管理運用を行うため、管理責任者を置く。

2 管理責任者は、施設管理部長をもって充てる。

(取扱責任者)

第5 無線設備を操作する取扱者を指揮監督するため、取扱責任者を置く。

2 取扱責任者は、施設管理部施設管理課長をもって充てる。

(取扱者)

第6 取扱者は、取扱責任者の管理のもとに、無線設備の操作を行う。

(無線局の種類等)

第7 無線局の種類、配置場所、取扱者等は、別に定める。

(通信の種類)

第8 防災無線の通信に関し、次に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- 一 非常通信 災害の発生等非常時に行う通信をいう。
- 二 訓練通信 訓練時に行う通信をいう。

(通信訓練)

第9 総括責任者は、防災無線を円滑に運用するため、必要に応じて訓練通信を行うものとする。

(無線設備の保全)

第10 管理責任者は、本学におけるすべての無線局の無線設備について、年1回以上の定期点検を実施し、機器の保全に努めるものとする。

(故障等の報告)

第11 取扱者は、無線設備に故障又は異常があったときは、その旨を取扱責任者に報告しなければならない。

2 取扱責任者は、前項の報告を受けたときは、直ちに復旧に必要な措置をとるとともに、その旨を管理責任者に報告するものとする。

(アマチュア無線の活用)

第12 この要項に規定する防災無線のほか、補助的な通信手段として、必要に応じて、アマチュア無線を活用することができるものとし、その運用については、別に定める。

(事務の処理)

第13 防災無線の運用に関する事務は、関係部課の協力を得て、施設管理部施設整備課において処理する。

(雑則)

第14 この要項に定めるもののほか、防災無線の運用に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成17年6月22日から実施する。

名古屋大学防災無線運用マニュアル

平成17年7月22日

名古屋大学

名古屋大学防災無線運用マニュアル

目次

| | |
|----------------------|----|
| 1. システム概要 | 1 |
| 2. 操作方法 | |
| 電源の入れ方・切り方 | 3 |
| 〈半固定型無線機〉 | 3 |
| 〈可搬型無線機〉 | 3 |
| 〈無線機マイク〉 | 4 |
| 〈無線機マイク〉の表示部 | 4 |
| 無線通信のしかた（無線機マイクの操作） | 5 |
| 〈個別通信〉 | 5 |
| 〈一斉放送〉 | 6 |
| 拡声放送のしかた（拡声マイクの操作） | 7 |
| 〈拡声放送〉 | 7 |
| 3. 運用方法 | |
| (1) 防災無線の運用 | 8 |
| (2) 一斉放送例文 | |
| ①地震発生時（震度6弱の地震） | 8 |
| ②地震発生時（震度5強の地震） | 8 |
| ③地震発生時（震度5弱の地震） | 8 |
| ④地震発生時（上記以外の地震） | 9 |
| ⑤東海地震注意情報発表時 | 9 |
| ⑥東海地震予知情報発表時 | 9 |
| ⑦東海地震警戒宣言発令時 | 10 |
| (3) 個別通信例文 | |
| ⑧部局対策本部・部局防災隊設置完了の報告 | 10 |
| ⑨安否確認の報告 | 11 |
| ⑩被害状況の報告 | 11 |
| (4) 通信点検 | |
| 通信点検の実施方法 | 12 |
| ⑧通信点検例文 | 12 |
| 通信点検チェックシート | 13 |
| 4. 防災無線局一覧表 | 14 |
| 半固定型防災無線局配置図（東山団地） | 15 |
| 付. 名古屋大学防災無線運用要項 | |
| アマチュア無線運用細則 | |

1. システム概要

- (1) 名古屋大学防災無線システムは、800MHz帯MCA方式による、学生・教職員の皆さんに東海地震に関連する情報などの緊急防災情報を屋外スピーカー等により同時に伝達するシステムです。また、無線局同士の通信もできるため、災害時には、名古屋市内主要団地の情報集・伝達体制が構築でき、災害による被害を最小限にとどめることが期待できます。

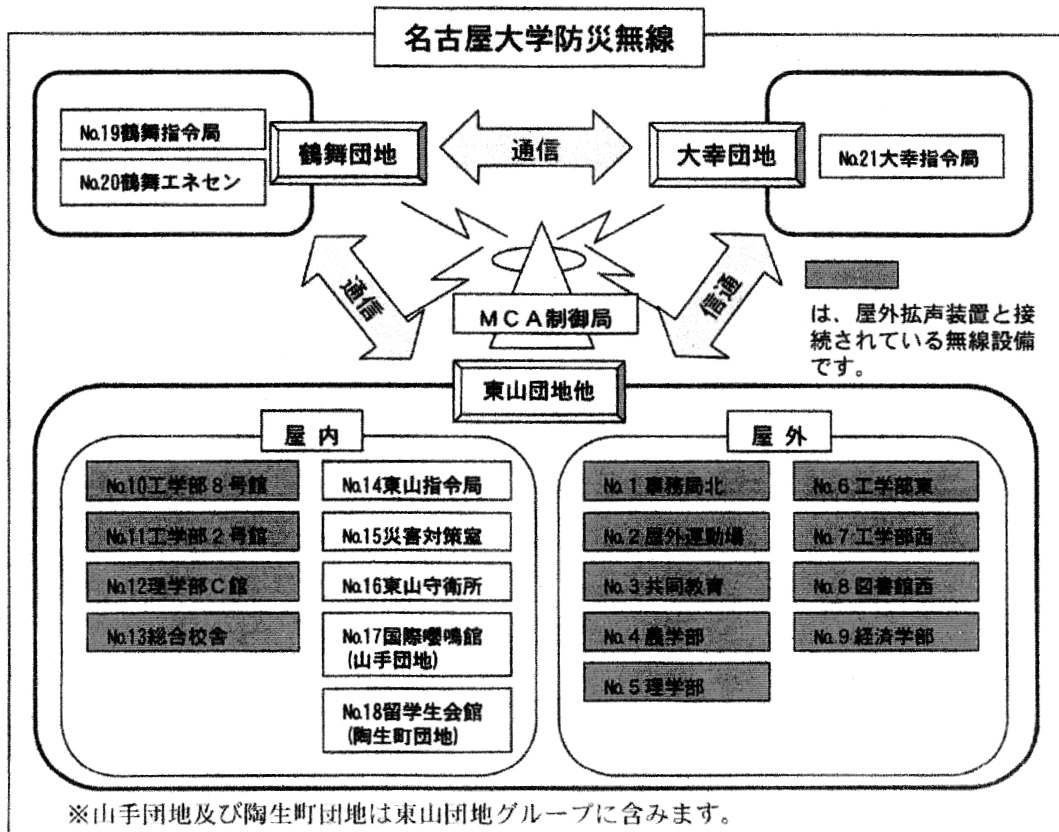
MCA (Multi-Channel Access) 方式
 複数の通信チャンネル（周波数）から、自動的に空きチャンネルを選択して接続する通信方式です。一定数のチャンネルを複数の利用者が共用することで電波の有効利用と利便性を図っています。

- (2) このシステムの通信形態は、用途・目的により、一斉通信／グループ通信／個別通信を選択でき、効率のいい通信ができます。
- (3) 各無線局は、AC100VまたはAC200Vにより作動していますが、停電時には内蔵バッテリーにより作動するため、非常時も安心です。
- (4) 名古屋大学防災無線局の種別・設置場所は、下表のとおりです。

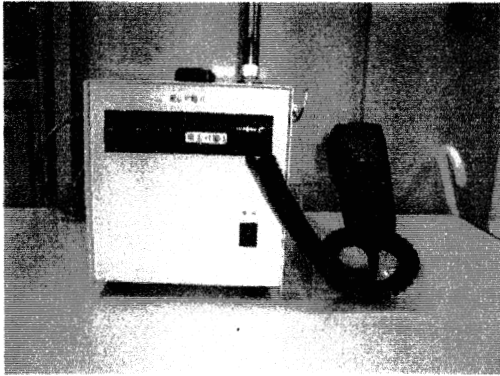
| 区分 | 可搬型無線局 | 半固定型無線局 | 計 |
|-------|--------|---------|-----|
| 東山団地 | 3局 | 13局 | 16局 |
| 鶴舞団地 | 2局 | | 2局 |
| 大幸団地 | 1局 | | 1局 |
| 山手団地 | 1局 | | 1局 |
| 陶生町団地 | 1局 | | 1局 |
| 計 | 8局 | 13局 | 21局 |

※半固定無線局には、屋外拡声装置が併設されています。

- (5) 名古屋大学防災無線システムの構成は、下図のとおりです。



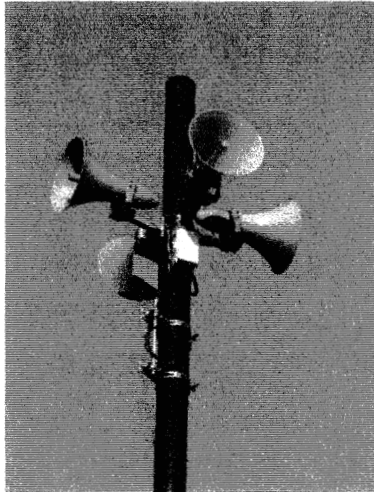
(6) 名古屋大学防災無線システムの参考写真



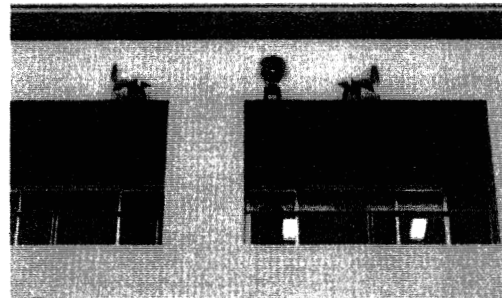
可搬型無線局



半固定型無線局全景



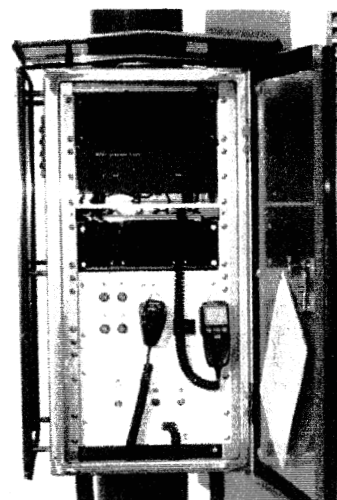
防災無線屋外スピーカー



防災無線屋外スピーカー



半固定型無線機外観

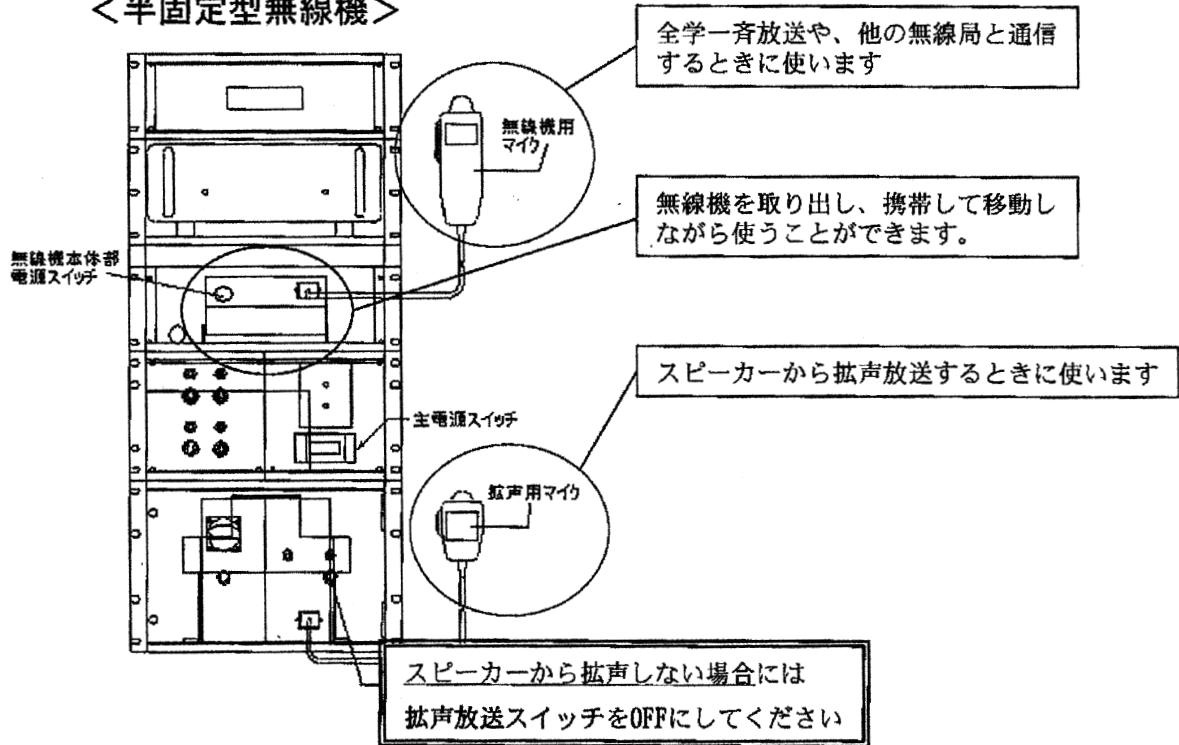


半固定型無線機収納状況

2. 操作方法

電源の入れ方・切り方

<半固定型無線機>



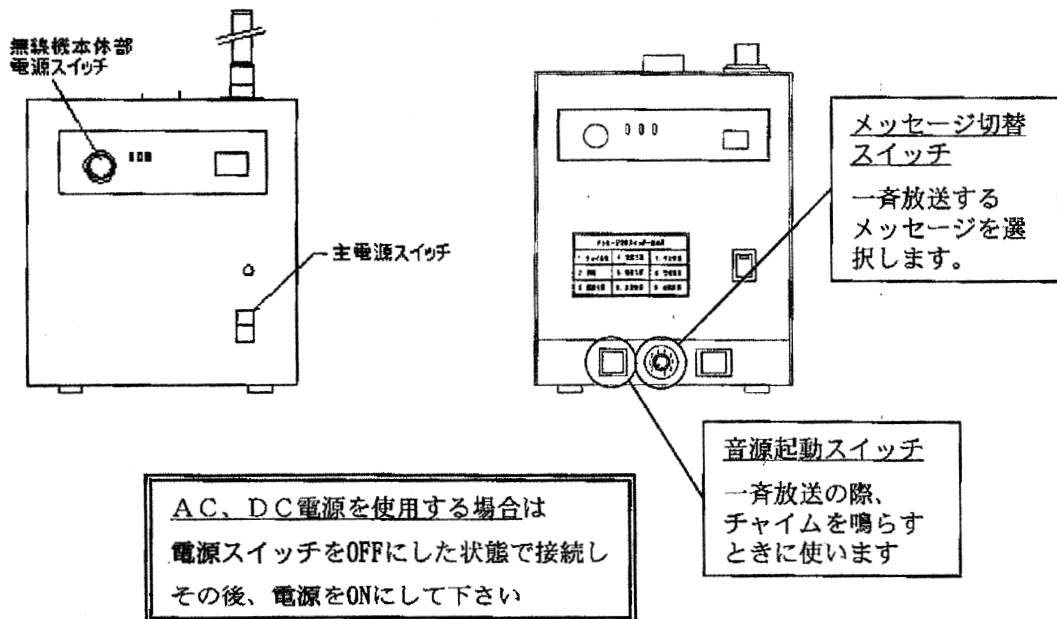
<可搬型無線機>

〔右記以外の可搬局〕

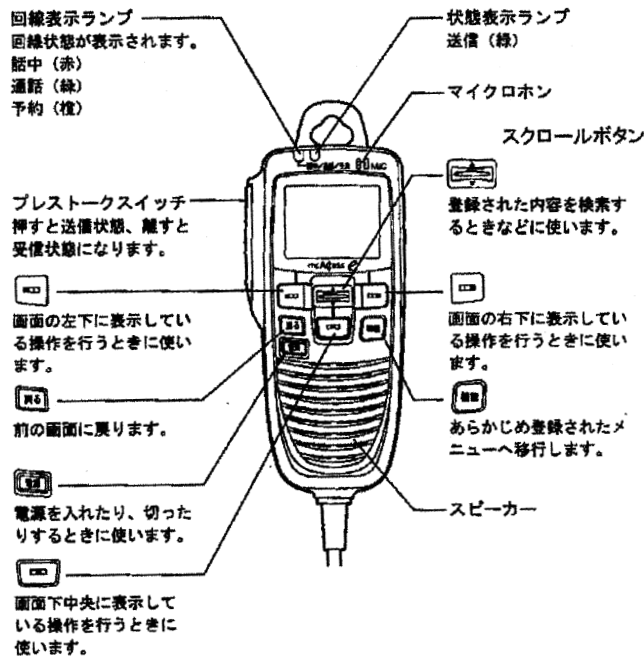
〔東山指令局〕

〔災害対策室〕

〔東山守衛所〕



<無線機マイク> (半固定型・可搬型共通)



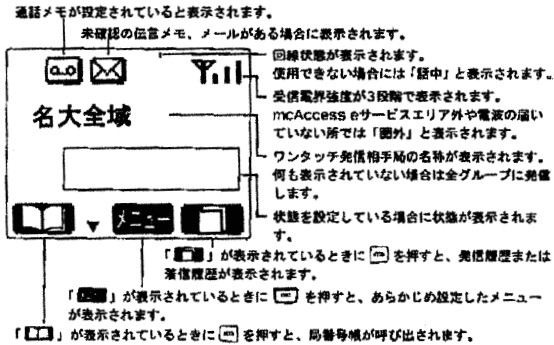
電源は常にONにしておきます。

※電源の入れ方
無線機本体かマイクの電源スイッチを1秒以上押します。

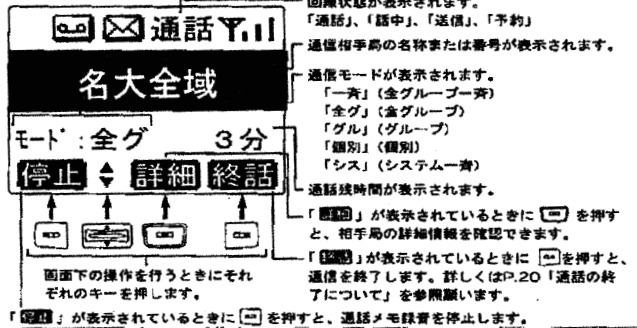
※電源の切り方
無線機本体かマイクの電源スイッチを1秒以上押します。

<無線機マイク>の表示部

<待ち受け中>



<通話中>



拡声放送のしかた (拡声マイクの操作)

◆無線局周辺の学生・教職員の皆さんに緊急情報を伝達するときに使います。

◆拡声放送は次の無線局で行うことができます。

[事務局北] [屋外運動場] [共同教育] [農学部] [理学部]
[工学部東] [工学部西] [図書館西] [経済学部]
[工学部8号館] [工学部2号館] [理学部C館] [総合校舎]

〈拡声放送〉

①拡声放送スイッチがONになっていることを確認する。

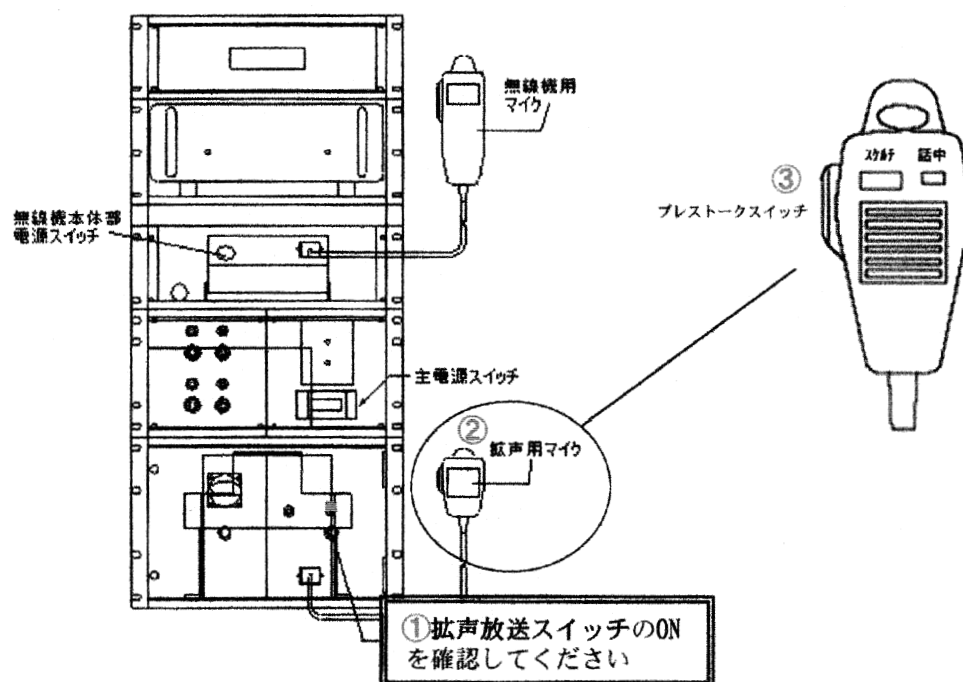
(拡声放送ランプが赤色に点灯していることを確認する)

②拡声マイクを持つ。

③プレストークスイッチを押しながら話す。

(スイッチを押して、一呼吸おいてから話し始める)

※スケルチボタン、話中ランプは使いません



3. 運用方法

(1) 防災無線の運用

防災無線の運用は、※『名古屋大学防災無線運用要項』によるものとし、このマニュアルの例文に記載のない通信の場合も、簡単明瞭に行ってください。

(2) 一斉放送例文

メッセージ音源を使用した一斉放送は、東山指令局・災害対策室・東山守衛所のみ行うことができます。

①地震発生時（震度6弱の地震）

| | |
|-----|---|
| No. | 一斉放送例文 |
| ① | <p>（通信モード：名大全域）</p> <p>メッセージ切替スイッチ「1. チャイム音」を選択し、音源起動スイッチを押す。 （約20秒チャイムが呼鳴します。）</p> <p>メッセージ切替スイッチ「3. 震度6弱」を選択し、音源起動スイッチを押す。 （下記メッセージが放送されます。）</p> <p>こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいまの地震により、名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。各部局は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。</p> <p>This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. An earthquake with a seismic intensity of lower 6 has been reported in Nagoya. Please discontinue your activities and perform emergency procedures. Please call the disaster management staff at your department and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management.</p> <p>（この操作を2回繰り返す。）</p> |

②地震発生時（震度5強の地震）

| | |
|-----|--|
| No. | 一斉放送例文 |
| ② | <p>（通信モード：名大全域）</p> <p>メッセージ切替スイッチ「1. チャイム音」を選択し、音源起動スイッチを押す。 （約20秒チャイムが呼鳴します。）</p> <p>メッセージ切替スイッチ「4. 震度5強」を選択し、音源起動スイッチを押す。 （下記メッセージが放送されます。）</p> <p>こちらは、名古屋大学災害対策室です。ただいまの地震により、名古屋市内で震度5強の揺れが観測されました。教育研究活動を一時中断し、各部局において被害状況の確認を行ってください。</p> <p>This is the Disaster Management Office at Nagoya University. An earthquake with a seismic intensity of upper 5 has been reported in Nagoya. Please discontinue your activities temporarily and verify any casualties.</p> <p>（この操作を2回繰り返す。）</p> |

③地震発生時（震度5弱の地震）

| | |
|-----|--|
| No. | 一斉放送例文 |
| ③ | <p>（通信モード：名大全域）</p> <p>メッセージ切替スイッチ「1. チャイム音」を選択し、音源起動スイッチを押す。 （約20秒チャイムが呼鳴します。）</p> <p>メッセージ切替スイッチ「5. 震度5弱」を選択し、音源起動スイッチを押す。 （下記メッセージが放送されます。）</p> <p>こちらは、名古屋大学災害対策室です。ただいまの地震により、名古屋市内で震度5弱の揺れが観測されました。教育研究活動を一時中断し、各部局において被害状況の確認を行ってください。</p> <p>This is the Disaster Management Office at Nagoya University. An earthquake with a seismic intensity of lower 5 has been reported in Nagoya. Please discontinue your activities temporarily and verify any casualties.</p> <p>（この操作を2回繰り返す。）</p> |

④地震発生時（上記以外の地震）

| | |
|-----|---|
| No. | 一斉放送例文 |
| ④ | <p>（通信モード：名大全域）</p> <p>メッセージ切替スイッチ「1. チャイム音」を選択し、音源起動スイッチを押す。 （約20秒チャイムが呼鳴します。）</p> <p>メッセージ切替スイッチ「9. 地震速報」を選択し、音源起動スイッチを押す。 （下記メッセージが放送されます。）</p> <p>こちらは、名古屋大学災害対策室です。ただいま、地震による強い揺れがありました。すべての活動を中止し、身の安全を図ってください。詳細な情報が入り次第、改めて対応策についてお知らせします。</p> <p>This is the Disaster Management Office at Nagoya University. We have experienced a strong earthquake. Please discontinue all activities and verify any casualties. We will make a further announcement shortly.</p> <p>（この操作を2回繰り返す。）</p> |

⑤東海地震注意情報発表時

| | |
|-----|--|
| No. | 一斉放送例文 |
| ⑤ | <p>（通信モード：名大全域）</p> <p>メッセージ切替スイッチ「1. チャイム音」を選択し、音源起動スイッチを押す。 （約20秒チャイムが呼鳴します。）</p> <p>メッセージ切替スイッチ「6. 注意情報」を選択し、音源起動スイッチを押す。 （下記メッセージが放送されます。）</p> <p>こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいま「東海地震注意情報」が発表されました。すべての教育研究活動を停止し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。各部局は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置してください。災害対応要員以外の教職員および学生は、安全に留意して帰宅してください。</p> <p>This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. "Tokai Earthquake Advisory Information" has been announced. Please discontinue your activities and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. Please call the disaster management staff at your department. All other staff and students should return home with caution.</p> <p>（この操作を2回繰り返す。）</p> |

⑥東海地震予知情報発表時

| | |
|-----|--|
| No. | 一斉放送例文 |
| ⑥ | <p>（通信モード：名大全域）</p> <p>メッセージ切替スイッチ「1. チャイム音」を選択し、音源起動スイッチを押す。 （約20秒チャイムが呼鳴します。）</p> <p>メッセージ切替スイッチ「7. 予知情報」を選択し、音源起動スイッチを押す。 （下記メッセージが放送されます。）</p> <p>こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいま、「東海地震予知情報」が発表されました。すべての教育研究活動を停止し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。各部局は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置してください。災害対応要員以外の教職員及び学生は、安全に留意して帰宅してください。帰宅困難な人は各部局事務室へ申し出てください。</p> <p>This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. "Tokai Earthquake Prediction Information" has been announced. Please discontinue your activities and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. Staff, except for disaster management staff, and students should return home with caution. If you have difficulties returning home, please report to the office.</p> <p>（この操作を2回繰り返す。）</p> |

⑦東海地震警戒宣言発令時

| | |
|-----|--|
| No. | 一斉放送例文 |
| ⑦ | <p>(通信モード：名大全域)</p> <p>メッセージ切替スイッチ「1. チャイム音」を選択し、音源起動スイッチを押す。 (約20秒チャイムが呼鳴します。)</p> <p>メッセージ切替スイッチ「8. 警戒宣言」を選択し、音源起動スイッチを押す。 (下記メッセージが放送されます。)</p> <p>こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいま「東海地震警戒宣言」が発令されました。すべての教育研究活動を停止し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。各部局は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置してください。災害対応要員以外の教職員及び学生は、安全に留意して帰宅してください。帰宅困難な人は各部局事務室へ申し出てください。</p> <p>This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. "Tokai Earthquake Warning" has been announced. Please discontinue your activities and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. Staff, except for disaster management staff, and students should return home with caution. If you have difficulties returning home, please report to the office.</p> <p>(この操作を2回繰り返す。)</p> |

(3) 個別通信例文

⑧部局対策本部・部局防災隊設置完了の報告 部局災害対策本部→災害対策統括本部
半固定型無線局の取扱者は、無線局収容箱の鍵を持って行動してください。
半固定型無線局の取扱者は、無線局収容箱を開け拡声放送スイッチをOFFにしてください。

| No. | 個別通信例文 | 呼出側 | 応答側 (東山指令局) |
|-----|--|--|-------------|
| ⑧ | 突発地震発生時 【例：農学研究科災害対策本部】 (通信モード：東山指令局) 「災害対策統括本部、災害対策統括本部、こちらは農学研究科災害対策本部、こちらは農学研究科災害対策本部、農学研究科災害対策本部及び防災隊の設置を完了しました。どうぞ。」 | | 【災害対策統括本部】 |
| | | (通信モード：農学部) 「こちらは災害対策統括本部です。農学研究科災害対策本部の報告を確認しました。どうぞ。」 | |
| | 注意情報発表(警戒宣言発令)時 【例：農学研究科災害対策本部】 (通信モード：東山指令局) 「災害対策統括本部、災害対策統括本部、こちらは農学研究科災害対策本部、こちらは農学研究科災害対策本部、農学研究科災害対策本部及び防災隊の設置を完了しました。どうぞ。」 | | 【災害対策統括本部】 |
| | | (通信モード：農学部) 「こちらは災害対策統括本部です。農学研究科災害対策本部の報告を確認しました。どうぞ。」 | |
| | | (通信モード：東山指令局) 「了解しました。」 | |

半固定型無線局の取扱者は、個別通信が終了したら、拡声放送スイッチをONに戻し、無線局収容箱の鍵を施錠してください。

⑨安否確認の報告 部局災害対策本部→災害対策統括本部

半固定型無線局の取扱者は、無線局収容箱の鍵を持って行動してください。

半固定型無線局の取扱者は、無線局収容箱を開け拡声放送スイッチをOFFにしてください。

| No. | 個別通信例文 | |
|-----|---|---|
| | 呼出側 | 応答側（東山指令局） |
| ⑨ | <p>【例：農学研究科災害対策本部】 （通信モード：東山指令局） 「災害対策統括本部、災害対策統括本部、こちらは農学研究科災害対策本部、こちらは農学研究科災害対策本部、こちらは農学研究科災害対策本部、安否を報告します。教職員〇〇人、学生等〇〇人、業者等〇〇人の安否を確認しました。どうぞ。」</p> <p>-----</p> <p>（通信モード：東山指令局） 「了解しました。」</p> | <p>【災害対策統括本部】</p> <p>-----</p> <p>（通信モード：農学部） 「こちらは災害対策統括本部です。農学研究科災害対策本部の報告を確認しました。どうぞ。」</p> |

半固定型無線局の取扱者は、個別通信が終了したら、拡声放送スイッチをONに戻し、無線局収容箱の鍵を施錠してください。

⑩被害状況の報告 部局災害対策本部→災害対策統括本部

半固定型無線局の取扱者は、無線局収容箱の鍵を持って行動してください。

半固定型無線局の取扱者は、無線局収容箱を開け拡声放送スイッチをOFFにしてください。

| No. | 個別通信例文 | |
|-----|--|---|
| | 呼出側 | 応答側（東山指令局） |
| ⑩ | <p>【例：農学研究科災害対策本部】 （通信モード：東山指令局） 「災害対策統括本部、災害対策統括本部、こちらは農学研究科災害対策本部、こちらは農学研究科災害対策本部、こちらは農学研究科災害対策本部、被害状況を報告します。負傷者〇〇人、施設の被害は〇〇です。どうぞ。」</p> <p>-----</p> <p>（通信モード：東山指令局） 「了解しました。」</p> | <p>【災害対策統括本部】</p> <p>-----</p> <p>（通信モード：農学部） 「こちらは災害対策統括本部です。農学研究科災害対策本部の報告を確認しました。どうぞ。」</p> |

半固定型無線局の取扱者は、個別通信が終了したら、拡声放送スイッチをONに戻し、無線局収容箱の鍵を施錠してください。

(4) 通信点検

通信点検の実施方法

通信点検は、各無線局取扱者により、5月・10月の、第2水曜日に実施する。

①通信点検例文 東山指令局→他の各無線局
 半固定型無線局の取扱者は、無線局収容箱の鍵を持って行動してください。
 半固定型無線局の取扱者は、無線局収容箱を開け拡声放送スイッチをOFFにしてください。

| No. | 通信点検例文 | 呼出側 (東山指令局) | 応答側 (東山指令局を除く各無線局) |
|-----|---|---|--------------------|
| ① | <p>【東山指令局】 (通信モード：名大全域) 「こちらは名古屋大学東山指令局です。 これより名古屋大学防災無線の通信点検を行います。 本日は晴天なり、本日は晴天なり。 ただいまの結果を報告してください。」</p> <hr/> <p>(通信モード：事務局北他) 「こちらは名古屋大学東山指令局です。※ ○○局の報告を確認しました。」</p> | <p>【東山指令局を除く各無線局】</p> <p>【半固定型無線局】 半固定型無線局の取扱者は、無線局収容箱を開け拡声放送スイッチをOFFにしてください。 (通信モード：東山指令局) 「こちらは※○○局です。一斉放送の試験電波を良好に受信しました。 また、拡声装置は良好に作動しました。どうぞ。」 半固定型無線局の取扱者は、個別通信が終了したら、拡声放送スイッチをONに戻し、無線局収容箱の鍵を施錠してください。</p> <p>【可搬型無線局】 (通信モード：東山指令局) 「こちらは※○○局です。一斉放送の試験電波を良好に受信しました。どうぞ。」</p> | |

※局名称は、防災無線局一覧表 (P 1 4) に記載の局名称とする。

通信点検チェックシート

実施日時 平成 年 月 日 時00分～

| 局名称 | 点検時刻 | 取扱者職名 | 発信・ 返信 | 受信 | |
|--------|------|--------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | | | | 無線機 | 拡声機 |
| 東山指令局 | : 00 | 施設企画課が指定した者 | <input type="checkbox"/> | | |
| 事務局北 | : 01 | 施設管理課が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 屋外運動場 | : 02 | 総合保健体育科学センターが指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 共同教育 | : 03 | エコトピア科学研究所が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 農学部 | : 04 | 農学部が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 理学部 | : 05 | 理学部が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 工学部東 | : 06 | 工学部が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 工学部西 | : 07 | 工学部が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 図書館西 | : 08 | 情報文化学部が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 経済学部 | : 09 | 経済学部が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 工学部8号館 | : 10 | 工学部が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 工学部2号館 | : 11 | 工学部が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 理学部C館 | : 12 | 理学部警務員 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 総合校舎 | : 13 | 教養教育院警務員 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 災害対策室 | : 14 | 災害対策室が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | |
| 東山守衛所 | : 15 | 本部守衛室守衛 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | |
| 国際嚶鳴館 | : 16 | 学生総合支援課が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | |
| 留学生会館 | : 17 | 国際課が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | |
| 鶴舞指令局 | : 18 | 病棟防災センター守衛 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | |
| 鶴舞エネセン | : 19 | 医学部管理課が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | |
| 大幸指令局 | : 20 | 医学部管理課が指定した者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | |

※通信点検日時はその都度定める。

通信点検の結果は次のとおりです。

良 不良

不良状況（不良局名称、不良内容等できるだけ詳しくお書きください。）

東山指令局取扱者は、通信点検が終わりましたら、このチェックシートを施設管理部施設管理課に提出してください。

4. 防災無線局一覧表

| 区分 | 局名称 | 種類 | 配備先 | 取扱者 | 屋外拡声装置の併設 |
|--------|----------|------|-----------------------|--------------------|-----------|
| No. 1 | 事務局北 | 半固定型 | (東山) 本部 2 号館北 | 施設管理課が指定した者 | 有 |
| No. 2 | 屋外運動場 | 半固定型 | (東山) 総合保健体育科学センターグランド | 総合保健体育科学センターが指定した者 | 有 |
| No. 3 | 共同教育 | 半固定型 | (東山) 共同教育研究施設 1 号館屋上 | エコトピア科学研究所が指定した者 | 有 |
| No. 4 | 農学部 | 半固定型 | (東山) 農学部温室西 | 農学部が指定した者 | 有 |
| No. 5 | 理学部 | 半固定型 | (東山) 環境総合館西 | 理学部が指定した者 | 有 |
| No. 6 | 工学部東 | 半固定型 | (東山) 工学部 7 号館 A 棟東 | 工学部が指定した者 | 有 |
| No. 7 | 工学部西 | 半固定型 | (東山) 工学研究科 1 号館西 | 工学部が指定した者 | 有 |
| No. 8 | 図書館西 | 半固定型 | (東山) 情報文化学部北 | 情報文化学部が指定した者 | 有 |
| No. 9 | 経済学部 | 半固定型 | (東山) 経済学部北 | 経済学部が指定した者 | 有 |
| No. 10 | 工学部 8 号館 | 半固定型 | (東山) 工学部 8 号館 1 階廊下 | 工学部が指定した者 | 有 |
| No. 11 | 工学部 2 号館 | 半固定型 | (東山) 工学部 2 号館事務室 | 工学部が指定した者 | 有 |
| No. 12 | 理学部 C 館 | 半固定型 | (東山) 理学部 C 館警務員室 | 理学部警務員 | 有 |
| No. 13 | 総合校舎 | 半固定型 | (東山) 総合校舎警務員室 | 教養教育院警務員 | 有 |
| No. 14 | 東山指令局 | 可搬型 | (東山) 災害対策統括本部 | 施設企画課が指定した者 | 無 |
| No. 15 | 災害対策室 | 可搬型 | (東山) 環境総合館災害対策室 | 災害対策室が指定した者 | 無 |
| No. 16 | 東山守衛所 | 可搬型 | (東山) 守衛所 | 本部守衛室守衛 | 無 |
| No. 17 | 国際嚶鳴館 | 可搬型 | (山手) 国際嚶鳴館 | 学生総合支援課が指定した者 | 無 |
| No. 18 | 留学生会館 | 可搬型 | (陶生町) 留学生会館 | 国際課が指定した者 | 無 |
| No. 19 | 鶴舞指令局 | 可搬型 | (鶴舞) 病棟防災センター | 病棟防災センター守衛 | 無 |
| No. 20 | 鶴舞エネセン | 可搬型 | (鶴舞) エネルギーセンター中央監視室 | 医学部管理課が指定した者 | 無 |
| No. 21 | 大幸指令局 | 可搬型 | (大幸) 保健学科本館 | 医学部管理課が指定した者 | 無 |

※ 1. 各無線局の取扱いは、原則として上表に定められた取扱者が行うものとするが、非常または訓練の際は、この限りではない。

※ 2. 上表 No. 1 ~ No. 10 の各無線局収容箱の鍵は、上表に定められた取扱者が管理するものとする。他の取扱者がこれらの無線局を取扱う際は、上表に定められた取扱者から鍵を借用する。

半固定型無線機設置場所一覧

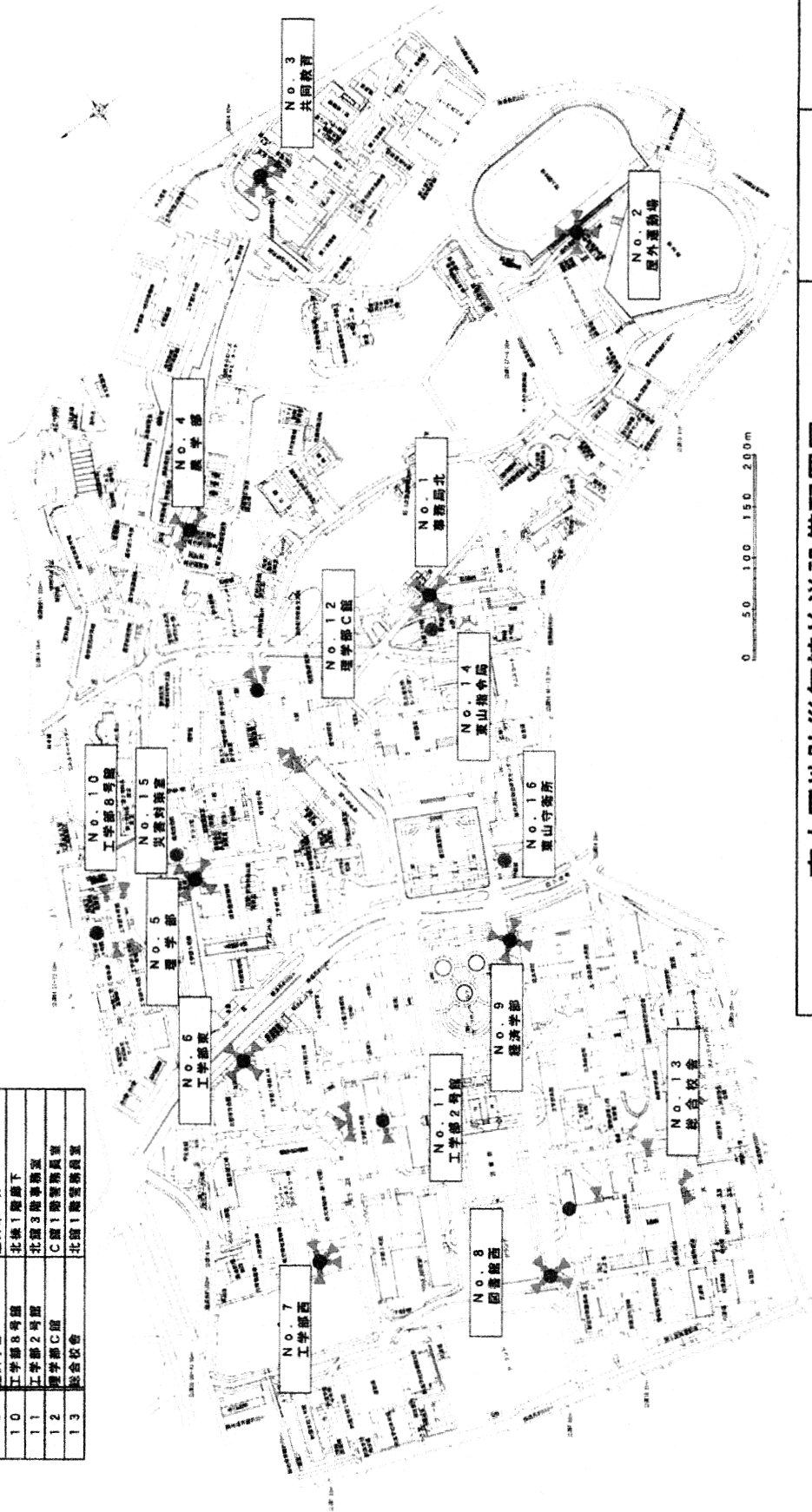
| No. | 局名称 | 設置場所 |
|-----|-------|--------------|
| 1 | 東山北 | 屋外ホール |
| 2 | 屋外運動場 | 屋外ホール |
| 3 | 共同教育 | 林田校舎研究施設1号館上 |
| 4 | 工学部 | 屋外ホール |
| 5 | 工学部東 | 屋外ホール |
| 6 | 工学部西 | 屋外ホール |
| 7 | 工学部南 | 屋外ホール |
| 8 | 工学部北 | 屋外ホール |
| 9 | 工学部東 | 屋外ホール |
| 10 | 工学部西 | 北館1階下 |
| 11 | 工学部南 | 北館3階東側 |
| 12 | 工学部北 | C館1階東側 |
| 13 | 学生会舎 | 北館1階職員室 |

可搬型無線機設置場所一覧

| No. | 局名称 | 設置場所 |
|-----|-------|-----------------|
| 14 | 東山指令局 | 災害対応本部(本部1号館) |
| 15 | 災害対策室 | 環境総合館4階災害対策室 |
| 16 | 東山守衛所 | 守衛所(名古屋大学地産学舎内) |

凡例

| 記号 | 名称 |
|----|---------|
| □ | 屋外スピーカー |
| ● | 半固定型無線機 |
| ○ | 可搬型無線機 |



東山団地防災無線放送設備配置図

配置図

1/6,000

アマチュア無線運用細則

名古屋大学防災無線運用要項第12に規定するアマチュア無線の運用について次のように定める。

1. 名古屋大学防災無線運用要項第1に規定する災害が発生したとき，MCA陸上移動通信無線による防災無線の補助的な通信手段として，アマチュア無線による非常通信（電波法第52条4号）を行う場合は，次表に記した東山環境総合館に設置のアマチュア無線局（J I 2 ZWN）にて運用するものとする。

| 無線局の種別 | 局名称 | 設置場所 | 取扱者 |
|-------------------------------|-----------|-----------|--|
| アマチュア局 (電波法施行規則 第4条24号) | J I 2 ZWN | (東山)環境総合館 | 名古屋大学教職員無線クラブの構成員で，アマチュア局の無線設備の操作を行うことができる無線従事者の資格を有する者。 |

2. 前記1に定める非常通信を行う場合，名古屋大学教職員無線クラブの構成員はボランティア精神にのっとり無報酬で協力するものとする。

平成16年10月8日

本部の各部長

殿

各部局事務部の長

環境安全防災委員会委員長

理事 中島 泉

異常気象に関する警報等情報の連絡網について（通知）

「暴風雨等による災害予防のための当面の対応指針について」は、平成16年7月30日付け総長名で既に各部局長あて依頼済みであります。同対応指針5に定める「異常気象に関する警報等情報の連絡網」を別紙のとおり暫定的に定めましたので、お知らせします。

なお、貴部局（部）におかれましては、本部担当課から伝達があった情報を、貴部局（部）職員及び学生等に速やかに伝達できる体制を整えられるよう、よろしくお願い致します。

また、本件につきましては、9月29日開催の自然災害等対策専門委員会において、各委員に報告済みであることを申し添えます。

担 当

総務企画部人事労務課厚生掛

（内線：5979）

学務部学務企画課総務掛

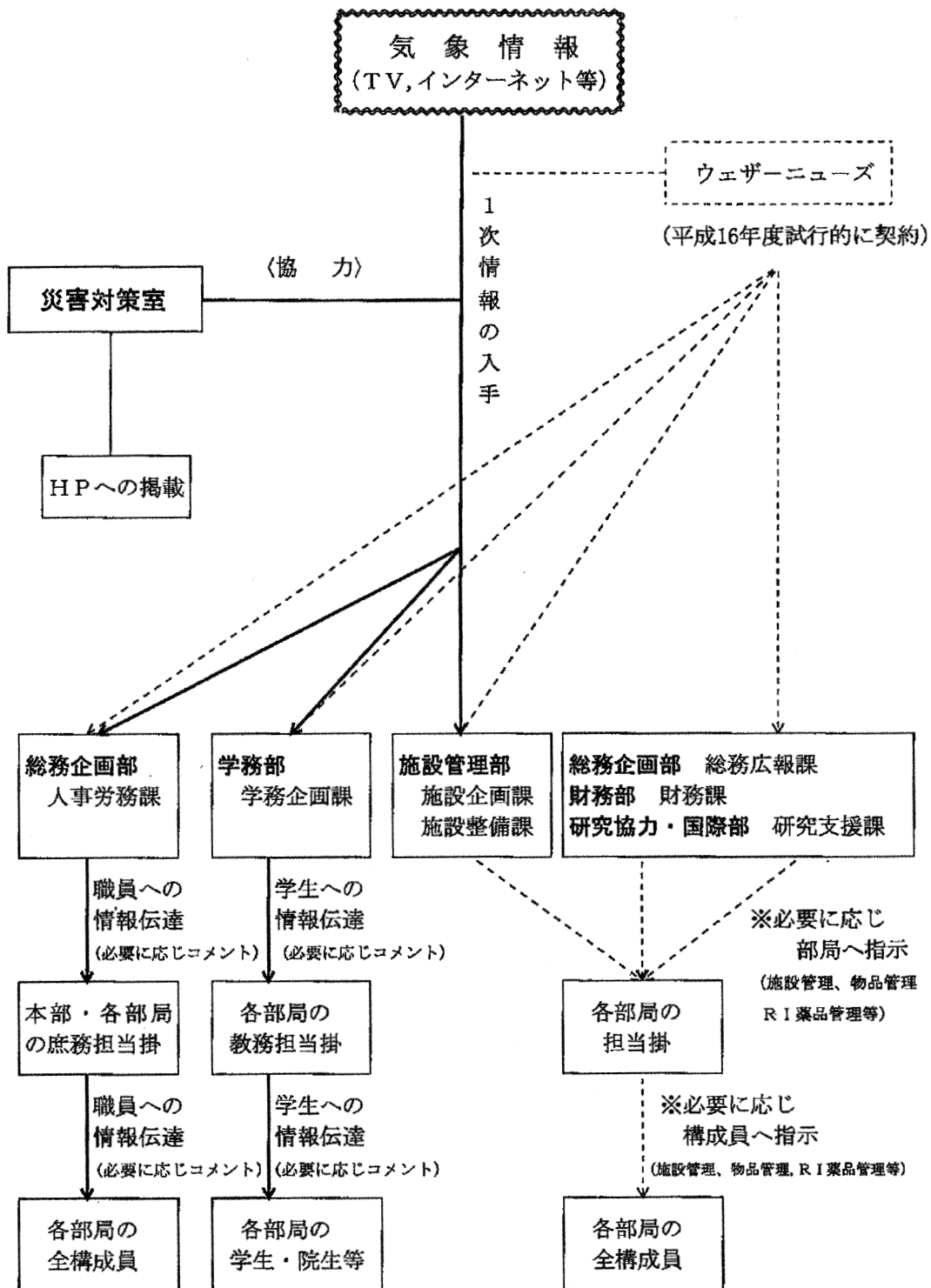
（内線：2159）

施設管理部施設企画課総務掛

（内線：2115）

1. 総務企画部人事労務課、学務部及び施設管理部は、職員と学生の安全確保とそのための施設管理による防災の視点から、担当理事のもとで気象異常に関する警報等の1次情報の入手に努めるとともに相互に情報を交換しあう。
2. 災害対策室は、対応可能な範囲内で、気象異常に関する警報等の最新の1次情報を入手する。
3. 災害対策室は、対応可能な範囲内で、入手した最新の1次情報を、可能でありかつ必要であると判断される場合には防災上の一般的なコメントを添えて、大学事務局各部に配信するとともに、ホームページに掲載する。
4. 総務企画部人事労務課と学務部は、独自に入手した、あるいは災害対策室から配信された1次情報を、「暴風雨等による災害予防のための当面の対応指針(H16.7.30)」(指針)に沿って行動する旨の注意を添えて、全学各部局関係事務部に配信する。
5. 部局事務部は、総務企画部人事労務課、学務部、あるいは災害対策室から受けとった1次情報を「指針」に沿って行動する旨の注意を添えて、講座部門等に配信する。
6. 総務企画部人事労務課、学務部、施設管理部は、必要に応じて1次情報(+災害対策室からの一般的なコメント)に加えて下記の付加的な情報(2次情報:コメント)を配信するとともに、可能な場合はホームページにその内容を掲載する。
7. 総務企画部人事労務課は、1次情報をもとに、職員の就業に関する特定のコメントを行なうことが可能でありかつ必要であると判断する時は、そのコメントを付加的な情報として事務局各部と各部局関係事務部を介して職員に配信する。
8. 学務部は、1次情報をもとに、学生の就学(講義、試験、課外活動)、学内に待機する場合の待機場所、等に関する特定のコメントを行なうことが可能でありかつ必要であると判断する時は、そのコメントを付加的な情報として学生に配信する。
9. 施設管理部は、1次情報をもとに、防災のための施設管理に関する特定のコメントを行なうことが可能でありかつ必要であると判断する時は、事務局各部と各部局関係事務部に配信する。

異常気象に関する警報等情報の連絡網（フロー）



別紙

暴風雨等による災害予防のための当面の対応指針
(台風シーズンを前にした職員と学生への臨時の案内)

1. 職員の居住地から大学の所在地域までのいずれかの地域に、暴風等の警報（注1）が発令された場合、又は警報の発令が予測される場合で、それにより交通機関等の運行に支障が生じ、出勤が著しく困難となることが見込まれるとき、又は退勤途上における身体の危険を回避するため、早期に退勤する必要があると認められるときは、総長は、職員に対し勤務しないことを承認することができる。なお、職員は、暴風等の警報が解除され、出勤が可能となった場合には、直ちに出勤するものとする。
2. 暴風等の警報が発令された場合における学生の授業等の扱いは、原則として「2004 Students' Guide 全学教育科目履修の手引」の中にある「地震又は台風等による災害が発生した場合若しくは発生のおそれがあり警報又は注意情報が発令された場合の全学教育科目の授業及び定期試験（追試及び再試を含む。以下「授業等」という。）の対応」によるものとする。
3. 職員の出勤途上若しくは出勤後、又は学生の登校途上若しくは登校後において、暴風等の警報が発令された場合又は警報の発令が予測される場合は、暴風雨等に関する公的な報道による情報と学内情報（連絡）をもとに、個人に固有の事情（居住地、交通機関の状況など）を踏まえて、職員、学生一人一人が身体の安全を守るための最良の判断（出退勤、登下校、又は学内待機の判断）を自らの責任において行うものとする。
4. 上記において、職員及び学生が、暴風等の警報の発令の間、自らの判断で学内に待機することを希望する場合は、大学は、学内に待機することを可能にするための措置（講義室の開放等）を講ずるものとする。
5. 大学は、臨機に可能な範囲内で、暴風雨等による災害を防ぐために必要な情報を収集し、必要と判断する情報について電話等による連絡網（可能な場合はホームページ）等を通して構成員に伝達する。
6. 暴風等の警報が発令されていないさまざまな状況のもとでの職員と学生の災害予防のための対応の在り方をあらかじめ一律に定めることは困難であり、そのような場合の対応は、公的な報道による情報、入手可能な学内情報、上記1及び2等の学内の取り決め、及び個人に固有の事情（上記3）を総合して行う一人一人の臨機の適正な判断による。

注1：暴風等の警報とは、大雨警報、洪水警報、大雪警報、暴風警報、暴風雪警報、波浪警報及び高潮警報をいう。

注2：本対応指針は、環境安全防災委員会等において「暴風雨等による災害を予防するための対応の基本原則」が定められるまでの、台風シーズンを前にした臨時の指針を示したものである。

国立大学法人名古屋大学と名古屋大学消費生活協同組合との間における災害時の相互協力に関する協定

国立大学法人名古屋大学（以下「甲」という。）と名古屋大学消費生活協同組合（以下「乙」という。）は、災害時における相互協力に関する協定を以下のとおり締結する。

（目的）

第1条 甲及び乙は、地震、風水害、大火災その他による災害（以下「災害」という。）が発生した場合に、大学としての責任を負う立場で、相互に協力して大学構成員並びに大学に避難してきた地域住民の安全・安定を図るものとする。

（協力要請）

第2条 甲は、災害時における応急措置のため、以下に掲げる事項が必要になった場合、乙に、協力要請することができる。

- 一 飲料及び食糧の提供
- 二 食堂等施設の災害対策への利用
- 三 器具・運搬車両の提供
- 四 災害対策に必要な労務の提供

（協力の期間）

第3条 乙の、前条に規定する協力の期間は7日を限度とする。ただし、甲と乙協議の上、協力の期間を延長することができる。

（緊急連絡網の構築）

第4条 甲及び乙は、災害時における相互協力を円滑に行うため、災害時緊急連絡網を構築するものとする。

（情報の提供）

第5条 甲は、乙に災害に関しての、情報を提供するものとする。

（協力の実施）

第6条 乙は、甲からの協力要請事項に対し、協同組合の理念に基づき全国の大学生協ネットワークの協力を得ながら、積極的に応えるものとする。

（甲の要請手続き）

第7条 甲から乙への要請手続きは、第4条に規定する災害時緊急連絡網により、文書又は電話等で要請するものとする。ただし、文書をもつて要請できなかった場合は、その後速やかに文書を乙へ送付するものとする。

（乙の受託手続き）

第8条 乙は、甲からの要請に協力するとき、又は、協力したときは文書又は電話等で受託の報告をするものとする。ただし、文書をもつて受託の報告ができなかった場合は、その後速やかに文書を甲へ送付するものとする。

(費用の負担)

第9条 第2条各号に掲げる飲料及び食糧の提供等に係る費用の負担については、甲・乙協議の上、決定する。

(災害対策物資の管理)

第10条 乙は、第2条に規定する飲料及び食糧等を乙の食堂等において管理するものとする。

(在庫状況の報告)

第11条 この協定の万全な実行を期すため、甲は乙に対して、飲料及び食糧等の在庫状況について報告を求めることができる。

(防災訓練等への参加)

第12条 乙は、甲の開催する防災訓練等に積極的に参加するものとする。

2 甲は、防災訓練等の実施に当たっては、事前に乙に文書で案内するものとする。

(協議)

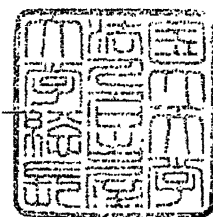
第13条 この協定に定める事項を円滑に推進するため、甲と乙は随時協議を行うものとする。

(改正、疑義等の解決)

第14条 この協定の改正又は廃止等、若しくは本協定の運用等に関する疑義等については、双方の意見を交換し、決定、解決するものとする。

平成17年4月1日

甲 国立大学法人名古屋大学
総長 平野 眞



乙 名古屋大学消費生活協同組合
理事長 福家 俊朗



名古屋大学医学部附属病院と財団法人共済団との間における災害時の相互協力に関する協定

名古屋大学医学部附属病院（以下「甲」という。）と財団法人共済団（以下「乙」という。）は、災害時における相互協力に関する協定を以下のとおり締結する。

（目的）

第1条 甲及び乙は、地震、風水害、大火災その他による災害（以下「災害」という。）が発生した場合に、病院としての責任を負う立場で、相互に協力して大学構成員並びに病院に医療救助を求めてきた地域住民の安全・安定を図るとともに、病院機能を十分に活かすための支援を行うことを目的とする。

（協力要請）

第2条 甲は、災害時における応急措置のため、以下に掲げる事項が必要になった場合、乙に、協力要請することができる。

- 一 飲料及び食糧の提供
- 二 食堂等施設の災害対策への利用
- 三 器具・運搬車両の提供
- 四 災害対策に必要な労務の提供

（協力の期間）

第3条 乙の前条に規定する協力の期間は7日を限度とする。ただし、甲と乙協議の上、協力の期間を延長することができる。

（緊急連絡網の構築）

第4条 甲及び乙は、災害時における相互協力を円滑に行うため、災害時緊急連絡網を構築するものとする。

（情報の提供）

第5条 甲は、乙に災害に関しての、情報を提供するものとする。

（協力の実施）

第6条 乙は、甲からの協力要請事項に対して、乙の設立理念に基づき、積極的に応えるものとする。

（甲の要請手続き）

第7条 甲から乙への要請手続きは、第4条に規定する災害時緊急連絡網により、文書又は電話等で要請するものとする。ただし、文書をもって要請できなかった場合は、その後速やかに文書を乙へ送付するものとする。

（乙の受諾手続き）

第8条 乙は、甲からの要請に協力するとき、又は、協力したときは文書又は電話等

で受諾の報告をするものとする。ただし、文書をもって受諾の報告ができなかった場合は、その後速やかに文書を甲へ送付するものとする。

(費用の負担)

第9条 第2条各号に掲げる飲料及び食糧の提供等に係る費用の負担については、甲と乙の協議により決定する。

(災害対策物資の管理)

第10条 乙は、第2条に規定する飲料及び食糧等を乙の食堂等において管理するものとする。

(在庫状況の報告)

第11条 この協定の万全な実行を期するため、甲は乙に対して、飲料及び食糧等の在庫状況について報告を求めることができる。

(防災訓練等への参加)

第12条 乙は、甲の開催する防災訓練等に積極的に参加するものとする。
2 甲は、防災訓練等の実施に当たっては、事前に乙に文書で案内するものとする。

(協議)

第13条 この協定に定める事項を円滑に推進するため、甲と乙は随時協議を行うものとする。

(改正、疑義等の解決)

第14条 この協定の改正又は廃止、若しくは本協定の運用等に関する疑義等については、双方の意見を交換し、解決するものとする。

平成17年10月24日

甲 名古屋大学医学部附属病院
病院長 井 口 昭 久

乙 財団法人 共済団
理事長 今 井



名古屋大学環境安全防災委員会規程

(平成16年5月31日)
(規程第268号)

(設置)

第1条 名古屋大学のキャンパスライフにおける環境安全の確保に関する基本方針及びその実施方策等を策定するため、名古屋大学環境安全防災委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) キャンパスの屋外環境及び交通安全対策に関すること。
- (2) 廃棄物、排水及び化学物質の管理等に関すること。
- (3) 地震その他自然災害等、防災に関すること。
- (4) キャンパス内の防犯対策に関すること。
- (5) その他環境安全等の確保に関する事項のうち、委員会が必要と認めたこと。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理事のうち総長が指名した者
- (2) 情報文化学部長、研究科長、附置研究所長、エコトピア科学研究機構長、附属図書館長、医学部附属病院長及び総合保健体育科学センター長
- (3) 国立大学法人名古屋大学教育研究評議会規程(平成16年度規程第5号)第3条第1項第11号及び第12号に規定する評議員
- (4) 医学部保健学科長及び災害対策室長
- (5) 総務企画部長、施設管理部長及び学務部長並びに研究協力・国際部国際課長
- (6) 総長補佐のうち総長が指名した者
- (7) その他委員会が必要と認めた者

2 前項に規定するもののほか、第8条の専門委員会等に係る事項を審議する場合に限り、当該専門委員会等の委員長を委員に加えるものとする。

(任期)

第4条 前条第7号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会に、委員長を置き、第3条第1項第1号の委員のうちから総長が指名した者をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故がある場合は、あらかじめ委員長が指名した委員が議長となる。

(定足数)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、議事は、出席者の過半数によって決する。

(意見の聴取)

第7条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会等)

第8条 委員会が必要と認めたときは、専門委員会等を置くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、関係部・課の協力を得て、施設管理部施設企画課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会に関して必要な事項は、委員会の議を経て、総長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年5月31日から施行する。
- 2 名古屋大学安全委員会暫定規程(平成16年度規程第30号)は、廃止する。
- 3 この規程の施行の際最初の任命に係る第3条第1項第7号に規定する委員の任期は、第4条本文の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。

名古屋大学環境安全防災委員会専門委員会細則

(平成16年5月31日)
(細則第24号)

(趣旨)

第1条 名古屋大学環境安全防災委員会規程(平成16年度規程第268号)第8条の規定に基づく専門委員会に関する事項は、この細則の定めるところによる。

(名称及び審議事項)

第2条 専門委員会の名称及び審議事項は、次のとおりとする。

| 名称 | 審議事項 |
|--------------|---|
| 環境専門委員会 | キャンパス全般にわたる屋外環境に関すること。 |
| 交通専門委員会 | 交通安全対策の立案等キャンパス内における交通に関すること。 |
| 廃棄物等専門委員会 | 廃棄物、排水及び化学物質の管理等に関すること。 |
| 警察対応等専門委員会 | 一 警察官の構内立入り等に関すること。 二 警察官の個々の構内立入り等における対応、執行等に関する こと。 三 その他防犯対策に関すること。 |
| 自然災害等対策専門委員会 | 地震その他自然災害等防災に関すること。 |

(組織)

第3条 環境、交通及び廃棄物等専門委員会は、環境安全防災委員会(以下「委員会」という。)の議を経て、委員会の委員長が委嘱する若干名の委員をもって組織する。

2 警察対応等専門委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 委員会委員若干名
- (2) 法律分野の専門の理事又は教員若干名
- (3) 法務室長

3 自然災害等対策専門委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理事のうち総長が指名した者
- (2) 研究科、附置研究所、エコトピア科学研究機構及び総合保健体育科学センターの教授各1名
- (3) 地震・防災分野の専門の教員若干名

(4) 施設管理部長

(任期)

第4条 前条第1項の委員の任期は1年とし、同条第2項第2号並びに第3項第2号及び第3号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 各専門委員会に、委員長を置き、当該専門委員会(自然災害等専門委員会を除く。)において互選する。

2 自然災害等専門委員会の委員長は、第3条第3項第1号の委員をもって充てる。

3 委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。

(定足数)

第6条 専門委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、議事は、出席者の過半数によって決する。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、関係部・課の協力を得て、次に掲げる課において処理する。

環境専門委員会 施設管理部施設整備課

交通専門委員会 施設管理部施設整備課

廃棄物等専門委員会 施設管理部施設管理課

警察対応等専門委員会 施設管理部施設整備課

自然災害等対策専門委員会 施設管理部施設整備課及び施設管理課

(雑則)

第8条 この細則に定めるもののほか、専門委員会に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この細則は、平成16年5月31日から施行する。

防災備蓄品の現状

平成16年9月17日現在

| 部 局 | 防災備蓄品 | 有の場合の品名 | 設置場所 |
|-----------------------------------|-------|-------------------|-------------|
| 本部 | 有 | 別紙1 | 別紙1 |
| 附属図書館 | 有 | 別紙2 | |
| 文学部・大学院文学研究科 | 有 | ヘルメット 15個・懐中電灯 1個 | 会計掛倉庫 |
| 教育学部・大学院教育発達科学研究科 | なし | | |
| 法学部・大学院法学研究科 | なし | | |
| 経済学部・大学院経済学研究科 | なし | | |
| 情報文化学部・大学院情報科学研究科 | なし | | |
| 理学部・大学院理学研究科 (アイソトープ総合センターを含む) | なし | | |
| 医学部・大学院医学系研究科 | 有 | 別紙3 | 東病棟8階 |
| 〃(大幸地区) | なし | | |
| 工学部・大学院工学研究科 | なし | | |
| 農学部・大学院生命農学研究科 | なし | 検討案(別紙4) | |
| 大学院国際開発研究科 | 有 | 防災グッズ | 各職員の研究室・事務室 |
| 大学院国際言語文化研究科 | なし | | |
| 大学院環境学研究科 | なし | | |
| 環境医学研究科 | なし | | |
| 太陽地球環境研究所 | なし | | |
| エコトピア科学研究機構 | なし | | |
| 情報連携基盤センター | なし | | |
| 総合保健体育科学センター | なし | | |

防災備蓄関係リスト（本部）

| 品名 | 規格 | 数量 | 設置場所 |
|-------------|--------------------------|------|-----------------------|
| リヤカー | アルミ製 側板付 S8-A2 | 3 台 | ボイラー室（本部2号館北 PCB保管置場） |
| パール | Φ25mm×1800mm | 5 本 | |
| スコップ | パイプ 柄付 | 5 本 | |
| のこぎり | がندوق 390mm | 5 本 | |
| ブルーシート | 2.7×2.7m | 5 枚 | |
| 大ハンマー | 柄付 4.5kg | 5 本 | |
| ツルハシ | 両ツル 柄付 | 5 本 | |
| 工具箱 | キャスター付 サンキャリー WL-2 B#160 | 5 個 | |
| ジャッキ | マサダ MS-2S | 5 個 | |
| ボルトクリッパー | MCC 600mm | 5 個 | |
| 懐中電灯 | クリプトン球 KF202 | 5 個 | |
| 軍手 | | 60 双 | |
| ロープ | Φ9mm×20m | 5 巻 | |
| | | | |
| | | | |
| （学務部保管物品） | | | |
| 本部用テント | 6 本足 | 7 張 | 豊田講堂地下 |
| 本部用テント | 4 本足 | 6 張 | 豊田講堂地下 |
| トランシーバー | | 9 個 | 学務企画課分室 |
| ハンドマイク | | 8 個 | 学務企画課分室 |
| 腕章（職員用） | | 53 個 | 学務企画課分室 |
| | | | |
| | | | |
| （共済組合掛貸出物品） | | | |
| | | | 総務企画部 人事労務課 共済組合掛 倉庫 |
| 本部用テント | | 2 張 | |
| ドーム型テント | 1 人用 | 1 個 | |
| ドーム型テント | 2～3 人用 | 1 個 | |
| ドーム型テント | 4～5 人用 | 1 個 | |
| クーラーボックス | 特大46 | 3 個 | |
| クーラーボックス | 中38 | 5 個 | |
| クーラーボックス | 小30 | 1 個 | |
| 発電機 | 日立640W | 1 台 | |
| | | | |
| | | | |

防災用品一覧

附属図書館

| 品 名 | 数 量 | 設 置 場 所 |
|---------|-----|--------------|
| トランシーバー | 2台 | 2階受付 |
| 車椅子 | 2台 | 2階玄関ホール |
| 担架 | 3台 | 5階倉庫1、2階閲覧掛2 |
| 拡声器 | 2台 | 2階閲覧掛 |
| サーチ・ライト | 3台 | 2階受付(夜間開館用) |
| ロープ | 1巻 | 5階倉庫 |
| ヘルメット | 多数 | 各職員へ配付済 |

| | 事項 | 規格 | 数量 | 備考 |
|----|----------|-------------|-----|-----|
| 1 | テント | 支柱・屋根柱 | 30 | |
| 2 | テント | 布 | 13 | |
| 3 | 容器 | バックインボックス用 | 100 | |
| 4 | BPマット | | 120 | 50 |
| 5 | マット | 大 | | 5 |
| 6 | シュラフ | | | 54 |
| 7 | 水銀ランプ | 500W | | 7 |
| 8 | 防災着 | 黄メッシュ | | 30 |
| 9 | ガード | ランプホルダー用 | | 10 |
| 10 | カセットコンロ | 達人 | | 10 |
| 11 | 食器 | どんぶり | | 25 |
| 12 | 食器 | 皿 | | 20 |
| 13 | 食器 | コップ | | 20 |
| 14 | 茶碗 | | | 20 |
| 15 | コードリール | | | 3 |
| 16 | カセットガス | | | 48 |
| 17 | テント杭セット | | | 2 |
| 18 | 電動のこぎり | チップソーカッター | | 1 |
| 19 | ランプ | | | 3 |
| 20 | プラ船 | | | 1 |
| 21 | 毛布 | | | 109 |
| 22 | ダンボール | | | 200 |
| 23 | 防災マスク | 避難用 | | 50 |
| 24 | 担架 | | | 2 |
| 25 | 簡易ベッド | | | 5 |
| 26 | 携帯バック | | | 3 |
| 27 | アタッシュケース | | | 15 |
| 28 | 非常持出袋 | | | 66 |
| 29 | ハンドマイク | | | 3 |
| 30 | 防火着 | | | 17 |
| 31 | ヘルメット | 白 | | 34 |
| 32 | ヘルメット | 黄 | | 11 |
| 33 | 簡易ふとん | | | 2 |
| 34 | 非常掲示版 | | | 9 |
| 35 | 懐中電灯 | | | 1 |
| 36 | 草履 | | | 10 |
| 37 | 腕章 | 緑 名大病院自衛消防隊 | | 130 |
| 38 | 腕章 | 赤 名大病院自衛消防隊 | | 35 |
| 39 | メガホン | 黄 | | 30 |

生命農学研究科東山キャンパス地震防災対策用備蓄品・生活用品・復旧資材リスト

| | | |
|------------------|-----------------------------------|------|
| 1. 食料関係 | | |
| ①飲料水 (1人1日あたり3L) | ペットボトル(200名分X3日・構成員全体15%・2L・5年有効) | 900個 |
| ②缶詰 | 200名分X3日・3年有効 | 300缶 |
| ③乾パン | 200名分X3日・100g・5年有効 | 300袋 |
| ④アルファ米 | 白飯・200名分X3日・100g・5年有効 | 75Kg |
| ⑤レトルト食品 | ラーメン・保存用即席乾燥餅200名分X3日・3年有効 | 300個 |
| 2. 安全対策関係 | | |
| ①救急セット | 三角巾・包帯・医薬品・ばんそうこう、ガーゼ、はさみ、ピンセット等 | 2組 |
| ②ヘルメット | 100名分 | 75個 |
| ③軍手 | 400名分 | 400束 |
| ④防塵マスク | 50名分 | 50個 |
| ⑤非常持出品 | 50名分・防災協会認定品・リュック型・410X405X70mm | 50個 |
| 3. 生活用品関係 | | |
| ①テント | A東西・B館、管理棟、生物棟各1張 | 5張 |
| ②タオル | 200名分 | 200枚 |
| ③毛布 | 50名分 | 50枚 |
| ④卓上コンロ | 予備GAS20個・A東西、B館、管理棟、生物棟各1台 | 5台 |
| ⑤携帯ラジオ | 予備単一乾電池50個・A東西、B館、管理棟、生物棟各1台 | 5台 |
| ⑥海中電灯 | 予備単一乾電池40個・A東西、B館、管理棟、生物棟各4台 | 20個 |
| ⑦ポリタンク容器 | 5L | 20個 |
| ⑧ロープ | 50m | 2本 |
| ⑨夜光ロープ | 10m | 3本 |
| ⑩簡易式トイレ | | 5台 |
| ⑪非常用全ローソク | 12H | 500本 |
| ⑫マッチ・ライター | | 一式 |
| ⑬ナイフ・缶切り | | 一式 |
| ⑭ゴミ袋 | 可燃・不燃物・資源 | 一式 |
| ⑮コンテナ (ブレハブ) | 資材保管 | 1台 |
| ⑯ホイッスル | | 10個 |
| ⑰ブルーシート | | 10枚 |
| 4. 復旧資材関係 | | |
| ①工具箱 | プラスチック1100X550X330 | 1セット |
| ②スコップ | 剣先・金像 | 10丁 |
| ③ツルハシ | 両ツル・柄付 | 10丁 |
| ④ジャッキ | マダ・MS-2S | 2丁 |
| ⑤大ハンマー | 両口・3.5kg | 10丁 |
| ⑥八角パール | 22X900mm | 10本 |
| ⑦トラロープ | φ12mmX100m | 2本 |
| ⑧ノコギリ | 両刃・240mm | 2丁 |
| ⑨ハンドマイク | | 1台 |
| ⑩リヤカー | アルミ・折りたたみ式 | 1台 |

部局別防災備蓄品一覧表（3日分の水・食料・紙コップ等）

| 部局等 | 配分対象 人員 | ペットボトル 1本当り2L入 | ビスケット 70g 23枚入 | 乾パン 1袋当り100g入 | 缶詰弁当 1缶(2人用) | 紙コップ | 皿 | 割り箸 | ラップ |
|-------------------|------------|-------------------|-------------------|------------------|-----------------|----------|---------|---------|-----------|
| ロット(単位) 1人当 | | 6 4.5 | 24 1 | 24 2 | 24 3 | 18 18 | 18 3 | 20 3 | 1 1/20 |
| 本部 | 44 | 198 | 44 | 88 | 132 | 792 | 144 | 140 | 7 |
| 教養教育院 | 6 | 27 | 6 | 12 | 18 | 108 | 18 | 20 | 1 |
| 附属図書館 | 11 | 50 | 11 | 22 | 33 | 198 | 36 | 40 | 2 |
| 文学部・大学院文学研究科 | 23 | 104 | 23 | 46 | 69 | 414 | 72 | 80 | 4 |
| 教育学部・大学院教育発達科学研究科 | 13 | 59 | 13 | 26 | 39 | 234 | 54 | 40 | 2 |
| 教育学部附属学校 | 5 | 23 | 5 | 10 | 15 | 90 | 18 | 20 | 1 |
| 法学部・大学院法学研究科 | 17 | 77 | 17 | 34 | 51 | 306 | 54 | 60 | 3 |
| 経済学部・大学院経済学研究科 | 17 | 77 | 17 | 34 | 51 | 306 | 54 | 60 | 3 |
| 情報文化学部・大学院情報科学研究科 | 26 | 117 | 26 | 52 | 78 | 468 | 90 | 80 | 4 |
| 理学部・大学院理学研究科 | 37 | 167 | 37 | 74 | 111 | 666 | 126 | 120 | 6 |
| アイントープ総合センター | 3 | 14 | 3 | 6 | 9 | 54 | 18 | 20 | 1 |
| 医学部・大学院医学系研究科 | 36 | 162 | 36 | 72 | 108 | 648 | 108 | 120 | 6 |
| “(大幸地区) | 18 | 81 | 18 | 36 | 54 | 324 | 54 | 60 | 3 |
| 工学部・大学院工学研究科 | 29 | 131 | 29 | 58 | 87 | 522 | 90 | 100 | 5 |
| 農学部・大学院生命農学研究科 | 31 | 140 | 31 | 62 | 93 | 558 | 108 | 100 | 5 |
| 大学院国際関係研究科 | 14 | 63 | 14 | 28 | 42 | 252 | 54 | 60 | 3 |
| 大学院国際言語文化研究科 | 9 | 41 | 9 | 18 | 27 | 162 | 36 | 40 | 2 |
| 大学院環境学研究科 | 12 | 54 | 12 | 24 | 36 | 216 | 36 | 40 | 2 |
| 環境医学研究所 | 6 | 27 | 6 | 12 | 18 | 108 | 18 | 20 | 1 |
| 太陽地球環境研究所 | 19 | 86 | 19 | 38 | 57 | 342 | 72 | 60 | 3 |
| エコトピア科学研究所 | 13 | 59 | 13 | 26 | 39 | 234 | 54 | 40 | 2 |
| 情報メディア教育センター | 1 | 5 | 1 | 2 | 3 | 18 | 18 | 20 | 1 |
| 先端技術共同研究センター | 1 | 5 | 1 | 2 | 3 | 18 | 18 | 20 | 1 |
| 情報連携基盤センター | 13 | 59 | 13 | 26 | 39 | 234 | 54 | 40 | 2 |
| 総合保健体育科学センター | 11 | 50 | 11 | 22 | 33 | 198 | 36 | 40 | 2 |
| 合計 | 415 | 1,876 | 415 | 830 | 1,245 | 7,470 | 1,440 | 1,440 | 72 |

延べ

2,490人分

1人1日当りの水・食料
 水 1.5本
 ペットボトル 2リットル 2/3袋
 乾パン(110g) 1/3袋
 ビスケット類 70g入 1人用
 缶詰弁当 2人用

紙コップは配分人数×6(包装単位18入り)
 皿・割り箸は配分人数×3(10個単位で端数切り上げ)
 サランラップは20人で1本

(赤飯・とりめし・五目めし・牛めし)一4分の1程度に通常に配分

防災備蓄医薬品

【医薬品】

| 商品名 | 使用期限 | 全数量 | 大幸 | 規格・容量 | 備考 |
|------------------|--------|-----|-----|---------|----|
| ガスター錠 20mg | 2008.3 | 1箱 | 1箱 | 100T入 | |
| キシロカインポリアンプ 0.5% | 2008.4 | 50箱 | 1箱 | 10A入 | |
| ハルシオン 0.25mg錠 | 2008.6 | 5箱 | | 100T入 | |
| ゲンタシン軟膏 | 2008.6 | 30箱 | 1箱 | 10本入 | |
| ネグミン液 | 2008.6 | 10本 | 1本 | | |
| アドフィード | 2008.7 | 20箱 | 2箱 | 50袋入 | |
| PL顆粒 | 2010.5 | 1箱 | 1箱 | 1000包入 | |
| ステリクロンW液0.05 | 2008.7 | 5本 | 1本 | | |
| ポンタールカプセル250mg | 2010.6 | 5箱 | | 100CAP入 | |
| デパス錠0.5mg | 2008.6 | 1箱 | | 500T入 | |
| リナパス-II | 2008.1 | 5本 | 1本 | | |
| 大塚蒸留水 | 2010.6 | 5箱 | 24本 | 30ボトル入 | |
| 大塚生食注 | 2008.6 | 3箱 | 10袋 | 20袋入 | |
| ロペミンカプセル | 2009.6 | 1箱 | 1箱 | 100CAP入 | |
| クラビット錠 | 2008.5 | 9箱 | 1箱 | 100T入 | |
| インプロー70(EP) | 2008.7 | 30本 | 3本 | | |

防災備蓄医薬品(大幸用)

※1回/年(8~9月頃)東山にて確認し、使用期限約1年前には交換の連絡をいたします。

【医薬品】

| 商品名 | 使用期限 | 大幸 | 規格・容量 | メーカー名 | 備考 |
|------------------|--------|-----|------------------|--------|----|
| ガスター錠 20mg | 2008.3 | 1箱 | 20mg PTP 100T | アステラス | |
| キシロカインポリアンブ 0.5% | 2008.4 | 1箱 | 0.5% 5mlx10A | アストラゼネ | |
| ゲンタシン軟膏 | 2008.6 | 1箱 | 0.1% 10gx10入 | シエリングP | |
| ネグミン液 | 2008.6 | 1本 | 250ML | メルクホエイ | |
| アドフィード | 2008.7 | 2箱 | 6枚x50 | 科研製薬 | |
| PL顆粒 | 2010.5 | 1箱 | 1gx1000包 | 塩野義製薬 | |
| ステリクロンW液0.05 | 2008.7 | 1本 | 0.05% 500ml | 健栄製薬 | |
| リナパース-II | 2008.1 | 1本 | ポンプ付 500ML | 山善製薬 | |
| 大塚蒸留水 | 2010.6 | 24本 | 広口開栓 500x30B | 大塚製薬 | |
| 大塚生食注 | 2008.6 | 10袋 | ソフトバッグ 500mlx20B | 大塚製薬 | |
| ロペミンカプセル | 2009.6 | 1箱 | 1mg PTP 100CAP | 大日本製薬 | |
| クラビット錠 | 2008.5 | 1箱 | 100mg PTP 100T | 第一製薬 | |
| インプロー70(EP) | 2008.7 | 3本 | EPボトル 70% 500ml | 日本新薬 | |

見 積 書

平成 年 月 日

名古屋大学様

名古屋市東区東片端町1番地
株式会社スズケン名古屋支店
支店長 兵頭 雅彦

下記のとおりお見積申し上げます。ご検討のうえ何卒ご用命下さいますようお願い申し上げます。

合計 ¥508,652☆

| メーカー名 | 商品名 | 規格・容量 | 数量 | 納入単価 | 金額 |
|-----------|------------------|-------------------|----|-----------|------------|
| 塩野義製薬 | PL顆粒 | 1g X1000包 | 1 | 7,099.05 | 7,099.05 |
| アステラス製薬 | ガスター錠20mg | 20mg PTP 100T | 1 | 6,663.30 | 6,663.30 |
| 大日本製薬 | ロペミンカプセル | 1mg PTP 100CAP | 1 | 6,789.30 | 6,789.30 |
| シリング・プラウ | ゲンタシン軟膏 | 0.1% 10g X10入 | 30 | 1,669.50 | 50,085.00 |
| 三共 | ポンタールカプセル250mg | 250mg PTP 100CAP | 5 | 1,018.50 | 5,092.50 |
| 第一製薬 | クビックス錠 | 100mg PTP 100T | 9 | 19,609.80 | 176,488.20 |
| 三菱ウエルファーマ | デハス錠0.5mg | 0.5mg PTP 500T | 1 | 4,704.00 | 4,704.00 |
| メルコ・エイ | ネブミン液 | 250ML | 10 | 421.05 | 4,210.50 |
| ファイザー | ハルシオン0.25mg錠 | 0.25mg SP 100T | 5 | 1,796.55 | 8,982.75 |
| 健栄製薬 | ステリクロン液0.05 | 0.05% 500ml | 5 | 283.50 | 1,417.50 |
| 日本新薬 | イソプロロ-70 (EP) | EPボトル 70% 500ml | 30 | 219.45 | 6,583.50 |
| 山善製薬 | リハース-II | ポンプ付 500ML | 5 | 1,799.70 | 8,998.50 |
| 大塚製薬 | 大塚蒸留水 | 広口開栓 500X30B | 5 | 4,116.00 | 20,580.00 |
| 大塚製薬 | 大塚生食注 | ソフトバッグ 500ml X20B | 3 | 2,439.15 | 7,317.45 |
| アストラセコー | キシロカインホリアップ 0.5% | 0.5% 5ml X10A | 50 | 626.85 | 31,342.50 |
| 科研製薬 | アドフィート | 6枚 X50 | 14 | 7,996.80 | 111,955.20 |
| 科研製薬 | アドフィート | 6枚 X50 | 6 | 7,996.80 | 47,980.80 |
| マルホ | ホステリザンF坐薬 | 30個 | 2 | 1,181.25 | 2,362.50 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

508,652.55

防災備蓄物品

【医療材料】

| 商品名 | 使用期限 | 全数量 | 規格・容量 | 備考 | 商品名 | 使用期限 | 全数量 | 規格・容量 | 備考 |
|-------------------|--------------------------|-----|-----------------|--------------|----------------|--------------------------|------|-------|---------------|
| 滅菌ガーゼ ケーパイン | 2008.08.10 | 20箱 | 7.5x7.5cm 100枚入 | | 三方活栓 | 2007.09.30 | 1箱 | 50個入 | |
| 滅菌ガーゼ ケーパイン | 2008.09.03 | 10箱 | 5x5cm 100枚入 | | 留置針 インサイト | 2009.09 | 1箱 | 50本入 | |
| 創部消毒用キット | 2008.07 | 16箱 | 30個入 | 綿球・セツシ・ガーゼ入り | 翼状針 21G | LOT.050401,61 2008.03 | 2箱 | 50本入 | |
| OG絆創膏 | 2008.06 | 5箱 | M 200枚入 | | 翼状針 22G | LOT.050704,76 2008.07 | 10本 | | |
| テープ マイクロポア | 2010.03 | 3箱 | 24巻入 | | 針付縫合糸 外科角針 | 2008.08 | 1箱 | 2個 | 17mm 黒ナイロン |
| 固定用テープ シルキーポア | LOT.50726803 2010.08 | 5P | 5号 6巻入 | | 針付縫合糸 外科角針 | 2008.08 | 1箱 | 2個 | 21mm 黒ナイロン |
| 普通包帯 エルホワイト | | 15箱 | 2号 10巻入 | | 針付縫合糸 形成外科用特殊針 | 2008.08 | 1箱 | 2個 | 13mm 黒ナイロン |
| 弾力包帯 エラスコット | 2010.07 | 10箱 | 3号 6巻入 | | 針付縫合糸 形成外科用特殊針 | 2008.08 | 1箱 | 2個 | 15mm 黒ナイロン |
| 三角巾 | | 30枚 | 大 | | 持針器 | | 2本 | 1本 | マッチェウ氏 |
| 副木 アルミ製 | | 5枚 | 大 | | 外科用クーパー | | 5本 | 1本 | 片尖直 |
| 副木 アルミ製 | | 10枚 | 中 | | 止血鉗子 | | 5本 | 1本 | コヘル氏直無鉤 |
| 副木 アルミ製 | | 5枚 | 小 | | 担架 アルミ | | 5台 | 1台 | 四つ折り伸縮型 |
| ゴム手袋 PVCエグザミネーション | | 4箱 | M1箱 | | 松葉杖 アルミ | | 3組 | 1組 | 大 1175~1380mm |
| 検診用 バイリーンシート | | 1巻 | | | 松葉杖 アルミ | | 2組 | | 中 1125~1330mm |
| デイスボ注射器 針付 | 2008.06 | 1箱 | 2.5ml 100本入 | | タオル | | 100枚 | | ハンドタイプ |
| デイスボ注射器 針付 | 2008.07 | 1箱 | 5ml 100本入 | | 滅菌手袋 6.0 | 2008.05 | | | |
| デイスボ注射器 針付 | 2008.08 | 1箱 | 10ml 100本入 | | 滅菌手袋 7.0 | 2008.05 | | | |
| デイスボ注射器 針付 | 2007.10 | 1箱 | 20ml 100本入 | | 携帯用 O2ボンベ | 2009.08 | 4本 | 1本 | |
| 輸液セット 成人用 | LOT.050627,11 2008.06 | 4箱 | 25本入 | | ゴミ袋 | | | | |
| 延命チューブ | LOT.041129,06 2007.10 | 2箱 | 25本入 | | | | | | |

防災備蓄物品(大幸用)

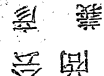
※1回/年(8~9月頃)東山にて確認し、使用期限約1年前には3.5mmの連絡をいたします。

【医療材料】

| 商品名 | 使用期限 | 大幸 | 規格・容量 | メーカー名 | 備考 |
|--------------------|--------------------------|-----|----------------------------|--------|-------------|
| 滅菌ガーゼ ケーパイン | 2008.08.10 | 2箱 | #7164 7.5cmx7.5cm 100枚入 | カワト | |
| 滅菌ガーゼ ケーパイン | 2008.09.03 | 1箱 | #7161 5cmx5cm 100枚入 | カワト | |
| 創部消毒用キット | 2008.07 | 2箱 | JK-SK003 30個入 | JMS | 綿球・セツン・ガーゼ入 |
| OQ砕創膏 | 2008.06 | 1箱 | 医科向 M 200枚入 | ニテハン | |
| テープ マイクロポア | 2010.03 | 1箱 | 1530-0 12.5mmx9.1m 24巻入 | 3M | |
| 固定用テープ シルキーポア | LOT.50726803 2010.08 | 1P | 5号 5cmx10m 6巻入 | アルマ | |
| 普通色帯 エルホホワイト | | 5箱 | 2号 5cmx9m 10巻入 | シグマックス | |
| 弾力色帯 エラスコット | 2010.07 | 2箱 | 3号 7.5cmx4.5m 6巻入 | アルマ | |
| 三角巾 | | 5枚 | 大 105cmx105cmx150cm | スライ | |
| ゴム手袋PVCエグザミネーションLM | | M1箱 | 各種 100枚入 | TOP | |
| ディスプレイ注射器 針付 | 2008.03 | 1箱 | 10ml 各種 100本入 | JMS | |
| 輸液セット 成人用 | LOT.050627.11 2008.06 | 1箱 | JY-A600CJ 25本入 | JMS | |
| 延長チューブ | LOT.041129.06 2007.10 | 1箱 | ET-2 700mm JY-ET2070A 25本入 | JMS | |
| 留置針 インサイト | 2009.09 | 5本 | 各種 50本入 | BD | |
| 翼状針 21G | LOT.050401.61 2008.03 | 10本 | 各種 50本入 | JMS | |
| 針付縫合糸 外科角針 | 2008.08 | 2個 | 17mm 黒ナイロン 75cm K67-4-0N | 松田 | |
| 針付縫合糸 外科角針 | 2008.08 | 2個 | 21mm 黒ナイロン 75cm K71-3-0N | 松田 | |
| 針付縫合糸 形成外科用特殊針 | 2008.08 | 2個 | 13mm 黒ナイロン 50cm MM13-5-0N | 松田 | |
| 針付縫合糸 形成外科用特殊針 | 2008.08 | 2個 | 15mm 黒ナイロン 50cm MM15-4-0N | 松田 | |
| 持針器 | | 1本 | マッチェウ氏 160mm 05-2090-00 | 松吉 | |
| 外科用クーパー | | 1本 | 片尖直 140mm 05-2010-10 | 松吉 | |
| 止血鉗子 | | 1本 | コヘル氏直鉗145mm 05-2125-01 | 松吉 | |
| 担架 アルミ | | 1台 | 四つ折り伸縮型 01-3815-02 | 松吉 | |
| 松葉杖 アルミ | | 1組 | 大 1175*1380mm 01-4181-01 | 松吉 | |
| タオル | | | ハンドタイプ | | |
| 携帯用 O2ボンベ | 2009.08 | 1本 | | | |
| ゴミ袋 | | | | | |

内訳書

| メーカー名 | 品名 | 規格 | 数量 | 単位 | 定価 | 税込納入価 | 納入価合計 |
|--------|-------------------|-----------------------------------|-----|----|--------|--------|---------|
| カワモト | 滅菌ガーゼ ケーパイン | #7164 7.5cm×7.5cm 100枚入 | 20 | 箱 | 2,900 | 2,625 | 52,500 |
| カワモト | 滅菌ガーゼ ケーパイン | #7161 5cm×5cm 100枚入 | 10 | 箱 | 2,000 | 1,890 | 18,900 |
| JMS | 消毒用キット | JN-SK003 30個入 | 16 | 箱 | 3,300 | 2,625 | 42,000 |
| ニチバン | QQ絆創膏 | 医科向 M 200枚入 | 5 | 箱 | 1,500 | 1,260 | 6,300 |
| 3M | テープ マイクロポア | 1530-0 12.5mm×9.1m 24巻入 | 3 | 箱 | 2,500 | 2,100 | 6,300 |
| アルケア | 固定用テープ シルキーポア | 5号 5cm×10m 6巻入 | 5 | 箱 | 4,000 | 3,570 | 17,850 |
| シグマックス | 普通包装 エルホワイト | 2号 5cm×9m 10巻入 | 15 | 箱 | 1,400 | 1,176 | 17,640 |
| アルケア | 粘力包装 エラスコット | 3号 7.5cm×4.5m 6巻入 | 10 | 箱 | 2,000 | 1,785 | 17,850 |
| スズラン | 三角巾 | 大 105cm×105cm×150cm | 30 | 枚 | 350 | 147 | 4,410 |
| 松吉 | 副木 アルミ製 | 大 220mm×60mm 07-2980-00 | 5 | 枚 | 220 | 179 | 895 |
| 松吉 | 副木 アルミ製 | 中 150mm×60mm 07-2980-01 | 10 | 枚 | 120 | 95 | 950 |
| 松吉 | 副木 アルミ製 | 小 135mm×50mm 07-2980-02 | 5 | 枚 | 120 | 95 | 475 |
| TOP | ゴム手袋 PVC17ガミネーション | M=3 L=1 100枚入 | 4 | 箱 | 3,200 | 1,630 | 6,720 |
| バイリン | 横診用バイリンシーツ | 100cm×100mm 07-3100-00 | 1 | 巻 | 11,000 | 10,395 | 10,395 |
| JMS | デイスボ注射器 針付 | 2.5ml 23G×1.1/4 JS-S25C2332 100本入 | 1 | 箱 | 2,400 | 1,470 | 1,470 |
| JMS | デイスボ注射器 針付 | 5ml 22G×1.1/4 JS-S05C2332 100本入 | 1 | 箱 | 2,600 | 1,575 | 1,575 |
| JMS | デイスボ注射器 針付 | 10ml 21G×1.1/2 JS-S10G2138 100本入 | 1 | 箱 | 3,500 | 2,520 | 2,520 |
| JMS | デイスボ注射器 針付 | 20ml 21G×1.1/2 JS-S20S2138 50本入 | 1 | 箱 | 3,000 | 1,990 | 1,990 |
| JMS | 輸液セット 成人用 | JY-A600CJ 25本入 | 4 | 箱 | 2,500 | 1,575 | 6,300 |
| JMS | 延長チューブ | ET-2 700mm JV-EI2070A 25本入 | 2 | 箱 | 2,000 | 1,470 | 2,940 |
| JMS | 三方活栓 | 3バー ホワイト 394900 50個入 | 1 | 箱 | 8,000 | 5,040 | 5,040 |
| BD | 留置針 インサイト | 22G 50本入 | 1 | 箱 | 15,000 | 9,505 | 9,505 |
| JMS | 翼状針 | 21・22G=1 50本入 | 2 | 箱 | 3,500 | 2,100 | 4,200 |
| 松田 | 針付縫合糸 外科角針 | 17mm 黒ナイド 75cm K67-4-0N | 1 | 箱 | 4,800 | 4,200 | 4,200 |
| 松田 | 針付縫合糸 外科角針 | 21mm 黒ナイド 75cm K71-3-0N | 1 | 箱 | 4,800 | 4,200 | 4,200 |
| 松田 | 針付縫合糸 形成外科用特殊針 | 13mm 黒ナイド 50cm MMI3-5-0N | 1 | 箱 | 5,800 | 5,145 | 5,145 |
| 松田 | 針付縫合糸 形成外科用特殊針 | 15mm 黒ナイド 50cm MMI5-4-0N | 1 | 箱 | 5,800 | 5,145 | 5,145 |
| 松吉 | 持針器 | マツチユウ氏 160mm 05-2090-00 | 2 | 本 | 13,200 | 9,975 | 19,950 |
| 松吉 | 外科用クーパー | 片尖 直 140mm 05-2010-10 | 5 | 本 | 3,000 | 2,310 | 11,550 |
| 松吉 | 止血鉗子 | コル氏 直 無鉤 145mm 05-2125-01 | 5 | 本 | 3,900 | 2,835 | 14,175 |
| 松吉 | 担架 アルミ | 四つ折り伸縮型 01-3815-02 | 5 | 台 | 27,000 | 19,425 | 97,125 |
| 松吉 | 松葉杖 アルミ | 大 1175 1380mm 01-4181-01 | 3 | 組 | 9,300 | 6,900 | 20,700 |
| 松吉 | 松葉杖 アルミ | 中 1125 1330mm 01-4181-02 | 2 | 組 | 9,300 | 6,900 | 13,800 |
| JMS | 滅菌プラスチック手袋 | 各種 25双入 | 2 | 箱 | 2,500 | 1,260 | 2,520 |
| 松吉 | O2バック 機帯酸素 | OA-122 06-2950-00 | 4 | 本 | 9,800 | 9,240 | 36,960 |
| 新誠工業 | レスキューセット 成人用 | ODXF | 1 | 式 | 96,000 | 80,640 | 80,640 |
| 生興 | 薬品・器材収納庫 | G-3605 1128 | 2 | 台 | 49,000 | 41,160 | 82,320 |
| | タオル | フェイスタイプ | 100 | 枚 | 250 | 147 | 14,700 |
| | | 合計 | | | | | 650,755 |

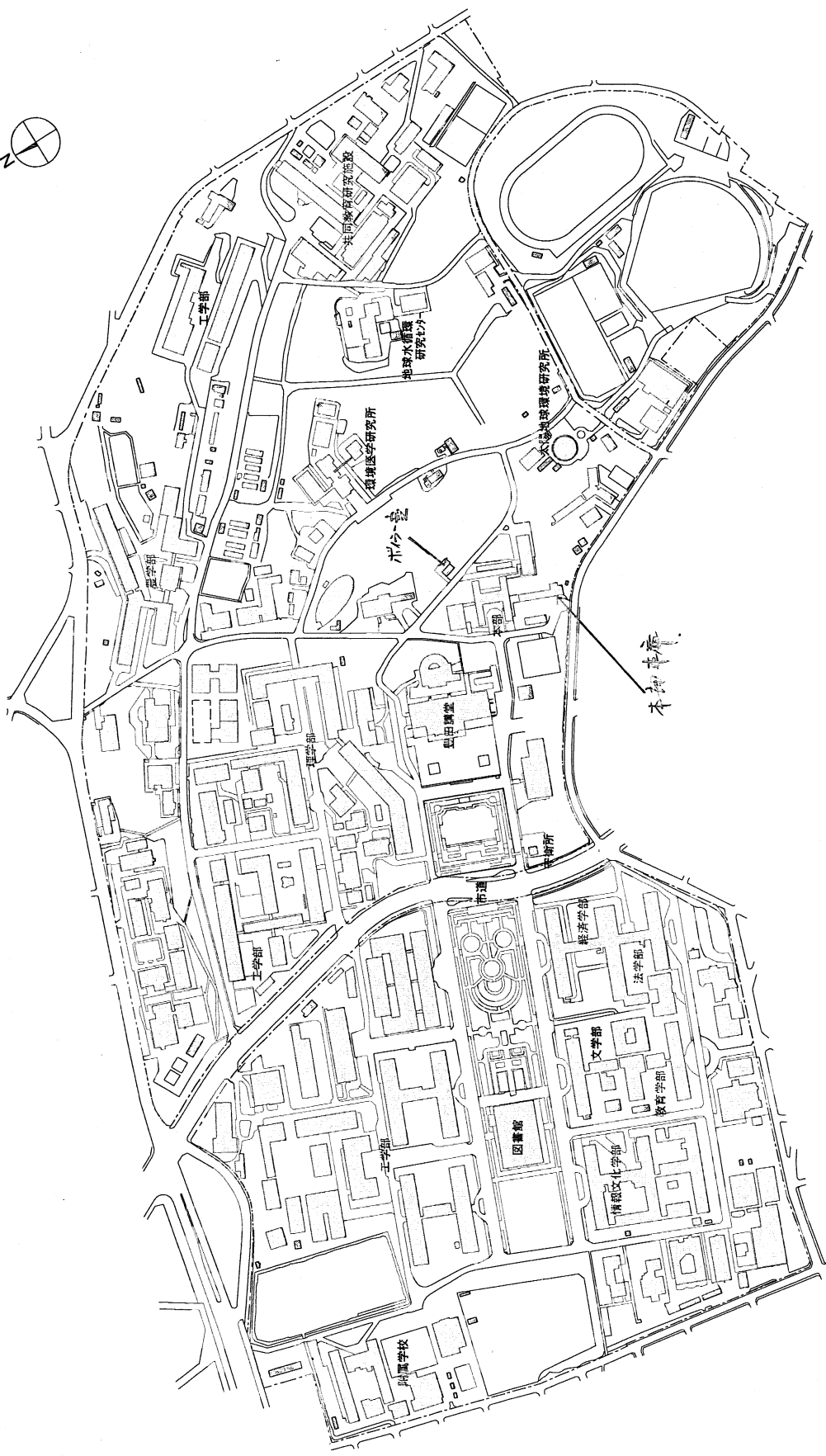


 株式会社 西川薬業株式会社

防災備蓄品(資機材ーハンドマイク)部局配分数量

| 部 局 等 | 部局希望 数 量 | 配分数量 単位：個 電池付 | 担当者職 | 担当者名 | 内線電話 |
|-----------------|-------------|---------------------|----------|--------|----------------|
| 本部 | | | | | |
| 教養教育院 | | | 専門職員 | 和田 裕司 | 3990 |
| 附属図書館 | 3 | | 会計掛長 | 山本 昭 | 3669 |
| 文学部・大学院文学研究科 | 2 | | 会計掛長 | 池戸 道明 | 2204 |
| 教育学部・大学院教育発達科学研 | 2 | | 会計掛長 | 渡邊 正 | 2604 |
| 教育学部附属学校 | 3 | | 附属学校事務掛長 | 鈴木 公也 | 2672 |
| 法学部・大学院法学研究科 | | | 会計掛長 | 林 正康 | 2314 |
| 経済学部・大学院経済学研究科 | | | 会計掛長 | 岡部 衛 | 2356 |
| 情報文化学部・大学院情報科学研 | | | 会計掛長 | 福田 重美 | 4718 |
| 理学部・大学院理学研究科 | | | 管理掛長 | 松井 宏文 | 2397 |
| アイソトープ総合センター | 1 | | 専門職員 | 中澤 志げ子 | 2563 |
| 医学部・大学院医学系研究科 | | | 施設管理掛長 | 鬼頭 由美子 | 81-2810 |
| 〃 (大幸地区) | 5 | | 会計掛長 | 田中 暢彦 | 82-1511 |
| 工学部・大学院工学研究科 | 25 | | 管理掛長 | 安井 幹夫 | 3425 |
| 農学部・大学院生命農学研究科 | 1 | | 管理掛長 | 松尾 尚幸 | 4009 |
| 大学院国際開発研究科 | | | 事務掛長 | 武市 全弘 | 4952 |
| 大学院国際言語文化研究科 | | | 事務掛長 | 大江 尚美 | 5312 |
| 大学院環境学研究科 | 2 | | 会計掛長 | 藤本 正喜 | 3456 |
| 環境医学研究所 | 2 | | 会計掛長 | 富田 裕代 | 3858 |
| 太陽地球環境研究所 | 5 | | 専門職員 | 向井 廣 | (0533) 89-5591 |
| エコトピア科学研究所 | 3 | | 事務掛長 | 曾田 薫 | 5262 |
| 情報メディア教育センター | 1 | | 事務掛長 | 曾田 薫 | 5262 |
| 先端技術共同研究センター | 1 | | 事務掛長 | 曾田 薫 | 5262 |
| 情報連携基盤センター | 1 | | 会計掛長 | 丑山 好夫 | 4356 |
| 総合保健体育科学センター | | | 事務掛長 | 鶴飼 モト美 | 3946 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 合 計 | 57 | 31 | | | |

ハンドマイク配分基準：部局から提出のあった部局に配分する。なお3個以上の希望部局は3個分を配分する。



名古屋大学

配置図 (東山団地) 1/6,000

名古屋大学東山団地配置図



学生のための

平成17年度版

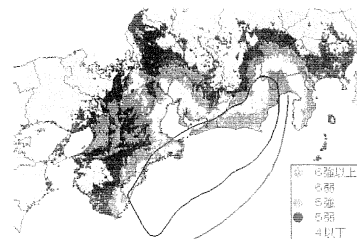
名古屋大学地震防災ガイド

東海地方で想定される地震とは？

東海地方では、東海地震に代表される「海溝型巨大地震」と濃尾地震に代表される内陸活断層等で発生する「内陸直下型地震」を想定する必要があります。

■**海溝型巨大地震** 東海地方で想定すべき代表的な海溝型巨大地震が東海地震と東南海地震です。駿河湾から四国沖にかけての地域では100～150年おきに巨大地震がほぼ同時に発生します。前回の昭和の地震の際には熊野灘で東南海地震（1944年）が発生しましたが、駿河湾での地震発生はありませんでした。そのため、駿河湾から遠州灘で発生するいわゆる「東海地震」の発生が切迫しているとされています。現在では東海地震発生予知のための世界第一級の観測網が展開されていますが、必ずしも予知が出来るとは限りません。2002年には東海地震の震源域が見直され、名古屋市を含めた愛知県の広い地域が新たに地震防災対策強化地域に指定されました。静岡県から愛知県東部では特に強い揺れと津波による被害が予想されるため、緊急の対策が必要となっています。次の東南海地震も今後30年間で50%の確率で発生すると考えられていますので、今から対策が必要です。

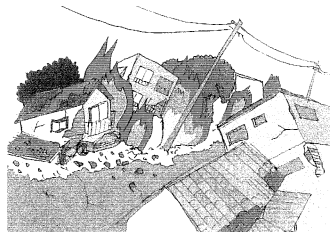
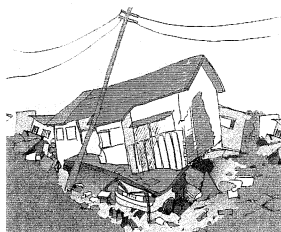
■**内陸直下型地震** 東海地方では岐阜県を中心として多くの活断層が知られています。一つ一つの活断層での地震発生間隔は1000年以上ですが、多くの活断層があることと震源が都市のすぐ足下であることから、海溝型の巨大地震よりも比較的狭い地域に強いゆれをもたらすのが特徴です。また2000年の鳥取県西部地震のように既知の活断層以外の場所に発生することもあります。特に海溝型の巨大地震発生の前後に内陸直下型地震も活発になることが知られています。直下型地震の予知は現段階では困難です。



東海地震と東南海地震が同時に発生した場合（内閣府による）

建物の倒壊

典型的な地震の被害は、大きな揺れによる建物の倒壊です。1995年の阪神・淡路大震災では、全壊・半壊を合わせて200,000棟以上の家屋に被害がありました。建物倒壊は、地盤条件や建物の構造、建築年により大きく異なり、軟弱地盤に建つ老朽木造建築物の被害が大きくなる傾向にあります。特に耐震基準が改正された1981年以前に着工した建物は耐震性が劣っている可能性が高く、きちんとした耐震診断と耐震改修が必要です。



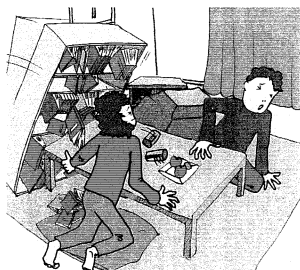
地震時には火災があちこちで同時多発し、水道管の損壊によって水が使えず消火活動が阻害されるだけでなく、消防署の消火能力を遙かに超える火災となります。コンロやボイラーなどの通常考えられるような火気のほかに、阪神・淡路大震災では電気器具も火災の原因となりました。地震で停電した場合にはブレーカーを切って避難することが大切です。

火災

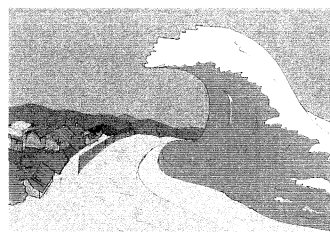
どういう被害が起こる？

家具の転倒

建物の耐震性が十分であっても、地震の強いゆれによって室内の家具が転倒して下敷きとなってけがや死亡する場合があります。とくにタンスやピアノ・本棚などの重い家具は壁や柱にしっかりと固定しておくことが大切です。中高層の建物の上の階では地表に比べて数倍の揺れとなりますので、特に念入りな家具の固定が大切です。またテレビやパソコンなどもしっかりと固定しておかないと地震の揺れによって部屋の中を飛んで直撃する危険もあります。



津波



大地震が海底の比較的深い場所で発生すると、海底の地殻変動により海面の水位が変化し、津波となって伝わります。津波の伝わる早さは時速数百kmにもなる場合があります。東海地震の場合には地震発生後5分程度で御前崎に、20分程度で志摩半島に津波が到達し、場所によっては津波警報が間に合わないところもありますから、海岸付近で揺れを感じた場合にはすぐに高い場所に避難する必要があります。

大地震が海底の比較的深い場所で発生すると、海底の地殻変動により海面の水位が変化し、津波となって伝わります。津波の伝わる早さは時速数百kmにもなる場合があります。東海地震の場合には地震発生後5分程度で御前崎に、20分程度で志摩半島に津波が到達し、場所によっては津波警報が間に合わないところもありますから、海岸付近で揺れを感じた場合にはすぐに高い場所に避難する必要があります。

自宅・下宿にいるときに

●まずは身を守る

揺れを感じたら丈夫なテーブルや机の下に隠れ、落下物などから身を守ります。余裕がない時は、座布団やクッションなどで頭を保護します。

●出入り口の確保

地震によって建物が歪み、出入り口が開かなくなる場合があります。いち早く扉や窓を開け、建物に閉じ込められないように注意します。

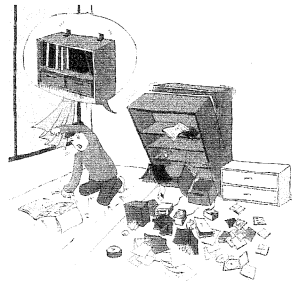
●火の始末

揺れが収まったら火の始末をします。

ガスは元栓を閉め、電気器具はコンセントを抜き、電気のブレーカーも切ります。停電が復旧したとき、電気のスイッチが入っていると思わぬ火災が発生します。

●あわてて外にでない

あわてて外に出ると、落下してきた瓦やガラスの破片でケガをする恐れがあります。揺れが収まってから、外に出るようにします。ただし、倒壊の恐れのある建物の場合は、素早く外へ逃げ出すことも必要です。



通学の途中に

●歩いているときは

住宅街では、道路に面したブロック塀や自動販売機があります。揺れを感じたら、近寄らないようにビル街や商店街では、看板や窓ガラスの破片などが、公園や広場など安全な場所まで避難し

●電車やバスの中では

立っているときは、つり革や手すりにしっかりとつかうこと。対向車両などの危険があります。車内放

●自動車の運転中には

運転中に地震に遭うと、ちょうどパンクしたタイヤのように揺られることがあります。揺れを感じたらハンドルを握り、ブレーキを踏んで車を道路の左側に停め、安全な場所に車を降りて避難する場合は車のキーをつけたまま車を降り、ドアはロックしないようにします。

学内での地震対策



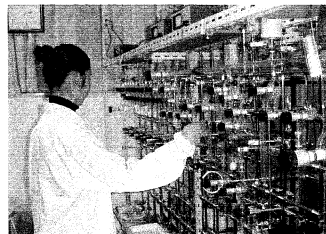
パソコンの転倒

「テレビがとんだ」と表現されるように、地震の揺れが大きい場合には、パソコンやディスプレイが数メートルも飛ぶことがあります。

コンピュータやハードディスクは転倒により貴重なデータが失われることがあります。粘着性ゲルなどで固定すると良いでしょう。

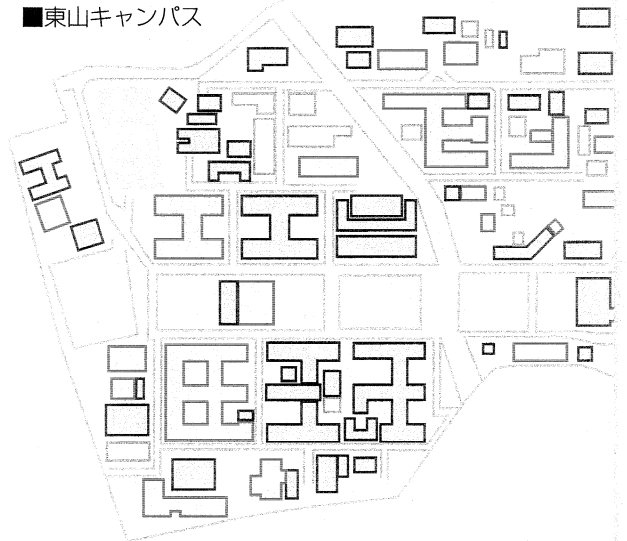
実験室の災害

実験器具や化学薬品を使用しているときに地震が発生すると、器具等で負傷したり、薬品がかかって火傷したり、薬品やガス漏れによる引火や爆発の危険性があります。また、流出した薬品が混合して危険なガスが発生するおそれがあるため、揺れがおさまったら、ガス・電源を切り、速やかに避難します。

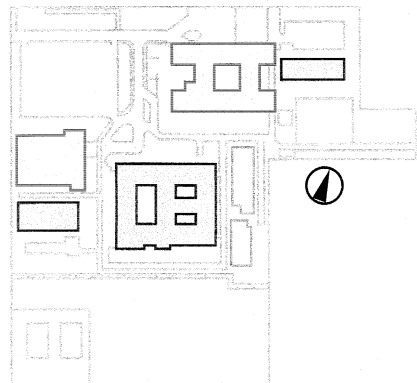


名古屋大学の建物の耐震性

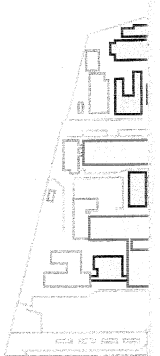
■東山キャンパス



■大幸キャンパス



■鶴舞キャンパス



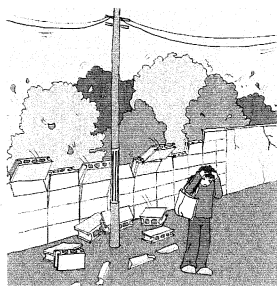
もしたら...

販売機などが転倒して、歩行者が下敷きとなってしまうことがあります。

物が落ちてくることがあります。カバンや衣類で頭を保護します。

とつかまります。停車しても勝手にドアを開けて外に出ない送をよく聞いて乗務員の指示に従ってください。

ような感じとなり、ハンドルを取
ベルをしっかりつかみ、徐々に
す。急ブレーキは危険ですから絶
対で正確な情報を得ます。車から
外にし窓を閉めて車を離れます。



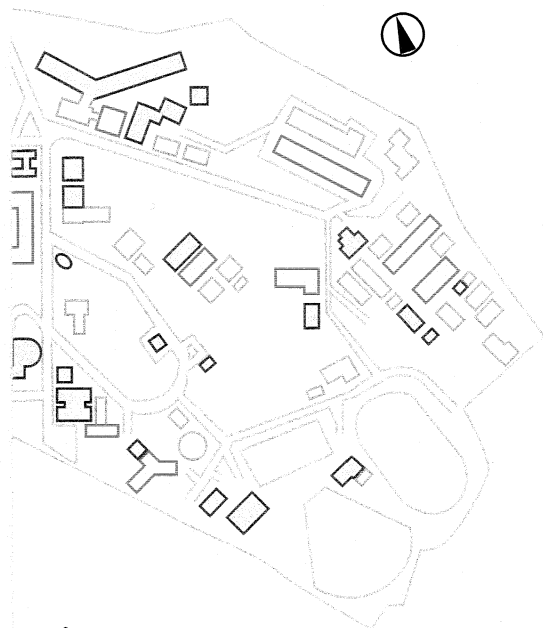
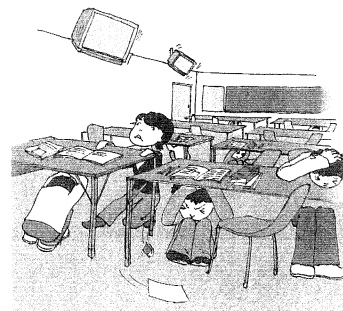
講義中に

●身の安全の確保

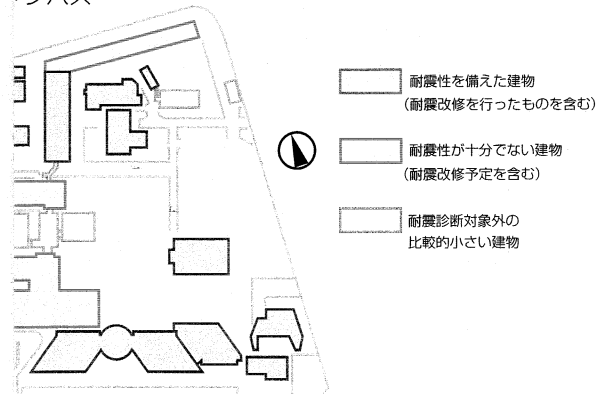
まずは、その場で自らの身の安全を確保します。図書室・実習室などでは書棚やパソコンは転倒のおそれがあるので、すぐに離れます。火気を使用中の場合には、揺れが収まってから火の始末をします。また、天井からスピーカー類が吊り下げられている場合には、落下する危険性があります。

●避難の心得

大勢の人が一斉に出口や階段に殺到すると危険です。教官の指示に従ってください。もしエレベーターに乗っていたら全部の階の停止ボタンを押して、止まったところで降ります。



キャンパス



1995年阪神・淡路大震災による神戸大学内の被害 (神戸大学提供)

ロッカー・書架類の転倒

背の高いロッカーや書架類は転倒しやすいため、しっかりとした固定が必要です。また書架が固定されていても、ほとんどの書籍が投げ出されるため、揺れを感じたら、すぐに書架から離れるようにします。

火災の発生

実験室、食堂や機械室などでは日常的に火気を取り扱い、研究室でも暖房器具を使う機会があるなど、地震時には火災への注意も必要です。火災が発生したら、ポヤのうちの消火を心がけるべきですが、初期消火で対応できる範囲は限られますので、火災が大きくなったら、速やかに避難します。

避難の心得

- ・エレベーターは電気が不通になった場合、閉じ込められる可能性があるため避難には使用してはいけません。
- ・煙は室内の上部から充満するので、煙から逃げるときは姿勢を低くします。ぬらしたハンカチなどで口や鼻を覆うことも有効です。
- ・教職員の指示がある場合にはそれに従って、落ち着いて行動してください。

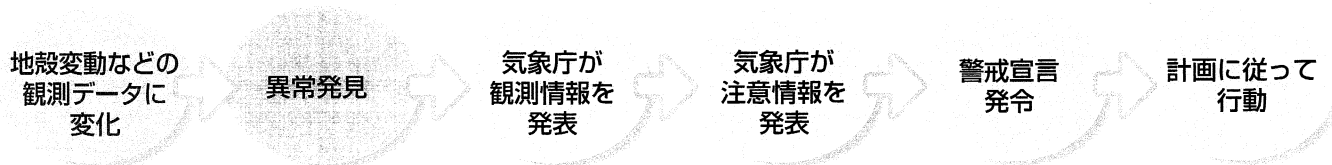


1978年宮城県沖地震による東北大学理学部化学棟の火災 (河北新報社提供)

警戒宣言が発令されたら…

警戒宣言が発令されると、地震に対して様々な準備行動が始まるため、あらかじめ対応を知っておかないと大変な混乱が予想されます。どのような事態になるのかを十分に理解し、いざというときに迅速に安全な行動をとれるようにしましょう。

警戒宣言の流れ



警戒宣言とは?

東海地震の観測データの異常が一定のレベルを超えた場合、地震防災対策強化地域判定会が招集され、地震発生の前兆に結びつくかどうかを検討します。その結果「地震発生の可能性が高い」と判断された場合には気象庁長官が内閣総理大臣に報告し、内閣総理大臣は閣議を開き「警戒宣言」を発令することになります。警戒宣言が発令されると、国や強化地域内の地方自治体・公共機関・特定の事業所は応急対策を取ります。また住民その他の事業所でも警戒態勢が取られます。なお、気象庁ではデータの異常が判定会招集の基準に達しなくても「観測情報」および「注意情報」で異常発生を発表します。

警戒宣言が発令されたら、 どうなる?

- 鉄道：最寄りの安全な駅に停車し運行を中止する。
名古屋より西の新幹線は速度を落として運行されます。
- バス：付近の安全なところまで走行し運行を中止する。
- 道路：避難路及び緊急輸送路確保のため交通規制がされる。
- 小売店：安全を確保できると判断した場合は営業を続ける。
- 銀行：原則として営業停止となる。一部のATMは使用可能
- 病院：発災時に備える病院と地域医療を継続する病院の役割分担を行う。(詳細は未定)
- 電気：使用できる。
- ガス：使用できる。減圧されることがある。
- 水道：使用できるが、水はふだんからためておく。

- 電話：できるだけ使わない。話はなるべく短くする。
通話する人が爆発的に増えると通話規制される。
家族等との連絡には災害伝言ダイヤル(171)を利用する。
- その他：倒れるものはあらかじめ倒しておく。また重いものは床の上におろしておく。

大学では

名古屋大学では注意情報発表段階で対応を開始します。注意情報が発表された場合、講義・実験・研究などはすべて中止し、実験室・実験装置・研究室内における災害防止措置を講じた後、非常要員の教職員以外はすみやかに帰宅します。

緊急時の連絡先

各キャンパス内では下4ケタで内線から通じます

- 緊急時(終日)救急車を要請した場合も下記に連絡
「学内110番(本部守衛室)」内線110、または789-4917・4918
- 学部等教務学生係等(平日昼のみ)

●東山キャンパス

| | |
|----------|----------|
| ・学務部学務課 | 789-2162 |
| | 2165 |
| | 5755 |
| ・文学部 | 789-2206 |
| ・教育学部 | 789-2606 |
| ・法学部 | 789-2317 |
| ・経済学部 | 789-2357 |
| ・情報文化学部 | 789-4228 |
| ・理学部 | 789-2808 |
| ・工学部 | 789-3599 |
| ・農学部 | 789-4010 |
| ・国際開発研究科 | 789-4952 |

| | |
|------------|----------|
| ・情報科学研究科 | 789-4228 |
| ・多元数理科学研究科 | 789-2402 |
| ・国際言語文化研究科 | 789-4881 |
| ・環境学研究科 | 789-4272 |
| ・教養教育院事務室 | 789-4725 |
| ・災害対策室 | 788-6038 |

●鶴舞キャンパス

| | |
|---------|----------|
| ・医学部医学科 | 744-2683 |
|---------|----------|

●大幸キャンパス

| | |
|--------------|-------------|
| ・医学部保健学科 | 719-1518 |
| 名古屋第二赤十字病院 | 832-1121(代) |
| 名古屋大学医学部附属病院 | 741-2111(代) |

名大地震防災訓練は10月第2水曜日です! 全員参加です!

東海地震や東南海地震で名古屋市もかなりの揺れが予想されています。名古屋大学も地震に備え、平成15年度より地震防災体制と初期災害対応の確立を目的とした訓練を行っています。

訓練の際には、講義・セミナー・実験を中断し、地震時の対応行動をとります。また避難訓練や防災講演会が行われます。これらは防災教育の一環でもあり、参加が義務づけられています。

「備えておけばよかった!」と後悔しないために、みなさんの積極的な参加をよろしく願います。



【留学生用】地震防災ガイド（案）2005.11.25 自然災害等対策専門委員会資料

2005 Students' guide for earthquake disaster mitigation

1. 地震とは

1. What is an earthquake?

地震とは、地面が1～数分のあいだ激しく揺れること。強い揺れによって家が倒壊し、家具は転倒し、ガラスは壊れるなどの被害が発生する。非常に強い地震では、ビルや橋も倒壊することがある。日本は、世界でも地震の多い国のひとつである。

A phenomenon in which the ground shakes for several minutes.

Due to this shaking, houses may collapse, furniture may fall, and glass may shatter.

During severe earthquakes buildings and bridges may crumble.

Japan is a very earthquake-prone country.

名古屋では、震度3以下くらいの地震は年1回～数回度あるが、この程度の地震は特に心配なくてよい。このガイドでは、100年に1回くらいの巨大地震で震度5～6以上になる場合の準備を説明している。

Although earthquakes of the intensity grade 3 or smaller occur once—several times a year in Nagoya, it is unnecessary to worry about those small quakes. This guide explains about the preparation for a major earthquake of the intensity grade 5 or larger that may occur once every 100 years.

2. 近い将来に名古屋の近くで発生する大地震

2. What is the coming next big earthquake in this region?

東海地震

東海地震は静岡県の西部で発生すると予測されている大地震。国の地震予知計画が1978年から実施されている。この地震では、愛知県も強い揺れに襲われる。

The Tokai Earthquake:

It is anticipated to occur in the west of Shizuoka. The national earthquake prediction program has been conducted since 1978. Due to this earthquake almost every place in Aichi Prefecture should tremor strongly.

東南海地震

東南海地震は、ちょうど愛知県の南側の太平洋で約100年に1回発生する巨大地震である。前回の東南海地震は61年前の1944年に発生しており、今後30年の間に発生する確率は60%と予測される。1854年の安政地震のように、東海地震と東南海地震が同時に起こる可能性もある。次の地震はすぐそこに迫っている！

The Tonankai earthquake:

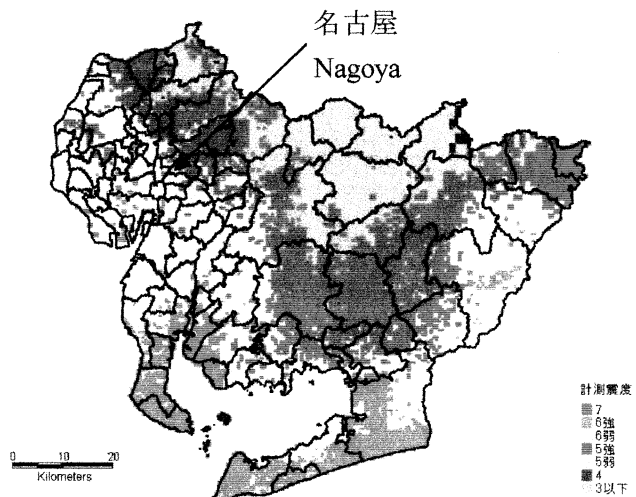
An earthquake of disastrous proportion which occurs once in every century, just south offshore of

Aichi Prefecture. The previous Tonankai earthquake occurred more than 60 years ago in 1944. The occurrence probability in the next three decades is estimated to be 60 percent. The Tokai and Tonankai earthquakes might occur together just like the Ansei Tokai Earthquake in 1854. This means the next one is right around the corner!

図 近い将来に予測される巨大地震の震度（愛知県の揺れの強さの予測）

日本の気象庁の震度で6強（オレンジ色）：立っていることができず、這わないと動けない。震度6弱：立っていることが難しく、重くて固定していない家具は動いたり倒れたりする。

Figure Anticipated seismic intensity of the next big earthquake in Aichi Prefecture.



Seismic intensity (JMA):

6 higher: Impossible to keep standing and to move without crawling.

6 lower: Difficult to keep standing. Most of heavy and unfixed furniture moves and falls.

3. そのとき何が起こる？

3. What happens?

家屋の倒壊

強い揺れのために、古くて弱い家は倒壊する可能性がある。1981年以降に建てられたり補強した家は、地震に強いものが多いので、このような家に住むことが望ましい。

Houses collapse:

Older and weaker houses can collapse due to heavy tremor. It is recommendable to live in houses which were newly built or reinforced after 1981.

火災

地震時には火災が発生することが多い。強い揺れが収まったら、落ち着いて火を消し、避難するときは電気のブレーカーを落とすとよい。

Fires outbreak:

Fire is a major secondary hazard associated with earthquakes. Extinguish any open flames and make sure to switch off the circuit breaker, when evacuating after an earthquake is over.

家具の転倒

強い揺れによる家具の転倒やガラスの破損で、けがや死亡することも多い。家具の転倒や落下を防ぐために固定などの対策をすること。

Furniture overturn:

Many people may be injured or killed by falling furniture and household articles as well as glass fragments. Take measures to prevent furniture and elevated furnishings from tipping over or falling down.

津波

津波は、海底で発生した大地震により海底が持ち上がって発生し、海岸沿いの地域に大きな被害をもたらす。海岸近くで強い揺れや長く続く揺れを感じたら、すぐに高い場所に避難すること。

Tsunami (or seismic sea waves):

Tsunami can be extremely destructive hazard in coastal areas. It originates when ocean water is displaced vertically during a large earthquake. If you live near or visit a beach, you must evacuate to higher ground quickly when you feel either a strong earthquake or a weak but lasting tremor.

4. 大地震が発生したときの行動

4. Actions when a big earthquake occurs

室内の場合

Indoors

- ・ 最初の3秒：落ち着け、身を守れ、できれば火を消せ、ドアを開ける。あわてて飛び出すのはけがのもと（ただし倒壊の恐れがある建物ならすばやく逃げることも必要）
The first 3 seconds: Stay calm, protect yourself, extinguish any flames (if possible) and open a door to secure an exit. Rushing outside will result in unnecessary injuries. (If there is a danger of building collapsing, you should evacuate to a safe place immediately.)
- ・ 2～3分：地震がおさまったら危険な場所から避難する。火を消し、実験などは中止して、家族や周囲の人の安全を確認。避難は落ち着いて周辺を確認し、エレベーターは使わない。講義中などは教員の指示に従う。
2-3 minutes: After the shaking subsides, evacuate from dangerous place. Turn off any heaters and stoves, stop any experiments in your laboratory, check the safety of family members and others around you. When evacuating, be calm, watch out for dangerous objects, and do not use elevators. During class, follow the instruction of the teacher.
- ・ 5～10分：安全なところに避難できたら情報収集、危険防止。
5-10 minutes: Once evacuated to a safe place, obtain information and prevent any dangers.
- ・ 1時間：火事や救助の必要があれば、自分の安全に気をつけて手伝う。余震に注意。
1 hour: Assist to put out fires and rescue people if necessary, but make sure of your own safety. Be prepared for aftershocks.
- ・ 1日以内：自分の状態を大学や所属部局に伝える。連絡の方法を確認しておきましょう。
Within a day: Report your situation to your School. Know how to contact in emergency.
- ・ 3日：避難所で生活することもあります。食料や水を準備しておきましょう。
3rd day: You may live in the Emergency Shelter. Secure food and water.

屋外の場合

Outdoors

- ・ 壊れそうな建物やブロック塀などから離れ、公園などの広いところへまず避難
Stay away from buildings in danger of collapse and brick walls. Move into an open area such as a park.
- ・ 乗り物に乗っていたときは、係の人の指示をよく聞いて行動する。指示がわからないときは周囲の人にも教えてもらう。
While in a bus or train, follow instructions of the staff. If you cannot understand instructions, ask someone around you.

5. 大地震のための準備

5. Preparation for Big Earthquake Disaster

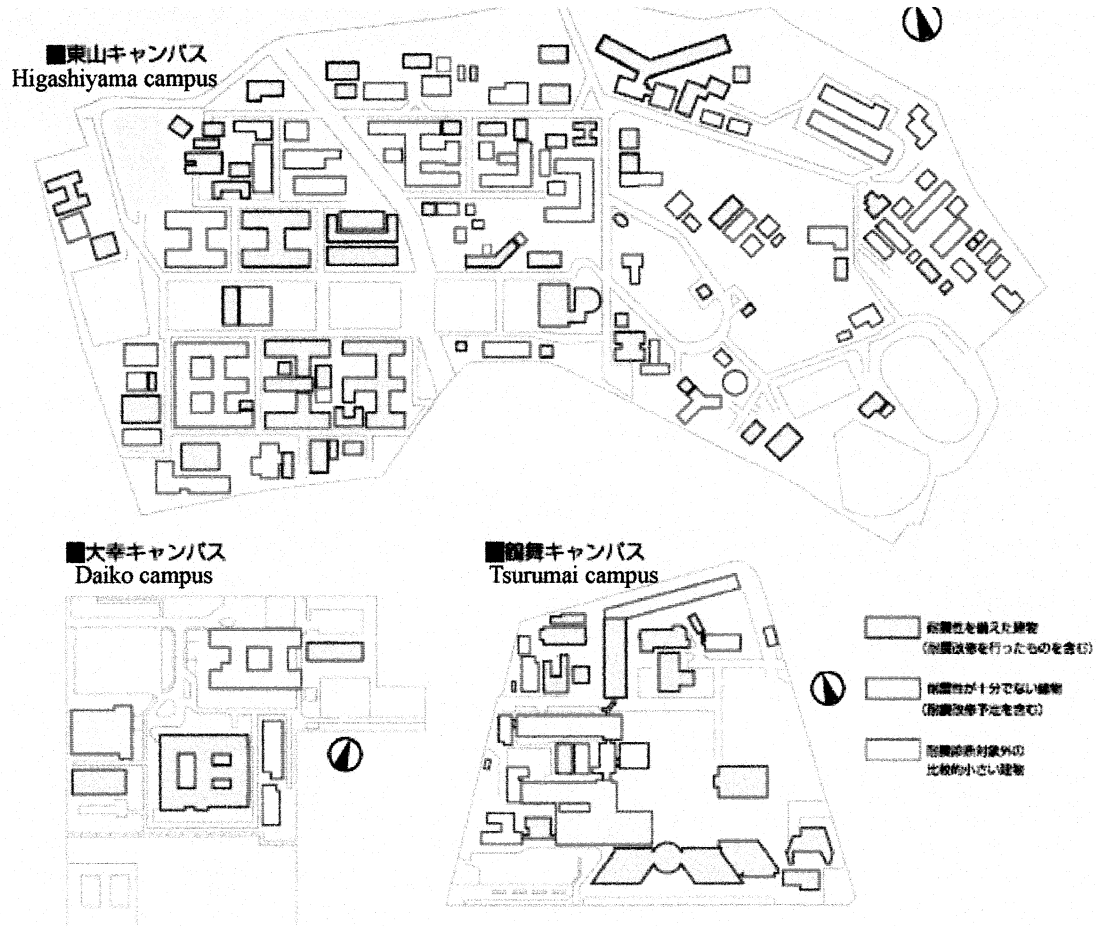
- ・ 連絡先を確認しておく。無事であることを大学や所属部局に伝える方法を確認しておく。
(ただし、大地震の直後は電話や携帯電話は使用するべきではない)。
Contact numbers. Know how to report your safety to your School. (Try to avoid using telephones immediately after a big earthquake.)
- ・ 地震では、家の倒壊や家具の転倒で死亡する例が多い。家を安全にすることが大切。
部屋の中で、重い家具などが倒れたり落ちたりしたときに危なくないようにしておく。
家具は固定しておく。
Collapsing buildings and falling furniture cause many of fatalities in a big earthquake. Hazard hunt in and around your house is important. Prevent heavy furniture from tipping over or falling down. Furniture should be secured.
- ・ 避難場所とそこまでの行き方を確認しておく。大学、国際嚶鳴館、レジデンス、留学生会館なら、それぞれどこかを調べておく。一般の避難所に行くならば、言葉が通じるかも大切。
Know your evacuation site and the escape route from your place. Make a list and map of the evacuation sites on Campus, in International Ohmeikan, International Residence or Foreign Student House. In case that you go to the Emergency Shelter in your community, it is important to know if the language support is available or not.
- ・ 非常用品を準備しておく。貴重品 (パスポート、現金)、食料と水、救急、ラジオ、衣類など。まとめて持ち運べるように。
Prepare Emergency supplies. Valuables (passport, cash), Food & Water, First-aid kit, Radio, Clothing, etc.. Pack them together to take out with you.

6. 学内での地震対策

6. Prevent Earthquake Damage on Campus

- 名古屋大学の建物の耐震性（地図）

Earthquake resistant buildings in Nagoya University Campus



- 緑色：耐震性を備えた建物。国際喫鳴館も含まれる。
Green: Earthquake resistant buildings. International Ohmeikan is also earthquake resistant.
- 赤色：耐震性が十分でない建物。留学生会館も含まれる。これらの多くは耐震改修が予定されている。
Red: Buildings without enough quake resistant performance. Foreign Student House is also included. Most of these have plans to make reinforcement.
- 白色：低い建物でチェック対象外。
White: Low rise buildings without performance check.
- 強い地震を感じた場合、または警戒宣言が発令された場合は、屋外あるいは耐震性を備えた建物に避難する。
When a strong earthquake occurs or the “Earthquake Warning” is issued, evacuate outside in a safe place, or into the earthquake resistant buildings

- ・ 室内(研究室、実験室)の安全

Safety in Labs

- 重いものや危険なものは固定する。ロッカー、書架、テレビ、パソコン、実験器具、キャスター付の家具、ガラス製品など。

Tall, heavy or dangerous furniture and equipments (locker, book shelf, TV, PC, experimental facilities, facilities with casters, glass objects etc.) should be fixed.

- 実験器具や薬品、ガスボンベなどは安全対策をする。火災や爆発を起こさないようにすることが大切。地震時には、直ちに実験を中止し、初期消火や危険防止を行って避難する。

Safety measure should be applied for experiment tools, chemical and gas. It is important to prevent fires and explosions. Stop any experiments in the case of earthquake, do initial extinction and accident prevention, then evacuate quickly and safely.

- 指導教員や同室のメンバーと安全対策を相談しておく。

Please discuss with your supervising professors and laboratory members about earthquake safety.

- ・ 避難・屋外の安全

Safety for evacuation

- 出入り口や廊下に、避難の障害になる危険物を置かない。

Do not put articles at exits of rooms and passages.

- 避難場所まで、危険な建物や危険な場所を確認しておく。建物の近くは、転倒物やガラスなど落下物の危険性がある。

Check the dangerous points (buildings and falling objects, etc.) on the way from your room to evacuation sites.

緊急時の連絡先

Emergency Contact

- ・ 留学生センターの学生

伝言ダイヤル171を利用する

学生がセンターからの伝言を聞く場合のプッシュ番号：052-789-5951

スタッフがセンターに伝言を残す場合のプッシュ番号：052-789-2198

学生がセンターに伝言を残す場合：所属コースによって割り当てる(予定)

For student of Education Center for International Students

Use the Message Dial 171 for Emergency.

To listen to messages from ECIS: Push the designated number (052-789-5951)

To leave messages from staff to ECIS: Push the designated (052-789-2198)

To leave messages from students to ECIS: Number will be assigned to each course.

- ・ 所属の部局、研究室等（自分の研究室がある人は研究室または指導教員の連絡先を確認しておく）
Your School, Laboratory (Know the contact number of your laboratory or your supervisor)
- ・ 災害時は、電話回線は非常連絡を優先するので、この場合には使用するべきではない。
During and immediately after a disaster, phone lines should be used for emergency calls, do not use your telephone in this case.

そのほかの情報

Further Information

名古屋市ホームページ・自然災害 Nagoya City webpage, Natural Disasters

日本語 Japanese <http://www.city.nagoya.jp/kurashi/shoubou/bousai/>

英語 English <http://www.city.nagoya.jp/global/en/living/kinkyu/shizen/>

中文 Chinese <http://www.city.nagoya.jp/global/zh/living/kinkyu/shizen/>

愛知県ホームページ Aichi Prefecture webpage

日本語 Japanese http://www.pref.aichi.jp/bousai/zisin_saigai/index.html

平成 17 年 9 月 20 日
環境安全防災委員会・資料

平成 17 年 7 月時点での「部局版・地震防災計画」の状況について
～「部局版・地震防災計画」アンケート集計結果より

災害対策室

1. 調査目的

昨年度(平成 16 年度)、本部と部局はそれぞれの責任において、地震防災計画やマニュアル、規定等を整備してきた。今年度(平成 17 年度)はこれをさらに実効性のあるものに改良していく必要がある。これを具体的に進めるため、自然災害対策等専門委員会および災害対策室では、現状の地震防災計画(地震防災マニュアルなど類似のものを含む)の整備状況を自己点検できるようにアンケートを行った。

2. アンケート回収期間、回収部局

平成 17 年 7 月 1 日付けで、環境安全防災委員会委員長より各部局にアンケートを発送し、7 月 13 日までに計 22 部局からアンケートを回収した。回収した部局は以下の通りである。

1. 教養教育院, 2. 文学部・文学研究科, 3. 教育学部・教育発達科学研究科, 4. 教育学部附属学校, 5. 法学部・法学研究科, 6. 経済学部・経済学研究科, 7. 情報文化学部・情報科学研究科, 8. 理学部・理学研究科, 9. 医学部・医学系研究科, 10. 医学部保健学科(大幸地区), 11. 工学部・工学研究科, 12. 農学部・生命農学研究科, 13. 総合保健体育科学センター, 14. 国際開発研究科, 15. 国際言語文化研究科, 16. 環境学研究科, 17. 環境医学研究所, 18. 太陽地球環境研究所, 19. エコトピア科学研究所, 20. 附属図書館, 21. 情報基盤連携センター, 22. アイソトープ総合センター(以上 22 部局、順不同)。

3. 部局計画の作成状況

「貴部局では、地震防災計画、地震防災マニュアル、地震防災ガイドといった『地震防災に関する貴部局の指針や啓発などを紙面等でまとめたもの』を作成していますか。」という質問を行ったところ、91%にあたる 20 部局が「作成している」と回答した(図 1)。

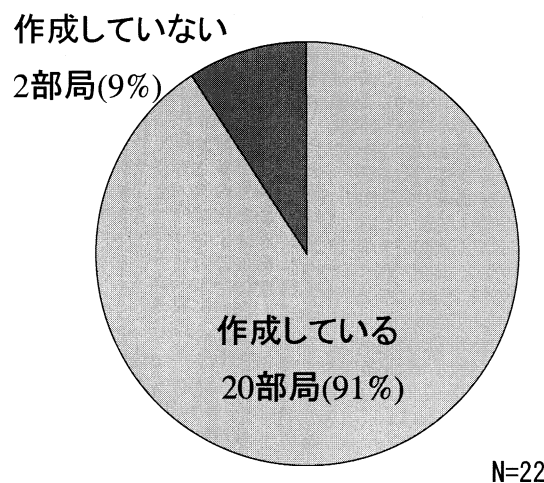


図 1 「地震防災に関する貴部局の指針や啓発などを紙面等でまとめたもの」の作成状況

4. 作成数と内容

次に、「各部局において、どのようなものを何種類くらい作成しているのか」について尋ねた。作成している種類については(図 2)、1 種類と回答した部局が 11 部局で全体の半数にあたり、以下、2 種類(23%)、3 種類(14%)、作成せず(9%)、4 種類(5%)の順であった。

また、作成物の内容をみていくと(表 1)、「地震防災マニュアル・計画等」が最も多く、ほとんどの部局で作成されていた。以下、地震時・警戒宣言発令後の対応、消防マニュアル・計画等、啓発用ビラ、警報情報等の連絡網、ハザードマップ、防火管理要項などがあつた。ただし「地震防災マニュアル・計画等」のうち 5 つはその形状が「ビラ」とであると回答しており、とりあえず各部局とも「地震防災マニュアルを作成した」という責務は果たしたものの、その内容には部局によって質量ともに大きな違いがあることが考えられる。具体的な内容については後述する。

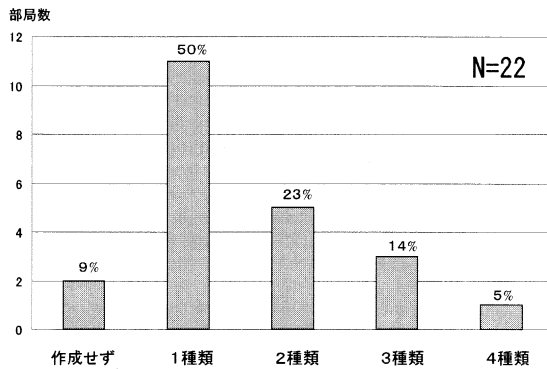


図2 各部局における作成物

表1 各部局における作成物の内容

| マニュアルの種類 | 数 |
|-------------------|----|
| 地震防災マニュアル・計画等 | 20 |
| 地震時・警戒宣言発令後における対応 | 6 |
| 消防マニュアル・計画等 | 3 |
| 啓発用のビラ | 2 |
| 警報情報等の連絡網(単独) | 1 |
| ハザードマップ | 1 |
| 防火管理要項 | 1 |
| 計 | 34 |

5. 作成時期

「その作成物をいつ作ったか、改訂を行っているものはいつ最終改訂を行ったか」についてたずねた。その結果(図 3)、平成 15 年および平成 16 年の 2 か年度で、全体の 7 割が作成または最終改訂されていた。これは地震防災訓練の初年度および次年度にあたり、訓練がきっかけとなって地震防災マニュアル等の作成が促進されたことが考えられる。

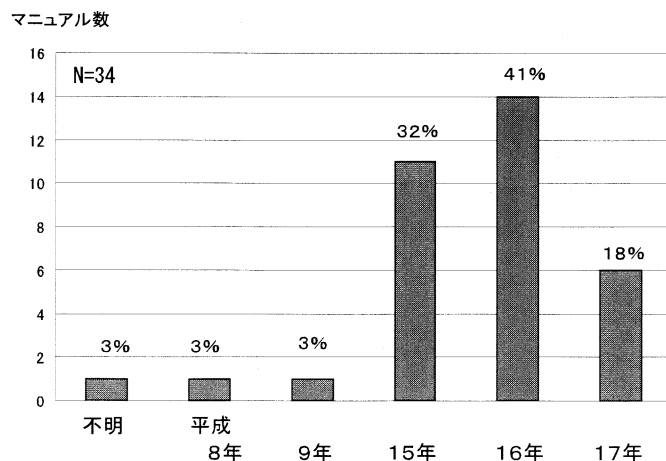


図3 作成物の作成時期

6. 対象者および公開媒体

「作成物が誰を対象としているか」そして「対象者に対してどのような媒体で公開しているか」についてたずねた。作成物の対象者をみると(図 4)、作成物の多くは教職員を対象としていた。また学生についても、半数程度の地震防災マニュアルは学生を対象としていた。ただし内容をみると「教職員のみを対象」と回答したマニュアルと内容的な違いはほとんどなく、啓発用ビラを除くと、学生のみを対象とした学生用の地震防災マニュアルを作成している部局はみられなかった。

作成物の公開媒体については(図 5)、冊子もしくはビラで公開しているところが多かった。また Web で公開しているものも 5 つほどあった。

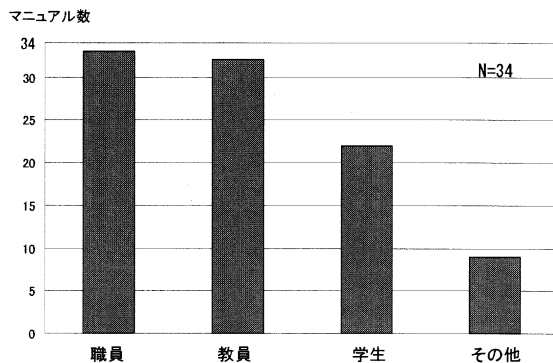


図4 作成物の対象者

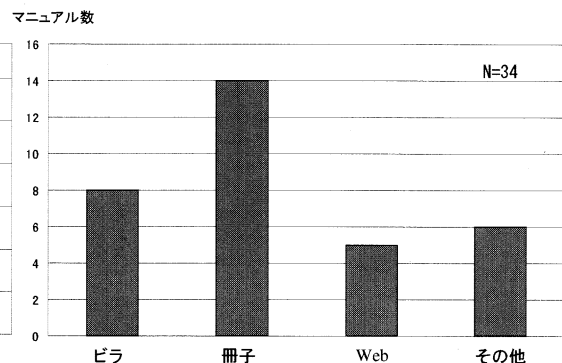


図5 作成物の公開媒体

7. 地震防災計画・マニュアル等に記載されている項目数

次に「貴部局の地震防災計画・マニュアル等に記載されている項目すべてについて、あてはまるものに○をつけてください。項目の分量や内容は問いません。」とたずね、部局の地震防災計画・マニュアルに記載することが望ましい 12 分野 30 項目(その他除く)を示して回答してもらった。

部局ごとの地震防災計画・マニュアルに記載されている項目数(その他を入れて最高が 36 項目)をみると(図 6)、22 部局は、0 項目(計画・マニュアルなし)~25 項目までに分布し、平均は 13.9 項目であった。また 9 項目~13 項目が 12 部局で全体の半数を占めていた。

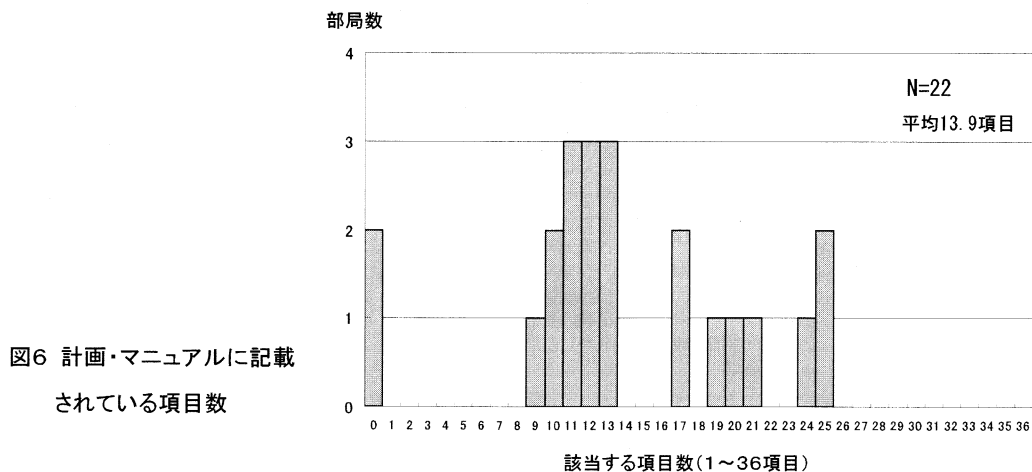


図6 計画・マニュアルに記載されている項目数

8. 地震防災計画・マニュアル等に記載されている項目

部局の地震防災計画・マニュアルに記載することが望ましい 12 分野 36 項目について、各部局の計画・マニュアルにどの程度記載されているかをあらわしたものが図 7 である。これをみると、分野や同じ分野内でも項目によって、多くの部局に記載されているものとそうでないものがあるのがわかる。

まず記述が多かったものとして 16 部局(計画・マニュアルを作成している 20 部局の 8 割)以上が「記載されている」と回答した項目をみていくと、「組織体制(災害時組織体制 2・連絡手段 3)」および、事後対応における「活動体制確立(活動体制の確立 18)」「情報収集・連絡(地震情報の受信・連絡 19)」「安否確認活動(安否確認体制の確立 22、安否確認把握活動 23)」「救助・救急、消火活動(救助・救急活動 24、消火活動 25)」「避難・避難者収容活動(建物避難・早期帰宅 28)」の 6 分野における計 9 項目であった。

これらのうち、活動体制確立、情報収集・連絡、安否確認などは一昨年度(第 1 回)および昨年度(第 2 回)の名古屋大学全学防災訓練において行われた訓練内容とほぼ一致している。また前項において「計画・マニュアルへの記載項目が 9 項目～13 項目」と回答した 12 部局のほとんどがこれらの項目のみを記載していた。つまり「全学の地震防災訓練がきっかけとなって、これらの項目を計画・マニュアルに盛り込んだ」部局が多いものと思われる、全学地震防災訓練は地震防災計画やマニュアルの策定・改良のきっかけとして有効であることがわかった。

また「活動体制の確立」「情報収集・連絡」の分野を詳しくみると、活動体制の確立 18 と対策拠点の開設 17 や、地震情報の受信・連絡 19 と被害状況の収集・連絡 20 には記載部局数に差があることがわかった。活動体制の確立のためには対策拠点の開設が必要条件である。また情報収集・連絡には、地震情報の受信・連絡だけではなく、被害状況の収集・連絡がなければ対策拠点の意思決定に支障をきたす。これらの「現時点ではあまり記載されていない項目」についても、今後、地震防災訓練などをおして各部局で取り決めていく必要がある。

「救助・救急、消火活動」「避難・避難者収容活動」の分野について、実際にいくつかのマニュアルをみると、項目として「救助活動を行う」「建物から避難して早期に帰宅する」とだけ記載されていて、その部局における具体的な手順については触れられていないものが多かった。特にこれらの項目は内容の充実がなされても、実際に部局の構成員が活動しなければまったく意味をなさない。これらの分野・項目に関しても地震防災訓練や平時における救命講習・消火訓練などをおして対応能力を高めていく努力が求められる。

「耐震化と什器固定」「備蓄計画と備蓄体制」「食料・飲料水等の調達・供給」「構成員への情報伝達」の分野については、大学本部における全学的な地震防災対策などと連動しながら中長期的に達成していくべき分野である。また今年度で 3 回目となる「防災訓練」や「防災啓発活動」は、来るべき東海・東南海地震に備えて、各年度において手綱をゆるめずに活動を継続させていく必要がある。

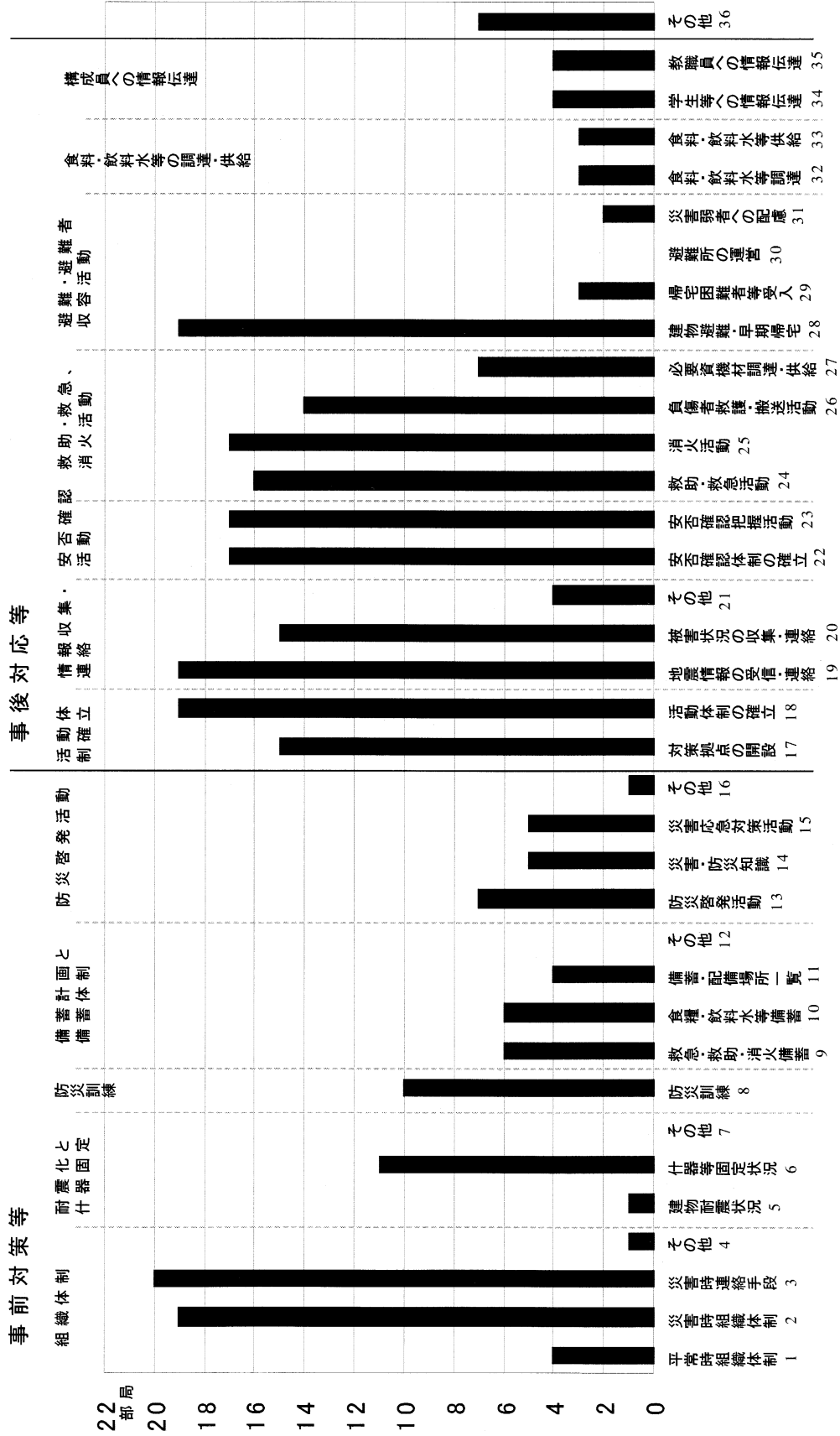


図7 各部署の項目ごとの記載状況

2005年9月20日
環境安全防災委員会・資料

名古屋大学・建物内地震対策の推進状況について ～「室内地震対策チェックリスト」アンケート集計結果より(その1)～

災害対策室

1. 調査目的

建物内の地震対策の推進は、建物そのものの耐震化と並び、名古屋大学の災害対策において現在の最重要課題である。研究室には、重く大きい本棚、危険な実験器具など、地震時には凶器となりうるものが多数あると考えられるが、その配置状況は部局ごと、あるいは部屋ごとによって大きく異なっている。また、転倒防止の対策の進捗状況も、部局による差が大きい。そこで現時点での室内にある危険物の数量と対策状況を把握するため、全学の全居室を対象にアンケートを行った。

2. アンケートの内容と回収状況

平成17年6月21日に開催された第13回環境安全防災委員会において室内地震の危険物とその対策状況について現状調査をすることが認められ、各部局を通じてアンケート用紙が配布された。アンケートは部屋単位で行い、室内の危険物を以下の4種類に分類して、部屋にあるものの数とその対策状況について数量調査を実施した。

- A 転倒すると危険なもの（キャビネット、書棚、実験装置、PCラック、机、パーティションなど）
- B 落下すると危険なもの（実験器具、PC、TV、高いところにおいてある重量物など）
- C 移動すると危険なもの（重量のある装置、キャスターつき装置、キャスターキャビネットなど）
- D 破損すると危険なもの（大きなガラス、薬品など）

アンケートの回収は7月末でほぼ終了し、その後、災害対策室が集計を行った。8月31日現在で4753部屋から回答が得られている。最も回答数が多かったのは医学系研究科（附属病院含む）の1195部屋、次いで工学研究科の1119部屋であった。部局毎の回答部屋数を図1に示す。回答率については災害対策室では各部局の部屋数を把握していないため見積もることができないが、部局によって相当の差があると思われる。

3. 部屋にある危険物の総数

全学でリストアップされた数量は、「A 転倒すると危険なもの」：27,824、「B 落下すると危険なもの」：14,188、「C 移動すると危険なもの」：9,820、「D 破損すると危険なもの」：6,831で、合計58,663となった。危険物全体のほぼ半分を「転倒すると危険なもの」が占めているのが特徴である。なお、アンケートの回収率が100%ではないため、実際の数量はこれよりもかなり多いと考えられるが、種類別の数量の動向は今回のアンケートで把握できたものと考えられる。

4. 部屋ごとの危険物の数

「転倒すると危険なもの」がない部屋は18%にすぎず、およそ半数の部屋に1から6個の転倒危険性のある物が存在していた。また、15%の部屋には、転倒危険性のあるものが10個以上あることがわかった（図2）。

一方、その他の危険物は、大半の部屋には存在していない。「落下すると危険なもの」は48%、「移動すると危険なもの」は56%、「破損すると危険なもの」は79%の部屋に1つもないことが明らかになった（図3、図4、図5）。

5. 部屋毎の対策進捗状況

最も数量が多い「転倒すると危険なもの」については、27%の部屋から全て対策済みという回答が得られた。また、半数以上の部屋からは何がしかの対策がなされているという回答が得られており、室内地震対策への強い関心がうかがえる。しかしながら43%の部屋では一つも対策がなされていなかった。調査結果からは、完全に対策する部屋が多数ある一方で、全く対策を進めていない部屋も多いという二極化の様子がうかがえる（図6）。

また、数があまり多くない「落下すると危険なもの」「移動すると危険なもの」「破裂すると危険なもの」については対策が遅れており、これらの危険物がある部屋では70%以上の部屋で全く対策が取られていなかった。しかし、いずれの場合も20%前後の部屋では、完全に対策が完了しているという報告があり、これらについても対策状況の二極化が見られる。（図7、図8、図9）。

6. 部局毎の対策進捗状況

図10は「転倒すると危険なもの」について、今回のアンケートでピックアップされた数量を部局単位で集計し、その対策進捗状況を示したものである。全学で見ると46%のものについて既に対策が施されている。特に、図書館と教育学部附属学校では90%以上のものについて対策が完了している。また工学研究科とエコトピア科学研究機構は構成員も多くピックアップされた危険物が非常に多いにもかかわらず、それぞれ70%、69%という高率で対策が進んでいる。そのほかでは教育発達科学研究科、法学研究科、情報連携基盤センターも高い対策実施率になっている。

一方、ほとんど対策が行われていない部局も存在する。たとえばアイソトープ総合センターでは対策実施率は8%にとどまっている。また、ピックアップされたものの数が最も多い（6753個）医学系研究科も対策実施率は18%と低い。これらの部局では様々な危険物を研究室内で扱っていると思われることもあり、今後、一段と対策を急ぐ必要がある。そのほかでは本部事務局、経済学研究科、太陽地球環境研究所も対策実施率が低かった。

図 11 は、部屋単位での対策進捗率を部局単位で集計したものである。このグラフでは、棚などの危険物が多数ある部屋も、ほとんど物品がない部屋も同じ 1 部屋と扱われるため、部屋に危険なものが少ない部局に有利になっていることに注意を要するが、室内地震対策の進捗状況を部屋単位で見ることができる。

附属学校では、一つの部屋にある危険物が少ないことから、ほとんどの部屋で対策が完了している。工学研究科およびエコトピア科学研究機構は、一室あたりの物品が多いため、部屋単位で見ると対策が残っているものがあり、100%の達成率となっている部屋は全体の半分弱にとどまっている。図書館と情報連携基盤センターは全体数量で見ると対策実施率は高いが、部屋単位で見ると 100%の部屋と未対策の部屋の二極化が見られる。これは重要機器がある部屋あるいは書庫などの重要な部屋から重点的に対策を始めたためであろう。今後、他の部屋の対策が進んでいくものと期待される。文系では法学研究科の対策が進んでいることが注目される。これは建物の耐震改修工事にあわせて室内の地震対策も進めたものと思われる。

7. 今後に向けて

今回のアンケートにより、それぞれの部屋の危険物の数量と、その対策の進捗状況が概ねあきらかになった。今後、室内地震対策の全学的な推進を目指して、文系・理系、いくつかの部局で、モデルとなる部屋を対象にして対策工事を実施し、どのような対策工法が有効か、対策の基準はどのように決定するかを検討する必要がある。また、あわせて、1 部屋あたりの対策に実際にかかる経費も調査して、全学的な室内地震対策推進方法の参考資料（ガイドライン）を、今年度末までに提示する予定である。

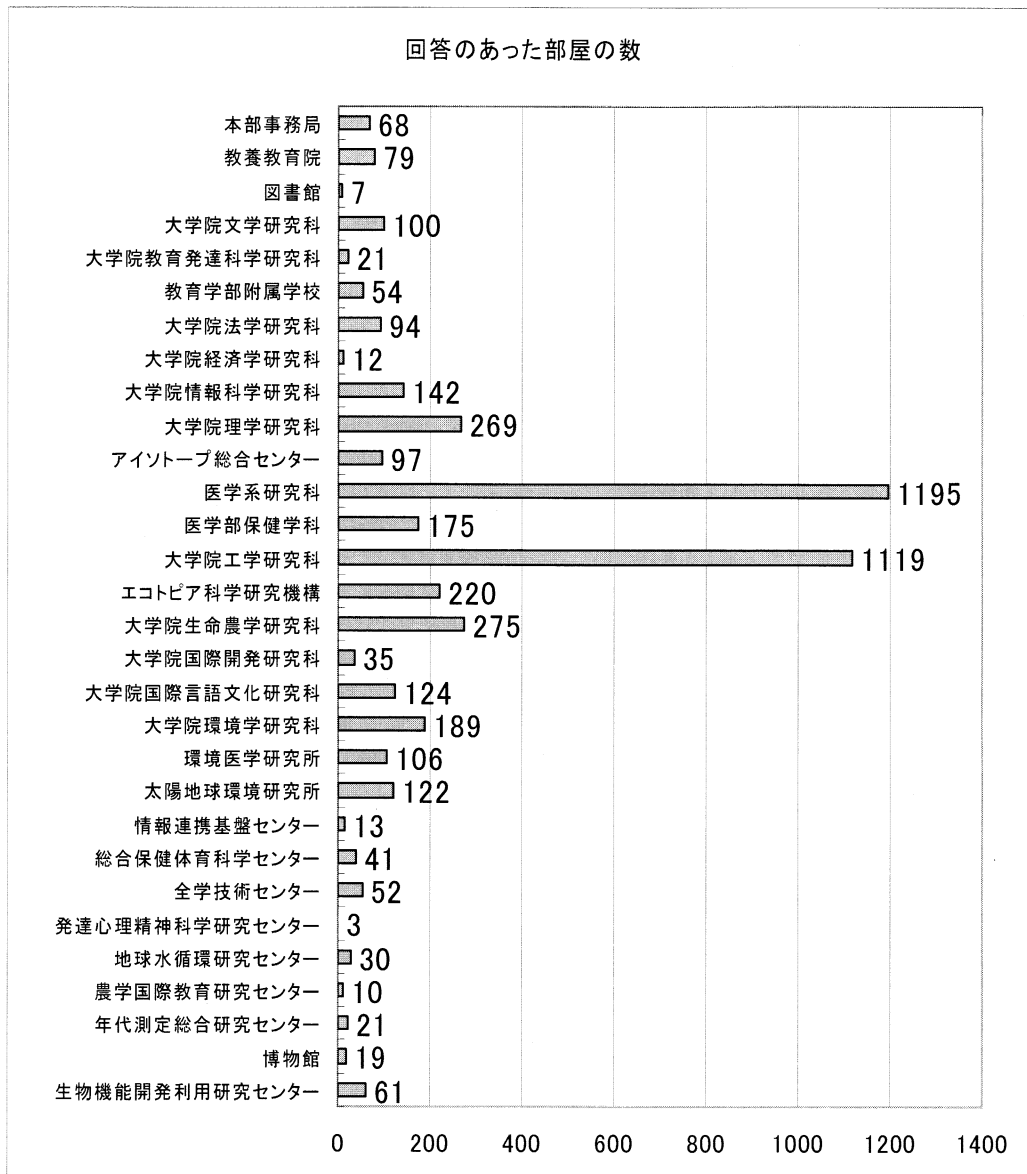


図1: 「室内地震対策チェックリスト」の部局毎回答数

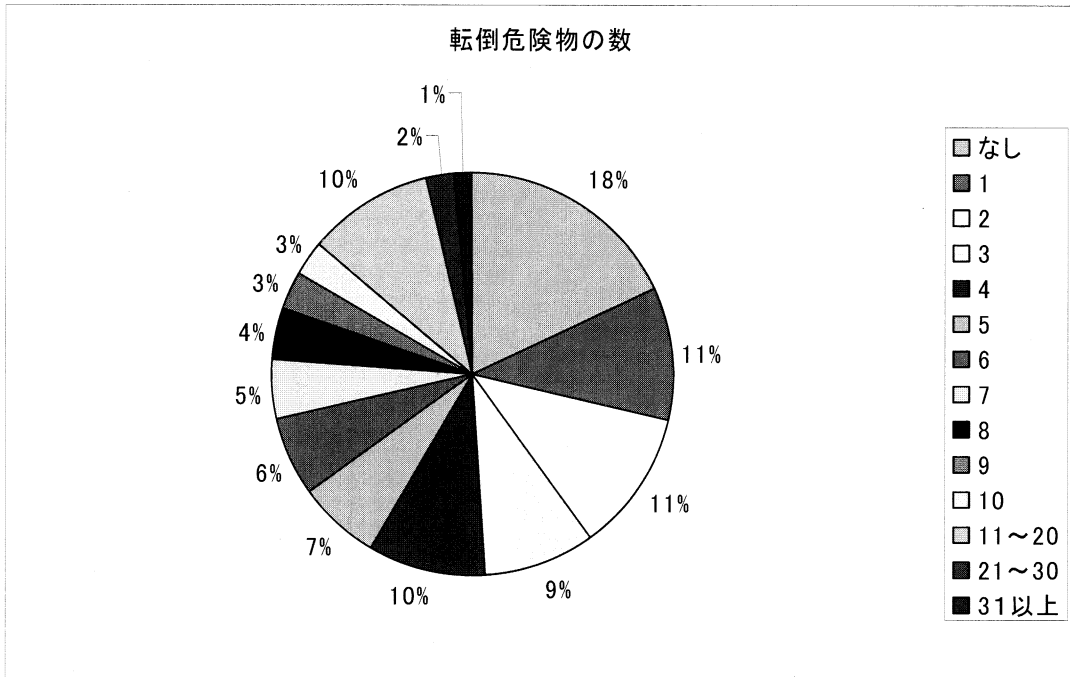


図 2: 各部屋にある転倒危険物の数(大学全体で集計)

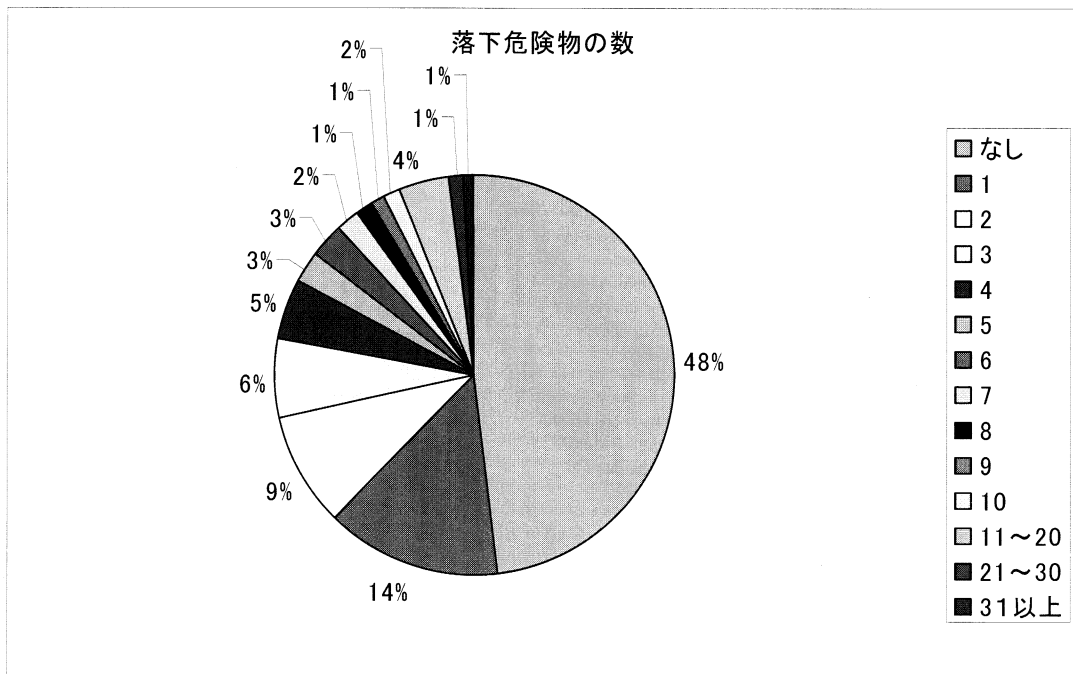


図 3: 各部屋にある落下危険物の数(大学全体で集計)

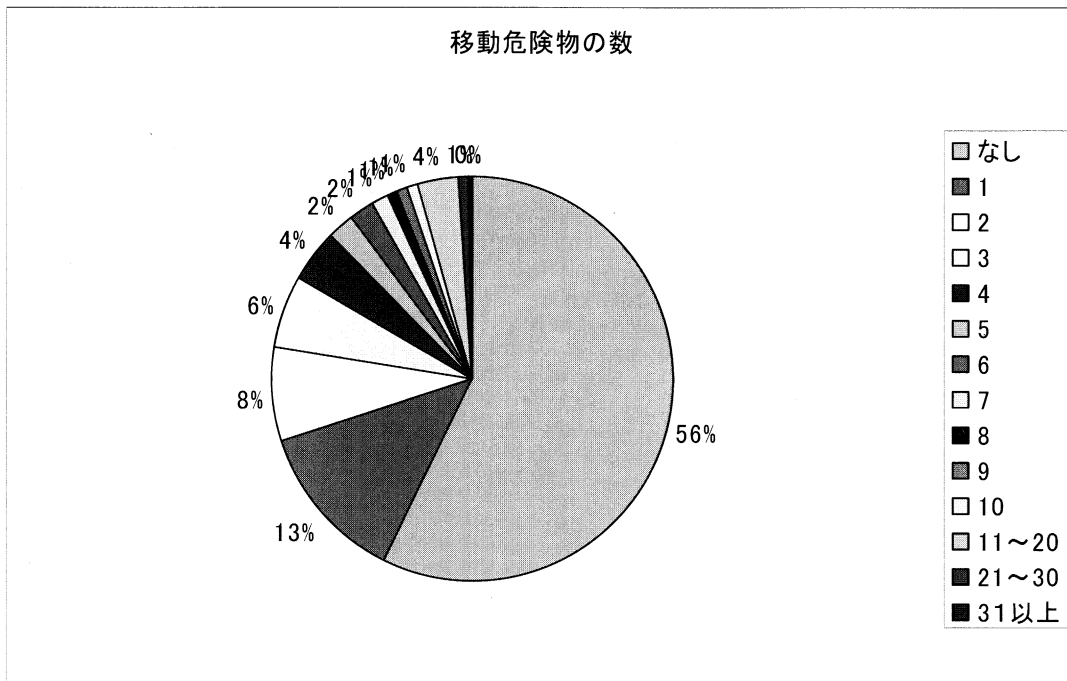


図4: 各部屋にある移動危険物の数(大学全体で集計)

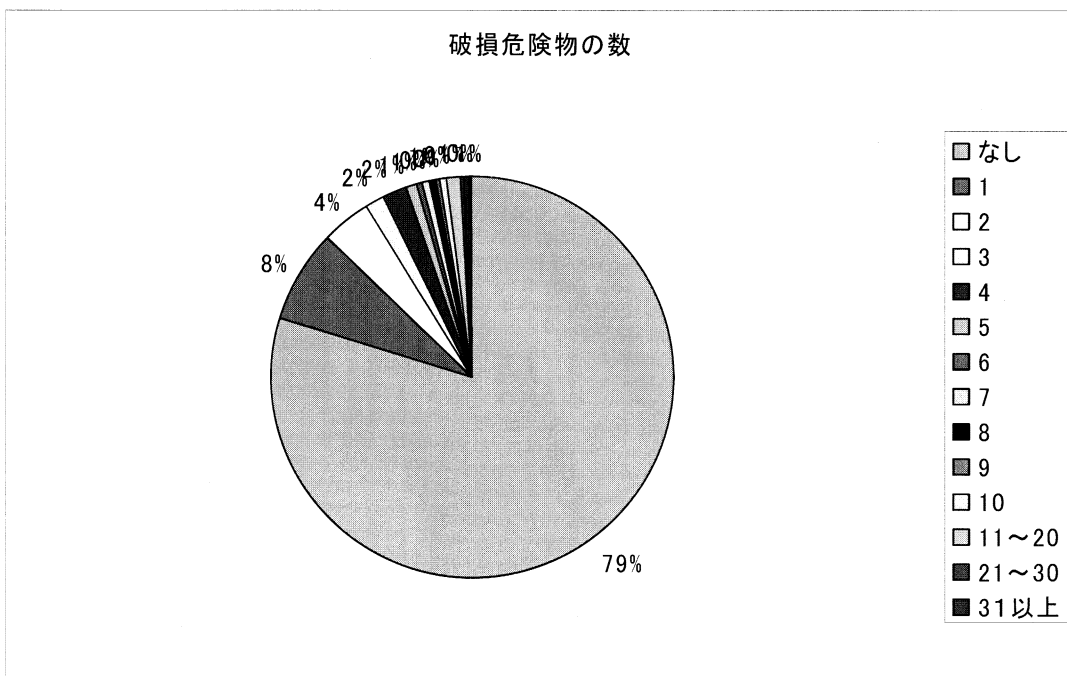


図5: 各部屋にある破損危険物の数(大学全体で集計)

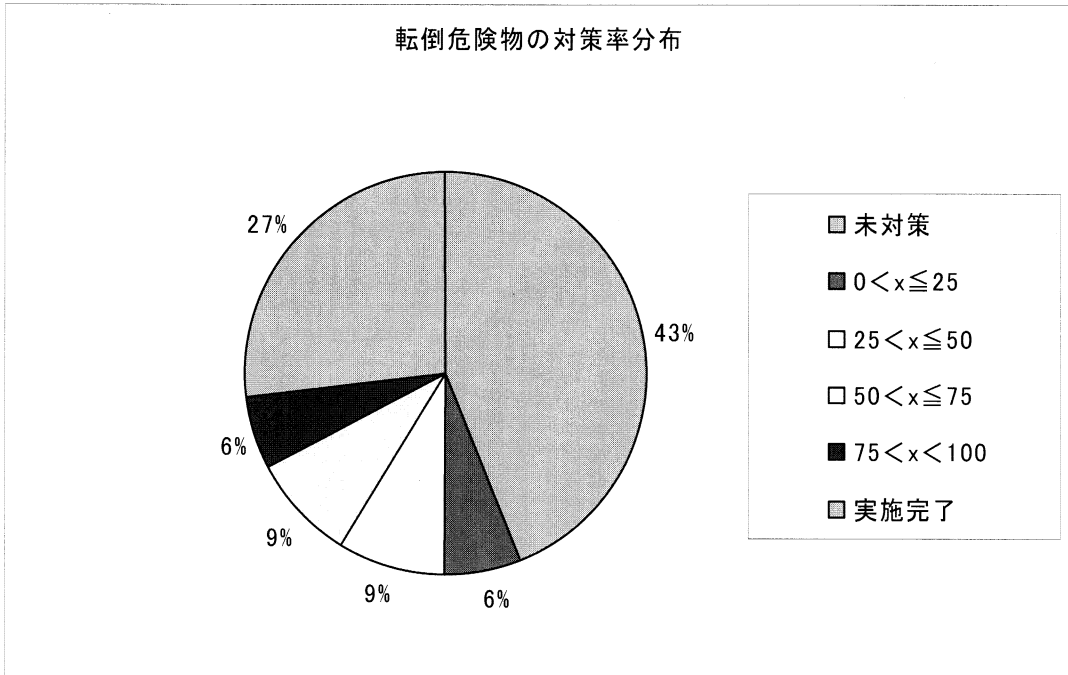


図 6: 各部屋の転倒危険物対策の実施率状況(大学全体で集計)

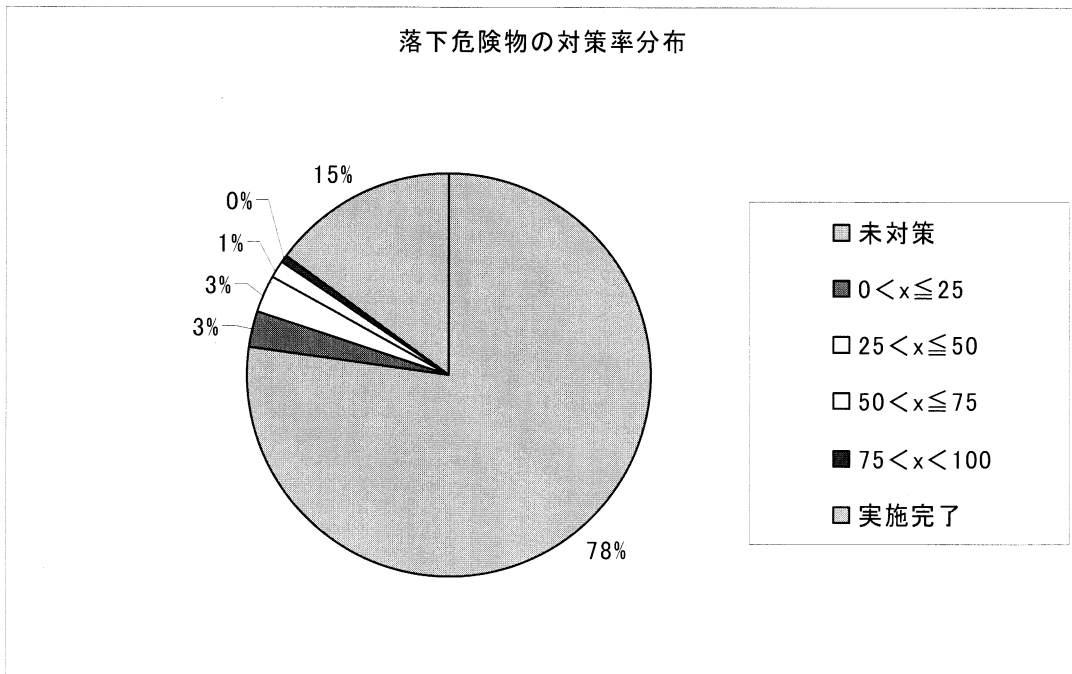


図 7: 各部屋の落下危険物対策の実施率状況(大学全体で集計)

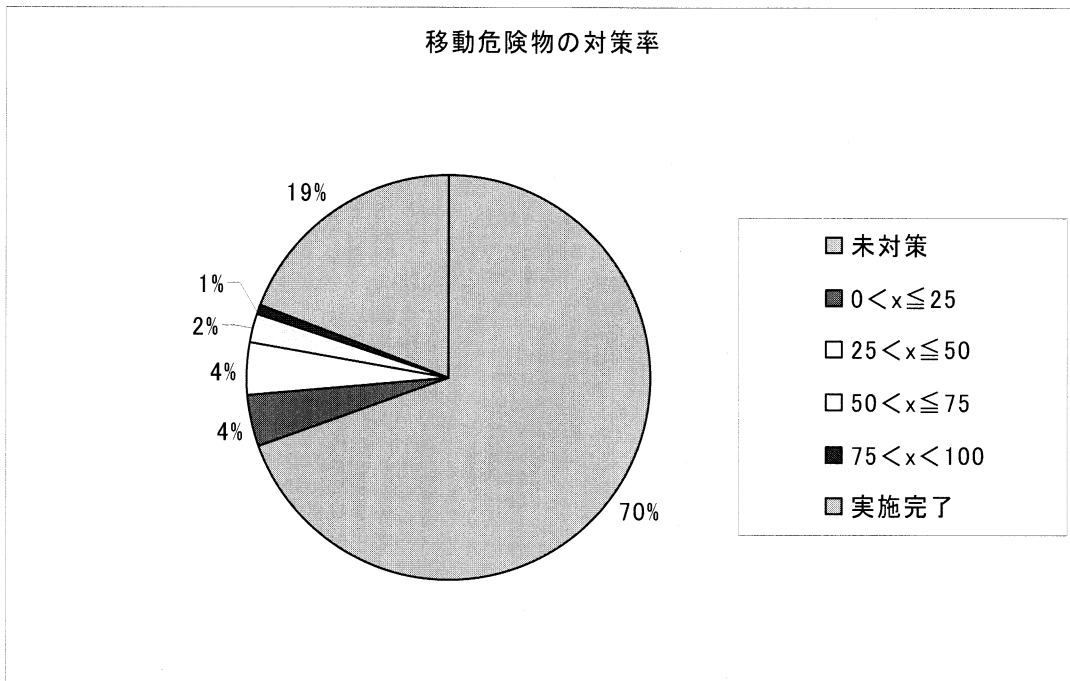


図 8: 各部屋の移動危険物対策の実施率状況(大学全体で集計)

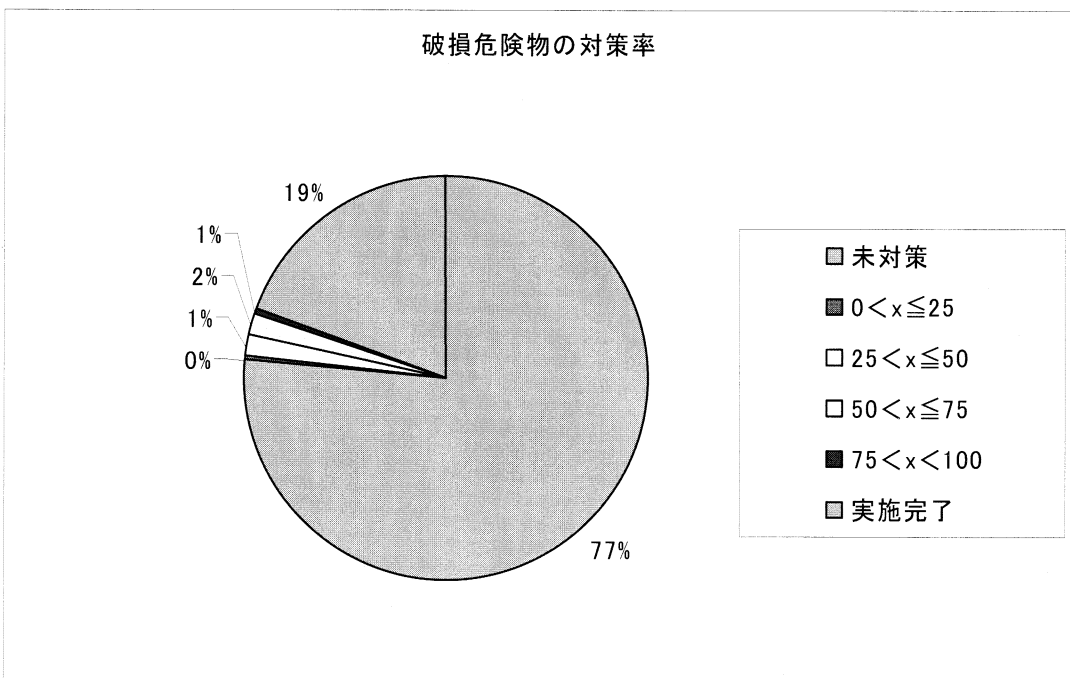


図 9: 各部屋の破損危険物対策の実施率状況(大学全体で集計)

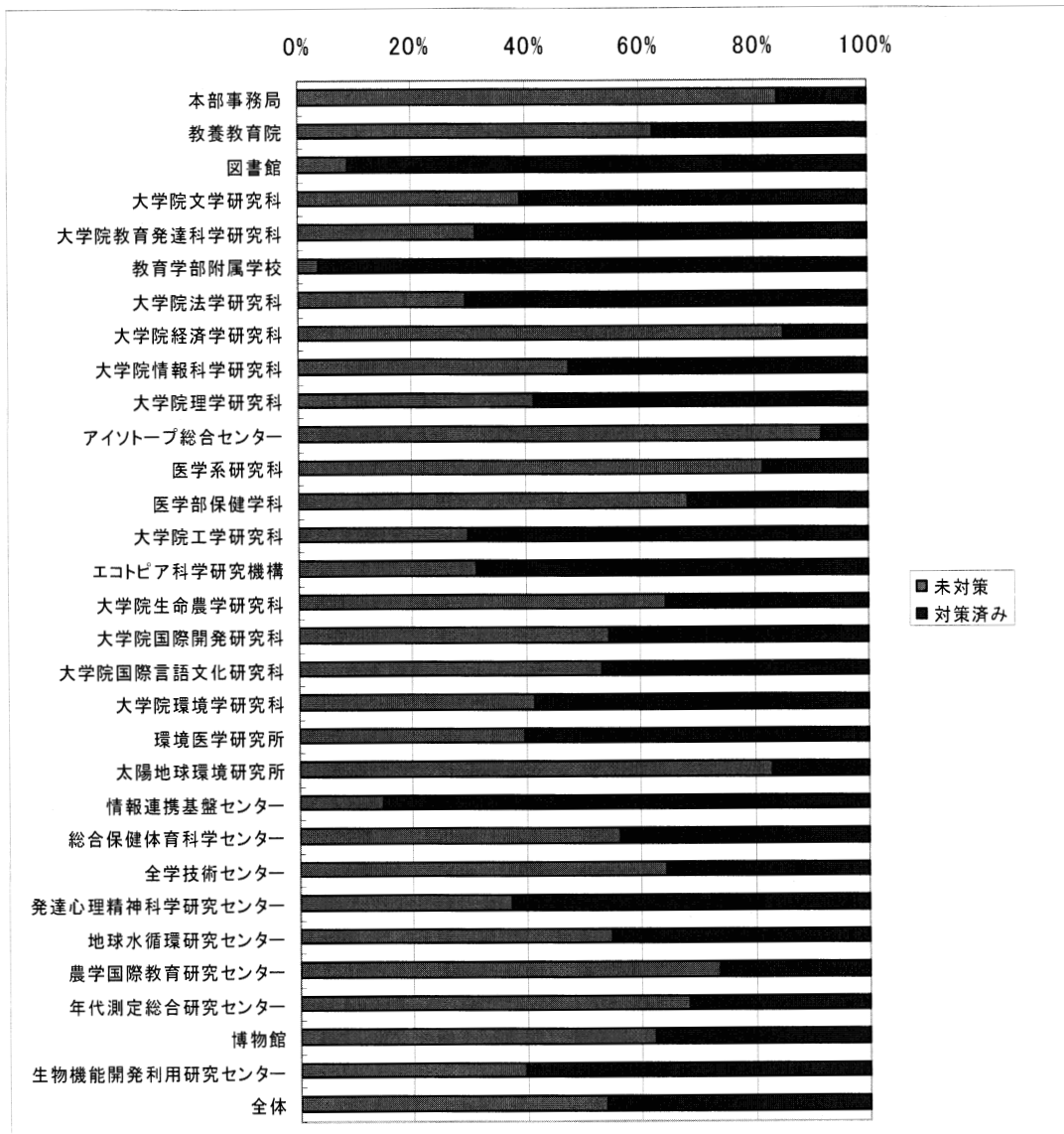


図 10: 部局単位でみた転倒危険物総数にしめる対策率



図 11: 部屋ごとの転倒危険物対策状況の部局間比較

防災備蓄品の購入の指針

地震災害対策用備蓄経費における防災備蓄品は、1)資機材、2)医薬品類、3)水・食料の3つに分類される。このうち1)資機材については、当面の3か年計画のもとで戦略的に購入する必要がある（平たくいえば、思いつきのまま道具を購入しない）。

■平成17年(初年度)：災害対策要員が活動をするために最低限必要な装備を購入する。

- 例)
- ・手回し発電式の懐中電灯・携帯ラジオ・サイレン・携帯電話充電機
 - ・ヘルメット
 - ・軍手（指・手のひらにゴムがついているもの）
 - ・水作業用のゴム手袋（厚手のもの）
 - ・防塵マスク（複数個あることが望ましい）
 - ・タオル（あまり薄いのは不可）
 - ・雨具（レインコートなど）
 - ・腕章？
 - ・ナップザック（上記のものを入れて背負える袋）

■平成18年度(次年度)：災害対策員が安否確認・救急・救助・避難誘導等の活動を行うために最低限必要な資機材を購入する。

- 例)
- ・拡声器
 - ・担架（折りたたみ式のもの）
 - ・救急用ベッド（折りたたみ式のもの）
 - ・松葉杖
 - ・小型発電機＋燃料
 - ・投光器
 - ・油圧式ジャッキ（必要に応じて）
 - ・平バール（扉をこじあけられる60cm程度のもの）
 - ・リヤカー（組みたて用）
 - ・土のう（必要に応じて）

■平成19年度(次々年度)：構内に留まる避難者等が、安全・安心な状態で過ごすことができるために最低限必要な資機材を購入する。

- 例)
- ・毛布
 - ・簡易マットレス
 - ・救急ベッド（体調の悪い人）
 - ・携帯用トイレ＋簡易テント
 - ・ポリタンク容器（水を入れる）
 - ・防水シート

自然災害等対策専門委員会（平成 17 年 10 月 21 日）

名古屋大学の災害時安否確認のあり方（案）

名古屋大学災害対策室

基本的考え方

- ① 適正な災害対応を行うため、構成員の安否を確認することは不可欠である。また、災害時の安否確認は、「教員と学生」、「雇用者と被雇用者」の関係において、相互の日常的な思いやりや信頼関係の延長上に位置づけられる。
- ② 大学本部は安否確認結果に基づいて、構成員の救援・支援活動に最大限、努める。
- ③ 構成員は名古屋大学としての救援・復旧活動を支え、授業等の継続・再開に支障をきたさないようにするため、自らの安否情報を自らの責任として積極的に発信する。
- ④ 災害時には様々な機関や個人による情報伝達や情報収集が集中的に起こり、電話回線の輻輳等、深刻な社会的な問題が発生する。こうした問題に配慮した、適正な安否確認方法を選択する。（発災直後に大学側から構成員への問い合わせは控える。また家族等からの問い合わせには、災害時伝言ダイヤル等により対応する）。

安否確認の目的

- ① 学内における負傷者等を把握し、救助・救援活動や救護要請が速やかに行えるようにする。
- ② 学内に留まっている構成員数および分布を把握し、2次災害を予防する。
- ③ 構成員の家族等の心情に配慮し、Web や各種報道等の適正な方法により、可能な限り安否情報提供が行えるようにする。
- ④ 講義等の再開時期を適正に判断する。

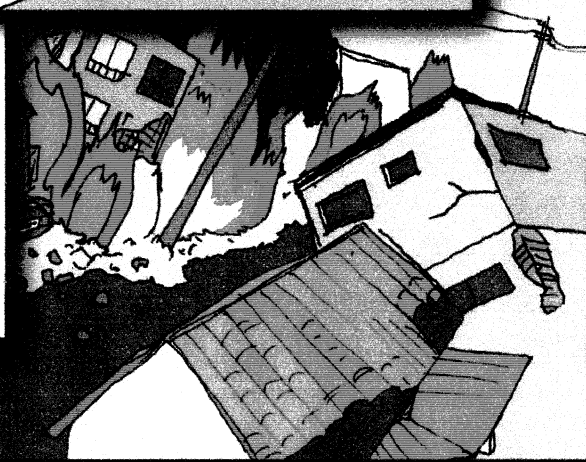
名古屋大学の安否確認方法の基本

安否確認方法は以下の2段階を基本とし、具体的方法は別途定める。

- ① 部局建物内での安否確認（発災直後1時間以内）
 - ・ 平常時から用意する名簿等により、安否情報を取り纏める。
 - ・ 各部局の事情にも配慮し、安否確認カード併用等の効率的な方法の採用も検討する。
 - ・ 学内の他の場所にいた場合は、可能な限り所属部局に戻り安否を伝え、これが不可能な場合は②の方法を用いる。
- ② 部局建物内で安否伝達ができなかった構成員からの情報収集（発災後、随時）
 - A. Web による安否確認
（名古屋大学ポータル等が整備される現状に鑑みて、情報システムの活用による適正な方法を構築する。）
 - B. はがきによる安否確認（予備的措置）
（IT利用が不可能な状況も想定し、一定のはがき書式による安否確認方法を用意する。）
- ③ いずれの方法でも確認できなかった構成員への問い合わせ（発災一週間後程度）
各部局において、管理する構成員の名簿に基づいて教員・職員が問い合わせを行う。

大地震

備えておきましょう



だから

名古屋大学

地震防災訓練

平成15年11月5日 (水) 午前

「東海地震判定会招集」情報を学内にいる全員に伝達します

災害対策本部・支部・消防隊を招集します。
講義・セミナー・実験を中断し、警戒宣言時および地震時の行動を再確認します。
#避難訓練は行いません。

東海地震や東南海地震で名古屋市もかなりの揺れが予想されています。名古屋大学も地震に備え、地震防災体制の確立を目的とした訓練を行います。

名古屋大学自然災害対策専門委員会



地震防災訓練が実施される

名古屋大学地震防災訓練が、11月5日(水)、全学の教職員及び学生、消費生活協同組合等が参加して実施されました。

この訓練は、名古屋市が地震防災対策強化地域に指定されていることに伴い、実施されたもので、東海地域に大規模災害が発生することを想定して、就業時間内における地震防災体制確立の一環として情報伝達訓練を実施し、教職員及び学生等の防災意識の高揚を図ることを目的としています。

当日は、午前9時25分に東海地震判定会議が招集されたとの想定で行われ、松尾総長を長とする災害対策統括本部及び災害対策支部の設置、同本部から事務局及び各部局への情報伝達訓練等が実施されました。また、講義中の先生が、講義を一時中断し、学生に対して、東海地震の警戒宣言発令時及び突発的に大地震が発生した場合の対応について説明しました。さらに、研究室では、研究室にいる学生に、これらの場合の対応とともに、研究室・実験室等における二次災害の防止措置等の説明がありました。

なお、同訓練後、全教職員に対して、伝達所要時間や問題点等についてのアンケートを実施し、自然災害対策室でこれらを整理の上、災害時に備えます。



▲災害対策統括本部

平成15年度名古屋大学地震防災訓練「災害対策統括本部」行動マニュアル

| 区分 | 災害 | | | 統括本部 | | | 本部 | | | 災害対策室 |
|--|---|--------------------------|--|---|--|--------------------------|---|-------------------------------------|-----------------------------------|-------------------|
| | 本部長 | 副本部長 | 総務部長 | 渉外部 | 指導部 | 学等対策部 | 救護物資部 | 安全防衛部 | 災害対策室 | |
| 役職名 | 本部長 | 副本部長 | 総務部長 | 渉外部 | 指導部 | 学等対策部 | 救護物資部 | 安全防衛部 | 災害対策室 | |
| 担当 | ・ 総長 ・ 副総長 ・ 事務局長 | ・ 副総長 ・ 事務局長 | ・ 総務部長 (企画広報室長) | ・ 総務課長 (企画広報室長) | ・ 管理部長 (主計課長) | ・ 学務部長 (入試課長) | ・ 研究協力調整官 (研究協力課長) | ・ 施設部長 (設備課長) | ・ 災害対策室長 ・ 同室員 | |
| 応援要員 | ・ 総務部総務課専門員(秘書担当)、総務部企画広報室長補佐、総務部企画広報室職員及び経理部管理財課課長補佐並びに施設部設備課課長、同課長補佐、施設部設備課職員 | | | | | | | | | |
| 職務 | 統括本部の設置命令、指揮、命令、監督 ・ 被災状況の把握、指 ・ 本部を補佐し、不 在時はその任務を代行 | ・ 本部を補佐し、不 在時はその任務を代行 | ・ 職制情報、判定会招 集情報、及び警報の収 集並びに本部長、局長 各支分部長等(部 長)への報告 ・ 受入病院の把握と設 定、不明者の割り出し | ・ 文科系学部、地方自 治体、警備隊等との折 衝、報道調整 ・ 関係外部への報告 に対する対応 | ・ 教職員及び各種施設 の被災状況の把握、各 部署に伝達して各部 への対応体制の指令 ・ 各部署への指令 | ・ 学生(学生団学生等) の被災状況の把握 | ・ 備蓄物資等の支給 ・ 救護物資等の受入、 支給要請物資の確保 と支給 | ・ 非常用電源の確保 ・ 非常用電話等、水道等 の保安措置 | ・ 職制情報、判定会招 集、他地震に及ぶ具 体的な対策 | ・ 災害対策室長 ・ 同室員 |
| 09:30 | ・ 災害対策室からの「東海地震判定会議招集」 情報を受ける。 | | | | | | | | | |
| 09:31 | 総長の命をうけ秘書は事務局長に報告及び ・ 総務課課長補佐に「災害対策統括本部、支部」 の設置命令を連絡 | | | | | | | | | |
| 09:31 | ・ 総務課課長補佐は総長からの「災害対策統括本 部設置命令」を総務部長、総務課長に伝達 | | | | | | | | | |
| 09:32 | ・ 総務課課長補佐は総長からの命令(災害対策統 括本部設置命令及び要員招集)を総務課に事務 局各課室頭へ電子メール送信を指示 | | | | | | | | | |
| (本部要員事務局1号館第2会議室に又本部応援要員(会議室東側)及び事務局消防隊(会議室西側)は事務局1号館第1会議室に集合) | | | | | | | | | | |
| 09:35 | 「災害対策統括本部要員」集合、直ちに災害対策統括本部設置(電話回線3台分及び電子メール回線1台分、立ち上げ) 災害対策統括本部各部員は、「災害対策統括本部総務部」に集合報告 | | | | | | | | | |
| 09:36 | 統括本部総務部は全要員集合報告を確認の後、 ・ 本部員へ報告統括本部設置、並びに ① 各部署への「判定会議招集」及び「支部設置指 示」等情報伝達訓練開始 | | | | | | | | | |
| 09:36 | 統括本部総務部からの「災害対策統括本部設置 報告」及び「情報伝達訓練開始報告」受領 | | | | | | | | | |
| 09:36 09:40 | 各部署への情報伝達開始 「判定会議招集」及び「支部設置指示」 ① 電子メール送信(各部署別)確認 ② 電子メール送信状況確認(各部署別)確認 ③ 受信確認担当者(企画広報室職員5名) | | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------|--|--|--|--|--|--|--|
| 09:44 | 7499事務局・教養教育院・図書館・文学部・ 教育学部・情報科学部・理学部・ 7497経済学部・法学部・農学部・ 2093国際開発研究科・言語文化学部・太閤研 究所・環境医学研究所・総合保健体育科学 センター | | | | | | |
| 09:45 | ・全部局の受信を確認の後 本部長に「部局への情報伝達完了」を報告 | | | | | | |
| 09:45 | ・統括本部総務部から、「部局への情報伝達完了 報告」受領 | | | | | | |
| 09:50 | 各 部 局 支 部 又 は 単 位 消 防 隊 集 合 (所要時間1分～5分) | | | | | | |
| 09:51 | ・支部設置、又は単位消防隊集合受信担当 (企画広報室職員3名) 7499事務局・教養教育院・図書館・文学部・ 7497経済学部・法学部・農学部・理学部・ 2093国際開発研究科・環境医学研究所・太閤研 究所・環境医学研究所・総合保健体育科学 センター ・全部局の「支部設置又は単位消防隊集合報告」 を受信の後「支部等設置完了」を報告 | | | | | | |
| 09:51 | ・統括本部総務部から「支部等設置完了報告」受領 | | | | | | |
| 10:05 | 各 部 局 単 位 消 防 隊 車 両 出 動 演 習 (所要時間5分～20分) | | | | | | |
| 10:06 | ・部局内情報伝達完了報告受信担当 (企画広報室職員3名) 7499事務局・教養教育院・図書館・文学部・ 7497経済学部・法学部・農学部・理学部・ 2093国際開発研究科・環境医学研究所・太閤研 究所・環境医学研究所・総合保健体育科学 センター ・全部局の「部局内情報伝達完了報告」を受信の後 本部長に「情報伝達完了」を報告 | | | | | | |
| 10:06 | ・統括本部総務部から、「全学情報伝達完了報告」 を受領 | | | | | | |
| 10:07 | ・「情報伝達訓練終了」宣言 | | | | | | |
| 10:07 | ・本部長の終了宣言を受け「災害対策統括本部 解散」宣言 | | | | | | |
| | 「災害対策統括本部」解散(電話・電子メール回報連絡) | | | | | | |

「災害対策統括本部」情報伝達文

1. 災害対策統括本部要員及び事務局消防隊招集用 (9:32頃)

総務課担当・事務局各課(室)筆頭掛宛へ連絡(電子メール送信)

- ・ これは、訓練情報です。
- ・ 本日 9時25分に「東海地震判定会議」が招集されました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」及び「事務局防災要員」は、事務局1号館第1・2会議室に集合してください。
- ・ 本情報を内部関係職員に伝達願います。

2. 各部局宛「判定会招集情報」伝達用 (9:36頃)

1) 管財課担当・全部局宛電子メール送信・・・別紙「防災訓練情報連絡表」参照

- ・ これは、訓練情報です
- ・ こちらは、名古屋大学災害対策統括本部総務部です。
- ・ 本日 9時25分に「東海地震判定会議」が招集されました。
- ・ 各部局は、「災害対策支部」または支部を置かない部局は「単位消防隊」を招集してください。
- ・ 以後は、各部局の「地震防災マニュアル」及び「各消防隊の指示」に従って行動してください。

2) 企画広報室担当・電話にて受信確認・・・別紙「防災訓練情報連絡表」参照

- ・ こちらは、災害対策統括本部総務部です。
- ・ 「東海地震判定会議」召集情報メールの受信確認をします。
- ・ ……(部局回答)……………
- ・ 了解しました。

3) 注 電子メール未到着部局には、電話ファックスにて前述文を送信(管財課対応)

- * (電話ファックス送信部局には、再度電話にてファックス到着確認を行う)
- 受信担当者は、全部局のメール到着確認後、企画広報室長に「全部局への情報伝達を確認しました。」と報告する
- ・ 前述の報告を受け企画広報室長は統括本部総務部長に報告

3. 部局からの電話報告対応

1) 企画広報室担当・支部等設置報告

(各部局報告例)

- ・ こちらは、〇〇研究科災害対策支部（または、〇〇研究科消防隊）です。
- ・ 「災害対策支部設置（または消防隊招集）」が完了したので報告します。

(災害対策統括本部応答例) (9:45～9:50の間?)

- ・ 了解しました。
- ・ 引き続き、部局内全域に遺漏のないよう情報伝達願います

受信担当者は、全部局からの報告を確認後、企画広報室長に「全部局の災害対策支部設置等を確認しました。」と報告する

- ・ 前述の報告を受け企画広報室長は統括本部総務部長に報告

2) 企画広報室担当・部局内情報伝達完了報告

(各部局報告例)

- ・ こちらは、〇〇研究科災害対策支部（または、〇〇研究科消防隊）です。
- ・ 「部局内情報伝達」が完了したので報告します。

(災害対策統括本部応答例) (9:50～10:05の間?)

- ・ 了解しました。災害対策統括本部への報告は、本報告をもって完了となります。
- ・ 引き続き、部局内在居者に①「突発地震の対応策」②「判定会招集時の対応策」等必要事項について説明願います。

受信担当者は、全部局からの報告を確認後、企画広報室長に「全部局の部局内情報伝達完了を確認しました。」と報告する

- ・ 前述の報告を受け企画広報室長は統括本部総務部長に報告

- 電子メール受信確認 (情報連絡等受発信確認用)
 支部設置等報告受信
 部局内情報伝達完了報告受信

事務局 教養教育院 附属図書館 文学部・文学研究科

教育学部・教育発達科学研究科 教育学部附属学校

法学部・法学研究科

経済学部・経済学研究科 情報科学研究科 理学部・理学研究科

医学部・医学研究科 医学部保健学科 工学部・工学研究科

農学部・生命農学研究科

国際開発研究科 国際言語文化研究科 環境学研究科

太陽地球環境研究所 情報連携基盤センター 環境医学研究所

総合保健体育科学センター

確認者・・・

特記事項（部局からの連絡事項等で何かあれば記入願います。）

* 該当部局の□欄にチェックしてください。

情報伝達文

1. 「東海地震判定会議召集情報」の電話報告

① 災害対策室長（事務局防災担当課に情報確認）

→佐々木副総長（2060）へ報告

- * 秘書において、最初に電話を受信するため、→「防災訓練情報です。副総長をお願いします。」と説明→秘書は副総長に電話を切り替える→副総長

【山岡】

- ・これは、訓練情報です。
- ・本日9時25分に判定会議が召集されましたので報告します。

【副総長】

- ・了解しました。本情報を総長に連絡願います。

【佐々木副総長は、電話受領後総長室へ移動】

② 災害対策室長 → 総長（2000）へ電話報告

- * 秘書掛において、電話を受信する。

【山岡】

「防災訓練情報です。総長に報告をお願いします。」と説明のうえ

- ・これは、訓練情報です
- ・本日9時25分に判定会議が召集されましたので報告します。

【秘書掛】

- ・了解しました。直ちに、総長に伝えます。

2. 訓練開始情報

【秘書掛は、総長、副総長（佐々木副総長を除く）及び事務局長に連絡】

- ・山岡災害対策室長より報告がありました。
- ・本日9時25分に「東海地震判定会議が招集された。」との訓練情報です。
- ・（副総長あて追加説明）おつて、「災害対策統括本部設置」等報告を受領したい再度ご連絡いたしますので、それまで自室で待機願います。

【佐々木副総長が総長室に入室】

（総長・佐々木副総長間で協議 → 災害対策統括本部設置決定）

（総長は、秘書掛に災害対策統括本部設置等命令を指示）

【秘書掛 → 総務課「社本課長補佐（2009）」へ電話伝達】

- ・総長よりの命令です
- ・本日9時25分に「東海地震判定会議が招集された。」との想定訓練です。
- ・「災害対策統括本部設置」、及び「各部局への情報伝達」訓練を開始して下さい。

3. 「災害対策統括本部設置」及び「事務局防災隊召集」命令

【社本補佐→事務局各課筆頭掛へ電子メール送信を総務課職員に指示、
及び総務課長・総務部長に伝達】

「電子メール送信文（社本補佐の指示により総務課職員が送信）」

- ・ これは訓練情報です。
- ・ 本日 9時25分に「東海地震判定会議」が召集されました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」及び「事務局防災隊要員」は、事務局1号館第1・第2会議室に集合して下さい
- ・ 本情報を内部関係職員に伝達願います。

「総務課長・総務部長への報告」

- ・ 総長の命により「防災訓練」を開始します。
- ・ 本日 9時25分に「東海地震判定会議が招集された。」との想定訓練です。
- ・ 現在「災害対策統括本部要員」及び「事務局防災隊要員」を、事務局1号館第1・第2会議室に召集しています。
- ・ 直ちに災害対策統括本部（事務局1号館第2会議室）に移動願います。

【総務部長及び総務課長は、事務局1号館第2会議室に移動】

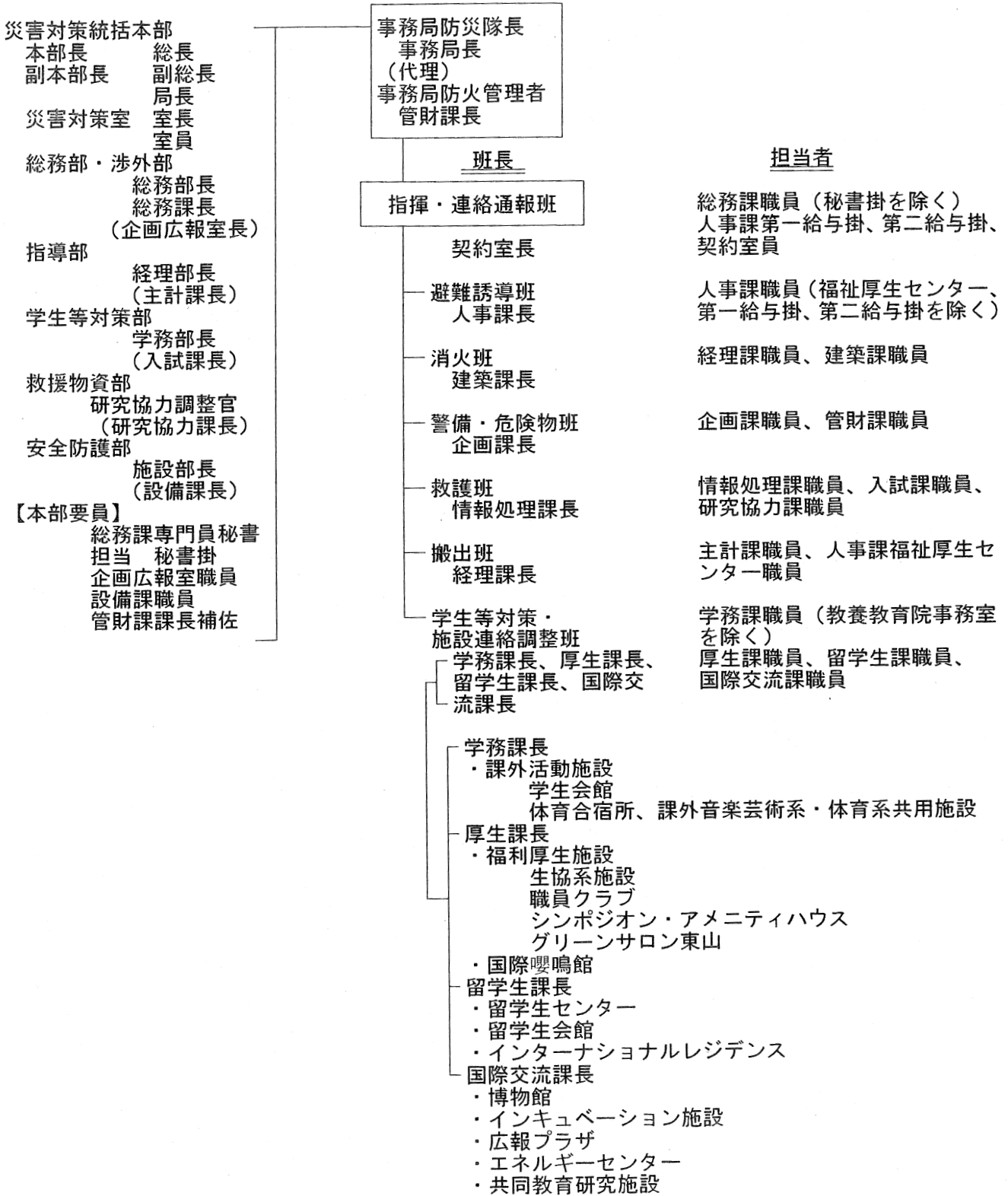
4.

| |
|---------------------|
| 要員集合→「災害対策統括本部」設置完了 |
|---------------------|

5. 「災害対策統括本部設置完了」及び「情報伝達開始」報告

- ① 災害対策統括本部総務部（総務課長）は、「災害対策統括本部設置完了」及び「部局への情報伝達開始」を秘書掛（本部長あて）に電話報告
- ② 秘書掛は、「災害対策統括本部設置完了」及び「部局への情報伝達開始」を、本部長（総長）、副本部長（副総長及び事務局長）に連絡するとともに事務局1号館第2会議室への移動依頼を行う。
- ③ 【秘書掛は、総長、佐々木副総長及び事務局長を、事務局1号館第2会議室に誘導】

名古屋大学事務局防災隊組織



* 事務局防災隊班長及び担当者は、事務局1号館 第1会議室に集合

各班の任務

指揮・連絡通報班の任務 (班長) 契約室長

統括本部との連絡・調整を行う
指揮班・連絡通報班と各班間の指示、連絡にあたる
各種情報の収集と被災状況の把握、応援態勢の指令を行う
不明者及び要救助者の把握と救助指揮を行う
救援物資等の受け入れを行う

避難誘導班の任務 (班長) 人事課長

出火階及び上層階に直行し、避難開始の指示命令の伝達を行う
非常口の開放と閉鎖の確認を行う
避難上障害となる物品の除去を行う
避難者、要救助者の確認及び不明者の割出しと指揮班・連絡通報班への報告を行う
ロープ等による警戒区域の設定を行う

消火班 (班長) 建築課長

出火階に直行し、屋内消火栓及び消火器による消火作業に従事する

警備・危険物班 (班長) 企画課長

消防署消防隊の誘導、盗難防止、現場周辺の立入規制を行う
避難者の通路の確保と障害物の除去を行う
危険物の火災予防、ガス漏れ事故の抑止を行う

救護班 (班長) 情報処理課長

応急救護所の設置を行う
負傷者の応急処置を行う
受入病院の把握を行う
消防署救急隊との連携、情報の提供を行う

搬出班 (班長) 経理課長

非常持ち出し品の搬出、及び警備を行う

学生等対策・施設連絡調整班 (班長) 学務課長、厚生課長 留学生課長、国際交流課長

学生、留学生等の被災状況の把握、及び保護者との連絡調整を行う
単位消防隊及び各施設に対する指揮・命令・監督を行う
単位消防隊及び各施設への情報の提供及び災害現場への誘導を行う
各種情報の収集と被災状況の把握、応援態勢の指令を行う

「名古屋大学事務局防災訓練」情報伝達文

1. 事務局防災隊招集のメール受信後、各課筆頭掛長は各部課（室）長に連絡し、課（室）内職員に大声で伝達周知

- ・ これは、訓練情報です。
- ・ 本日 9時25分に「東海地震判定会議」が招集されました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」及び「事務局防災隊要員」は、事務局1号館第1・2会議室に集合してください。

事務局防災隊要員は、統括本部要員を事務局1号館第2会議室へ誘導後、第1会議室に集合

2. 事務局防災隊設置

事務局防災隊各班長は、指揮・連絡通報班に要員集合の報告

- ・ ○○班です。要員集合しました。

指揮・連絡通報班長は、集合確認の上、事務局防災隊長事務局長（代理 管財課長）に事務局防災隊要員集合の報告、及び災害対策統括本部総務部に事務局防災隊の設置完了報告

- ・ 事務局防災隊です。事務局防災隊の設置が完了しました。

3. 施設等連絡

学生等対策・施設連絡調整班は、指揮・連絡通報班に要員集合報告のうえ、直ちに内部関係施設内へ、電話又はFAXにて施設受信担当者に情報伝達開始（キャンパス内学生用）

- ・ 訓練情報です。
- ・ こちらは、事務局防災隊です。
- ・ 本日 9時25分に東海地震判定会議が招集されたとの連絡がありました。
- ・ 直ちに学生への周知をお願いします。

（寄宿舍用）

- ・ 訓練情報です。
- ・ こちらは、事務局防災隊です。
- ・ 本日 9時25分に東海地震判定会議が招集されたとの連絡がありました。
- ・ 安全確保に充分注意するようお願いします。

4. 情報伝達完了報告

指揮・連絡通報班は、各班の情報伝達完了報告を受け事務局防災隊長に報告、及び災害対策統括本部総務部に事務局防災隊の伝達完了報告

- ・ 事務局防災隊です。事務局防災隊の情報伝達の完了を確認をしました。

5. 情報伝達訓練終了

防災訓練情報連絡表

| 事務局 | 電話番号 | FAX番号 | 受信担当者名 |
|--|---|--------------------------------------|--|
| (学務課) 課外活動施設 学生会館 体育合宿所 課外音楽芸術系 体育系共用施設 | 7535 7534 " " | 7534 " " | 竹原れい子(ケータリング) 久野孝・伊佐治浜夫 (火・水・木) (月・金・土・日) (派遣) |
| (厚生課) 福利厚生施設 生協系施設 グリーンサロン・山・アメニティハウス 職員クラブ 宿泊予約センター 職員食堂 理容 ホワイトベア シンポジオン 事務室 ユニバーサル・アメニティハウス 国際喫煙館 | 7540 " 4916 7524 4914 7525 3059 7526 832-2736 | | 今井 " 安達 二宮 加藤 山田真奈美 千藤 斉藤(ケータリング) 島田 |
| (留学生課) 留学生センター 留学生会館 インターナショナルレジデンス | 2198 853-2901 2197 | 5100 853-2929 0356 | 坂口敏弘 西垣佳代 加藤公子 |
| (国際交流課) 博物館 インキュベーション施設 広報プラザ エネルギーセンター 共同教育研究施設 | 5967 6001 5787 2152 2048 | 5896 6002 5788 2153 2046 | 渡辺 10時勤務 FAX伝達 平手 鶴沢 神谷 |

名古屋大学地震防災訓練実施計画詳細

1. 目的

東海地域に大規模地震が発生することを想定して、就業時間内における地震防災体制確立の一環として情報伝達訓練を実施し職員並びに学生の防災意識の高揚を図ることを目的とする。

2. 訓練の日時

平成15年11月5日(水) 午前・・時間未定(第1限を予定)

3. 訓練想定

「気象庁長官が、午前〇〇時〇〇分に東海地震判定会議を招集した。」との情報を受け全学情報伝達訓練を実施する。

4. 訓練対象範囲

本学の全有人施設(ただし、母子里観測所等強化指定地域外の施設を除く)

5. 当日の訓練計画

- (1) 総長が「判定会議招集」との一報を受ける
 総長 ← ————— ← 災害対策室長
 自然災害対策専門委員会委員長 ← 災害対策室長
- (2) 総長から災害対策統括本部設置を指示
 総長 → 総務部長
 ① 災害対策統括本部要員等招集指示
 ② 災害対策統括本部要員及び事務局消防隊招集
 ③ 要員集合
 総務部長 → 総務課
 総務課 → 事務局各課
- (3) 「災害対策統括本部(事務局1号館第1・2会議室)」設置
- (4) 情報伝達
 ① 部局支部等設置指示 (統括本部総務部 → 各部局)
 【メール送信、受信確認電話】

| 事 項 | 支 部 を 置 く 部 局 | 支 部 を 置 か な い 部 局 |
|-----------------------------------|---|---|
| 判定会招集情報連絡 (総務部→各部局) | 部局長が統括本部総務部から受信 | 部局長が統括本部総務部から受信 |
| 支部等設置指示 (部局連絡担当→部局内) | 部局長から支部設置指示 災害対策支部要員及び単位消防隊招集 要員集合・「支部設置」 | 部局長から単位消防隊招集指示 単位消防隊招集 要員集合 |
| 支部等設置完了報告 (各部局→総務部) | ・支部設置報告(支部長→統括本部総務部) 【電話報告 TEL7499】 部局内情報伝達 指 揮 ①単位消防隊連絡通報班→講義・実験指導教官等 避難誘導 | ・単位消防隊集合完了報告(指揮班→統括本部総務部) 【電話報告 TEL7499】 部局内情報伝達 指 揮 ①単位消防隊連絡通報班→講義・実験指導教官等 避難誘導 |
| 情報伝達完了報告 (各部局→総務部) 訓練終了 | ・部局内情報伝達完了報告(支部長→統括本部総務部) 【電話報告 TEL7499】 ②講義・実験指導教官等→学生等在居者 ・アンケート回収(教官等→部局指定部所→部局長) | ・部局内情報伝達完了報告(指揮班→統括本部総務部) 【電話報告 TEL7499】 ②講義・実験指導教官等→学生等在居者 ・アンケート回収(教官等→部局指定部所→部局長) |
| アンケート回収 (各部局→管財課) | ・アンケート提出(部局→経理部管財課) 提出期限 11月10日(月) | ・アンケート提出(部局→経理部管財課) 提出期限 11月10日(月) |

*注 災害対策統括本部電話

- 東山キャンパス・・・7499
- 鶴舞キャンパス・・・85-7499
- 大幸キャンパス・・・85-7499
- 豊川キャンパス・・・052-789-2093

名古屋大学地震防災訓練行動マニュアル

| 所要時間 | 事項 | 災害対策統括本部 | 災害対策支部を置く部局 | 災害対策支部を置かない部局 | 学生・教職員等在学者 |
|---------------|------------------------|--|---|---|------------|
| 11月5日 9:30 | 判定会召集の受信 | ・「気象庁長官が、午前9時25分に東海地震判定会議を召集」との情報を受ける。 (本部長等不在時の緊急連絡体制等の確立) | | | |
| 9:31 | 「災害対策統括本部」設置指示 | ・総長から「災害対策統括本部設置」の指示 | | | |
| 9:32 | | 要員招集指示 | | | |
| 9:32 | 要員召集、及び判定会召集連絡 | 「統括本部総務部」から事務局内へ【電子メール送信】 ・これは、訓練情報です。 ・本日9時25分に東海地震判定会議が召集されました。 ・直ちに「災害対策統括本部」要員及び「事務局消防隊」要員は、事務局1号館第1・2会議室に集合してください。 | | | |
| 9:35 | | 統括本部要員等集合 | | | |
| 9:35 | 「災害対策統括本部」設置 | 「災害対策統括本部」設置 | | | |
| 9:36 | 判定会議召集及び各部局における支部等設置命令 | 【メール送信】 ・これは、訓練情報です。 ・こちらは、名古屋大学災害対策統括本部総務部です。 ・本日9時25分に東海地震判定会議が召集されました。 ・各部局は、「部局災害対策支部」を設置してください。 また、支部を置かない部局については、各単位消防隊を招集してください。 ・以後は、各部局の地震防災対策マニュアル及び各消防隊の指示に従って行動してください。 | | | |
| 9:39 | 部局連絡情報受信 | | 部局長が災害対策統括本部からの「判定会召集」情報を受信 | 部局長が災害対策統括本部からの「判定会召集」情報を受信 | |
| 9:40 | 支部等設置指示 | | 部局長から「災害対策支部」設置指示 | 部局長から「消防隊」招集指示 | |
| 9:40 | メールの受信確認 | メールの受信状況を電話にて確認 | メール受信状況を回答 | メール受信状況を回答 | |
| 9:41 | 支部等要員召集連絡 | | 「消防隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から部局内へ ・これは、訓練情報です。 ・こちらは、〇〇研究科災害対策支部です。 ・本日9時25分に東海地震判定会議が召集されとの連絡がありました。 ・直ちに「災害対策支部」要員及び「消防隊」要員は、〇号館〇〇室に集合してください。 ・以後は、〇〇研究科地震防災対策マニュアル及び消防隊の指示に従って行動してください。 | 「消防隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から部局内へ ・これは、訓練情報です。 ・こちらは、〇〇研究科消防隊です。 ・本日9時25分に東海地震判定会議が召集されとの連絡がありました。 ・直ちに「〇〇研究科消防隊」要員は、〇号館〇〇室に集合してください。 ・以後は、〇〇研究科地震防災対策マニュアル及び消防隊の指示に従って行動してください。 | |
| 9:46 | 支部等要員集合 | | 支部要員及び消防隊要員集合 | 消防隊要員集合 | |
| 9:48 | 支部等設置 | | 災害対策支部設置 | | |
| 9:49 | 「災害対策支部設置」「消防隊集合」報告 | ・部局からの「支部等設置完了」報告を受領 | 【電話報告 TEL7499】 「支部長」から「災害対策統括本部総務部」へ支部設置報告 | 【電話報告 TEL7499】 「消防隊指揮班」から「災害対策統括本部総務部」へ要員集合報告 | |
| 9:46 | 「部局内情報伝達」開始 | | 「消防隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から 部局内全域へ ・これは、訓練情報です。 ・こちらは〇〇研究科消防隊指揮班です。 ・本日9時25分に東海地震判定会議が召集されたとの連絡がありました。 ・授業・研究等業務を一時中断のうえ、学生等在居者に対し当該部屋に係る二次災害防止措置（装置等の緊急停止、電気の遮断、ガス・水道の元栓閉鎖等）及び避難・帰宅時における諸注意事項の説明をしてください。 | 「消防隊指揮・連絡通報・避難誘導班」 部局内全域へ ・これは、訓練情報です。 ・こちらは〇〇研究科消防隊指揮班です。 ・本日9時25分に東海地震判定会議が召集されたとの連絡がありました。 ・授業・研究等業務を一時中断のうえ、学生等在居者に対し当該部屋に係る二次災害防止措置（装置等の緊急停止、電気の遮断、ガス・水道の元栓閉鎖等）及び避難・帰宅時における諸注意事項の説明をしてください。 | |

| 日 時 | 事 項 | 災害対策統括本部 | 災害対策支部を置く部局 | 災害対策支部を置かない部局 | 学生・教職員等在学者 |
|-------|---------------------------|-----------------------|--|---|--|
| 10:04 | 部局内情報伝達終了 | | 「消防隊指揮班」から「支部長」へ部局内伝達終了報告 | 「消防隊指揮班」から「部局長」へ部局内伝達完了報告 | |
| 10:05 | 「部局内情報伝達」完了報告 情報伝達訓練終了 | 部局からの「部局内情報伝達完了報告」を受信 | 【電話報告 TEL7499】 「支部長」から「災害対策統括本部総務部」へ部局内伝達完了報告 | 【電話報告 TEL7499】 消防隊指揮班から「災害対策統括本部総務部」へ部局内伝達完了報告 | |
| 10:05 | 「在居者説明」開始 | | | | 「授業・研究等指導教官等」から「在居者」へ 訓練情報に基づく「説明事項」Ⅰ *突発地震発生時の対応 *判定会召集時の対応 ・現在業務を速やかに中断。 ・帰宅連絡先及び帰宅報告義務 ・部屋の災害防止措置 ①装置等の緊急停止 ②火源・熱源等電力の遮断 ③都市ガス・水道の元栓閉鎖 ④実験・研究用薬品の安全確認 (接触破壊防止、混触危険性回避、落下防止等) ⑤高圧ガスボンベの安全確認 (転倒防止、元バルブ閉鎖) ⑥その他当該部屋に係る必要事項等 又は 「寄宿舎管理責任者」から「在居者」へ 訓練情報に基づく「説明事項」Ⅱ *突発地震発生時の対応 *判定会召集時の対応 ・現在の行動を直ちに中断 ・浴槽に水をはる。 ・貴重品等必要最低限のものの確保 ・その他安全確保に係る必要事項 ・所在連絡（在居又は帰宅先） |
| | 「在居者説明」終了 アンケート提出 | | | | 指 揮 「指導教官等」から「消防隊連絡通報避難誘導班」へアンケート提出 |
| | アンケート提出報告 | | 指 揮 「消防隊連絡通報班」から 避難誘導 「支部長」へ回収完了報告 | 指 揮 「消防隊連絡通報班」から 避難誘導 「部局長」へ回収完了報告 | |
| | 「アンケート」回収 | | 部局からアンケートを11月10日までに経理部管財課へ提出 | 部局からアンケートを11月10日までに経理部管財課へ提出 | |

*注 災害対策統括本部電話番号

東山キャンパス内部局 7499
 鶴舞キャンパス 85-7499
 大幸キャンパス 85-7499
 豊川キャンパス 052-789-2093

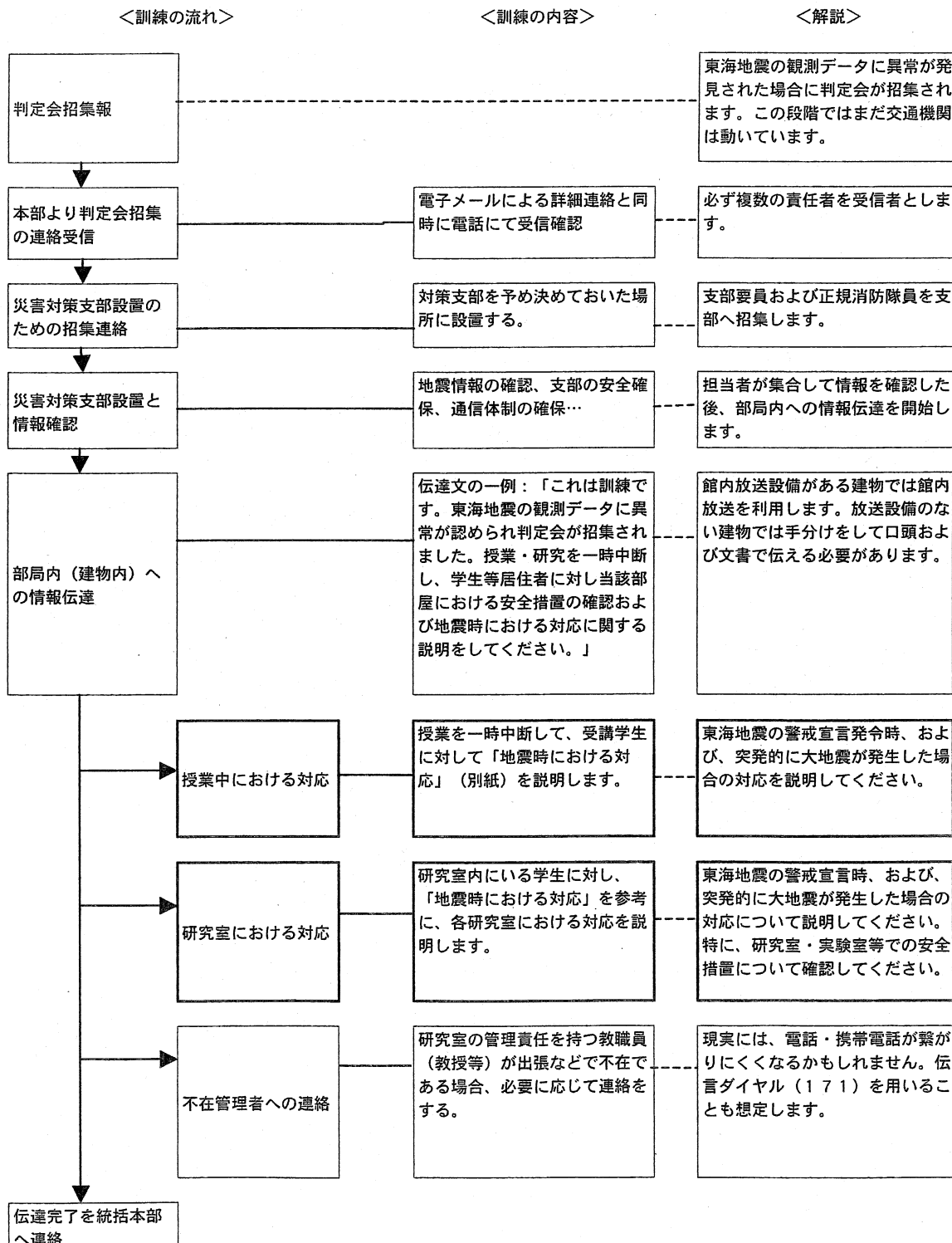
教官の方々へ

すでに教授会等でお伝えしていますように、本年11月5日に地震防災訓練が行われます。この訓練は、名古屋大学の地震防災計画にもとづいた危機管理体制を確立することと防災意識の向上を目的として行われます。

以下に11月5日における訓練の流れを示します。訓練は「東海地震の観測データに異常が発見され、判定会議が招集された」という情報を伝達します。名古屋大学ではこの情報もたらされると、すべての研究・教育活動を中止して帰宅することになっています。

訓練では学内にいるすべての教職員・学生に訓練情報をつたえます。教官の先生方には教室および研究室の学生に対して訓練情報を伝達すること、および教室・研究室において地震時にどのように対応するかを学生におつたえ頂くようお願いいたします。パワーポイントファイルを以下のURLにご用意しますのでお使いください。

<http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/STAFF/ymok/saigai-taisaku/senmon.html>

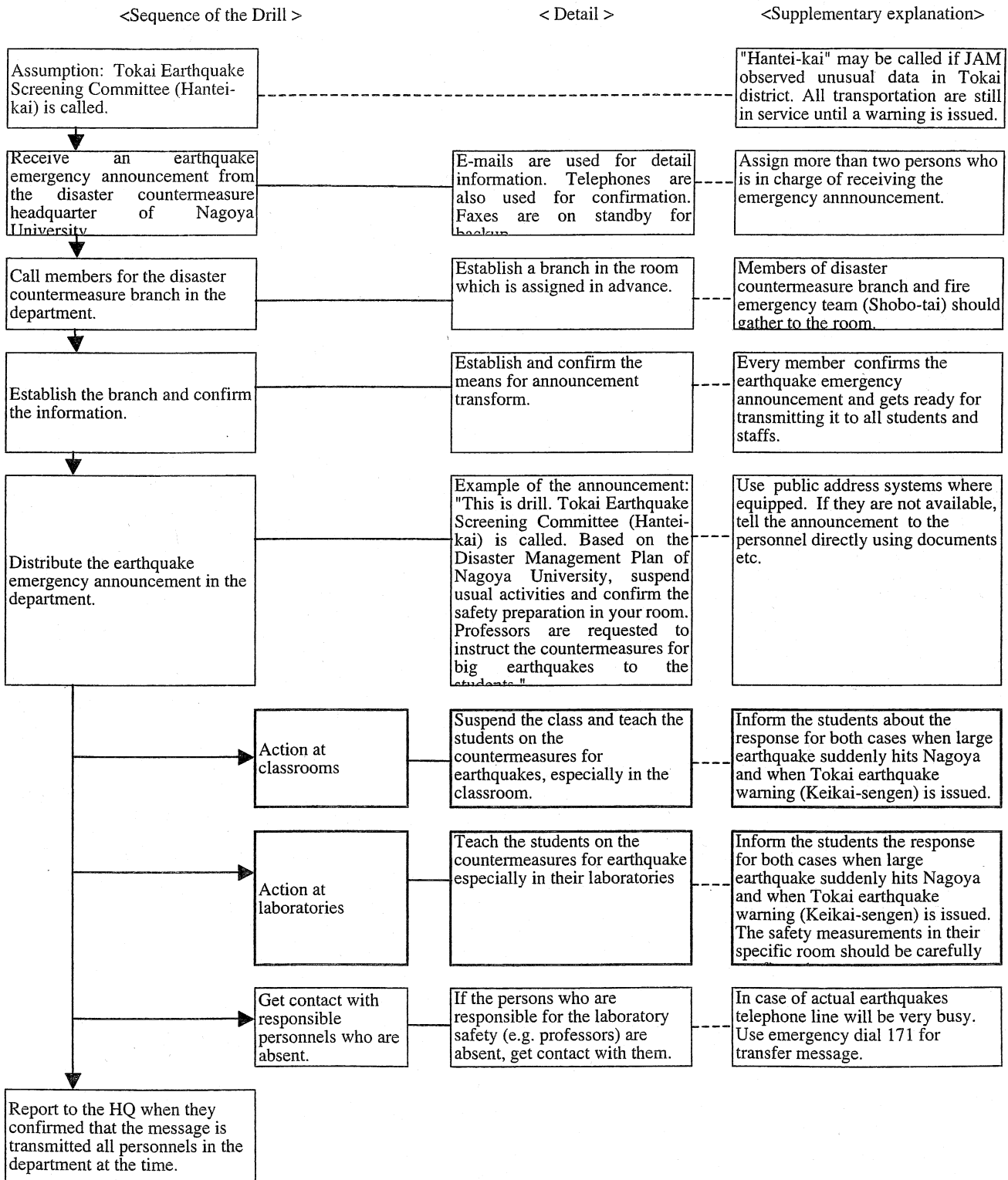


Dear Lecturers

As already announced, an earthquake drill for this year will be held on November 5th. The purpose of the drill is to learn the countermeasures for sudden disastrous earthquakes and to establish a crisis management system for earthquakes.

The following diagram shows the drill sequence. In the drill the emergency announcement of Tokai Earthquake, which is "Screening committee (Hantei-kai) is called based on the unusual observation data", will be informed to everyone in the campus.

Professors in the classes and laboratories are kindly requested to teach the students about the countermeasures for disastrous earthquake. Use the material which is provided in the separate sheets if necessary. Power Point file will be provided in the following <http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/STAFF/ymok/saigai-taisaku/senmon.html>



地震時における対応について

平成15年11月5日

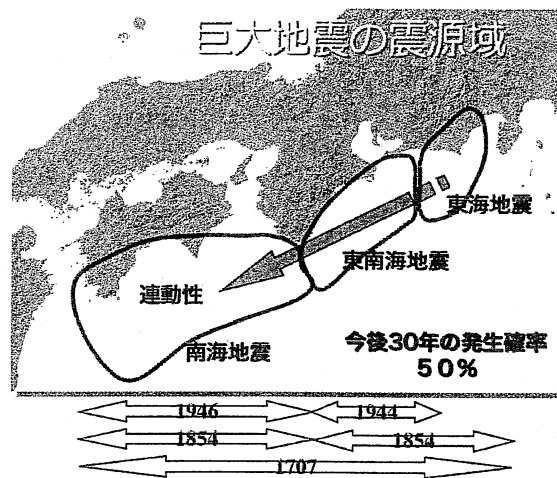
教官の皆さんへ

名古屋大学自然災害対策専門委員会

本日は、地震防災訓練にご協力頂きありがとうございます。今回の訓練は全構成員に東海地震に関する緊急情報を伝達することですが、地震発生時の対応について確認することも目的にしています。この機会に、授業中に10分ほど時間を頂き、下記の点について学生に解説をお願いいたします。

1. 日本列島南岸の巨大地震は必ず起きる

東海地震がいつ起きてもおかしくないとと言われてからすでに30年経過しました。もう東海地震が起きないと思っている方があるかもしれません。しかし、伊豆半島から四国沖にかけては、東海・東南海・南海地震が過去100年前後の間隔で発生し、今後も必ずくりかえし発生すると考えられています。右の図はそれぞれの地震の震源域を表していますが、過去には組み合わせを変えながら繰り返し発生していることがわかります。特に1707年の地震(宝永地震)は3つの震源域で同時に地震が発生した非常に大きな地震でした。



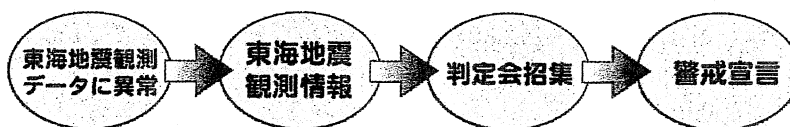
2. 東海地震が予知された場合の対応

東海地震については、地震発生が予知された場合、国民に対して警戒宣言を出すための体制が取られています。気象庁の観測データに異常が発見されてから警戒宣言発令までの流れを下の図に示します。警戒宣言は総理大臣によって発令されますが、それ以外は気象庁から発表されます。

警戒宣言が発せられると、各種交通機関の運行が停止されるため、名古屋大学では、判定会招集時から対応を開始し、すべての研究・講義・実験を中止し、安全措置を講じた後、非常要員以外は帰宅します。なお平成16年1月から判定会招集時ではなく注意情報発表時から対応を開始します。

帰宅後は耐震性のある屋内、または安全を確保できる屋外で待機してください。

現在



平成16年1月5日以降



3. 突然地震が発生した場合

東海地震の場合さえも、予知されずに、突然地震が発生する可能性が有ります。地震が突然発生した場合には次の行動をとります。

(1) 地震が発生したら

1. まず自分の身を守ります。(机の下などへ)
 - ・教室では天井やテレビなどが落下する可能性があります。
 - ・図書室では書棚が倒れる可能性があります。
 - ・実験室では薬品などで火災が発生する可能性があります。
2. 脱出口の確保をします。
 - ・鉄の扉は地震によるひずみで開かなくなる可能性があります。
3. 火の始末をします。

(2) 発生後1-2分

1. 人の安全確認をします。
 - ・同室の人が無事かどうかを確認します。
2. すべての実験を停止します。
 - ・電源を切り、ガスを止めます。
3. 火事を防ぎます。
 - ・初期消火につとめますが、手に負えない場合はすみやかに避難します。

(3) 発生後3分

1. 周辺の部屋の安全確認をします。
 - ・近隣の部屋の人が無事か、火元の始末は確実か、を確認します。
 - ・自身の安全が確保出来る範囲内で、救助および災害拡大防止措置を行います。
2. 余震に注意しつつ、様子を見て避難します。
 - ・名古屋大学の建物が大きく崩壊する可能性は低いので、落ち着いて、先生の指示に従って避難してください。

防災ガイドや全学の地震防災計画などは、災害対策室ホームページからご覧ください。

<http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/~taisaku>

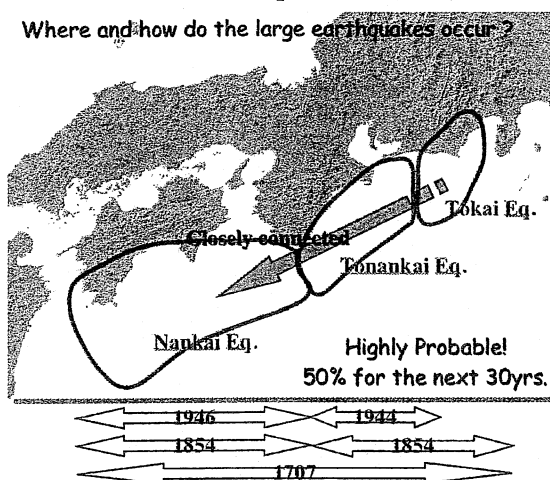
To: Lecturer at classes

from: Natural Hazards Management committee, Nagoya University
(Nagoya-daigaku Shizen-saigai-senmon-iinkai)

Your cooperation with the earthquake drill today is much appreciated. The purpose of the today's drill is to learn how we should respond to sudden disastrous earthquakes as well as training to transfer emergency information on the Tokai earthquake. During the drill, lecturers are kindly requested to teach the following instruction to the student in their classes.

1. Imminent future large earthquake along the southern coast of Japan.

In the past, large earthquakes were experienced in the southern coast of Japan about every 90-150 years. The figure on the right shows the epicentral region and the years of the occurrence for these large earthquakes. The 1707 event (Hoei earthquake) was one of the largest earthquakes in Japanese history. Note that based on these historical records the next large earthquake is expected to occur in the first half of the 21st century. Three large earthquakes can possibly occur subsequently and even simultaneously in this region. Thus everyone living in this area should make proper preparations and necessary precautions.

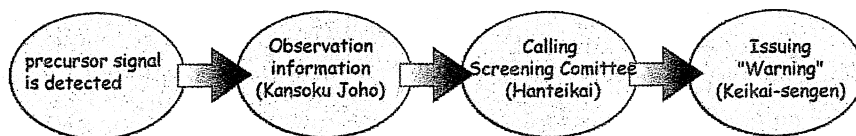


2. Response when the warning for the Tokai earthquake is issued.

Intensive observation is currently undertaken to detect precursory signals of the Tokai earthquake. A "warning" (Keikai-sengen) will be issued when Japan Meteorological Agency (JMA) observation network detects earthquake precursors. The figures below show the sequential process towards the issuance of a warning. After careful investigation of the data by scientists, the warning for the Tokai earthquake would be declared by the Prime Minister.

Since most of the transportation system such as trains and buses will be suspended when the

Present sequence toward "warning" of the Tokai earthquake.



After January 5, 2004



warning is issued, all students and staffs of Nagoya University are requested to take necessary action when the screening committee (Hanteikai) is called before the warning. Every usual activity in the university should be stopped and all students and staffs should go back home after taking all necessary safety measures. After January 5, 2004, Advisory information (Chu'ui Joho) for Tokai earthquake will be issued before the screening committee is called. Necessary action should be taken when an advisory information is issued by JMA. In your home, stay in a building which is strong enough for earthquakes or stay outside where you will be safe during strong ground shaking.

3. Action when strong earthquakes occur without notice.

Tokai earthquake may even occur without any warning. When you feel a strong tremor (earthquake) the following action should be taken to protect yourself.

(1) When you feel earthquake

A. Stay calm and seek safety.

Ceiling panels and TVs inside the classrooms may fall.

Bookshelves filled with heavy books in libraries and offices may topple over.

Fire may break out in laboratories due to liquid and gaseous chemicals.

B. Secure an exit.

Open a door right away. A steel door may be distorted and will be hard to open in case of building damage.

C. Extinguish any open flames.

(2) One to two minutes after the earthquake

A. Confirm the safety of everyone inside the classroom/hall.

Make sure that the people in your immediate surrounding are safe. Rescue and provide possible first aids for injured persons.

B. Stop experimental activities.

Shutdown gases and electric powers.

C. Fire prevention.

Put out any open fires that may have ignited. Evacuate if the fire becomes too big to extinguish.

(3) Three minutes after the earthquakes

A. Confirm the neighbors' safety.

Confirm the safety of the people in the near-by rooms.

Rescue and provide possible first aids for injured persons.

Check all possible sources of fire are properly turned off.

In case of fire, try to extinguish it with neighbors' assistance.

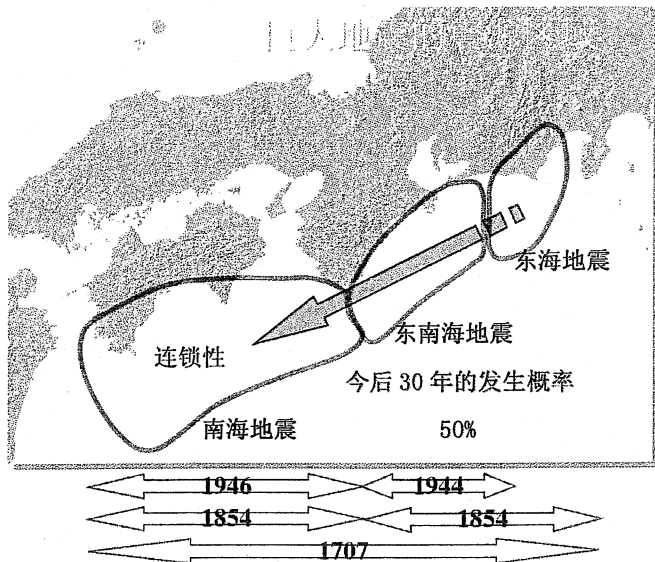
B. Evacuate the building.

Buildings in Nagoya University are unlikely to suffer severe damage due to earthquakes. Therefore, stay calm and follow the teacher's instruction.

地震时的应急措施

1. 日本列岛南岸的巨大地震必定发生

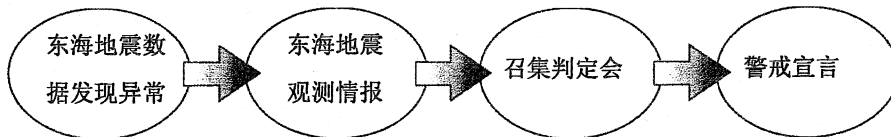
“东海地震随时发生都不奇怪”的说法至今已有三十年了，也许会有人认为东海地震不会发生。但是，据专家推测从伊豆半岛到四国南海域，东海、东南海、南海地震每隔 100 年左右就发生一次，今后也必然会反复发生。右图是各个地震震源区域的表示图，我们知道至今这几个区域的地震是组合交替变化反复发生的。特别是 1707 年的地震（宝用地震），三个地震源区域同时发生地震，是一次非常大的地震。



2. 东海地震被测定后的应对措施

对于东海地震，已建立了应对体制，在地震被预测的情况下，确保能够及时向国民发布警戒宣言。从气象厅发现观测数据异常到发布警戒宣言的过程如下图所示。警戒宣言由总理大臣发布，除此以外均由气象厅发布。警戒宣言一旦发布，各种交通工具都会停止运行。在名古屋大学，由召集判定会开始采取应对措施，中止所有的研究、讲义和实验，在讲解了安全措施后，除了非常人员以外所有的人都须回家。而且，自平成 16 年 1 月起，不是在判定会召集时，而是在注意警报发布即开始采取应对措施。回家后在抗震的房间里，或者在能够确保安全的屋外待机行动。

现在



平成 16 年 1 月 5 日以后



3. 地震突然发生的时候

即使是在东海地震中，没有预兆突然发生的可能性也是存在的。地震突然发生的时候，采取以下行动。

(1) 当地震发生的时候

1. 首先确保自身安全。(藏身于桌子底下等)
 - 在教室里有顶棚或者电视机等掉落的风险。
 - 在图书室有书架倒下的可能。
 - 在实验室有由于药品等引发火灾的可能性。
2. 确保紧急出口的畅通
 - 钢铁门有由于地震发生而变形打不开的可能。
3. 注意熄灭火源

(2) 发生后 1-2 分钟

1. 确认人员安全
 - 确认同屋的人是否安全。
2. 停止所有的实验
 - 切断电源，关闭煤气。
3. 防止火灾。
 - 尽力进行初期灭火，但是在力不能及时尽快撤离。

(3) 发生后 3 分钟

1. 确认周围房屋的安全
 - 确认邻近房间内的人员是否安全，火源是否熄灭。
 - 在能够确保自身安全的范围内，参加救助他人以及防止灾害扩大的活动。
2. 留意余震，视情况进行避难。
 - 因为名古屋大学的建筑大面积倒塌毁坏的可能性很小，听从老师的指挥沉着避难。

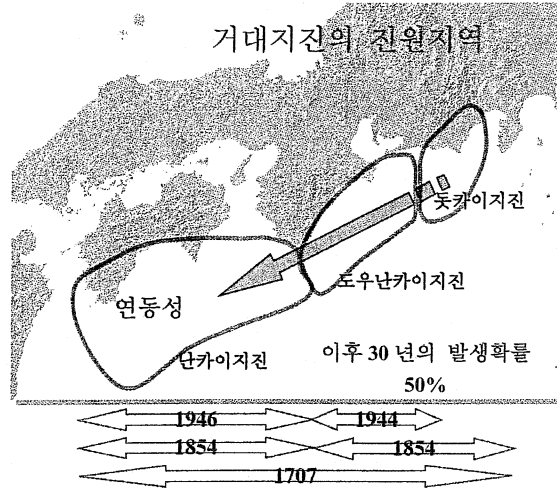
防灾指南以及全校的地震防灾计划等详情，请浏览灾害对策室主页。

<http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/~taisaku>

지진시의 대응

1. 일본열도 남해안의 거대지진은 반드시 일어난다

언제 일어나도 이상하지 않을 정도로 돛카이지진이 가까이 와 있다는 말이 나온지 30 년이 지났습니다. 그래서 이제는 돛카이지진이 일어나지 않을거라 생각하는 분들도 있을지 모릅니다. 그러나 이즈반도부터 시코쿠해에 걸친 곳에서 돛카이·도우난카이·난카이지진이 과거 100 년전후 간격으로 발생한 사실로 미루어볼때, 앞으로도 반드시 반복하여 발생할 것으로 보여집니다.



위의 그림은 각지진의 진원지역을 나타낸 것으로, 과거에는 결합방식을 바꾸며 반복하여 발생한 사실을 알 수 있습니다. 특히 1707 년에 일어난 호오에이지진은 세계의 진원지역에서 동시에 발생한 거대지진이었습니다.

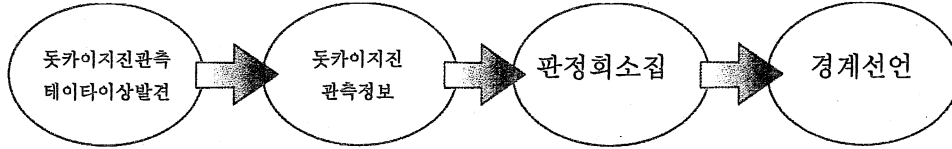
2. 돛카이지진이 예지되어진 경우의 대응

돛카이지진의 발생이 예지되어진 경우, 국민들에게 경계선언을 내리기 위한 체제가 세워져 있습니다. 기상청의 관측데이터에 이상이 발견된 순간부터 경계선언발령까지의 과정을 아래의 그림으로 나타내었습니다. 경계선언은 총리대신에 의해 발령되지만, 그 이외는 기상청에서 발표합니다.

경계선언이 발령되면 각종교통기관의 운행이 중지되기 때문에, 나고야대학에서는 판정회소집과 동시에 대응을 시작합니다. 모든 연구·강의·실험을 중지하고, 안전조치를 취한후, 비상요원이외의 사람들은 모두 귀가합니다. 또 헤이세이 16 년 1 월부터는 판정회소집시가 아니라 주의정보발표시부터 대응을 시작하게 됩니다.

귀가후에는 내진성(耐震性)이 있는 옥내, 또는 안전을 확보할 수 있는 옥외에서 대기해 주십시오.

현재



헤이세이 16년 1월 5일 이후



3. 갑자기 지진이 발생했을 경우

dotkae지진도 예지되어지지 않은채, 갑자기 발생할 가능성이 있습니다. 지진이 갑자기 발생했을 경우, 다음과 같이 행동합니다.

(1) 지진이 발생하면

1. 우선 몸을 보호합니다(책상 아래로).
 - 교실에서는 천장과 텔레비전등이 떨어질 가능성이 있습니다.
 - 도서실에서는 책꽂이가 넘어질 가능성이 있습니다.
 - 실험실에서는 약품등으로 인해 화재가 발생할 가능성이 있습니다.
2. 탈출구를 확보합니다.
 - 철문은 지진에 의해 뒤틀려서 열리지 않을 가능성이 있습니다.
3. 불을 끕니다.

(2) 지진 발생후 1-2분

1. 사람의 안전을 확보합니다.
 - 같은 방에있는 사람이 무사한가 확인합니다
2. 모든 실험을 중지합니다.
 - 전원을 끄고 가스를 잠급니다
3. 화재를 방지합니다.
 - 초기진화를 위해 노력하지만, 손을 쓸수 없는 경우에는 재빨리 피난합니다.

(3) 지진 발생후 3분

1. 주변에 있는 방의 안전을 확인합니다.
 - 옆방 사람이 무사한가, 불씨는 꺼졌는가를 확인합니다.

- 자신의 안전이 확보되는 범위내에서, 구조및 재해확대방지 조치를 취합니다.
- 2. 여진에 주의하면서, 상황을 살펴 피난합니다.
- 나고야대학의 건물은 크게 붕괴할 가능성이 낮기때문에, 침착하게 선생님의 지시에 따라 피난해 주십시오.

방재가이드와 전학년의 지진방재계획등은 재해대책실 홈페이지를 참조해 주십시오

<http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/~taisaku>

平成15年度 名古屋大学地震防災訓練
部局アンケート

以下の事項に御記入の上、11月10日までに管財課へご提出ください。

部局名

記入者

(1) 本部から「判定会招集」の連絡を受けた時刻

(2) 支部を設置（または消防隊集合）できた時刻

(3) 集合した組織および人員

| | | | | |
|----|-------|---|--------|---|
| 支部 | 組織上要員 | 名 | 実際の集合者 | 名 |
|----|-------|---|--------|---|

| | | | | |
|-----|-------|---|--------|---|
| 消防隊 | 組織上要員 | 名 | 実際の集合者 | 名 |
|-----|-------|---|--------|---|

(4) 訓練情報をうけた人数

| | | |
|-----|---|---------|
| 教職員 | 名 | (集計手段：) |
|-----|---|---------|

| | | |
|------|---|--------------|
| 学部学生 | 名 | (教官アンケートによる) |
|------|---|--------------|

| | | |
|-----|---|--|
| その他 | 名 | |
|-----|---|--|

(5) 貴部局ではどのような伝達手段を用いましたか？

(6) 今回の訓練に対しご意見がございましたら御記入ください。

平成15年度 名古屋大学地震防災訓練 教官向けアンケート

自然災害対策専門委員会

所属部局

職名

氏名

平成15年11月5日第1限に東海地震の判定会招集を想定した情報伝達訓練を行いました。教官の先生にはさらに教室や研究室の学生に対し情報伝達をお願いするとともに地震時における対応について説明をして頂きました。今後の資料のため以下のアンケートにお答えください。

Q1 11月5日の午前10時15分(1限)までに、今回の訓練情報である「東海地震の判定会招集」の連絡を受けましたか？

はい いいえ

* 「いいえ」とお答えになった方

その時間どこにいらっしゃいましたか？ 学内にいた場合には建物名を記入してください。

()

* Q1で「はい」とお答えになった方のみ以下の質問にお答えください。

Q2：訓練情報の第一報を、いつ、どこで受けましたか？

場所については建物名もご記入ください。

時刻 (時 分頃)

場所：講義室・実験室・研究室・その他 ()

(建物名：)

Q3：どのような手段で連絡を受けましたか？

館内放送・口頭・文書受渡し・電子メール・電話・その他 ()

Q4：何人の学生に地震時における対応を説明されましたか？

() 人くらい

Q5：今回連絡を受けた場所またはふだん学内で滞在時間の長い場所で、突然地震で大きくゆれたことを想定してください。その場合どのような災害発生の危険要因があるでしょうか。

部屋名(具体的に；)

危険要因 ()

Q6：今回の訓練に対しご意見がございましたら御記入ください。

御協力ありがとうございました。御記入後

へご提出ください。

Questionnaire for the Earthquake Drill 2003

Natural Hazards Management Committee, Nagoya University

Name _____ Title _____
Department _____

An earthquake drill was undertaken in the first period on November 5th assuming that the Tokai Earthquake emergency information is issued. Please take a moment to fill out the following questionnaires to improve the future drills.

Q1) Have you got the emergency announcement that "Tokai Earthquake Screening Committee (Hantei-kai) has been called" BEFORE 10:15 (1st period) in November 5th?

YES NO

*If you chose NO,

Where were you at that time? If you were in Nagoya University, specify the building name.

()

*Those who answered YES in Q1 proceed to the following questionnaires.

Q2) When and Where did you receive the emergency announcement?

Time: about hour minute

Place (Choose one): Classroom, Laboratory, Office, Other ()

(Building name :)

Q3) How did you receive the emergency announcement?

Public address system, Document-handing, E-mail, Telephone, Other ()

Q4) How many students did you instruct the emergency countermeasures for earthquakes?

about () students.

Q5) Suppose you get a large quake in your office or in the room where you received the emergency announcement. What is the source of danger? (e.g. A bookshelf without fastened on the wall may topple over me.)

Room ()

Risk ()

Q6) Additional comments (optional)

Thank you for your time and thinking. Please submit the sheet to

平成15年度 名古屋大学地震防災訓練 事務官・技官向けアンケート

自然災害対策専門委員会

所属部局

職名

氏名

平成15年11月5日第1限に東海地震の判定会招集を想定した情報伝達訓練を行いました。
今後の資料のため以下のアンケートにお答えください。

Q1 11月5日の午前10時15分(1限)までに、今回の訓練情報である「東海地震の判定会招集」の連絡を受けましたか?

はい いいえ

*「いいえ」とお答えになった方

その時間どこにいらっしゃいましたか? 学内にいた場合には建物名を記入してください。

()

*Q1で「はい」とお答えになった方のみ以下の質問にお答えください。

Q2: 訓練情報の第一報を、いつ、どこで受けましたか?

場所については建物名もご記入ください。

時刻(時 分頃)

場所: 講義室・実験室・研究室・その他()

(建物名:)

Q3: どのような手段で連絡を受けましたか?

館内放送・口頭・文書受渡し・電子メール・電話・その他()

Q4: 今回連絡を受けた場所またはふだん学内で滞在時間の長い場所で、突然地震で大きくゆれたことを想定してください。その場合どのような災害発生の危険要因があるでしょうか。

部屋名(具体的に;)

危険要因()

Q5: 今回の訓練に対しご意見がございましたら御記入ください。

御協力ありがとうございました。御記入後

へご提出ください。

東海地震や東南海地震で
名古屋市もかなりの揺れが予想されています。
名古屋大学も地震に備え、
地震防災体制と初期災害対応の確立を目的とした訓練を行います。



今年は全員参加です！

名古屋大学地震防災訓練

東海地域に「震度6弱」の地震が発生したことを受けて、
情報伝達・安否確認・避難訓練を行います。(避難訓練は一部部局)

講義・セミナー・実験を中断し、地震時の対応行動をとり、豊田講堂 での
防災講演会に参加してください。

平成16年11月12日(金)午前



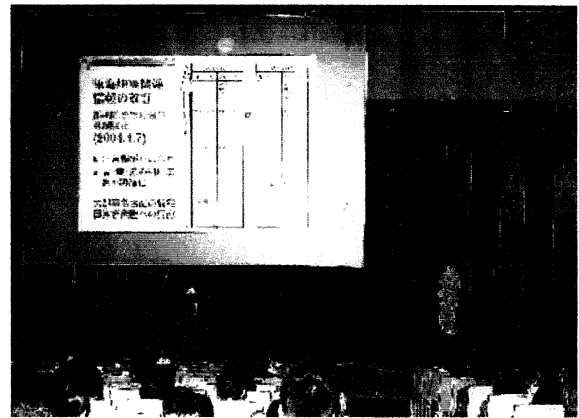
名古屋大学地震防災訓練が実施される

— 地震防災体制と初期災害対応の確立を目的とした訓練を実施 —

名古屋大学地震防災訓練が、11月12日(金)午前10時40分から12時00分(第2限目の授業時間)の間に、東山地区、鶴舞地区(医学部附属病院は別途実施予定のため除外)、大幸地区、留学生会館、国際喫煙館及び豊川地区で実施されました。

東海地震・東南海地震の発生が予測され、平成14年には名古屋市も「地震防災対策強化地域」に指定されました。本学においても防災力の向上を目指し、災害対策室や自然対策等専門委員会等を設置して取り組みを強化しています。また、本学は、職員、学生等の防災意識の高揚を図ることを目的として、平成15年11月5日と平成16年9月1日に、防災訓練を実施しており、今回が3回目の実施となりました。これまでの訓練は、東海地震の発生が事前に予知され、地震情報が出されたことを想定して実施してきましたが、地震予知が必ずしも成功するとは限らないことから、今回は、予知情報がないままに、突発的に地震が発生したことを想定して、情報伝達・安否確認・避難訓練を行いました。

当日は、午前10時35分に震度6弱の地震が発生したことを想定し、平野総長から災害対策統括本部設置の



▲防災講演会の様子

指示が出され、訓練開始の情報は、電話やFAXに加え、東山キャンパス内に設置した屋外防災無線装置で伝えられ、館内放送等も利用されました。全部局においては、在室者の安否が確認され、迅速な結果報告が本部になされました。

また、各部局では、災害対策にあたる要員が招集され、災害時の役割分担が確認される貴重な機会となりました。それ以外の教職員、学生等は、防災訓練の一環として、12時までの残りの時間を利用して、豊田講堂で行われた防災講演会に参加しました。講演会では、総長、鈴木災害対策室長及び奥村施設管理部施設整備課長から防災上の留意点が述べられ、約400名の参加者が熱心に耳を傾けていました。



▲災害対策統括本部

平成16年度第1回地震防災訓練（9月1日）アンケート集計結果について

9月1日に行われた第1回の地震防災訓練（情報伝達訓練）におけるアンケート調査の結果を示す。全体で1916名の方からアンケート回答をいただき、回答者の86%が「東海地震注意情報（訓練情報）」の発表について連絡を受けていた。連絡の手段で最も多かったのは口頭連絡(31%)であり、情報の伝達時刻は10:10から10:19が最も多く、連絡を受けた人の70%以上は20分以内に連絡を受けていた。

1.部局別アンケート回答者数

総数1916名から回答をいただいた。最も回答数が多かったのが工学部・工学研究科の520名で、次いで医学部附属病院の232名であった。そのほか、100名を超える回答があったのが、医学部・医学系研究科（172名）、本部（171名）、エトピア科学研究機構（100名）であった。なお、今回の訓練では、農学部・生命農学研究科（19名）と理学部・理学研究科・多元数理科学研究科（38名）は大学院入試のため、構成員への訓練情報の伝達は行っていない。そのため、この2部局は組織規模に較べて回答者数が著しく少ない。

2.職名別アンケート回答者数

教官の回答者数は教授が219名、助教授が146名、講師が45名、助手が170名であった。これは全回答の30%になる。事務職員は353名、技術系職員は225名、付属学校教員は38名に回答いただいた。契約職員・パートなどの方が最も回答数が多く、556名の方に回答いただいた。

3.東海地震注意情報（訓練情報）発表連絡の受信状況

1916名の回答者中86%にあたる1639名の方が訓練情報を受けていた。情報を受けていない人が14%いたが、その半数以上は出張や休暇などで大学にいない人たちであった。

4.連絡を受けた場所

研究室が最も多く、712名（43%）であった。次いで、事務室が545名（34%）であった。この2つで全回答の80%近くを占めている。夏休み中であったため、講義室で連絡を受けた人は少なかった。

5.情報を伝えた学生の人数

約半数の人は学生への情報伝達は行っていない。これは夏休み中でもあり、大学に出ている学生の人数も少なかったためと考えられる。その一方で、11人以上の学生に情報を伝達した人も5%いた。

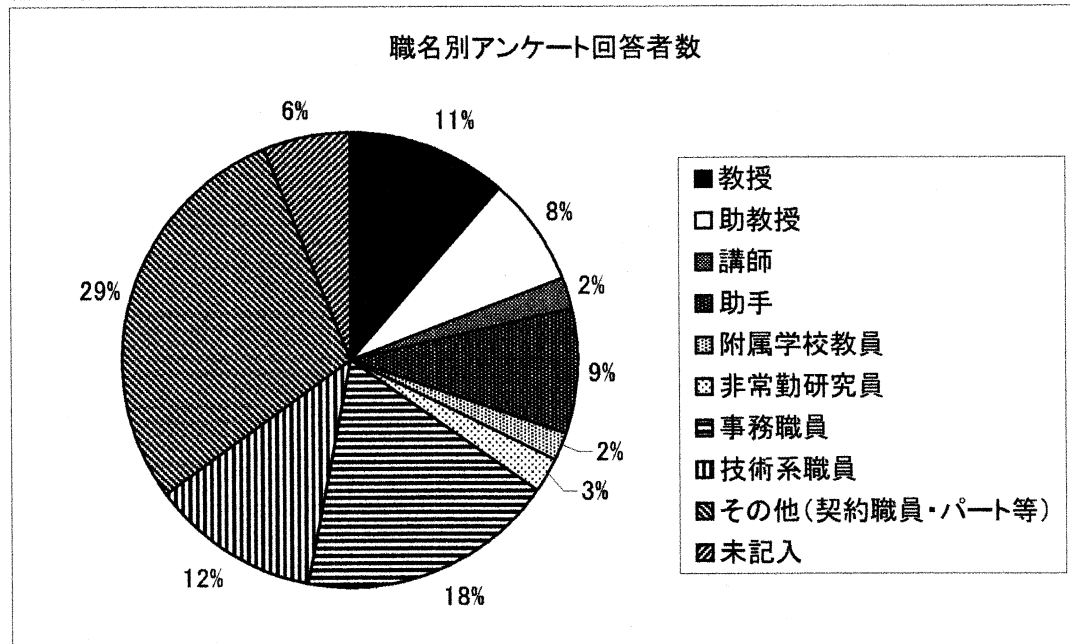
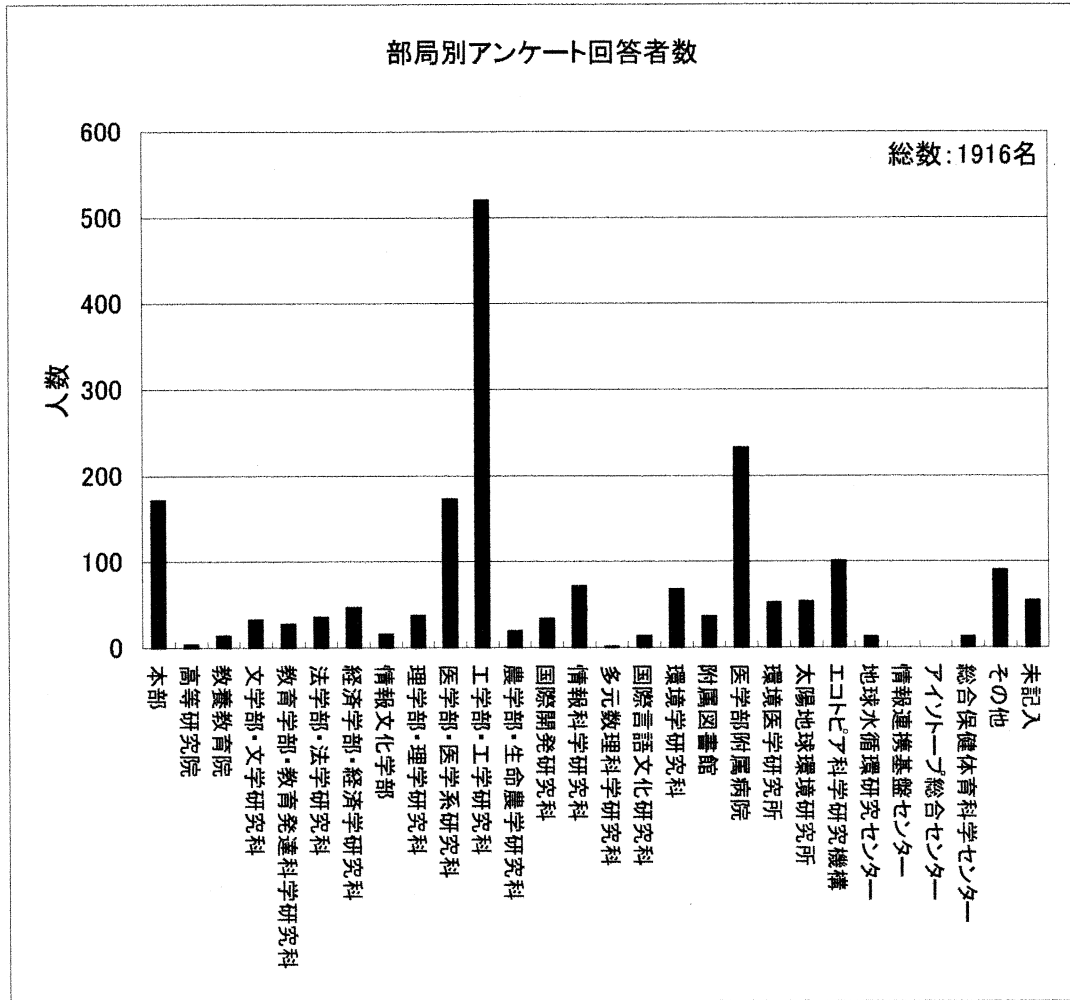
6.情報の受信経路

口頭で連絡を受けた人が 508 名(31%)と最も多かった。次いで館内放送 (394 名,24%)、Eメール (270 名,16%)、電話 (259 名,16%) であった。事務室など人が集中している場所では、口頭で連絡を受けている場合が多く、研究室などの人が分散している環境では、その他の連絡手段による場合が多かった。

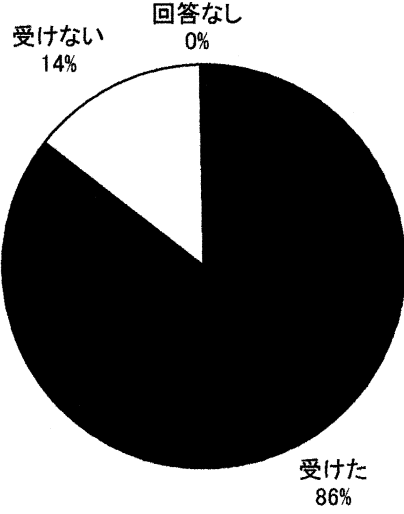
7.情報を受けた時刻

訓練の開始から約 10 分程度経過した 10:10~10:19 に情報を受けた人が最も多かった (453 名)。次いで、10:00~10:09 (306 名)、10:20~10:29 (217 名) が多く、10:30 までにはほとんどの人に情報が届いていた。

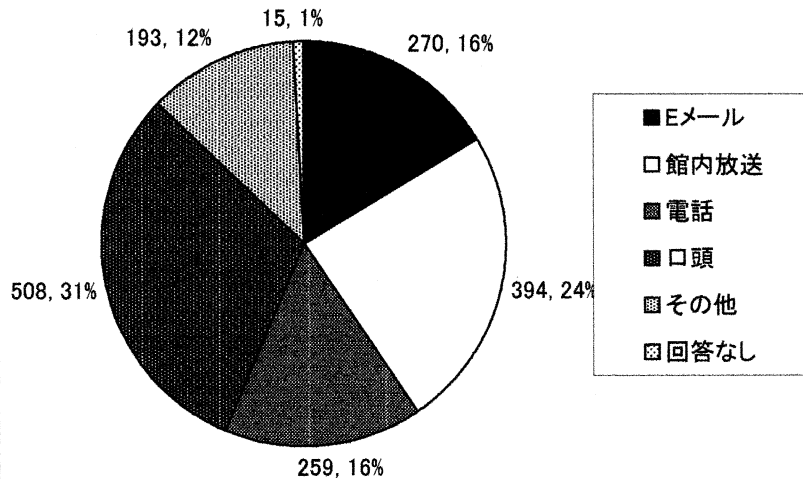
第1回(9月1日)アンケート結果



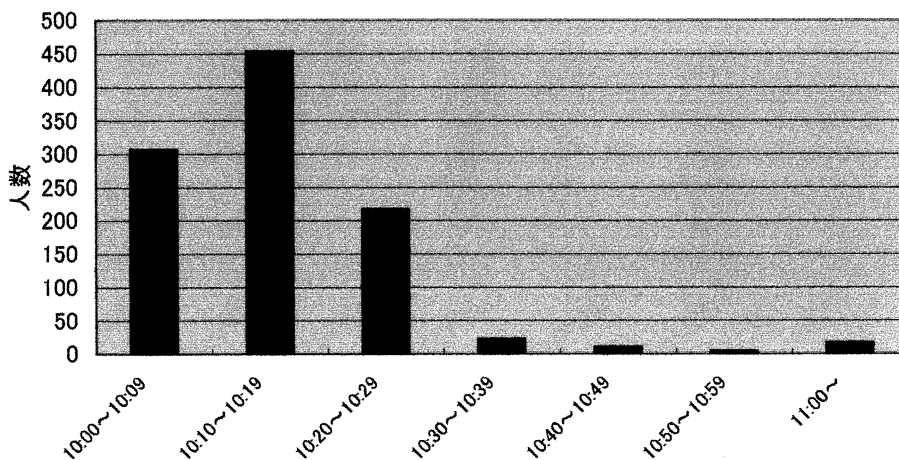
東海地震注意情報(訓練情報)発表の連絡を受けたか



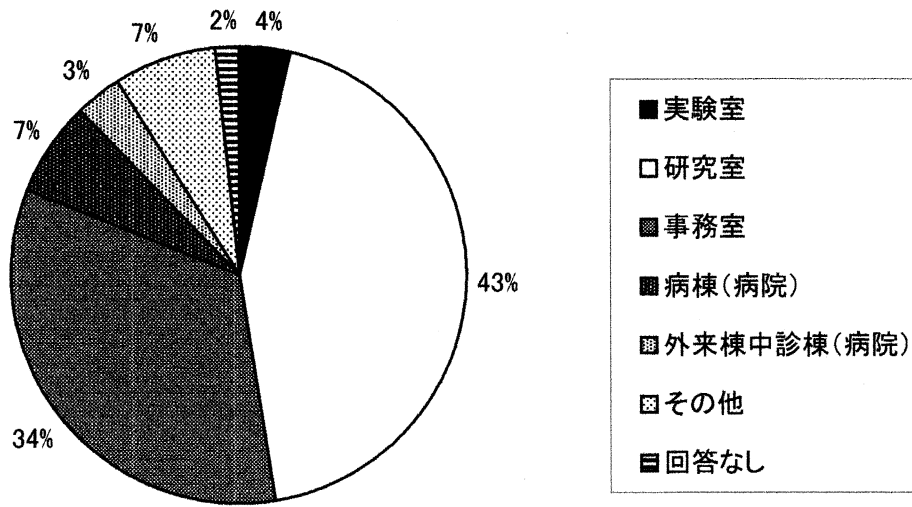
どのような経路で連絡を受けたか



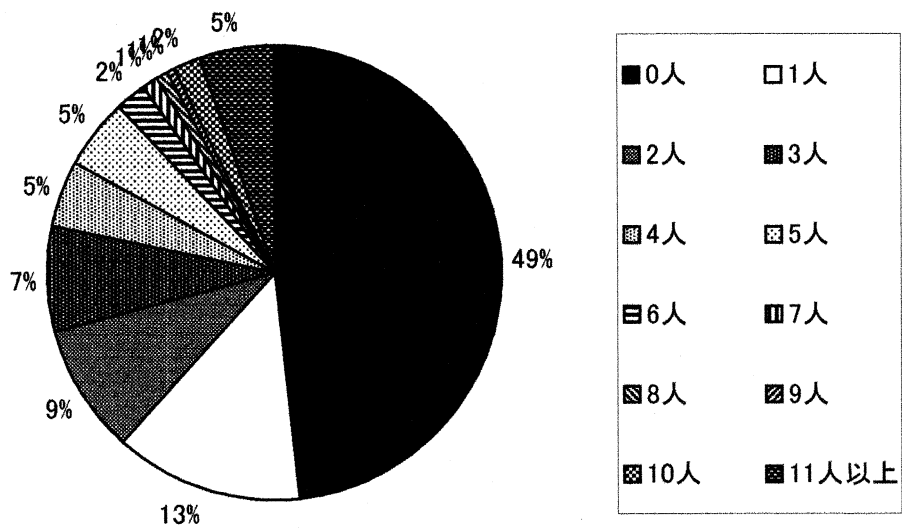
最初に情報を受けた時刻



どこで連絡を受けたか



何人の学生に情報を伝達しましたか？



平成 16 年度第 2 回地震防災訓練（11 月 12 日）アンケート集計結果について

11 月 12 日に行われた第 2 回の地震防災訓練におけるアンケート調査の結果を示す。今回は Web 形式のアンケートを試行し、当初は、訓練当日の 11 月 12 日から 2 週間の 11 月 26 日までを回答期間としたが、最終的には 12 月 1 日まで約 1 週間延長し、851 名の方からアンケート回答をいただいた。今回の訓練では、回答者の 80%が「震度 6 弱の地震が発生」（訓練情報）の連絡を受けており、連絡の手段で最も多かったのは、9 月の訓練同様に口頭伝達（29%）であった。今回の訓練で初めて使用した屋外スピーカーも 28%と僅差で 2 位となり、多くの人に屋外スピーカーの存在が知られることとなった。しかし放送があったことはわかったが、内容は聞き取れなかったという意見も多く、スピーカーの配置や放送の音質など今後とも継続して改善していく必要があることがわかった。

1. 部局別アンケート回答者数

総数 851 名から回答をいただいた。本年 9 月の防災訓練では、1916 名の方に回答をいただいており、今回の方が訓練対象者は多いにもかかわらず、回答者数は 44%にとどまっている。web 形式アンケートを採用すると集計は楽であるが、周知方法などを今後改善していく必要があると考えられる。

最も回答数が多かったのが工学部・工学研究科の 219 名で、次いで本部の 95 名であった。そのほか、50 名を超える回答があったのが、理学部・理学研究科（84 名）、環境学研究科（74 名）であった。部局によって、Web 形式のアンケートに抵抗があるところと、そうでないところがあるようである。なお、今回の訓練には、医学部附属病院は参加していないため、回答数ゼロである。

2. 職名別アンケート回答者数

教官の回答者数は教授が 84 名、助教授が 95 名、講師が 18 名、助手が 86 名であった。これは全回答の 33%になる。事務職員は 177 名、技術系職員は 46 名に回答いただいた。契約職員・パートなどの方は 9 月の訓練にくらべ回答者数が激減しており、101 名の回答にとどまった。また学生の回答者は、学部学生 48 名、大学院生 181 名であった。

3. 「震度 6 弱の地震が発生」という訓練情報の受信状況

851 名の回答者中 80%にあたる 684 名の方が訓練情報を受けていた。情報を受けていない人は 167 名（20%）であった。

4. 連絡を受けた場所

9 月の訓練同様に、研究室が最も多く 308 名（46%）であった。次いで、事務室が 245 名（36%）であった。この 2 つで全回答の 80%以上を占めるという傾向も前回の訓練と変わらない。今回は、講義室で連絡を受けた人が 63 名（9%）おり、学生のアンケート回答率が上がれば、講義室で連絡を受けた人の数が増えるものと思われる。

一方、連絡を受けなかった人、167名の居場所を見ると、その50%にあたる84名が学内の研究室や事務室にいた。今後、このような人を減らすために、屋外スピーカーの充実などを推進する必要がある。

5.情報の受信経路

今回の訓練で初めて使用した屋外スピーカーが効果を発揮し、186名(28%)の人が屋外放送により地震発生の情報を受けた。9月の訓練では最も回答が多かった口頭が今回も最多となり191名(29%)であったが、屋外スピーカーとの差は僅差である。以下、屋内スピーカー(館内放送)が126名(18%)、Eメールが119名(17%)であった。電話によって回答を受けた人は50名(7%)と、前回の訓練よりも大幅に減っているが、これはアンケート回答者層が一部前回と異なっている(パートなどの回答者が少ない)影響の可能性はある。

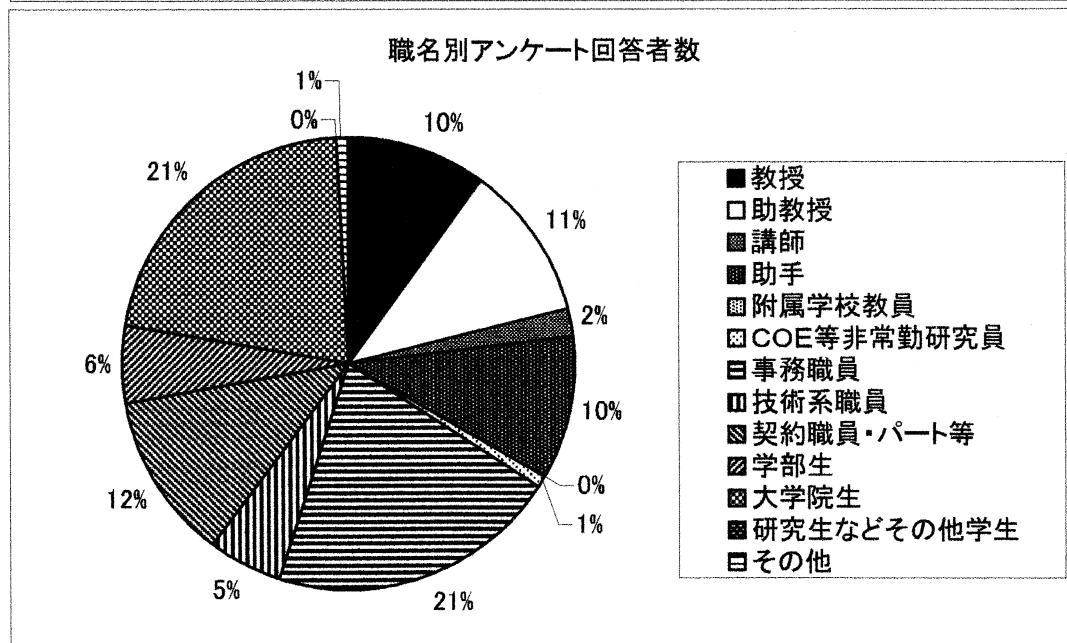
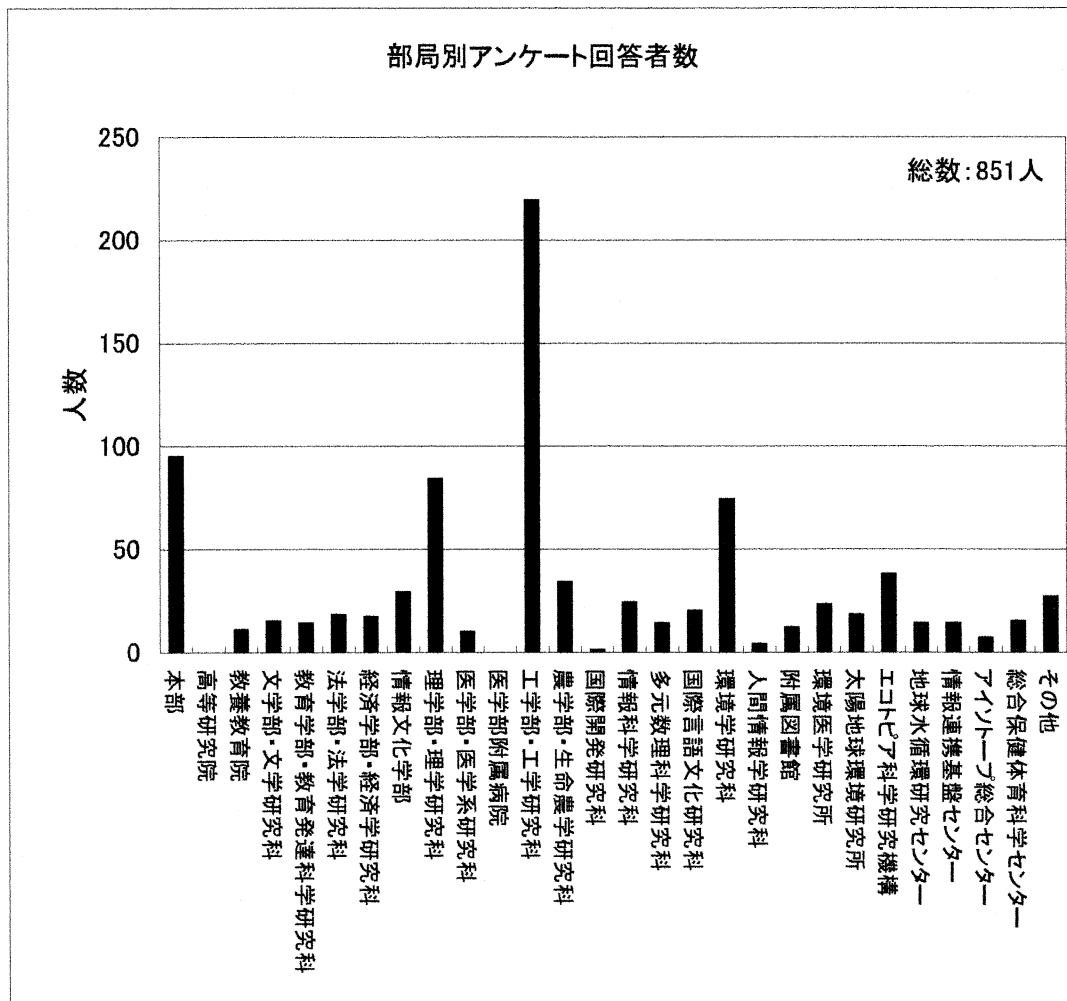
6.情報を受けた時刻

訓練の開始から約10分程度経過した10:40~10:49に情報を受けた人が最も多かった(247名)。次いで、10:50~10:59(100名)、10:30~10:39(91名)が多く、11:00までにはほとんどの人に情報が届いていた。訓練開始前の10:00~10:29に情報を受け取ったと回答した人も180名以上いるが、このほとんどは誤回答であろう。

7.地震発生連絡を受けての行動

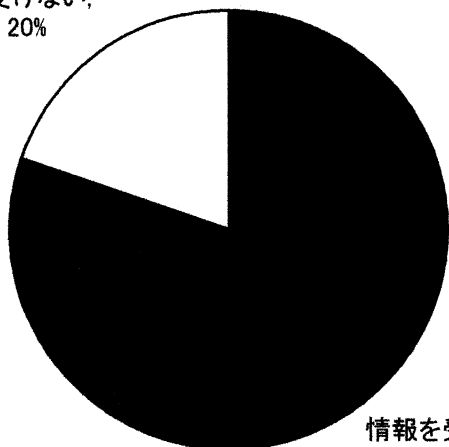
最も多かったのが、「安否確認」で201名の方から回答があった。次いで周囲の教職員への連絡が174名、周囲の学生への連絡が156名であった。避難経路を確保するための窓やドアをあけた人は39名、非常携行品の確認を行った人は19名にとどまった。

2回目(11月12日)アンケート結果



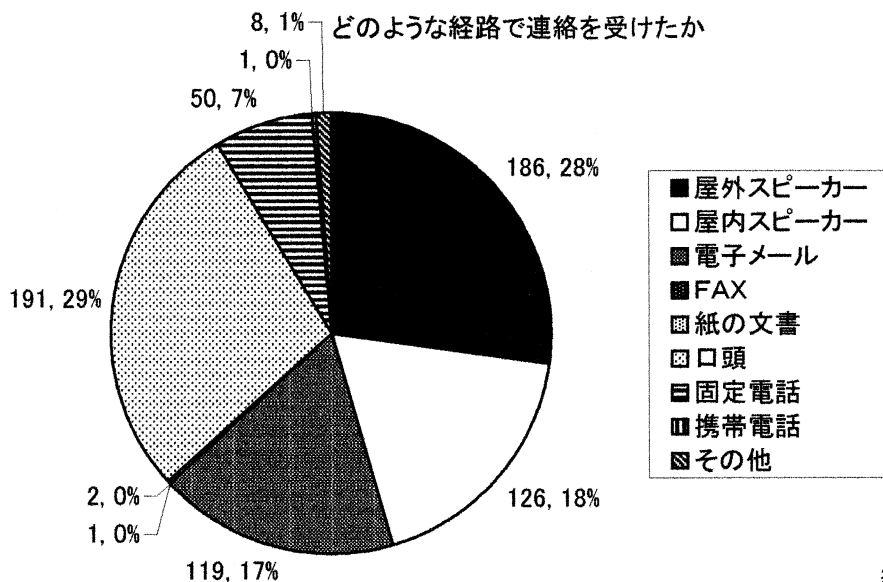
「震度6弱の地震が発生」(訓練情報)の連絡を受けたか

情報を受けない,
167, 20%



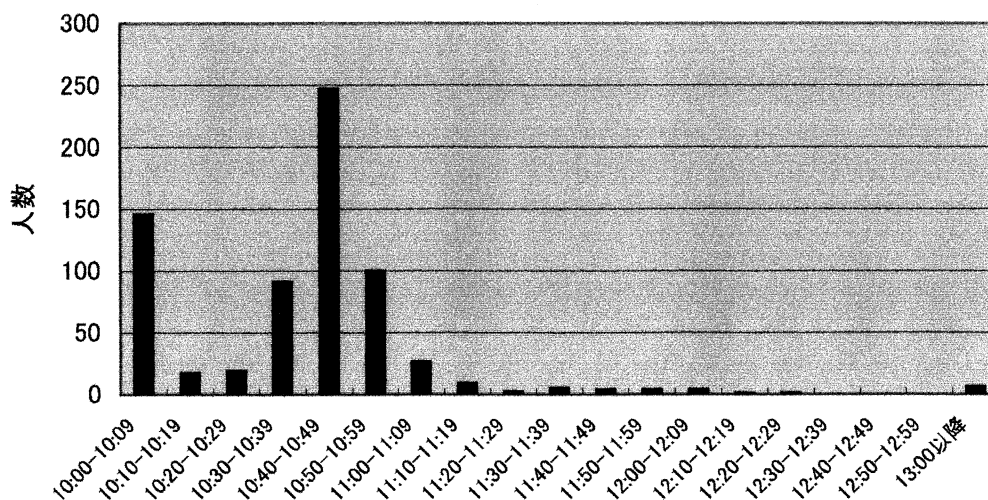
情報を受けた,
684, 80%

どのような経路で連絡を受けたか

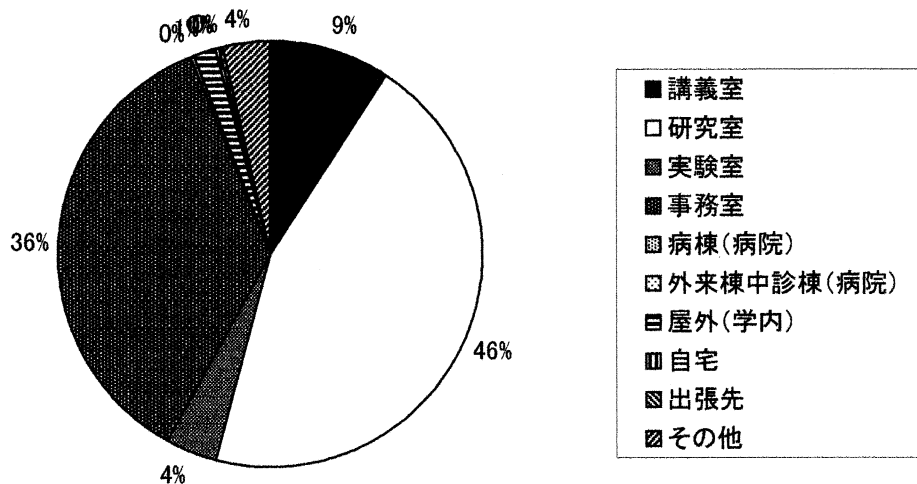


総数: 684名

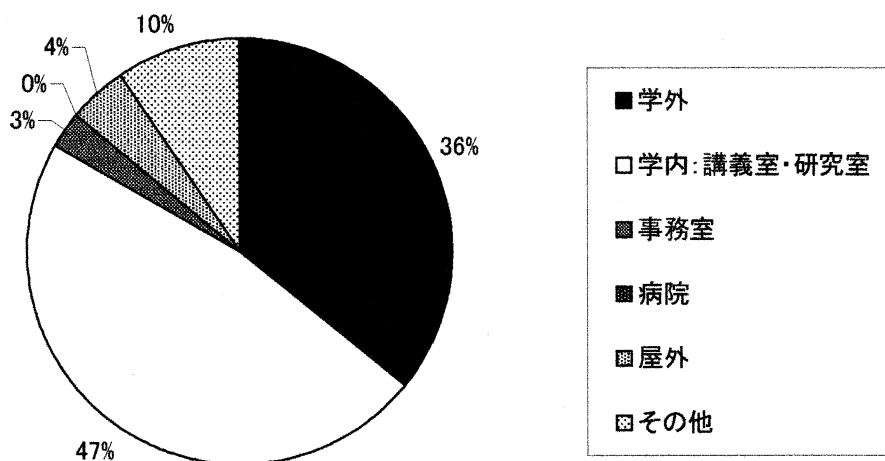
最初に情報を受けた時刻



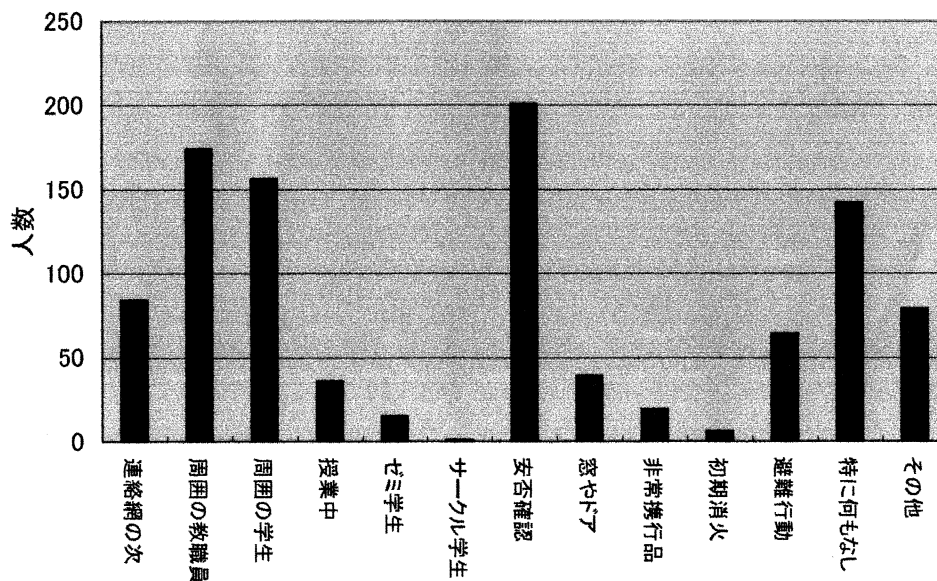
どこで連絡を受けたか



連絡を受けなかった人はどこにいたか



連絡を受けて何をしたか?



平成16年度(第1回)「名古屋大学地震防災訓練」(本部)打合会

日 時 平成16年8月26日(木) 13時30分から

場 所 本部1号館 第1会議室

(配布資料)

- 資料1 平成16年度(第1回)名古屋大学地震防災訓練実施計画
- 資料2 平成16年度(第1回)名古屋大学地震防災訓練行動マニュアル
- 資料3 平成16年度(第1回)名古屋大学地震防災訓練「災害対策統括本部」行動マニュアル
- 資料4 9月1日 地震防災訓練当日の情報伝達の流れ
- 資料5 2004年9月1日地震防災訓練アンケート
(全構成員向け、事務担当者向け、留学生関係者向け)
- 資料6 電子メール受信報告・FAX受信報告・支部設置等報告・部局内情報伝達完了報告(情報連絡等FAX返信用)
- 資料7 訓練情報伝達文(要員召集用、部局連絡用、部局内館内放送の文案1・2、情報伝達テスト用)
- 資料8 本部所掌施設連絡確認票

(参考資料)

- 参考1 統括本部防災隊組織(案)
- 参考2 統括本部防災隊組織 各班の任務(案)
- 参考3 東山団地放送用設備整備済み建物及び防災無線スピーカー設置位置図

担当：施設管理部 施設整備課
環境管理室
内線(2093)(4997)(2096)

平成16年度(第1回)名古屋大学地震防災訓練実施計画

1. 目的

東海地域に大規模地震が発生することを想定して、就業時間内における地震防災体制確立の一環として情報伝達訓練を実施し職員
の防災意識の高揚を図ることを目的とする。

2. 訓練の日時

平成16年9月1日(水)午前10時(予定)

3. 訓練想定

「気象庁長官が、午前9時55分に東海地震注意情報を発表した。」との情報を受け全学情報伝達訓練を実施する。

4. 訓練対象範囲

東山地区(ただし、理学研究科・農学研究科は伝達連絡のみ)、鶴舞地区、大幸地区、留学生会館(陶生)、
国際唵鳴館(山手)、附属農場(東郷)、太陽地球環境研究所(豊川)

5. 当日の訓練計画

- (1) 総長が「東海地震注意情報を発表した」の一報を受ける 災害対策室長 → 秘書掛 → 総長
災害対策室長 → 理事・副総長(病院・環境安全担当)
- (2) 総長から災害対策統括本部設置を指示
- ① 災害対策統括本部要員召集 総長 → 秘書掛 → 総務広報課課長補佐(総括)
→ 総務企画部長 → 総務広報課長 [本部要員召集]
- ② 統括本部防災隊要員(各部筆頭課長)の召集
- 総務広報課長 → 総務広報課担当者 → 本部各部総務掛長 → 本部各部筆頭課長
応援要員の召集 総務広報課長 → 総務広報課担当者 → 本部各課応援要員筆頭掛長 → 応援要員
- ③ 部局長への連絡 総務広報課長 → 総務広報課担当者 → 各部局メール等受信担当者 → 各部局長
- (3) 「災害対策統括本部(本部1号館第1・2会議室)」設置
- (4) 情報伝達
- ① 部局支部等設置指示 (災害対策統括本部 総務広報課 → 各部局)
【メール送信、FAX送信、防災無線による無線連絡】

| 事 項 | 支 部 を 置 く 部 局 | 支 部 を 置 か な い 部 局 |
|---------------------------------|--|---|
| 注意情報の収集情報連絡 (総務広報課→各部局) | 部局長が 災害対策統括本部 から受信 | 部局長が 災害対策統括本部 から受信 |
| 支部等設置指示 (部局連絡担当→部局内) | 部局長から支部設置指示 災害対策支部要員及び単位消防隊召集 要員集合・「支部設置」 | 部局長から単位消防隊召集指示 単位消防隊召集 要員集合 |
| 支部等設置完了報告 (各部局→総務広報課) | ・防災無線による受信報告 ・支部設置報告 (支部長→災害対策統括本部 情報連絡班) (1)【電話 TEL7499】又は【FAX TEL2134】 による報告 (2)防災無線配置担当場所は【防災無線】を併用して 報告 部局内情報伝達 指 揮 ①単位消防隊連絡通報班→実験指導教員等 避難誘導 | ・防災無線による受信報告 ・単位消防隊集合完了報告 (指揮班→災害対策統括本部 情報連絡班) (1)【電話 TEL7499】又は【FAX TEL2134】 による報告 (2)防災無線配置担当場所は【防災無線】を併用して 報告 部局内情報伝達 指 揮 ①単位消防隊連絡通報班→実験指導教員等 避難誘導 |
| 情報伝達完了報告 (各部局→総務広報課) | ・部局内情報伝達完了報告 (支部長→災害対策統括本部 情報連絡班) (1)【電話 TEL7499】又は【FAX TEL2134】 による報告 (2)防災無線配置担当場所は【防災無線】を併用して 報告 | ・部局内情報伝達完了報告 (指揮班→災害対策統括本部 情報連絡班) (1)【電話 TEL7499】又は【FAX TEL2134】 による報告 (2)防災無線配置担当場所は【防災無線】を併用して 報告 |
| 訓練終了 | ②実験指導教員等→学生等在居者 | ②実験指導教員等→学生等在居者 |
| アンケート回収 (各部局→ 施設整備課環境管理室) | ・アンケート回収(教員等→部局指定部所→部局長) ・アンケート提出 (部局→施設管理部施設整備課環境管理室) 提出期限 9月10日(金) | ・アンケート回収(教員等→部局指定部所→部局長) ・アンケート提出 (部局→施設管理部施設整備課環境管理室) 提出期限 9月10日(金) |

平成16年度(第1回)名古屋大学地震防災訓練行動マニュアル

| 所要時間 | 事項 | 災害対策統括本部 | 災害対策支部を置く部局 | 災害対策支部を置かない部局 | 学生・教職員等在学者 |
|-------------------|-------------------------------|--|---|---|------------|
| 9月1日 10:00 | 東海地震注意情報発表の受信 | ・「気象庁長官が、午前9時55分に東海地震注意情報を発表した」との情報を受ける。 (本部長等不在時の緊急連絡体制等の確立) | | | |
| タイムスケジュール (目安) | | | | | |
| 10:01 | 「災害対策統括本部」設置指示 | 総長から「災害対策統括本部設置」の指示 | | | |
| 10:02 | | 要員召集指示 | | | |
| 10:02 | 要員召集、及び東海地震注意情報発表の連絡 | 「統括本部情報連絡班」から本部内へ 【電子メール送信・FAX送信】 ・これは、訓練情報です。 ・本日 9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。 ・直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部1号館第2会議室、防災隊要員・応援要員は、第1会議室に集合してください。 ・なお、本部要員・防災隊・応援要員以外は、各課で待機し、班の業務の確認及び検討を実施してください。 | | | |
| 10:05 | | 統括本部要員等集合 | | | |
| 10:05 | 「災害対策統括本部」設置 | 「災害対策統括本部」設置 | | | |
| 10:06 | 東海地震注意情報発表の連絡及び各部局における支部等設置命令 | 【メール送信・FAX送信】 【防災無線】配置担当場所へ発信 ・これは、訓練情報です。 ・こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。 ・本日 9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。 ・各部局は、「災害対策支部」または、支部を置かない部局では、「単位消防隊」を召集してください。 ・以後は、各部局の「地震防災マニュアル」および「各消防隊の指示」に従って行動してください。 | | | |
| 10:09 | 部局連絡情報受信 | | 部局長が災害対策統括本部からの「東海地震注意情報発表」情報を受信 | 部局長が災害対策統括本部からの「東海地震注意情報発表」情報を受信 | |
| 10:10 | メール・FAXの受信確認 | メール・FAXの受信状況を電話又はFAXにて報告を受領 | メール・FAXの受信状況を回答 【電話 TEL7499】又は 【FAX TEL2134】による報告 | メール・FAXの受信状況を回答 【電話 TEL7499】又は 【FAX TEL2134】による報告 | |
| | 防災無線配置場所取扱担当と受信確認 | 防災無線配置場所との受信状況を防災無線にて確認 | 【防災無線配置場所取扱担当から併用して報告】 | 【防災無線配置場所取扱担当から併用して報告】 | |
| 10:10 | 支部等設置指示 | | 部局長から「災害対策支部」設置指示 | 部局長から「消防隊」招集指示 | |
| 10:11 | 支部等要員召集連絡 | | 「消防隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から部局内へ ・これは、訓練情報です。 ・こちらは、〇〇研究科災害対策支部です。 ・本日 9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。 ・直ちに「災害対策支部」要員及び「消防隊」要員は、〇号館〇〇室に集合してください。 ・以後は、〇〇研究科地震防災対策マニュアル及び消防隊の指示に従って行動してください。 | 「消防隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から部局内へ ・これは、訓練情報です。 ・こちらは、〇〇研究科消防隊です。 ・本日 9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。 ・直ちに「〇〇研究科消防隊」要員は、〇号館〇〇室に集合してください。 ・以後は、〇〇研究科地震防災対策マニュアル及び消防隊の指示に従って行動してください。 | |
| 10:16 | 支部等要員集合 | | 支部要員及び消防隊要員集合 | 消防隊要員集合 | |
| 10:18 | 支部等設置 | | 災害対策支部設置 | | |
| 10:19 | 「災害対策支部設置」「消防隊集合」報告 | 部局からの「支部等設置完了」報告を受領(電話・防災無線) | 【電話 TEL7499】又は 【FAX TEL2134】による報告 【防災無線配置場所取扱担当から併用して報告】 「支部長」から「災害対策統括本部」へ支部設置報告 | 【電話 TEL7499】又は 【FAX TEL2134】による報告 【防災無線配置場所取扱担当から併用して報告】 「消防隊指揮班」から「災害対策統括本部」へ要員集合報告 | |

| 日時 | 事項 | 災害対策統括本部 | 災害対策支部を置く部局 | 災害対策支部を置かない部局 | 学生・教職員等在学者 |
|-------|---------------|--------------------------------|---|--|--|
| 10:16 | 「部局内情報伝達」開始 | | 「消防隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から 部局内全域へ ・これは、訓練情報です。 ・こちらは〇〇研究科消防隊指揮班です。 ・本日 9時55分に気象庁長官より「東海地震 注意情報」が発表されました。 ・研究等業務を一時中断のうえ、学生等在居者に対し当該部屋に係る二次災害防止措置（装置等の緊急停止、電気の遮断、ガス・水道の元栓閉鎖等）及び避難・帰宅時における諸注意事項の説明をしてください。 | 「消防隊指揮・連絡通報・避難誘導班」 部局内全域へ ・これは、訓練情報です。 ・こちらは〇〇研究科消防隊指揮班です。 ・本日 9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。 ・研究等業務を一時中断のうえ、学生等在居者に対し当該部屋に係る二次災害防止措置（装置等の緊急停止、電気の遮断、ガス・水道の元栓閉鎖等）及び避難・帰宅時における諸注意事項の説明をしてください。 | 「研究等指導教員等」から「在居者」へ 訓練情報に基づく「説明事項」Ⅰ *注意情報発表時の対応 *突発地震発生時の対応 ・現在業務を速やかに中断。 ・帰宅連絡先及び帰宅報告義務 ・部屋の災害防止措置 ①装置等の緊急停止 ②火源・熱源等電力の遮断 ③都市ガス・水道の元栓閉鎖 ④実験・研究用薬品の安全確認（接触破壊防止、混触危険性回避、落下防止等） ⑤高圧ガスボンベの安全確認（転倒防止、元バルブ閉鎖） ⑥その他当該部屋に係る必要事項等 |
| 10:34 | 部局内情報伝達終了 | 部局からの「部局内情報伝達完了報告」を受領（電話・防災無線） | 「消防隊指揮班」から「支部長」へ部局内伝達完了報告 【電話 TEL 7 4 9 9】又は 【FAX TEL 2 1 3 4】による報告 【防災無線配置場所取扱担当から併用して報告】 | 「消防隊指揮班」から「部局長」へ部局内伝達完了報告 【電話 TEL 7 4 9 9】又は 【FAX TEL 2 1 3 4】による報告 【防災無線配置場所取扱担当から併用して報告】 | 又は 「寄宿舍管理責任者」から「在居者」へ 訓練情報に基づく「説明事項」Ⅱ *注意情報発表時の対応 *突発地震発生時の対応 ・現在の行動を直ちに中断 ・浴槽に水をはる。 ・貴重品等必要最低限のものの確保 ・その他安全確保に係る必要事項 ・所在連絡（在居又は帰省先） |
| 10:35 | 「部局内情報伝達」完了報告 | | 「支部長」から「災害対策統括本部」へ部局内伝達完了報告 | 消防隊指揮班から「災害対策統括本部」へ部局内伝達完了報告 | |
| 10:40 | 訓練終了 | | | | 指揮 「指導教員等」から「消防隊連絡通報避難誘導班」へアンケート提出 |
| | 「アンケート」回収 | | アンケートを9月10日までに施設管理部施設整備課環境管理室へ提出 | アンケートを9月10日までに施設管理部施設整備課環境管理室へ提出 | |

*注 災害対策統括本部電話番号
 東山キャンパス内部局 7 4 9 9
 鶴舞キャンパス 8 5 - 7 4 9 9
 大幸キャンパス 8 5 - 7 4 9 9
 豊川キャンパス 0 5 2 - 7 8 9 - 7 4 9 9

平成16年度(第1回)名古屋大学地震防災訓練「災害対策統括本部」行動マニュアル

| 区分 | 災害 | | | 対策 | | | 統括 | | | 本部 | | | | | | |
|---------------|---|-----------------------|----------------------------------|------------------------------|--|----------------------------------|------------------------------|-------------------|----------|-----------------------|----------------------------------|------------------------------|--|----------------------------------|------------------------------|-------------------|
| | 本部長 | 副本部長 | (広報班・情報連絡班・救護班) | (消火班・搬出班・救護物資班) | (避難誘導班・避難住民対応班) | (危険物班・建物復旧班・警備班・施設工作班) | (学生対応班・学外施設対応班) | 災害対策室 | 本部長 | 副本部長 | (広報班・情報連絡班・救護班) | (消火班・搬出班・救護物資班) | (避難誘導班・避難住民対応班) | (危険物班・建物復旧班・警備班・施設工作班) | (学生対応班・学外施設対応班) | 災害対策室 |
| 役職名 | 本部長 | 副本部長 | (広報班・情報連絡班・救護班) | (消火班・搬出班・救護物資班) | (避難誘導班・避難住民対応班) | (危険物班・建物復旧班・警備班・施設工作班) | (学生対応班・学外施設対応班) | 災害対策室 | 本部長 | 副本部長 | (広報班・情報連絡班・救護班) | (消火班・搬出班・救護物資班) | (避難誘導班・避難住民対応班) | (危険物班・建物復旧班・警備班・施設工作班) | (学生対応班・学外施設対応班) | 災害対策室 |
| 担当 | ・ 総長 | ・ 理事・副総長 ・ 理事・事務局長 | ・ 総務企画部長 (総務企画部の総務掛長及び主任又は掛員) | ・ 財務部長 (財務部の総務掛長及び主任又は掛員) | ・ 研究協力・国際部長 (研究協力・国際部の総務掛長及び主任又は掛員) | ・ 施設管理部長 (施設管理部の総務掛長及び主任又は掛員) | ・ 学務部長 (学務部の総務掛長及び主任又は掛員) | ・ 災害対策室長 ・ 同室員 | ・ 総務企画部長 | ・ 理事・副総長 ・ 理事・事務局長 | ・ 総務企画部長 (総務企画部の総務掛長及び主任又は掛員) | ・ 財務部長 (財務部の総務掛長及び主任又は掛員) | ・ 研究協力・国際部長 (研究協力・国際部の総務掛長及び主任又は掛員) | ・ 施設管理部長 (施設管理部の総務掛長及び主任又は掛員) | ・ 学務部長 (学務部の総務掛長及び主任又は掛員) | ・ 災害対策室長 ・ 同室員 |
| 防災課要員 | | | 総務企画部長 | 財務課長 | 研究支援課長 | 施設企画課長 | 学務企画課長 | | | | | | | | | |
| 応援要員 | ・ 総務企画部総務広報課課長補佐(秘書)、総務広報課課長補佐(総括)、総務広報課課員(5名)、総務広報課課長補佐(企画・評価)、企画課課長補佐(法規)、企画課課員若千名、施設整備課課長補佐、施設整備課課員若千名、施設管理課課長補佐、施設管理課課員若千名 ・ 総務企画部長 ・ 総務課長 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 職務 | ・ 統括本報の設置 ・ 総括(総指揮) ・ 本部長を補佐し、不在時はその任務を代行 本部要員及び応援要員は、災害対策統括本部へ集合する 本部要員、応援要員以外は、班毎に集合し、別表各班の業務について確認又は検討する。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| タイムスケジュール(目安) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10:00 | ・ 災害対策室からの「東海地震注意情報を発表した。」情報を受ける。 ・ 「気象庁長官が、時55分に注意情報を発表した。」情報を得る ・ 電話にて室長から本情報を総長(2000)及び中島(5810)へ伝達 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10:01 | ・ 総長の命をうけ秘書掛は各理事に報告及び総務広報課課長補佐(総括)に「災害対策統括本部・支部」の設置命令を連絡 ・ 総務広報課課長補佐(総括)は総長からの「災害対策統括本部設置等命令」を総務企画部長、総務広報課長に伝達 ・ 総務広報課課長補佐(総括)は総長からの命令(災害対策統括本部設置等命令及び要員各職無頭)を総務広報課課長に伝達し、FAX送信指示及び防炎無線配置場所取得担当に受信確認を指示 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10:01 | ・ 総務広報課課長補佐(総括)は総長からの「災害対策統括本部設置等命令」を総務企画部長、総務広報課長に伝達 ・ 総務広報課課長補佐(総括)は総長からの命令(災害対策統括本部設置等命令及び要員各職無頭)を総務広報課課長に伝達し、FAX送信指示及び防炎無線配置場所取得担当に受信確認を指示 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10:02 | ・ 総務広報課課長補佐(総括)は総長からの命令(災害対策統括本部設置等命令及び要員各職無頭)を総務広報課課長に伝達し、FAX送信指示及び防炎無線配置場所取得担当に受信確認を指示 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10:05 | (災害対策統括本部要員は本部1号館第2会議室に又本部応援要員(会議室東側)及び本部防災隊(会議室西側)は本部1号館第1会議室に集合) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10:05 | 「災害対策統括本部要員」集合、 直ちに災害対策統括本部設置(名古屋大学防災無線局(東山指令局)可搬型設置、電話回線3台及び電子メール回線1台分・FAX1回線分・立ち上げ) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10:06 | ・ 統括本部(総務企画部)は全要員集合報告を本部1号館第1会議室へ報告 ・ 本部「災害対策統括本部設置」及び「支部分部設置指示」等情報伝達訓練開始 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10:06 | ・ 統括本部(総務企画部)からの「災害対策統括本部設置」及び「情報伝達訓練開始」報告 | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 10:06 | 各部署への情報伝達開始 ・支店長・支店副支店長及び「支店等設置指示」 ①支店長・支店副支店長(受信所要時間)数分 ②電子メール・FAX受信状況を電話又はFAXにて確認 (担当 総務広報課職員3名) | | | | | | |
| 10:10 | 7499本部・教養教育院・図書館・文学部・ 法学部・情報科学部・理学部・ 7497経済学部・法学部・理学部・ 工学部・農学部・ 2093国際言語文化研究所・太閤研 究所・保健医学研究センター・総合保健体育科学 センター ③防災無線設置場所との受信確認 (担当 総務広報課職員2名) | | | | | | |
| 10:14 | ・全部署の受信を確認の後 本部長に「部局への情報伝達完了」を報告 | | | | | | |
| 10:15 | ・ 統括本部(総務企画部)から、「部局への情報 伝達完了」報告 | | | | | | |
| 各 部 局 支 部 又 は 単 位 消 防 隊 集 合 (所要時間1分~5分) | | | | | | | |
| 10:20 | ・ 支店設置又は単位消防隊集合受信を 電話又はFAXにて確認 (担当 総務広報課職員3名) 7499本部・教養教育院・図書館・文学部・ 教育学部・附属学校・法学部・理学部・ 7497経済学部・情報科学部・農学部・ 医学部・保健科学部・工学部・農学部 2093国際言語文化研究所・太閤研 究所・保健医学研究センター・総合保健体育科学 センター 防災無線設置場所担当からの報告受信 (担当 総務広報課職員2名) ・ 全部署の 受信の後 本部署に「支店等設置完了」を報告 | | | | | | |
| 10:21 | ・ 統括本部(総務企画部)から「支店等設置完了」 報告 | | | | | | |
| 各 部 局 単 位 消 防 隊 か ら 当 該 部 局 内 「 講 義 ・ 実 験 等 指 導 敬 官 等 に 情 報 伝 達 」 (所要時間5分~20分) | | | | | | | |
| 10:35 | ・ 部局内情報伝達完了報告受信を 電話又はFAXにて確認 (担当 総務広報課職員3名) 7499本部・教養教育院・図書館・文学部・ 教育学部・附属学校・法学部・理学部・ 7497経済学部・情報科学部・農学部・ 2093国際言語文化研究所・太閤研 究所・保健医学研究センター・総合保健体育科学 センター 防災無線設置場所担当からの報告受信 (担当 総務広報課職員2名) ・ 全部署の 受信の後 本部署に「部局内情報伝達完了報告」を報告 | | | | | | |
| 10:36 | ・ 統括本部(総務企画部)から、「全学情報伝達 完了」報告 ・ 「情報伝達訓練」終了宣言 | | | | | | |
| 10:40 | | | | | | | |
| 「 災 害 対 策 統 轄 本 部 」 解 散 (電 話 ・ F A X ・ 電 子 メ ー ル 回 線 格 納) | | | | | | | |

9月1日 地震防災訓練当日の情報伝達の流れ

(1) 総長が災害対策室長から「東海地震注意情報を発表した」の一報を受ける

- 災害対策室長 → 秘書掛(2000)へ電話連絡 → 総長
同 → 中島理事(5810)へ電話連絡

(2) 総長から災害対策統括本部設置を指示

- 災害対策統括本部要員召集
総長 → 秘書掛 → 総務広報課佐藤課長補佐(総括)(2009)
→ 総務企画部長 → 総務広報課長 [本部要員召集]

※ (1) 情報伝達文は、①を参照

- 統括本部本部防災隊召集(各部筆頭課長)
総務広報課長 → 総務広報課担当者 → (電子メール・FAX送信)
→ 各部筆頭掛長 → 各部筆頭課長
- 統括本部応援要員の召集
総務広報課長 → 総務広報課担当者 → (電子メール・FAX送信)
→ 各課筆頭掛長 → 応援要員
- 部局長への連絡
総務広報課長 → 総務広報課担当者 → (電子メール・FAX送信)
→ 各受信担当者 → 各部局長

※ (1) 情報伝達文は、②を参照

※ (2) 電子メール・FAX送信先は、「防災訓練情報連絡表」のとおり

※ (3) 防災無線受信確認は、「名古屋大学防災無線装置配備先一覧表」のとおり

※ (4) 各課筆頭掛長は、「防災訓練情報連絡表(本部)」のとおり

※ (5) 災害対策統括本部(座席図)は別図のとおり

- 本部各部筆頭課以外の各課(防災隊)
各課筆頭掛長 → 各課長(各班) → 各課(〇〇)で待機

- 本部所掌施設等の連絡
各課受信担当者 → 施設受信担当者

※ (1) 情報伝達文は、③を参照

※ (2) 電話・FAX送信先は、「防災訓練情報連絡表(本部所掌施設)」のとおり

① 情報伝達文

1. 「東海地震注意情報発表」受信の電話報告

① 災害対策室長 → 総長（2000）へ電話報告

* 秘書掛において、電話を受信する。

【鈴木災害対策室長】

「防災訓練情報です。総長に報告をお願いします。」と説明のうえ

- ・これは、訓練情報です
- ・本日9時55分に気象庁長官より東海地震注意情報を発表したとの連絡を受けましたので報告します。

【秘書掛】

- ・了解しました。直ちに、総長及び各理事に伝えます。

② 災害対策室長（本部防災担当課に情報確認）

→中島理事（5810）へ報告

* 秘書において、最初に電話を受信するため、→「防災訓練情報です。中島理事をお願いします。」と説明→秘書は中島理事に電話を切り替える→中島理事

【鈴木災害対策室長】

- ・これは、訓練情報です。
- ・本日9時55分に気象庁長官より東海地震注意情報を発表したとの連絡を受けましたので報告します。

【中島理事】

- ・了解しました。本情報を総長に連絡願います。

【中島理事は、電話受信後総長室へ移動】

2. 訓練開始情報

【秘書掛は、総長及び各理事に連絡】

- ・鈴木災害対策室長より報告がありました。
- ・本日9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報を発表した。」との訓練情報です。

（総長は、秘書掛に災害対策統括本部設置を命令）

【秘書掛 → 総務広報課「佐藤課長補佐（総括）（2009）」へ電話伝達】

- ・総長よりの命令です
- ・本日9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報を発表した。」との想定訓練です。
- ・「災害対策統括本部設置」、及び「各部局への情報伝達」訓練を開始してください。

3. 「災害対策統括本部設置」及び「本部防災隊召集」命令

【佐藤補佐→本部各課筆頭掛へ電子メール送信・FAX送信を総務課職員に指示、及び総務広報課長・総務企画部長に伝達】

「電子メール・FAX送信文（佐藤課長補佐の指示により企画課職員が送信）」

- ・ これは訓練情報です。
- ・ 本日 9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部1号館第2会議室、防災隊要員・応援要員は第1会議室に集合してください。
なお、本部要員・防災隊要員・応援要員以外の「本部防災隊要員」は、各課で待機し、班の業務の確認及び検討を実施してください。
- ・ 本情報を内部関係職員に伝達願います。

「総務広報課長・総務企画部長への報告」

- ・ 総長の命により「防災訓練」を開始します。
- ・ 本日 9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報を発表した。」との想定訓練です。
- ・ 現在「災害対策統括本部要員」・防災隊要員・応援要員を、本部1号館第1・第2会議室に召集しています。
なお、本部要員・防災隊要員・応援要員以外の「本部防災隊要員」は各課で待機し、班の業務の確認及び検討を実施しています。
- ・ 直ちに災害対策統括本部（本部1号館第2会議室）に移動願います。

【総務企画部長及び総務広報課長は、本部1号館第2会議室に移動】

4.

| |
|---------------------|
| 要員集合→「災害対策統括本部」設置完了 |
|---------------------|

5. 「災害対策統括本部設置完了」及び「情報伝達開始」報告

- ① 災害対策統括本部（総務広報課長）は、「災害対策統括本部設置完了」及び「部局への情報伝達開始」を秘書掛（本部長あて）に電話報告
- ② 秘書掛は、「災害対策統括本部設置完了」及び「部局への情報伝達開始」を、本部長（総長）、副本部長（理事）に連絡するとともに本部1号館第2会議室への移動依頼を行う。
- ③ 【秘書掛は、総長及び各理事を、本部1号館第2会議室に誘導】

② 「災害対策統括本部」情報伝達文

1. 災害対策統括本部要員及び本部防災隊召集用 (10:02頃)

総務広報課担当・・・本部各課(室)筆頭掛宛へ連絡(電子メール・FAX送信)

- ・ これは、訓練情報です。
- ・ 本日 9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部1号館第2会議室、防災隊要員・応援要員は、第1会議室に集合してください。
なお、本部要員・防災隊要員・応援要員以外の「本部防災隊要員」は、各課で待機し、班の業務の確認及び検討を実施してください。
- ・ 本情報を内部関係職員に伝達願います。

2. 各部局宛「東海地震注意情報発表」伝達用 (10:06頃)

1) 総務広報課担当

- ・ 全部局宛電子メール送信・FAX送信及び防災無線による無線連絡を行う
・・・別紙「防災訓練情報連絡表」参照

- ・ これは、訓練情報です
- ・ こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。
- ・ 本日 9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。
- ・ 各部局は、「災害対策支部」または支部を置かない部局は「単位消防隊」を召集してください。
- ・ 以後は、各部局の「地震防災マニュアル」及び「各消防隊の指示」に従って行動してください。

2) 総務広報課担当

- 電話にてメール・FAXの受信確認を電話又はFAXにて報告
・・・別紙「防災訓練情報連絡表」参照

- 防災無線による受信の確認行う・・・別紙「防災無線装置配備先一覧表」参照

- ・ こちらは、災害対策統括本部 情報連絡班です。
- ・ ... (部局回答)
- ・ 了解しました。

受信担当者は、全部局のメール・FAX到着確認後、総務広報課長に「全部局への情報伝達を確認しました。」と報告する

また、防災無線による受信確認についても、総務広報課長に「配備先無線局への情報伝達を確認しました。」と報告する

- ・ 前述の報告を受け総務広報課長は災害対策統括本部総務企画部長に報告

3. 部局からの電話・防災無線による報告の対応

1) 総務広報課担当・・・支部等設置報告

(各部局報告例)

- ・ こちらは、〇〇研究科災害対策支部（または、〇〇研究科消防隊）です。
- ・ 「災害対策支部設置（または消防隊召集）」が完了したので報告します。

(災害対策統括本部応答例) (10:15～10:20の間)

- ・ 了解しました。
- ・ 引き続き、部局内全域に遺漏のないよう情報伝達願います

受信担当者は、全部局からの報告を確認後、総務広報課長に「全部局の災害対策支部設置等を確認しました。」と報告する

- ・ 前述の報告を受け総務広報課長は災害対策統括本部総務企画部長に報告

2) 総務広報課担当・・・部局内情報伝達完了報告

(各部局報告例)

- ・ こちらは、〇〇研究科災害対策支部（または、〇〇研究科消防隊）です。
- ・ 「部局内情報伝達」が完了したので報告します。

(災害対策統括本部応答例) (10:15～10:20の間)

- ・ 了解しました。災害対策統括本部への報告は、本報告をもって完了となります。
- ・ 引き続き、部局内在居者に①「突発地震の対応策」②「東海地震注意情報」等必要事項について説明願います。

受信担当者は、全部局からの報告を確認後、総務広報課長に「全部局の部局内情報伝達完了を確認しました。」と報告する

- ・ 前述の報告を受け総務広報課長は災害対策統括本部総務企画部長に報告

防災訓練情報連絡表

| 部局等名称 | 電子メールアドレス | 電話番号 | F A X 番号 | 受信担当者名 |
|---|-------------------------------------|--|-------------------------|--------------------|
| 災害対策統括本部 | bousai@post.jimu.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2093 7499 | 052-789-2134 | |
| 本部所掌施設 (博物館) (共同教育研究施設) 高等研究館 (広報プラザ) (エネルギーセンター) (留学生センター) (留学生会館) (インターナショナルレジデンス) (野依記念学術交流館) (課外活動施設) (福利厚生施設) 生協系施設 グリーン・サロン東山・アメニティハウス 職員クラブ シンポジオン 国際喫煙館 | | 052-789-2096 | 052-789-2134 | 施設整備課専門職員 鈴木 孝二 |
| 同 教養教育院 | kyoikuin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp | 052-789-3523 | 052-789-3527 | 事務室長 村井 文深 |
| 附属図書館 | saigai@nul.nagoya-u.ac.jp | 052-789-3669 | 052-789-3693 | 会計掛長 鈴木 誠 |
| 文学部・文学研究科 | bosai@lit.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2204 | 052-789-2272 | 会計掛長 池戸 道明 |
| 教育学部・教育発達科学研究科 (発達心理精神科学教育研究センター) | bousai@educa.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2604 | 052-789-2666 | 会計掛長 渡邊 正 |
| 同 教育学部附属学校 | bosai@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2672 | 052-789-2696 | 附属学校事務掛長 鈴木 公也 |
| 法学部・法学研究科 (法政国際教育研究センター) (共同教育研究施設) | kinkyu@nomolog.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2311 | 052-789-4900 | 事務長 横田 圭介 |
| 経済学部・経済学研究科 | jimu2@soec.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2356 | 052-789-4921 | 会計掛長 岡部 衛 |
| 情報文化学部・情報科学研究科 | bosai@info.human.nagoya-u.ac.jp | 052-789-4715 | 052-789-4800 | 事務長 山本 明博 |
| 理学部・理学研究科 (附属臨海実験所) (多元数理科学研究科) (アイソトープ総合センター) (遺伝子実験施設) (物質科学国際研究センター) (年代測定総合研究センター) (共同教育研究施設) | jishin@sci.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2397 | 052-789-5254 | 管理掛長 松井 宏文 |
| 医学部・医学系研究科 | tsaigai@med.nagoya-u.ac.jp | 81-2810 052-744-2810 | 81-2820 052-744-2820 | 施設管理掛長 向井 廣 |
| 同 大幸団地 (大幸医療センター) | kinkyu@met.nagoya-u.ac.jp | 82-1503 052-719-1503 | 82-1509 052-719-1509 | 事務室長 石黒 孝司 |
| 工学部・工学研究科 (エコトピア科学研究機構) 先端技術共同研究センター 情報メディア教育センター 旧高効率エネルギー変換研究センター ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (廃棄物処理施設) (核燃料管理施設) (共同教育研究施設) | saigai@engg.nagoya-u.ac.jp | 052-789-7490 | 052-789-3100 | 総務課長 松川 和彦 |
| 農学部・生命農学研究科 (附属農場) (附属演習林) (附属山地畜産実験実習施設) (生物機能開発利用研究センター) (農学国際教育研究センター) (共同教育研究施設) | disaster@agr.nagoya-u.ac.jp | 052-789-7719 不通時の予備 052-789-4002 | 052-789-4005 | 事務室長補佐 工藤 善久 |

| 部局等名称 | 電子メールアドレス | 電話番号 | F A X 番号 | 受信担当者名 |
|---------------------------------------|------------------------------------|--------------|--------------|-----------------|
| 国際開発研究科 | bosai@gsid.nagoya-u.ac.jp | 052-789-4952 | 052-789-4951 | 事務掛長 長田 昭夫 |
| 国際言語文化研究科 | jishin@lang.nagoya-u.ac.jp | 052-789-5312 | 052-789-4873 | 事務掛長 大江 尚美 |
| 環境学研究科 (地球水循環研究センター) (共同教育研究施設) | hq@env.nagoya-u.ac.jp | 052-789-3456 | 052-789-3452 | 会計掛長 藤本 正喜 |
| 環境医学研究所 | kinkyu@riem.nagoya-u.ac.jp | 052-789-3859 | 052-789-3887 | 会計掛事務官 川上 章子 |
| 太陽地球環境研究所 (東山分室) (共同教育研究施設) | bosai@stnet1.stelab.nagoya-u.ac.jp | 0533-89-5151 | 0533-86-0811 | 庶務掛長 横江 基博 |
| 情報連携基盤センター | bosai@itc.nagoya-u.ac.jp | 052-789-4356 | 052-789-4385 | 会計掛長 金原 保夫 |
| 総合保健体育科学センター | bousai@htc.nagoya-u.ac.jp | 052-789-5752 | 052-789-3957 | 事務掛主任 荒谷 勝彦 |

名古屋大学防災無線装置配備先一覧表

| 配 備 先 | 局名称 | 種類 | 取扱者 | 取扱者所属 | 取扱者職名 | 連絡先 | 備 考 |
|---------------|-------|-----|-------|---------------|----------|--------------|--------|
| 災害対策統括本部 | 東山指令局 | 可搬型 | 伊藤 秀樹 | 総務広報課 | 総務掛長 | 2012 | |
| 災害対策室 | 東山可搬1 | 可搬型 | 飛田 潤 | 災害対策室 | 助教授 | 3754 | 環境学研究所 |
| 附属農場（東郷） | 東山可搬2 | 可搬型 | 若尾 敏美 | 附属農場 | 附属農場事務掛長 | 0561-37-0210 | |
| 国際嚶鳴館（山手） | 東山可搬3 | 可搬型 | 森 修三 | 学生総合支援課 | 学生支援企画掛長 | 2173 | |
| 留学生会館（陶生町） | 東山可搬4 | 可搬型 | 細川 雪文 | 国際課 | 国際企画掛長 | 2191 | |
| 工不セン中央監視室（鶴舞） | 鶴舞指令局 | 可搬型 | 柿原 和久 | 医学部・医学系研究科管理課 | 電気掛長 | 81-2100 | |
| 保健学科本館（大幸） | 大幸指令局 | 可搬型 | 小倉 豊 | 医学部・医学系研究科管理課 | 会計掛長 | 82-1511 | |

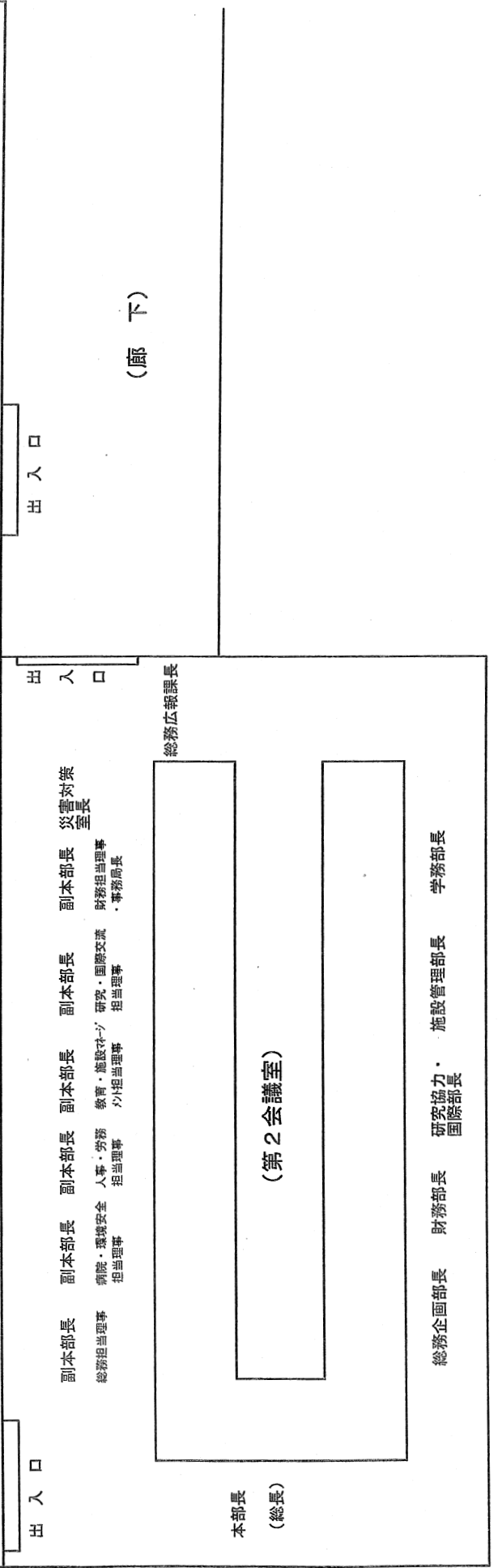
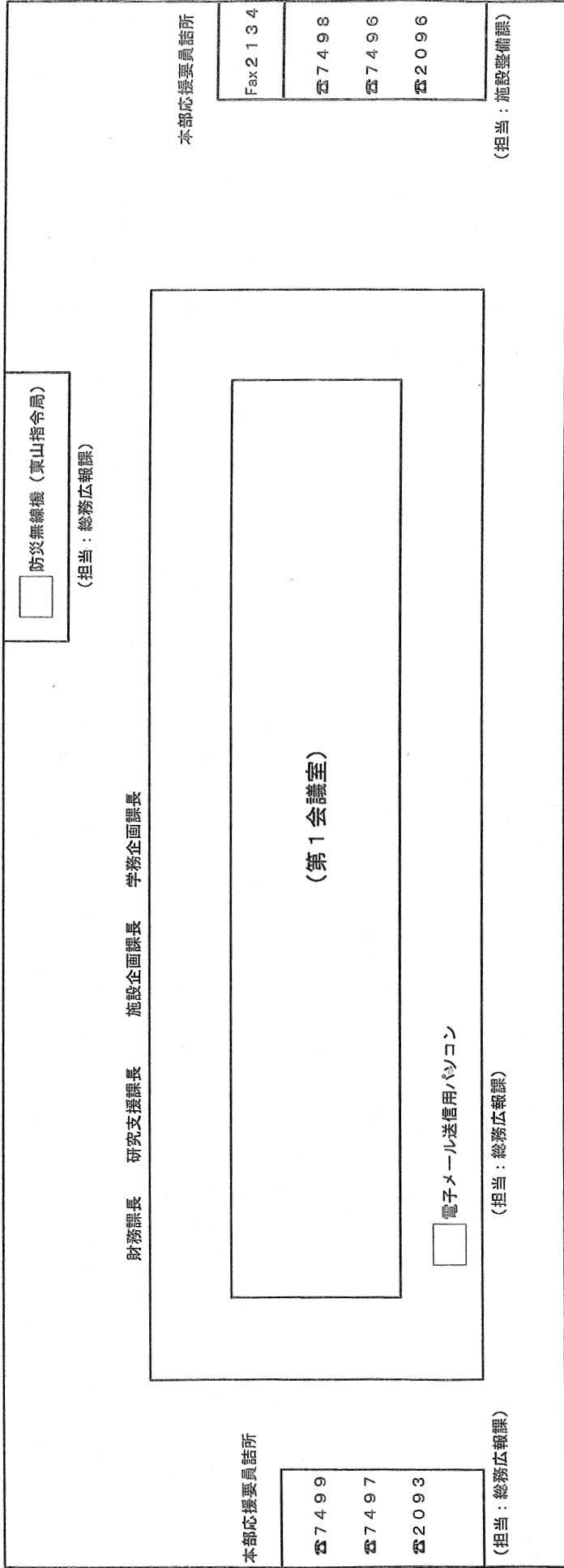
防災訓練情報連絡表（本部）

| 所 属 部 課 | 筆 頭 掛 長 | 氏 名 | 電話番号 | F A X 番 号 |
|----------|---------|----------|--------|-------------------|
| 総務企画部 | 総務広報課 | 総務掛長 | 伊藤 秀樹 | 2012 789 - 2019 |
| | 企画課 | 企画掛長 | 河口 正樹 | 5770 789 - 2019 |
| | 人事労務課 | 総務掛長 | 高下 一磨 | 2024 789 - 2037 |
| 財務部 | 財務課 | 総務掛長 | 麦島 重信 | 2057 789 - 2071 |
| | 経理課 | 経理掛長 | 林 清 | 2075 789 - 2085 |
| | 資産管理課 | 資産管理第一掛長 | 石川 佳憲 | 2094 789 - 2099 |
| | 契約課 | 契約総括掛長 | 山下 啓二 | 2082 789 - 5560 |
| | 情報企画課 | 情報企画掛長 | 大矢 淳一 | 2104 789 - 2109 |
| 研究・協力国際部 | 研究支援課 | 研究協力総務掛長 | 辻 芳樹 | 2039 789 - 2041 |
| | 社会連携課 | 共同研究掛長 | 市岡 浩之 | 2040 788 - 6002 |
| | 国際課 | 国際企画掛長 | 細川 雪文 | 2191 789 - 5100 |
| 学務部 | 学務企画課 | 総務掛長 | 西尾 直人 | 2159 789 - 2167 |
| | 学生総合支援課 | 学生支援企画掛長 | 森 修三 | 2173 789 - 2179 |
| | 入試課 | 入試掛長 | 渡邊 導 | 2183 789 - 2188 |
| 施設管理部 | 施設企画課 | 総務掛長 | 後藤 隆文 | 2115 789 - 2120 |
| | 施設整備課 | 施設計画掛長 | 草 一宏 | 2124 (789 - 2134) |
| | 施設管理課 | 施設管理掛長 | 祖父江 信和 | 2137 789 - 2150 |

() の F A X は、災害対策統括本部で使用

災害対策統括本部 (座席図)

、本部1号館5階)



③ 「名古屋大学災害対策統括本部防災隊」情報伝達文

1. 災害対策統括本部防災隊招集のメール受信後、各課筆頭掛長は各部課長に連絡し、課内職員に大声で伝達周知

- ・ これは、訓練情報です。
- ・ 本日 9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部1号館第2会議室、防災隊要員・応援要員は、第1会議室に集合してください。
なお、各課の統括本部防災隊要員は、〇〇で待機し、班の業務の確認及び検討を実施してください。

各部の筆頭課長補佐は、部長を本部1号館第2会議室へ誘導する。

(各部の筆頭課長補佐は本部1号館第1会議室で待機)

各部の総務掛長は、課の待機人数を確認後、課長に報告し、待機者に各班の業務について確認又は検討するよう指示し、課長を第1会議室へ誘導する。

(災害対策統括本部要員は、総長・理事・部長)

(防災隊要員は、総務広報課長・財務課長・研究支援課長・施設企画課長・学務企画課長及び各部の総務掛長・並びに主任又は掛員)

(応援要員は、総務企画部職員・施設管理部職員)

応援要員は、本部1号館第1会議室に駆けつける。

防災隊要員・応援要員以外の各課の筆頭掛長は、課の待機人数を確認後、課長に報告し、各課の待機場所で各班の業務について確認又は検討する。

3. 本部所掌施設等連絡

本部所掌施設担当課の受信担当者は、「東海地震注意情報」が発表された報告を受け、直ちに、内部関係施設内へ、電話又はFAXにて施設受信担当者に情報伝達開始(キャンパス内学生用)

- ・ 訓練情報です。
- ・ こちらは、本部防災隊です。
- ・ 本日 9時55分に気象庁長官より東海地震注意情報が発表されました。
- ・ 直ちに学生への周知をお願いします。

(寄宿舍用)

- ・ 訓練情報です。
- ・ こちらは、本部防災隊です。
- ・ 本日 9時55分に気象庁長官より東海地震注意情報が発表されました。
- ・ 安全確保に充分注意するようお願いします。

4. 情報伝達完了報告

本部所掌施設受信担当者は、各施設の情報伝達完了報告を受け総務広報課長に報告、

総務広報課長は、災害対策本部長（総長）に本部防災隊の伝達完了報告

- ・ 本部防災隊です。本部防災隊の情報伝達の完了を確認をしました。

5. 情報伝達訓練終了

防災訓練情報連絡表（本部所掌施設）

| 本 部 | 電 話 番 号 | F A X 番 号 | 受信担当者名 |
|-----------------|----------|-----------|-----------|
| (研究支援課) | (2039) | | (辻) |
| 博物館 | 5967 | 5896 | 渡辺 |
| 高等総合研究館 | 788-6051 | 788-6151 | 長坂 |
| 広報プラザ | 5787 | 5788 | 林 |
| エネルギーセンター | 2152 | 2153 | 鷗沢 |
| (国際課) | (2191) | | (細川) |
| 留学生センター | 2198 | 5100 | 坂口 |
| 留学生会館 | 853-2901 | 853-2929 | 兼松 |
| インターナショナルレジデンス | 2197 | 0356 | 加藤 |
| 野依記念学術交流館 | 788-6121 | 788-6121 | 岩田、金森 |
| (学務企画課) | (2159) | | (西尾) |
| 課外活動施設 | | | |
| 学生会館 | 7535 | なし | 竹原(ケ-リング) |
| 体育合宿所 | 7534 | 7534 | 大島 |
| 課外音楽芸術系 | " | " | " |
| 体育系共用施設 | " | " | " |
| (学生総合支援課) | (2173) | | (森) |
| 福利厚生施設 | | | |
| 生協系施設 | 7540 | 782-1946 | 今井 |
| グリーンサロン・アミティハウス | " | " | " |
| 職員クラブ | | | |
| 宿泊予約センター | 4916 | 4916 | 安達 |
| 職員食堂 | 7524 | なし | 二宮 |
| 理容 | 4914 | なし | 加藤 |
| ホワイトペア | 7525 | なし | 山田 |
| シンポジオン | | | |
| 事務室 | 3059 | なし | 千藤(ケ-リング) |
| ユニバーサル・アミティハウス | 7526 | 782-6755 | 斉藤(ケ-リング) |
| 国際嚶鳴館 | 832-2736 | 832-3257 | 島田 |

(全構成員向け2004年9月1日地震防災訓練アンケート)

以下の項目について、該当するものに○をつけてください。該当するものがない場合には
その他という欄に記入してください。

[所属部局等]

本部 (事務局・学務部)

| | | | |
|--------------|--------------|------------|-----------|
| 高等研究院 | 教養教育院 | 文学研究科 | 教育発達科学研究科 |
| 法学研究科 | 経済学研究科 | 情報文化学部 | 理学研究科 |
| 医学系研究科 | 工学研究科 | 生命農学研究科 | 国際開発研究科 |
| 情報科学研究科 | 多元数理科学研究科 | 国際言語文化研究科 | 環境学研究科 |
| 附属図書館 | 医学部附属病院 | 環境医学研究所 | 太陽地球環境研究所 |
| エコトピア科学研究機構 | 地球水循環研究センター | 情報連携基盤センター | |
| アイソトープ総合センター | 総合保健体育科学センター | その他 (|) |

[職名]

教授 助教授 講師 助手 附属学校教員 非常勤研究員 事務職員 技術系職員

その他 (契約職員・パート等)

氏名 (匿名可) :

Q1 : 「東海地震注意情報」(訓練情報) 発表の連絡を受けましたか?

はい いいえ

● 「いいえ」とお答えになられた方

その時、どこにいらっしゃいましたか? (例:出張中、中央図書館で調査中、)

以上で質問は終わりです。ありがとうございました。

● 「はい」とお答えになられた方

Q2 : どのような経路で情報を最初に知りましたか? また情報を受けた時刻は何時何分頃でしたか? (複数の経路で情報を受けた方はそれぞれについて教えてください。)

1着) 手段: Eメール・館内放送・電話・その他 () 時刻:

2着) 手段: Eメール・館内放送・電話・その他 () 時刻:

Q3 : どこで連絡を受けましたか?

講義室 ・ 実験室 ・ 研究室 ・ 事務室 ・ 病棟 (病院)

・ 外来棟中診棟 (病院) ・ その他 ()

Q4 : (教官の方) 何人の学生に情報を伝達しましたか?

() 人

以上で質問は終わりです。ありがとうございました。

(事務担当者向け2004年9月1日地震防災訓練アンケート)

※ 学部などの地震防災事務担当者が記入して下さい。

以下の項目について、該当欄にご記入ください。

[部局名]

[記入者] [職名]

[氏名]

Q1 : 本部から「東海地震注意情報」発表の連絡を受けた時刻。

Q2 : 支部を設置 (または消防隊集合) できた時刻。

Q3 : 集合した組織および人員。

| | | | | |
|-------|-------------|---|--------|---|
| (支部) | マニュアルで定めた要員 | 名 | 実際の集合者 | 名 |
| (消防隊) | マニュアルで定めた要員 | 名 | 実際の集合者 | 名 |

Q4 : 部局の防災マニュアルに書かれている通り行動できましたか？

はい ・ いいえ

「いいえ」と答えた方：

防災マニュアルに記述されていたが、実際にはうまくいかなかった事柄は何ですか？

Q5 : 訓練情報をうけた人数

| | |
|--------|---|
| 教職員 | 名 |
| 大学院生など | 名 |
| 学部学生 | 名 |
| その他 | 名 |

ありがとうございました。

(留学生関係者向け2004年9月1日地震防災訓練アンケート)

※ 留学生などに情報伝達した人が記入してください。

以下の項目について、該当欄にご記入ください。

[部局名]

[記入者] [職名]

[氏名]

Q1: 日本語を理解できない留学生にすみやかに今回の情報を伝達できましたか?

はい ・ いいえ

Q2: 今回は本部から支部あての電子メール及びFAXに英語に翻訳した情報を添付しました。留学生など日本語を理解できない人への情報伝達としては、これで十分でしょうか?

はい ・ いいえ

(全学一斉放送などにも、英語に翻訳した情報を付与すべきという意見があります。その一方で、本部では情報を英語化するのに時間がかかるため、日本語のみで至急情報を流して、日頃から留学生と接している人が翻訳して情報を伝える方が早くて正確に情報が伝わるという意見もあります。)

Q3 さらに英語以外の言語(中国語など)による情報伝達も必要ですか?

はい ・ いいえ

Q4 多言語によるすみやかな情報伝達についてご意見がありましたら、御記入ください。

ありがとうございました。

- 電子メール受信報告 (情報連絡等FAX返信用)
 FAX受信報告
 支部設置等報告
 部局内情報伝達完了報告

| |
|--|
| <input type="checkbox"/> 本部 <input type="checkbox"/> 教養教育院 <input type="checkbox"/> 附属図書館 <input type="checkbox"/> 文学部・文学研究科 <input type="checkbox"/> 教育学部・教育発達科学研究科 <input type="checkbox"/> 教育学部附属学校 <input type="checkbox"/> 法学部・法学研究科 |
| <input type="checkbox"/> 経済学部・経済学研究科 <input type="checkbox"/> 情報科学研究科 <input type="checkbox"/> 理学部・理学研究科 <input type="checkbox"/> 医学部・医学研究科 <input type="checkbox"/> 医学部保健学科 <input type="checkbox"/> 工学部・工学研究科 <input type="checkbox"/> 農学部・生命農学研究科 |
| <input type="checkbox"/> 国際開発研究科 <input type="checkbox"/> 国際言語文化研究科 <input type="checkbox"/> 環境学研究科 <input type="checkbox"/> 太陽地球環境研究所 <input type="checkbox"/> 情報連携基盤センター <input type="checkbox"/> 環境医学研究所 <input type="checkbox"/> 総合保健体育科学センター |
| 確認者・・・ _____ |
| 特記事項（部局からの連絡事項等で何かあれば記入願います。） ----- ----- ----- ----- ----- |

* 該当部局の□欄にチェックしてください。

(要員召集用)

本部各課（室）筆頭係長 殿

訓 練 情 報

- ・ これは、訓練情報です。
- ・ 本日 9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部1号館第2会議室、防災隊要員・応援要員は、第1会議室に集合してください。
なお、本部要員・防災隊要員・応援要員以外の「本部防災隊要員」は、各課で待機し、班の業務の確認及び検討を実施してください。

(部局連絡用)

各部局防災訓練情報受信担当者 殿

これは、訓練情報です。

こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。

本日9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。

各部局は「災害対策支部」または支部を置かない部局では「単位消防隊」を召集してください。

以後は、各部局の「地震防災マニュアル」および「各消防隊の指示」に従って行動してください。

This is information of disaster exercise.

This is the headquarters of Nagoya University.

At nine fifty five am today, The Tokai Earthquake Advisory is published by the director of Japan Meteorological Agency.

Please call a staff conference for disaster management at every School of Nagoya University.

Please act according to the own earthquake disaster management manual.

(部局内館内放送の文案1)

これは訓練情報です。

こちらは〇〇学研究科災害対策支部です。

本日9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。

教職員・学生は、講義・実験・研究などをすべて中止して、室内の災害防止措置をとってください。

地震防災マニュアルに従い、非常要員に指定されている教職員以外は、安全に帰宅できる場合はすみやかに帰宅してください。

This is information of disaster exercise.

This is the disaster office of School of 〇〇.

At nine fifty five am today, The Tokai Earthquake Advisory is published by the director of Japan Meteorological Agency.

All faculties, staffs and students of Nagoya University, please stop lectures, experiments and researches at once.

Thereafter please make preparation for earthquake occurring.

Please act according to the own earthquake disaster management manual.

Please go back to your home as soon as possible, all students and all faculties and staffs except the standby staffs.

(部局内の伝達の文案2)

これは訓練情報です。

こちらは〇〇学研究科災害対策支部です。

本日9時55分に気象庁長官より「東海地震注意情報」が発表されました。

研究等業務を一時中断のうえ、学生等在居者に対し、当該部屋に係る二次災害防止措置（装置等の緊急停止、電気の遮断、ガス・水道の元栓閉鎖など）および避難・帰宅時における諸注意事項の説明をしてください。

This is information of disaster exercise.

This is the disaster office of School of 〇〇.

At nine fifty five am today, The Tokai Earthquake Advisory is published by the director of Japan Meteorological Agency.

For all faculties, please stop lectures, experiments and researches at once.

Thereafter please inform your students to make preparation for earthquake occurring.

For example, suspend installations, cut the power supply and turn off gas and watar.

After that, please adominish them about safety evacuation and going home.

(情報伝達テスト用)

各部局 防災訓練担当 殿

テスト送信メール

これは、防災訓練に係る情報伝達メールのテスト送信です。

各部局事務担当の方は、本メールが正常に受信されているか
確認願います

その確認結果を施設管理部施設管理課環境管理室（４９９７）
までご連絡願います

本部所掌施設連絡確認票

1. 研究支援課担当

- 博物館
- 共同教育研究施設（高等総合研究館）
- 広報プラザ
- エネルギーセンター

2. 国際課担当

- 留学生センター
- 留学生会館
- インターナショナルレジデンス
- 野依記念学術交流館

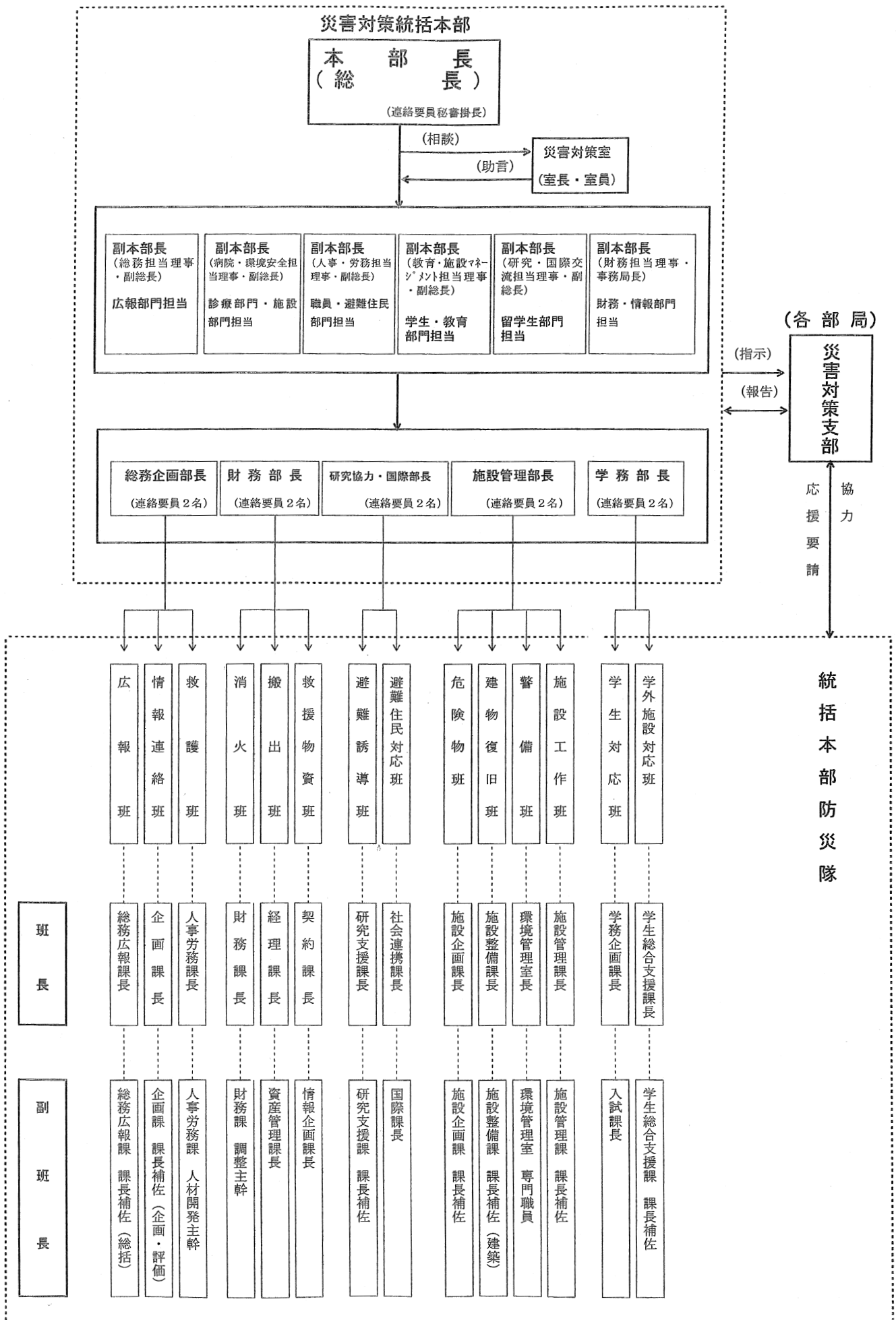
3. 学務企画課担当

- 学生会館
- 体育合宿所
課外音楽芸術系
体育系供用施設

4. 学生総合支援課担当

- 福利厚生施設
- 生協系施設
グリーンサロン東山・アメニティハウス
- 職員クラブ
宿泊予約センター
職員食堂
理容
ホワイトベア
シンポジオン
事務室
ユニバーサル・アメニティハウス
- 国際嚶鳴館

統括本部防災隊組織 (案)



| 班名 | 災害発生前に注意すべき事項 (警戒宣言を含む。) の主要任務 | 災害発生後の主要任務 |
|-------|---|--|
| 広報班 | <p>統括本部の設置 統括本部に必要な通信機器の設置及び備品等の搬入 徒歩等で1時間以内に出動可能職員名簿の作成 ボランティアの受入名簿の作成 総務企画部職員のための管理簿作成 総務企画部職員の名簿作成</p> | <p>統括本部の設置 統括本部に必要な通信機器の設置及び備品等の搬入 マスコミ等の窓口及び広報 統括本部との連絡・調整の総合窓口 行政機関等との連絡及び折衝 相談窓口の設置 ボランティアの受入れ窓口 (本学学生を除く。) 被災状況の記録 総務企画部職員の名簿管理 総務企画部職員の名簿確認</p> |
| 情報連絡班 | <p>関係機関連絡表一覽表及び連絡記録簿の作成 部局災害対策本部連絡表一覽表及び連絡記録簿の作成 地震情報収集及び伝達 (防災無線による放送を含む。)</p> | <p>地震情報収集及び伝達 (防災無線による放送を含む。) 被災状況の把握及び応援態勢の指令 消防署、警察署、自衛隊、N T T等への応援要請 各班の活動把握並びに各班との指示及び連絡 近傍大学等の被災状況の把握 交通機関の運転状況の把握</p> |
| 救護班 | <p>医薬品等医療用品の準備 救急医療体制の準備 救護師の名簿作成 救護医師、看護師の名簿作成 受入病院・診療所の準備</p> | <p>被災者の把握及び救助 保健管理センターと連携して応急救護所を設置する。 負傷者の応急処置 受入病院・診療所の把握 外部の救護活動車両の駐留場所の確保 (ヘリポートを含む。) 医薬品等医療用品の管理及び供給 遺体収容、安置場所の確保及び遺族への連絡</p> |
| 消火班 | <p>消火栓、消火器の位置確認と設置図面の作成 消防及び救護用資材の準備 財務部職員の名簿作成 財務部職員の名簿作成</p> | <p>初期消火 救出・救護 (救護班と連携して行う。) スロップ等救護用資材の管理 消防署消防隊の誘導 財務部職員の名簿管理 財務部職員の名簿確認</p> |
| 搬出班 | <p>重要書類等の搬出の準備 仮設トイレ、仮設テント等の設置の準備</p> | <p>重要書類等の搬出及び保管 土地、建物等の被災及び状況の把握 仮設トイレ、仮設テント等の設置 被災状況の記録</p> |
| 救援物資班 | <p>災害対策要員の非常用食料の準備 生協等と食料援助の協定締結</p> | <p>災害対策要員の非常用食料の管理及び供給 生協等と食料援助の協定締結 外部からの救援物資の受入 義援金の受付、管理及び被災者への援助</p> |

| <p>火警発生則並びに任意情報発表時 (警戒宣言発令を含む。) 構内誘導道路の安全確認と検討 通行規制標識の作成 研究協力・国際部職員の帰宅管理のための管理簿作成 研究協力・国際部職員の安否確認のための管理簿作成</p> | <p>災害発生後の主要任務</p> |
|--|---|
| <p>避難誘導班</p> | <p>避難場所への誘導 非常口の開放及び閉鎖 通行障害物の撤去 警戒区域の設定 研究協力・国際部職員の帰宅管理 研究協力・国際部職員の安否確認</p> |
| <p>避難住民対応班</p> | <p>避難住民に対して場所の提供 避難住民に対して食料、飲料水等の提供 避難住民に対して毛布、ゴミ袋等生活必需品の提供 避難住民の組織化、連帯及び世話役の設置 千種区役所へ避難状況報告及び援助物資の依頼</p> |
| <p>危険物班</p> | <p>危険物による火災予防 危険物倉庫の管理 放射線物質拡散による汚染対策及び防止対策 什器、精密機器等の転倒及び落下防止対策 施設管理部職員の帰宅管理 施設管理部職員の安否確認</p> |
| <p>建物復旧班</p> | <p>倒壊建物の復旧 倒壊建物又は倒壊のおそれのある建物による二次災害の予防措置 被災状況の記録</p> |
| <p>警備班</p> | <p>不審者の対応 警察官対応(警察車両の誘導等を含む。) 盗難防止対策 現場周辺の立入規制</p> |
| <p>施設工作班</p> | <p>設備(機械、装置等)の点検・緊急措置 防災機器(無線機、放送設備等)の保守点検・稼働 自家発電装置の稼働 ライフラインの遮断及び確保(電気・ガス・水道) 中部電力、東邦ガス等への応援要請</p> |
| <p>学生対応班</p> | <p>学生、留学生等の安否確認 各班と連携し被災者の救助活動 本学学生ボランティアの受入れ窓口 帰宅しない残留留学生等の食料支援 学務部職員の帰宅管理 学務部職員の安否確認</p> |
| <p>学外施設対応班</p> | <p>学外施設(国際喫煙館、留学生会館等)の被災状況の把握 各班と連携し被災者の救助活動</p> |

平成16年度(第1回)「名古屋大学地震防災訓練」(部局)打合会

日 時 平成16年8月26日(木) 15時30分から

場 所 本部1号館 第1会議室

(配布資料)

- 資料1 平成16年度(第1回)名古屋大学地震防災訓練実施計画
- 資料2 平成16年度(第1回)名古屋大学地震防災訓練行動マニュアル
- 資料3 平成16年度(第1回)名古屋大学地震防災訓練「災害対策統括本部」行動マニュアル
- 資料4 2004年9月1日地震防災訓練アンケート
(全構成員向け、事務担当者向け、留学生関係者向け)
- 資料5 電子メール受信報告・FAX受信報告・支部設置等報告・部局内情報伝達完了報告(情報連絡等FAX返信用)
- 資料6 訓練情報伝達文(部局連絡用、部局内館内放送の文案1・2、情報伝達テスト用)

(参考資料)

- 参考1 防災訓練情報連絡表
- 参考2 名古屋大学防災無線装置配備先一覧表
- 参考3 東山団地放送用設備整備済み建物及び防災無線スピーカー設置位置図

| |
|---|
| 担当：施設管理部 施設整備課 環境管理室 内線(2093)(4997)(2096) |
|---|

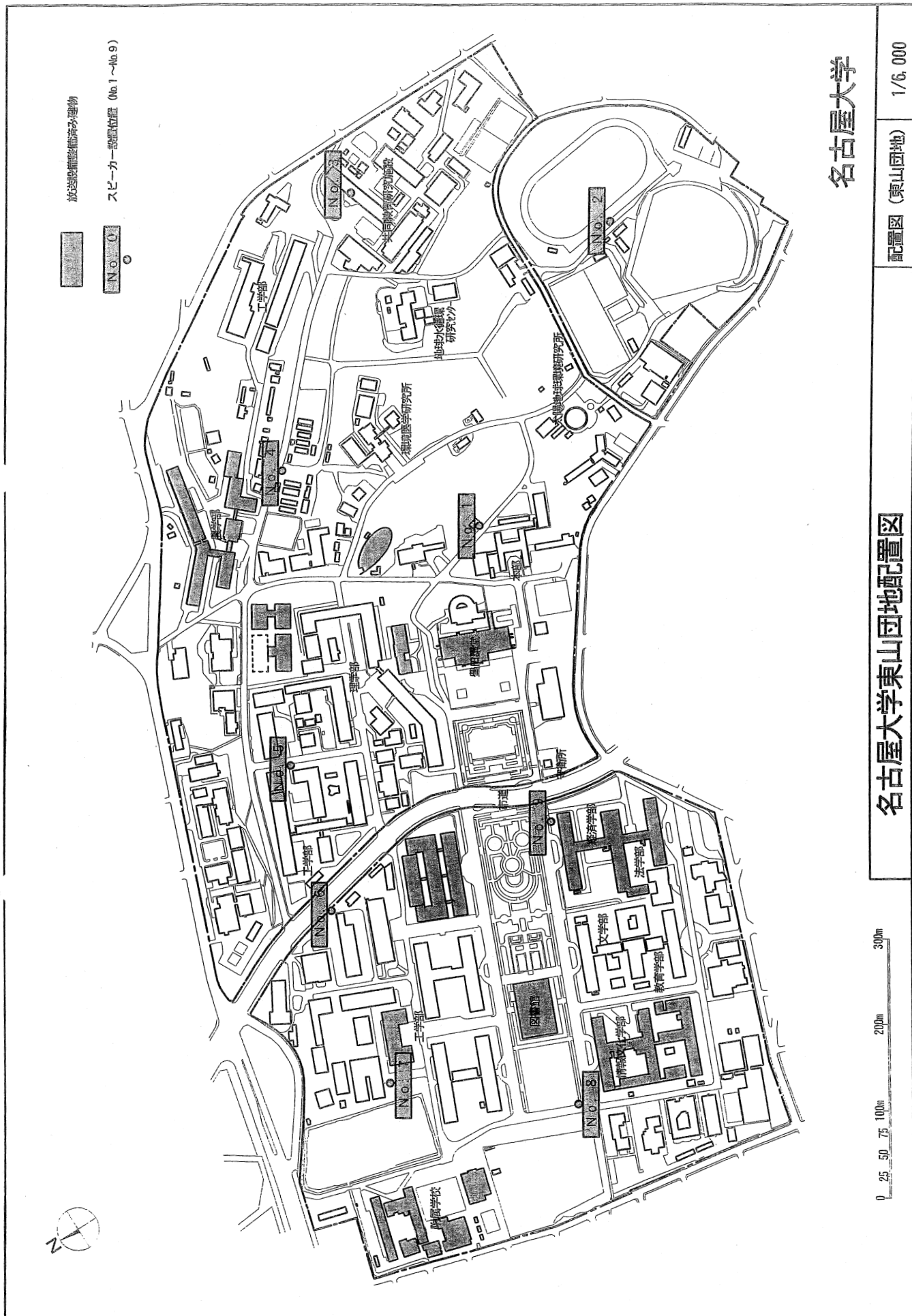
防災訓練情報連絡表

| 部局等名称 | 電子メールアドレス | 電話番号 | FAX番号 | 受信担当者名 |
|---|-------------------------------------|--|-------------------------|--------------------|
| 災害対策統括本部 | bousai@post.zimu.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2093 7499 | 052-789-2134 | |
| 本部所掌施設 (博物館) (共同教育研究施設) 高等研究館 (広報プラザ) (エネルギーセンター) (留学生センター) (留学生会館) (インターナショナルレジデンス) (野依記念学術交流館) (課外活動施設) (福利厚生施設) 生協系施設 グリーン・サロン東山・アメニティハウス 職員クラブ シンポジオン 国際喫煙館 | | 052-789-2096 | 052-789-2134 | 施設整備課専門職員 鈴木 孝二 |
| 同 教養教育院 | kyoikuin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp | 052-789-3523 | 052-789-3527 | 事務室長 村井 丈深 |
| 附属図書館 | saigai@nul.nagoya-u.ac.jp | 052-789-3669 | 052-789-3693 | 会計掛長 鈴木 誠 |
| 文学部・文学研究科 | bosai@lit.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2204 | 052-789-2272 | 会計掛長 池戸 道明 |
| 教育学部・教育発達科学研究科 (発達心理精神科学教育研究センター) | bousai@educa.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2604 | 052-789-2666 | 会計掛長 渡邊 正 |
| 同 教育学部附属学校 | bosai@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2672 | 052-789-2696 | 附属学校事務掛長 鈴木 公也 |
| 法学部・法学研究科 (法政国際教育研究センター) (共同教育研究施設) | kinkyu@nomolog.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2311 | 052-789-4900 | 事務長 横田 圭介 |
| 経済学部・経済学研究科 | jimu2@soec.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2356 | 052-789-4921 | 会計掛長 岡部 衛 |
| 情報文化学部・情報科学研究科 | bosai@info.human.nagoya-u.ac.jp | 052-789-4715 | 052-789-4800 | 事務長 山本 明博 |
| 理学部・理学研究科 (附属臨海実験所) (多元数理科学研究科) (アイソトープ総合センター) (遺伝子実験施設) (物質科学国際研究センター) (年代測定総合研究センター) (共同教育研究施設) | jishin@sci.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2397 | 052-789-5254 | 管理掛長 松井 宏文 |
| 医学部・医学系研究科 | tsaigai@med.nagoya-u.ac.jp | 81-2810 052-744-2810 | 81-2820 052-744-2820 | 施設管理掛長 向井 廣 |
| 同 大幸団地 (大幸医療センター) | kinkyu@met.nagoya-u.ac.jp | 82-1503 052-719-1503 | 82-1509 052-719-1509 | 事務室長 石黒 孝司 |
| 工学部・工学研究科 (エトピア科学研究機構) 先端技術共同研究センター 情報メディア教育センター 旧高効率エネルギー変換研究センター ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (廃棄物処理施設) (核燃料管理施設) (共同教育研究施設) | saigai@engg.nagoya-u.ac.jp | 052-789-7490 | 052-789-3100 | 総務課長 松川 和彦 |
| 農学部・生命農学研究科 (附属農場) (附属演習林) (附属山地畜産実験実習施設) (生物機能開発利用研究センター) (農学国際教育研究センター) (共同教育研究施設) | disaster@agr.nagoya-u.ac.jp | 052-789-7719 不通時の予備 052-789-4002 | 052-789-4005 | 事務長補佐 工藤 善久 |

| 部局等名称 | 電子メールアドレス | 電話番号 | F A X 番号 | 受信担当者名 |
|---------------------------------------|------------------------------------|--------------|--------------|-----------------|
| 国際開発研究科 | bosai@gsid.nagoya-u.ac.jp | 052-789-4952 | 052-789-4951 | 事務掛長 長田 昭夫 |
| 国際言語文化研究科 | jishin@lang.nagoya-u.ac.jp | 052-789-5312 | 052-789-4873 | 事務掛長 大江 尚美 |
| 環境学研究科 (地球水循環研究センター) (共同教育研究施設) | hq@env.nagoya-u.ac.jp | 052-789-3456 | 052-789-3452 | 会計掛長 藤本 正喜 |
| 環境医学研究所 | kinkyu@riem.nagoya-u.ac.jp | 052-789-3859 | 052-789-3887 | 会計掛事務官 川上 章子 |
| 太陽地球環境研究所 (東山分室) (共同教育研究施設) | bosai@stnetl.stelab.nagoya-u.ac.jp | 0533-89-5151 | 0533-86-0811 | 庶務掛長 横江 基博 |
| 情報連携基盤センター | bosai@itc.nagoya-u.ac.jp | 052-789-4356 | 052-789-4385 | 会計掛長 金原 保夫 |
| 総合保健体育科学センター | bousai@htc.nagoya-u.ac.jp | 052-789-5752 | 052-789-3957 | 事務掛主任 荒谷 勝彦 |

名古屋大学防災無線装置配置備先一覧表

| 配 備 先 | 局名称 | 種類 | 取扱者 | 取扱者所属 | 取扱者職名 | 連絡先 | 備 考 |
|---------------|-------|-----|-------|---------------|----------|--------------|--------|
| 災害対策統括本部 | 東山指令局 | 可搬型 | 伊藤 秀樹 | 総務広報課 | 総務掛長 | 2012 | |
| 災害対策室 | 東山可搬1 | 可搬型 | 飛田 潤 | 災害対策室 | 助教授 | 3754 | 環境学研究所 |
| 附属農場（東郷） | 東山可搬2 | 可搬型 | 若尾 敏美 | 附属農場 | 附属農場事務掛長 | 0561-37-0210 | |
| 国際喫鳴館（山手） | 東山可搬3 | 可搬型 | 森 修三 | 学生総合支援課 | 学生支援企画掛長 | 2173 | |
| 留学生会館（陶生町） | 東山可搬4 | 可搬型 | 細川 雪文 | 国際課 | 国際企画掛長 | 2191 | |
| 工ネセ之中央監視室（鶴舞） | 鶴舞指令局 | 可搬型 | 榊原 和久 | 医学部・医学系研究科管理課 | 電気掛長 | 81-2100 | |
| 保健学科本館（大幸） | 大幸指令局 | 可搬型 | 小倉 豊 | 医学部・医学系研究科管理課 | 会計掛長 | 82-1511 | |



名古屋大学

名古屋大学東山団地配置図

1/6,000

配置図 (東山団地)

平成16年度(第2回)「名古屋大学地震防災訓練」(本部)
事務担当者向け説明会

日時 平成16年11月10日(水) 15時30分から

場所 本部3号館 施設管理部会議室(1階)

(配布資料)

- 資料1 平成16年度(第2回)名古屋大学地震防災訓練実施計画
- 資料2 平成16年度(第2回)名古屋大学地震防災訓練行動マニュアル
- 資料3 名古屋大学地震防災訓練「災害対策統括本部」行動マニュアル
- 資料4 11月12日 地震防災訓練当日の情報伝達の流れ
- 資料5 統括本部防災隊 建築設備の点検・緊急措置訓練実施要領
- 資料6 防災無線に関するアンケート
- 資料7 支部設置等報告・安否確認者報告・被害状況報告(地震防災情報連絡等FAX返信用)
- 資料8 訓練情報伝達文(要員召集用、部局連絡用、部局内館内放送の文案1・2)
- 資料9 本部所掌施設連絡確認票

(参考資料)

- 参考1 平成16年度第2回名古屋大学地震防災訓練「教養教育院」行動マニュアル

担当：施設管理部 施設整備課
環境管理室
内線(2093)(4997)(2096)

平成16年度(第2回)名古屋大学地震防災訓練実施計画

1. 目的

東海地域に大規模地震が時間内に発生したことを想定して、情報伝達・安否確認・避難訓練を実施し職員及び学生等の防災意識の高揚を図ることを目的とする。

2. 訓練の日時

平成16年11月12日(金) 午前10時40分～12時00分 (第2限目)

3. 訓練想定

「勤務(講義)時間中に、震度6弱の地震が発生。」の情報を受け、情報伝達・安否確認・避難訓練(特定部局)を実施する。

4. 訓練対象範囲

東山地区、鶴舞地区、大幸地区、東郷地区、豊川地区、留学生会館(陶生)、国際唵鳴館(山手)

5. 当日の訓練計画

| 事 項 | 支 部 を 置 く 部 局 | 支 部 を 置 か な い 部 局 |
|---|--|--|
| 震度6弱の地震発生連絡 情報伝達訓練(詳細別紙) (施設整備課長→総長) (総務広報課→各部局) | 部局長が 災害対策統括本部 から受信 | 部局長が 災害対策統括本部 から受信 |
| 支部等設置指示 (部局連絡担当→部局内) | 部局長から支部設置指示 災害対策支部要員及び単位消防隊招集 要員集合・「支部設置」 | 部局長から単位消防隊召集指示 単位消防隊招集 要員集合 |
| 支部等設置完了報告 (各部局→総務広報課) | <ul style="list-style-type: none"> ・支部設置報告 (支部長→災害対策統括本部 情報連絡班) (1)【電話7499】又は【FAX 2134】 による報告 (2)【防災無線】による報告(詳細別紙) | <ul style="list-style-type: none"> ・単位消防隊集合完了報告 (指揮班→災害対策統括本部 情報連絡班) (1)【電話7499】又は【FAX 2134】 による報告 (2)【防災無線】による報告(詳細別紙) |
| | 部局内情報伝達 指 揮 ①単位消防隊連絡通報班→実験指導教員等 避難誘導 | 部局内情報伝達 指 揮 ①単位消防隊連絡通報班→実験指導教員等 避難誘導 |
| 安否確認・被害状況の報告 (各部局→総務広報課) | <ul style="list-style-type: none"> ・部局内居住者の安否確認及び被害状況の報告 (支部長→災害対策統括本部 情報連絡班) (1)【電話7499】又は【FAX 2134】 による報告 (2)【防災無線】による報告(詳細別紙) ②講義・実験指導教員等→学生等在居者 ※ 人的・物的被害なしで想定 | <ul style="list-style-type: none"> ・部局内居住者の安否確認及び被害状況の報告 (指揮班→災害対策統括本部 情報連絡班) (1)【電話7499】又は【FAX 2134】 による報告 (2)【防災無線】による報告(詳細別紙) ②講義・実験指導教員等→学生等在居者 ※ 人的・物的被害なしで想定 |
| 防災教育・研修 | 対象者：東山地区各部局避難対象者(下記の避難訓練対象部局を除く) 教育研修場所：豊田講堂 (講演者：災害対策室長及び施設管理部施設整備課長) | |
| 訓練終了 | | |
| 部局の避難訓練 訓練終了 | 対象部局：教養教育院・情報文化学部・大学院国際言語研究科(避難場所：第3グリーンベルト) 教育学部附属学校(避難場所：教育学部附属学校グラウンド) (※ 雨天の場合：部局の避難訓練は中止する。) | |

平成16年度(第2回)名古屋大学地震防災訓練行動マニュアル

| 所要時間 | 事項 | 災害対策統括本部 | 災害対策支部を置く部局 | 災害対策支部を置かない部局 | 学生・教職員等在学者 |
|-------------------|-------------------------------|---|--|--|--|
| 11月12日 10:40 | 震度6弱の地震発生 | ・「午前10時35分に震度6弱の地震が発生した。」情報を受ける。 | | | |
| タイムスケジュール (目安) | | | | | |
| 10:41 | 「災害対策統括本部」設置指示 | 総長から「災害対策統括本部設置」の指示 | | | |
| 10:42 | | 要員招集指示 | | | |
| 10:42 | 要員招集、及び震度6弱の地震発生時の連絡 | 「統括本部情報連絡班」から本部内へ 【電子メール送信・FAX送信】 ・これは、訓練情報です。 ・本日10時35分に震度6弱の地震が発生しました。 ・直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部第2会議室、防災隊要員・応援要員は、第1会議室に集合してください。 ・なお、本部要員・防災隊・応援要員以外は、班毎に集合し、業務の支障のない限り豊田講堂で防災教育・研修に参加してください。 ・避難誘導班・学生対応班の班員は、豊田講堂へ参加者を誘導してください。 | | | |
| 10:45 | | 統括本部要員等集合 | | | |
| 10:45 | 「災害対策統括本部」設置 | 「災害対策統括本部」設置 | | | |
| 10:46 | 震度6弱の地震発生時の連絡及び各部局における支部等設置命令 | 【防災無線による一斉放送】 【メール送信・FAX送信】 ・これは、訓練情報です。 ・こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。 ・本日10時35分に震度6弱の地震が発生しました。 ・各部局は、「災害対策支部」または、支部を置かない部局では、「単位消防隊」を招集してください。 ・以後は、各部局の「地震防災マニュアル」等に従って行動してください。 | | | |
| 10:50 | 支部等設置指示 | | 部局長から「災害対策支部」設置指示 | 部局長から「消防隊」招集指示 | |
| 10:51 | 支部等要員招集連絡 | | 「消防隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から部局内へ ・これは、訓練情報です。 ・こちらは、〇〇研究科災害対策支部です。 ・本日10時35分に震度6弱の地震が発生しました。 ・直ちに「災害対策支部」要員及び「消防隊」要員は、〇号館〇〇室に集合してください。 ・以後は、〇〇研究科地震防災対策マニュアル及び消防隊の指示に従って行動してください。 | 「消防隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から部局内へ ・これは、訓練情報です。 ・こちらは、〇〇研究科消防隊です。 ・本日10時35分に震度6弱の地震が発生しました。 ・直ちに「〇〇研究科消防隊」要員は、〇号館〇〇室に集合してください。 ・以後は、〇〇研究科地震防災対策マニュアル及び消防隊の指示に従って行動してください。 | |
| 10:51 | 「部局内情報伝達」開始 | | 「消防隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から部局内全域へ ・これは、訓練情報です。 ・こちらは〇〇研究科消防隊指揮班です。 ・本日10時35分に震度6弱の地震が発生しました。 ・研究等業務を一時中断のうえ学生等在居者を名簿等にて確認し、学生等の居住者に対し当該部屋に係る二次災害防止措置（装置等の緊急停止、電気の遮断、ガス・水道の元栓閉鎖等）及び避難・帰宅時における対応を（部局マニュアル）にて実施してください。 （教養教育院・情報文化学部・大学院国際言語文化研究科・教育学部附属学校の居住者は、名簿等にて人数を確認後、所定の場所に避難を開始してください。） | 「消防隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から部局内全域へ ・これは、訓練情報です。 ・こちらは〇〇研究科消防隊指揮班です。 ・本日10時35分に震度6弱の地震が発生しました。 ・研究等業務を一時中断のうえ学生等の居住者を名簿等にて確認し、学生等在居者に対し当該部屋に係る二次災害防止措置（装置等の緊急停止、電気の遮断、ガス・水道の元栓閉鎖等）及び避難・帰宅時における対応を（部局マニュアル）にて実施してください。 （教養教育院・情報文化学部・大学院国際言語文化研究科・教育学部附属学校の居住者は、名簿等にて人数を確認後、所定の場所に避難を開始してください。） | 「授業・研究等指導教員等」から「在居者」へ 「説明事項」は部局マニュアルで対応する。 又は 「宿舎管理責任者」から「在居者」へ 「説明事項」は部局マニュアルで対応する。 |

| 日時 | 事項 | 災害対策統括本部 | 災害対策支部を置く部局 | 災害対策支部を置かない部局 | 学生・教職員等在学者 |
|---------|--------------------------|--|--|--|------------|
| 10:56 | 支部等要員集合 | | 支部要員及び 消防隊要員集合 | 消防隊要員集合 | |
| 10:58 | 災害対策支部設置 | | 災害対策支部設置 | | |
| 10:59 | 「災害対策支部設置」 「消防隊集合」報告 | 部局からの「支部等設置完了」報告を受領 (電話又はFAX) 及び (防災無線) | 「支部長」から「災害対策統括本部」へ支部設置報告 【電話 7499】又は 【FAX 2134】による報告 【可搬型防災無線】による報告 | 「消防隊指揮班」から「災害対策統括本部」へ要員集合報告 【電話 7499】又は 【FAX 2134】による報告 【可搬型防災無線】による報告 | |
| 11:00 | 「部局内居住者の安否確認及び被害状況の報告」開始 | | | | |
| 11:40 | 安否確認報告 | 部局からの「安否確認」報告を受領 (電話又はFAX) 及び (防災無線) | 「消防隊指揮班」から「支部長」へ部局内安否確認状況を報告 「支部長」から「災害対策統括本部」へ部局内安否確認状況を報告 【電話 7499】又は 【FAX 2134】による報告 防災無線放送設備 (屋外設備) による報告 | 「消防隊指揮班」から「部局長」へ部局内安否確認状況を報告 消防隊指揮班から「災害対策統括本部」へ部局内安否確認状況を報告 【電話 7499】又は 【FAX 2134】による報告 防災無線放送設備 (屋外設備) による報告 | |
| 11:45 | 被害状況報告 | 部局からの「被害状況」報告を受領 (電話又はFAX) 及び (防災無線) | 「消防隊指揮班」から「支部長」へ部局内被害状況を報告 「支部長」から「災害対策統括本部」へ部局内被害状況を報告 【電話 7499】又は 【FAX 2134】による報告 防災無線放送設備 (屋外設備) による報告 | 「消防隊指揮班」から「部局長」へ部局内被害状況を報告 消防隊指揮班から「災害対策統括本部」へ部局内被害状況を報告 【電話 7499】又は 【FAX 2134】による報告 防災無線放送設備 (屋外設備) による報告 | |
| 11:25 | 防災教育研修 | | 研修場所：豊田講堂 総長挨拶後講演 (講演者：災害対策室長) 各部局避難帰宅対象者 (下記避難対象部局を除く) は、防災研修を受講する。 (雨天の場合) 各部局避難帰宅対象者及び教養教育院の避難場所 (第3グリーンベルト) 避難訓練参加者は、防災研修を受講する。 総長挨拶後講演 (講演者：災害対策室長及び施設管理部施設整備課長) | | |
| (11:10) | (雨天の場合の 防災教育研修) | | | | |
| 12:00 | 訓練終了 | | | | |
| 11:00 | 避難訓練 | | 対象部局：教養教育院・情報文化学部・大学院国際言語文化研究科 (避難場所：第3グリーンベルト) 教育学部附属学校 (避難場所：教育学部附属学校グラウンド) | | |
| 12:00 | 訓練終了 | | (※ 雨天の場合は：部局の避難訓練は中止とする。) | | |

*注 災害対策統括本部電話番号

東山キャンパス内部局・・・・・・・・・7499
鶴舞キャンパス・・・・・・・・・85-7499
大幸キャンパス・・・・・・・・・85-7499
豊川キャンパス・・・・・・・・・052-789-2093

名古屋大学地震防災訓練「災害対策統括本部」行動マニュアル

| 区分 | 災害 | | | 業務 | | | 統括 | | | 本部 | | |
|-------------------|--|--|--|--|--|---|--|--------------------------|--|----|--|--|
| | 本部長 | 副本部長 | (広報班・情報連絡班・救護班) ・総務企画部長 (総務企画部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | (消火班・搬出班・救護物資班) ・財務部長 (財務部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | (避難誘導班・避難住民対応班) ・研究協力・国際部長 (研究協力・国際部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | (危険物班・建物復旧班・警備班・施設工作班) ・施設管理部長 (施設管理部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | (学生対応班・学外施設対応班) ・学務部長 (学務部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 災害対策室 ・災害対策室長 ・同室員 | | | | |
| 役員名 | 本部長 | 副本部長 | (広報班・情報連絡班・救護班) ・総務企画部長 (総務企画部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | (消火班・搬出班・救護物資班) ・財務部長 (財務部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | (避難誘導班・避難住民対応班) ・研究協力・国際部長 (研究協力・国際部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | (危険物班・建物復旧班・警備班・施設工作班) ・施設管理部長 (施設管理部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | (学生対応班・学外施設対応班) ・学務部長 (学務部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 災害対策室 ・災害対策室長 ・同室員 | | | | |
| 担当 | 総務 | 理事・副総務 ・理事・事務局長 | 総務企画部長 (総務企画部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 財務部長 (財務部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 研究協力・国際部長 (研究協力・国際部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 施設管理部長 (施設管理部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 学務部長 (学務部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 災害対策室 ・災害対策室長 ・同室員 | | | | |
| 防災隊員 | 総務 | | 総務企画部長 (総務企画部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 財務部長 (財務部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 研究協力・国際部長 (研究協力・国際部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 施設管理部長 (施設管理部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 学務部長 (学務部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 災害対策室 ・災害対策室長 ・同室員 | | | | |
| 応援要員 | 総務 | 総務企画部長 (総務企画部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 総務企画部長 (総務企画部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 財務部長 (財務部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 研究協力・国際部長 (研究協力・国際部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 施設管理部長 (施設管理部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 学務部長 (学務部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 災害対策室 ・災害対策室長 ・同室員 | | | | |
| 職務 | 総務 | 総務企画部長 (総務企画部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 総務企画部長 (総務企画部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 財務部長 (財務部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 研究協力・国際部長 (研究協力・国際部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 施設管理部長 (施設管理部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 学務部長 (学務部の総務掛長及び主任又は掛員1名) | 災害対策室 ・災害対策室長 ・同室員 | | | | |
| タイムスケジュール (目安) | 10:40 | 施設整備課長からの「震度6弱の地震が発生した。」情報を受ける。 | | | | | | 災害対策室 ・災害対策室長 ・同室員 | | | | |
| | 10:41 | 総長の命をたもつ秘書掛は各理事に報告及び総務企画課課長補佐(総括)に「災害対策統括本部・支部」の設置命令を連絡 | | | | | | 災害対策室 ・災害対策室長 ・同室員 | | | | |
| | 10:41 | 総務企画課課長補佐(総括)は総務課長に「災害対策統括本部」の設置命令を伝達 | | | | | | 災害対策室 ・災害対策室長 ・同室員 | | | | |
| | 10:42 | 総務企画課課長補佐(総括)は総務課長からの命令(災害対策統括本部設置命令及び要員名集)を総務企画課に防炎無線による放送と本部各課筆頭掛あて電子メール・FAX送信指示 | | | | | | 災害対策室 ・災害対策室長 ・同室員 | | | | |
| | (災害対策統括本部要員は本部第2会議室、本部応援要員及び本部防災隊員は本部第1会議室に集合) | | | | | | | | | | | |
| 10:45 | 「災害対策統括本部要員」集合、 直ちに災害対策統括本部設置(名古屋大学防災無線局(東山指令局)可搬型設置、電話回線3台分及び電子メール回線1台分・FAX1回線分・立ち上げ) | | | | | | | | | | | |
| 10:45 | 「災害対策統括本部設置」 ・統括本部(総務企画部)は全要員集合報告を確認の後、本部各報告 消火班は、消火班の位置を確認する。 避難誘導班は、豊田講堂の防災教育・研修室で防炎無線による放送を受ける。 施設管理班は、豊田講堂の防災教育・研修室で防炎無線による放送を受ける。 学務班は、豊田講堂の防災教育・研修室で防炎無線による放送を受ける。 災害対策室は、豊田講堂の防災教育・研修室で防炎無線による放送を受ける。 | | | | | | | | | | | |
| 10:46 | 各部局への情報伝達開始 「震度6弱地震発生」及び「支所等設置指示」 ①防災無線による一斉放送(担当 総務企画課職員2名) ②電子メール・FAX送信(受信所要時間 数分) (担当 施設整備課職員2名) | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 10:50 | シンボジョンから「被害状況」報告を電話にて受信 (7499) 総務広報課職員 被害状況(①電氣・電燈は正常 ②1階前廊で使用中のガスコンロが消火 ③水道及び排水 ④エレベーターが停止) | | | | | | | | | |
| 10:51 | 電話受信担当者(総務広報課職員)は、広報課長(総務広報課長)に「シンボジョンの被害状況」を報告 | | | | | | | | | |
| 10:52 | 広報課長(総務広報課長)から「シンボジョンの緊急措置」を報告 | | | | | | | | | |
| 10:53 | | | | | | | | | | |
| 10:54 | | | | | | | | | | |
| 10:55 | | | | | | | | | | |
| 10:56 | | | | | | | | | | |
| 10:57 | 支部設置、又はは単位消防隊集合受信を電話又はFAXにて連絡 A.Xにて受信担当 総務広報課職員3名 (連絡及び集計担当 企画課職員2名) 7499 本部・教養教育課・図書館・文学部 7497 教育学部・附属科学部・理学部 2093 医学部・保健科学部・工学部・農学部 環境医学研究所・国際言語文化研究所 情報連携センター・総合保健体育科学 防災無線設置場所(可搬型)担当からの報告受信(無線担当 総務広報課職員2名) 本部局の「支部設置又はは単位消防隊集合報告」を受信の後「支部等設置完了」を報告 | | | | | | | | | |
| 10:59 | 広報課長(総務広報課長)から、「支部等設置完了」報告 | | | | | | | | | |

各 部 局 支 部 又 は 単 位 消 防 隊 集 合 (所要時間 1分～5分)

・ 施設管理部長は、施設工
作班長(施設管理課長)に
「シンボジョンの緊急措
置」を指示
・ 施設工
作班長(施設管理課長)は
班員に「シンボジョンの
緊急措置」を指示
・ 施設工
作班(本部語学センター
シンボジョン)に電話し、
①ガスコンロの元栓の閉
鎖
②エレベーター内の乗
用者の確認を指示
・ 施設工
作班(現場確認)がシン
ボジョンに急行
①市水・排水の配管破
損を確認し、止水栓閉
鎖
②ガス・エレベーターの自
動停止を確認
③電氣設備に異常のないことを確認

| | | | |
|-------|---|--|--|
| 11:05 | 社長及び各理事 (11:25~11:30 豊田講堂、移動 豊田講堂) | | |
| 11:06 | | ・施設工作班（現場確認 グループ） シンボジオンの事務担当 者に建物の使用関係等 を説明し、排水・ガス及 び水道、エレベーター、 照明使用できないなど、 並電話は使用でき ない。 | |
| 11:09 | | ・シンボジオン事務担当 者 施設工作班（現場確認 グループ）の「シンボジ オン」の「時的措置」 を説明し、エレベーター 利用者がいないか、た りガスの圧力を確認 | |
| 11:13 | | ・施設工作班（現場確認 グループ） シンボジオンの緊急警 報完了後、改善等確認 結果本部に戻る | |
| 11:14 | | ・施設工作班（現場確認 グループ） 施設管理課長に「シン ボジオンの緊急措置の 完了」を報告 ①エレベーター内には 利用者がいなかった ②ガスメーターの元栓の 閉鎖及びガスメーター の自動停止を確認 ③市水・井水の配管破 断を確認し、止水栓を 閉鎖 ④電気が正常 | |
| 11:16 | | ・施設工作班（施設管 理課）は施設工作班（本 部確認グループ）に「シン ボジオンの復旧手配」を 指示 ①エレベーター-保守公 社にエレベーターの 自動停止の連絡と、 復旧を依頼 ②ガスメーター-ガスの 自動停止の連絡と、 復旧を依頼 | |
| 11:17 | | 「シンボジオンの復旧手 配」 ・施設工作班（本部確認 グループ） エレベーター-保守公 社 ガス会社に連絡 | |
| 11:17 | | ・施設工作班（本部確認 グループ） 施設管理課長に「シン ボジオンの復旧手配の 完了」を報告 | |

11月12日 地震防災訓練当日の情報伝達の流れ

(1) 総長が施設整備課長から「震度6弱の地震が発生した。」の一報を受ける

- 施設整備課長 → 総長(2000)へ電話連絡(秘書掛経由)
- 同 → 中島理事(5810)へ電話連絡

(2) 総長から災害対策統括本部設置を指示

- 災害対策統括本部要員招集
 総長 → 秘書掛 → 総務広報課佐藤課長補佐(総括)(2009)
 → 総務企画部長 → 総務広報課長 [本部要員招集]

※ (1) 情報伝達文は、①情報伝達文を参照

- 統括本部防災隊招集(各部筆頭課長)
 総務広報課長 → 総務広報課担当者 → (電子メール・FAX送信)
 → 各部筆頭掛長 → 各部筆頭課長
- 統括本部応援要員の招集
 総務広報課長 → 総務広報課担当者 → (電子メール・FAX送信)
 → 各課筆頭掛長 → 応援要員
- 部局長への連絡
 総務広報課長 → 総務広報課担当者
 → (防災無線による一斉放送・電子メール・FAX送信)
 → 各受信担当者 → 各部局長

※ (1) 情報伝達文は、②「災害対策統括本部」情報伝達文を参照

※ (2) 電子メール・FAX送信先は、「防災訓練情報連絡表」のとおり

※ (3) 防災無線受信確認は、「名古屋大学防災無線装置(屋外・可搬型)取扱者一覧表」のとおり

※ (4) 各課筆頭掛長は、「防災訓練情報連絡表(本部)」のとおり

※ (5) 災害対策統括本部(座席図)は別図のとおり

- 本部各部筆頭課以外の各課(防災隊)
 各課筆頭掛長 → 各課長(各班)
 → 各課(〇〇)で集合し、当該課の在室人数を確認する。
 任務分担がない職員で、業務に支障のない職員は、
 豊田講堂の防災教育に参加する。
 (※ 避難誘導班、学生対応班は、豊田講堂で実施される
 防災教育・研修参加者を会場へ誘導する。)

- 本部所掌施設等の連絡
 各課受信担当者 → 施設受信担当者

※ (1) 情報伝達文は、③「名古屋大学災害対策統括本部防災隊」情報伝達文を参照

※ (2) 電話・FAX送信先は、「防災訓練情報連絡表(本部所掌施設)」のとおり

① 情報伝達文

1. 情報伝達訓練「震度6弱の地震発生」受信の電話連絡

① 施設整備課長 → 総長（2000）へ電話連絡（秘書掛経由）

【施設整備課長】

「防災訓練情報です。総長に連絡をお願いします。」と説明のうえ

- ・これは、訓練情報です
- ・本日10時35分に「震度6弱の地震」が発生しましたとの連絡を受けましたので報告します。

【秘書掛】

- ・了解しました。（総長及び各理事に災害対策統括本部へ移動を願う。）

【秘書掛は、総長及び各理事を、本部1号館第2会議室に誘導】

② 施設整備課長 → 中島理事（5810）へ連絡

【施設整備課長】

- ・これは、訓練情報です。
- ・本日10時35分に「震度6弱の地震」が発生しましたとの連絡を受けましたので災害対策統括本部へ移動願います。

【中島理事】

- ・了解しました。**【災害対策統括本部へ移動】**

名古屋大学地震防災計画で震度6弱以上の地震が名古屋市内で発生した場合は、災害対策統括本部を設置することになっている。

2. 災害対策統括本部の設置

（総長は、秘書掛に災害対策統括本部設置を命令）

【秘書掛 → 総務広報課「佐藤課長補佐（総括）（2009）」へ電話伝達】

- ・総長よりの命令です
- ・本日10時35分に「震度6弱の地震」が発生しましたとの想定訓練です。
- ・「災害対策統括本部設置」、及び「各部局への情報伝達」訓練を開始してください。

3. 「災害対策統括本部設置」及び「本部防災隊招集」命令

【佐藤補佐→本部各課筆頭掛へ電子メール送信・FAX送信を総務広報課職員に指示、及び総務広報課長・総務企画部長に伝達】

「電子メール・FAX送信文(佐藤課長補佐の指示により総務広報課職員が送信)」

- ・ これは訓練情報です。
- ・ 本日 10時35分に「震度6弱の地震」が発生しました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部第2会議室、防災隊要員・応援要員は第1会議室に集合してください。
なお、本部要員・防災隊要員・応援要員以外の「本部防災隊要員」は、各班で班の任務を模擬にて実施してください。
- ・ 避難誘導班・学生対応班の班員は、豊田講堂にかけつけ、防災教育研修参加者の会場への誘導及び会場整理を行ってください。
- ・ 本情報を内部関係職員に伝達願います。

「総務広報課長・総務企画部長への報告」

- ・ 総長の命により「防災訓練」を開始します。
- ・ 本日 10時35分に「震度6弱の地震」が発生したとの想定訓練です。
- ・ 現在「災害対策統括本部要員」・防災隊要員・応援要員を、本部第1・第2会議室に招集しています。
なお、本部要員・防災隊要員・応援要員（「災害対策統括本部」行動マニュアル参照）以外の「本部防災隊要員」は各課で集合し、班の業務を模擬にて実施しています。

【総務企画部長及び総務広報課長は、本部第2会議室に移動】

4.

要員集合→「災害対策統括本部」設置完了

5. 「災害対策統括本部設置完了」及び「情報伝達開始」報告

② 「災害対策統括本部」情報伝達文

1. 災害対策統括本部要員及び本部防災隊招集用 (10:42頃)

総務広報課担当・・・本部各課(室)筆頭掛宛へ連絡(電子メール・FAX送信)

- ・ これは、訓練情報です。
- ・ 本日 10時35分に「震度6弱の地震」が発生しました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部第2会議室、防災隊要員・応援要員は、第1会議室に集合してください。
なお、本部要員・防災隊要員・応援要員以外の「本部防災隊要員」は、各班で班の業務を模擬にて実施してください。
- ・ 避難誘導班・学生対応班の班員は、豊田講堂にかけつけ、防災教育・研修参加者の会場整理・誘導を行ってください。
- ・ 本情報を内部関係職員に伝達願います。

2. 各部局宛「東海地震注意情報発表」伝達用 (10:51頃)

1) 総務広報課担当

- ・・・ 防災無線による全学一斉放送を行う。
- ・ これは、訓練情報です
- ・ こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。
- ・ ただいまより地震防災訓練を開始します。
- ・ 各部局は、「災害対策支部」または支部を置かない部局は「単位消防隊」を招集してください。
- ・ 以後は、各部局の「地震防災マニュアル」及び「各消防隊の指示」に従って行動してください。

2) 施設整備課担当

- ・・・ 全部局宛電子メール送信・FAX送信を行う
・・・・ 別紙「防災訓練情報連絡表」参照
- ・ これは、訓練情報です
- ・ こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。
- ・ 本日 10時35分に「震度6弱の地震」が発生しました。
- ・ 各部局は、「災害対策支部」または支部を置かない部局は「単位消防隊」を招集してください。
- ・ 以後は、各部局の「地震防災マニュアル」及び「各消防隊の指示」に従って行動してください。

3. 防災無線による確認報告・・・ 防災無線による報告の応対

1) 総務広報課担当

○防災無線による一斉放送による訓練情報の確認報告を行う

・・・(災害対策室・事務局北の2箇所から報告)・・・

(災害対策統括本部応答例)

- ・ 了解しました。

受信担当者は、総務広報課長に「災害対策室・事務局北での放送受信を確認しました。」と報告する

4. 部局からの「支部等設置報告」・・・ 電話・防災無線による報告の応対

1) 総務広報課担当・・・ 支部等設置報告

(各部局報告例)

- ・ こちらは、〇〇研究科災害対策支部（または、〇〇研究科消防隊）です。
- ・ 「災害対策支部設置（または消防隊招集）」が完了したので報告します。

(災害対策統括本部応答例) (10:56～10:59の間)

- ・ 了解しました。
- ・ 引き続き、部局内全域の「安否確認」・「被害状況」について報告願います。

受信担当者は、全部局からの報告を確認後、総務広報課長に「全部局の災害対策支部設置等を確認しました。」と報告する

・ 前述の報告を受け総務広報課長は災害対策統括本部総務企画部長に報告

5. 部局からの「安否確認報告」・「被害状況報告」

・・・ 電話・防災無線による報告の応対

1) 総務広報課担当・・・ 支部等設置報告

(各部局報告例)

- ・ こちらは、〇〇研究科災害対策支部（または、〇〇研究科消防隊）です。
- ・ 「〇〇の学生、〇名中〇名の確認ができましたので報告します。」
- ・ 「なお、火災発生、負傷者はありませんでした。」

(災害対策統括本部応答例) (11:10～11:45の間)

- ・ 了解しました。災害対策統括本部への報告は、本報告をもって完了となります。

受信担当者は、全部局からの報告を確認後、総務広報課長に「全部局の部局内情報伝達完了を確認しました。」と報告する

・ 前述の報告を受け総務広報課長は災害対策統括本部総務企画部長に報告

防 災 訓 練 情 報 連 絡 表

| 部局等名称 | 電話番号 | F A X 番号 | 受信担当者名 |
|--|-------------------------|-------------------------|--------------------|
| 災害対策統括本部 | 052-789-2093 7499 | 052-789-2134 | |
| 本部所掌施設 (博物館) (共同教育研究施設) 高等研究館 (広報プラザ) (エネルギーセンター) ----- (留学生センター) (留学生会館) (インターナショナルレジデンス) (野依記念学術交流館) ----- (課外活動施設) ----- (福利厚生施設) 生協系施設 グリーン・サロン東山・アメニティハウス 職員クラブ シンポジオン 国際嚶鳴館 | 052-789-2096 7498 | 052-789-2134 | 施設整備課専門職員 鈴木 孝二 |
| 同 教養教育院 | 052-789-3523 | 052-789-3527 | 事務室長 村井 丈深 |
| 附属図書館 | 052-789-3669 | 052-789-3693 | 会計掛長 鈴木 誠 |
| 文学部・文学研究科 | 052-789-2204 | 052-789-2272 | 会計掛長 池戸 道明 |
| 教育学部・教育発達科学研究科 (発達心理精神科学教育研究センター) | 052-789-2604 | 052-789-2666 | 会計掛長 渡邊 正 |
| 同 教育学部附属学校 | 052-789-2672 | 052-789-2696 | 附属学校事務掛長 鈴木 公也 |
| 法学部・法学研究科 (法政国際教育研究センター) (共同教育研究施設) | 052-789-2311 | 052-789-4900 | 事務長 横田 圭介 |
| 経済学部・経済学研究科 | 052-789-2356 | 052-789-4921 | 会計掛長 岡部 衛 |
| 情報文化学部・情報科学研究科 | 052-789-4715 | 052-789-4800 | 事務長 山本 明博 |
| 理学部・理学研究科 (附属臨海実験所) (多元数理科学研究科) (アイソトープ総合センター) (遺伝子実験施設) (物質科学国際研究センター) (年代測定総合研究センター) (共同教育研究施設) | 052-789-2397 | 052-789-5254 | 管理掛長 松井 宏文 |
| 医学部・医学系研究科 | 81-2810 052-744-2810 | 81-2820 052-744-2820 | 施設管理掛長 向井 廣 |
| 同 大幸団地 (大幸医療センター) | 82-1503 052-719-1503 | 82-1509 052-719-1509 | 事務室長 石黒 孝司 |
| 工学部・工学研究科 (情報メディア教育センター) (旧高効率エネルギー変換研究センター) (廃棄物処理施設) (核燃料管理施設) (共同教育研究施設) | 052-789-7490 | 052-789-3100 | 総務課長 松川 和彦 |

| 部局等名称 | 電話番号 | F A X 番号 | 受信担当者名 |
|--|--|--------------|-----------------|
| 農学部・生命農学研究科 (附属農場) (附属演習林) (附属山地畜産実験実習施設) (生物機能開発利用研究センター) (農学国際教育研究センター) (共同教育研究施設) | 052-789-7719 不通時の予備 052-789-4002 | 052-789-4005 | 事務長補佐 工藤 善久 |
| 総合保健体育科学センター | 052-789-5752 | 052-789-3957 | 事務掛主任 荒谷 勝彦 |
| 国際開発研究科 | 052-789-4952 | 052-789-4951 | 事務掛長 長田 昭夫 |
| 国際言語文化研究科 | 052-789-5312 | 052-789-4873 | 事務掛長 大江 尚美 |
| 環境学研究科 (地球水循環研究センター) (共同教育研究施設) | 052-789-3456 | 052-789-3452 | 会計掛長 藤本 正喜 |
| 環境医学研究所 | 052-789-3859 | 052-789-3887 | 会計掛事務官 川上 章子 |
| 太陽地球環境研究所 (東山分室) (共同教育研究施設) | 0533-89-5151 | 0533-86-0811 | 庶務掛長 横江 基博 |
| エコトピア科学研究機構 (共同教育研究施設) (先端技術共同研究センター) (ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー) | 052-789-5262 | 052-789-5265 | 事務掛長 曾田 薫 |
| 情報連携基盤センター | 052-789-4356 | 052-789-4385 | 会計掛長 金原 保夫 |

名古屋大学防災無線放送設備（屋外）取扱者一覧表

| 区分(設置番号) | 局名称 | 種類 | 設置場所 | 取扱者所属 | 取扱者職名 | 取扱者 | 連絡先 | 備考 |
|----------|-------|------|-------------------------|----------------|-------|--------|---------|----------|
| No. 1 | 事務局北 | 半固定型 | (東山)本部2号館北 | 総務企画部総務広報課 | 総務掛員 | 福地 実 | 2018 | |
| No. 2 | 屋外運動場 | 半固定型 | (東山)総合保健体育科学センター陸上グラウンド | 総合保健体育科学センター | 事務掛長 | 鶴飼 モト美 | 3946 | |
| No. 3 | 共同教育 | 半固定型 | (東山)共同教育研究施設1号館 | エコトピア科学研究機構 | 事務掛主任 | 伊藤 真由美 | 5264 | |
| No. 4 | 農学部 | 半固定型 | (東山)農学部温室西 | 農学部・生命農学研究科 | 管理掛主任 | 尾関 光徳 | 5268 | |
| No. 5 | 理学部 | 半固定型 | (東山)環境総合館西 | 理学部・理学研究科 | 管理掛主任 | 小林 祐 | 2804 | |
| No. 6 | 工学部東 | 半固定型 | (東山)工学部7号館A棟東 | 工学部・工学研究科 | 専門職員 | 鈴木 照子 | 3133 | |
| No. 7 | 工学部西 | 半固定型 | (東山)工学研究科1号館西 | 工学部・工学研究科 | 専門職員 | 山根 みち子 | 2732 | |
| No. 8 | 図書館西 | 半固定型 | (東山)情報文化学部北 | 情報文化学部・情報科学研究科 | 会計掛長 | 福田 重美 | 4718 | |
| No. 9 | 経済学部 | 半固定型 | (東山)経済学部北 | 経済学部 | | | | 改修工事エリア内 |
| No. 18 | 大幸塔屋 | 半固定型 | (大幸)保健学科南館塔屋 | 医学部・医学系研究科管理課 | 電気掛主任 | 坪内 実男 | 82-1959 | |

※ 設置場所は、別図のとおり



No. 0
スピーカー設置位置 (No. 1~No. 9)



名古屋大学

名古屋大学東山団地配置図



配置図 (東山団地) 1/6,000

名古屋大学防災無線装置（可搬型）取扱者一覧表

| 区分(設置番号) | 局名称 | 種類 | 配 備 先 | 取扱者所属 | 取扱者職名 | 取扱者 | 連絡先 | 備 考 |
|----------|-------|-----|----------------------|---------------|----------|-------|--------------|--------|
| No. 10 | 東山指令局 | 可搬型 | (東山) 災害対策統括本部(本部1号館) | 総務広報課 | 総務掛長 | 伊藤 秀樹 | 2012 | |
| No. 11 | 東山可搬1 | 可搬型 | (東山) 環境総合館 災害対策室 | 災害対策室 | 助教授 | 飛田 潤 | 3754 | 環境学研究所 |
| No. 12 | 東山可搬2 | 可搬型 | (東郷) 農学部附属農場 | 附属農場 | 附属農場事務掛長 | 若尾 敏美 | 0561-37-0210 | |
| No. 13 | 東山可搬3 | 可搬型 | (山手) 国際唎鳴館事務室 | 学生総合支援課 | 学生支援企画掛長 | 森 修三 | 2173 | |
| No. 14 | 東山可搬4 | 可搬型 | (陶生町) 留学生会館事務室 | 国際課 | 国際交流会館掛員 | 兼松 英代 | 853-2901 | |
| No. 16 | 鶴舞可搬1 | 可搬型 | (鶴舞) エネルギーセンター-中央監視室 | 医学部・医学系研究科管理課 | 電気掛長 | 榊原 和久 | 81-2100 | |
| No. 17 | 大幸指令局 | 可搬型 | (大幸) 保健学科本館事務室 | 医学部・医学系研究科管理課 | 会計掛長 | 小倉 豊 | 82-1511 | |

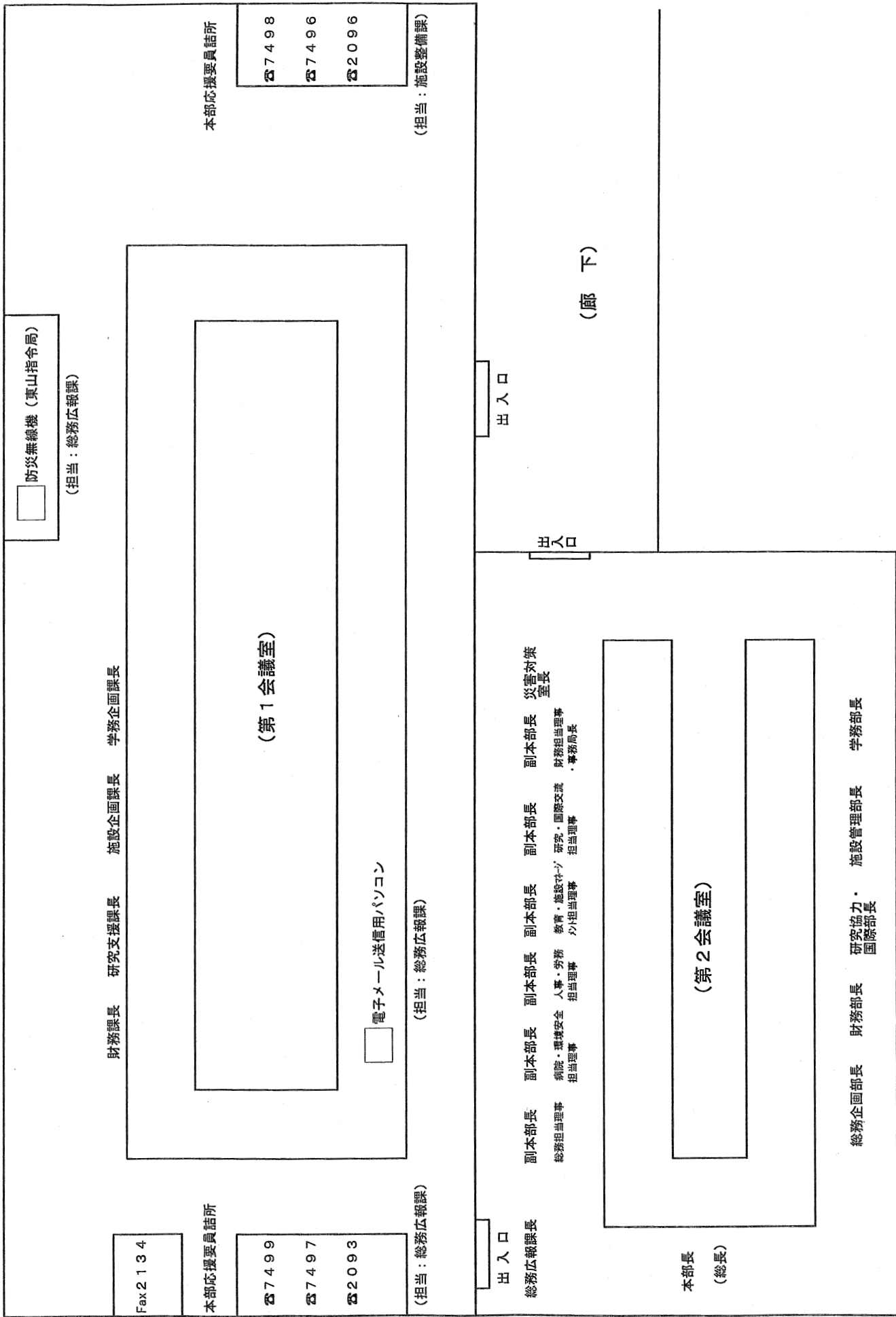
防災訓練情報連絡表（本部）

| 所 属 | 部 課 | 筆 頭 掛 長 | 氏 名 | 電話番号 | F A X 番号 |
|----------|---------|----------|--------|------|--------------|
| 総務企画部 | 総務広報課 | 総務掛長 | 伊藤 秀樹 | 2012 | 789 - 2019 |
| | 企画課 | 企画掛長 | 河口 正樹 | 5770 | 789 - 2019 |
| | 人事労務課 | 総務掛長 | 高下 一磨 | 2024 | 789 - 2037 |
| 財務部 | 財務課 | 総務掛長 | 麦島 重信 | 2057 | 789 - 2071 |
| | 経理課 | 経理掛長 | 林 清 | 2075 | 789 - 2085 |
| | 資産管理課 | 資産管理第一掛長 | 石川 佳憲 | 2094 | 789 - 2099 |
| | 契約課 | 契約総括掛長 | 山下 啓二 | 2082 | 789 - 5560 |
| | 情報企画課 | 情報企画掛長 | 大矢 淳一 | 2104 | 789 - 2109 |
| 研究・協力国際部 | 研究支援課 | 研究協力総務掛長 | 辻 芳樹 | 2039 | 789 - 2041 |
| | 社会連携課 | 共同研究掛長 | 市岡 浩之 | 2040 | 788 - 6002 |
| | 国際課 | 国際企画掛長 | 細川 雪文 | 2191 | 789 - 5100 |
| 学務部 | 学務企画課 | 総務掛長 | 西尾 直人 | 2159 | 789 - 2167 |
| | 学生総合支援課 | 学生支援企画掛長 | 森 修三 | 2173 | 789 - 2179 |
| | 入試課 | 入試掛長 | 渡邊 導 | 2183 | 789 - 2188 |
| 施設管理部 | 施設企画課 | 総務掛長 | 後藤 隆文 | 2115 | 789 - 2120 |
| | 施設整備課 | 施設計画掛長 | 草 一宏 | 2124 | (789 - 2134) |
| | 施設管理課 | 施設管理掛長 | 祖父江 信和 | 2137 | 789 - 2150 |

() の F A X は、災害対策統括本部で使用

災害対策統括本部(座席図)

本部1号館5階)



☐ 防災無線機 (東山指令局)
(担当: 総務広報課)

財務課長 研究支援課長 施設企画課長 学務企画課長

Fax2134

本部応援要員詰所

☎7499
☎7497
☎2093

(第1会議室)

☐ 電子メール送信用パソコン

(担当: 総務広報課)

(担当: 総務広報課)

(担当: 施設整備課)

本部応援要員詰所
☎7498
☎7496
☎2096

出入口
総務広報課長

出入口

副本部長 副本部長 副本部長 副本部長 副本部長 災害対策室長
総務担当理事 病態・環境安全 担当理事 人事・労務 教育・施設管理 研究・国際交流 財務担当理事 事務局長
担当理事 担当理事 担当理事 担当理事 担当理事

出入口

(廊下)

本部長
(総長)

(第2会議室)

総務企画部長 財務部長 研究協力・国際部長 施設管理部長 学務部長

③ 「名古屋大学災害対策統括本部防災隊」情報伝達文

1. 災害対策統括本部防災隊招集のメール受信後、各課筆頭掛長は各部課長に連絡し、課内職員に大声で伝達周知

- ・ これは、訓練情報です。
- ・ 本日 10時35分に「震度6弱の地震」が発生しました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部第2会議室、防災隊要員・応援要員は、第1会議室に集合してください。
なお、各課の統括本部防災隊要員は、各班で班の任務を模擬にて実施してください。
- ・ 避難誘導班・学生対応班の班員は、豊田講堂に駆けつけ、防災教育・研修参加者の会場整理及び誘導を行ってください。

各部の筆頭課長補佐は、部長・各部の筆頭課長に報告し、各部の総務掛長に各班の任務を指示する。

(各部の部長は、「災害対策統括本部」(第2会議室)へ移動)

(各部の筆頭課長は、「災害対策統括本部」(第1会議室)へ移動)

各部の総務掛長は、当該課の在室人数の確認及び班の任務を班員に指示し、主任又は掛員1名とともに「災害対策統括本部」(第1会議室)へ移動する。

各部の筆頭課長補佐は、取りまとめた人員を班員に総務掛長へ報告するよう指示し、班員とともに班の任務を模擬にて実施する。

(災害対策統括本部要員は、総長・理事・部長)

(防災隊要員は、総務広報課長・財務課長・研究支援課長・施設企画課長
・学務企画課長及び各部の総務掛長・並びに主任又は掛員1名)

(応援要員は、総務企画部職員・施設管理部職員)

応援要員は、本部第1会議室に駆けつける。

防災隊要員の各課の筆頭掛長は、当該課の在室人数を確認後、各部の筆頭掛長に報告し、各部の筆頭掛長は人員をとりまとめ災害対策統括本部へ報告する。

- ・ 消火班班員(財務課)は、消火栓の位置を確認する。
- ・ 施設工作班班員は、資料5の「訓練実施要領」により訓練を実施する。
- ・ 研究支援課・学務企画課・入試課の班員は、豊田講堂に駆けつけ、防災教育・研修参加者の会場整理及び誘導を行う。
- ・ 本部所掌施設担当者は各施設に連絡する。
- ・ 各課電話連絡要員を除く業務に支障のない職員は、豊田講堂の防災教育研修に参加する。

2. 本部所掌施設等連絡

本部所掌施設担当課の受信担当者は、「震度6弱の地震」が発生した報告を受け、直ちに、内部関係施設内へ、電話又はFAXにて施設受信担当者に情報伝達開始(キャンパス内学生用)

- ・ 訓練情報です。
- ・ こちらは、本部防災隊です。
- ・ 本日 10時35分に「震度6弱の地震」が発生しました。
- ・ 直ちに学生への周知をお願いします。

(寄宿舍用)

- ・ 訓練情報です。
- ・ こちらは、本部防災隊です。
- ・ 本日 10時35分に「震度6弱の地震」が発生しました。
- ・ 居住者の安否を確認します。〇〇階〇〇事務室に入居者名簿がありますので、チェックしてください。
- ・ 安全確保に充分注意するようお願いします。

3. 情報伝達完了報告

本部所掌施設受信担当者は、各施設の情報伝達完了報告を受け総務広報課長に報告、

総務広報課長は、災害対策本部長(総長)に本部防災隊の伝達完了報告

- ・ 本部防災隊です。本部防災隊の情報伝達の完了を確認をしました。

4. 情報伝達訓練終了

防災訓練情報連絡表（本部所掌施設）

| 本 部 | 電 話 番 号 | F A X 番 号 | 受信担当者名 |
|------------------|----------|-----------|----------|
| （研究支援課） | （2039） | | （辻） |
| 博物館 | 5967 | 5896 | 渡辺 |
| 高等総合研究館 | 788-6051 | 788-6151 | 長坂 |
| 広報プラザ | 5787 | 5788 | 林 |
| エネルギーセンター | 2152 | 2153 | 鶴沢 |
| （国際課） | （2191） | | （細川） |
| 留学生センター | 2198 | 5100 | 坂口 |
| 留学生会館 | 853-2901 | 853-2929 | 兼松 |
| インターナショナルレジデンス | 2197 | 0356 | 加藤 |
| 野依記念学術交流館 | 788-6121 | 788-6121 | 岩田、金森 |
| 留学生相談室 | 6117 | 6120 | 白石 |
| （学務企画課） | （2159） | | （西尾） |
| 課外活動施設 | | | |
| 学生会館 | 7535 | なし | 竹原（ケリノグ） |
| 体育合宿所 | 7534 | 7534 | 大島 |
| 課外音楽芸術系 | " | " | " |
| 体育系共用施設 | " | " | " |
| （学生総合支援課） | （2173） | | （森） |
| 福利厚生施設 | | | |
| 生協系施設 | 7540 | 782-1946 | 今井 |
| グリーンサロン・アメニティハウス | " | " | " |
| 職員クラブ | | | |
| 宿泊予約センター | 4916 | 4916 | 安達 |
| 職員食堂 | 7524 | なし | 二宮 |
| 理容 | 4914 | なし | 加藤 |
| ホワイトベア | 7525 | なし | 山田 |
| シンポジオン | | | |
| 事務室 | 3059 | なし | 千藤（ケリノグ） |
| ユニバーサル・アメニティハウス | 7526 | 782-6755 | 斉藤（ケリノグ） |
| 国際囀鳴館 | 832-2736 | 832-3257 | 島田 |

統括本部防災隊 建築設備の点検・緊急措置訓練実施要領

第2回地震防災訓練時に〈シンポジオン〉に物的被害があったことを想定して、統括本部防災隊（仮称）施設工作班が中心となり、下記のとおり建築設備の点検・緊急措置訓練を実施する。

想定被害建物

建物：シンポジオン（事務室 内3059）

被害想定：シンポジオンが被災

- ・建物に異状なし
- ・電気・電話は正常
- ・1階前室（会議室西）で使用中のガスコンロが消火
- ・水道が断水（詳細不明）
- ・ELV自動停止

- 10:50 ①シンポジオン事務担当者（契約課）から災害対策統括本部防災隊広報班（内7499）に【シンポジオン被災】の報告
- 10:51 ②災害対策統括本部防災隊広報班から広報班長（総務広報課長）に【シンポジオン被災】の報告
- 10:52 ③広報班長（総務広報課長）は本部長に【シンポジオン被災】の報告
- 10:52 ④施設管理部長は施設工作班長（施設管理課長）に【シンポジオンの緊急措置】を指示
- 10:53 ⑤施設工作班長は直ちに、現場確認・緊急措置を班員に指示
- 10:54 ⑥施設工作班員（本部詰グループ）はシンポジオン事務担当者に電話で、ELV内の利用者の有無の確認と、ガスコンロの元栓の閉鎖を指示（内2096を使用）
- 10:54 ⑦施設工作班員（現場確認グループ）はシンポジオンへ急行し、下記業務を実施
- ・市水・井水共、建物への引込み部分での配管破断を確認し、一次側止水栓を閉鎖する。
 - その後、破断した付近の漏水が止まったことを確認（市水・井水各1箇所）
 - ・建物西側のガスメーターが地震感知による自動停止になっていることを確認
 - ・電気・電話の各設備に異常のないことを確認
- 11:08 ⑧施設工作班員（現場確認グループ）はシンポジオン事務担当者に水道・排水・ガス及びELVが使えないことと、電気・電話の各設備は使用できることを説明する
- 11:08 ⑨シンポジオン事務担当者から施設工作班員（現場確認グループ）に【シンポジオンの一時的措置】の報告
- ・ELV内に利用者がいないことを確認
 - ・ガスコンロの元栓の閉鎖を完了
- 11:09 ⑩施設工作班員（現場確認グループ）は災害対策統括本部に戻る
- 11:13 ⑪施設工作班員（現場確認グループ）は災害対策統括本部に戻り、施設工作班長（施設管理課長）に【シンポジオンの緊急措置の完了】を報告
- ・ELV内に利用者がいないことを確認
 - ・ガスコンロの元栓の閉鎖、及びガスメーターの自動停止を確認
 - ・市水、井水の配管破断を確認し、止水栓を閉鎖
 - ・電気、電話設備は異常なし
- 11:14 ⑫施設工作班員長は施設工作班員（本部詰グループ）に、下記連絡を指示
- ・ELV保守会社に、ELVの自動停止の連絡と復旧を依頼
 - ・ガス会社に、ガスの自動停止の連絡と復旧を依頼
- 11:15 ⑬施設工作班員（本部詰グループ）はELV保守会社とガス会社に連絡
- 11:17 ⑭施設工作班員（本部詰グループ）は施設工作班長（施設管理課長）に【シンポジオンの復旧手配の完了】を報告
- 11:19 ⑮施設工作班長（施設管理課長）は施設管理部長に【シンポジオンの緊急措置の完了】を報告
- ・ELV内に利用者がいないことを確認し、ELV保守会社に復旧を依頼
 - ・ガスメーターの自動停止を確認し、ガス会社に復旧を依頼
 - ・市水、井水の配管破断を確認し、止水栓を閉鎖
 - ・電気、電話設備は異常なし

以上で、統括本部防災隊建築設備の点検・緊急措置訓練を終了する。

〈シンポジオン〉 建築設備の点検・緊急措置訓練 電話連絡文及び口頭連絡文

10:50

シンポジオン事務室(3059)から災害対策統括本部防災隊広報班(7499)に電話で被害報告をする。

連絡文

こちらはシンポジオンです。ただ今の地震により、被害が発生したので連絡します。

電気と電話は正常ですが、1階前室で使用中のガスコンロが消火し、水道も断水しました。エレベーターも止まりましたので、現場確認願います。

10:54

統括本部防災隊施設工作班(2096)からシンポジオン事務室(3059)に電話で緊急措置を指示する。

連絡文

こちらは災害対策統括本部防災隊施設工作班です。ELV内の利用者の有無の確認と、ガスコンロの元栓の閉鎖を行ってください。

ただいま、統括本部防災隊施設工作班がそちらに急行しています。措置の結果は、現地の施設工作班員に連絡してください。

11:08

シンポジオン事務担当者から統括本部防災隊施設工作班(現場確認グループ)に口頭で一時的措置の完了を連絡する。

連絡文

エレベーターの確認をしたところ、カゴの中に人はいませんでした。また、ガスコンロの元栓を閉めました。

平成16年11月12日

防災無線に関するアンケート

[部局名] _____ [建物名] _____ [階] _____ 階

下の各項目について、該当欄にご記入ください。(該当する番号に○をしてください。)

Q1: 全学一斉放送があった時(10時45分頃)に
あなたがいた場所に × 印を記入してください。(下の配置図に記入してください。)

Q2: 全学一斉放送(屋外スピーカー)は聞こえましたか?

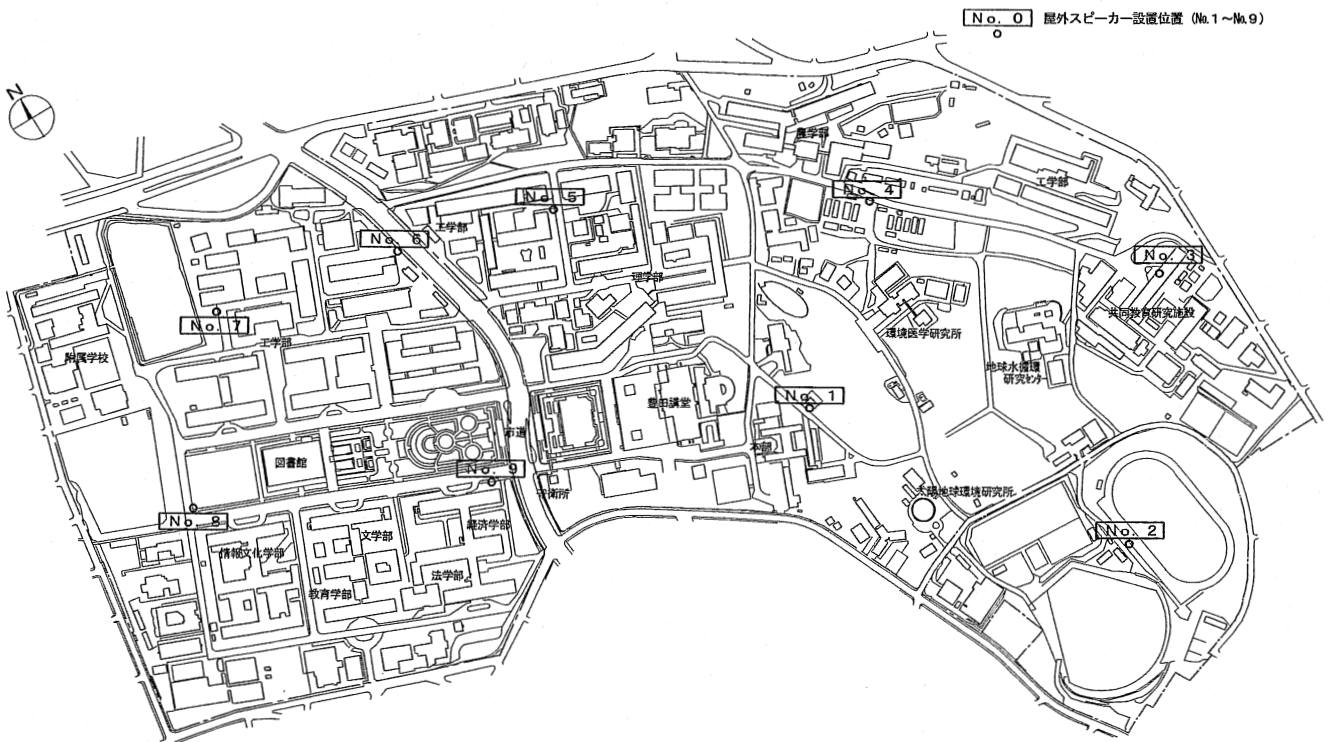
- 1. 内容が理解できた
- 2. 音は聞こえたが、内容はわからなかった
- 3. 全く聞こえなかった

Q3: 全学一斉放送があった時の室内の状況についてお答えください。

- 1. 窓は開いていた
- 2. 窓は閉まっていた
- 3. 室内で音の発生はなく静かだった
- 4. 室内で講義・実験・会話などの音が発生していた
- 5. その他 (_____)

ありがとうございました。

※このアンケート用紙は、各部局取りまとめのうえ、11月22日(月)までに施設整備課環境管理室へご提出ください。



名古屋大学東山団地防災無線屋外スピーカー配置図 S=1/8000

(地震防災情報連絡等 F A X 返信用)

- 支部設置等報告
 安否確認者数報告
 被害状況報告

- 本部 教養教育院 附属図書館 文学部・文学研究科
 教育学部・教育発達科学研究科 教育学部附属学校
 法学部・法学研究科

- 経済学部・経済学研究科 情報科学研究科
 理学部・理学研究科・多元数理科学研究科 医学部・医学研究科
 医学部保健学科 工学部・工学研究科 農学部・生命農学研究科

- 国際開発研究科 国際言語文化研究科 環境学研究科
 太陽地球環境研究所 情報連携基盤センター 環境医学研究所
 総合保健体育科学センター エコトピア科学研究機構

確認者・・・

安否確認

| 全 体 人 数 | | | 確 認 人 数 | | |
|---------|-----|-----|---------|-----|-----|
| 教職員 | 学生等 | 業者等 | 教職員 | 学生等 | 業者等 |
| 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |

被害状況 あり なし

(被害状況)

・死亡者・負傷者数

死亡 人 重傷者 人 軽傷者 人

・施設の被害状況

・その他ライフラインの状況等

* 該当項目に チェックしてください。

災害対策統括本部 FAX 2134

電話 7499

(要員召集用)

本部各課（室）筆頭係長 殿

訓 練 情 報

- ・ これは、訓練情報です。
- ・ 本日 10時35分に「震度6弱の地震」が発生しました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部第2会議室、
防災隊要員・応援要員は、第1会議室に集合してください。
なお、各課の統括本部防災隊要員は、各班で班の任務を模擬
にて実施してください。
- ・ 避難誘導班・学生対応班の班員は、豊田講堂に駆けつけ、防
災教育・研修参加者の会場整理及び誘導を行ってください。

(部局連絡用)

各部局防災訓練情報受信担当者 殿

これは、訓練情報です。

こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。

本日10時35分に震度6弱の地震が発生しました。

各部局は「災害対策支部」または支部を置かない部局では「単位消防隊」を召集してください。

以後は、各部局の「地震防災マニュアル」および「各消防隊の指示」に従って行動してください。

This is the Headquarter of Disaster Prevention at Nagoya University.
This is an announcement of a "Drill" for Disaster Management.
A big earthquake at a level of lower 6 occurred at 10:35 am today.
Please call the staff for disaster management at your department, and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management.

(部局内館内放送の文案1)

これは訓練情報です。

こちらは〇〇学研究科災害対策支部です。

本日10時35分に震度6弱の地震が発生しました。

教職員・学生は、講義・実験・研究などをすべて中止して、室内の災害防止措置をとってください。

地震防災マニュアルに従い、非常要員に指定されている教職員以外は、安全に帰宅できる場合はすみやかに帰宅してください。

This is the Disaster Countermeasure Office of the School of 〇〇.
This is an announcement of a "Drill" for Disaster Management.
A big earthquake at a level of lower 6 occurred at 10:35 am today.
Please cease all activities and take action for disaster preventions.
The disaster management staff should respond to the call, and others should return to your home as soon as possible.

(部局内の伝達の文案2)

これは訓練情報です。

こちらは〇〇学研究科災害対策支部です。

本日10時35分に震度6弱の地震が発生しました。

研究等業務を一時中断のうえ、学生等在居者に対し、当該部屋に係る二次災害防止措置（装置等の緊急停止、電気の遮断、ガス・水道の元栓閉鎖など）および避難・帰宅時における諸注意事項の説明をしてください。

This is the Disaster Countermeasure Office of the School of 〇〇.
This is an announcement of a "Drill" for Disaster Management.
A big earthquake at a level of lower 6 occurred at 10:35 am today.
Please cease all activities and give full attention to your students about safety measures.

本部所掌施設連絡確認票

1. 研究支援課担当

- 博物館
- 共同教育研究施設（高等総合研究館）
- 広報プラザ
- エネルギーセンター

2. 国際課担当

- 留学生センター
- 留学生会館
- インターナショナルレジデンス
- 野依記念学術交流館

3. 学務企画課担当

- 学生会館
- 体育合宿所
 - 課外音楽芸術系
 - 体育系供用施設

4. 学生総合支援課担当

- 福利厚生施設
- 生協系施設
 - グリーンサロン東山・アメニティハウス
- 職員クラブ
 - 宿泊予約センター
 - 職員食堂
 - 理容
 - ホワイトベア
 - シンポジオン
 - 事務室
 - ユニバーサル・アメニティハウス
- 国際嚶鳴館

| タイムスケジュール | 訓練事項 | 消防隊長代理 | 消防隊副隊長 | 連絡通報班長 | 連絡通報班員 | 避難誘導班長 | 避難誘導班副班長 | 授業担当教員 | 学生 |
|-----------|----------------------------|---|---|--------------------------------------|--------------------------------------|--|--|---|--|
| 10:30 | 訓練用避難カード記入 | | | 最初に地震発生時の伝達を開始する場所を待機する | 最初に地震発生時の伝達を開始する場所を待機する | 防災無線の確認場所を待機する ＜講義棟玄関1階＞ | 防災無線の確認場所を待機する ＜講義棟玄関3階及びび2階＞ | 「訓練用避難カード」を記入し、学生に記入させる番号・氏名・所属学部 | 配付された「訓練用避難カード」に記入する番号・氏名・所属学部 |
| 10:35 | 地震発生 | 机の下に身を隠す(約1分間) | 机の下に身を隠す(約1分間) | ハット・マリにより全学教育棟の指定階に地震発生を伝える | ハット・マリにより全学教育棟の指定階に地震発生を伝える | | | 机の下に身を隠す(約1分間) (固定机で無理な場合は指定階(一般講義室は特になし)の指示を受ける) | 机の下に身を隠す(約1分間) (固定机で無理な場合は指定階(一般講義室は特になし)の指示を受ける) |
| 10:36 | 安否確認及び「訓練用避難カード」回収 | | | 教養教育院事務室へ戻る | 教養教育院事務室へ戻る | 教養教育院事務室へ戻り、アタケートに記入する | 教養教育院事務室へ戻り、アタケートに記入する | 【避難対象外講義室】記入させた「訓練用避難カード」を回収する ＜地震防災訓練終了＞ | 【避難対象外講義室】記入させた「訓練用避難カード」を授業担当教員へ提出する ＜地震防災訓練終了＞ |
| 10:46 | 統括本部から消防隊設置指示、メール・FAX・防災無線 | 教養教育院事務室から消防隊長に指示を受け、統括本部へ報告を受け、設置指示を行う | 教養教育院事務室から消防隊長に指示を受け、統括本部へ報告を受け、設置指示を行う | | | | | | |
| 10:47 | 消防隊設置 | 教養教育院事務室へ集合する | 教養教育院消防隊員に設置指示を行い、消防隊設置指示を受ける | 消防隊副隊長の指示により教養教育院事務室へ集合する | 消防隊副隊長の指示により教養教育院事務室へ集合する | 消防隊副隊長の指示により教養教育院事務室へ集合する | 消防隊副隊長の指示により教養教育院事務室へ集合する | | |
| 10:50 | 消防隊設置完了、連絡通報開始、避難誘導開始 | 消防隊副隊長から設置完了報告を受け、避難場所へ向かう | 消防隊副隊長から設置完了報告を受け、避難場所へ向かう | 箱内放送及びハット・マリにより全学教育棟に地震発生による避難指示を伝える | 箱内放送及びハット・マリにより全学教育棟に地震発生による避難指示を伝える | 講義棟(A館)の正面出入口で第3グリッドに避難誘導を行う 完了後、避難場所へ向かう | 講義棟(A館)の非常口で第3グリッドに避難誘導を行う 完了後、避難場所へ向かう | 【避難対象講義室】連絡を確保し、学生に避難経路による避難指示を行う 避難場所へ向かう | 【避難対象講義室】授業担当教員の指示により、「訓練用避難カード」を持って避難する 避難場所へ向かう |
| 10:55 | 連絡通報完了、避難誘導完了、消防隊各班任務完了 | 消防隊副隊長から連絡通報完了の報告を受け、完了の報告を受ける | 消防隊副隊長から連絡通報完了の報告を受け、完了の報告を受ける | 班員から連絡通報完了の報告を受け、消防隊副隊長に報告する | 班員から連絡通報完了の報告を受け、消防隊副隊長に報告する | 班員から避難誘導完了の報告を受け、消防隊副隊長に報告する | 班員から避難誘導完了の報告を受け、消防隊副隊長に報告する | 避難後、学生から「訓練用避難カード」を回収し、避難完了報告及びカードを渡す | 避難後、授業担当教員へ「訓練用避難カード」を提出し、指定列に並ぶ |

| タイムスケジュール | 訓練事項 | 消防隊長代理 | 副消防隊長 | 連絡通報班長 | 連絡通報班員 | 避難誘導班長 | 避難誘導班副班長 | 授業担当教員 | 学生 |
|-----------|---------------------|---------------------------|------------------------------------|--------|--------|--------|----------|---|----|
| 10:58 | 関係部局及び統括本部へ完了報告 | | 関係部局及び統括本部へ各班の任務完了と、避難者の安否確認の報告を行う | | | | | | |
| 11:05 | 地震防災訓練終了 | 地震防災訓練終了を伝える | | | | | | | |
| 11:05 | 地震教育・研修 | 豊田講堂へ移動し、地震教育・研修を受けるよう伝える | | | | | | | |
| 11:05 | 豊田講堂へ移動 | | | | | | | | |
| 11:30 | | | | | | | | | |
| 11:30 | 地震教育・研修 災害対策室長 他 | | | | | | | | |
| 12:00 | 避難対象外「訓練用避難カード」の受理 | | | | | | | 【避難対象外講義室】 授業終了後、「訓練用避難カード」を教養教育院事務室へ提出する | |
| 15:00 | 二次災害防止措置の指導 | | | | | | | 【実験室】 学生に対し、「安全の手引」により二次災害防止措置の指導を行う 【実験室】 授業担当教員から「安全の手引」により二次災害防止措置の指導を受ける | |

1. 消火班は業務がないため、避難訓練時の交通規制を行う。
2. 豊田講堂へ移動時の誘導は避難誘導班(1名)及び消火班(1名)により行う。(1名)により行う。(四ヶ谷通を安全に横断させるよう。)
3. 雨天のため中止の場合は講義棟の避難経路により地震教育・研修へ移動させる。(訓練用避難カードは避難誘導班が建物から出た所定の場所へ回収する。)

平成16年度（第2回）「名古屋大学地震防災訓練」（部局）説明会

日 時 平成16年10月18日（月） 9時30分から

場 所 本部1号館 第1会議室

（配布資料）

- 資料1 平成16年度（第2回）名古屋大学地震防災訓練実施計画
- 資料2 平成16年度（第2回）名古屋大学地震防災訓練行動マニュアル
- 資料3 名古屋大学地震防災訓練「災害対策統括本部」行動マニュアル
- 資料4 防災無線に関するアンケート
- 資料5 支部設置等報告・安否確認者数報告・被害状況報告（地震防災情報連絡等FAX返信用）
- 資料6 訓練情報伝達文（部局連絡用・部局内館内放送の文案1・部局内の伝達の文案2）

（参考資料）

- 参考1 防災訓練情報連絡表
- 参考2 名古屋大学防災無線放送設備（屋外）取扱者一覧表
- 参考3 名古屋大学防災無線装置（可搬型）取扱者一覧表

担当：施設管理部 施設整備課
環境管理室
内線(2093)(4997)(2096)

防災訓練情報連絡表

| 部局等名称 | 電子メールアドレス | 電話番号 | FAX番号 | 受信担当者名 |
|---|-------------------------------------|--|-------------------------|--------------------|
| 災害対策統括本部 | bousai@post.jimu.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2093 7499 | 052-789-2134 | |
| 本部所掌施設 (博物館) (共同教育研究施設) 高等研究館 (広報プラザ) (エネルギーセンター) (留学生センター) (留学生会館) (インターナショナルレジデンス) (野依記念学術交流館) (課外活動施設) (福利厚生施設) 生協系施設 グリーン・サロン東山・アメニティハウス 職員クラブ シンポジオン 国際嚶鳴館 | | 052-789-2096 7498 | 052-789-2134 | 施設整備課専門職員 鈴木 孝二 |
| 同 教養教育院 | kyoikuin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp | 052-789-3523 | 052-789-3527 | 事務室長 村井 丈深 |
| 附属図書館 | saigai@nul.nagoya-u.ac.jp | 052-789-3669 | 052-789-3693 | 会計掛長 鈴木 誠 |
| 文学部・文学研究科 | bosai@lit.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2204 | 052-789-2272 | 会計掛長 池戸 道明 |
| 教育学部・教育発達科学研究科 (発達心理精神科学教育研究センター) | bousai@educa.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2604 | 052-789-2666 | 会計掛長 渡邊 正 |
| 同 教育学部附属学校 | bosai@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2672 | 052-789-2696 | 附属学校事務掛長 鈴木 公也 |
| 法学部・法学研究科 (法政国際教育研究センター) (共同教育研究施設) | kinkyu@nomolog.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2311 | 052-789-4900 | 事務長 横田 圭介 |
| 経済学部・経済学研究科 | jimu2@soec.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2356 | 052-789-4921 | 会計掛長 岡部 衛 |
| 情報文化学部・情報科学研究科 | bosai@info.human.nagoya-u.ac.jp | 052-789-4715 | 052-789-4800 | 事務長 山本 明博 |
| 理学部・理学研究科 (附属臨海実験所) (多元数理科学研究科) (アイソトープ総合センター) (遺伝子実験施設) (物質科学国際研究センター) (年代測定総合研究センター) (共同教育研究施設) | jishin@sci.nagoya-u.ac.jp | 052-789-2397 | 052-789-5254 | 管理掛長 松井 宏文 |
| 医学部・医学系研究科 | tsaigai@med.nagoya-u.ac.jp | 81-2810 052-744-2810 | 81-2820 052-744-2820 | 施設管理掛長 向井 廣 |
| 同 大幸団地 (大幸医療センター) | kinkyu@met.nagoya-u.ac.jp | 82-1503 052-719-1503 | 82-1509 052-719-1509 | 事務室長 石黒 孝司 |
| 工学部・工学研究科 (エコトピア科学研究機構) 先端技術共同研究センター 情報メディア教育センター 旧高効率エネルギー変換研究センター ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (廃棄物処理施設) (核燃料管理施設) (共同教育研究施設) | saigai@engg.nagoya-u.ac.jp | 052-789-7490 | 052-789-3100 | 総務課長 松川 和彦 |
| 農学部・生命農学研究科 (附属農場) (附属演習林) (附属山地畜産実験実習施設) (生物機能開発利用研究センター) (農学国際教育研究センター) (共同教育研究施設) | disaster@agr.nagoya-u.ac.jp | 052-789-7719 不通時の予備 052-789-4002 | 052-789-4005 | 事務長補佐 工藤 善久 |

| 部局等名称 | 電子メールアドレス | 電話番号 | F A X 番号 | 受信担当者名 |
|---------------------------------------|------------------------------------|--------------|--------------|-----------------|
| 国際開発研究科 | bosai@gsid.nagoya-u.ac.jp | 052-789-4952 | 052-789-4951 | 事務掛長 長田 昭夫 |
| 国際言語文化研究科 | jishin@lang.nagoya-u.ac.jp | 052-789-5312 | 052-789-4873 | 事務掛長 大江 尚美 |
| 環境学研究科 (地球水循環研究センター) (共同教育研究施設) | hq@env.nagoya-u.ac.jp | 052-789-3456 | 052-789-3452 | 会計掛長 藤本 正喜 |
| 環境医学研究所 | kinkyu@riem.nagoya-u.ac.jp | 052-789-3859 | 052-789-3887 | 会計掛事務官 川上 章子 |
| 太陽地球環境研究所 (東山分室) (共同教育研究施設) | bosai@stnet1.stelab.nagoya-u.ac.jp | 0533-89-5151 | 0533-86-0811 | 庶務掛長 横江 基博 |
| 情報連携基盤センター | bosai@itc.nagoya-u.ac.jp | 052-789-4356 | 052-789-4385 | 会計掛長 金原 保夫 |
| 総合保健体育科学センター | bousai@htc.nagoya-u.ac.jp | 052-789-5752 | 052-789-3957 | 事務掛主任 荒谷 勝彦 |

名古屋大学防災無線放送設備（屋外）取扱者一覧表

| 区分(設置番号) | 局名称 | 種類 | 設置場所 | 取扱者所属 | 取扱者職名 | 取扱者 | 連絡先 | 備考 |
|----------|-------|------|------------------------|----------------|-------|--------|---------|----------|
| No. 1 | 事務局北 | 半固定型 | (東山)本部2号館北 | 総務企画部総務広報課 | 総務掛員 | 福地 実 | 2018 | |
| No. 2 | 屋外運動場 | 半固定型 | (東山)総合保健体育科学ビル-陸上グラウンド | 総合保健体育科学センター | 事務掛長 | 編飼 毛ト美 | 3946 | |
| No. 3 | 共同教育 | 半固定型 | (東山)共同教育研究施設1号館 | エコトピア科学研究機構 | | | | |
| No. 4 | 農学部 | 半固定型 | (東山)農学部温室西 | 農学部・生命農学研究科 | 管理掛主任 | 尾関 光徳 | 5268 | |
| No. 5 | 理学部 | 半固定型 | (東山)環境総合館西 | 理学部・理学研究科 | 管理掛主任 | 小林 祐 | 2804 | |
| No. 6 | 工学部東 | 半固定型 | (東山)工学部7号館A棟東 | 工学部・工学研究科 | 専門職員 | 鈴木 照子 | 3133 | |
| No. 7 | 工学部西 | 半固定型 | (東山)工学研究科1号館西 | 工学部・工学研究科 | 専門職員 | 山根 みち子 | 2732 | |
| No. 8 | 図書館西 | 半固定型 | (東山)情報文化学部北 | 情報文化学部・情報科学研究科 | 会計掛長 | 福田 重美 | 4718 | |
| No. 9 | 経済学部 | 半固定型 | (東山)経済学部北 | 経済学部 | | | | 改修工事エリア内 |
| No. 18 | 大幸塔屋 | 半固定型 | (大幸)保健学科南館塔屋 | 医学部・医学系研究科管理課 | 電氣掛主任 | 坪内 実男 | 82-1959 | |

※ 設置場所は、別図のとおり

名古屋大学防災無線装置（可搬型）取扱者一覧表

| 区分(設置番号) | 局名称 | 種類 | 配備先 | 取扱者所属 | 取扱者職名 | 取扱者 | 連絡先 | 備考 |
|----------|-------|-----|---------------------|---------------|----------|-------|--------------|--------|
| No. 10 | 東山指令局 | 可搬型 | (東山)災害対策統括本部(本部1号館) | 総務広報課 | 総務掛長 | 伊藤 秀樹 | 2012 | |
| No. 11 | 東山可搬1 | 可搬型 | (東山)環境総合館 災害対策室 | 災害対策室 | 助教授 | 飛田 潤 | 3754 | 環境学研究所 |
| No. 12 | 東山可搬2 | 可搬型 | (東郷)農学部附属農場 | 附属農場 | 附属農場事務掛長 | 若尾 敏美 | 0561-37-0210 | |
| No. 13 | 東山可搬3 | 可搬型 | (山手)国際唎鳴館事務室 | 学生総合支援課 | 学生支援企画掛長 | 森 修三 | 2173 | |
| No. 14 | 東山可搬4 | 可搬型 | (陶生町)留学生会館事務室 | 国際課 | 国際交流会館掛員 | 兼松 英代 | 853-2901 | |
| No. 16 | 鶴舞可搬1 | 可搬型 | (鶴舞)工ネルギーセンター中央監視室 | 医学部・医学系研究科管理課 | 電気掛長 | 神原 和久 | 81-2100 | |
| No. 17 | 大幸指令局 | 可搬型 | (大幸)保健学科本館事務室 | 医学部・医学系研究科管理課 | 会計掛長 | 小倉 豊 | 82-1511 | |



スピーカー設置位置 (No.1~No.9)



名古屋大学

名古屋大学東山団地配置図



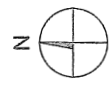
配置図 (東山団地) 1/6,000

至大菅根

公道 25m

至砂田橋

スピーカー設置位置 (No.18)



P (122台)

P (153台)

P (15台)

図書・守衛室

配水棟

保健学技本部

配水棟

体育館

学生会館

倉庫

図書 倉庫

No.18

講堂

キッズクラブ

工機一ビル

別棟600部設置

保健学技本部

倉庫

大幸教団

名古屋市中学校

テニスコート

グラウンド

弓道場

名古屋大学

名古屋大学大幸団地配置図

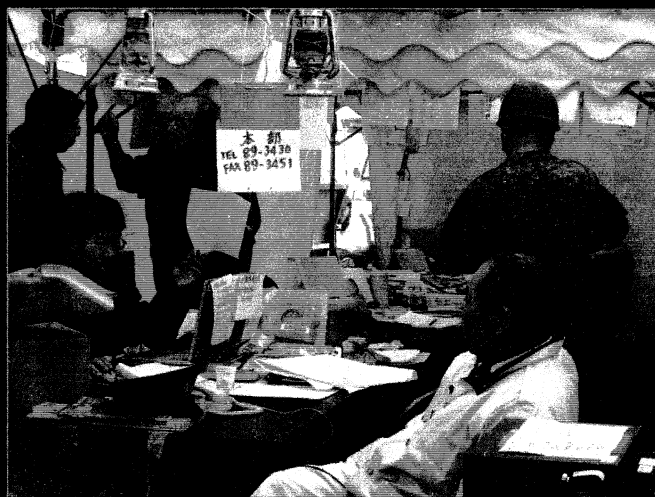
配置図 (大幸団地)

1/1,800

確実に起きる大地震
そのとき、あなたは
「責任」が果たせますか？



家具固定



安否確認

「新潟県中越地震」人と防災未来センター 福留研究員撮影

平成17年度

名古屋大学地震防災訓練

10月12日(水) 10時40分~12時

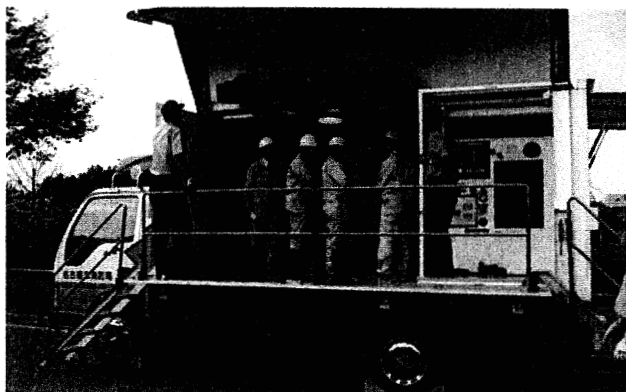
名古屋大学自然災害等対策専門委員会

「勤務(講義)時間中に、震度6弱の地震が発生」の情報を受け、
情報伝達・安否確認・避難訓練(特定部局)等を実施します。

地震防災訓練を実施

名古屋大学地震防災訓練が、10月12日（水）午前10時40分から12時00分（第2時限目の授業時間）に、東山地区、鶴舞地区、大幸地区、豊川地区、留学生会館及び国際喫煙館で実施されました。

この訓練は、職員、学生等の防災意識の高揚を図ることを目的に、平成15年度から実施されているもので、今回からは、10月第2水曜日の「国際防災の日」に実施されるこ



起震車による模擬体験

とになり、昨年に続き、勤務（講義）時間中に震度6弱の地震が発生したことを想定して情報伝達、安否確認、避難訓練や部局独自の訓練等が行われました。

当日は、午前10時37分に大地震が発生したことを想定し、平野総長から災害対策統括本部設置の指示が出され、訓練開始情報は、電話、FAX及び東山キャンパス内に設置した屋外防災無線装置で伝えられ、館内放送（日本語・英語）も利用されました。今年4月に整備された自然災害対策規程により、災害時の全学的な責任分担が明確化され、この責任分担が有効に機能するか否かの確認が今回の訓練の主目的とされましたが、全部局で、災害対策要員集合人数及び在室者の安否が確認され、その結果が本部に迅速に伝えられました。また、各部局では、独自に防災隊を立ち上げ、災害時の役割分担が確認されるとともに、部局独自の防災訓練も数多く行われました。災害対応要員以外の教職員、学生等は、防災教育の一環として、豊田講堂で行われた防災講演会、起震車による模擬体験、応急手当の体験、消火器の取扱訓練に参加しました。講演会では、総長、鈴木災害対策室長から防災に関する説明があり、約300名の参加者は熱心に聞いていました。

平成 17 年度地震防災訓練アンケート集計結果について

2005 年 11 月 25 日

災害対策室

名古屋大学地震防災訓練は、本年度から国際防災の日（毎年 10 月第 2 水曜日）に開催することとなり、本年は 10 月 12 日に実施した。訓練では、名古屋大学が震度 6 弱の揺れに襲われたという仮定のもとに、一斉情報伝達と安否確認に重点をおいて実施した。ここでは訓練直後に災害対策室で実施したアンケート調査の結果を示す。今回も昨年に続き Web 形式のアンケートを実施し、約 2 週間の回答期間に、556 名の方からアンケート回答をいただいた。

今回の訓練では、回答者の 83%が「震度 6 弱の地震が発生」（訓練情報）の連絡を受けており、連絡の手段で最も多かったのは、屋外スピーカー（46%）であった。一部の部局に設置されている屋内スピーカー（21%）が第二位となり、これら一斉同報装置による情報伝達手段による情報伝達が 70%を越えることとなった。昨年の訓練で第一位であった口頭伝達は第三位に順位が落ち、占有率も 29%から 13%へと低下した。

1. 部局別アンケート回答者数

最も回答数が多かったのが工学部・工学研究科の 111 名で、次いで環境学研究科の 61 名、理学部・理学研究科（60 名）であった。本年度はアンケートの回答率が低い。今後、アンケート依頼の経路、タイミングなどを改善して、より広い範囲の声を反映できるアンケートに改善する必要がある。

2. 職名別アンケート回答者数

教官の回答者数は教授が 55 名、助教授が 64 名、講師が 15 名、助手が 73 名であった。事務職員は 109 名、技術系職員は 28 名、契約職員・パートなどの方は 73 名に回答をいただいた。また学生の回答者は、学部学生 22 名、大学院生 105 名であった。

3. 「震度 6 弱の地震が発生」という訓練情報の受信状況

566 名の回答者中 83%にあたる 460 名の方が訓練情報を受けていた。情報を受けていない人は 96 名（17%）であった。

4. 情報の受信経路

昨年の訓練から使用が開始された屋外スピーカーに認知度が高まり、211 名（46%）の人から屋外放送により地震発生の情報を受けたという回答があった。これは昨年の 28%から飛躍的に増加しており、学内の情報伝達装置の一つとして認知度が高まっていることを示す。自由記入欄の意見にも屋外スピーカーへの期待が多く記されており、更に使えるものによ

るため、より高い頻度での使用を求める声も多かった。

5.情報を受けた時刻

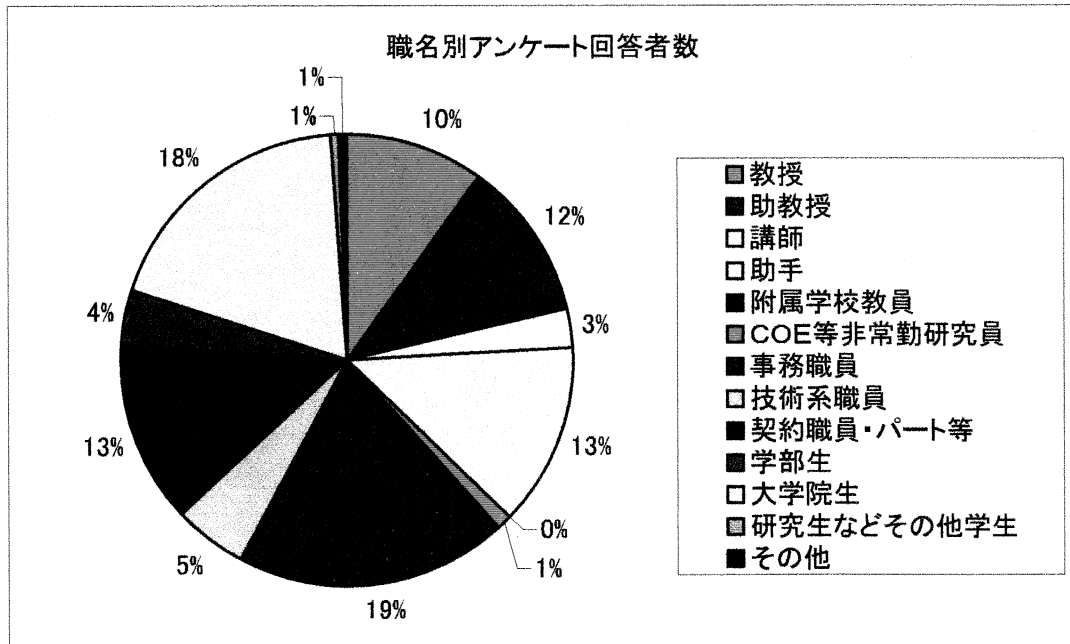
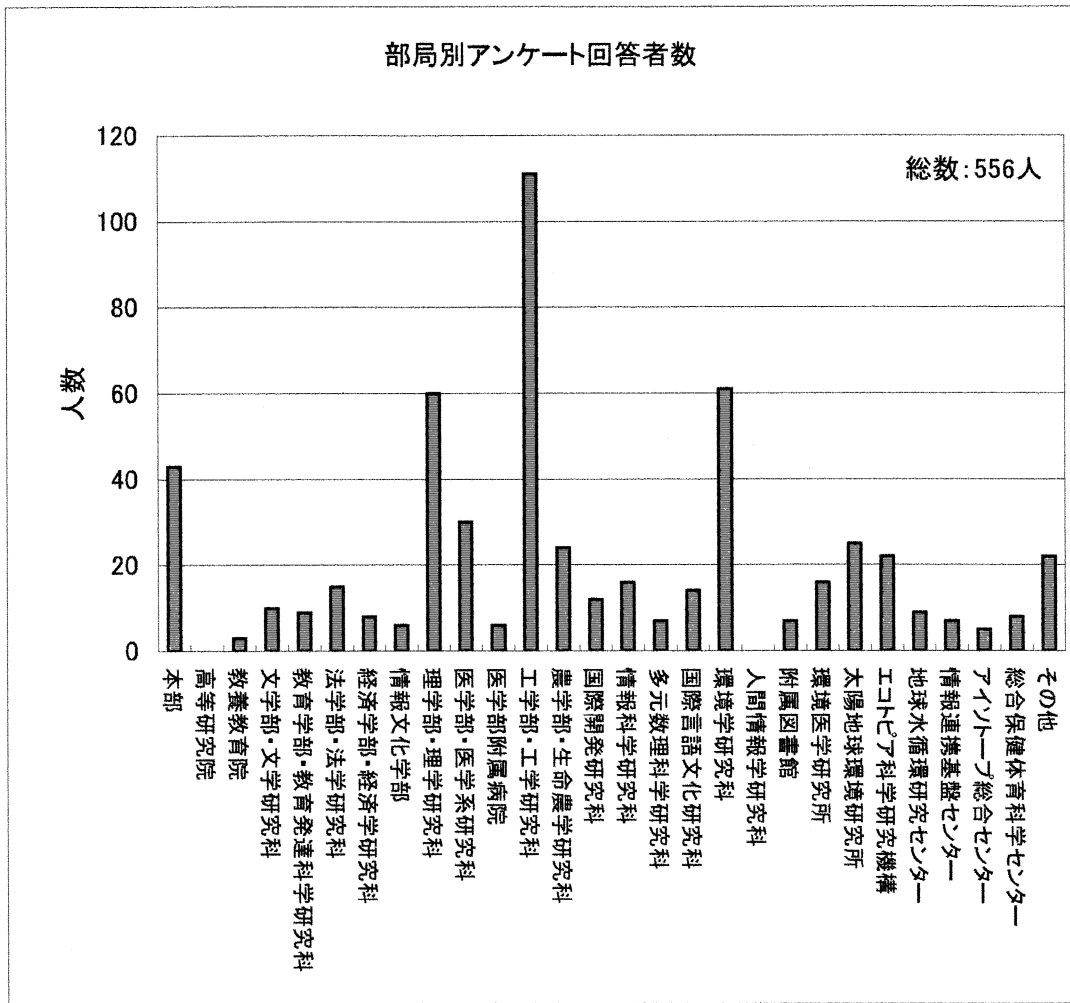
屋外スピーカーによる一斉伝達で情報を受けた人が増えたため、訓練開始直後の10:40～10:49に情報を受けた人が70%を超えた(329名)。次いで、10:50～10:59(85名)が多く、訓練開始から20分以内に90%の人に情報が届いていた。昨年度の訓練では、訓練開始から10分以内に情報を受けることができた人は18%にすぎず、20分以内でも67%であった。これまでの地震防災訓練の繰り返しにより、情報を一斉に伝えるのに必要な設備が整ってきたことを示している。

6.屋外スピーカー音声について

昨年度の訓練では男性職員の肉声による情報伝達を行ったが、「ほとんど聞き取れない」という意見がアンケートの自由意見欄に多く寄せられた。また建物が立ち並ぶ大学キャンパスでは音声の多重反響の影響で聞き取りにくいという声も寄せられた。そこで、本年度のアンケートでは、屋外放送の聞こえ具合についても質問項目を設定し、意見をうかがった。その結果、スピーカーが設置されている場所での回答(406人)のうち、35%にあたる144人からは「明瞭に聞き取れた」という回答が得られたが、残りの65%(316人)の人からは「まだ改善が必要である旨の回答が寄せられた。内訳は109人が「音声が小さく内容は聞き取れなかった」と回答し、87人が「音声が反響してしまい内容が聞き取れなかった」と答え、66名が「まったく聞こえなかった」という回答であった。今後、音量の調整やスピーカーの設置位置の改善などが更に必要である。

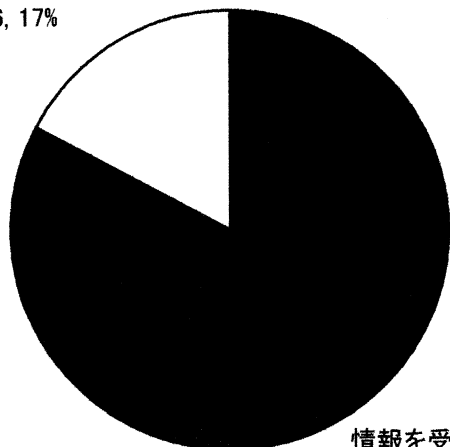
本年は女性の声による録音音声で情報伝達を行うこととなったが、自由意見欄には女性の声が聞き取りにくいという声が多数寄せられた。また、本年度の訓練では、留学生を対象として英語の放送も流すよう改善したが、アンケートに回答をよせてくれた留学生やその周辺の人によると、英語の放送はほとんど伝わっていない模様である。伝達内容やメッセージをしゃべる速度などに改善が必要なことを示唆するものと思われる。

(2005年10月12日)アンケート結果



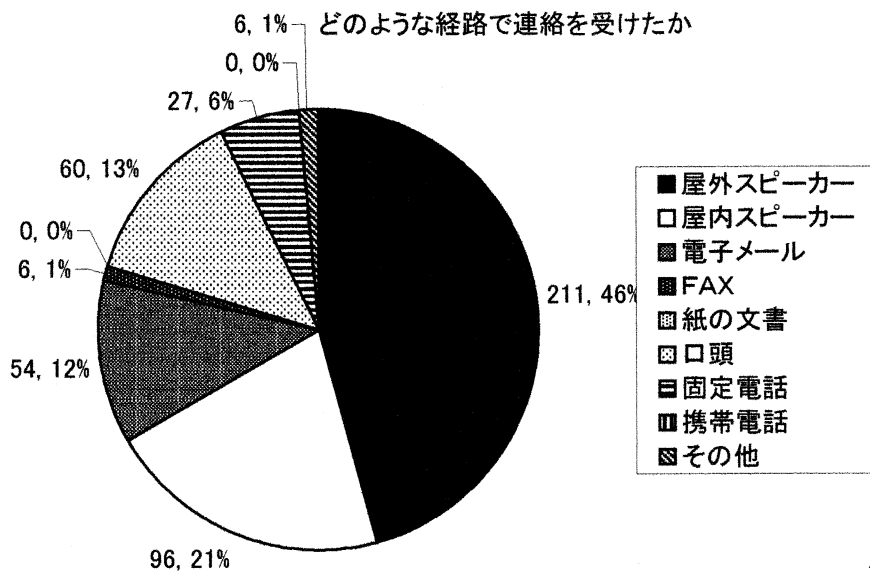
「震度6弱の地震が発生」(訓練情報)の連絡を受けたか

情報を受けない,
96, 17%



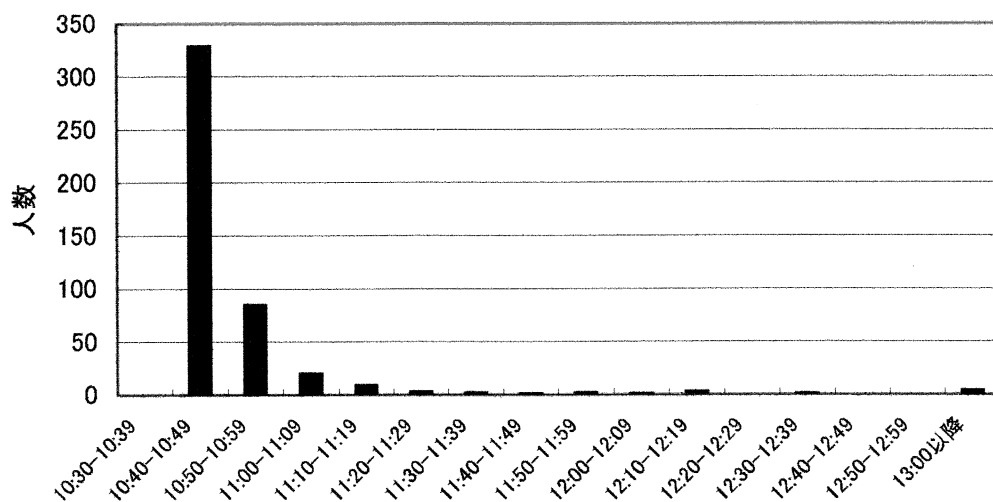
情報を受けた,
460, 83%

どのような経路で連絡を受けたか

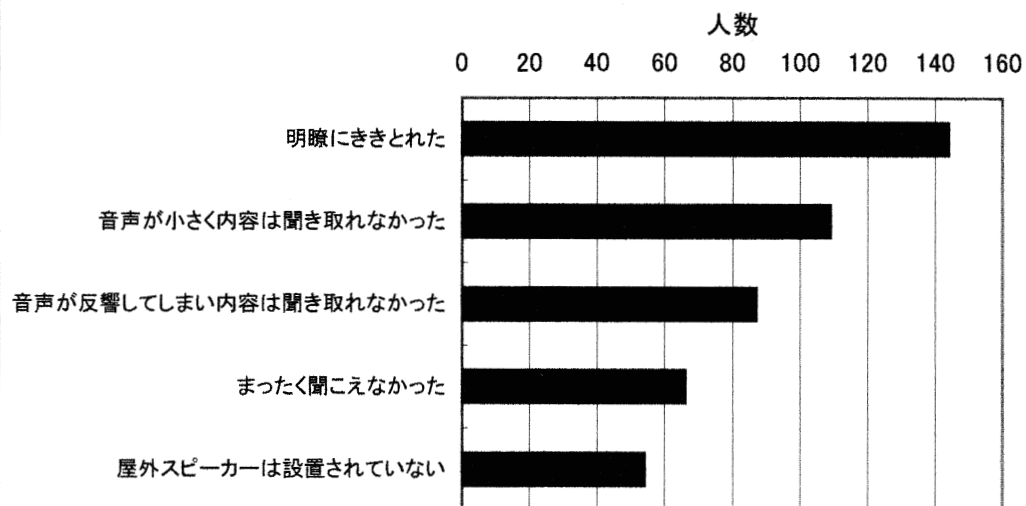


総数: 460名

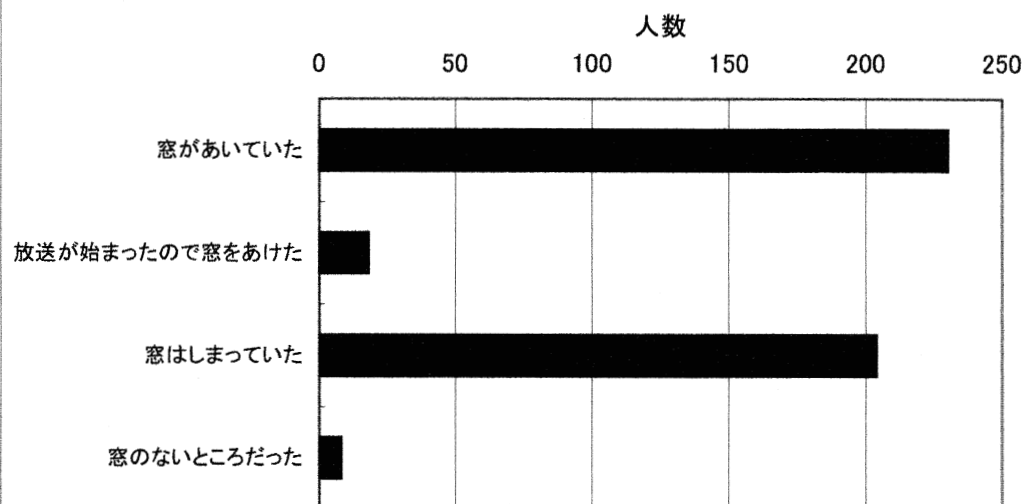
最初に情報を受けた時刻



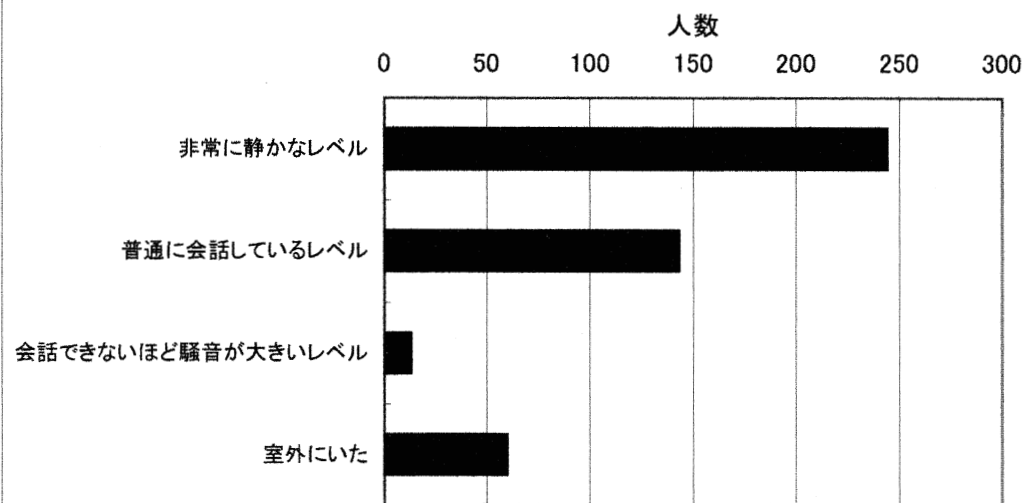
屋外スピーカーの音声はよくききとれたか？



放送時の窓の開閉状況



放送時の室内の騒音レベル



平成17年度・地震防災訓練(10月12日実施)について寄せられた意見

- 実際にはマニュアル通りの行動を取るのには、いろいろな点で難しいかもしれませんが、やはり訓練は必要不可欠であり、今後も継続していただきたいと思っております。最近では、災害用グッズ(水やカンパン等)の部局への配布もあり、防災対策が着実に進んでいるようですが、実際にはまだ対策が取られていない点もいくつかあるように感じます。(柵の耐震等少しずつ進んでいると思っております)災害グッズ・耐震工事もちろん必要ですが、各自の自覚も必要です。自覚の必要性を感じてはいても自分自身なかなか自覚を持てずにいるように思います。こう言った訓練に参加する事で、の自分の行動について考える事ができました。ありがとうございました。(アイソトープ総合センター・契約職員・パート等)
- 連絡網に従い棟内の連絡及び安否確認もしましたが、建物が古く、震度6弱の地震に耐えられるか不安です。ほんとうに地震が発生したら、連絡網に従い連絡はとりますが、まずは安全な避難場所を 部局ごとにくまなくおき避難し、それから安否確認はしてはどうでしょうか。(アイソトープ総合センター・事務職員)
- スピーカーのアナウンスの初めの「これは訓練です」のような一節が良く聞き取れなかった。あとの内容は聞き取れたが、周囲住民に誤解を与える心配があるのではないか。(エコトピア科学研究機構・教授)
- 訓練の内容が、実際に災害(特に大地震)が発生したときに役立つものとは到底思われない。大地震発生時には、まずは安全なところに速やかに避難するのが普通。避難場所で安否確認をして、建物内に残っている人に費えは、その後で調査することになるものと思います。(エコトピア科学研究機構・教授)
- 古い建物においては建物内で安否確認をしようと言うことは実際にはできない。災害対策支部も建物上層階に設置されており現実的でない。本部は安全な広場にするなど、もっと現実に即した訓練をするべきであり、そうでない訓練は徒に人を惑わすものであろうと考える。(エコトピア科学研究機構・助教授)
- 今回のエコトピア科学研究所における地震防災訓練は、午前に通報訓練と安否確認、午後には避難訓練が実施されました。地震発生から一連の訓練を続けて実施できればよかったですと思います。昨年11月の新潟県中越地震の被災地(十日町市、小千谷市、川口町)の状況をたまたま目にする機会があり、地震が発生した時は、まずは我が身を守ることが第1だと感じました。今回の訓練時でも、実際に地震のゆれを感じた時の行動について、私のまわりで、机の下に身を隠すとか、廊下に出るとかの会話が聞こえてきましたが、はっきりわからないようでした。地震発生時に身を守る訓練も必要なのかと感じました。また、避難集合場所もとりあえず屋外に避難するということなのか、玄関前等比較的建物の近くが多いようですが、強い余震が起こることも考慮して、できるだけ広い場所に避難した方がよいのではないかと思います。(エコトピア科学研究機構・事務職員)
- 消防隊長として震度6弱の地震が発生したとの情報伝達と安否確認を通報班長に指示したが、如何なる行動をとったらよいかの指示が出来なかった。例えば、外に避難せよとか居室に待機せよとか、判断できなかった。また、不明者の居所を調べることをしなかったため、安否が不明であった。もし災害が発生したら電話、FAX、メール等の通信手段は使えないと思われ、如何にしたらよいかを知らせて欲しい。(エコトピア科学研究機構・教授)
- 全ての建物を早く耐震構造にしてください。(エコトピア科学研究機構・助教授)
- 地区消防隊が所属別で組織された体制で現実にそぐわない。連絡班長だがこの建物で連絡しない階があるのは非現実的である。所属を考えない建物別の建屋消防隊を最小単位とした地区消防隊にすべきである。また、訓練のため連絡体制をコピーで配布するのではなく、連絡網が一目で判る掲示物とする

る必要がある。これを年度毎の転属に合わせてメンテすればよい。大学という組織ではなく、実情にあった体制への早急な見直しが必要であると思う。そうでなければ、回数だけを考えた訓練のための訓練で現実味が全くない。(エコトピア科学研究機構・教授)

- 防災無線が聞こえにくい。たまたま窓が開いていたので分かったが、選挙公報車より音が小さいように思います。また、館内放送にいたっては、防災無線から30分も経過してからの放送であり、これではまったく役に立ちません。P波を受信した時点で、後XX秒後にS波がきます、あるいはそこからカウントダウンするなどをご検討しては如何ですか？10秒もあれば、かなりのことができるはずです。(エコトピア科学研究機構・助教授)
- アンケートの項目にもありましたが、スピーカーの音声がまるで聞き取れませんでした。構内のスピーカーの拡充も勿論ですが、建物内の緊急放送システムなども早急に整備を進めて頂きたいと思います。(遺伝子実験施設・助教授)
- 屋外スピーカーの音が聞こえるようにしてください。甲高い女性の声より男性の声のほうが聞き取り易い気がします。(遺伝子実験施設・助教授)
- 情報伝達訓練としては、良かったと思います。しかし、本当の災害が起こって、最初にやるべき(する)事は、人数の確認とは違うのではないのでしょうか？中央管理システムとして、体面を整えるだけの訓練ではなく、実際には、どこに非難すると安全な可能性が高いのか？どこに行けば、食料があるのか？けがをしている場合は、どこにいけば良いか？に関して第1に周知させるように心掛けた方が良いように思えます。もう一つ。安否確認で、最も多いのが「来ているかどうか分からない」というものです。本番では、現存する人間の安全確保、確認に終始して、学生が授業を受けている最中なのか、まだ学校に来ていないのか、等を悠長に調べている時間は無いと思います。そう言う意味で、(ほとんど)すべての安否が確認できたとしても、それは訓練だからであって、本来は半分程度は分からない状態が続くと思います。その場合でも、集計システムは重要だと思いますが、各部局分散で行うのでは無く、本部集中型にしてはどうでしょうか？結局、短時間で分かる事は、分かっても仕方のない事が多いです(大丈夫な人は、大丈夫)。長時間かけて部局に報告して...というのを繰り返すのは、各部局が正常な機能をしている場合にのみ成立するのであって、どこかが破壊されていれば機能しなくなります。そう言う意味で、体裁の為の"安否確認"は、やめて本当に有効な"安否確認"のシステムを考えた方が良いと思います。しんどいかもしれませんが、本部ですべて管理してチェックする以外ないと思います。学部から上げていく方式も残しておいて、その上で、もう一段別の中央へ連絡するシステムを作る(最低限、ここに連絡すれば、安否が確認できるという場所)事が肝要では無いでしょうか？(遺伝子実験施設・助手)
- このアンケートでは屋外スピーカーが聞こえたことが前提の間があり、聞こえなくてもどれかにチェックしなくてはならないので、不適切です。2) 日常的にすること(ヤカンの水を空にしておかない、コンロの元栓を止める、など)を、日常的に注意喚起してください。習慣にしなくてはいけないのに、コンロを消して元栓を締めない人が多い。(医学部・医学系研究科・教授)
- マンネリ化しているように感じるので、全員を対象に行った方がよいと思う。(医学部・医学系研究科・教授)
- 屋外スピーカーについては音声は大きく、聞き取れたが場所によっては不明瞭でした。医学部の基礎棟では大きな地震が来たらまず建物がつぶれるので、元栓を閉めるよりは机の下などに隠れる方が先決では、という意見が大半でした。(医学部・医学系研究科・助手)
- 階段での移動と決まっていたので、今回参加した学生は、すべて階段へ集中し、混雑した。今回の訓練

への参加学生は一部であったため、全学年が集中しているときの災害を想像すると、大変危険になることが予想された。実際は使用されるであろう非常階段も防災訓練時に使用するようにしたほうが良い。シューター利用の脱出の実際を見学できたことは良かった。(医学部・医学系研究科・助手)

- 館内放送後10分以内に安否確認用紙を会議室に提出しているにも関わらず、1時間後くらいに未提出との電話連絡がありました。しかも、分室にまで未提出との連絡がいていたようで、分室で電話を受けた人が困っていました。きちんと書類を確認してほしいのと、電話連絡をするならば、秘書か責任者教官などにお電話をいただきたいです。(医学部・医学系研究科・契約職員・パート等)
- 昨年もですが、緊張感がありませんでした。大幸地区では避難用に保健室に保管してある医薬品も結局そのままでしたので、地震被害によっては、医薬品がまったく状態になるかと思えます。その辺は臨機応変な対応が必要と考えますが、包帯、消毒薬などの必要最低限の救急用具を建物外部に保管しておく方が良いかと思えます。あまり大げさな保管庫ではなく、取り出しやすいサイズが好ましい(地震で変形してしまい取り出せないのでは困る)ので、百葉箱くらいのサイズで良いかと思えます。学生の安否確認については、避難後全員を確認するのは困難なため、学生がわかる範囲で照合する必要があると考えます。個々に確認では効率が悪いので。(医学部・医学系研究科・事務職員)
- 昨年も外来診療中でしたが、何のアナウンスも聞こえませんでした。(医学部・医学系研究科・教授)
- 大幸キャンパスにも全館放送設備ができて大変良かったと思います。今まで火災報知器が鳴っても、それが本当の火事なのかどうか、確認することができませんでした。放送は効果的だと思います。ただ、実際に地震が起きたときに、担当者が放送できるかどうか疑問です。現在のシステムでは、本館1階の事務室からでないとは放送できないと思いますので、ここが地震でつぶれたら放送はできません。複数箇所から発信できると良いと思います。(医学部・医学系研究科・助教授)
- 大幸キャンパス別館実習室で授業中でした。アンケートにも書いたとおり、会話をしている程度でした。実習室のドアは通常通り実習中なので閉まっていた。廊下に設置されたスピーカーからなにか声らしきものは聞こえる程度で、内容までは把握できませんでした。今回は訓練担当クラスを受け持つということで、事前に色々な行動予定を伺っていたので、非難や避難誘導、点呼を行いました。訓練でなければ行動は取れなかったかもしれません。ただ、今回の訓練では警報サイレンがなりませんでした。警報のサイレンか何かは鳴っていれば廊下に飛び出し、スピーカーからの情報を聞いたかもしれません。(医学部・医学系研究科・助教授)
- 当日は病棟業務にて病棟にいましたが、病棟の婦長も防災訓練については知らされておらず、確か病棟には訓練の放送などはなかったような気がします。やるのであれば病棟含めて行う必要があると思います。(医学部・医学系研究科・講師)
- 病院実習に出ていることが多いので、実習中に発生したとき、どのように学生を避難させるか、学生の避難が確認できた後、病院での避難活動に参加するのかなどの指針が欲しい。(医学部・医学系研究科・助教授)
- 保健学科別館の避難については、通常利用している屋内の階段を利用しましたが、屋外の非常階段も使用してみる機会が必要だと思います。屋外の非常階段に出るドアは施錠されていますが、教員は鍵を持っていません。非常階段を用いた避難が確実にできるよう教員にその解錠方法を知らせてほしいとおもいます。(医学部・医学系研究科・助手)
- 訓練があるであろうことは伺っていましたが、病棟ないしは研究棟にいたはずですが、訓練実施しませんでした。(医学部附属病院・助手)

- 昨日は午前中から午後にかけてずっと検査中でまったく気付きませんでした。他の人は気付いていたのでしょうか？(医学部附属病院・講師)
- ヘルメット等の防災グッズの整備や場所の確認を広報する必要があると思います。(医学部保健学科・助教授)
- この建物内の部屋の位置等によっては、全学一斉放送(屋外スピーカー)の連絡は、全く聞こえない場合もあったので、館内放送(屋内スピーカー)の設備が整っている部局については、当然そのそれも利用していると思いますが、やはり出来る限りの方法を利用して連絡をする必要を感じました。(環境医学研究所・事務職員)
- サイレンが聞こえて訓練開始の時間であることに気づき、周りの人達に声を掛けあい所定の場所に避難しました。メールは訓練が終わってから見ました。いつもパソコンに向かって仕事をしている訳ではありません。緊急時の連絡は電話やメールなどの通信手段が途絶えた事を想定して学内放送や口頭ですばやく伝達できなければなりません。今後はメールを使わない方法で訓練をして欲しいと思いました。(環境医学研究所・契約職員・パート等)
- 警報発令時、私は教室におり、周りの人も大声で会話をしている等なく比較的静かな状態でしたが、サイレンはかすかに聞こえる程度で、もうすぐ発令されるという心構えがあったので聞き取ることができましたが、それが普段何も予期せぬ状態で鳴っていても気づかなかったかもしれません。あと、訓練時に実験室にいた人たちは、その時間に何らかの合図があり訓練が始まると知っていたにもかかわらず、実験を行っていたため全くサイレンを聞き取ることができなかつたそうです。もう少し大きい音で鳴る警報機を館内に設置する等して、全員が警報を察知できるようになると良いと思います。(環境医学研究所・契約職員・パート等)
- 建物が環境医学研究所の本館南奥に位置しており、建物内ではまったく災害情報の放送は聞こえない。放送のスピーカーの増設と、緊急なのでもっと音量を上げて良いのでは？今年、緊急連絡を受けてから数分で、ほとんどの職員、院生が本館前に集合し、安否確認、それぞれの役割などの確認など、更には豊田講堂にての講習等、前年度の訓練より進歩したと思われませんが、実際人災が起きたとき、それぞれの学部で、重症のけが人が出た場合、その場で適切、且つ迅速な対応ができるかと言われると、自分には自信がありません。当然その場合は救護班の先生の指示により行動する事になるかと思うのですが？次回の防災訓練では、避難する事は勿論大事ですが、実際にけが人の応急処置等を学部単位で行い、災害に遭遇したときの対応が、より現実性をもたせ、実際に役に立つと考えます。(環境医学研究所・COE 等非常勤研究員)
- 、学内の全てに放送がいきわたるようお願いします。(環境医学研究所・学部生)
- 実験室の中では放送が聞き取れませんでした。外に出て初めて放送がなっているのに気が付きました。メールについては訓練終了後に知りました。館内放送のようなもので呼びかけてもらった方が良かった気がします。(環境医学研究所・助手)
- 出来れば、豊田講堂でやっていた救命訓練などをきちんと受けたいと思いました。地震に限らず、知っているといいないつも思っていたので...(環境医学研究所・契約職員・パート等)
- 野外アナウンスの音量が小さく、ハウリングもおこって聞き取れませんでした。(環境医学研究所・助手)
- 連絡放送が全く聞こえなかつたので、建物の中の館内放送網を確立し、連動させるような仕組みを工夫する必要があるのではないのでしょうか。(環境医学研究所・助手)
- 学内の防災無線は前回より音が大きくなったものの、音が反響していたので、緊急時にしっかりと聞き取

れるか不安。。。②安否確認を実際にどの様に行うのが、明確に決められていなかったのも、しっかりと決める必要がある。③今回の訓練で、避難行動までするのか？などがしっかりと伝えられていなかった。(環境学研究科・助手)

- とにかく、屋外スピーカーの音が小さく、何を言っているのか聞こえなかった。今日は防災訓練だと分かっていたので、その放送「だろう」と認知できたが、本番では大丈夫だろうか。屋外スピーカーより、館内放送の方が有効ではないか。2)私は電話連絡を最後に受けて対策本部へ連絡する役目でしたが、連絡を受けてから4分間、話途中で繋がらなかった。これではスムーズな安否確認ができないのでは？対策本部では電話番号ひとつで複数回線へ振り分けるような仕組みが必要ではないか(「チケットぴあ」みたいに)。3)「〇月〇日〇時に訓練があります」という訓練では、どうしても緊張感がない。たとえば、日にちだけ決める(時刻は決めない)とか、ある1週間の間に行うとしか通知しないと「抜き打ち的」訓練を行なってはどうか(本当の抜き打ちは難しいだろうから)。(環境学研究科・助手)
- 4号館に居るのですが、命令系統、連絡系統が2重(工学研究科と環境学研究科)になっており、連絡・確認が終わったのか、まだなのか混乱していました。棟毎で命令系統を1つにしないと機能しないと思います。人数確認も、もともと居ないのか、不明なのか分からないと思います。(環境学研究科・教授)
- いつ発生するかわからない地震に対して、日時を決めた訓練は、実際に役に立つのかどうか、やや疑問が残ります。また、今回の防災訓練で想定した地震が発生した場合、老朽化した建物(特に理学部)に埋まってしまう人たちがほとんどで、訓練した安否確認は全く機能しないことが予想されます。まずは現実を把握することから始まると思います。今回の場合、大学に出てきているが、居所がわからないという人達が身の回りにたくさんいました。本当に防災力を高めるためには、より実践的な訓練が有効だと思います。(例えば、強制的に大学の電源を落とすとか。すると、実験装置やコンピュータ、エレベータの停止など経験できます。)ついでに電気設備の点検(通常なら全学停電日を設けて点検している)もできちゃいます。このような訓練に対して心構えの出来ていない人達はより実践的な訓練に大反対するでしょう。(環境学研究科・契約職員・パート等)
- スピーカーによる放送、メールによる配信とも受け取ることができました。その後、各教員室や研究室の人員の安全確認等も実施したのですが、事前に各教員が何をすべきかについて説明を十分に受けておらず、実際に何をすればよいのか判らなかつた。また、安全確認の結果の連絡方法についても、実際の被災時にはどこに誰が居るかわからない状態なので、この状態でスムーズな確認と報告ができるとは思えませんでした。特に我々の専攻は、様々な建物に教員も学生も分散しているので、専攻単位での組織的対応が極めて難しい状態です。そのあたりを考慮して、より効果的な方法を考えていく必要があると思いました。(環境学研究科・助教授)
- もう少し、現実的な訓練が必要だと思います。今回の訓練は事前に時間がわかっていたために、かなり身構えていました。今後は抜き打ちで訓練をして、そのとき何をしたのかを調査する方がよいとおもいました。(環境学研究科・助手)
- もっと大々的に防災訓練をした方がいいと思います。(環境学研究科・大学院生)
- 安否確認の方法が必ずしも実情に合っていないように思いました。安否確認は、今回は講座の責任者を決めて行ったのですが、実際の地震のときは、その人が怪我をしていたりしたら安否確認ができなくなるので、訓練として有効かどうか疑問でした。学生の安否確認には難しいものがあります。第一に、講座の単位と部屋の単位が一致していないため、非効率的な確認を行うことになりました。第二に、私どもの講座では、個人情報保護の観点から学生の電話番号簿を作っていません。個人情報保護との折り合い

をどこまで付けて、どこまで安否確認をする必要があるのかに全学的な合意が得られていないと、居室にいない学生の安否確認が困難になります。個人情報保護の意味から電話番号簿作成を拒否する学生がいた場合、どうすれば良いのでしょうか？もっとも、本当に大地震があつたら、電話もほとんどつながらなくなるでしょうから、電話による確認はどうせあまり意味がないかもしれませんが。(環境学研究科・助教授)

- 屋外放送が音が反響してしまい、最初の「これは訓練です」しか日本語・英語ともに聞こえなかった。来年度に向けてのさらなる改善が必要である。安否確認について、事務から添付ファイル付きのメールが来たが、実際にどの部分にどう記入してどのように提出すればいいのかの説明がなく、また記入フォーマットも「時刻や記入者、講座名記入欄がない、通常定員以外の安否を確認した場合の記入欄がない」など、実際にそぐわないものであるように見えた。初年度なので良いと思うが、改良が必要である。防災訓練は継続することが大切なので、今後も毎年行ってほしい。(環境学研究科・助手)
- 訓練があつたこと自体知らなかつたんですが、訓練は良いことだと思います。もっと、全体に声をかけて大きく取り組むのが良いかと思います。(環境学研究科・大学院生)
- 訓練があることを知りませんでした。この訓練があることを事前に知っていたら、訓練がもっと有効に生かされたと思います。(環境学研究科・大学院生)
- 訓練に関してではないのですが、安否確認が工学部と環境学研究科双方から要求されており、また工学部は旧講座単位なので工学研究科・環境学研究科に所属する教官が対象になっていたのに対して、環境学は研究科所属教官だけが対象になっていました。複雑かつ煩雑で、実際には機能しないのではないかと思われました。もっとシンプルに対応できるような仕組みにすべきだと思います。(環境学研究科・助教授)
- 訓練は頻度を増やすぐらいしつこくやっていた方が良いと思いますが、建物自体の耐震性の改善等も早急に進めてほしいとも思います。地震があつたときに避難できるのも、建物が残っていてこそなので。(環境学研究科・大学院生)
- 訓練をしたことによって、自分の役割及び事務として何をすべきか確認できましたが、実際に地震に遭つた場合は、電話の確認やメール等の確認はできないと思います。実際に現場に行つて確認することになると思います。なお、訓練では、確認後の連絡先が電話 1 本のみでしたので、連絡者から、通話中で電話が(環境学研究科・事務職員)
- 元部局と環境学研究科の二箇所から訓練時の指示や安否確認についての連絡がきており、非常に混乱しました。どちらかに統一した方がよいと感じました。(環境学研究科・助教授)
- 公道・私道の交通騒音がうるさく、放送内容がよく聞き取れなかつた。また、残響も大きい。また、女性の声による放送は、聞きづらい。本来は館内放送が必要であろう。自治体などでは、街頭放送を時刻告知など日常的に用いることで、その効果をチェックしている。これに倣つて、屋外放送システムを日常的に使い、確認していくべきではないか。(環境学研究科・助手)
- 今回の訓練では、工学部・工学研究科の安否確認調査と環境学研究科の連絡網の2つが錯綜して、何をどのような順序ですべきかについて明確な指示がされなかつたように思う。指示系統の一元化を検討願いたい。(環境学研究科・教授)
- 今回の訓練については、いろいろと腑に落ちないところがあります。実際に地震が起きた場合、放送が起点となつて行動するということはあり得ません。揺れが収まつたらすぐに安全確保や安否確認をしなければならず、そうした状態で放送に耳を傾けることなどは不可能だろうと想像します。今回、たまたま自分

の講義中に訓練となりましたが、私が事前に受けた説明は、安否確認を報告する必要があるので講義開始時に学生に名前を記入しておいて下さいというもので、アナウンスが終わるか終わらないかのうちに事務の方が確認表を取りに来ました。実際には、地震の発生後、学生の安全を確保し、授業中の学生の安否等(人数、状況、今後の予定)を確認し、教員自らが然るべきところに報告すべきだと思います。事務方にどのような指示が出されているのか分かりませんが、これでは訓練のための訓練ではないかという印象を強く持ちました。まずは職員一人一人が地震の危険性を十分に理解し、いざという時にどのような行動を取るべきか、きちんと自覚している必要があります。学部、研究科等の教授会などを一つずつまわって30分程度の講習会を行い、基本的な知識を身に付けてもらうことが必要ではないかと思います。(環境学研究科・助教授)

- 今日こうした訓練があること自体知らなかった。とくに教官に対してこうした訓練を行うことや、その際にとってほしい行動などを周知徹底したほうがよい。(環境学研究科・大学院生)
- 今年も電話による伝達訓練でしたが、実際に地震が起きた時、「地震が起きました。授業研究等を中断し安全確認、学生の安否……」なんて電話連絡しなくてもやるべきことであり、実際に電話連絡をする余裕もないと思います。それより具体的にどう安否を確認するのか、自分は自宅に帰るべき人間なのか、大学に残り対策本部の人間として活動するべきなのか、普段より役割分担をはっきりさせ意識を高めることが大切だと思います。実態に即さない伝達訓練はそろそろ見直すべきだと思います。(環境学研究科・事務職員)
- の役割を考えるため、学生による討論会等が企画できればより充実すると思う。(環境学研究科・教授)
- 子供の頃、自宅で体験した地震のことが思い浮かびました。あの頃と比べると、生活スタイルがずいぶん違っており、「そのとき」どう対処すればいいのか、正直わかりません。しかし、いつか「そのとき」が来ることだけは肝に銘じておきたいと思います。(環境学研究科・教授)
- 私は、防災訓練の重要性は十分に認識しています。しかし、防災訓練を実施する立場として未だその認識に欠ける者が非常に多いことを痛感しました。防災訓練そのものを、更にアピールすべきと思われる。今回は、組織として訓練を行うよう企画されていますが、環境学研究科のように横断的研究科元部局との関係が訓練に支障を生じたように思われます。周知の問題かも知れません。学部学生は元部局へ安否確認を行う。院生は、研究科に行く。教員等はそれぞれの所属部局に行く。非常に紛らわしいと思われる。研究科としての訓練方法については今後検討すべき問題と認識しています。(環境学研究科・事務職員)
- 実際に地震が起こったときに、学内のどこが危険なのかわからない。(環境学研究科・契約職員・パート等)
- 上記の回答欄には、キャンパス不在時の選択肢がありません。(環境学研究科・教授)
- 地震情報が発表されたときには、ゼミが行われていたが、誰もその情報には耳を傾けず、ゼミが進行されていた。特に先生がそのことに構わずにゼミを進めるので、学生はゼミを続ける他なかった。しかしこれでは訓練にはならない。ゼミや授業は中止し、屋外に避難したり、避難経路を通して避難場所まで行くなど、もっと本格的に訓練を実施するべきだ。そしてそのような措置を全学でとるよう、教員一人ひとりに通達し、訓練を行うべきだ。(環境学研究科・大学院生)
- 地震発生時の行動について、組織内で十分な検討がなされておらず、再検討が必要と感じた。地震発生時に何分間も部局内情報伝達のために部屋にとどまっていることは出来ない。(環境学研究科・助教授)

- 部局単位で新しく作成された連絡網が、周知されていなかったように思われます。非常時に何をすべきか考えるきっかけになったことは良かったです。(環境学研究科・事務職員)
- 放送があったとき、屋外にいたので放送は明瞭に聞くことが出来た。しかし、部屋に戻ると窓は開いていたが放送内容はよく聞こえなかった(どこに避難するなど)。(環境学研究科・大学院生)
- 豊田講堂の前では最初のチャイムの音しか聞こえない。スピーカーの増設かより出力の大きいスピーカーに集中させる必要がありそうだった。(環境学研究科・助手)
- 防災訓練では、いつも地震が起きたら連絡網を基に電話にて連絡することになっていますが、実際に大地震が起きて電話回線が不通になったらどうするのでしょうか？連絡を回すことより、各自が迅速に屋外に出るなどの訓練を行ったほうが良いような気がします。(環境学研究科・契約職員・パート等)
- 防災訓練の内容は、やはり「訓練」の域を出ません。これはやむを得ないことかも知れませんが、この訓練により教職員や学生個々の意識改革につながれば、大いに結構なことと思います。地震発生後の教職員や学生の安否確認については、全学的(部局個々ではなく)にある所に安否の情報が集まるようなシステム作りが必要ではないでしょうか。そして、そのシステムを全学の構成員にPRすべきではないでしょうか。(環境学研究科・事務職員)
- 防災無線がつながらなかった。混乱した状況で予定通りに進まなかったときの個人の判断が要求されると思う。心肺蘇生訓練に参加した人が限定されていたが、はじめから参加者を指定すべきとも思う。(環境学研究科・助教授)
- 連絡のスピーカーが不調?のようだった。(環境学研究科・教授)
- 連絡網の最後でしたので、事務に連絡することになっていた。4回電話をかけたが、3回は話中だった。この問題を解決するために連絡できる回線を増やした方がいいかもしれない。(環境学研究科・助教授)
- ▶ 本研究科では、当日「部局災害対策本部」を本館1階大会議室に設置したが、研究科で作成した部局マニュアル「東海・東南海地震計画」では緊急避難先が「教育学部中庭」となっているので、次年度以降、中庭 に対策本部を設置して、訓練を行った方がよいのではないかと思います。2. 部局独自の訓練は、当日が「教授会」開催日と重なったので行うことができなかったので、消化器取扱訓練、防災教育・研修等を実施すべきと思われる。(教育学部・教育発達科学研究科・事務職員)
- もっと実際に近い形で行わないと、イメージがつかみにくく、いざというときに皆困るかもしれません。(教育学部・教育発達科学研究科・教授)
- 今回、本部からメールで事務長あてに地震発生連絡が来て、そのメールを全職員に転送して、、という手法をとっていましたが、実際には停電になることが少なくありません。メールやファックスでの伝達手段は有効なのでしょうか。また、当学部では、建物内に全館放送設備がなく、警報発生も直ちに知らせることができません。今回は手分けをして各研究室等学部建物内をまわり口頭で伝えました。危険度が高い場合、この方法も有効なのか疑問があります。災害備蓄品については、各学部配置されたようですが、正式なインフォメーションもありません。またその内容も、「災害備蓄品」というにはお粗末ではないでしょうか。(教育学部・教育発達科学研究科・事務職員)
- 情報を受けた後対策本部に集合し、決められた箇所へ伝えましたが、実際にはこのようなことはできないと思われるので、実際に避難する手順(ルート)の確保や、指示を行うようにした方が良いと思う。(教育学部・教育発達科学研究科・事務職員)
- 地震発生後、時間を置いて(防災隊の招集、指示などの後に)建物内から避難を呼びかけることにはあまり意味を感じられず、大地震発生後の建物内へ事務担当者全員が集合し、余震が想像される中で建

物内を動き回る事は、無駄に危険を冒す行為ではないのかと感じました。(教養教育院・事務職員)

- 訓練という認識で今回は対応したので、役割自体も理解できたが、実際地震が起きた際に自分がいる場所がどこかということもわからないので、ここの部署としての役割を認識するのではなく、地震が起きたときに何をすればいいのか、どう行動すればいいのか、ということを理解しておく必要があると思いました。(教養教育院・契約職員・パート等)
 - 今回初めて地震防災訓練に参加し、職務として学生の避難訓練を行ったが、担当教員に対して事前に説明会等を行ったこともあってか、全体的にスムーズに行われた。ただ、訓練のなかで地震発生(10:37)から避難誘導開始(10:50 頃)までに10分以上の時間があつたが、現実に地震があつた場合を想定したマニュアルであつたのか疑問であり、実際避難訓練に参加している教員と学生の立場からすると、災害対策統轄本部設置や部局への指示伝達等と並行して行うなど改善した方がよいように思われた。(教養教育院・事務職員)
 - 今回の私の仕事は学生や先生の安否確認でしたが、実際に大地震が起こってしまったら、他人のことを考えてる余地はないと思いました。もう少し 自分の身を守る方法など、実践できそうなこともやっていたかったです。また、今回の訓練であまり日本語の得意でない留学生が本当に地震が起こったと勘違いしていたというケースがありました。今後日本語と英語の両方で放送することも考えてみてはいかがでしょうか。(経済学部・経済学研究科・事務職員)
 - 人間の安否確認をする場合、学生の場合だと、もっと学生同士でのネットワークを確立したほうがよいと思われた。教員や事務だけでは、学生一人一人の所在を把握することには相当時間がかかると思う。(経済学部・経済学研究科・事務職員)
 - 全学一斉放送が全く聞こえない。改善を望みます。(経済学部・経済学研究科・事務職員)
 - 東海・東南海・南海地震が一体となった「3連動型巨大地震」が 2030 年頃発生する可能性が高い状況で、まずもって名古屋大学の場合数多くの専門家の先生方がおられますので、まず第一に地震予知を前提とした警戒宣言が行われず(行うことができず)ある日突然発生する、という様な最悪の状況を考えて訓練計画を立てる必要があると思います。今回の訓練でも言えることですが、例えば“震度6弱の地震が発生しました”の放送から始まり、“落ち着いて行動して下さい”と進行していきます。しかし、最新の予測としては震度7の揺れで、かつ阪神・淡路大震災の様な直下型地震における「短周期地震波」(で揺れの時間が30秒程度)とは異なり高層の建物に特に影響の大きい「長周期地震波」が3~5分間程度揺れ続ける可能性が高いと思われれます。その様な最悪かつ十分起こりうる状況の下で、経済学部で言えば、果たして本当に改修した経済学部本館がそのレベルの南北上下方向の地震動に耐えうるのか?、耐えうるとしても地震発生後の大混乱の状況でいかに日付を前もって設定した「訓練」が本番に役に立ちうるものなのか、正直疑問を感じます。一例として東京都では地震発生後の帰宅困難者の発生を予測して例えば自宅に歩いて帰らせたり、訓練自体を○月×日~○月△日のうちのいずれかの時刻に事前予告なしで行う、といったより現実のありうる状況を設定した方がいいと思います。また、教職員及び学生の参加をもっと大幅に増やさないと事務職員だけで訓練している感じになってしまっていると思います。いずれにしても、どれだけ推定・予測して防災訓練をしてもある意味それを遙かに上回る災害(未経験の災害)が起こるんだ、という位の気持ちでより現実的かつ最悪の状況を予測して訓練すべきではないでしょうか。(経済学部・経済学研究科・事務職員)
 - 防災無線が聞き取れなかった。(経済学部・経済学研究科・教授)
- ◇ 電話連絡では不十分なことが判った。(1-1)消防隊長として連絡班長に電話したが、その瞬間、相手

がその場に不在だった。対応策としてファックスを送信し先方から電話返信を受けた。(1-2)工学研究科災害対策本部(内線7490)に人数確認の報告の電話を入れたが、11時18分から5分間に渡って担当者が不在で、報告できなかった。ファックスを併設する必要がある。また、通報電話から離席する際に担当者を一人は残す必要がある。(2)連絡用の文章は、紙に書いてあるからようやく理解できるので、もっと耳で聞いて理解できるように書き直すべきだ。改善点:(2-1)文章を短く、(2-2)順番に判りやすく、(2-3)何を相手に要求するか項目を明らかにする、(2-4)相手に必要事項を復唱させる、など。(3)教室に居る学生の「全体数(履修届け数)」を調査するのは意味がない。「実在数」だけでよい。(工学部・工学研究科・教授)

- ここ数年、大学としては防災の意識が非常に高まっていると感じられるが、肝心の教員や生徒の意識は必ずしも高いとはいえないと思う。定期的に学生の視点に立った防災イベントを開催する等、工夫した取り組みやPR活動を行っていったほうが良いと思う。(工学部・工学研究科・学部生)
- スピーカの伝達の内容が明瞭でない。音声は十分だったがアナウンスの話し方がよくない(早すぎる、不明瞭、防災アナウンスに適した話し方でない)。改善すべき。(工学部・工学研究科・講師)
- はじめに地震の放送がかかったとき、となりの中学校のいつもの構内放送かとおもいました。あらかじめメールで地震の訓練について伺っていたため、「ああ、訓練だったのか」とそれから熱心にききましたが、内容はよく分かりませんでした。もっと、非常事態であると悟らせるようなサイレンも必要かと思います。消火器も初めて体験しましたが、女性には硬くてなかなかレバーがひけませんでした。やはり練習して具体的にどんな感じか知っておくことが重要だと思います。映画もみておくのと見ていないのでは差が有ると思いました。定期的に見て、つねに防災の意識レベルをあげておくことが重要だと思います。(工学部・工学研究科・契約職員・パート等)
- メールで訓練の連絡がきていましたが、実際の地震時にメールが使えるとは限りませんので、学内の放送等により確実に指示が伝わるようにした方が良いと思われます。(工学部・工学研究科・助教授)
- もうすこしスピーカーを音量を大きくし、室内放送もすべきである。(工学部・工学研究科・大学院生)
- やはり実際に避難しなかったため、現実味が薄かった気がする。抜き打ちではないが、訓練日のみを連絡し、学生には「いつ訓練になるか」を知らせずに行なった方が、学生も真剣になってよかったのではないか。(工学部・工学研究科・大学院生)
- 安否確認のやり方など、訓練のための訓練としか思えない。(工学部・工学研究科・助手)
- 屋外のスピーカーは、工事関係の音でかき消され内容は全く聞き取れませんでした。かなり遅れて館内放送がありましたが、校舎内にすばやくアナウンスする連絡整備が必要であると感じました。(工学部・工学研究科・助手)
- 屋外放送は建物の中では何をいっているのか全く聞き取れない。予期していた訓練の合図にしかならなかった。(工学部・工学研究科・教授)
- 機会あって四日市消防署による救急救命講習を先日受講しましたが、この折、愛知万博でも常備され、多大な成果をあげ話題となったAED(自動体外式除細動器)の講習も受けました、四日市市では高齢化社会の到来にともない消防の救急出動の激増にともない、一般市民による救急救命活動のこれらを利用したより高度な対応によって救命効果の向上を図ろうとしているとのこと。名古屋大学は病院、消防署には比較的恵まれた地理環境にありますが、本日の訓練が仮に本物とすれば当然救急車の数は限られており、手遅れによる死者の数も多く予想されます、聞けば大学全体にAEDはやっとなら3台置かれたとのこと。それも東山地区では専門家のいる保健管理室のみ。これでは訓練を受けた一般市民が取り扱

い可能な折角の機器を設置する意味がありません、私は今春、学部の要請により労働衛生管理者の資格も取得しましたが、この管理者の立場からも各建物にせめて1台ずつ AED の設置をするのが、教職員のみならず多くの学生をかかえこむ大学の責務と考えております。以上善処願います！（工学部・工学研究科・技術系職員）

- 訓練が実施されることを知りませんでした。（工学部・工学研究科・助手）
- 訓練を行うなら、地震が起きた場合、どうすべきかを、まず周知させるべきだと思いました。（工学部・工学研究科・大学院生）
- 訓練後はすごく危機意識も高く、今地震が起きても対応可能できるかもしれませんが、次第に危機意識が下がってしまうのが怖いところです。「災害は忘れたころにやってくる」とはよく言ったもので、いかにこの危機意識を持続させるかが重要であると非常に思います。私は、比較的危機意識を持続しているほうだと思っています。なぜ、こんなに持続できているかというと、阪神大震災の惨劇が脳裏に焼きついているからです。当時、中学一年生の私は滋賀に住んでいましたが、それでも震度5という強い揺れを体験しました。さらに、テレビから流れてくる燃え上がる神戸の街は悲惨な光景でした。それ以降地震に対してゆるい考えを持つことはできなくなりました。防災力を向上させようということのはじめに、地震の恐ろしさを自分の目で見ることが重要だと思います。そうすれば、大地震に備える心構えをせざるを得なくなると思います。（工学部・工学研究科・大学院生）
- 建物内部に放送を入れられるようにすると良いかと思います。地震ならば誰にも異変が判りますが、火災は起きたことが発覚したすぐに全体に伝えられないと逃げ遅れる危険性があると思われまます。今回の非難訓練でも、いつ訓練が始まったのかが知らされず、部屋から出なくてはならないということに気づくのが遅れました。（工学部・工学研究科・大学院生）
- 研究室内の防災グッズの整備や、室内の設備（書棚等）についての耐震対策のチェック指導をお願いしたいと思います。（工学部・工学研究科・契約職員・パート等）
- 現在、構内の道路上には多くの駐車車両、自転車があります。自転車に関しては、入り口をふさぐようにして駐輪してあるものも見かけます。仮に、災害が起きたとき、それらは非難の際の障害になり、緊急車両の通行の妨げになるかと考えられます。駐車車両、自転車への対策が必要かと考えています。（工学部・工学研究科・助手）
- 工学研究科では専攻毎に所属する講座の構成人員の安否確認を行った。しかし、6 系では講座配属されている4年生は5系までの学部の所属であり、講座の所属専攻が用意した安否確認用の名簿から漏れていた。また、学生は講義等で学内を移動して講座内に不在の機会も多く、今回の方法での安否の確認は有効性がはなはだ疑問である。安否確認をするなら、各建物の各部屋の担当講座を決め、「その部屋に負傷者、動けない者が居ないかの確認が成されたか」の情報を集める方がその後の救済に有効だと考える。（工学部・工学研究科・助手）
- 工学部 6 号館裏にある原子核第一特別実験棟では、6 号館の陰になるためか、防災無線は全く聞こえなかった。午後の時間帯のほうが、研究室にいる院生・学生の数は多い。年度によって異なった時間帯を設定するのも意味があると思う。（工学部・工学研究科・教授）
- 工学部では、事前に防災訓練の連絡があり、当日の予定は5割ほど知っていました。でも、実際に起こった場合、冷静でいられるのか、自分の役割等忘れ、とっさに逃げ出すのでは？近くにヘルメットがあっても、今回無視していましたが、本番でもかぶる程余裕はないように思います。実際に地震が起きた場合、どこに逃げればよいのか？どうすればより災難を少なくすることができるのか？をもう少し、情報を

知らせて頂いたほうが良いのでは***思いついたことを記入しましたが*** (工学部・工学研究科・事務職員)

- 今回、工学研究科では各階の連絡班がその階の人員の確認を行って、連絡通報班班長に人数の調査結果を報告することになっていたのですが、各研究室に配布された文書では、事務室に報告する旨の指示が書かれており、徹底していなかった。(工学部・工学研究科・教授)
- 今回の訓練では実際に消火器の使い方に関する講習があったためその使い方を再復習することができました。これは、良い試みだと思います。(工学部・工学研究科・助手)
- 今回の訓練に伴い、大学生協でも防災展示館などの取り組みを行っていたみたいですが、興味を持ってくれた学生が少なかったようです。大学と生協がさらに協力して防災訓練に取り組めたら良いと思う。(工学部・工学研究科・学部生)
- 今回は三号館消防訓練と兼ねたものであったが、安否確認作業工程に疑問が残るものであった。今回は避難場所にいる人数だけを確認したものであるが、現実問題として研究室や実験室が複数の建物に渡っており、また登校しているかも不明な状況下で実際のどこまでの安否情報を確認するのか、また、号館の異なる場所で活動していた場合の安否情報の共有方法など明確な手順作りをしたほうが良いと思う。(工学部・工学研究科・助手)
- 残念ながら、防災訓練の実施について、いまいち周知されていなかったように感じる。(工学部・工学研究科・学部生)
- 実際に自信があったときにこれと同じことをやっても機能しないのではないのでしょうか。地震があったかどうかは、放送を聞かなくてもわかります。各部屋に地震発生時に何人居るかを知る手だてがない状態で、人数の確認はあまり意味がないでしょう。各自が自発的にどうやって安全な場所に迅速に避難し、無事でその場に居合わせた人がいかにして負傷者を救助するかを訓練する必要があるのではないのでしょうか。(工学部・工学研究科・教授)
- 実際に大地震が起きれば、学内のメールや電話は故障や回線の不具合で使えなくなることが考えられる。従って、耐震対策がしてある拡声施設の充実が必要である。今回は、外部からの音声は全く聞こえなかった。さらに各部屋内のスピーカをつけることも必要であろう。(現状は廊下でのみ聞こえる)(工学部・工学研究科・助手)
- 実際に地震が起きた場合に停電すると思われるので、メール、FAXが使用できるが疑問である。電気に頼らない方法を検討しないとだめではないのでしょうか。(工学部・工学研究科・事務職員)
- 実際地震が起こった時に、連絡通報班が不在、事務室が機能していない等で訓練の時と同じ体制がととのっていない場合があるかと思いますが、その場合の対処のしかたについても指導いただくか、訓練をしていただくとよいかと思います。責任を果たそうとして、避難のタイミングを失うスタッフが出てくるのを心配しております。(工学部・工学研究科・助手)
- 周りの人の話では、今回の訓練は火災だと聞いていたので、地震だったというのはこのアンケートで初めて知りました。放送などは、まったく聞こえなかったのですが、放送はされたのでしょうか？(工学部・工学研究科・大学院生)
- 上司だけが勝手にやっていた感じ。そもそも防災訓練があることを当日知った。地震が本当に起こったらパニックになるだろうなと思った。防災対策としてキャビネットのガラス部分に飛散防止フィルムぐらい貼って欲しい。防災対策に対して上の者に対して勉強会(強制でも構わない)をして上の者の意識を変えて欲しい。(工学部・工学研究科・事務職員)

- 全学一斉放送についてですが、内容は聞き取れましたが、かなり聞きづらかった。訓練があることを知っていなければ聞き漏らした可能性が高いと思います。(工学部・工学研究科・助手)
- 早く耐震工事をしてください。訓練しても、建物が倒壊したら、助かりません！！(工学部・工学研究科・契約職員・パート等)
- 地震発生の放送が実験室ではまったく聞こえなかった(工学部・工学研究科・学部生)
- 伝達方法は、一斉に知らせる方法として館内放送のようなお知らせでないと、一斉には伝わらないと思いました。外の放送は全然聞こえませんでした。(工学部・工学研究科・事務職員)
- 避難訓練は例年水曜2限に行っているようで、毎年講義中の避難訓練となっています。曜日等を毎年変えていただけないでしょうか？また、研究室学生らによると6号館では避難放送が全く聞こえなかったそうです。(工学部・工学研究科・助教授)
- 普通の会社から、名古屋大学へ赴任して来て、訓練に対する構成員の意識の低さ、責任感の無さにあきれています。会社では、訓練の目的と責任・役割の明確化(不在者の代理の順序も含む)、時間を計測しての訓練行動のスピードアップ化、等、毎年、マンネリ化を防ぎながら、防災意識・行動の工場を回っています。特に、問題は、私たち教職員が、自身・火災等の防災で、何を守るべきかの目標が余りにもあいまい過ぎます。一般的な常識からは、真っ先にすべきことは、授業料を払っている学生の安全確保を第一に考えるべきで、二番目が教職員自身の安全、最後に大学の財産(有形・無形)の保護となると思います。もう一度、全学的に、訓練の目的を明確にして、防災に対する認識の改善から始めなければ、実効のある訓練にはならないと思います。(工学部・工学研究科・教授)
- “放送が入って、何が起こったのか分からないうちに終わってしまったのが残念だった。”(工学部・工学研究科・大学院生)
- 放送の「語尾」が、よく聞き取れませんでした。はっきりと発音していただきたいものです。(工学部・工学研究科・助教授)
- 放送の意味が無い。(工学部・工学研究科・学部生)
- 防災無線の放送があつてから、緊急連絡網を通じて地区消防隊長から電話連絡を受けるまでに10分程度の遅れがあつた。今回の訓練では、消防隊長からの連絡があつてから連絡通報班長が安否確認の行動を取るように事前に指示があつたが、実際のにもおそらくほとんどの人が防災無線の連絡を最初に受け取るであろうから、防災無線の放送を受けたらすぐに安否確認の行動を行うように訓練した方が良いと思われる。(工学部・工学研究科・講師)
- 毎年訓練をするとよいと思います。(工学部・工学研究科・教授)
- 名簿に基づく安否確認が行われたが、組織上の名簿と常駐している場所が必ずしも対応していないのが現状である。特に学生については、自分の講座の学生が他部局の施設で実験中であつたり、自分の居室の近隣の実験室で他の講座(専攻)の学生が実験していたりする。少なくともどの様な原則(目的)で人員把握を行うのかを明確にしておく必要があると感じた。(工学部・工学研究科・助教授)
- 研究科独自の避難訓練に参加し、屋上へのルート、避難階段、避難はしごの操作等を経験して、大変役に立った。2. 上記のアナウンスの音声については、選びたい選択肢がなかった。実際には、館内放送がよく聞こえたので、それに集中し、室外の放送が聞こえてはいたが、反響していたので無視した。3. 研究科では、日本語に続き、英語で同様なアナウンスがあり、留学生にもよく伝わった。屋外放送は英語があつたかどうかわかりませんが、日本語だけでしたら、英語でのアナウンスも導入を検討すべきだと思います。(国際開発研究科・教授)

- いざというときに備えて、何をなすべきか一人一人がをしっかりと把握しておく必要があると感じた。訓練については、まだ学生に対する周知が不十分である。各担当教員から授業の際に連絡しておいてもよいのではないか。(国際開発研究科・教授)
- 館内のスピーカからのアナウンスがまったく聞き取れなかったので(廊下にいても)、スピーカの設置場所を変更するなど、対策を取ってほしいです。(国際開発研究科・講師)
- 起震車などの体験企画は、いざというときに体験した人としていない人では違ってくるので、毎回とりくんでほしい。(国際開発研究科・事務職員)
- 訓練はよいことと思いますが、老朽化した建物(情文棟)の改修工事もぜひお願いいたします。授業期間であれば学生が非常にたくさんいる建物ですので、たいへん心配です。(国際開発研究科・助教授)
- 国際開発研究科、自然災害等対策専門委員です。今回は本部企画の催しも多彩で、訓練に積極的に参加するよい動機づけになったと思います。私自身は起震車を体験しました。救命訓練には参加できませんでしたので、次回を期待しております。防災無線の音声は、事前に会議で原稿を読んでいたので、ある程度はわかりましたが、そうでなければ、あまりよくわからなかったと思います。(アンケートの答えとして「あまりよくわからなかった」という選択肢を作らなかったのは意図的でしょうか?)チャイムは最初、どこかの時計の時報かと思いました。もう少し緊迫感のある警報音にした方がよいかもしれません。英語は声が低いせいか、ほとんど聞き取れませんでした。国際開発研究科では、防災隊員が実際に駆け回って安否確認訓練を行ったほか、「防災ツアー」と銘打って、屋上、非常階段体験、避難はしご開閉訓練を行いました。訓練は、ただ逃げるまねをするだけのものではなく、現実味を帯びたものにする必要があると思ったからです。その意味で、今年の本部企画はよかったですし、来年も継続して行っていただきたいと思います。さらに、例えば、たんすの下敷きになった人間の身体の損傷とか、ドアの開かなくなった部屋やトイレからの脱出法、など、興味を惹くテーマを開拓してくださることを期待します。思いつくままに書きました。(国際開発研究科・教授)
- 今回の訓練の欠点は PR が少なく過ぎます。ポスターやインターネットだけの情報は足りないと思います。直接に学生に知らせる方法を考えて頂きたいです。特に、研究生などの新入学生に徹底的に連絡を取れば、良いのではないかと思います。名古屋大学の留学生の中では、日本語が分からない人がたくさんいます。訓練スケジュールや何をすべきかその手順を英語の資料にしたり、訓練中に必ず英語で説明して下さる方を整えたら?(国際開発研究科・研究生などその他学生)
- 事務室内での勤務のため普段建物内を見て回ることがないので、位置確認ができる良い機会でした。また事務員と教授・学生との接点は事務的な面でしかありませんが、このような行事を通して少しの時間ですが交流がはかれ、わずかに一体化が生まれたように感じました。最後に自己の意識を高めるためによい経験をさせていただきました。(国際開発研究科・契約職員・パート等)
- 名古屋大学に採用される前、在外公館にて勤務していましたが、その際は緊急事態に備えて、水の備蓄を行っており、賞味期限等を確認して適宜交換していたようです。このことから、本学でも、非常用の水や食料などを組織的に備蓄しておくことも妙案かと考えられます。(国際開発研究科・講師)
- とても役に立つと思いますが、留学生にとっては、知らせを受けた後、どのような行動を取るのによく分からないので、そのあたり何かの資料をいただければ幸いです。(国際言語文化研究科・大学院生)
- 訓練がなければ、スピーカーの音声が聞こえないこともわからないので、試してみるのとはとてもよいことだと思います。しかし、スピーカーの音が聞こえなかったのは去年もそうだったと記憶しています。改善されないのであれば、今後同じような内容ですすめるのは無駄だと思います。本部から少し距離があり建物

自体も古い、けれど学生がいる確率が高いので、いち早い正確な情報が欲しいと思います。「新しい建物にかわるまでは」というのではなく、明日起こるかもしれないということを前提に早急な対応をお願いしたいと思います。(国際言語文化研究科・契約職員・パート等)

- 訓練ではなく、実際に大地震が起きた場合に適切に対処できるかどうか若干心配ですので、大地震が起きたときどこにいるのかを基準に具体的な対処方法が示されているようなハンドブックがほしい。(国際言語文化研究科・助教授)
- 今日いた建物の構造はよくわかっているので問題ないが、他の建物にいるときはやはりパニックに陥るのではないだろうか。(国際言語文化研究科・教授)
- 私を含めて学生の多くは放送が流れているのがわかりましたけれども、その内容を聞き取ることができなかったようです。詳しくて長い案内よりも必要最低限の言葉の方が効果的という気がします。(国際言語文化研究科・助手)
- 授業中の学生を引率して12番教室からグリーンベルトに非難の際、避難経路の表示に従って廊下の北端出口に向かったところ施錠されていて外に出ることができなかった。急遽反対側、南端の出口に向かったが、本番だったとすれば袋のネズミ同然で一騒動だっただろうと推測されます。(国際言語文化研究科・教授)
- 豊田講堂の話は有益だった。実際の訓練はあらかじめ知らされていたのであまり意味がないと感じた。(国際言語文化研究科・助教授)
- たまたま短期滞在のドイツ人研究者が情報文化学部棟南2階にいた。訓練があることは予め伝えておいたが、昼にどんな様子だったか尋ねたところ、全学放送でサイレン音とともに何かアナウンスされているらしいことはわかったが、英語のアナウンスはなかったと思うので、内容はわからなかったとの感想であった。実際に起こる事態では、英語の放送の準備も必要となると思われる。(情報科学研究科・教授)
- 訓練の時間帯は研究室のセミナーに出席していた。事前に訓練があることは聞かされていたが、何の放送も無かったため、どんな訓練だったのかも分からない。事後に地震防災対策のプリントを受け取り読んだ。(情報科学研究科・大学院生)
- 訓練の認識が低い。(情報科学研究科・学部生)
- 建物の中に、放送設備があった方が非常時の連絡が迅速になるのではないのでしょうか？情報科学研究科棟8階では、何も聞こえなかったのであまり訓練という感じがしません。電子メールですと、少し遅れてみるようになりますので。(情報科学研究科・助手)
- 講義中でしたが、講義室で放送が聞こえなかったために、訓練にならなかった。(情報科学研究科・教授)
- 実際の災害が起こった場合に、連絡手段(放送)が不十分ではないかと感じました。(情報科学研究科・大学院生)
- 発生時は輪講中であり、周囲にいた11人全員全く気がつきませんでした。輪講に必死なため、それ以上に危機的な状況に陥らないと行動を起こさないかもしれません。また、電話での安否確認が30分後にあったことについてですが、もっと早く連絡が回っていれば助かる人が出るかもしれません。サイレン等に気がつかない人がいたという事実はご連絡しておきたい事項です。話は変わりますが、建築物の耐震性は十分なものなのではないでしょうか。耐震性の高い建物にいる場合、高いフロアにいる人間は避難するよりも留まった方が安全性が高まる気がします(階段の押し合い等)。地震発生時における位置と行動の関係と、その安全性の変化についての研究結果があれば紹介していただきたいと思います。(情報科学研究科・大学院生)

科・大学院生)

- 連絡が来なかった(情報科学研究科・大学院生)
- 午後にもサイレンが鳴っていました。(情報文化学部・学部生)
- FAXやメールでの通知が予定時刻よりも遅かったため届くのを待っていたところ、当初のスケジュールどおりに実施しろという人が現れました。通知があってから実施するつもりだったと思われるのに、すぐそばで急かされて、警報音が鳴るとすぐに、放送の内容を聞き取るわけでもなく(はっきり聞こえなかったこともあります)、またFAXやメールの受信を確認するでもなく、事前の通知に従って作成したマニュアルに沿って訓練が始まっていたという感じです。これは、事前に周知すべきこと等が全て知らされているからこそ出来たことで、現実には地震が起きた時には、どういう状況なのかということですから、すぐにはわからないと思われます。そういう意味でも、こういうなんでも予定どおりやればよいというような感じの中途半端な訓練が、実際にどれくらい役に立つのか、やや疑問を感じています。(こういう状況だったのは、自分の所属する部局だけなのかも知りませんが)(情報連携基盤センター・事務職員)
- ゼミ中の先生より、安否確認報告書の提出について電子メールで連絡がありりましたが、実際に地震が起こった場合には電子メールなど見ないのでは、と思いました。(情報連携基盤センター・契約職員・パート等)
- 完全に電気および電話が使えない状況に陥ることを考慮し、各号館に無線を常設し、これによる訓練を行うことを提案します。(先端技術共同研究センター・助手)
- 昨年同様、今回の訓練もいまひとつ真剣さが足りなかったように思います。訓練を実施するのであれば、教職員、学生も強制的に参加するようにしなければなんの意味もないように思いました。(先端技術共同研究センター・契約職員・パート等)
- 最近、大集団や小集団にかかわらず、連絡手段を携帯電話等に頼る傾向が強いが、それで良いだろうか。名古屋水害の時も、現地では携帯電話や有線が大変繋がりにくく、無線が大変有効でありました(同報性の強み)(全学技術センター・技術系職員)
- 私のいる理学部E館からの豊田講堂前の避難場所へ移動する経路の確認をした所、建物に囲まれていて抜け道が非常に少ない事が分かりました。実際にはどうなるか分かりませんが、四谷通り経由の順路が安全のような気もします。このように自分のいる所から避難所に行く経路の設定を知る事が大切だと思いました。学内学外問わず自分のいる所から何処に行けば安全か意識する事の大切さを知りました。(全学技術センター(理学)・技術系職員)
- サイレンが聞こえないので、全くわからなかった。地震がきたら保体センターおよび、運動施設は危ないのではないかと不安である。以前、体育館の天井壁が落ち、偶然にも学生がいなくて事故が発生しなかったが、耐震工事も後回しになっているのではないか?(総合保健体育科学センター・講師)
- 今は授業中を想定していますが、授業時間外の場合に屋外運動場等で課外活動をしている学生などにどうやって安否確認をするかなどは今後の課題でしょう(総合保健体育科学センター・教授)
- とっさの時に、メールでの連絡は間に合わないこともある。メーラーを開いていないことには確認できない。情報の伝達方法をさらに多角的にする必要があるかもしれない。または、情報伝達はこの方法を取るということを、防災マニュアルとしてさらに徹底させる必要があるかもしれない。(多元数理科学研究科・事務職員)
- 今回の訓練では、安否確認方法がやや实际的でないと感じた。それは訓練に際し、どういう状況が起きているのかその前提がはっきりしない点にある。今回は、建物の倒壊、火事の発生といった事態はない

(せいぜいけが位)ものとしての安全確認作業である。つまり通常の連絡方法が途絶しないことが前提になっている。地震はみんな感じているはずで、現場は不安を覚えつつ情報・指示を待っている、といったところであろう。このとき通知文にあるようにすぐ帰宅させるのがいいのか(交通情報が分からない)、安全な場所にひとまず待避して待機させるのがいいのか、どうするかで安否確認の方法も違ってくるのではないだろうか? 前者であるとすれば、今回確認から報告までの時間が短すぎたと思う。時間切れで報告が間に合わなかったところがあった。またこの場合通知で交通情報を流すか、アクセス方法を指示すべきだったろう。(多元数理科学研究科・教授)

- 廊下にいると放送が何を言ってるかよくわかりませんでした。訓練だから、何かしゃべっているなどという感じですが。A館の3階の北側の部屋の学生もよくわからなかったようです。A館付近はスピーカーが少ないのでしょうか? 意味が分かるようにお願いします。(多元数理科学研究科・事務職員)
- スピーカーの音が強くなると聞くまで気づけなかった。訓練が有ることを知らなければ鳴っていることうちの研究室では誰も気づけなかったのでは無いかと思います。(太陽地球環境研究所・大学院生)
- 訓練開始後に、事務長室に集合するよこの連絡は入ったが、その際に「地震発生」という情報が伝えられなかった。訓練を行うとの情報は前に入っていたので、連絡員の人が、「地震発生」と言わなくとも、了解済みと思ったのであろうが、訓練としては真剣みが欠けた。(太陽地球環境研究所・教授)
- 午後からの出勤のため、消火訓練のみ参加しました。初めて消火器を使いましたが、大変良い経験となりました。(太陽地球環境研究所・契約職員・パート等)
- 情報伝達の手段は現在、電話やメールで行われていますが、実際に地震がおこれば電話やメールはなんの役にもたちません。東山地区では防災無線で情報伝達していますが、豊川地区は防災無線が整備されていません。東山地区から離れている地区も防災無線を整備していただきたいです。(すくなくともこの2、3年は豊川地区に人がいるのですから)防災無線がだめならアマチュア無線の件、検討をよろしくお願いします。向井(太陽地球環境研究所・事務職員)
- 全施設内に館内放送の設備を設けて欲しい。(知的財産部・研究員)
- スピーカーのボリュームをもう少し大きくし、内容が明瞭に聞き取れるよう改善して欲しい。(地球水循環研究センター・契約職員・パート等)
- 屋外スピーカーの音についてですが、事前に訓練があるとわかっていたから聞き取ることが可能だったものの、実際に地震が起こった混乱の中で音声を聞き取ることが出来るかは疑問です。「注意深く聞いていると聞き取れる」程度の音量だったと思います。(地球水循環研究センター・契約職員・パート等)
- 学内放送、無線関係の調整が必要だと思う。年に一度では忘れてしまうので、頻繁に行ってもいいのかもしれない。(地球水循環研究センター・事務職員)
- 当センターでは、防災無線は、役に立たなかった。非常時だけのサイレント等にした方がいいのでは、ないでしょうか? 今日が防災訓練当日だと知っていたのに、最初、選挙カーが来たのかと思いました。また、もう少し小さな単位でも日頃から訓練等をやった方が意識改革が出来ていいと思います。屋外に避難する場合は、何処が一番いいのか解りません。アドバイスをお願いします。(地球水循環研究センター・事務職員)
- 放送が聞きにくく、何を言っているのか分からないし、今日が訓練の日だと思っていないと選挙の放送だとか、運動会の放送のように聞こえて、聞き流してしまう。とりあえず、緊急事態だという事が分かるように、サイレンか、何か耳につく音を出してほしい。(地球水循環研究センター・契約職員・パート等)
- 地震でめちゃくちゃになったら、固定電話やファクス、メールは全く使えなくなると思うので、それに依存

しない手段を考えなければならないと思う(現場へ走る、緊急時の集合場所を検討する等)。あとは普段から行き先を告げずになくなってしまふなど、緊急連絡に対して「非協力的」な者が多くいることが問題であると感じている。あらかじめ訓練時間がわかっていると、みんな連絡の取れるところで待機してしまい意味が無いので、抜き打ちでの訓練が絶対に必要であると思う。(年代測定総合研究センター(全学技術センター)・技術系職員)

- 10月の第2水曜日が国際防災の日であることは尊重すべきですが、訓練の日時について固定する必要はないのではと考えます。曜日・時間を変え、様々な条件で訓練をしてシュミレーションを重ねて、必要な対応するのがよいと思います。(農学部・生命農学研究科・助教授)
- 屋外スピーカーは屋内にいる分にはまったくと言っていいほど、聞き取れませんでした。館内放送の必要性を感じました。(農学部・生命農学研究科・大学院生)
- 学内あらゆるところに有線放送みたいに線を張り巡らし、大音量のスピーカーを設置してください。年一回だけでなく、数回大学行事として、半強制的に訓練をし、構成員の意識を高める必要があると思います。とにかく、いち早く避難するために出口を増やすべきだと思います。分散して早く逃げる事が出来るよう、窓の下に、避難ばしごを常置し、全構成員にヘルメット、簡易型防煙マスクなどを配布してください。頭で思っている、感覚として、震度6とはどの程度の揺れなのか、実際に体験できるように、地震体験車を手配して下さるとよいです。今回の訓練では、全然危機感がなく、人ごとみたいでした。(農学部・生命農学研究科・事務職員)
- 簡単な避難マニュアルを作成し、啓蒙していただけるとありがたいです。訓練に参加した学生の多くはどのように行動を取ればよいか正確には理解していないようです。(農学部・生命農学研究科・助教授)
- 館内放送が予定よりも遅れ、避難の準備放送後、いつ避難し始めればよいか、戸惑った。今回は研究室ごとにまとまって避難したので安否確認が出来ましたが、避難場所には避難者が多く集まっており、実際に地震が起きたときには不可能に近いと思われた。(農学部・生命農学研究科・助教授)
- 訓練ではあらかじめの行動、避難場所が設定されているが、実際の災害ではその通りにできるとは限らない。今回の訓練で部局内では館内放送が最初にあったのみで、避難するまで訓練次第に従って各自で行動したが、避難場所への誘導等、大勢の状況の分からない学生、外部の方へその場でどうするかを判断して指示できる職員を多く配置すべきである。農学部では学内消防隊が編成されているが、あまり機能できるような状況ではなく、そのような組織の訓練をもう少し頻繁に行うべきだと思う。(農学部・生命農学研究科・助手)
- 広い避難場所に一斉に皆が集まりましたが、安否確認を研究室単位で行うため避難場所のどの位置に集まるかを確認を行うグループの中で決めておかないとバラバラに避難してしまい避難者の確認をすることが難しくなると感じました。でも実際に訓練を行う事で、大学で災害にあった場合にどのように行動すれば良いかが身に付いていくと思うので、これからも訓練にまじめに取り組みたいと思います。今回訓練ということで事前に連絡があり、避難場所や経路への車の駐車が禁止・一時通行止め等があり広い範囲で駐車ができなくなり、当日通勤してきたものの駐車スペースを確保するのにとても苦労しました、実際に災害が起こる時は訓練のように事前にわかるものではないので、周囲の状況等は平常通りのままで訓練を行うようにした方がより災害発生時に近くて良いのではと思います。屋外スピーカーは、スピーカーのある側に窓がある部屋では窓を開けて静かであれば音は聞こえるのですが、反響してしまい聞き取りにくかったです、窓が閉まっていて室内で音がしていたり、また廊下をはさんだ(スピーカーがある側でない)部屋

では、何も聞こえなかったようで、身近な人達は館内放送があつてからわかった人がほとんどでした。(農学部・生命農学研究科・契約職員・パート等)

- 今回の訓練から、安否確認が入り、大地震が起きたとき、学生の安否確認の大切さと大変さを認識するよい機会となったと思います。訓練当日は訓練があることを認識しており学生が研究室に在室していたので安否確認が容易であつたが、普段の生活を考えると、研究室での安否確認は本人が学校へきているのか、また大学内のどこにいるのかがはっきりせず、その学生たちの安否確認の方法を考えていかなければいけないと再認識しました。何かよい方策はあるのでしょうか？また別の実験室や別の学部へいつている学生の安否確認方法はどのようにすればよいのでしょうか。災害が起きたときに携帯が使用できるとは思えないのですが…。(農学部・生命農学研究科・契約職員・パート等)
- 震度6の地震が近辺で起こった場合、窓を開ける暇なし家への交通手段なし。(農学部・生命農学研究科・大学院生)
- 前もつての訓練の周知徹底がまだ不十分だと思います。また、今までの反省点などが特に生かされているようにも感じられませんでした。1 時限分の時間を費やして行う訓練のわりに何かにつけて不満が残りました。大勢ですることなので、なかなか難しいとは思いますが、もう少し何かスムーズに出来ないものかと思います。学生もただらたしよがないから参加しているだけといった風情で、それを指導する体制もできていなくて、実際に事が起こった時、大丈夫か心配になりました。また、一斉放送、学部内における放送後の連絡が不十分で、情報がまるで伝わりませんでした。今、何が起こっているのか、どこまで進んでいるのかといった状況説明がないとみんな不安になるし、何らかの指示とかが的確になされないと、それぞれがでんではばらばらに判断して動いてしまうと思います。すべての人がするべきことをしっかり理解して、そのように行動できるとは思えませんから、上からの指示が迅速かつ的確になされるべきと感じました。(農学部・生命農学研究科・助手)
- 大学内に、水や食料品などの備蓄はあるのでしょうか。大学が周辺の広域避難場所なのかどうかも知りませんが、また、帰宅困難者のための支援、対策をお願いしたいと思います。(農学部・生命農学研究科・助教授)
- 非常扉も使用して訓練すべき。全く使われたことのない非常口、非常扉は、その存在を忘れられていざという避難の際に使用されにくい。また、以前、雨などが降り込み、非常扉のロックが空かなくなっていたことがあつた、非常扉の開閉やとロックの確認をすべきだと思うので、避難訓練において非常口も使用して非常扉の以上がないか確認して頂きたい。(農学部・生命農学研究科・助手)
- 実際に地震が起こった時のことを想定した訓練をすることが望ましいと思う。警報が出たときの訓練としては、今回のものでよかつたと思うが。(発達心理精神科学教育研究センター・教授)
- 図書館は開館中なのでカウンターのバックアップ当番に当たっていたため直接訓練には参加しませんでした。全学放送があることはわかっていましたので、窓をあけていましたが、小さなブザーのような音が最初に聞こえたのが名大内の音で開始合図だったのか、次に聞こえた音楽のような音が最初の放送なのか全くわかりませんでした。また、内容もきこえませんでした。窓に近い事務室内で、このような状況なので、これが訓練情報と知らない場合で、利用者と対応中の場合は全く関心を持つことはないと思います。(附属図書館・契約職員・パート等)
- 担架を本部(池の周り)に運びましたが、屋外よりも館内で怪我人が出た際に使う可能性のほうが大きいことを考えると、もう少し建物の近くに置いたほうがよいような気がします。怪我人が出た際、本部に連絡が来て、それから担架をもって行く。という手順になっているのでしょうか。(附属図書館・契約職員・パート等)

ト等)

- 防災対策を講じる上で、全学的に偏りなく施設の改修等を行っていただくだけでなく、学生・教職員の利用頻度を考慮に入れることも必要ではないかと思います。(附属図書館・事務職員)
- 初期に確実に情報が伝わらない以上、訓練に対して適切に対応はできません。私の部屋は静かであり、私自身もワープロ操作をしていたことから、この状況で緊急情報が伝わらないことは、放送システムの不備であると思います。その点、放送システムの早急の改善をお願い致します。(物質科学国際研究センター・助教授)
- 防災無線は建物の外にいないと聞こえない場合が多く、このままでは意味をなさないかと思われます。音声よりもサイレンの方が聞き取れる可能性が高いと思われますので、に鳴らすサイレンの種類を予め決めておき緊急時に鳴らすなどの策はとれないでしょうか。(物質科学国際研究センター・助手)
- 訓練があったおかげで、いざというときにどうすべきか、また、現在何が足りないか、などについて、学生と意見交換することができました。常日頃から心構えをしておくために、定期的な訓練は非常に有効であると感じました。今回の訓練で残念だったことは、地震の揺れを模擬体験できる時間帯が教授会の時間と重なり、体験できなかったことです。体験できる時間帯をもう少し長くしてもらえたらと思います。また、最寄りの体験車は情報文化学部だったので、できれば各学部一台ずつ配置してもらえるとありがたいです。(文学部・文学研究科・助教授)
- 構成員(学生・教職員その他すべて)の携帯メールなどの登録(連絡先の設定)で大学として確度の高い安否・被害状況確認ネットワークを作っては？(平常時の休講情報配信などのネットワークと関連づけて構築すれば利用価値も高く、利用方法も周知できる) 名簿や便覧に付いている「紙」では確度も低く、実質安否被害状況確認は不可能との声はあちこちで話題にのぼっている。(文学部・文学研究科・講師)
- 今回の本学の防災訓練は、訓練マニュアルが分単位で行動計画も詳細に示されていたため、訓練参加者は、マニュアルに記載された時間を確認しながら訓練を消化しているとの感じがあり、緊迫感に欠けるところがあった。防災訓練を計画立案する担当職員は、静岡大学や浜松医科大学等他大学の防災訓練を参観して、本学の防災訓練に生かしてほしい。訓練参加者の防災訓練に参加する意欲と訓練時の行動が機敏であり、本学の訓練とは比較にならないほど充実していることが実感できるものと思われる。(文学部・文学研究科・事務職員)
- 地震発生時に学内にいるとは限らないので、学外のときに学生や大学とどのように連絡をとったらいいか、マニュアル化していただきたいです。(文学部・文学研究科・助教授)
- 今回の訓練では安否確認の担当に入っており、あらかじめ安否確認用の名簿を配布されていましたが、もしいざ地震発生の場合には、その名簿を入手するのが大変だと思います。あとは安否確認時に、もしけが人などを発見した場合の対処法を知りません。手当てのための用具の保管場所や救護所なども、訓練のたびに周知していただけると助かります。(法学部・法学研究科・事務職員)
- どのように改善したらいいのか、具体的なことはわかりませんが、実際に職場にいる時に地震が発生した場合、今回のように安否確認をそれぞれの部屋(院生室や講義室等)でしている余裕はないような気がします。パニックになることも予想されます。地震が起きた際にどのようにどこに避難等しないといけないか、どういう行動をするべきなのかを日頃から知っておかなければいけないと思いました。(法学部・法学研究科・事務職員)
- マニュアル作成・配布等はしておられるのでしょうか。少なくとも私は知らないのですが、既にあるようでしたら、

そのさらなる周知徹底をすべきかと思えます。また、このアンケートに関しても、改善すべき点(アンケート方法・項目設定・語句定義参照ページの付記等々)があるように思われましたので、付言させていただきます。(法学部・法学研究科・大学院生)

- 屋外のスピーカーの音が小さくて、まったく何を言っているのか聞こえませんでした。実際に地震が起きたときに情報がすぐに入ってくないと不安だと思います。(法学部・法学研究科・事務職員)
- 学内のどこにいたらどの程度安全なのか、ヘルメットや防護服、食料や水等のある場所などについて知識がなく、学内放送も聞こえない状況で、このままであれば実際に地震が起きたら不安が先行して冷静に対処できるか心配である。(法学部・法学研究科・教授)
- 今回の訓練についていくつか意見があります。(1)まず、放送時に何を言っているのか、早口でよくわからなかった。本当の災害が来たような非常事態であれば、なおさら何をすべきかわからないと思う。(2)非常時のマニュアル等何もないというのは問題だと思う(1枚の紙に簡潔に非常時の学内でとるべき行動を教えてほしい)。もしかしたら存在するのかもしれないが、どこに存在するのかすら知らされていない。周知徹底すべきであり、取り組みが足りないと思う。(3)今回の訓練は、全体的に半端だった。別に外に出るような指示も受けなかったと思うし、何かすべきことといえば、点呼・安否確認だけだった。やるなら避難場所等の指示も含めて徹底的にやるべきだと思う(避難場所すら知らない)。(4)キャッチフレーズはもっともらしいが、「責任」の意味内容がさっぱりわからなかった。キャッチフレーズに中身がついて行っているとはとても思えない。(5)起震車に乗ろうと思って行ったが、期待はずれでしょぼかった(ふつうに立っていて揺れるだけ)。家具セットまで一緒になった起震車にしてほしい。大学にいる場合には、座っている可能性が高く、そのような場合にうまく机の下に隠れられるか、と行ったことの方が重要だと思う。(法学部・法学研究科・大学院生)
- にはそれまでの訓練の有無が被災者の安全を左右しますが、またとっさの判断も影響すると思われまます。今回の安否確認に職員が走るという初めての訓練は災害を想定させるのには現実味があり身の引き締まる感がありましたが、具体的にどのような危険が起こりうるかが頭の隅にあれば、とっさの判断も有効になるのではと思いました。窓ガラスの破損、図書の落下、電気系統の断絶、火災、非難経路確保の問題、建物の損壊...想定するには限界があります。阪神淡路震災時の被災大学の教訓が共有できればと思います。(法学部・法学研究科・契約職員・パート等)
- 実際に阪神大震災を経験した者の立場から見て、今回の防災訓練に何の意味があるのか非常に疑問でした。防災訓練にあたり、学生が採るべき行動について何の指示もありませんでしたし、椅子に座ったまま、回された紙に氏名を書いて終わり、などというのでは防災訓練として不十分すぎると思います。せめて、一番安全な避難経路を指示し、実際にその経路を通して避難してみる、全員が安全に避難するまでにどのくらいの時間がかかるか計ってみる、その後全員が無事であるか確認を行う、くらいのことにはやってないと、実際に地震が起きた際には適切な行動は採れないと思います。教職員・学生のうち、一体どれくらいの割合の人が、この大学のどの場所が一番安全で、どの経路を通してそこに行けばよいのかを把握しているのでしょうか。もっと現実味のある訓練を行わなければ、防災力の向上にはつながらないと思います。(法学部・法学研究科・大学院生)
- 放送の際授業中で、放送後、安否確認のための名簿への記入をしたのですが、実際の地震でそこまで悠長なことをする余裕があるのかどうか、非常に怪しいと思います。逃げ道の確保や、集合場所・避難場所の確認をちゃんとする等、どうせ訓練をするならもっと真剣にやらなければ意味がないと思います(もともと、本来の趣旨としてはそこまでやる予定だったのかもしれませんが。)(法学部・法学研究科・大学

院生)

- 豊田講堂入り口横で行われた人工呼吸・心臓マッサージ・AED の講習に参加しました。昨年家族で普通救命講習を3時間受講しましたが、8才、1才の救命方法までより詳しく説明され、AED に関しては「職務として救急隊員は AED の回数の制限がありますが、市民の方なら意識が戻るまで数回実施できます」と積極的な協力を啓蒙してみえました。(本部・契約職員・パート等)
- ◇ 毎回、地震防災訓練の必要性を痛感します。訓練でさえ、詳細な予定表がないと自分がすべきことに迷います。今後も全学防災訓練は継続的に実施してほしいと思います。2. 午後から応急手当の体験と消火器取扱訓練に参加しました。特に応急手当の体験は有意義でした。残念なことに、どちらも参加者が非常に少なく千種消防署の職員の方に申し訳なく思いました。次回からも同様な企画をお願いしたいと思いますが、同時に参加方法についても工夫の余地があると思います。(本部・事務職員)
- 10月12日に防災訓練が行われることは事前に連絡を受けておりましたが、当日その時間は会議中ということもあり、失念しておりました。ただ、訓練時刻にサイレン等も聞こえなく、また訓練開始の伝達もなかったため、事後になって気がついた次第です。全学に伝達することは至難のことかと思いますが、一考を要するかと思います。(本部・契約職員・パート等)
- なし(本部・事務職員)
- 一言で言えば、何をすればよいのか分からなかった。本部事務職員として、自らの安全確保はもとより、大学構成員の安全確保のために、何をすればよいのか分からなかったのも、できればこのような防災訓練時にのみではなく、普段から非常時に何をすべきかということをレクチャーしていただき、その周知徹底が図られることを望みます。正直、何もできませんでした。(本部・事務職員)
- 学生総合支援課は安否確認者数の報告になっている。福利厚生施設の生協系施設と国際嚶鳴館が所管なので、他の施設についてはそれぞれの所管課が行うのが効率が良い。実際に起きれば、国際嚶鳴館などへ行かなくてはならないので、くわしい所管課が行う方が良い。放送は聞きづらいので、館内放送をする、また全員にメール配信を行うなどすべきである。寒い時期には窓を開けておくことができなくなるし、堅くて窓が開けられない状況ではますます難しくなる。(本部・事務職員)
- 掛長の資料を見せてもらいましたが、各課筆頭掛長が何をすべきか、また、それぞれ、誰が何をすべきかということが、解りづらかったです。このフロアでは、当日、そのような声が多々ありました。もう少し、資料をわかりやすく、誰が何をすべきかを明確にし、それぞれの職員に自覚を持って行動してもらわないと、もしもの大地震に備えることは、できないのではないかと思います。(本部・事務職員)
- 訓練については、全学的に実施する必要があると考えます。授業等の中止が伴いますが、各部局の避難場所等を指定し、避難訓練をするなど一部の部局を指定した訓練では、全学的に意識の向上に繋がらないと思います(病院地区では、困難かと思いますが)。(本部・事務職員)
- 訓練情報が館内にいるにもかかわらず聞こえなかったのも、すべての部屋に放送を入れてほしい。いつのまにか訓練が始まっていました。(本部・学部生)
- 今回、起震車、応急手当、消火訓練を行い、防災意識を高めるのに良かったと思います。参加者は本部の職員が多かったですが、部局の人にももっと多く参加してもらいたいと感じました。(本部・事務職員)
- 災害対策本部設置が5分以内に設置できなかった。(全学への防災無線の放送・メール送信・FAX送信が予定時間から遅れた。)同時に避難訓練を実施した農学部・大幸地区の報告(部局災害対策本部設置報告・安否確認報告・被害状況報告)が遅れた。(本部・事務職員)

- 私は、特に非難訓練の要員ではなかったので、参加しませんでした。端から見聞きした感想を述べますと、当課の役割分担は、当初から無理のある設定だった(本来管轄外の部分まで担当させられていたり、人数的に無理な状態だったりした)ようです。訓練とはいえ、抜き打ちで行わなければ、実際の地震には対応できないという声があり、まさにそうだと思います。防災無線については、全く聞こえませんでした。もし、聞こえたとしても、建物に反響して言葉を聞き取るのは無理だと思います。館内放送があった方がよいのではないのでしょうか？(本部・契約職員・パート等)
- 初めて参加したので慣れないところもありましたが、予定通りに行動できたと思います。今後も定期的に訓練を実施して頂きたいと思います。(本部・技術系職員)
- 責任を果たすためには、まず自分の安全の確保が必要となります。いざというときのための、個人のヘルメットは必要ないのでしょうか。室内には1個のヘルメットも確保されていません。いわゆる災害用グッズも設置されていません。医薬品はありますが懐中電灯はどこにあるのかわかりません。これは課内の問題かもしれませんが、徹底されていないということかと思われるのです。地震はいつ起きるかわからないので、夜一人仕事をしている時に停電になっても懐中電灯の確保くらいはしたいと思います。職場で準備する最小限の備品一覧を教えてください。些細なことですが、第一歩と思います。(本部・事務職員)
- 突発な事態に備え、組織として個人としてどう対処すべきか経験すべき良い機会だったと思う。(本部・事務職員)
- 年度によって訓練役割が違い一貫性がないため、いざというときに責任が果たせないのではないかと。(本部・技術系職員)
- 避難場所の指示がなかった。身近の場所に避難する事が必要。実際の震災時に身近の消火は必要であるが、その他の消火は、無理と思う。(本部・技術系職員)
- 豊田講堂で行われていた、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの操作方法の説明や体験をしました。大変参考になりました。体験できる訓練を今後も行ってほしいです。(本部・事務職員)
- 本部要員の方々の業務内容について、具体的な事前説明会(事前に実際することがわかるように)が必要ではないか。口頭及びペーパーによる説明だけでは、皆がよく分からない様な気がしました。伝達訓練も今1つであった様な気がします。(本部・事務職員)
- スピーカの内容が聞き取れるようにしていただきたいと思いました。(理学部・理学研究科・契約職員・パート等)
- まったくアナウンスが聞こえなかったのも、事前に安否確認をするように求められていなければ、なにもせず過ぎていったと思われる。これだけ密閉性がよい建物(野依物質科学研究館)で、ドラフトなどが動いていると、聞こえないと思われる。緊急時は館内放送へも接続できるようにしないとダメでしょう。(理学部・理学研究科・助手)
- 安否確認などの連絡をファックスやメールでもらっているが、大地震の後は本当にこんな手段でよいのだろうか？(理学部・理学研究科・事務職員)
- 一部の関係者だけで訓練しているので、学生も含めて避難までやらないと大地震が起きたときに対応できない。(理学部・理学研究科・事務職員)
- 屋外の放送は室内にいとほとんど聞こえなかった。緊急時に屋外の放送が役に立つのは近くにいる人だけだと思った。屋外と同時に屋内の放送も行って欲しい。普段は余り防災意識は高くないので、この様な訓練は定期的に行って、問題点があればその都度改善していくことが必要だと思った。(理学部・理学研究科・大学院生)

- 屋外放送は、音量は十分だったと思うが、内容がよく分からなかった。もっとはっきりしゃべって欲しい。(理学部・理学研究科・大学院生)
- 訓練の内容が複雑すぎると感じました。防災マニュアルがメールで全教職員及び院生に配布されましたが、小さい字で数ページにわたっており、私の周りで一通り目を通したと思われるのは、上位下達で訓練に参加しなければならない事務系職員ぐらいではないでしょうか。また、訓練内容も事前に所属者の氏名一覧を作っておくとか、メールによる連絡とか電話による連絡とか、安否確認の集計表作成等で、実際の地震時の現場ではとても実施不可能と思われる。もっと単純で簡単な訓練(例えば、サイレン等を聞いたら、避難場所へ集まり、点呼する等)や具体的な訓練(例えば、家具の固定の仕方とか実験用薬品の保管の仕方を等)の方が、現実的ではないかと思います。(理学部・理学研究科・事務職員)
- 訓練は必要ですし、行うのは大変結構なのですが、その周知のための電子メールに重いファイルを添付するのは勘弁して下さい。大勢の人に回覧するメールにファイルを添付する事は、ネットワーク資源の浪費であると思います。web にでも置いて、その URL を知らせるようにはできないでしょうか？(理学部・理学研究科・大学院生)
- 訓練を行うたびに、地震が起こったら何をすべきかと確認させられます。このような訓練はとても重要だと思います。(理学部・理学研究科・契約職員・パート等)
- 建物の改善、耐震性の増強が望まれる。(理学部・理学研究科・助手)
- 研究室員の安否確認をしてメールまたは FAX で報告せよとの指示であったが、大地震では停電する可能性が高く、コンピュータや電話に頼った確認作業の訓練に意味があるとは思えない。本気で訓練をするのであれば、停電を前提とし、想定される事態への対応や学生の避難場所への誘導を実際に行なってみる必要があるだろう。地震の際には廊下が避難経路として使えない場合もあるので、部屋の外にベランダがある建物には避難はしごを設置することを提案したい。(理学部・理学研究科・助教授)
- 講義中であつたが、地震発生を知らせる放送が全く入らなかった。(理学部・理学研究科・助教授)
- 今回の訓練に関してではないが、僕のいる理学部棟 C、D 館では、一ヶ月に一度以上非常ベルが鳴る。しかし、様子を見ていても、火災や地震などの以上がない。非常ベルの検査のために鳴らしているのかも知れないが、こうも頻繁にベルが鳴っていたのでは、非常ベルの役目を果たさないように思う。実際、最近では非常ベルが鳴っても外に出て様子を見たりする人は少なく、ただ鳴り止むのを待っているだけでの人が大半である。非常ベルが鳴ると同時に、これはテストなのか、本当の火災なのかを知らせるようにはしてほしい。(理学部・理学研究科・大学院生)
- 昨年もアンケートに書いたのだけれども全く昨年の反省が反映されていない。とにかく訓練はやりっ放しではなく成果について十分検討してもらいたい。アンケートをとるだけではいけない。安否確認も必要だけれどもまず地震が起きたとき人間はどういう行動をとるか、安全なところへまず一人一人が避難することではないのか。アナウンスを聞いて行動できる状況とは限らない。自分自分がその時どういう行動をとるかは自分で決めなければならない。そういう各人の自覚につながるような実践的な訓練を切に望んでいる。できれば 1 年に 1 回とするのではなく数回の訓練が必要だ。それから、このアンケートはなぜ名前を入れないと進んでいかないのか意味がわからない。(理学部・理学研究科・事務職員)
- 事務室内では窓を開け、スピーカー音を聞き取る努力をしましたが、内容が聞き取れませんでした。講義中、実験中の場合はほとんど聞き取れないのではないのでしょうか。スピーカーは建物内に設置しないとは周知できないのではないかと思います。(理学部・理学研究科・事務職員)
- 実験室が奥にあるのでスピーカーからの放送が毎回聞こえません。(理学部・理学研究科・大学院生)

- 授業中(演習)だったので放送はかろうじて聞こえました(館内放送だったと思います)が、研究室(E464-571)では放送は聞こえなかったとのことでした。そこには館内放送のスピーカがないのでしょうか?阪神大震災を経験したものとしては、大震災の場合は理学部の古い建物は大きく倒壊すると予想されます。耐震構造の建築物にしない限り、根本的な解決にならないと考えます。(理学部・理学研究科・教授)
- 窓が閉まっている場合、放送がまったく室内で聞こえない。(理学部・理学研究科・COE 等非常勤研究員)
- 大学のような組織において、どのようにの対策を採るべきか、今一度、考え直した方が良いと思います。今年の安否確認の方法は、有効とは思えません。(理学部・理学研究科・教授)
- 地震に対してどのような備えを研究室、個人、個人の住まいでする必要があるかについてもっと啓蒙活動をすべきだった。起震車や人工呼吸の体験は良い企画だった。安否確認は研究室単位で個人の安否を把握しておけば良く、本部に伝達するのは負傷者の人数や建物の被害状況のみで良いと思う。(理学部・理学研究科・助教授)
- 地震発生後の屋外の放送は音量が小さすぎて、殆ど聞き取れませんでした。建物内のスピーカでも流したほうが良いと思いました。(理学部・理学研究科・助教授)
- 電話、メールに頼らない情報伝達的手段を全学的に確保してほしい。例えば、無線機等。(理学部・理学研究科・事務職員)
- 理学館には緊急時用の館内放送の設備があるはずですが、去年に続いて今年も放送されませんでした。今回のような訓練でさえ利用されないのでは、本当に地震が起こっても利用されないと思われ、何のために設置されているかが分かりません。来年こそ利用していただきたいです。安否確認ですが、個人に専用の用紙を配ってその場で回収する方式を取ったほうが、に混乱がないような気がします。(理学部・理学研究科・大学院生)
- 理学部 A 館には、館内放送がないので、廊下だけでもいいので館内放送をつけてもらいたい。これは、地震だけに限らず、火災や事故(7年前に事故有り)にもつかえるため。(理学部・理学研究科・助手)
- 理学部A棟2階にいましたが、防災無線は全く聞き取れませんでした。各建物の館内放送は利用できないのですか?(理学部・理学研究科・助教授)
- 理工系の実験室・棟においては、その責任者の防災に対する意識と実際の建物等に関する耐震性などの影響が大きいのではないかと思います。もちろん責任者でない人も防災の意識が必要で、基本的な震災に対する知識がなくてはならないので、そういった情報を定期的に教えてもらえると意識が変わるかも知れないと思った。スピーカの放送などは聞こえないと意味がないが、今年は山の上近くにいたためか聞こえず、前もって知らされていたと同様の方法である E メールで知ることとなった。しかし E メールは実際の震災では使えないのではないかと思います。(理学部・理学研究科・大学院生)

地震防災訓練 防災無線放送設備アンケート集計表

アンケート回答状況等

| 区分 | 全回答数 | 全延面積 | 回答延面積 | 回答率(延面積) |
|--------|------|----------|----------|----------|
| 平成16年度 | 303 | 409,990㎡ | 340,710㎡ | 83.1% |
| 平成17年度 | 671 | 412,471㎡ | 349,573㎡ | 84.8% |

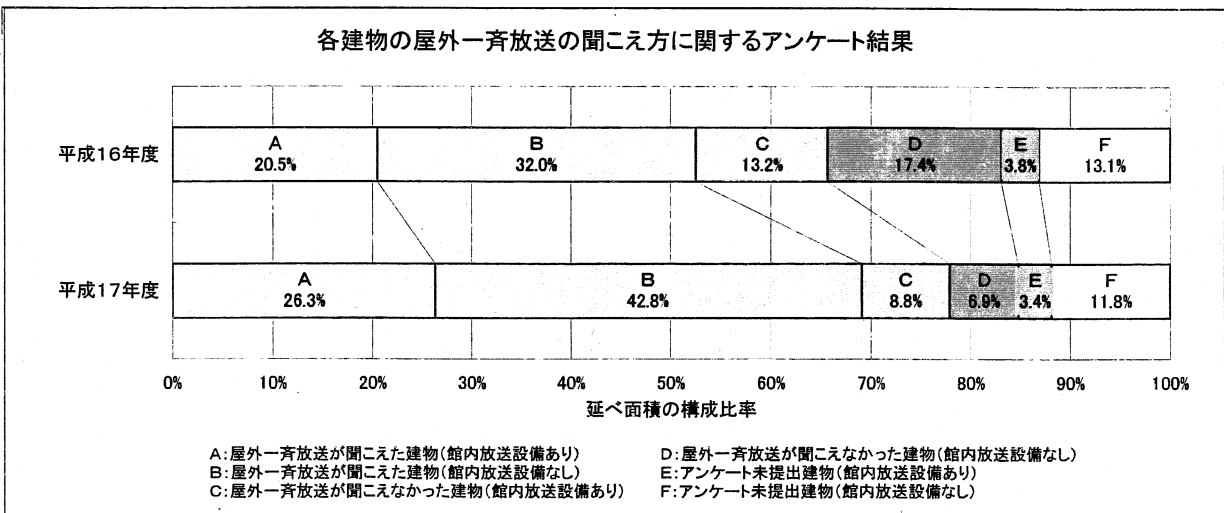
注1: 全回答のうち、同一建物かつ同一階の回答は1とした。また、屋外分は除外した。

注2: 建物数・延べ面積は施設実態調査による。

東山団地の各建物の屋外一斉放送の聞こえ方に関するアンケート結果

| 区分 | | A | B | C | D | E | F | 計 |
|--------|------|---------------|----------|------------------|----------|------------|----------|----------|
| | | 屋外一斉放送が聞こえた建物 | | 屋外一斉放送が聞こえなかった建物 | | アンケート未提出建物 | | |
| | | 館内放送設備あり | 館内放送設備なし | 館内放送設備あり | 館内放送設備なし | 館内放送設備あり | 館内放送設備なし | |
| 平成16年度 | 延べ面積 | 83,959㎡ | 131,250㎡ | 54,155㎡ | 71,346㎡ | 15,655㎡ | 53,625㎡ | 409,990㎡ |
| | 構成比率 | 20.5% | 32.0% | 13.2% | 17.4% | 3.8% | 13.1% | 100.0% |
| 平成17年度 | 延べ面積 | 108,332㎡ | 176,433㎡ | 36,275㎡ | 28,533㎡ | 14,170㎡ | 48,728㎡ | 412,471㎡ |
| | 構成比率 | 26.3% | 42.8% | 8.8% | 6.9% | 3.4% | 11.8% | 100.0% |

各建物の屋外一斉放送の聞こえ方に関するアンケート結果



防災無線屋外スピーカ 整備概要

平成15年度 9箇所(平成16年3月に設置)

平成16年度 13箇所(平成17年3月に4箇所増設)

平成17年度 東山団地の各建物の一斉放送の聞こえ方に関するアンケート結果

| | |
|--------------------|---|
| 屋外一斉放送（屋外スピーカー）の評価 | 1：内容が理解できた 2：音は聞こえたが、内容はわからなかった 3：全く聞こえなかった |
| 総合評価 | A：屋外一斉放送が聞こえた建物（館内放送設備あり） B：屋外一斉放送が聞こえた建物（館内放送設備なし） C：屋外一斉放送が聞こえなかった建物（館内放送設備あり） D：屋外一斉放送が聞こえなかった建物（館内放送設備なし） ※回答番号<3>が全評価の50%以上の建物を、〔屋外一斉放送が聞こえなかった建物〕と評価した。 |

| 棟名称 | 構造・規模 | 棟計 | 館内放送の有無 | B1F | 1F | 2F | 3F | 4F | 5F | 6F | 7F | 8F | 9F | 10F | 総合評価 |
|------------------|-------|--------|---------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|------|
| 文学部本館 | R4 | 6,088 | | | 1 | 1 | 3 | | | | | | | | B |
| 動物飼育・心理実験室 | R3 | 1,948 | | | | 2 | 2 | | | | | | | | B |
| 法経本館・共用館 | R4-1 | 15,016 | 有 | | 3 | 3 | 2 | 2 | | | | | | | C |
| 法学部校舎 | S2 | 194 | | | | 2 | | | | | | | | | B |
| 教育学部本館 | R3 | 4,004 | | | 2 | 2 | 3 | | | | | | | | B |
| 国際言語文化校舎 | R4 | 2,598 | | | 2 | 2 | 1 | | | | | | | | B |
| 理学部A館 | R4 | 8,629 | | | 3 | 2 | 2 | 2 | | | | | | | B |
| 理学部B・C・D館 | R5 | 10,398 | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | | | | | | B |
| アイソトープ総合センター | R5 | 2,682 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | | B |
| 宇宙線望遠鏡室 | R2 | 644 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 地球水循環研究センター本館 | R5 | 3,504 | | | | 2 | 2 | 2 | 3 | | | | | | B |
| 研究・実験室 | R2 | 563 | | | 1 | 2 | | | | | | | | | B |
| 高温エネルギー原子核室 | R2 | 467 | | | | 2 | | | | | | | | | B |
| 工学部3号館 | R4-1 | 13,104 | | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | | | | | | | B |
| 工学部2号館 | R3-1 | 10,932 | | | 2 | 2 | 2 | | | | | | | | B |
| 実験実習工場 | R2 | 1,192 | | | 2 | 1 | | | | | | | | | B |
| 機械学科実験棟 | R2 | 1,653 | | | 1 | | | | | | | | | | B |
| 工学部7号館B棟 | R4 | 4,800 | | | 2 | | 2 | 1 | | | | | | | B |
| 工学部7号館A棟 | R2 | 1,410 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 工学部4・5号館 | R6 | 18,438 | | | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | | | | | B |
| 建築材料実験棟 | R3 | 1,913 | | | 3 | | | | | | | | | | B |
| 原子核第1特別実験棟 | R1 | 1,567 | | | 2 | | | | | | | | | | D |
| 工学部6号館 | R3-1 | 3,983 | | 2 | 1 | | 2 | | | | | | | | B |
| 工学部8号館 | R6 | 4,896 | | | 1 | 1 | 1 | 2 | | | | | | | B |
| 工学部9号館 | R6 | 4,611 | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | | | | | B |
| 化学科校舎 | R5 | 1,786 | | | | | 3 | | 2 | | | | | | D |
| 農学部西研究棟 | R6 | 6,519 | 有 | | 1 | | 2 | 3 | | 3 | | | | | C |
| 農学部東研究棟 | R6-1 | 8,255 | 有 | | | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | | | | | A |
| 農学部管理棟 | R2 | 1,626 | 有 | | 2 | | | | | | | | | | A |
| 農学部講義棟 | R3 | 1,315 | 有 | | 2 | 2 | | | | | | | | | A |
| ファイトロン | R2 | 294 | | | | 2 | | | | | | | | | B |
| 農学部5号館 | R5 | 5,967 | 有 | | 1 | | | | | | | | | | A |
| 総合校舎本館 | R4 | 20,058 | 有 | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | A |
| 総合校舎講義棟 | R3 | 1,676 | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | B |
| 体育館 | S2 | 2,546 | | | 1 | | | | | | | | | | B |
| 北部厚生会館 | R2 | 1,985 | | | 2 | 2 | | | | | | | | | B |
| 学生会館 | R2 | 1,737 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 古川記念館 | R3 | 4,074 | | | 3 | 3 | 3 | | | | | | | | D |
| 本部2号館 | R3-1 | 2,500 | | 1 | 2 | 2 | 2 | | | | | | | | B |
| 車庫 | R1 | 358 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 職員クラブ | R2-1 | 1,125 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 体育合宿所 | R2 | 378 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 保健管理センター | R3 | 811 | | | 2 | 2 | 2 | | | | | | | | B |
| 本部3号館 | R3 | 1,260 | | | | 2 | 1 | | | | | | | | B |
| 環境医学研究所本館 | R4 | 2,659 | | | 2 | 2 | 2 | 2 | | | | | | | B |
| S P F 動物飼育室 | R2 | 420 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 環境医学研究所南館 | R2 | 406 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 研究棟 | S1 | 99 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 総合保健科学センター | R3-1 | 1,021 | | | 2 | 3 | | | | | | | | | D |
| 共同教育研究施設1号館 | R4 | 4,769 | | | | 1 | | 1 | | | | | | | B |
| 共同教育研究施設2号館 | R8 | 6,185 | | | 3 | | 3 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | | | B |
| 燃料保管施設 | R1 | 264 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 附属学校1号館 | R4 | 2,857 | 有 | | | 3 | | 2 | | | | | | | C |
| 附属学校2号館 | R3 | 1,911 | 有 | | | 2 | 2 | | | | | | | | A |
| 附属学校格技場 | S2 | 536 | 有 | | 3 | | | | | | | | | | C |
| 情報連携基盤センター | R5-1 | 4,231 | | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | | | | | | B |
| 図書館 | R5-1 | 15,577 | 有 | | | 2 | 3 | | 2 | | | | | | A |
| レジデンス管理棟 | R2 | 392 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 天然放射能測定室 | R2 | 229 | | | 2 | 3 | | | | | | | | | D |
| 高効率エネルギー変換研究センター | R2 | 600 | | | 2 | 3 | | | | | | | | | D |
| 南部厚生会館 | R2 | 864 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 地球水循環研究センター分館 | R1 | 400 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 本部1号館 | R5 | 2,058 | | | | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | | | B |
| 附属学校体育館・校舎 | R2 | 1,723 | 有 | | 1 | 1 | | | | | | | | | A |
| 屋内運動場 | R2 | 2,116 | | | | 3 | | | | | | | | | D |
| 理学部G館 | R5 | 2,863 | | | | 2 | | | | | | | | | B |
| 先端技術共同研究センター | R2 | 2,034 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 環境医学研究所北館 | R3 | 1,389 | | | 2 | 3 | | | | | | | | | D |
| 広報プラザ | R2 | 394 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 本部4号館 | S2 | 315 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 法学部校舎 | S2 | 492 | 有 | | 1 | 1 | | | | | | | | | A |
| 国際開発校舎 | R8-1 | 6,150 | 有 | | 2 | | 2 | 2 | | | 2 | | | | A |
| 情報科学校舎 | R8 | 8,674 | | | | | 3 | 2 | | | | 1 | | | B |
| V・B・L棟 | R4 | 2,039 | | | | | | 2 | | | | | | | B |
| インキュベーション施設 | R2 | 1,011 | | | 3 | 3 | | | | | | | | | D |
| 研究実験棟1 | R10-1 | 16,157 | 有 | | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 3 | 1 | 3 | 1 | A |
| 生物機能開発利用研究センター | R5 | 2,676 | | | | | 1 | | | | | | | | B |
| 理学部校舎 | R5 | 4,230 | 有 | | 3 | 2 | | | 3 | | | | | | C |
| 総合研究実験棟 | R6-1 | 3,309 | | | | 2 | 2 | 2 | 1 | | | | | | B |
| 高等総合研究館 | R6-1 | 6,913 | | | 2 | 3 | | | | | | | | | D |
| I B 電子情報館 | S10-1 | 21,970 | 有 | | 3 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | | | A |
| 野依記念物質科学研究館 | R7-1 | 7,117 | 有 | | 3 | 3 | 2 | | | 3 | 3 | | | | C |
| 理学館 | R7-1 | 7,131 | 有 | 3 | | 2 | 1 | 1 | | 2 | | | | | A |
| 環境総合館 | R7-1 | 5,955 | | | | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | | | | B |
| 留学生センター | R4 | 2,098 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 文系総合館 | R7 | 7,835 | | | | | | | | | 1 | 1 | | | B |

平成16年度 東山団地の各建物の一斉放送の聞こえ方に関するアンケート結果

| | |
|--------------------|--|
| 屋外一斉放送（屋外スピーカー）の評価 | 1：内容が理解できた 2：音は聞こえたが、内容はわからなかった 3：全く聞こえなかった |
| 総合評価 | A：屋外一斉放送が聞こえた建物（館内放送設備あり） B：屋外一斉放送が聞こえた建物（館内放送設備なし） C：屋外一斉放送が聞こえなかった建物（館内放送設備あり） D：屋外一斉放送が聞こえなかった建物（館内放送設備なし） ※回答番号<3>が全回答数の50%以上の建物を、「屋外一斉放送が聞こえなかった建物」と評価した。 |

| 棟名称 | 構造・規模 | 延べ面積 | 館内放送の有無 | B1F | 1F | 2F | 3F | 4F | 5F | 6F | 7F | 8F | 9F | 10F | 総合評価 |
|------------------|-------|--------|---------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|------|
| 文学部本館 | R4 | 6,088 | | | 2 | 2 | 3 | 3 | | | | | | | D |
| 動物飼育・心理実験室 | R3 | 1,823 | | | 3 | 3 | 2 | | | | | | | | D |
| 法経本館・共用館 | R4 | 14,972 | 有 | | 3 | 3 | 3 | | | | | | | | C |
| 教育学部本館 | R3 | 4,004 | | | 3 | 3 | 3 | | | | | | | | D |
| 国際言語文化校舎 | R4 | 2,598 | | | 1 | 2 | | | | | | | | | B |
| 理学部A館 | R4 | 8,629 | | | 2 | 2 | 2 | 1 | | | | | | | B |
| 理学部B・C・D館 | R5 | 10,398 | | | 3 | 2 | 2 | | | | | | | | B |
| 理学部E館 | R5-1 | 11,644 | | | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | | | | | | D |
| アイソトープ総合センター | R1 | 2,682 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | | | | | | D |
| 宇宙線望遠鏡室 | R2 | 644 | | | 2 | 2 | | | | | | | | | B |
| 地球水循環研究センター本館 | R5 | 3,504 | | | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | | | | | | B |
| 研究・実験室 | R2 | 563 | | | | 2 | | | | | | | | | B |
| 工学部3号館 | R4 | 13,104 | | | 1 | 2 | | | | | | | | | B |
| 工学部2号館 | R3 | 10,932 | | | | | | 2 | 3 | | | | | | D |
| 実験実習工場 | R1 | 1,192 | | | 3 | 2 | | | | | | | | | D |
| 機械学科実験棟 | R2 | 1,653 | | | 2 | 2 | | | | | | | | | B |
| 工学部7号館B棟 | R2 | 4,800 | | | 1 | | 3 | 2 | | | | | | | B |
| 工学部4・5号館 | R4 | 18,438 | | | 3 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | B |
| 原子核第1特別実験棟 | R1 | 1,567 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 工学部6号館 | R3-1 | 3,983 | | 1 | 2 | 1 | 2 | | | | | | | | B |
| 工学部9号館 | R3 | 4,611 | | | 2 | 2 | 3 | 3 | | | | | | | D |
| 農学部東研究棟 | R6 | 8,255 | 有 | | | | 3 | 3 | | | 3 | | | | C |
| 農学部西研究棟 | R3 | 1,315 | 有 | | 3 | | | | | | | | | | C |
| 実験講堂 | B1 | 132 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 農学部5号館 | R5 | 5,967 | 有 | | | | 2 | 2 | 3 | | | | | | A |
| 総合校舎本館 | R4 | 20,058 | 有 | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | A |
| 総合校舎講義棟 | R3 | 1,676 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 北部厚生会館 | R2 | 1,985 | | | 3 | 2 | | | | | | | | | D |
| 南部食堂 | R1 | 1,454 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 第1理科系食堂 | S1 | 273 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 年代測定総合研究センター | R3 | 3,987 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 事務局庁舎2号館 | R3-1 | 2,500 | | 1 | 3 | 3 | 2 | | | | | | | | D |
| 第2理科系食堂 | R2 | 662 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 保健管理センター | R2 | 811 | | | | | 1 | | | | | | | | B |
| 体育更衣室 | B1 | 117 | | | 1 | | | | | | | | | | B |
| 事務局庁舎3号館 | R3 | 1,260 | | | | 2 | 1 | | | | | | | | B |
| 環境医学研究所本館 | R4 | 2,659 | | | 3 | 2 | 3 | 2 | | | | | | | D |
| S P F動物飼育室 | R2 | 420 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 環境医学研究所南館 | R2 | 406 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 総合媒体科学センター | R3-1 | 1,021 | | | 2 | 3 | | | | | | | | | D |
| 共同教育研究施設1号館 | R4 | 4,769 | | | 2 | 2 | 1 | 1 | | | | | | | B |
| 共同教育研究施設第2実験棟 | R2 | 1,217 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 共同教育研究施設2号館 | R6 | 6,185 | | | | | | 1 | | | 2 | | | | B |
| 燃料保管施設 | R1 | 264 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 附属学校1号館 | R4 | 2,857 | 有 | | 3 | | | | | | | | | | C |
| 附属学校2号館 | R3 | 1,911 | 有 | | 3 | | | | | | | | | | C |
| 附属学校中央棟 | R2 | 732 | 有 | | 3 | | | | | | | | | | C |
| 附属学校体育館 | R1 | 1,057 | 有 | | 3 | | | | | | | | | | C |
| 附属学校格技場 | S2 | 536 | 有 | | 3 | | | | | | | | | | C |
| 情報連携基盤センター | R5-1 | 4,231 | | | 3 | 1 | 2 | 2 | 2 | | | | | | B |
| 図書館 | R5-1 | 15,577 | 有 | | | 3 | 2 | 2 | 2 | | | | | | A |
| 高効率エネルギー変換研究センター | R2 | 600 | | | | 3 | | | | | | | | | D |
| 南部厚生会館 | R2 | 864 | | | 3 | 3 | | | | | | | | | D |
| 地球水循環研究センター分館 | R1 | 400 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 事務局庁舎1号館 | R5 | 2,058 | | | | 2 | 2 | | 1 | | | | | | B |
| 附属学校体育館・校舎 | R2 | 1,723 | 有 | | 3 | | | | | | | | | | C |
| 屋内運動場 | R1 | 2,033 | | | 1 | | | | | | | | | | B |
| 理学部G館 | R5 | 2,863 | | | | 2 | 3 | | 2 | | | | | | B |
| 先端技術共同研究センター | R2 | 2,034 | | | 3 | 3 | | | | | | | | | D |
| 環境医学研究所北館 | R3 | 1,389 | | | 3 | 2 | | | | | | | | | D |
| グリーンサロン東山 | R2 | 1,027 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 国際開発校舎 | R8-1 | 6,150 | 有 | | 3 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | | | C |
| 情報科学校舎 | R8 | 8,674 | | | | | | | 1 | 2 | | 2 | | | B |
| V・B・L棟 | R4 | 2,039 | | | | | | 2 | | | | | | | B |
| インキュベーション施設 | R2 | 1,011 | | | 3 | 3 | | | | | | | | | D |
| 航空・機械実験棟 | R3 | 3,643 | | | | 1 | | | | | | | | | B |
| 研究実験棟1 | R10-1 | 16,157 | 有 | | | | 3 | 2 | 2 | | | | | 2 | A |
| 生物機能開発利用研究センター | R5 | 2,274 | | | | | | 2 | | | | | | | B |
| 理学部校舎 | R5 | 4,230 | 有 | | | 3 | 3 | 2 | 2 | | | | | | A |
| 総合研究棟（高等） | R6-1 | 6,913 | | | 2 | | | | | | | | | | B |
| 総合研究棟（工系） | S10-1 | 21,970 | 有 | | 3 | 1 | 2 | 3 | 2 | 2 | 3 | 2 | 3 | 2 | A |
| 総合研究実験棟（野依センター） | R7-1 | 7,000 | 有 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | | | | | | C |
| 総合研究棟（理系） | R7-1 | 7,006 | 有 | | 3 | 2 | | | | | | | | | C |
| 総合研究棟（環境系） | R7-1 | 5,955 | | | 3 | 2 | 2 | 3 | 2 | 1 | 2 | | | | B |
| 総合情報教育棟 | R3 | 641 | 有 | | 3 | | | | | | | | | | C |
| 留学生センター | R4 | 2,098 | | | 3 | | | | | | | | | | D |
| 総合研究棟（文系） | R7 | 7,835 | | | 3 | | | 3 | | | | | | | D |

平成17年度名古屋大学部局独自の防災訓練結果報告

| 部局等 | 実施(予定)日時 | 訓練場所 | 参加人員 | | 訓練概要 | | |
|-------------------|----------------------------|--------------------------------------|------|-------|------|-------|--|
| | | | 職員 | 学生その他 | | | |
| 教養教育院 | 平成17年10月12日(水) 10:30~12:00 | 全学教育棟本館 (情報文化学部棟) | 25 | 278 | 0 | 303 | 全学教育科目の授業を行う本館1・2階の講義室等を対象として、第3グリーンベルトを避 難先に想定して避難訓練を実施した。 |
| 情報文化学部・大学院情報科学研究科 | 平成17年10月12日(水) 10:30~14:30 | 附属図書館 | 36 | 12 | 0 | 48 | 引き続き豊田講堂の防災教育・研修に参加した。 館内放送により図書館利用者へ避難(訓練)案内を実施した。午後は4階の救助袋による 降下避難訓練を実施した。 |
| 文学部・大学院文学研究科 | | | | | | | |
| 教育学部・大学院教育発達科学研究科 | 平成17年10月12日以外の日に実施予定 | | | | | | |
| 教育学部附属学校 | 平成17年9月1日(木) 13:15~13:40 | 教育学部附属学校校内 | 37 | 579 | 15 | 631 | 震度6弱の地震発生との想定で避難訓練・安否確認を実施した |
| 法学部・大学院法学研究科 | 平成17年10月12日(水) 13:20~16:25 | 経済学部カナルホール | 12 | 0 | 0 | 12 | 火災・自然災害に関するビデオ上映を実施した。(法学部・経済学部と合同) |
| 経済学部・大学院経済学研究科 | | | 10 | 2 | 0 | 12 | |
| 理学部・大学院理学研究科 | | | | | | 0 | |
| アイソトープ総合センター | 平成18年3月3日(金) 実施予定 | | | | | | 消防署と総合合同訓練を実施する。 |
| 医学部・大学院医学系研究科 | 平成17年10月14日(金) 15:00~16:00 | 医学部附属病院 | 100 | 0 | 0 | 100 | 橋樑9階看護語話から出火したとの想定で、通報・初期消火・患者の避難誘導等の訓練を 実施した。 |
| "(大幸地区) | 平成17年10月12日(水) 10:00~12:00 | 別館理学療法専攻 | 57 | 97 | 0 | 154 | 地震発生による火災発生を想定し、消防署への通報訓練・安否確認・非常用放送設備によ る放送及び避難訓練・救助袋による避難訓練を実施した。 |
| 工学部・大学院工学研究科 | 平成17年10月12日(水) 10:35~12:30 | 工学部1・3号館 | 41 | 120 | 0 | 161 | 1号館一伝達訓練・屋内消火放水訓練を実施した。 3号館一伝達訓練・避難訓練及び消火器取扱訓練を実施した。 |
| 農学部・大学院生命農学研究科 | 平成17年10月12日(水) 10:40~12:00 | 生命農学研究科 | 224 | 681 | 7 | 912 | 震度6弱の地震発生との想定で情報伝達・安否確認・避難訓練を実施した。また、地震に 伴い、火災が発生したことを想定して、非常通報・防災隊対応体制訓練及び屋内消火放水 訓練・消火器取扱訓練を実施した。 |
| 大学院国際開発研究科 | 平成17年10月12日(水) 13:00~14:00 | 国際開発研究科棟内 | 11 | 15 | | 26 | 建物内で地震・火災に遭遇した場合に、どのように避難する方法があるかを、見学及び体 験した。 |
| 大学院国際言語文化研究科 | 平成17年10月12日(水) 10:30~12:00 | 第3グリーンベルト | 27 | 96 | 0 | 123 | 教養教育院・情報文化学部と合同で避難訓練を実施した。引き続き豊田講堂の防災教育・ 研修に参加した。 |
| 大学院環境学研究科 | | | | | | | |
| 環境医学研究所 | 平成17年10月12日(水) 10:40~12:00 | 環境医学研究所全域 | 48 | 41 | 1 | 90 | 環境医学研究所地震防災マニュアルに基づき行動し、本館前道路へ避難した。安否確認 後、豊田講堂の防災教育・研修、応急手当の体験のいずれかへ参加した。 |
| 太陽地球環境研究所 | 平成17年10月12日(水) 13:30~14:30 | 太陽地球環境研究所玄 関付近 | 20 | 17 | 0 | 37 | 初期消火訓練・消火器取扱訓練を実施した。 |
| エコトピア科学研究所 | 平成17年10月12日(水) 13:30~14:00 | 共同教育研究施設地 区一総合研究実験棟前 VBL-VBL棟前 | 41 | 79 | 2 | 122 | 避難訓練・安否確認を実施した。 |
| 情報メディア教育センター | | 工学部7号館B棟前 | 2 | 3 | 0 | 5 | |
| 先端技術共同研究センター | | 先端技術共同研究セン ター前 | 4 | 1 | 0 | 5 | |
| 情報連携基盤センター | | | 9 | 7 | 1 | 17 | |
| 総合保健体育科学センター | | | | | | | |
| 合計 | | | 704 | 2,028 | 26 | 2,758 | |

平成17年度 「名古屋大学地震防災訓練」(本部) 説明会

日 時 平成17年9月26日(月) 13時30分から

場 所 本部1号館 第1会議室

(配布資料)

- 資料1 平成17年度 名古屋大学地震防災訓練実施計画
- 資料2 平成17年度 名古屋大学地震防災訓練行動マニュアル
- 資料3 名古屋大学地震防災訓練全体の流れ
- 資料4 名古屋大学地震防災訓練「災害対策統括本部」行動マニュアル
- 資料5 (部局)災害対策本部設置等報告・安否確認者数報告・被害状況報告(地震防災情報連絡等FAX返信用)
- 資料6 訓練情報伝達文(要員招集用、部局連絡用、情報伝達テスト用)
- 資料7 本部所掌施設連絡確認票
- 資料8 防災無線に関するアンケート

(参考資料)

- 参考1 地震発生時及び防災訓練時の一斉放送の内容表
- 参考2 <参考例>課職員の安否確認表
- 参考3 名古屋大学災害対策統括本部防災隊要項
- 参考4 名古屋大学防災無線設備(屋内・屋外)取扱者一覧表

担当：施設管理部 施設整備課
環境管理室
内線(2093)(4997)(2096)

平成17年度 名古屋大学地震防災訓練実施計画

1. 目的

東海地域に大規模地震が時間内に発生したことを想定して、情報伝達・安否確認・避難訓練を実施し職員及び学生等の防災意識の高揚を図ることを目的とする。

2. 訓練の日時

平成17年10月12日(水) 午前10時40分～12時00分 (第2限目)

3. 訓練想定

「勤務(講義)時間中に、震度6弱の地震が発生。」の情報を受け、情報伝達・安否確認・避難訓練(特定部局)等を実施する。

4. 訓練対象範囲

東山地区、鶴舞地区、大幸地区、東郷地区、豊川地区、留学生会館(陶生)、国際唶鳴館(山手)

5. 当日の訓練計画

| 事 項 | 部 局 災 害 対 策 本 部 |
|--|--|
| 震度6弱の地震発生連絡 情報伝達訓練(詳細別紙) (施設整備課長→総長) (施設企画課→各部局) | 部局長が 災害対策統括本部 から受信 |
| 部局災害対策本部及び部 局防災隊設置指示 (部局連絡担当→部局内) | 部局長から部局防災隊招集指示 部局防災隊招集 要員集合・「部局災害対策本部及び部局防災隊設置」 |
| 部局災害対策本部及び部 局防災隊設置完了報告 (各部局→災害対策本部) 担当: 総務広報課 | ・部局災害対策本部及び部局防災隊設置報告(集合人数報告) (部局災害対策本部長→災害対策統括本部 広報・情報連絡担当) (1)【電話7499】又は【FAX 2134】による報告 (2)【防災無線】による報告(詳細別紙) |
| 安否確認・被害状況の報告 (各部局→災害対策本部) 担当: 教職員—総務広報課 学 生—学務部 外国人研究者・留学生 —研究協力・国際部 | 部局内情報伝達 指 揮 ①部局防災隊連絡通報班→実験指導教員等 避難誘導 ・部局内居住者の安否確認及び被害状況の報告 (部局災害対策本部長→災害対策統括本部 広報・情報連絡担当) (1)【電話7499】又は【FAX 2134】による報告 (2)【防災無線】による報告(詳細別紙) ②講義・実験指導教員等→学生等在居者 |
| 訓練終了 | ※ 人的・物的被害なしで想定 |
| 防災教育・研修(講演会) | 対象者: 東山地区各部局避難対象者 |
| 訓練終了 | 防災教育・研修場所: 豊田講堂 (講演者: 災害対策室長) |

本 部: 起震車による模擬体験:
 (訓練場所: 豊田講堂西側道路前、IB電子情報館東側ピロティ、情報文化学部・教養教育棟東側一文学部車庫前)
 (※ 雨天の場合: 起震車による模擬体験はIB電子情報館東側ピロティとする。)

消火器取扱訓練(訓練場所: 豊田講堂西側道路前)
 (※ 雨天の場合: 消火器取扱訓練は中止する。)

応急手当の体験: 救急救命ブース設置(設置場所: 豊田講堂南側ロビー)
 (訓練内容は、別紙のとおり)

訓練終了

部 局: 各部局の訓練計画による

訓練終了

平成17年度 名古屋大学地震防災訓練行動マニュアル

| 所要時間 | 事 項 | 災 害 対 策 統 括 本 部 | 部 局 災 害 対 策 本 部 | 学 生 ・ 教 職 員 等 在 学 者 |
|-------------------|---|---|--|--|
| 10月12日 10:40 | 震度6弱の地震発生を確認 | ・「午前10時37分に大地震が発生」 | | |
| タイムスケジュール (目安) | | | | |
| 10:40 | 「災害対策統括本部」設置指示 | 総長から「災害対策統括本部設置」の指示 | | |
| 10:40 | | 要員招集指示 | | |
| 10:40 | 要員招集、及び震度6弱の地震発生連絡 | 「統括本部施設管理部防災隊」から本部内へ 【電子メール送信・FAX送信】 ・これは、訓練です。これは、訓練です。 ・ただいまの地震により名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。 ・直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部第2会議室、応援要員は、第1会議室に集合してください。 ・なお、本部要員・応援要員以外は、各部毎に集合し、業務の支障のない限り豊田講堂で防災教育・研修に参加してください。 ・総務広報部・学務部の避難誘導担当者は、豊田講堂へ参加者を誘導してください。 | | |
| 10:41 | | 統括本部要員等集合 | | |
| 10:41 | 「災害対策統括本部」設置 | 「災害対策統括本部」設置 | | |
| 10:42 | 震度6弱の地震発生連絡及び各部局における部局災害対策本部及び部局防災隊設置命令 | 【防災無線による一斉放送】 【メール送信・FAX送信】 ・これは、訓練です。これは、訓練です。 ・こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。 ・ただいまの地震により名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。 ・各部局は、「部局災害対策本部」及び「部局防災隊」を設置し、「地震防災ガイド」及び「マニュアル」に従って行動してください。 | | |
| 10:46 | 部局災害対策本部及び部局防災隊設置指示 | | 部局長から「部局災害対策本部」及び「部局防災隊」設置指示 | |
| 10:47 | 部局災害対策本部及び部局防災隊要員招集連絡 | | 「部局防災隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から部局内へ ・これは、訓練です。これは、訓練です。 ・こちらは、〇〇研究科災害対策本部です。 ・ただいまの地震により、名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。 ・直ちに「部局災害対策本部」要員及び「防災隊」要員は、〇号館〇〇室に集合してください。 ・以後は、〇〇研究科地震防災対策マニュアル及び防災隊の指示に従って行動してください。 | |
| 10:47 | 「部局内情報伝達」開始 | | 「部局防災隊指揮・連絡通報・避難誘導班」から部局内全域へ ・これは、訓練です。これは、訓練です。 ・こちらは〇〇研究科防災隊指揮班です。 ・ただいまの地震により、名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。 ・研究等業務を一時中断のうえ学生等在居者を名簿等にて確認し、学生等の在居者に対し当該部屋に係る二次災害防止措置（装置等の緊急停止、電気の遮断、ガス・水道の元栓閉鎖等）及び避難・帰宅時における対応を（部局マニュアル）にて実施してください。 | 「授業・研究等指導教員等」から「在居者」へ 「説明事項」は部局マニュアルで対応する。 又は 「宿舎管理責任者」から「在居者」へ 「説明事項」は部局マニュアルで対応する。 |
| 10:53 | 部局災害対策本部及び部局防災隊要員集合 | | 部局災害対策本部及び部局防災隊要員集合 | |
| 10:54 | 部局災害対策本部及び部局防災隊設置 | | 部局災害対策本部及び部局防災隊設置 | |
| 10:55 | 「部局災害対策本部」「部局防災隊」報告 | 部局からの「部局災害対策本部及び部局防災隊設置完了」報告を受信（電話又はFAX）及び（防災無線） | 「部局災害対策本部長及び部局防災隊長」から「災害対策統括本部」へ部局災害対策本部及び部局防災隊設置報告（集合した災害対策要員人数を報告） 【電話 7499】又は 【FAX - 2134】による報告 【防災無線設備（屋内）】による報告 【アマチュア無線】による報告 | |

| 所要時間 | 事項 | 災害対策統括本部 | 部局災害対策本部 | 学生・教職員等在学者 |
|-------|--------------------------|---|---|--|
| 11:00 | 「部局内居住者の安否確認及び被害状況の報告」開始 | | | |
| 11:37 | 安否確認報告 | 部局からの「安否確認」報告を受信 (電話又はFAX) | 「部局防災隊指揮班」から「部局災害対策本部長」へ 部局内安否確認状況を報告 「部局災害対策本部長」から「災害対策統括本部」へ部局 内安否確認状況を報告 【電話 7499】又は 【FAX 2134】による報告 【アマチュア無線】による報告 | |
| 11:45 | 被害状況報告 | 部局からの「被害状況」報告を受信 (電話又はFAX) 又は (防災無線) | 「部局防災隊指揮班」から「部局災害対策本部長」へ部局 内被害状況を報告 「部局災害対策本部長」から「災害対策統括本部」へ部局 内被害状況を報告 【電話 7499】又は 【FAX 2134】による報告 【防災無線設備(屋外)】による報告 【アマチュア無線】による報告 | |
| 12:00 | 訓練終了 | (アマチュア無線クラブからの報告) ・「訓練交信を滞りなく終了したので報告します。」 「全学防災訓練終了」の放送 ・「ただいまをもちまして本日の全学防災訓練を終了いた します。ひきつづき多くの部局で、部局防災訓練を行 いますので参加してください。」 | | |
| 11:20 | 防災教育・研修 (講演会) | 研修場所：豊田講堂 (講演者：災害対策室長) | | 教養教育院の学生は、11:05分までに 第3グリーンベルトに集合してから豊 田講堂へ移動し受講する。 |
| 12:00 | 訓練終了 | 各部局の避難・帰宅対象者は、避難・帰宅場所を豊田講堂とし、防災教育・研修(講演)を受講する。 | | |

本部：起震車による模擬体験 (訓練場所：豊田講堂西側道路前、IB電子情報館東側ピロティ、情報文化学部・教養教育棟東側一文学部車庫前)
(※雨天の場合、起震車による模擬体験はIB電子情報館東側ピロティとする。)

消火器取扱訓練 (訓練場所：豊田講堂西側道路前) (※雨天の場合、消火器取扱訓練は中止する。)

応急手当の体験：救急救命ブース設置 (設置場所：豊田講堂南側ロビー) (内容は、別紙のとおり)

訓練終了

部局：各部局の訓練計画による
訓練終了

*注 災害対策統括本部電話番号
 東山キャンパス内部局・・・・・・・・・7499
 鶴舞キャンパス・・・・・・・・・85-7499
 大幸キャンパス・・・・・・・・・85-7499
 豊川キャンパス・・・・・・・・・052-789-2093

10月12日地震防災訓練

千種消防署共催

(本部等位置図：別図のとおり)

○起震車による模擬体験（豊田講堂西側道路前）

| 実施時間 | 実施回数 | 参加者 | 訓練内容 |
|-------------|------|---------------------------|--|
| 11:00～11:30 | 第1回 | 職員及び学生 (豊田講堂前 避難者等) | 1回の所要時間は、約1分間で20秒毎に震度5強・6弱・6強を体験する。 1回の乗車定員は4名。 30分間で約100名が体験可能。 但し、30分運転すると30分休止しなければならない。 |

○起震車による模擬体験（IB電子情報館東側ピロティ）

| | | | |
|-------------|-----|-----------------|----|
| 13:30～14:00 | 第2回 | 職員及び学生 (希望者) | 同上 |
|-------------|-----|-----------------|----|

○起震車による模擬体験（情報文化学部・教養教育棟東側—文学部車庫前）

| | | | |
|-------------|-----|-----------------|----|
| 14:30～15:00 | 第3回 | 職員及び学生 (希望者) | 同上 |
|-------------|-----|-----------------|----|

千種消防署員3名対応

○消火器取扱訓練（豊田講堂西側道路前）

| 実施時間 | 参加者 | 訓練内容 |
|-------------|-------------|--|
| 14:30～15:00 | 職員及び学生（希望者） | 水消火器(15本)を使用する。1本で2～3名体験できるので30名～45名が体験可能。 |

千種消防署員1名対応

○応急手当の体験（救急救命ブース設置場所：豊田講堂南側ロビー）

| 実施時間 | 参加者 | 訓練内容 |
|-------------|-----------------------|---|
| 11:00～12:00 | 職員及び学生 (豊田講堂前避難者等) | 救急救命ブースに人形を二体置いて、人工呼吸・心臓マッサージ及びAED（自動体外式除細動器）・三角布を用いて応急手当を体験する。 |
| 13:30～14:30 | 職員及び学生（希望者） | 同上 |

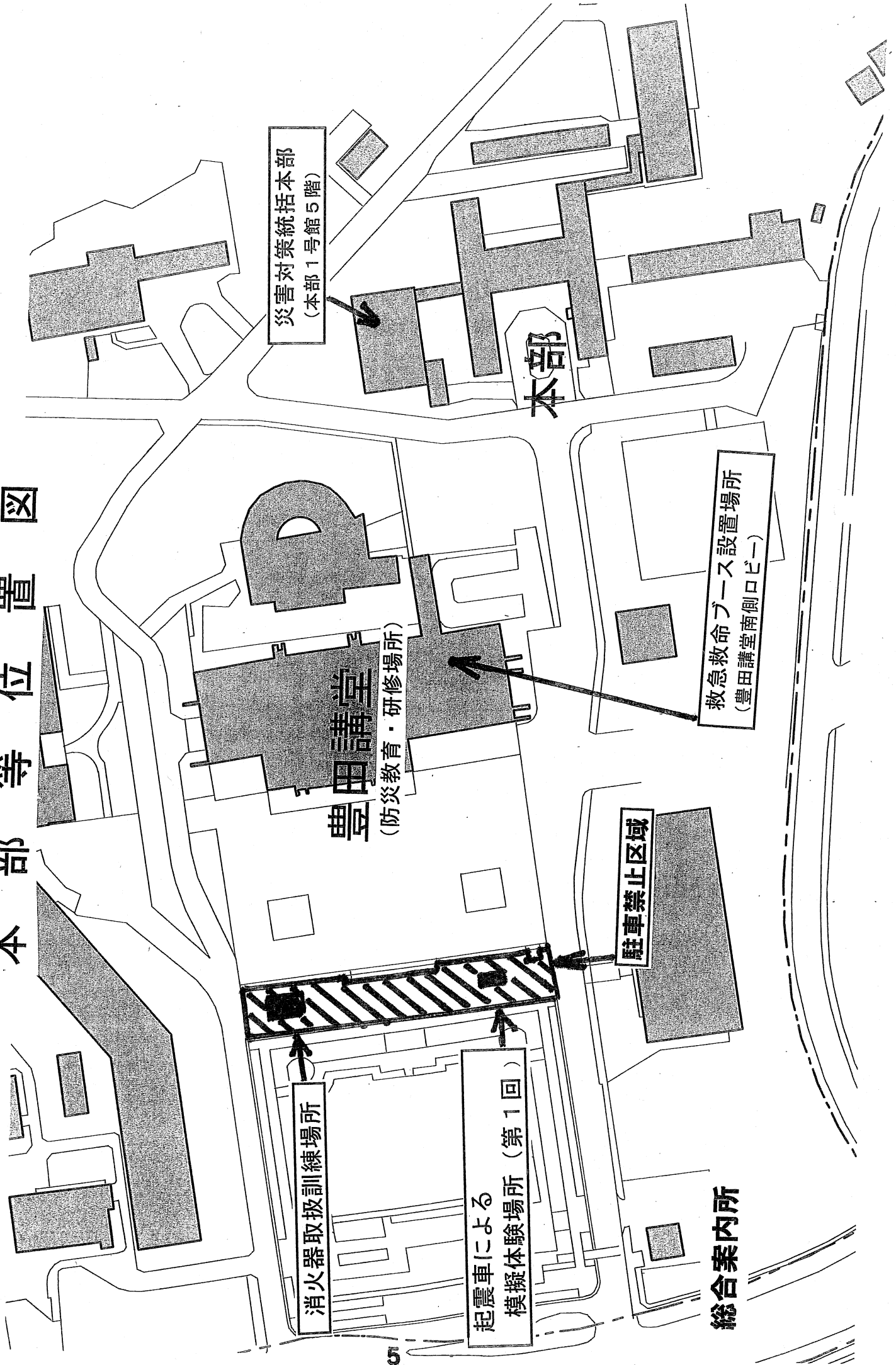
千種消防署員4名対応（但し、緊急出動時は1名で対応）

※ お願い

部局担当者は、この企画について職員・学生等に対し、周知及び参加へのご配慮願います。

(平成17年10月12日地震防災訓練)

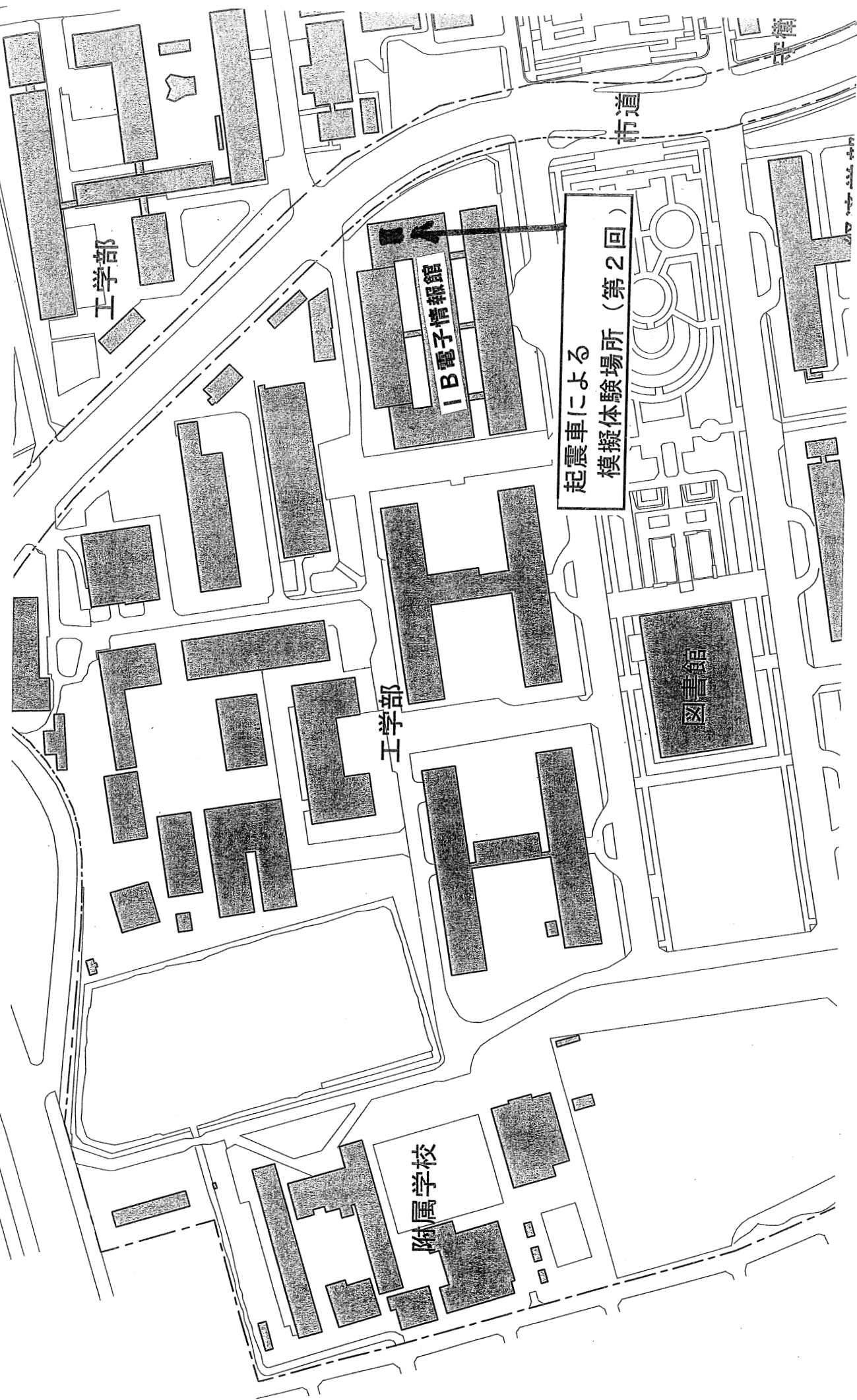
本部等位置図



(平成17年10月12日地震防災訓練)

起震車による模擬体験場所(第2回・雨天の場合)

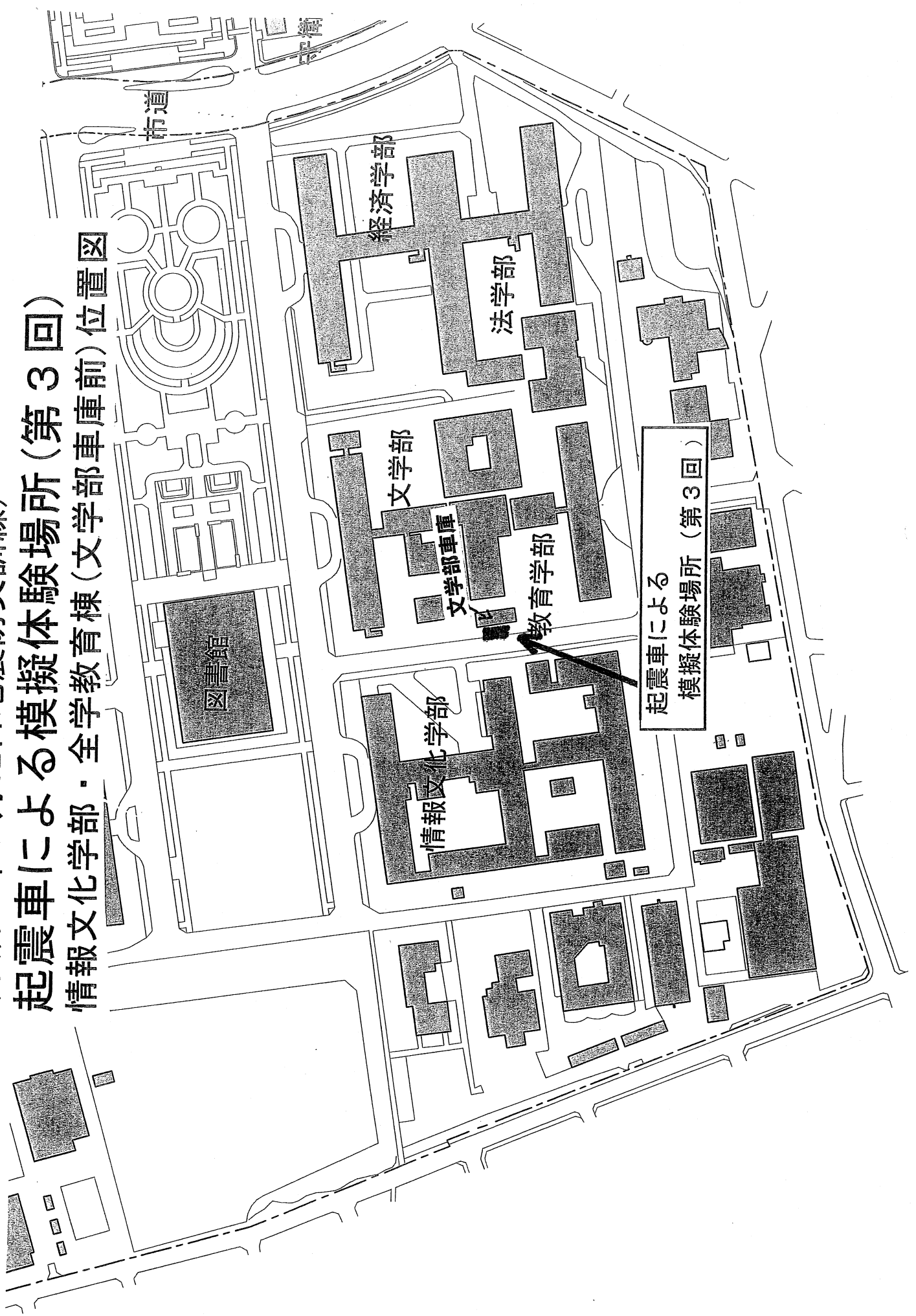
IB電子情報館位置図



(平成17年10月12日地震防災訓練)

起震車による模擬体験場所(第3回)

情報文化学部・全学教育棟(文学部車庫前)位置図



名古屋大学地震防災訓練全体の流れ

| 対象部局等 | 訓練時間 | 訓練内容 | 訓練場所 | 参加者及び報告者 |
|---------|-------------|---|--|--|
| 全部局 | 10:40～12:00 | <p>情報伝達訓練</p> <p>部局災害対策本部及び部局防災隊設置完了報告 (1)【電話】又は【FAX】による報告 (2)【防災無線設備(屋内)】による報告 (3)【アマチュア無線】による報告</p> <p>安否確認報告 (1)【電話】又は【FAX】による報告 (2)【アマチュア無線】による報告</p> <p>被害状況の報告 (1)【電話】又は【FAX】による報告 (2)【防災無線設備(屋外)】による報告 (3)【アマチュア無線】による報告</p> | <p>全部局</p> <p>※ アマチュア無線による報告は、環境総合館及び豊田講堂南側ロビーで行う。</p> | <p>職員・学生全員</p> <p>各部局災害対策本部 (2)の【防災無線】による報告は屋内防災無線担当者のみ (3)の【アマチュア無線】による報告 (東山地区から各地区へ)</p> <p>職員・学生全員 及び各部局災害対策本部 (2)の【アマチュア無線】による報告 (東山地区から各地区へ)</p> <p>各部局災害対策本部 (2)の【防災無線】による報告は屋外防災無線担当者のみ (3)の【アマチュア無線】による報告 (東山地区から各地区へ)</p> |
| 東山地区各部局 | 11:20～12:00 | 防災教育・研修 (講演者：災害対策室長) | 豊田講堂 | 東山地区各部局避難対象者 |

| | | | | | |
|---------|-------------|--|-------|------------------------|-----------------------|
| 東山地区各部局 | 11:00～11:30 | 起震車による模擬体験 (※ 雨天の場合：起震車による模擬体験場所は I B 電子情報館 東側ピロティとする。) | 第 1 回 | 豊田講堂西側道路前 | 職員及び学生 (豊田講堂前避難者等) |
| | 13:30～14:00 | | 第 2 回 | I B 電子情報館 東側ピロティ | 職員及び学生 (希望者) |
| | 14:30～15:00 | | 第 3 回 | 情報文化学部・全学教育棟東 (文学部車庫前) | 職員及び学生 (希望者) |
| | 14:30～15:00 | 消火器取扱訓練 (※ 雨天の場合：消火器取扱訓練は中止する。) | | 豊田講堂西側道路前 | 職員及び学生 (希望者) |
| | 11:00～12:00 | 応急手当の体験：救急救命ブース設置 | | 豊田講堂南側ロビー | 職員及び学生 (豊田講堂前避難者等) |
| | 13:30～14:30 | | | | 職員及び学生 (希望者) |

部局独自の訓練計画（平成17年9月15日現在分）

| 部 局 名 | 訓 練 時 間 | 訓 練 内 容 |
|-------------------|-------------|-----------------------------------|
| 教養教育院 | 10:30～ | 避難訓練（避難場所；第3グリーンベルト）、防災教育・研修の参加 |
| 法学部・大学院法学研究科 | 14:00～16:00 | 「火災・自然災害に関するビデオ上映」（経済学部と合同） |
| 経済学部・大学院経済学研究科 | 14:00～16:00 | 「火災・自然災害に関するビデオ上映」（法学部と合同） |
| 情報文化学部・大学院情報文化研究科 | 10:30～ | 避難訓練（避難場所；第3グリーンベルト） 教養教育院実施計画による |
| 医学部保健学科（大幸地区） | 10:00～12:00 | 避難訓練、消火器・屋内消火栓・避難器具取扱訓練 |
| 農学部・大学院生命農学研究科 | 10:40～ | 避難訓練、消火器取扱訓練（避難場所：農学部北駐車場・圃場） |
| 大学院国際言語文化研究科 | 10:30～ | 避難訓練（避難場所；第3グリーンベルト） |
| 環境医学研究所 | 10:30～12:00 | 避難訓練、防災教育・研修及び応急手当の体験参加 |
| 太陽地球環境研究所（豊川地区） | 13:30～ | 消火訓練 |

生協のイベント

| 対象部局等 | 訓練時間 | 訓練内容 | 訓練場所 | 参加者 |
|-------|-------------|--------------------------------------|--------|-----|
| 東山地区 | 15:00～18:30 | 15:00～17:30 地震・対策に関するビデオ上映 | 南部生協食堂 | 希望者 |
| | | 16:15～17:00 震災シミュレーションゲーム | | |
| | | 16:00～16:45 紙ぶるる体験教室 | | |
| | | 17:00～ 非常食などの試食 | | |
| | | 17:45～ 30分程度 地震防災に関する報告 「プレゼン」 | | |
| | | 非常持ち出し袋づくり | | |

名古屋大学地震防災訓練「災害対策統括本部」行動マニュアル

| 時間 | 訓練事項 | 担当者 | 任 務 等 | 備 考 |
|---|---|-----------------------------------|--|---|
| タイムスケジュール (目安) 10:40 | 震度 6 弱の地震発生 | 施設整備課長 | ・「午前 10 時 37 分に大震度が発生」 ・施設整備課長から本情報を総長(2000)及び杉浦理事(5810)へ伝達 | 電話連絡 伝達文は別添(①情報伝達文) |
| 10:40 | 「災害対策統括本部」設置指示 | 総務広報課秘書掛 | ・総長の命をうけ、各理事(杉浦理事を除く)に報告。 ・施設企画課課長補佐に「災害対策統括本部・部局災害対策本部及び部局防災隊」設置命令を連絡 | 電話連絡 伝達文は別添(①情報伝達文) |
| | | 総務広報課秘書掛 | ・総長及び各理事を、本部 1 号館第 2 会議室へ誘導する。 | |
| 10:40 | 要員招集及び震度 6 弱の地震発生との連絡 | 施設企画課課長補佐 | ・総長からの「災害対策統括本部設置等命令」を施設企画部長・施設企画課長に伝達し、「災害対策統括本部設置等命令及び要員招集」を施設企画課の担当職員に。本部各部長・本部各部筆頭課長・本部各部筆頭掛長あて電子メール・FAX 送信指示する。 | 伝達文は別添(①情報伝達文) |
| | | 各課筆頭掛長 | ・所属の部課長に連絡し、課内職員に大声で伝達周知する。 ・各部の総務掛長は、各部の筆頭課長を第 1 会議室に誘導する。 | 伝達文は別添(②「名古屋大学災害対策本部防災」情報伝達文) |
| | | 各部の筆頭課長補佐 | ・所属の部長を本部 1 号館第 2 会議室へ誘導し、各部の筆頭課長補佐は第 1 会議室待機する。 | |
| | | 各部の筆頭掛主任及び掛員 1 名 | ・連絡要員として第 1 会議室に駆けつけ、待機する。 | |
| | | 応援要員 | ・総務企画部、研究・協力国際部、学務部、施設管理部の応援要員は第 1 会議室に駆けつけ、電話等受信を担当する。 | 応援要員は別添(「災害対策本部連絡要員・応援要員(本部)」) |
| 災害対策統括本部要員は、本部第 2 会議室、本部連絡要員・応援要員は本部第 1 会議室に集合 | | | | |
| 1 | | | 「災害対策統括本部要員」集合 直ちに災害対策統括本部設置 (名古屋大学防災無線局(東山指令局)可搬型 1 台設置、電話回線 3 回線分・電子メール回線 1 回線分・FAX 1 回線分立ち上げ) | 集合場所は別添(災害対策統括本部(座席図)) |
| 10:41 | 「災害対策統括本部」設置 | 総務広報課長 | ・本部要員・連絡要員・応援要員集合確認後、本部長へ報告する。 | |
| 10:42 | 各部局への情報伝達開始 「震度 6 弱地震発生」の連絡及び部局災害対策本部及び部局防災隊設置指示 | 施設企画課担当職員 施設整備課 環境管理室職員 | ・防災無線による一斉放送 ・メール送信・FAX 送信(受信所要時間 数分) | 放送文は別添(②「災害対策本部」情報伝達文) 放送文は別添(③「災害対策本部」情報伝達文) |
| 各部局災害対策本部及び部局防災隊集合(所要時間 1 分～5 分) | | | | |
| 10:53 | 部局災害対策本部及び部局防災隊要員集合 | 電話等受信担当者 | ・部局災害対策本部及び部局防災隊受信を電話又は FAX にて確認 部局電話 7 4 9 9 担当: 総務企画部(職員安否担当) 部局電話 7 4 9 7 担当: 学務部(学生安否担当) 部局電話 2 0 9 3 担当: 研究協力・国際部(外国人研究者及び留学生安否担当) 本部所掌施設電話 2 0 9 6 担当: 環境管理室専門職員 本部所掌施設電話 7 4 9 6 担当: 施設管理部 本部所掌施設電話 7 4 9 8 担当: 施設管理部 FAX 担当: 環境管理室掛長 ・部局災害対策本部及び部局防災隊受信を可搬型防災無線設置取扱者から確認 | 部局受信担当者連絡先は、別添(「防災情報連絡表」) 本部所掌施設受信担当者は、別添(「防災訓練情報連絡表(本部所掌施設)」) 防災無線取扱者一覧表(参考資料) |
| 10:55 | 「部局災害対策本部及び部局防災隊設置完了」報告 | 総務広報課長 | ・電話等受信担当者が受理した「部局災害対策統括本部設置完了」報告を本部長に報告 | |
| 各部局災害対策本部及び部局防災隊から当該部局内「講義室・実験室等内の居住者の安否確認及び被害状況確認」(所要時間 5 0 分) | | | | |
| | | 各部の防災隊 (本部要員・連絡要員・応援要員以外の防災隊員) | ・各課で、当該課の安否(在室人数)を確認し、各課の「安否人数」と取りまとめ、各部で集合する。業務は、「防災隊担当業務」を模擬にて実施する。 ・各課筆頭掛長(代理者を含む)は、災害対策本部へ報告する。 | 安否確認 <参考例> 課職員の安否確認表(参考資料) 防災隊担当業務は「本部防災隊要項(参考資料)」 |
| | | 本部所掌施設担当 | ・本部所掌施設担当課の受信担当者は、関係施設へ電話又は FAX にて伝達 | 伝達文は別添(③「名古屋大学災害対策本部防災隊」情報伝達文) |
| 11:37 | 安否確認報告を受領 | 電話等受信担当者 | ・部局からの「安否確認」報告を電話又は FAX にて確認 | |
| 11:45 | 被害状況報告を受領 | | ・部局からの「被害状況」報告を防災無線放送設備にて確認 | |
| 12:00 | 「安否確認」・「被害状況」報告 「地震防災訓練」終了宣言 災害対策本部解散 | 総務広報課長 | ・電話等受信担当者が受理した「安否確認」・「被害状況」報告を本部長に報告 | |

① 情報伝達文

1. 情報伝達訓練「震度6弱の地震発生」の電話連絡

① 施設整備課長 → 総長（2000）へ電話連絡（秘書掛経由）

【施設整備課長】

「防災訓練情報です。総長に連絡をお願いします。」と説明のうえ

- ・これは、訓練情報です
- ・ただいまの地震により名古屋市内で「震度6弱の揺れ」が観測されましたので報告します。

【秘書掛】

- ・了解しました。（総長及び各理事に災害対策統括本部へ移動を願う。）

【秘書掛は、総長及び各理事を、本部1号館第2会議室に誘導】

② 施設整備課長 → 杉浦理事（5810）へ連絡

【施設整備課長】

- ・これは、訓練情報です。
- ・ただいまの地震により名古屋市内で「震度6弱の揺れ」が観測されましたとの連絡を受けましたので災害対策統括本部へ移動願います。

【杉浦理事】

- ・了解しました。【災害対策統括本部へ移動】

名古屋大学地震防災計画で震度6弱以上の地震が名古屋市内で発生した場合は、災害対策統括本部を設置することになっている。

2. 災害対策統括本部の設置

（総長は、秘書掛に災害対策統括本部設置を命令）

【秘書掛 → 施設企画課「伊藤課長補佐（2113）」へ電話伝達】

- ・総長よりの命令です
- ・ただいまの地震により名古屋市内で「震度6弱の揺れ」が観測されましたとの想定訓練です。
- ・「災害対策統括本部設置」、及び「各部局への情報伝達」訓練を開始してください。

3. 「災害対策統括本部設置」及び「本部防災隊招集」命令

【伊藤課長補佐→本部各課筆頭掛へ電子メール送信・FAX送信を施設企画課職員に指示、及び施設企画課長・施設管理部長に伝達】

「電子メール・FAX送信文(伊藤課長補佐の指示により施設企画課職員が送信)」

- ・ これは訓練情報です。
- ・ ただいまの地震により名古屋市内で「震度6弱の揺れ」が観測されました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部第2会議室、防災隊連絡要員・応援要員は第1会議室に集合してください。
なお、本部要員・防災隊連絡要員・応援要員以外の「本部防災隊要員」は、各部で集合し、各部防災隊の業務を模擬にて実施してください。
- ・ 避難誘導班担当は、豊田講堂にかけつけ、防災教育研修参加者の会場への誘導及び会場整理を行ってください。
- ・ 本情報を内部関係職員に伝達願います。

「施設企画課長・施設管理部長への報告」

- ・ 総長の命により「防災訓練」を開始します。
- ・ 名古屋市内で「震度6弱の揺れ」が観測されたとの想定訓練です。
- ・ 現在「災害対策統括本部要員」・防災隊要員・応援要員を、本部第1・第2会議室に招集しています。
なお、「本部防災隊要員」は各部で集合し、班の業務を模擬にて実施しています。

【施設管理部長及び施設企画課長は、本部第2会議室に移動】

4.

| |
|---------------------|
| 要員集合→「災害対策統括本部」設置完了 |
|---------------------|

5. 「災害対策統括本部設置完了」及び「情報伝達開始」報告

② 「災害対策統括本部」情報伝達文

1. 災害対策統括本部要員及び本部防災隊招集用 (10:40頃)

施設企画課担当・・・本部各課(室)筆頭掛宛へ連絡(電子メール・FAX送信)

- ・ これは、訓練です。これは、訓練です。
- ・ ただいまの地震により名古屋市内で「震度6弱の揺れ」が観測されました。
- ・ すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部第2会議室、
応援要員は、第1会議室に集合してください。
なお、本部要員・応援要員以外は、各部毎に集合し、業務の支障のない限り
豊田講堂で防災教育・研修に参加してください。
- ・ 総務広報課・学務部の避難誘導担当者は、豊田講堂へ参加者を誘導してください。
- ・ 本情報を内部関係職員に伝達願います。

2. 各部局宛「東海地震注意情報発表」伝達用 (10:42頃)

1) 施設企画課担当

・・・防災無線による全学一斉放送を行う。

- ・ これは、訓練です。これは、訓練です。
- ・ こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。
- ・ ただいまの地震により名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。
- ・ すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。
- ・ 各部局は、「部局災害対策本部」及び「部局防災隊」を設置し、「地震防災ガイド」及び「マニュアル」に従って行動してください。

2) 施設整備課環境管理室担当

・・・全部局宛電子メール送信・FAX送信を行う

・・・・・・別紙「防災訓練情報連絡表」参照

- ・ これは、訓練です。これは、訓練です。
- ・ こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。
- ・ ただいまの地震により名古屋市内で「震度6弱の揺れ」が観測されました。
すべての教育活動を停止し、身の安全を図ってください。
- ・ 各部局は、「部局災害対策本部」及び「部局防災隊」を設置し、「地震防災ガイド」及び「マニュアル」に従って行動してください。

3. 防災無線による受信確認報告 . . . 防災無線による報告の対応

1) 施設企画課担当

○防災無線による一斉放送による訓練情報の確認報告を行う

- ・ . . . (災害対策室・東山守衛所・鶴舞エネセン・事務局北の4箇所から報告)

(各部局報告例)

- ・ 「災害対策本部、災害対策本部 こちらは、〇〇〇〇、こちらは、〇〇〇〇
一斉放送による訓練情報受信を確認しました。どうぞ。」

(災害対策統括本部応答例)

- ・ 了解しました。

受信担当者は、総務広報課長に「災害対策室・東山守衛所・鶴舞エネセン・事務局北での放送受信を確認しました。」と報告する。

4. 部局からの「支部等設置報告」 . . . 電話・防災無線による報告の対応

1) 総務広報課担当 . . . 支部等設置報告

(各部局報告例)

- ・ こちらは、〇〇研究科災害対策本部です。
- ・ 「〇〇研究科災害対策本部設置」が完了したので報告します。

(災害対策統括本部応答例) (10:55~10:59の間)

- ・ 了解しました。
- ・ 引き続き、部局内全域の「安否確認」・「被害状況」について報告願います。

受信担当者は、全部局からの報告を確認後、総務広報課長に「全部局の災害対策支部設置等を確認しました。」と報告する

- ・ . . . 前述の報告を受け総務広報課長は災害対策統括本部総務企画部長に報告

5. 部局からの「安否確認報告」・「被害状況報告」

. . . 電話・防災無線による報告の対応

1) 総務広報課担当 . . . 部局災害対策本部設置報告

(各部局報告例)

- ・ こちらは、〇〇研究科災害対策本部です。
- ・ 「〇〇の学生、〇名中〇名の確認ができましたので報告します。」
- ・ 「なお、火災発生、負傷者はありませんでした。」

(災害対策統括本部応答例) (11:00~11:45の間)

- ・ 了解しました。災害対策統括本部への報告は、本報告をもって完了となります。

受信担当者は、全部局からの報告を確認後、総務広報課長に「全部局の部局内情報伝達完了を確認しました。」と報告する

- ・ . . . 前述の報告を受け総務広報課長は災害対策統括本部総務企画部長に報告

③ 「名古屋大学災害対策統括本部防災隊」情報伝達文

1. 災害対策統括本部防災隊招集のメール受信後、各課筆頭掛長は各部課長に連絡し、課内職員に大声で伝達周知

- ・ これは、訓練です。これは、訓練です。
- ・ ただいまの地震により名古屋市内で「震度6弱の揺れ」が発生しました。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部1号館第2会議室、防災隊連絡要員・応援要員は、第1会議室に集合してください。
なお、本部連絡要員・本部連絡要員・応援要員以外の「本部防災隊」は各部で集合し、各部防災隊業務を模擬にて実施してください。
- ・ (避難誘導班担当)
避難誘導担当は、豊田講堂に駆けつけ、防災教育・研修参加者の会場整理及び誘導を行ってください。

各部の筆頭課長補佐は、部長を本部1号館第2会議室へ誘導する。
(各部の筆頭課長補佐は本部1号館第1会議室で待機)

各部の総務掛長は、課の待機人数を確認後、課長に報告し、待機者に防災隊の業務を模擬にて実施するよう指示し、課長を第1会議室へ誘導する。

(災害対策統括本部要員は、総長・理事・部長)

(防災隊連絡要員は、総務広報課長・財務課長・研究支援課長・施設企画課長・学務企画課長及び各部の総務掛長・並びに主任又は掛員1名)

(応援要員は、総務企画部職員・研究協力国際部職員・学務部職員・施設管理部職員)

応援要員は、本部1号館第1会議室に駆けつける。

防災隊要員の各課の筆頭掛長は、当該課の在室人数を確認後、各部の筆頭掛長に報告し、各部の筆頭掛長は人員をとりまとめ災害対策統括本部へ報告する。

避難誘導担当は、豊田講堂に駆けつけ、防災教育・研修参加者の会場整理及び誘導を行う。

2. 本部所掌施設等連絡

本部所掌施設担当課の受信担当者は、「震度6弱の地震」が発生した報告を受け、直ちに、内部関係施設内へ、電話又はFAXにて施設受信担当者に情報伝達開始(キャンパス内学生用)

- ・ これは、訓練です。これは、訓練です。
- ・ こちらは、本部防災隊です。
- ・ ただいまの地震により名古屋市内で「震度6弱の揺れ」が発生しました。
- ・ 直ちに学生への周知をお願いします。

(寄宿舍用)

- ・ これは、訓練です。これは、訓練です。
- ・ こちらは、本部防災隊です。
- ・ ただいまの地震により名古屋市内で「震度6弱の揺れ」が発生しました。
- ・ 居住者の安否を確認します。〇〇階〇〇事務室に入居者名簿がありますので、チェックしてください。
- ・ 安全確保に充分注意するようお願いします。

4. 情報伝達完了報告

本部所掌施設受信担当者は、各施設の情報伝達完了報告を受け総務広報課長に報告、

総務広報課長は、災害対策本部長（総長）に本部防災隊の伝達完了報告

- ・ 本部防災隊です。本部防災隊の情報伝達の完了を確認をしました。

5. 情報伝達訓練終了

災害対策本部 連絡要員・応援要員（本部）

| 所 属 部 等 | 担 当 | 職 名 | 氏 名 | 電 話 番 号 | F A X 番 号 |
|----------|------|------------------------|----------|---------|--------------|
| 総務企画部 | 連絡要員 | 総務企画部防災隊連絡要員総括（訓練連絡総括） | 服部 幸博 | 2208 | |
| | 連絡要員 | 総務企画部防災隊連絡要員 | 佐藤 重明 | 2209 | |
| | 連絡要員 | 総務企画部防災隊連絡要員 | 新實 幸夫 | 2012 | 789 - 2019 |
| | 連絡要員 | 総務企画部防災隊連絡要員 | 主任 | | |
| 応援要員 | 応援要員 | 総務企画部防災隊連絡要員 | 掛員 | | |
| | 応援要員 | 部局電話担当（職員安否担当）総括 | | | |
| | 応援要員 | 部局電話担当（職員安否担当） | | | |
| | 応援要員 | 部局電話担当（職員安否担当） | | | |
| 財務部 | 連絡要員 | 財務務防炎隊連絡要員総括 | 佐藤 規朗 | 2051 | |
| | 連絡要員 | 財務務防炎隊連絡要員 | 井沢 文雄 | 2052 | |
| | 連絡要員 | 財務務防炎隊連絡要員 | 後藤 隆文 | 2057 | 789 - 2071 |
| | 連絡要員 | 財務務防炎隊連絡要員 | 主任 | | |
| 研究・協力国際部 | 連絡要員 | 財務務防炎隊連絡要員 | 掛員 | | |
| | 連絡要員 | 研究協力・国際部防災隊連絡要員総括 | 伊藤 信浩 | 2038 | |
| | 連絡要員 | 研究協力・国際部防災隊連絡要員 | 辻 芳樹 | 5536 | |
| | 連絡要員 | 研究協力・国際部防災隊連絡要員 | 早川 進 | 2039 | 789 - 2041 |
| 学務部 | 連絡要員 | 研究協力・国際部防災隊連絡要員 | 主任 | | |
| | 連絡要員 | 研究協力・国際部防災隊連絡要員 | 掛員 | | |
| | 連絡要員 | 学務防炎隊連絡要員総括 | 荒木 淨子 | 2157 | |
| | 連絡要員 | 学務防炎隊連絡要員 | 中村 平 | 2158 | |
| 施設管理部 | 連絡要員 | 学務防炎隊連絡要員 | 山岸 裕孝 | 2159 | 789 - 2167 |
| | 連絡要員 | 学務防炎隊連絡要員 | 主任 | | |
| | 連絡要員 | 学務防炎隊連絡要員 | 掛員 | | |
| | 連絡要員 | 学務防炎隊連絡要員 | 学務企画課長 | | |
| 施設管理部 | 連絡要員 | 学務防炎隊連絡要員 | 伊藤 福正 | 2112 | |
| | 連絡要員 | 施設管理部防災隊連絡要員総括 | 佐藤 一收 | 2113 | |
| | 連絡要員 | 施設管理部防災隊連絡要員 | 施設企画課長補佐 | 2115 | 789 - 2120 |
| | 連絡要員 | 施設管理部防災隊連絡要員 | 総務掛長 | | |
| 施設管理部 | 連絡要員 | 施設管理部防災隊連絡要員 | 主任 | | |
| | 連絡要員 | 施設管理部防災隊連絡要員 | 掛員 | | |
| | 連絡要員 | 本部FAX担当・防災無線担当 | | | |
| | 連絡要員 | 本部FAX担当・防災無線担当 | | | |
| 施設管理部 | 連絡要員 | 本部所掌施設電話担当 | | | |
| | 連絡要員 | 本部所掌施設電話担当 | | | |
| | 連絡要員 | 訓練連絡総括補佐 | 長野 日登志 | 2093 | |
| | 連絡要員 | 部局メール担当・本部所掌施設電話担当 | 鈴木 孝二 | 2096 | |
| 施設管理部 | 連絡要員 | 部局FAX担当 | 名倉 一朗 | 4997 | (789 - 2134) |
| | 連絡要員 | 部局FAX担当 | | | |

※ (1) 連絡要員 各部筆頭課 5名（計25名）
 (2) 応援要員 総務企画部 3名、研究協力国際部 3名、学務部 3名、施設管理部 4名、施設管理部環境管理室 3名（計16名）
 () の FAX は、災害対策統括本部で使用

防 災 情 報 連 絡 表

| 部局等名称 | 電子メールアドレス | 電話番号(内線) | F A X 番号 | 受信担当者名 |
|---|-------------------------------------|--------------|----------|--------------------|
| 災害対策統括本部 | bousai@post.jimu.nagoya-u.ac.jp | 2093 7499 | 2134 | |
| 本部所掌施設 (博物館) (共同教育研究施設) 高等研究館 (広報プラザ) (エネルギーセンター) (留学生センター) (留学生会館) (インターナショナルレジデンス) (野依記念学術交流館) (課外活動施設) (福利厚生施設) 生協系施設 グリーン・サロン東山・アメニティハウス 職員クラブ シンポジオン 国際喫煙館 | | 2096 7498 | 2134 | 施設整備課専門職員 鈴木 孝二 |
| 同 教養教育院 | kyoikuin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp | 3523 | 3527 | 事務室長 苗島 実 |
| 附属図書館 | saigai@nul.nagoya-u.ac.jp | 3669 | 3693 | 会計掛長 山本 昭 |
| 文学部・文学研究科 | bosai@lit.nagoya-u.ac.jp | 2204 | 2272 | 会計掛長 池戸 道明 |
| 教育学部・教育発達科学研究科 (発達心理精神科学教育研究センター) | bousai@educa.nagoya-u.ac.jp | 2604 | 2666 | 会計掛長 渡邊 正 |
| 同 教育学部附属学校 | bosai@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp | 2672 | 2696 | 附属学校事務掛長 鈴木 公也 |
| 法学部・法学研究科 (法政国際教育研究センター) (共同教育研究施設) | kinkyu@nomolog.nagoya-u.ac.jp | 2311 | 4900 | 事務長 横田 圭介 |
| 経済学部・経済学研究科 | bousai@soec.nagoya-u.ac.jp | 2356 | 4921 | 会計掛長 岡部 衛 |
| 情報文化学部・情報科学研究科 | bosai@info.human.nagoya-u.ac.jp | 4715 | 4800 | 事務長 山本 明博 |
| 理学部・理学研究科 (附属臨海実験所) (多元数理科学研究科) (アイソトープ総合センター) (遺伝子実験施設) (物質科学国際研究センター) (年代測定総合研究センター) (共同教育研究施設) | jishin@sci.nagoya-u.ac.jp | 2397 | 5254 | 管理掛長 松井 宏文 |
| 医学部・医学系研究科 | tsaigai@med.nagoya-u.ac.jp | 81-2810 | 81-2820 | 施設管理掛長 鬼頭 由美子 |
| 同 大幸団地 (大幸医療センター) | kinkyu@met.nagoya-u.ac.jp | 82-1503 | 82-1509 | 事務室長 石黒 孝司 |
| 工学部・工学研究科 (情報メディア教育センター) (旧高効率エネルギー変換研究センター) (廃棄物処理施設) (核燃料管理施設) (共同教育研究施設) | saigai@engg.nagoya-u.ac.jp | 7490 | 3100 | 総務課長 松川 和彦 |
| 農学部・生命農学研究科 (附属農場) (附属演習林) (附属山地畜産実験実習施設) (生物機能開発利用研究センター) (農学国際教育協力研究センター) (共同教育研究施設) | disaster@agr.nagoya-u.ac.jp | 4009 | 4005 | 管理掛長 松尾 尚幸 |
| 総合保健体育科学センター | bousai@htc.nagoya-u.ac.jp | 5752 | 3957 | 事務掛主任 荒谷 勝彦 |

| 部局等名称 | 電子メールアドレス | 電話番号 | F A X 番号 | 受信担当者名 |
|---|------------------------------------|--------------|--------------|------------------|
| 国際開発研究科 | bosai@gssid.nagoya-u.ac.jp | 4952 | 4951 | 事務掛長 武市 全弘 |
| 国際言語文化研究科 | jishin@lang.nagoya-u.ac.jp | 5312 | 4873 | 事務掛長 大江 尚美 |
| 環境学研究科 (地球水循環研究センター) (共同教育研究施設) | hq@env.nagoya-u.ac.jp | 3456 | 3452 | 会計掛長 藤本 正喜 |
| 環境医学研究所 | kinkyu@riem.nagoya-u.ac.jp | 3859 | 3887 | 会計掛事務職員 川上 章子 |
| 太陽地球環境研究所 (東山分室) (共同教育研究施設) | bosai@stnet1.stelab.nagoya-u.ac.jp | 0533-89-5591 | 0533-86-0811 | 庶務掛長 横江 基博 |
| エコトピア科学研究所 (共同教育研究施設) (先端技術共同研究センター) (ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー) | saigai@esi.nagoya-u.ac.jp | 5482 | 5265 | 事務掛長 曾田 薫 |
| 情報連携基盤センター | bosai@itc.nagoya-u.ac.jp | 4356 | 4385 | 会計掛長 丑山 好夫 |

防災訓練情報連絡表（本部所掌施設）

| 本 部 | 電 話 番 号 | F A X 番 号 | 受信担当者名 |
|-----------------|----------|-----------|-------------|
| (研究支援課) | (2039) | | (早川) |
| 博物館 | 5967 | 5896 | 渡辺 |
| 高等総合研究館 | 788-6051 | 788-6151 | 長坂 |
| 広報プラザ | 5787 | 5788 | 林 |
| エネルギーセンター | 2152 | 2153 | 鶴沢 |
| (国際課) | (2191) | | (山川) |
| 留学生センター | 2198 | 5100 | 細川 |
| 留学生会館 | 853-2901 | 853-2929 | 兼松 |
| インターナショナルレジデンス | 2197 | 0356 | 加藤 |
| 野依記念学術交流館 | 788-6121 | 788-6121 | 岩田、金森 |
| 留学生相談室 | 788-6117 | 788-6120 | 白石 |
| (学務企画課) | (2159) | | (山岸) |
| 課外活動施設 | | | |
| 学生会館 | 7535 | なし | 竹原(ケ-リング) |
| 体育合宿所 | 7534 | 7534 | 大島 (水・木 吉原) |
| 課外音楽芸術系 | " | " | " " |
| 体育系共用施設 | " | " | " " |
| (学生総合支援課) | (2173) | | (山腰) |
| 福利厚生施設 | | | |
| 生協系施設 | 7540 | 782-1946 | 今井 |
| グリーンサロン・アメニィハウス | " | " | " |
| 職員クラブ | | | |
| 宿泊予約センター | 4916 | 4916 | 安達、外 |
| 職員食堂 | 7524 | なし | 二宮 |
| 理容 | 4914 | なし | 加藤 |
| ホワイトベア | 7525 | なし | 山田 |
| シンポジオン | | | |
| 事務室 | 3059 | なし | 千藤、外(ケ-リング) |
| ユニバーサル・アメニィハウス | 7526 | 782-6755 | 齊藤(ケ-リング) |
| 国際嚶鳴館 | 832-2736 | 832-3257 | 島田 |

(要員招集用)

本部各課（室）筆頭掛長 殿

訓練情報

- ・ これは、訓練です。これは、訓練です。
- ・ ただいまの地震により名古屋市内で「震度 6 弱の揺れ」が観測されました。すべての教育活動を停止し、身の安全を図ってください。
- ・ 直ちに「災害対策統括本部要員」は、本部第 2 会議室、「応援要員」は、第 1 会議室に集合してください。
なお、「本部要員・応援要員以外」は、各部毎に集合し、業務に支障のない限り豊田講堂で防災教育・研修に参加してください。
- ・ 「総務広報部・学務部の避難誘導班担当」は、豊田講堂へ参加者を誘導してください。

(部局連絡用)

各部局防災訓練情報受信担当者 殿

「 訓 練 情 報 」 伝 達

これは訓練です。これは訓練です。

こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。

ただいまの地震により、名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。

各部局は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。

This is a training. This is a training.

This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. An earthquake with a seismic intensity of lower 6 has been reported in Nagoya. Please discontinue your activities and perform emergency procedures.

Please call the disaster management staff at your department and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management.

(情報伝達テスト用)

各部局 防災訓練担当 殿

テスト送信メール

これは、防災訓練に係る情報伝達メールのテスト送信です。
各部局事務担当の方は、本メールが正常に受信されているか
確認願います

その確認結果を施設管理部施設整備課環境管理室（４９９７）
までご連絡願います

(情報伝達テスト用)

各部局 防災訓練担当 殿

テスト送信 F A X

これは、防災訓練に係る情報伝達 F A X のテスト送信です。
各部局事務担当の方は、本 F A X が正常に受信されているか
確認願います

その確認結果を施設管理部施設整備課環境管理室（4997）
までご連絡願います

本部所掌施設連絡確認票

1. 研究支援課担当

- 博物館
- 共同教育研究施設（高等総合研究館）
- 広報プラザ
- エネルギーセンター

2. 国際課担当

- 留学生センター
- 留学生会館
- インターナショナルレジデンス
- 野依記念学術交流館
- 留学生相談室

3. 学務企画課担当

- 学生会館
- 体育合宿所
 - 課外音楽芸術系
 - 体育系供用施設

4. 学生総合支援課担当

- 福利厚生施設
- 生協系施設
 - グリーンサロン東山・アメニティハウス
- 職員クラブ
 - 宿泊予約センター
 - 職員食堂
 - 理容
 - ホワイトベア
 - シンポジオン
 - 事務室
 - ユニバーサル・アメニティハウス
- 国際嚶鳴館

平成17年10月12日

防災無線に関するアンケート

〔部局名〕 _____ 〔建物名〕 _____ 〔階〕 _____ 階

下の各項目について、該当欄にご記入ください。（該当する番号に○をしてください。）

Q1：全学一斉放送があった時（10時42分頃）に

あなたがいた場所に × 印を記入してください。（下の配置図に記入してください。）

Q2：全学一斉放送（屋外スピーカー）は聞こえましたか？

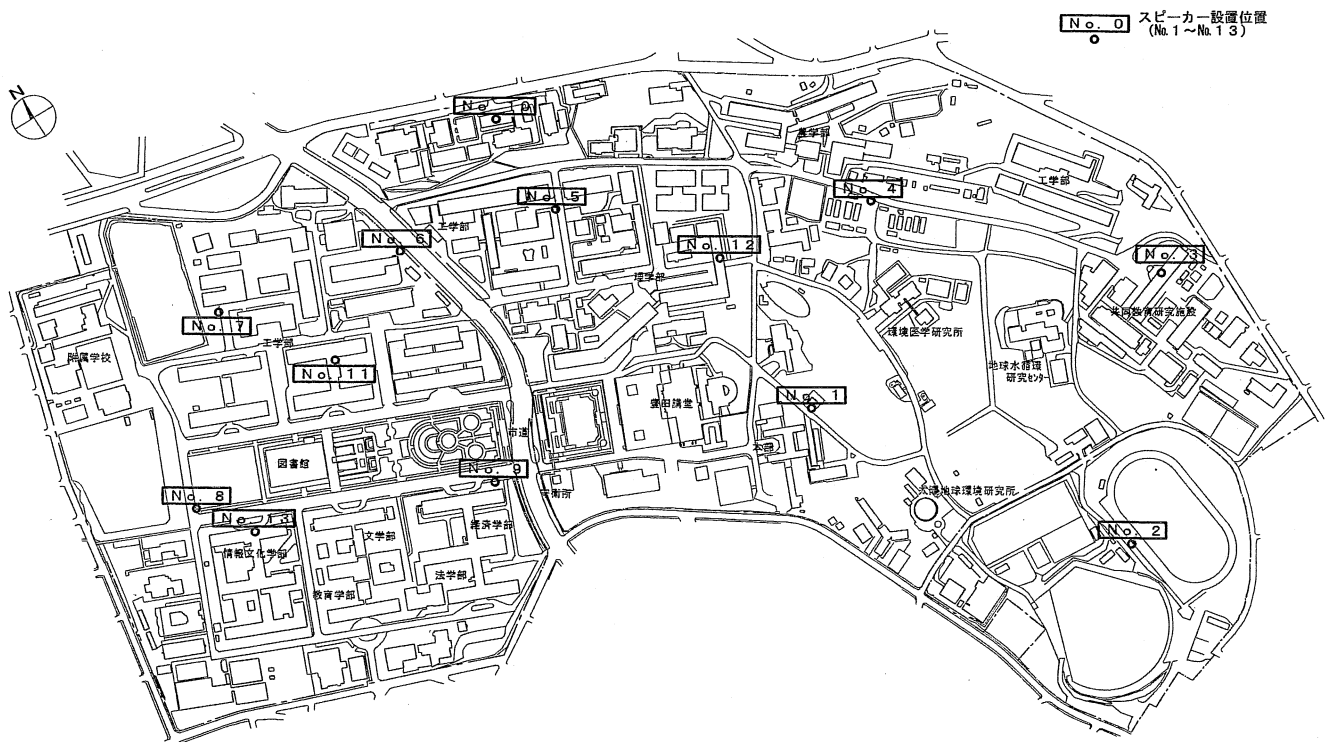
1. 内容が理解できた 2. 音は聞こえたが、内容はわからなかった 3. 全く聞こえなかった

Q3：全学一斉放送があった時の室内の状況についてお答えください。

1. 窓は開いていた 2. 窓は閉まっていた
 3. 室内で音の発生はなく静かだった 4. 室内で講義・実験・会話などの音が発生していた
 5. その他（ _____ ）

ありがとうございました。

※このアンケート用紙は、各部局取りまとめのうえ、10月21日（金）までに施設整備課環境管理室へご提出ください。



名古屋大学東山団地防災無線屋外スピーカー配置図 S=1/8000

参 考 1

地震発生時及び防災訓練時の一斉放送の内容表 (修正版)

| スイッチ番号 | スイッチ表示 | 言語 | 可搬型無線機に組み込む「音」及び「メッセージ内容」 |
|--------|--------|-----|--|
| 1 | チャイム音 | 音 | チャイム音(約20秒) |
| 2 | 訓 練 | 日本語 | これは訓練です。これは訓練です。 こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいまの地震により、名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。各部局は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。 |
| | | 英語 | This is a training. This is a training. This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. An earthquake with a seismic intensity of lower 6 has been reported in Nagoya. Please discontinue your activities and perform emergency procedures. Please call the disaster management staff at your department and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. |
| 3 | 震度6弱 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいまの地震により、名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。各部局は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。 |
| | | 英語 | This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. An earthquake with a seismic intensity of lower 6 has been reported in Nagoya. Please discontinue your activities and perform emergency procedures. Please call the disaster management staff at your department and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. |
| 4 | 震度5強 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策室です。ただいまの地震により、名古屋市内で震度5強の揺れが観測されました。教育研究活動を一時中断し、各部局において被害状況の確認を行ってください。 |
| | | 英語 | This is the Disaster Management Office at Nagoya University. An earthquake with a seismic intensity of upper 5 has been reported in Nagoya. Please discontinue your activities temporarily and verify any casualties. |
| 5 | 震度5弱 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策室です。ただいまの地震により、名古屋市内で震度5弱の揺れが観測されました。教育研究活動を一時中断し、各部局において被害状況の確認を行ってください。 |
| | | 英語 | This is the Disaster Management Office at Nagoya University. An earthquake with a seismic intensity of 5 lower has been reported in Nagoya. Please discontinue your activities temporarily and verify any casualties. |
| 6 | 注意情報 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいま「東海地震注意情報」が発表されました。すべての教育研究活動を停止し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。各部局は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置してください。災害対応要員以外の教職員および学生は、安全に留意して帰宅してください。 |
| | | 英語 | This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. "Tokai Earthquake Advisory Information" has been announced. Please discontinue your activities and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. Please call the disaster management staff at your department. All other staff and students should return home with caution. |
| 7 | 予知情報 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいま「東海地震予知情報」が発表されました。すべての教育研究活動を停止し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。各部局は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置してください。災害対応要員以外の教職員及び学生は、安全に留意して帰宅してください。帰宅困難な人は各部局事務室へ申し出てください。 |
| | | 英語 | This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. "Tokai Earthquake Prediction Information" has been announced. Please discontinue your activities and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. Staff, except for disaster management staff, and students should return home with caution. If you have difficulties returning home, please report to the office. |
| 8 | 警戒宣言 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいま「東海地震警戒宣言」が発令されました。すべての教育研究活動を停止し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。各部局は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置してください。災害対応要員以外の教職員及び学生は、安全に留意して帰宅してください。帰宅困難な人は各部局事務室へ申し出てください。 |
| | | 英語 | This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. "Tokai Earthquake Warning" has been announced. Please discontinue your activities and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. Staff, except for disaster management staff, and students should return home with caution. If you have difficulties returning home, please report to |
| 9 | 地震速報 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策室です。ただいま、地震による強い揺れがありました。すべての活動を中止し、身の安全を図ってください。詳細な情報が入り次第、改めて対応策についてお知らせします。 |
| | | 英語 | This is the Disaster Management Office at Nagoya University. We have experienced a strong earthquake. Please discontinue all activities and verify any casualties. We will make a further announcement shortly. |

名古屋大学災害対策統括本部防災隊要項

(趣旨)

第1 名古屋大学自然災害対策規程（平成16年度規程第372号。以下「規程」という。）第6条第2項の規定に基づく統括本部防災隊（以下「防災隊」という。）の担当業務等に関する事項は、この要項の定めるところによる。

(組織)

第2 防災隊は、本部各部ごとに設置するものとする。

2 防災隊に隊長を置き、各部の長をもって充てる。

3 防災隊に副隊長を置き、各課の長をもって充てる。

(協力組織)

第3 規程別表に規定する法務室、災害対策室及び総合保健体育科学センター保健管理室は、統括本部防災隊協力組織（以下「協力組織」という。）として、防災隊との連絡・協力の下に、災害対策に関する専門的業務を行うものとする。

(担当業務)

第4 防災隊及び協力組織の担当業務（業務遂行上の留意事項を含む。）は、別表1及び別表2のとおりとする。

附 則

この要項は、平成17年6月17日から実施する。

別表1 (第4関係)
防災隊担当業務

| 組 | 織 | 業 務 |
|--------------|-------------------|---|
| 総務企画部 防災隊 | 業務の総括担当 | 1. 災害対策統括本部の業務全体を総括する。 2. 文部科学省, 地方公共団体等との連絡体制をとる。 |
| | 広報・情報連絡 担当 | 1. 情報収集及び伝達 (1) 災害対策室, 各課, 各部局等から情報を得て, 学内の状況を迅速かつ正確に把握する。 (2) 得られた情報の中で有用なものは, 各課, 各部局 等へ伝達する。 2. 報道機関及び訪問者との対応 (1) 学内の状況等の情報を報道機関に提供する。 (2) 学外諸機関及び個人の訪問に対応する。 |
| | 職員安否確認・ 避難誘導担当 | 1. 職員の安否を確認する。 (1) 各課, 各部局等からの報告・連絡を受理し, 整理 する。 (2) 確認できた者から順次各課, 各部局等へ報告・連 絡させる。 (3) 調査に当たっては, 各課, 各部局等と連絡を密に し, 全学の状況を正確に把握するよう努める。 (4) 調査・確認に当たっては, 電話, F A X, 電子メ ール等あらゆる手段を活用する。 2. 避難場所への誘導, 通行障害物の撤去等の安全確保 を図る。 |
| | 避難住民の対応 担当 | 1. 避難所として指定されていない場所において, 緊急 避難者を一時受け入れる場合は, 関係部局等の長と連 絡調整を行う。 (1) 名簿を備え付け, 氏名, 人数等を把握する。 2. 緊急避難者が既に各部局等に避難し, 一時的に当該 部局等で受け入れている場合は, 速やかに関係部局等 の長と連絡調整を行う。 (1) 名簿を備え付け, 氏名, 人数等を把握する。 3. 緊急避難者の避難所への移動が, 迅速かつ正確に行 われるように配慮する。 (1) 正確に避難住民に情報を伝達できるよう, 受入れ 部局等と地方公共団体からの派遣職員との連絡を密 にする。 4. 避難所として指定されている部局等は, 地方公共団 体からの派遣職員と密接に連携する。(以下は地方公 共団体が行うべき事柄であるが, 派遣職員が配置され るまで対応が必要と考えられる事項) (1) 避難住民からの要望等を, 地方公共団体に正確に 伝えるよう努める。 (2) 避難所として必要な設備(炊事・洗濯, 仮設電話, 簡易トイレ, 保安措置等)の設置に協力する。 (3) 避難住民に自治組織を作らせ, 大学及び地方公共 団体との調整窓口の一本化を図る。 (4) 秩序を守り, 相互援助を行い, 不自由な生活を できる限り快適なものにする。 |

| | | |
|--------------|------------------|---|
| 施設管理部 防災隊 | 災害対策統括本部に関わる庶務担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害対策統括本部の設置 2. 災害対策統括本部要員のための毛布，食料等を準備する。 3. 保健管理室と救護の連携体制をとる。 4. 要員の確保に努める。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 災害業務を行うに当たっては，職員の心身の健康に十分に留意する。 (2) 部局等から職員の派遣要請があった場合は，派遣できるよう全学的な調整を行う。 (3) 宿日直体制をとる。 5. 防災無線による放送 6. 電話，FAX，地方公共団体広報誌，新聞，ラジオ，テレビ，インターネット，民間無線局等あらゆる情報手段を用いて迅速かつ正確な情報収集に努める。 |
| | 施設工作・復旧・建物被害調査担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 倒壊のおそれのある建物等の現状把握及び情報提供をする。 2. 施設，設備及び土地の被災状況を把握する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各課，各部局等と協力し，写真，ビデオ等により，被災状況を記録し，整理する。 (2) 2次災害のおそれのある施設等については，直ちに立入禁止等の措置及び応急処置を講ずる。 (3) 被災状況については，復旧作業を行う前に日付入りで写真，ビデオ等を活用して記録を残すように努める。 3. ライフラインを確保する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 電気，ガス，水道，電話等ライフラインの早期復旧に努める。 (2) 自家発電設備の始動（保守・点検）を行う。 (3) 必要な場合は，関連企業（中部電力，東邦ガス等）へ応援を要請する。 (4) 仮設トイレ等の設置に向け関連企業へ応援を要請する。 4. 施設の被災状況の把握，施設の立入禁止措置等を行う必要から，専門家の下に応急危険度判定士班を設置し，速やかに判定に当たる（建物の安全確認を行い，被災状況を把握する）。 |
| | 危険物・防犯・防火・消火担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 不審者への対応及び現場周辺への立入規制を行う。 2. 消火栓及び消火器の位置確認及び設置図面の作成 3. 初期消火活動，消防署消防隊の誘導等を行う。 4. 化学薬品等の危険物による火災，汚染等の予防 5. 危険物倉庫の管理 |
| | 救護担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健管理室医療・救護担当と連携し，負傷した職員，学生等の救護に当たる。 |

| | | |
|---------------------|---|---|
| 学務部防災 隊 | 学生安否確認・ 避難誘導担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の安否を確認するとともに、家屋等の被災状況を調査する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各部局等からの報告・連絡を受理し、整理する。 (2) 調査に当たっては、各部局等と連絡を密にし、全学の状況を正確に把握するよう努める。 (3) 調査・確認に当たっては、電話、FAX、電子メール等あらゆる手段を活用する。 2. 学生の避難場所への誘導、通行障害物の撤去等の安全確保を図る。 3. 学生の学内外におけるボランティア活動の状況の把握に努め、必要な指導及び情報の提供を行う。 4. 学生関係諸行事の実施に関し、速やかに学内の連絡調整を行い、その結果を適当な広報手段により学生等関係者に伝達する。 5. 学生の課外活動の状況の把握に努め、必要な指導を行う。 6. 学生会館及び課外活動施設の安全確認を行い、被災状況を把握する。 |
| | 学生の授業管理 担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業等の対策を行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業の再開、学業成績の認定方法等について、学内における連絡調整を行う。 (2) 授業の再開のスケジュール等について、教員及び学生に対し、速やかに漏れなく伝達する。 2. 受験生の対策を行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 災害発生時期によっては、入学試験会場、実施日時等について、学内の連絡調整を行う。 (2) 入学試験会場、実施日時等の変更等がある場合には、速やかに受験生に対し伝達する。 |
| | 学生の生活等安 全管理担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 寮生の安否確認及び学生寮の被災状況を把握する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 調査・確認に当たっては、電話、FAX、電子メール等あらゆる手段を活用する。 2. 学生の宿舎の確保に努める。 3. 学生の福利厚生施設の安全確認を行い、被災状況を把握する。 |
| 研究協力・ 国際部防災 隊 | 外国人研究者・ 留学生の安否確 認・避難誘導及 び学生生活の安 全管理担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人研究者及び留学生の安否を確認するとともに、家屋等の被災状況を把握する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各部局等からの報告・連絡を受理し、整理する。 (2) 調査に当たっては、各部局等と連絡を密にし、全学の状況を正確に把握するよう努める。 (3) 調査・確認に当たっては、電話、FAX、電子メール等あらゆる手段を活用する。 2. 外国人研究者及び留学生の宿舎の確保・斡旋に努める。 3. 避難場所への誘導、通行障害物の撤去等の安全確保を図る。 |
| | 放射性物質等の 危険物の安全管 理担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各施設ごとに実施される放射性物質等の拡散による汚染対策及び防止対策の状況を把握する。 |

| | | |
|------------|---------------|---|
| 財務部防災 隊 | 救護物資の管理 担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 救援物資、食糧等の受入れに関し、地方公共団体からの派遣職員との連絡調整を行う。 2. 救援物資等の搬出入及び保管のための場所を確保する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) トラックの運転要員を確保する。 3. 他大学、地方公共団体等からの救援物資、食料等を受け入れる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 数量等の管理を行う。 (2) 総務企画部防災隊避難住民の対応担当と連絡を密にし、避難住民、災害対策統括本部要員等に配給する。 (3) 搬入の時間が予測できないことに留意しつつ、受入れ要員の確保に努める。 4. 職員宿舎の確保 <ol style="list-style-type: none"> (1) 職員宿舎の安全確認を行い、被災状況を把握する。 (2) 被災職員（他大学等の職員についても考慮する。）の状況に応じ職員宿舎の確保に当たる。 5. 財産の使用許可 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各部局等における施設提供に伴う使用許可について、手続きを行う。 |
| | 物品被害・復旧 担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 物品の被害状況を把握し、整理する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各課、各部局等と連絡を密にし、事務・研究用機器等物品の被害状況調査を速やかに行い、取りまとめる。 |
| | 重要物品の搬出 担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 重要物品及び重要書類の搬出及び保管に関し、本部各部を統括する。 |

別表2 (第4関係)
協力組織担当業務

| 組 織 | 責 任 者 | 業 務 | |
|-------|--------|---------|---|
| 災害対策室 | 災害対策室長 | 情報収集 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の規模・範囲, 今後の予測情報等について情報収集を行う。 2. 他大学, 研究機関, 国・地方公共団体等と密接な連携を図り, 蓄積された資料をもとに, 災害対策統括本部への情報提供及び専門的立場からの助言を行う。 |
| 保健管理室 | 保健管理室長 | 医療・救護担当 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 負傷した職員, 学生等(避難住民を含む。)の応急手当を行う。 2. 災害対策統括本部及び施設管理部防災隊救護担当と連携を図り, 診療が可能な病院を調査し, 把握する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 負傷した職員, 学生等に受診を指示するとともに, 必要に応じて搬送を行う。 (2) 搬送リストを作成し, 家族等からの照会窓口を設置する。 (3) 必要な医薬品等について財務部防災隊救護物資の管理担当及び地方公共団体等と連携し, 確保に努める。 |
| 法務室 | 法務室長 | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 防犯等に対する専門的助言 |

名古屋大学防災無線設備（屋内）取扱者一覧表

| 区分(階層番号) | 局名称 | 種類 | 配 備 先 | 取扱者所屬 | 取扱者職名 | 取扱者 | 連絡先 | 備 考 |
|----------|--------|------|-------------------|-----------------|---------------|----------|----------|----------|
| No.10 | 工学部8号館 | 半固定型 | (東山)工学部8号館1階廊下 | 工学部・工学研究科 | 技術職員 | 長 寛 宏 弥 | 3738 | FAX 3736 |
| No.11 | 工学部2号館 | 半固定型 | (東山)工学部2号館事務室 | 工学部・工学研究科 | 事務主任 | 松崎 規子 | 3927 | FAX 3909 |
| No.12 | 理学部C館 | 半固定型 | (東山)理学部C館警務員室 | 理学部・理学研究科 | 請負者社員(当日の勤務者) | | 2396 | |
| No.13 | 総合校舎 | 半固定型 | (東山)総合校舎警務員室 | 情報文化学部・情報科学研究科 | 請負者社員(当日の勤務者) | 浅井 功明 | 3500 | |
| No.14 | 東山指令局 | 可搬型 | (東山)災害対策統括本部 | 施設管理部施設企画課 | 総務掛長 | 佐藤 收 | 2063 | チャイム機能あり |
| No.15 | 災害対策室 | 可搬型 | (東山)環境総合館 災害対策室 | 災害対策室 | 助教 | 飛田 潤 | 3754 | チャイム機能あり |
| No.16 | 東山守衛所 | 可搬型 | (東山)守衛所 | 施設管理部施設整備課環境管理室 | 請負者社員(当日の勤務者) | 永坂 正弘 | 4917 | チャイム機能あり |
| No.17 | 国際嚶鳴館 | 可搬型 | (山手)国際嚶鳴館事務室 | 学生総合支援課 | 人材派遣会社社員 | 島田 民子 | 832-2736 | |
| No.18 | 留学生会館 | 可搬型 | (陶生町)留学生会館事務室 | 国際課 | 国際交流会館掛員 | 兼松 英代 | 853-2901 | |
| No.19 | 鶴舞指令局 | 可搬型 | (鶴舞)病棟防災センター | 医学部・医学系研究科管理課 | 請負者社員(当日の勤務者) | | 82-2832 | |
| No.20 | 鶴舞エネセン | 可搬型 | (鶴舞)エネルギセンター中央監視室 | 医学部・医学系研究科管理課 | 請負者社員(当日の勤務者) | | 82-2822 | |
| No.21 | 大幸指令局 | 可搬型 | (大幸)保健学科本館事務室 | 医学部・医学系研究科管理課 | 会計掛長 | 田中 暢彦 | 82-1511 | |

※ 半固定型防災無線設備の設置場所は、別図のとおり

●印は、受信状況の確認

名古屋大学防災無線設備（屋外）取扱者一覧表

| 区分(設置番号) | 局名称 | 種類 | 設置場所 | 取扱者所屬 | 取扱者職名 | 取扱者 | 連絡先 | 備考 |
|----------|-------|------|-------------------------|----------------|---------|--------|------|----------|
| No. 1 | 事務局北 | 半固定型 | (東山)本部2号館北 | 施設管理部施設管理課 | 施設管理掛主任 | 新美 雅則 | 2138 | |
| No. 2 | 屋外運動場 | 半固定型 | (東山)総合保健体育科学センター陸上グラウンド | 総合保健体育科学センター | 事務掛主任 | 荒谷 勝彦 | 5752 | |
| No. 3 | 共同教育 | 半固定型 | (東山)共同教育研究施設1号館 | エコトピア科学研究機構 | 事務掛主任 | 伊藤 真由美 | 5264 | |
| No. 4 | 農学部 | 半固定型 | (東山)農学部温室西 | 農学部・生命農学研究科 | 管理掛主任 | 尾関 光徳 | 5268 | |
| No. 5 | 理学部 | 半固定型 | (東山)環境総合館西 | 理学部・理学研究科 | 管理掛主任 | 小林 祐 | 2804 | |
| No. 6 | 工学部東 | 半固定型 | (東山)工学部7号館A棟東 | 工学部・工学研究科 | 専門職員 | 鈴木 照子 | 3133 | FAX 3134 |
| No. 7 | 工学部西 | 半固定型 | (東山)工学部研究科1号館西 | 工学部・工学研究科 | 専門職員 | 山根 みち子 | 2732 | FAX 3180 |
| No. 8 | 図書館西 | 半固定型 | (東山)情報文化学部北 | 情報文化学部・情報科学研究科 | 会計掛長 | 福田 重美 | 4718 | |
| No. 9 | 経済学部 | 半固定型 | (東山)経済学部北 | 経済学部 | 会計掛長 | 岡部 衛 | 2356 | |

※ 設置場所は、別図のとおり

●印は、受信状況の確認報告



スピーカー設置位置
(No.1~No.13)

No. 0



名古屋大学

0 25 50 75 100m 200m 300m

半固定型防災無線局配置図 (東山団地)

配置図 (東山団地)

1/6,000

平成17年度 「名古屋大学地震防災訓練」(部局)説明会

日 時 平成17年9月26日(月) 15時30分から

場 所 本部1号館 5階 第1会議室

(配布資料)

- 資料1 平成17年度 名古屋大学地震防災訓練実施計画
- 資料2 平成17年度 名古屋大学地震防災訓練行動マニュアル
- 資料3 名古屋大学地震防災訓練全体の流れ
- 資料4 (部局)災害対策本部設置等報告・安否確認者数報告・被害状況報告(地震防災情報連絡等FAX返信用)
- 資料5 訓練情報伝達文(部局連絡用・情報伝達訓練用)
- 資料6 防災無線に関するアンケート

(参考資料)

- 参考1 防災訓練情報連絡表
- 参考2 地震発生時及び防災訓練時の一斉放送の内容表
- 参考3 <参考例>事務室職員の安否確認表
- 参考4 名古屋大学防災無線放送設備(屋内・屋外)取扱者一覧表

担当：施設管理部 施設整備課
環境管理室
内線(2093)(4997)(2096)

防 災 情 報 連 絡 表

| 部局等名称 | 電子メールアドレス | 電話番号(内線) | F A X 番号 | 受信担当者名 |
|---|-------------------------------------|--------------|----------|--------------------|
| 災害対策統括本部 | bousai@post.jimu.nagoya-u.ac.jp | 2093 7499 | 2134 | |
| 本部所掌施設 (博物館) (共同教育研究施設) 高等研究館 (広報プラザ) (エネルギーセンター) (留学生センター) (留学生会館) (インターナショナルレジデンス) (野依記念学術交流館) (課外活動施設) (福利厚生施設) 生協系施設 グリーン・サロン東山・アメニティハウス 職員クラブ シンポジオン 国際喫煙館 | | 2096 7498 | 2134 | 施設整備課専門職員 鈴木 孝二 |
| 同 教養教育院 | kyoikuin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp | 3523 | 3527 | 事務室長 苗島 実 |
| 附属図書館 | saigai@nul.nagoya-u.ac.jp | 3669 | 3693 | 会計掛長 山本 昭 |
| 文学部・文学研究科 | bosai@lit.nagoya-u.ac.jp | 2204 | 2272 | 会計掛長 池戸 道明 |
| 教育学部・教育発達科学研究科 (発達心理精神科学教育研究センター) | bousai@educa.nagoya-u.ac.jp | 2604 | 2666 | 会計掛長 渡邊 正 |
| 同 教育学部附属学校 | bosai@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp | 2672 | 2696 | 附属学校事務掛長 鈴木 公也 |
| 法学部・法学研究科 (法政国際教育研究センター) (共同教育研究施設) | kinkyu@nomolog.nagoya-u.ac.jp | 2311 | 4900 | 事務長 横田 圭介 |
| 経済学部・経済学研究科 | bousai@soec.nagoya-u.ac.jp | 2356 | 4921 | 会計掛長 岡部 衛 |
| 情報文化学部・情報科学研究科 | bosai@info.human.nagoya-u.ac.jp | 4715 | 4800 | 事務長 山本 明博 |
| 理学部・理学研究科 (附属臨海実験所) (多元数理科学研究科) (アイソトープ総合センター) (遺伝子実験施設) (物質科学国際研究センター) (年代測定総合研究センター) (共同教育研究施設) | jishin@sci.nagoya-u.ac.jp | 2397 | 5254 | 管理掛長 松井 宏文 |
| 医学部・医学系研究科 | tsaigai@med.nagoya-u.ac.jp | 81-2810 | 81-2820 | 施設管理掛長 鬼頭 由美子 |
| 同 大幸団地 (大幸医療センター) | kinkyu@met.nagoya-u.ac.jp | 82-1503 | 82-1509 | 事務室長 石黒 孝司 |
| 工学部・工学研究科 (情報メディア教育センター) (旧高効率エネルギー変換研究センター) (廃棄物処理施設) (核燃料管理施設) (共同教育研究施設) | saigai@engg.nagoya-u.ac.jp | 7490 | 3100 | 総務課長 松川 和彦 |
| 農学部・生命農学研究科 (附属農場) (附属演習林) (附属山地畜産実験実習施設) (生物機能開発利用研究センター) (農学国際教育協力研究センター) (共同教育研究施設) | disaster@agr.nagoya-u.ac.jp | 4009 | 4005 | 管理掛長 松尾 尚幸 |
| 総合保健体育科学センター | bousai@htc.nagoya-u.ac.jp | 5752 | 3957 | 事務掛主任 荒谷 勝彦 |

| 部局等名称 | 電子メールアドレス | 電話番号 | F A X 番号 | 受信担当者名 |
|---|------------------------------------|--------------|--------------|------------------|
| 国際開発研究科 | bosai@gsid.nagoya-u.ac.jp | 4952 | 4951 | 事務掛長 武市 全弘 |
| 国際言語文化研究科 | jishin@lang.nagoya-u.ac.jp | 5312 | 4873 | 事務掛長 大江 尚美 |
| 環境学研究科 (地球水循環研究センター) (共同教育研究施設) | hq@env.nagoya-u.ac.jp | 3456 | 3452 | 会計掛長 藤本 正喜 |
| 環境医学研究所 | kinkyu@riem.nagoya-u.ac.jp | 3859 | 3887 | 会計掛事務職員 川上 章子 |
| 太陽地球環境研究所 (東山分室) (共同教育研究施設) | bosai@stnet1.stelab.nagoya-u.ac.jp | 0533-89-5591 | 0533-86-0811 | 庶務掛長 横江 基博 |
| エコトピア科学研究所 (共同教育研究施設) (先端技術共同研究センター) (ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー) | saigai@esi.nagoya-u.ac.jp | 5482 | 5265 | 事務掛長 曾田 薫 |
| 情報連携基盤センター | bosai@itc.nagoya-u.ac.jp | 4356 | 4385 | 会計掛長 丑山 好夫 |

地震発生時及び防災訓練時の一斉放送の内容表（修正版）

| スイッチ番号 | スイッチ表示 | 言語 | 可搬型無線機に組み込む「音」及び「メッセージ内容」 |
|--------|--------|-----|--|
| 1 | チャイム音 | 音 | チャイム音(約20秒) |
| 2 | 訓練 | 日本語 | これは訓練です。これは訓練です。こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいまの地震により、名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。各部署は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。 |
| | | 英語 | This is a training. This is a training. This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. An earthquake with a seismic intensity of lower 6 has been reported in Nagoya. Please discontinue your activities and perform emergency procedures. Please call the disaster management staff at your department and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. |
| 3 | 震度6弱 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいまの地震により、名古屋市内で震度6弱の揺れが観測されました。すべての教育研究活動を停止し、身の安全を図ってください。各部署は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。 |
| | | 英語 | This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. An earthquake with a seismic intensity of lower 6 has been reported in Nagoya. Please discontinue your activities and perform emergency procedures. Please call the disaster management staff at your department and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. |
| 4 | 震度5強 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策室です。ただいまの地震により、名古屋市内で震度5強の揺れが観測されました。教育研究活動を一時中断し、各部署において被害状況の確認を行ってください。 |
| | | 英語 | This is the Disaster Management Office at Nagoya University. An earthquake with a seismic intensity of upper 5 has been reported in Nagoya. Please discontinue your activities temporarily and verify any casualties. |
| 5 | 震度5弱 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策室です。ただいまの地震により、名古屋市内で震度5弱の揺れが観測されました。教育研究活動を一時中断し、各部署において被害状況の確認を行ってください。 |
| | | 英語 | This is the Disaster Management Office at Nagoya University. An earthquake with a seismic intensity of 5 lower has been reported in Nagoya. Please discontinue your activities temporarily and verify any casualties. |
| 6 | 注意情報 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいま「東海地震注意情報」が発表されました。すべての教育研究活動を停止し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。各部署は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置してください。災害対応要員以外の教職員および学生は、安全に留意して帰宅してください。 |
| | | 英語 | This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. "Tokai Earthquake Advisory Information" has been announced. Please discontinue your activities and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. Please call the disaster management staff at your department. All other staff and students should return home with caution. |
| 7 | 予知情報 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいま「東海地震予知情報」が発表されました。すべての教育研究活動を停止し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。各部署は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置してください。災害対応要員以外の教職員及び学生は、安全に留意して帰宅してください。帰宅困難な人は各部署事務室へ申し出てください。 |
| | | 英語 | This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. "Tokai Earthquake Prediction Information" has been announced. Please discontinue your activities and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. Staff, except for disaster management staff, and students should return home with caution. If you have difficulties returning home, please report to the office. |
| 8 | 警戒宣言 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策統括本部です。ただいま「東海地震警戒宣言」が発令されました。すべての教育研究活動を停止し、地震防災ガイド及びマニュアルに従って行動してください。各部署は、部局災害対策本部及び部局防災隊を設置してください。災害対応要員以外の教職員及び学生は、安全に留意して帰宅してください。帰宅困難な人は各部署事務室へ申し出てください。 |
| | | 英語 | This is the Headquarters for Disaster Prevention at Nagoya University. "Tokai Earthquake Warning" has been announced. Please discontinue your activities and act in accordance with the Manual for Earthquake Disaster Management. Staff, except for disaster management staff, and students should return home with caution. If you have difficulties returning home, please report to the office. |
| 9 | 地震速報 | 日本語 | こちらは、名古屋大学災害対策室です。ただいま、地震による強い揺れがありました。すべての活動を中止し、身の安全を図ってください。詳細な情報が入り次第、改めて対応策についてお知らせします。 |
| | | 英語 | This is the Disaster Management Office at Nagoya University. We have experienced a strong earthquake. Please discontinue all activities and verify any casualties. We will make a further announcement shortly. |

名古屋大学防災無線設備（屋内）取扱者一覧表

| 区分(設置番号) | 局名称 | 種類 | 配 備 先 | 取扱者所属 | 取扱者職名 | 取扱者 | 連絡先 | 備 考 |
|----------|--------|------|--------------------|-----------------|---------------|------------|----------|----------|
| No.10 | 工学部8号館 | 半固定型 | (東山)工学部8号館1階廊下 | 工学部・工学研究科 | 技術職員 | 長 篤 宏 弥 | 3738 | FAX 3736 |
| No.11 | 工学部2号館 | 半固定型 | (東山)工学部2号館事務室 | 工学部・工学研究科 | 事務主任 | 松崎 規子 | 3927 | FAX 3909 |
| No.12 | 理学部C館 | 半固定型 | (東山)理学部C館警務員室 | 理学部・理学研究科 | 請負者社員(当日の勤務者) | | 2396 | |
| No.13 | 総合校舎 | 半固定型 | (東山)総合校舎警務員室 | 情報文化学部・情報科学研究科 | 請負者社員(当日の勤務者) | 浅井 功明 | 3500 | |
| No.14 | 東山指令局 | 可搬型 | (東山)災害対策統括本部 | 施設管理部施設企画課 | 総務掛長 | 佐藤 收 | 2063 | チャイム機能あり |
| No.15 | 災害対策室 | 可搬型 | (東山)環境総合館 災害対策室 | 災害対策室 | 助教授 | 飛田 潤 | 3754 | チャイム機能あり |
| No.16 | 東山守衛所 | 可搬型 | (東山)守衛所 | 施設管理部施設整備課環境管理室 | 請負者社員(当日の勤務者) | 永坂 正弘 | 4917 | チャイム機能あり |
| No.17 | 国際嚶鳴館 | 可搬型 | (山手)国際嚶鳴館事務室 | 学生総合支援課 | 人材派遣会社社員 | 島田 民子 | 832-2736 | |
| No.18 | 留学生会館 | 可搬型 | (陶生町)留学生会館事務室 | 国際課 | 国際交流会館社員 | 兼松 英代 | 853-2901 | |
| No.19 | 鶴舞指令局 | 可搬型 | (鶴舞)病棟防災センター | 医学部・医学系研究科管理課 | 請負者社員(当日の勤務者) | | 82-2832 | |
| No.20 | 鶴舞エネセン | 可搬型 | (鶴舞)エネルギーセンター中央監視室 | 医学部・医学系研究科管理課 | 請負者社員(当日の勤務者) | | 82-2822 | |
| No.21 | 大幸指令局 | 可搬型 | (大幸)保健学科本館事務室 | 医学部・医学系研究科管理課 | 会計掛長 | 田中 暢彦 | 82-1511 | |

※ 半固定型防災無線設備の設置場所は、別図のとおり

●印は、受信状況の確認

名古屋大学防災無線設備（屋外）取扱者一覧表

| 区分(設置番号) | 局名称 | 種類 | 設置場所 | 取扱者所属 | 取扱者職名 | 取扱者 | 連絡先 | 備考 |
|----------|-------|------|------------------|----------------|---------|--------|------|----------|
| No. 1 | 事務局北 | 半固定型 | (東山)本部2号館北 | 施設管理部施設管理課 | 施設管理掛主任 | 新美 雅則 | 2138 | |
| No. 2 | 屋外運動場 | 半固定型 | (東山)総合保健体育科学センター | 総合保健体育科学センター | 事務掛主任 | 荒谷 勝彦 | 5752 | |
| No. 3 | 共同教育 | 半固定型 | (東山)共同教育研究施設1号館 | エコトピア科学研究機構 | 事務掛主任 | 伊藤 真由美 | 5264 | |
| No. 4 | 農学部 | 半固定型 | (東山)農学部温室西 | 農学部・生命農学研究科 | 管理掛主任 | 尾関 光徳 | 5268 | |
| No. 5 | 理学部 | 半固定型 | (東山)環境総合館西 | 理学部・理学研究科 | 管理掛主任 | 小林 祐 | 2804 | |
| No. 6 | 工学部東 | 半固定型 | (東山)工学部7号館A棟東 | 工学部・工学研究科 | 専門職員 | 鈴木 照子 | 3133 | FAX 3134 |
| No. 7 | 工学部西 | 半固定型 | (東山)工学部研究科1号館西 | 工学部・工学研究科 | 専門職員 | 山根 みち子 | 2732 | FAX 3180 |
| No. 8 | 図書館西 | 半固定型 | (東山)情報文化学部北 | 情報文化学部・情報科学研究科 | 会計掛長 | 福田 重美 | 4718 | |
| No. 9 | 経済学部 | 半固定型 | (東山)経済学部北 | 経済学部 | 会計掛長 | 岡部 衛 | 2356 | |

※ 設置場所は、別図のとおり

●印は、受信状況の確認報告

名古屋大学地震防災訓練におけるアマチュア無線による情報伝達訓練計画

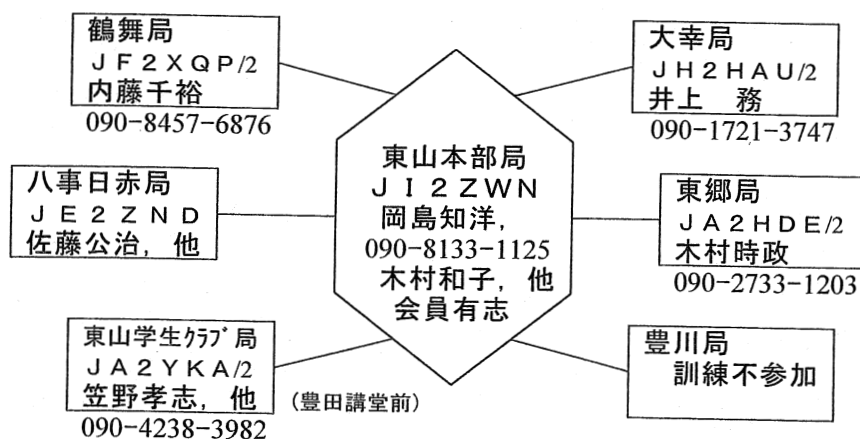
名古屋大学教職員無線クラブ「J I 2 ZWN」による
アマチュア無線情報伝達訓練の詳細

日 時 平成17年10月12日(水) 10:40~14:30

訓練方法

1. 訓練周波数は、433.60MHz(F3E)とし、145.08MHz(F3E)を予備とします。
2. 基本交信は、東山環境総合館の本部局(J I 2 ZWN)から各局に呼びかけ、各局がそれに応答するという形で行います。
3. 本部局、各局一覧

| 局 名 | コールサイン | オペレータ |
|---------------------------|----------------------|---------------------|
| 東山本部局 | J I 2 ZWN | 岡島知洋, 木村和子 他会員有志 |
| 鶴舞局 | J F 2 X Q P / 2 | 内藤千裕 |
| 大幸局 | J H 2 H A U / 2 | 井上 務 |
| 東郷局 | J A 2 H D E / 2 | 木村時政 |
| 豊川局 | 無線のオペレーター不在のため、訓練不参加 | |
| 東山学生クラブ局 (豊田講堂前移動) | J A 2 Y K A / 2 | 笠野孝志, 他 |
| 八事日赤局 | J E 2 Z N D | 佐藤公治, 他 |
| ※午後 東山本部局 (豊田講堂前移動) | J I 2 ZWN / 2 | 岡島知洋, 木村和子 他会員有志 |



4. シナリオの順に交信を進めますので、ワッチしていただき、順次手際よく交信してください。
5. 午前中の訓練時刻は 10:54~12:00で、午後の訓練時刻は 13:30~14:30です。
6. 実際の交信は別紙のシナリオに従ってください。
「訓練3回」、「相手の識別符号」、こちらは「自局の識別符号」、「電文」、どうぞ が基本パターンです。
くどいようですが、訓練の前置を忘れないようお願いします。
実際の情報(電文)は100パーセントシナリオ通りでなくても要旨さえ間違えなく伝達できれば結構です。

基本シナリオ

| 時刻 | 訓練項目・担当者 | 訓練概要と訓練通信文 |
|-----------------------|--------------------------------------|--|
| 10:40 ～ 10:53 | | 待機 「平成17年度 名古屋大学地震防災訓練行動マニュアル」による事項・行動を確認する。 |
| 10:54 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | 433.60MHz,145.08MHz にて、訓練開始宣言と隣接局への協力要請を行う。 ・訓練・訓練・訓練こちらはJ I 2 Z W N名古屋大学教職員無線クラブです。 ・ただいまから、14時30分頃まで、この周波数で名古屋大学地震防災訓練におけるアマチュア無線による情報伝達訓練を行います。 ・主な訓練の内容は、名古屋大学東山本部局と他の名古屋大学キャンパス等との通信訓練であります。 ・隣接各局におかれましては、ご理解ご協力を願います。 |
| 部局災害対策本部及び部局防災隊設置完了報告 | | |
| 10:55 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J F 2 X Q P。こちらはJ I 2 Z W N東山本部局です。 RSレポートと、「部局災害対策本部及び部局防災隊」の設置状況について報告願います。どうぞ。 |
| 10:56 | 鶴舞局 J F 2 X Q P / 2 内藤千裕 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 Z W N。こちらはJ F 2 X Q P / 2鶴舞局です。 RSレポートは〇〇です。 「部局災害対策本部及び部局防災隊」の設置完了しました。どうぞ。 |
| | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・J F 2 X Q P。こちらはJ I 2 Z W N東山本部局です。鶴舞局の報告を確認しました。 |
| 10:57 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J H 2 H A U。こちらはJ I 2 Z W N東山本部局です。 RSレポートと、「部局災害対策本部及び部局防災隊」の設置状況について報告願います。どうぞ。 |
| | 大幸局 J H 2 H A U / 2 井上 務 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 Z W N。こちらはJ H 2 H A U / 2大幸局です。 RSレポートは〇〇です。 「部局災害対策本部及び部局防災隊」の設置完了しました。どうぞ。 |
| | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・J H 2 H A U。こちらはJ I 2 Z W N東山本部局です。大幸局の報告を確認しました。 |
| 10:58 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J A 2 H D E。こちらはJ I 2 Z W N東山本部局です。 RSレポートと、「部局災害対策本部及び部局防災隊」の設置状況について報告願います。どうぞ。 |
| | 東郷局 J A 2 H D E / 2 木村時政 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 Z W N。こちらはJ A 2 H D E / 2東郷局です。 RSレポートは〇〇です。 「部局災害対策本部及び部局防災隊」の設置完了しました。どうぞ。 |
| 10:59 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・J A 2 H D E。こちらはJ I 2 Z W N東山本部局です。東郷局の報告を確認しました。 |

| 時刻 | 訓練項目 ・担当者 | 訓練概要と訓練通信文 |
|--|---|---|
| 注① | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J A 2 Y K A。こちらはJ I 2 Z W N東山本部局です。 R Sレポートの報告願います。どうぞ。 |
| 注② | 東山学生クラブ局 (名古屋大学アマチュア無線研究会) (豊田講堂前移動) J A 2 Y K A / 2 笠野孝志 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 Z W N。こちらはJ A 2 Y K A / 2名古屋大学アマチュア無線研究会豊田講堂前移動局です。 R Sレポートは〇〇です。どうぞ。 |
| 11:00 | | |
| 注③ | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・J A 2 Y K A。こちらはJ I 2 Z W N東山本部局です。名古屋大学アマチュア無線研究会からの報告を確認しました。 |
| 11:01 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J E 2 Z N D。こちらはJ I 2 Z W N名古屋大学教職員無線クラブ東山本部局です。 R Sレポートの連絡願います。どうぞ。 |
| | 八事日赤局 (名古屋第二赤十字病院アマチュア無線クラブ) J E 2 Z N D 佐藤公治 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 Z W N。こちらはJ E 2 Z N D名古屋第二赤十字病院アマチュア無線クラブです。 R Sレポートは〇〇です。どうぞ。 |
| 11:02 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・J E 2 Z N D。こちらはJ I 2 Z W N東山本部局です。名古屋第二赤十字病院アマチュア無線クラブからの連絡を確認しました。 |
| <p>※ 11:25 ~ 11:35 ごろに、総長・理事の視察があるのでそのときは、J A 2 Y K A から、東山本部局J I 2 Z W Nに連絡したあと、再度上記 注①, 注②, 注③の交信を行うものとする。</p> <p>J A 2 Y K A から、東山本部局J I 2 Z W Nへの連絡文及びその応答</p> | | |
| 11:25 ~ 11:35 ごろ | J A 2 Y K A / 2 | ・J I 2 Z W N。こちらはJ A 2 Y K A / 2名古屋大学アマチュア無線研究会豊田講堂前移動局です。 再度の情報伝達訓練を願います。 |
| | J I 2 Z W N | ・了解。J A 2 Y K A。こちらはJ I 2 Z W N東山本部局です。それではただいまより再度の交信を行います。 |
| | 引き続き上記 注①, 注②, 注③ の順に交信を行う。 | |

| 安否確認報告 | | |
|--------|--|---|
| 時刻 | 訓練項目 ・担当者 | 訓練概要と訓練通信文 |
| 11:37 | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J F 2 X Q P。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。 安否確認の報告を願います。どうぞ。 |
| | 鶴舞局 J F 2 X Q P /2 内藤千裕 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 ZWN。こちらはJ F 2 X Q P /2 鶴舞局です。 安否を報告します。教職員〇〇人, 学生〇〇人, 業者等〇〇人の安否を確認しました。どうぞ。 |
| 11:38 | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・J F 2 X Q P。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。鶴舞局の報告を確認しました。 |
| | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J H 2 H A U。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。 安否確認の報告を願います。どうぞ。 |
| 11:39 | 大幸局 J H 2 H A U /2 井上 務 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 ZWN。こちらはJ H 2 H A U /2 大幸局です。 安否を報告します。教職員〇〇人, 学生〇〇人, 業者等〇〇人の安否を確認しました。どうぞ。 |
| | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・J H 2 H A U。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。大幸局の報告を確認しました。 |
| 11:40 | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J A 2 H D E。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。 安否確認の報告を願います。どうぞ。 |
| | 東郷局 J A 2 H D E /2 木村時政 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 ZWN。こちらはJ A 2 H D E /2 東郷局です。 安否を報告します。教職員〇〇人, 学生〇〇人, 業者等〇〇人の安否を確認しました。どうぞ。 |
| 11:41 | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・J A 2 H D E。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。東郷局の報告を確認しました。 |
| | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J A 2 Y K A。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。 安否確認の報告を願います。どうぞ。 |
| 11:42 | 東山学生クラブ局 (名古屋大学アマチュア無線研究会) (豊田講堂前移動) J A 2 Y K A /2 笠野孝志 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 ZWN。こちらはJ A 2 Y K A /2 名古屋大学アマチュア無線研究会豊田講堂前移動局です。 安否を報告します。学生〇〇人の安否を確認しました。どうぞ。 |
| | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・J A 2 Y K A。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。名古屋大学アマチュア無線研究会からの報告を確認しました。 |

| 時刻 | 訓練項目 ・担当者 | 訓練概要と訓練通信文 |
|-------|--|---|
| 11:43 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | <ul style="list-style-type: none"> ・訓練・訓練・訓練, J E 2 Z N D。こちらは J I 2 Z W N 名古屋大学教職員無線クラブ東山本部局です。本学各団地の安否確認の情報を傍受できましたでしょうか連絡を願います。どうぞ。 |
| | 八事日赤局 (名古屋第二赤十字病院 アマチュア無線クラブ) J E 2 Z N D 佐藤公治 | <ul style="list-style-type: none"> ・訓練・訓練・訓練, J I 2 Z W N。こちらは J E 2 Z N D 名古屋第二赤十字病院アマチュア無線クラブです。名古屋大学各団地の安否確認の情報を傍受できました。どうぞ。 |
| 11:44 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | <ul style="list-style-type: none"> ・ J E 2 Z N D。こちらは J I 2 Z W N 東山本部局です。名古屋第二赤十字病院アマチュア無線クラブからの連絡を確認しました。 |
| | | |

| 被害状況の報告 | | |
|---------|---|---|
| 時刻 | 訓練項目 ・担当者 | 訓練概要と訓練通信文 |
| 11:45 | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J F 2 X Q P。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。 被害状況の報告を願います。どうぞ。 |
| | 鶴舞局 J F 2 X Q P / 2 内藤千裕 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 ZWN。こちらはJ F 2 X Q P / 2 鶴舞局です。 被害状況を報告します。負傷者〇〇人, 施設の被害は〇〇です。どうぞ。 |
| 11:46 | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・J F 2 X Q P。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。鶴舞局の報告を確認しました。 |
| | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J H 2 H A U。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。 被害状況の報告を願います。どうぞ。 |
| 11:47 | 大幸局 J H 2 H A U / 2 井上 務 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 ZWN。こちらはJ H 2 H A U / 2 大幸局です。 被害状況を報告します。負傷者〇〇人, 施設の被害は〇〇です。どうぞ。 |
| | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・J H 2 H A U。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。大幸局の報告を確認しました。 |
| 11:48 | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J A 2 H D E。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。 被害状況の報告を願います。どうぞ。 |
| | 東郷局 J A 2 H D E / 2 木村時政 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 ZWN。こちらはJ A 2 H D E / 2 東郷局です。 被害状況を報告します。負傷者〇〇人, 施設の被害は〇〇です。どうぞ。 |
| 11:49 | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・J A 2 H D E。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。東郷局の報告を確認しました。 |
| | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J A 2 Y K A。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。 被害状況の報告を願います。どうぞ。 |
| 11:50 | 東山学生クラブ局 (名古屋大学アマチュア無線研究会) (豊田講堂前移動) J A 2 Y K A / 2 笠野孝志 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 ZWN。こちらはJ A 2 Y K A / 2 名古屋大学アマチュア無線研究会豊田講堂前移動局です。 被害状況を報告します。負傷者〇〇人, 施設の被害は〇〇です。どうぞ。 |
| | 東山本部局 J I 2 ZWN 岡島知洋 木村和子 | ・J A 2 Y K A。こちらはJ I 2 ZWN東山本部局です。名古屋大学アマチュア無線研究会からの報告を確認しました。 |

| 時刻 | 訓練項目 ・担当者 | 訓練概要と訓練通信文 |
|--|--|--|
| 11:51 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, J E 2 Z N D。こちらはJ I 2 Z W N名古屋大学教職員無線クラブ東山本部局です。名古屋大学で負傷者〇〇人がありますが, そちらの病院での受け入れ, 手当は可能でしょうか。 |
| | 八事日赤局 (名古屋第二赤十字病院 アマチュア無線クラブ) J E 2 Z N D 佐藤公治 | ・訓練・訓練・訓練, J I 2 Z W N。こちらはJ E 2 Z N D名古屋第二赤十字病院アマチュア無線クラブです。名古屋大学の負傷者〇〇人, 当病院での受け入れ, 手当可能です。 |
| 11:52 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・J E 2 Z N D。こちらはJ I 2 Z W N東山本部局です。名古屋第二赤十字病院アマチュア無線クラブからの連絡を確認しました。 |
| 11:53 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | ・訓練・訓練・訓練, こちらはJ I 2 Z W N名古屋大学教職員無線クラブ 東山本部局です。名古屋大学地震防災訓練におけるアマチュア無線による情報伝達訓練, 午前の部を終了します。引き続いて13時30分から午後の部を行いますので, 隣接各局におかれましては, ご理解ご協力を願います。 |
| <p>※ 午前の交信終了後, 東山本部局の岡島知洋が災害対策統括本部に報告する。 「アマチュア無線による訓練交信, 午前の部を滞りなく終了したので報告します。引き続き13時30分から午後の部を行います。」 報告は, 災害対策統括本部7498番に電話連絡するものとする。</p> | | |

| 時刻 | 訓練項目 ・担当者 | 訓練概要と訓練通信文 |
|---|---|---|
| 午後の部（豊田講堂前から移動運用） | | |
| 13:30 ～ 14:20 | 豊田講堂前移動局 J I 2 Z W N / 2 岡島知洋 木村和子 他会員有志 | <ul style="list-style-type: none"> ・訓練・訓練・訓練，こちらはJ I 2 Z W N / 2 名古屋大学教職員無線クラブ豊田講堂前移動局です。各移動局並びに各局さん，このメッセージが受信できておりましたら，受信場所・RSレポート，周囲の状況等について応答願います。 |
| | 会員各局その他 J F 2 X Q P J H 2 H A U J A 2 H D E J A 2 Y K A J R 2 N P I J A 2 G V Q J S 2 R N W J A 2 E P R ・ ・ | <ul style="list-style-type: none"> ・訓練・訓練・訓練，J I 2 Z W N。こちらはJ O 2 O O O です。O O O O に移動中です。RSはO O です。 例文 <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック塀が倒壊しており緊急車両の通行の妨げとなっています。 ・校舎の窓ガラスが多数割れて危険な状態になっています。 ・土中の水道管から水が噴き出しています。 ・電線が切れて垂れ下がっています。 |
| | 豊田講堂前移動局 J I 2 Z W N / 2 岡島知洋 木村和子 他会員 | <ul style="list-style-type: none"> ・J O 2 O O O。こちらはJ I 2 Z W N / 2 名古屋大学教職員無線クラブ豊田講堂前移動局です。J O 2 O O O 局からの連絡を確認しました。 ・他にブレイク局ありませんか？ |
| 14:20 に移動運用を終了し，環境総合館のJ I 2 Z W N 東山本部局に戻り，訓練終了のアナウンスをする。 | | |
| 14:30 | 東山本部局 J I 2 Z W N 岡島知洋 木村和子 | <ul style="list-style-type: none"> ・訓練・訓練・訓練，こちらはJ I 2 Z W N 名古屋大学教職員無線クラブです。ただ今を持ちまして，本日の名古屋大学地震防災訓練におけるアマチュア無線による情報伝達訓練を終了します。訓練に参加していただきました各局，お疲れ様でした。隣接各局におかれましては，ご理解ご協力，ありがとうございました。 |
| | | |

地震防災セミナー・防災訓練講演会

大地震の発生が危惧される東海地方にありながら、名古屋大学の防災体制・危機管理体制は未だに不十分である。一部建物の既存不適格、災害時における実験用危険物による二次災害の発生、通路への備品放置による避難路閉塞、警戒宣言発令時の帰宅困難等、深刻な状況がある。また、突発災害時に一人一人がどのように行動するか、日頃の備えとして何が必要かなど、被害軽減のために個人の心構えも重要である。まずは、本学の全構成員が、この地域の災害ハザードを最適に理解し、地震対策の必要性を合意することが肝心であり、このために部局単位や全学向けに各種の地震防災セミナーや講演会を実施している。

実施概要

平成 16 年

| | | |
|--------|---------------------|------------|
| 5月27日 | 農学部・生命農学研究科「防災講演会」 | 参加者約 100 名 |
| 6月18日 | 環境学研究科「防災マニュアル検討集会」 | 参加者約 20 名 |
| 9月1日 | 本部執行部 地震防災訓練・防災対策会 | 参加者約 10 名 |
| 11月10日 | 国際言語文化研究科「防災講演会」 | 参加者約 50 名 |
| 11月12日 | 全学地震防災訓練「防災講演会」 | 参加者約 400 名 |

平成 17 年

| | | |
|--------|-----------------|------------|
| 10月12日 | 全学地震防災訓練「防災講演会」 | 参加者約 300 名 |
|--------|-----------------|------------|

平成16年度 第2回
名古屋大学地震防災訓練

平成16年11月12日(金)

「来るべき大地震」に備えて

災害対策室長 鈴木康弘
(地震火山・防災研究センター)

ポイント

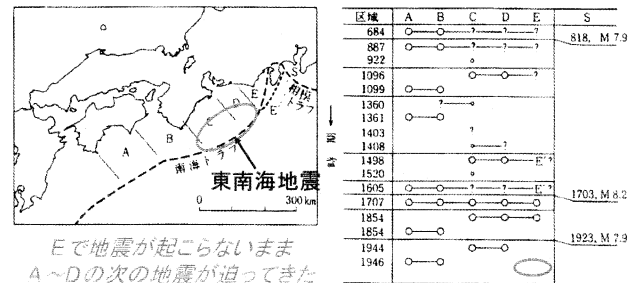
- 「来るべき地震」を最適に理解する
 ・ 「来てから考える」はナンセンス
- コトの重大さを理解する
- 「安全・安心」に向かって一歩 前へ
 ・ 大学も社会も

大学のリーダーシップが期待されている

まず注目すべきは「東海地震」

唯一、地震予知が可能かもしれない地震

1978大規模地震対策特別措置法



Eで地震が起こらないまま
A~Dの次の地震が追ってきた

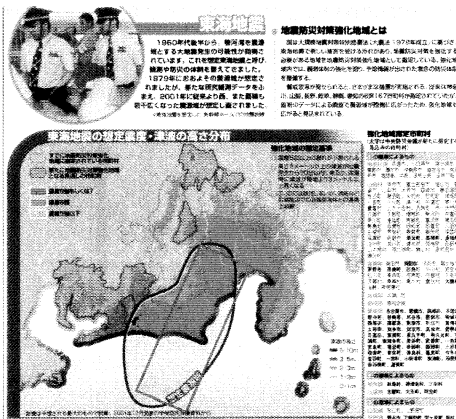
空白域!

2004年9月5日の紀伊半島南東沖地震との関係が問題視

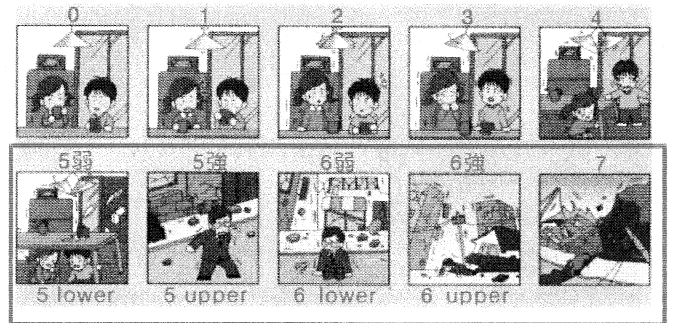
「想定東海地震」震源域の見直し(2001年)

西へ拡張

- 愛知県内にも震度6以上の範囲が広がる
- 「地震対策強化地域指定」
2002年
- 大都市も含まれることになり、対策が見直される



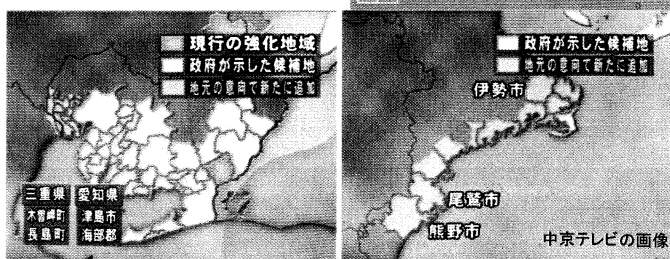
「震度6弱」はかなり怖い!



震度6になると建物は一部壊れる。(図は気象庁による)

壊れても死なないようにすることが大事!

地震対策強化地域
(東海地震)



東海地震を巡る最近の状況変化

- 2001年「東海地震震源域」の見直し
- 2002年「地震防災対策強化地域」の拡大
- 2003年「東海地震対策大綱」の制定
- 2004年「東海地震関連情報」の改定

2003年 5月30日 朝日新聞

耐震化で死者5000人減

東海地震 包括的な対策大綱

「突発発生」にも対応

2003年 中央防災会議

情報公開
対応の柔軟化

【結合型】に災害対応能力の向上...
【結合型】に災害対応能力の向上...
【結合型】に災害対応能力の向上...

それでも、東海地震は起こらないかもしれない

駿河湾の中だけで地震が起きたことはない。
駿河湾の中では必ずしも1世紀に一回地震が起きているわけではなさそう。

宝永 1707 宝永東海地震
安政 1854 安政東海地震
昭和 1944 昭和東南海地震

地震防災対策推進地域 (東南海・南海地震)

東海3県 (3県で... 206市町村)
東海3県 (3県で... 206市町村)
東海3県 (3県で... 206市町村)

推進地域 (重層... 70市町村)
推進地域 (三層... 66市町村)

東京テレビの画像

安政東海地震1854年と東南海地震1944年の比較

津波

1854年安政東海地震
1944年東南海地震

東海地震関連情報の改訂

観測できた場合の体制強化 (2004.1.7)

- 注意報が正式発足
- 青・黄・赤の判断基準を明確化

大都市名古屋の帰宅困難者問題への配慮

| これまでの対応 | | 新たな対応 | |
|---------|---------------------------------|----------------------|-------------|
| 情報名 | 主な防災対応 | 情報名 | 主な防災対応 |
| 注意報 | ● 学校閉校 ● 施設閉鎖 ● 公共交通機関の運休 | ● 注意報 ● 注意報発令後4段階 | ● 注意報発令後4段階 |
| 観測情報 | ● 観測結果 (震度1以上) | ● 東海地震注意情報 | ● 東海地震注意情報 |
| 緊急情報 | ● 発生 | ● 東海地震緊急情報 | ● 東海地震緊急情報 |

必ず起こる東南海地震

次は2030年頃？
東海地震と一緒に起こるかも？

東南海地震の想定震源域
南海地震の想定震源域

約150年間隔で起きている

1800年 - 1804年 (安政)
1854年 (安政)
1944年 (昭和)
1946年 (昭和)
1977年 (安永)
1805年 (慶応)
1498年 (徳和)

南海トラフ沿いに起きた巨大地震の震源域

東南海地震(1944年)は小型だった！

1854年安政東海地震
1944年東南海地震

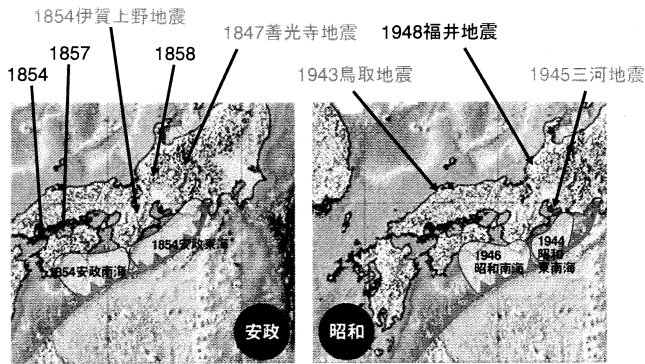
要注意！

1944年よりも大きめの想定が必要

6以上
6弱
5強

東海・東南海・南海地震が同時発生した時の平均震度

海溝型地震に連動する内陸直下型地震！



「来るべき大地震」の予測結果

[名古屋市内]

- 東海地震：震度5強～6弱
- 東海・東南海連動型：震度6弱
- 活断層地震：震度5強(近傍では局地的に6強～7)

→地震予知偏重は弊害が大きい

- 有効な地震予知情報が出る可能性は6%?!
(安藤教授：地震火山・防災研究センター)

名古屋大学の地震防災の課題

- (1)「マニュアル」の整備・徹底
 - ・ いざという時の役割分担
- (2)「まず我が身を守れ！」の意味
 - ・ もちろん非常食は自己責任
- (3)「安否確認」
 - ・ 安否を知らせるのは各自の責任
- (4)「帰宅困難」問題
- (5)「研究教育環境の安全性」の改善
 - ・ 昭和55年以前の建物は要注意



キャンパス内の
身近な危険



理由の如何によらず、放置することは許されない！

東海地方において「来るべき大地震」とは？

想定される3つのシナリオ

- 1. 東海地震(10年以内??)
- 2. 東南海地震(+東海地震 30年後?)
- 3. 内陸活断層地震
(東南海地震の30年前～10年後に集中発生)

被害を巡る危機的な状況 (福和教授：環境学研究所)

- 「強化地域」と「推進地域」の被害
人口約4000万人、建物1000万軒のうち
被害は100万軒、死者3万人、総額100兆円
- 3割が耐震性に問題×改修費170万＝5兆円(自助)
- 被災100万軒×(仮設住宅350万円+再建補助300万円+上乗せ200万+がれき撤去代)＝10兆円
- 国の歳出総額 82.1兆円
- 阪神・淡路大震災や新潟県中越地震には耐えられるが...

名古屋大学の建物の耐震性

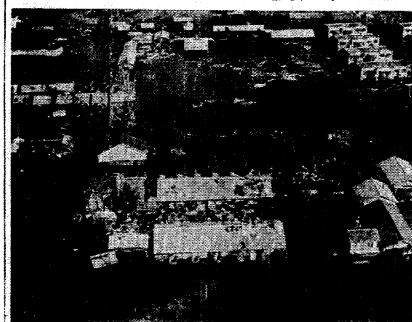


【原則】

- 注意情報発令後：赤色の建物には留まらない！
- 突発的発災後も速やかに退去！

名古屋は学生ボランティア発祥の地

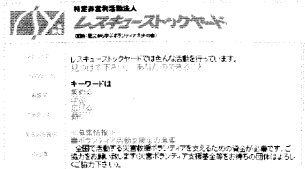
死傷、不明すでに五千余人
とくにひどい愛知、三重



昭和三四年 伊勢湾台風

水浸しとなった名古屋市南区六条町付近 (名古屋大学関係資料館蔵)

災害対応は行政だけの仕事ではない

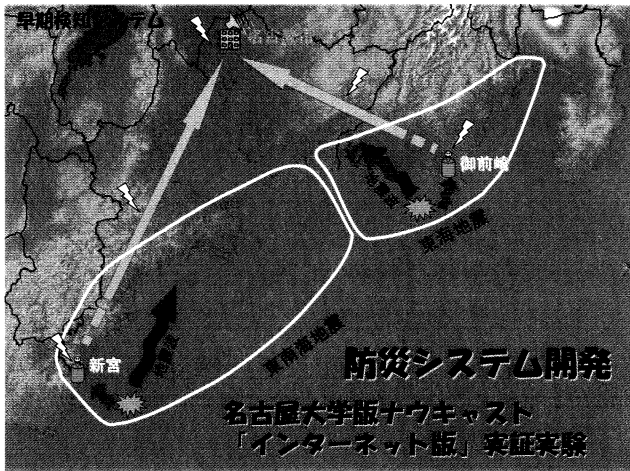


避難者 名古屋を避難場所
水害支援活動について

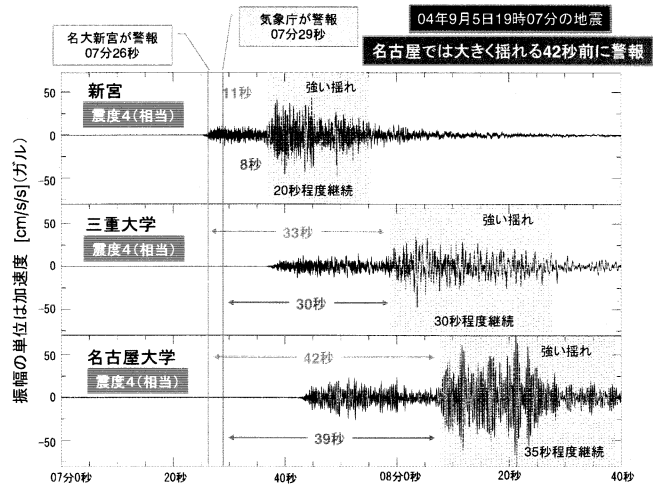
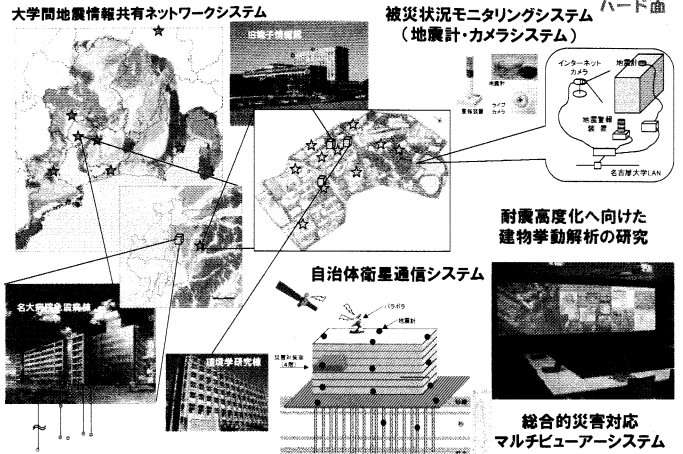
- 9/29の台風16号が名古屋を直撃しました。
- 9/30の夜に名古屋市内に避難者が増えました。
- 9/30の夜に名古屋市内に避難者が増えました。
- 9/30の夜に名古屋市内に避難者が増えました。



若者の「心と力」が地域を守る鍵！



学内と地域とを共に守る — 災害対策室の任務 —



実証実験にご協力下さい！ (ソフト無料配布中)

- ナウキャストの説明ページは下記のところにあります。
<http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/~hayashi/nunowcast/>

ソフトウェアは下記からダウンロードできます。
<http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/~hayashi/nunowcast/nnowcast040930.zip>

「東海豪雨」の反省を踏まえて

名古屋大学災害対策室
Disaster Management Office Nagoya University

2002年、想定東海地震の震源域が見直され200万都市名古屋も地震防災対策強化地域に指定されました。また、近い将来想定される東南海地震では東海地震を上回る揺れが想定されています。2万人の学生・職員を擁する名古屋大学も真剣な対策を迫られています。

自分の命は自分で守る
自分たちの命は自分たちで守る

が防災の基本です。東海地域の防災力向上を積極的に支援していくため、名古屋大学災害対策室が発足しました。

2004.8.30のホームページ

★ 台風16号が接近中 ★
30日14時47分、愛知県西部に大雨、暴風、高潮警報が発表され、沿岸部を中心に強い揺れが観測されました。2004年9月30日14時50分、気象庁から「台風16号」に関する情報が発表されました。

1) 名古屋市の避難マップ
名古屋市が作成して各戸配布した「あなたの家の地震マップ」全16区の地図を並べて展示中です。(8月20日)

2) 第4回名古屋大学防災アカデミー
日時: 9月29日(木)17:30~19:00
場所: 情報総合センター1階
講師: 辻本邦彦(工学部教授)「治水と水防」
三浦一(工学部教授)「防災と危機管理」

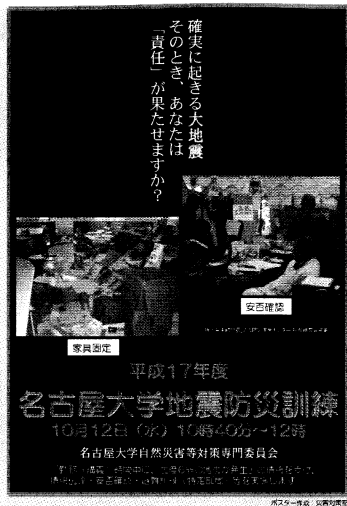
まとめ — 大学人に求められること —

- 事実を的確に把握
- 問題意識を鮮明にする
- 防災力向上意識を高める
- 方策を短期的・長期的に発想する
- 地域社会が幸福になるように役割分担をする

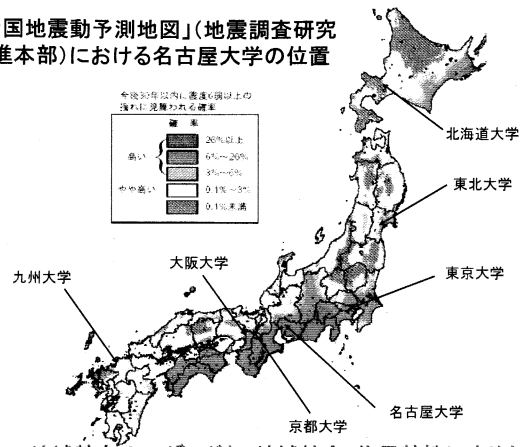
平成17年度 名古屋大学 地震防災訓練

平成15年度から通算4回目

平成17年10月12日(水)
国際防災の日



「全国地震動予測地図」(地震調査研究推進本部)における名古屋大学の位置

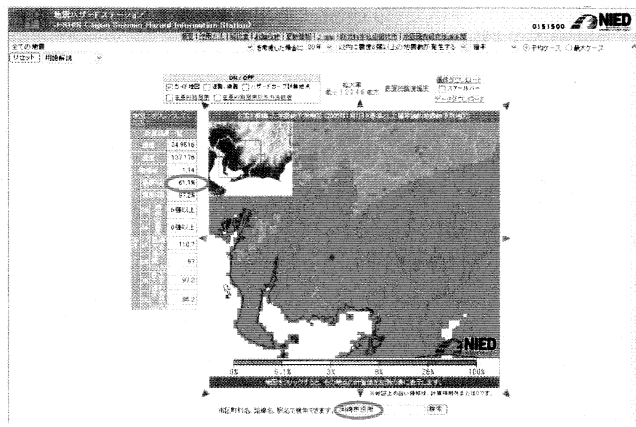


地域特有のハザードと、地域社会・住民特性に応じた最適な防災戦略の開発が求められている。

| 都道府県名 | 地点名 | 震度6弱以上 | 震度5強以上 |
|-------|---------|--------|--------|
| 愛知 | 名古屋市役所 | 35.7% | 97.1% |
| | 名古屋市千種区 | 35.6% | 96.9% |
| | JR名古屋駅 | 59.2% | 98.6% |
| | 名古屋市南区 | 64.7% | 98.5% |
| | 西尾市役所 | 77.1% | 98.3% |
| | 豊橋市役所 | 88.8% | 97.8% |
| | 岡崎市役所 | 61.1% | 97.2% |
| 田原市役所 | 86.1% | 97.9% | |
| 静岡 | 静岡市役所 | 86.0% | 97.2% |
| | 御前崎市役所 | 91.2% | 98.0% |
| 三重 | 津市役所 | 58.5% | 98.1% |
| | 四日市市役所 | 48.2% | 97.9% |
| | 尾鷲市役所 | 64.5% | 94.5% |
| 東京 | 千代田区 | 13.1% | 99.4% |
| | 練馬区 | 8.6% | 98.1% |
| | 新宿区 | 10.4% | 98.8% |
| | 荒川区 | 14.2% | 99.6% |
| | 江東区 | 39.7% | 100.0% |
| 千葉 | 浦安 | 26.6% | 100.0% |
| 大阪 | 大阪市役所 | 21.7% | 91.5% |
| 京都 | 京都市役所 | 6.0% | 82.4% |

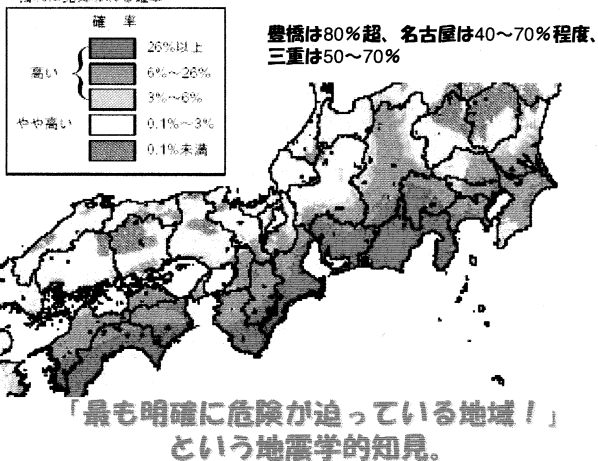
各地点の 地震発生確率 (今後30年間)

防災科学技術研究所
「地震ハザードステーション」により作成



防災科学技術研究所ホームページ

今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率



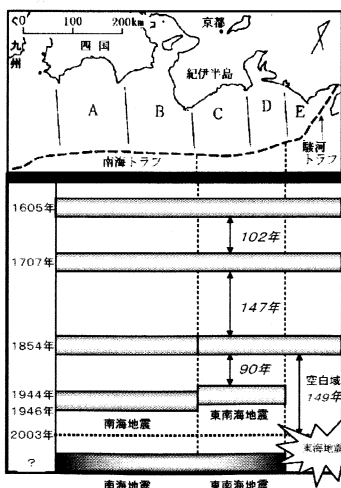
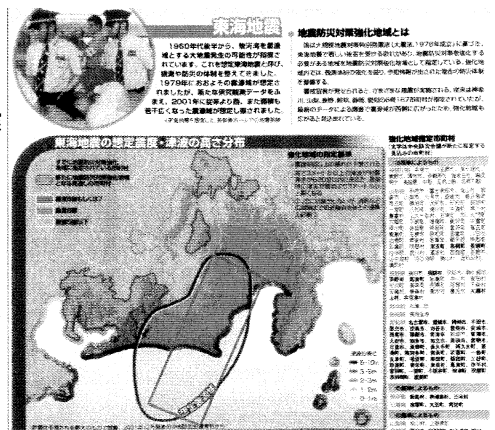
名古屋における防災意識の持ち方

- 「大地震は確実に来る」という認識の徹底
「地震はどこでも起きる」に感わされない
- 災害時の「責任」を真面目に考える
危険性が十分予測されている以上、「責任」も重い! (「予期しなかった…」は許されない)
- 事の重大さを理解する
今のみまでは「危機的」という認識
大学のリーダーシップが期待されている

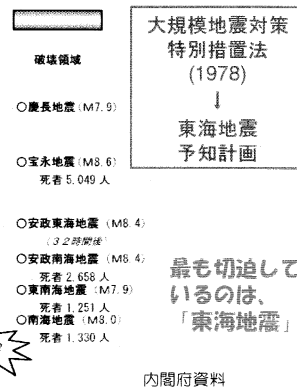


「想定東海地震」震源域の見直し(2001年)

- 西へ拡張
- 愛知県内にも震度6以上の範囲が広がる
- 「地震対策強化地域指定」
2002年
- 大都市も含まれることになり、対策が見直される



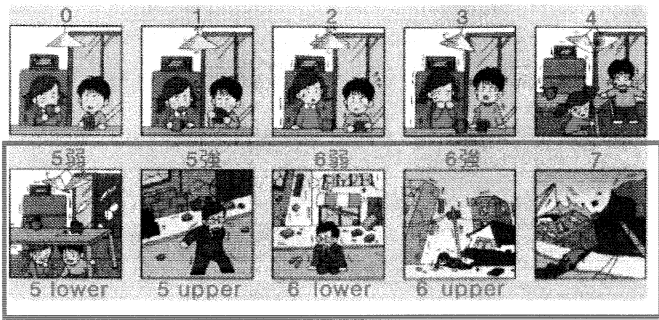
「東海地震」と「東南海・南海地震」に注意!



最も切迫しているのは、「東海地震」

内閣府資料

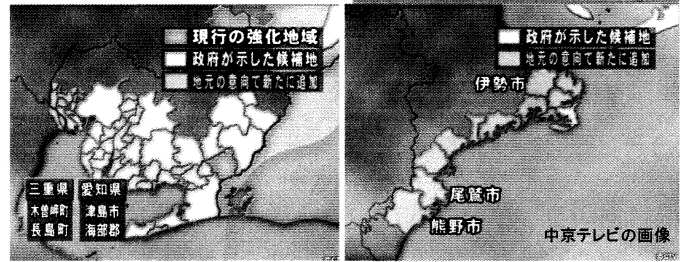
「震度6弱」はかなり怖い！



(図は気象庁による)

震度6になると建物は一部壊れる。
しかし、耐震化を怠らなければ死なないレベル！

地震対策強化地域 (東海地震)



中京テレビの画像

東海地震対策を巡る最近の状況

- 2001年「東海地震震源域」の見直し
- 2002年「地震防災対策強化地域」の拡大
- 2003年「東海地震対策大綱」の制定
- 2004年「東海地震関連情報」の改定

2005年「首都直下地震対策大綱」
(消えた「首都機能移転」はなぜ?)



対策の方向性

2003年

中央防災会議

東海地震関連情報の改訂

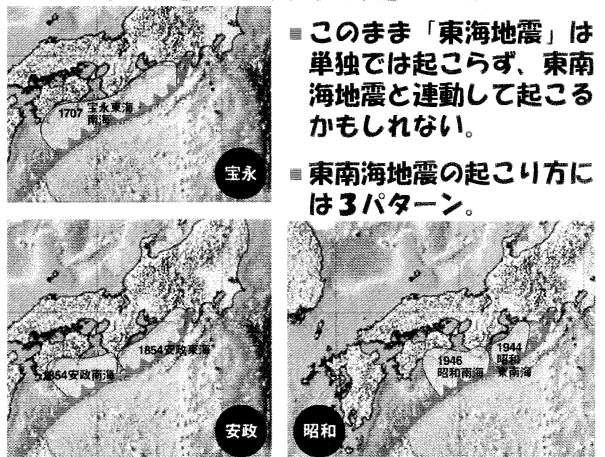
観測できた場合の体制強化 (2004.1.7)

- 注意報が正式発足
- 青・黄・赤の判断基準を明確化

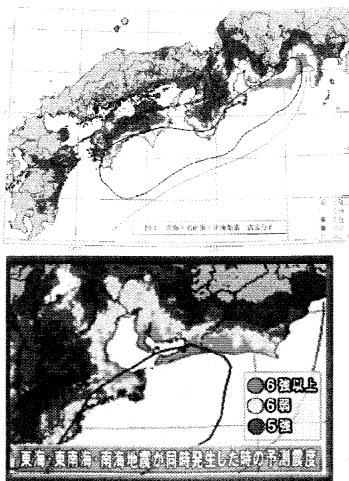
大都市名古屋の帰宅困難者問題への配慮

| | これまでの対応 | 新たな対応 |
|------|---------|-------|
| 情報名 | 注意報 | 注意報 |
| 観測情報 | 注意報 | 注意報 |
| 解説情報 | 注意報 | 注意報 |

「東海地震」は「東南海地震」と連動型かも？

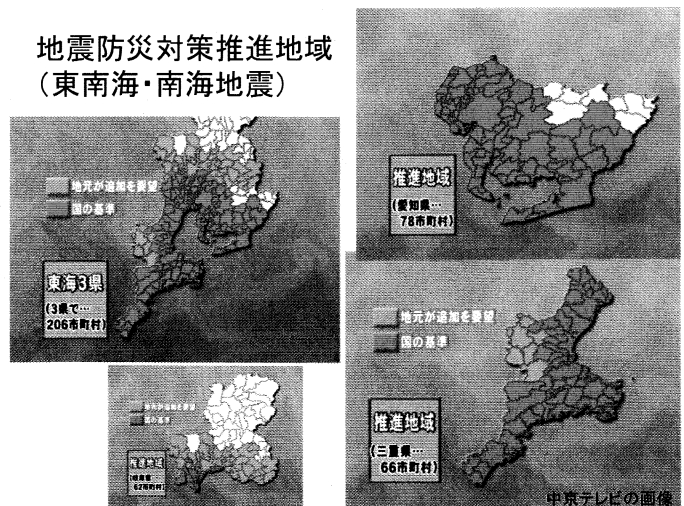


- このまま「東海地震」は単独では起こらず、東南海地震と連動して起こるかもしれない。
- 東南海地震の起こり方には3パターン。



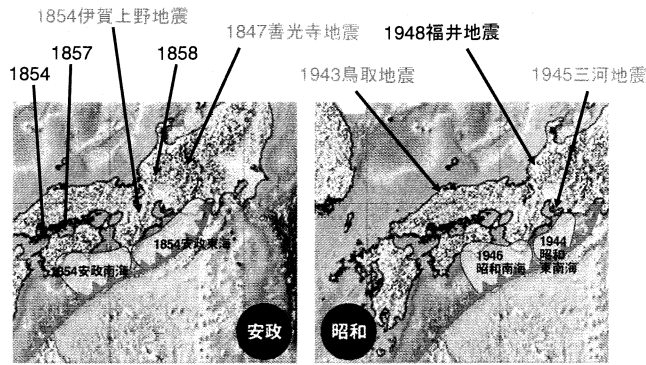
1944年の東南海地震よりも大きめの想定が必要

地震防災対策推進地域 (東南海・南海地震)



中京テレビの画像

東南海・南海地震の前後には直下型地震も多発！



東海地方において「来るべき大地震」とは？

想定される3つのシナリオ

- 1. 東海地震 (10年以内??)
- 2. 東南海地震 (+東海地震 30年以内?)
- 3. 内陸活断層地震
(東南海地震の30年前~10年後に集中発生既に「活動期」に入っている。)

「来るべき大地震」の震度予測

[名古屋市内]

- 東海地震: 震度5強~6弱
- 東海・東南海連動型: 震度6弱
- 活断層地震: 震度5強
(近傍では局地的に6強~7)

本訓練における
想定根拠



東海・東南海・南海地震 M8.5程度 vs. 首都直下地震 M7.3

| | | |
|---------|-----------------------|------------------------|
| ■ 想定死者数 | 2.8万 | 1.1万 |
| ■ 被害額 | 81兆円 | 112兆円 |
| ■ 人口 | 3250万 | 3350万 |
| ■ 面積 | 43,935km ² | 13,555km ² |
| ■ 人口密度 | 740人/km ² | 2,470人/km ² |
| ■ 死ぬ確率 | 0.09% | 0.03% |

- 死亡率3倍、被災地域面積3倍！
- 東海・東南海・南海地震は超広域災害！

地震予知は不確実



- 気象庁も前兆が起こる場所によっては、予知困難な場合があることを明言(2003年)。
- 「有効な地震予知情報が出る可能性は6%！」
(安藤教授：地震火山・防災研究センター)

→地震予知偏重は弊害が大きい

本訓練で突発地震を想定する根拠

「東海・東南海・南海地震」被害の危機的状況

- 人口約3300万人、建物1000万軒のうち
全壊家屋100万軒 → 死者2.8万人
- 被災100万軒 × (仮設住宅350万円 + 再建補助300万 + 上乗せ200万 + がれき撤去代) = 10兆円
- 被害総額 81兆円 (ちなみに国の歳出総額82兆円)

このままでは間違いなく破綻する。

- 現状で3割が耐震性に問題 × 改修費170万 = 5兆円
(個人が努力すれば被害を10兆円以上減らせる)
(内閣府の想定結果および福和教授資料)

本学の地震防災の当面の課題

- (1) 災害時の「責任」の明確化
 - 個人として、大学として負うべき責任は何か？
 - 「7口としての責任」「人道的責任」・・・
- (2) 「マニュアル」の整備・徹底
 - 責任と役割分担の明記
 - 災害対策の学内連携
- (3) 「安否確認」の効率化
 - 安否を把握するのは教育機関の責任
 - 知らせるのは各自の責任(常識)
 - 最適な支援システムの開発も必要

本学の地震防災の当面の課題(つづき)

- (4) 地域に対する責任
 - 防災意識啓発
 - 連携した役割分担
 - 実践 (それぞれの立場で)
- (5) 「学内安全性」の向上
 - 1981年以前の建物は要注意
 - 全国的な課題/対処法の確認
 - 室内の安全確保



「東海豪雨」の反省を踏まえて

「防災支援気象情報」の具体的設計と配信
 名古屋大学

名古屋大学気象情報センターは、災害地域の復旧に役立つ情報を提供することを目的として、生活に役立つ気象情報「防災支援気象情報」を開発しました。従来の気象情報とは異なり、災害発生時の状況に応じた情報を提供し、被災者の安全確保に貢献することを目的としています。

「防災支援気象情報」の具体的な設計と配信

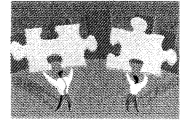
従来の気象情報とは異なり、災害発生時の状況に応じた情報を提供し、被災者の安全確保に貢献することを目的としています。

参加者受付中!

TOHIBA

—地球水循環研究センターおよび東芝との共同研究(実験中)—

まとめ — 大学人に求められること —



1. 事実を的確に把握
2. 問題意識を鮮明にする
3. 防災力向上意識を高める
4. 方策を短期的・長期的に発想する
5. 地域社会の幸福のため役割分担をする

留学生センター地震防災ワークショップ

留学生には地震の経験がない国の出身者も多く、わずかな揺れでも恐怖を感じる一方で、地震防災の必要性の教育を受けていないため、適切な防災準備や災害時の行動についての知識がないことが一般的である。

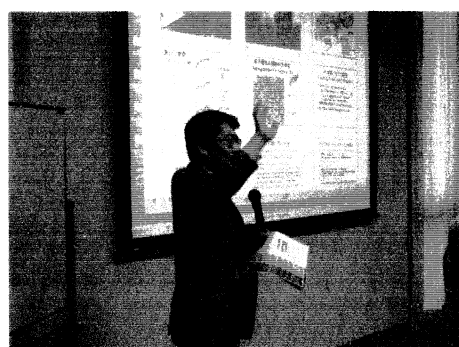
留学生センターと災害対策室が連携し、来日間もない留学生を対象としたワークショップを開催している。東海地域で予想される巨大地震、そのときの揺れや災害、身を守るための行動、室内の安全や非常用品の準備などについて、わかりやすく説明している。

参加者の質問などからも、日本人の防災活動とは異なる側面（災害時の言葉の問題、住宅の問題、安否確認など）があることがわかり、その経験も含めて留学生用地震防災ガイドの作成などの活動につなげている。

開催概要

- ・ 平成 15 年 12 月 16 日
- ・ 平成 16 年 11 月 16 日
- ・ 平成 17 年 11 月 15 日

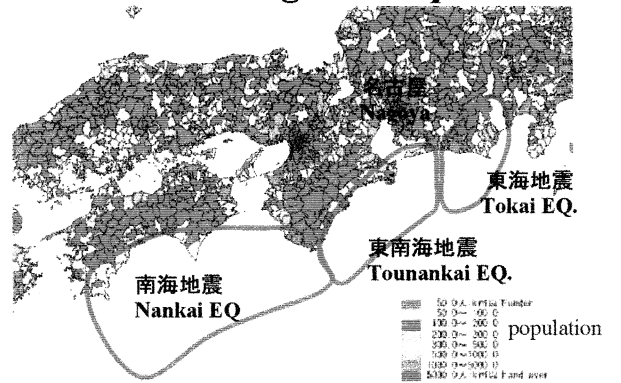
いずれも会場は留学生センター、参加者は 50 名程度



2004 年 11 月 16 日のようす



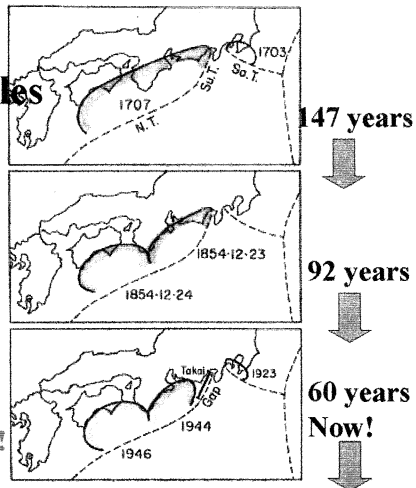
大地震三兄弟
The three large earthquakes



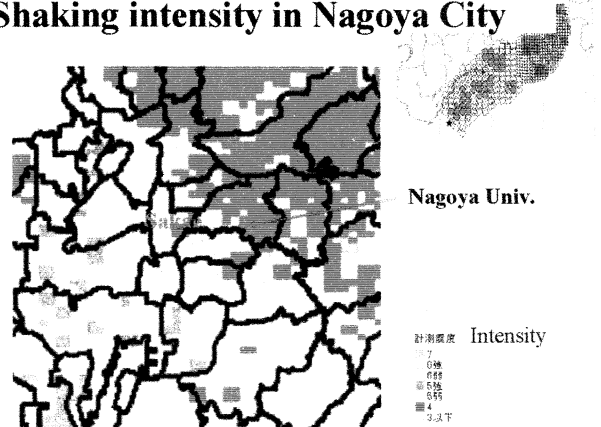
過去の地震
The past cycles

これから30年以内の発生確率が60~80%

Highly Probable, 60 to 80% for the next 30 years!



名古屋市揺れの大きさ
Shaking intensity in Nagoya City



3. そのとき何が起こる？

3. What happens?

- 家屋の倒壊 Houses collapse
- 火災 Fires outbreak
- 家具の転倒 Furniture overturn
- 津波 Tsunami (or seismic sea waves)



4. 大地震が発生したときの行動

4. Actions when a big earthquake occurs

- 最初の3秒：とても大切
落ち着け、身を守れ、できれば火を消せ、ドアを開ける。あわてて外へ飛び出すのはけがのもと（ただし倒壊の恐れがある建物ならすばやく逃げることも必要）
- The first 3 seconds : Important !
Stay calm, protect yourself, extinguish any flames (if possible) and open a door to secure an exit. Rushing outside will result in unnecessary injuries. (If there is a danger of building collapsing, you should evacuate to a safe place immediately.)

地震がおさまったら危険な場所から避難する。火を消し、実験などは中止して、家族や周囲の人の安全を確認。避難は落ち着いて周辺を確認し、エレベーターは使わない。講義中などは教員の指示に従う。

1 - 3 minutes:

After the shaking subsides, evacuate from dangerous place. Turn off any heaters and stoves, stop any experiments in your laboratory, check the safety of family members and others around you. When evacuating, be calm, watch out for dangerous objects, and do not use elevators. During class, follow the instruction of the teacher.

- 5-10分：安全なところに避難できたら情報収集、危険防止。
- 5-10 minutes: Once evacuated to a safe place, obtain information and prevent any dangers.
- 1時間：火事や救助の必要があれば、自分の安全に気をつけて手伝う。余震に注意。
- 1 hour: Assist to put out fires and rescue people if necessary, but make sure of your own safety. Be prepared for aftershocks.
- 1日以内：自分の状態を大学や所属部に伝える。連絡の方法を確認しておきましょう。
- Within a day: Report your situation to your School. Know how to contact in emergency.
- 3日：避難所で生活することもあります。食料や水を準備しておきましょう。
- 3rd day: You may live in the Emergency Shelter. Secure food and water.

屋外の場合 Outdoors

- 壊れそうな建物やブロック塀などから離れ、公園などの広いところへまず避難
- Stay away from buildings in danger of collapse and brick walls. Move into an open area such as a park.
- 乗り物に乗っていたときは、係の人の指示をよく聞いて行動する。指示がわからないときは周囲の人にも教えてもらう。
- While in a bus or train, follow instructions of the staff. If you cannot understand instructions, ask someone around you.

5. 大地震のための準備

5. Preparation for Big Earthquake Disaster

- 建物の安全 Earthquake resistant building
- 室内の安全 Safety in your room
 - 重い家具の固定(たんす、本棚、テレビ、ガラス)
 - Tall, heavy furnitures (locker, book shelf, TV, PC, glass objects etc.) should be fixed.
- 非常連絡の方法 Emergency Contact
- 避難場所と経路 Evacuate site and route
- 防災用品の準備 Emergency Supplies

防災アカデミー実施状況

地震防災連続セミナー（2003年度まで）

1. 東海地震・東南海地震の真の姿、安藤雅孝（災害対策室室長）、2003.1.15
2. 地震！そのときあなたは？－揺れと被害－、福和伸夫（環境学研究科教授）、2003.2.20
3. 地震と救急医療、武澤純（医学系研究科教授）、2003.4.25
4. 静岡大学における地震対策、里村幹夫（静岡大学教授）、2003.5.21
5. 学校施設の地震被害・耐震性と耐震改修、倉本洋（豊橋技術科学大学助教授）、2003.7.11
6. いのちを守る地震防災学 ～大震災に立ち向かう知恵と方法～、林春男（京都大学教授）、2003.9.25
7. 地震予知はできるのか？ そして名古屋大学の対応は？ 山岡耕春（災害対策室長）、2003.10.30
8. 災害社会史からみた名古屋の近世と近代、北原糸子（国立歴史民俗博物館客員教授）、2003.12.10
9. 火山防災から学ぶ、岡田弘（北海道大学教授）、2004.1.21
10. リスク・コミュニケーションと災害情報、吉川肇子（慶応義塾大学助教授）、2004.2.23

防災アカデミー（2004年度より）

1. 阪神・淡路大震災から10年目を迎えて－地域防災の劇的な変化とその方向性－、鈴木康弘（災害対策室室長）、2004.5.20
2. 現在と未来の強震動－地震動の観測と予測－、藤原広行（防災科学技術研究所プロジェクトディレクター）、2004.6.1
3. 科学の目で見ると大震災の記録：関東地震を例にして、武村雅之（鹿島建設小堀研究室部長）、2004.7.13
4. 治水と水防災、辻本哲郎（工学研究科教授）、2004.11.16（順延後の日程）
5. 歴史に見る地震と土砂災害、伊藤和明（元NHK解説委員）、2004.10.12
6. 木造住宅の耐震性能を考える－歴史・文化・技術の側面から－、平嶋義彦（生命農学研究科教授）、2004.11.11
7. 災害文化をめぐって－土石流を中心に－、笹本正治（信州大学人文学部教授）、2004.12.8
8. 地震発生予測に挑む－コンピュータ地震なまずの飼育法－、平原和朗（環境学研究科教授）、2005.4.21
9. 災害国に生きる私たち、石黒耀（作家）、2005.6.7
10. 間違いだらけの地震防災：学ぶべき本当の教訓と今やらなくてはいけないこと、目黒公郎（東京大学生産技術研究所教授）、2005.6.28
11. 成熟した自然災害観をはぐくむ：火山文化の視点から、藤井直之（環境学研究科教授）、2005.7.19
12. 災害時の排泄：出さなければならない理由・出せなくなるわけ、吉川羊子（泌尿器科医師・医学系研究科助手）、2005.9.6
13. 個人防災のオムニバス：家族を守る防災ツールなど、岡田成幸（名古屋工業大学教授）、2005.10.7
14. 三河地震60年目の真実、林能成・木村玲欧（災害対策室助手）、2005.11.7
15. 楽しいほうがいい～ゲームで学ぶ防災の知恵～、細川顕司（(財)市民防災研究所調査研究部長）、2005.12.12
16. 地震惚け日本人－長期評価の十年－、島崎邦彦（東京大学地震研究所教授）、2006.1.20

地震防災連続セミナー

主催：名古屋大学災害対策室
名古屋大学災害対策室会議

2002年、想定東海地震の震源域が見直され、200万都市名古屋も地震防災対策強化地域に指定されました。2万人の学生・職員を擁する名古屋大学も真剣な対策を迫られています。「自分の命は自分で守る」「自分たちの命は自分たちで守る」が防災の基本です。本年度発足した名古屋大学災害対策室では、名古屋大学の防災力向上を積極的に支援していくため、地震防災連続セミナーを開催することになりました。部局の防災担当者のみならず、多くの方の参加を御願いたします。

第1回

「東海地震・東南海地震の真の姿」

名古屋大学災害対策室長

(環境学研究科附属地震火山観測研究センター教授)

安藤雅孝

平成15年1月15日(水曜日) 16:30-18:30

本部2号館第3会議室

地震防災連続セミナー

主催：名古屋大学災害対策室
名古屋大学災害対策室会議



第2回

地震！ そのときあなたは？

一揺れと被害—

環境学研究科都市環境学専攻教授

福和伸夫

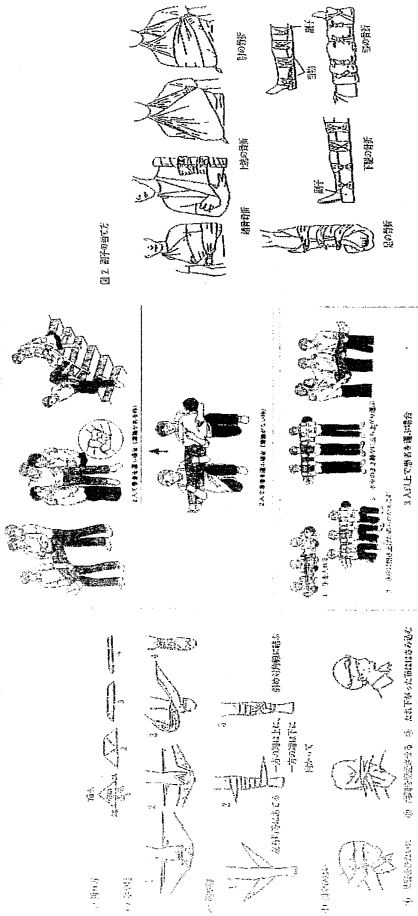
平成15年2月20日(木) 16:30～18:00

工学部大会議室(工学部4号館4階)

地震防災連続七三十一

主催：名古屋大学災害対策室

名古屋大学災害対策室会議



第3回

地震と救急医療

医学系研究科 教授

武澤 純

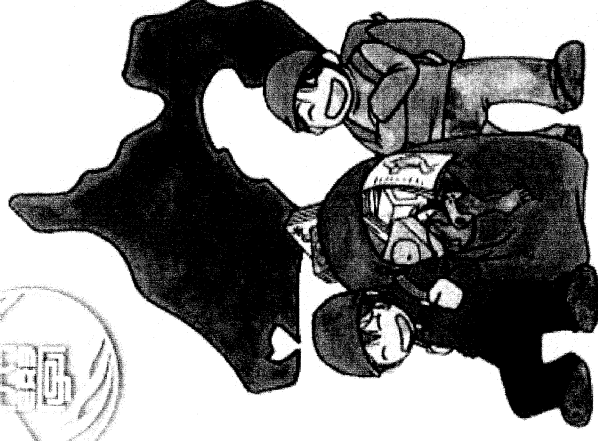
平成15年4月25日(金) 16:30~18:00

工学部5号館2階・521番講義室

地震防災連続七三十一

主催：名古屋大学災害対策室

名古屋大学災害対策室会議



地震防災連続七三十一
 も第4回となりました。
 今回は地震対策先進大
 学である静岡大学の里村大
 生をお呼びして、静岡大
 学での対策全般について
 お話頂くことにします。
 これから対策を始める名
 古屋大学にとっければなり
 も参考にしなればなり
 ません。多くの方の参加
 を御願いたしました。

第4回

「静岡大学における地震防災対策」

静岡大学理学部教授

里村幹夫

平成15年5月21日(水曜日) 16:30-18:00

工学部大会議室(工学部4号館4階)

地震防災連続セミナー

主催：名古屋大学災害対策室



1994年三陸はるか沖地震による八戸東高等学校管理棟被害

第5回

学校施設の

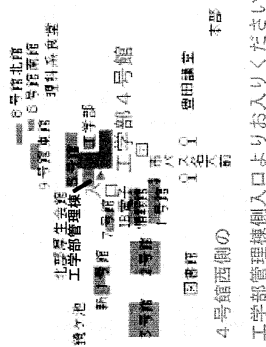
地震被害・耐震性と耐震改修

豊橋技術科学大学 助教授 倉本 洋

平成15年7月11日(金)16:30~18:00

工学部4号館4階

大会議室



名古屋大学地震防災連続セミナー
第6回

いのちを守る地震防災学

大震災に立ち向かう知恵と方法

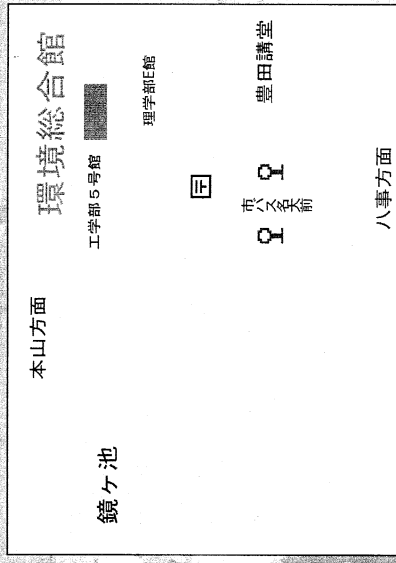
林 春男

京大大学防災研究所 教授 (社会心理学)

「社会の防災力」を高めるために！
被災者側からみた防災

平成15年9月25日(木) 17:00~18:30

環境総合館1階：レクチャーホール

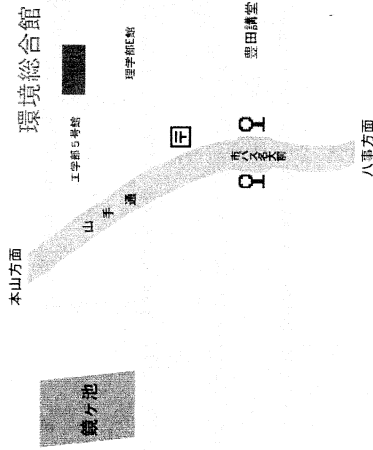


主催：名古屋大学災害対策室

地震防災連続セミナー

主催：名古屋大学災害対策室

室長が語る！！



第7回

地震予知はできるのか？

そして名古屋大学の対応は？

名古屋大学災害対策室 室長 山岡 耕春

平成15年10月30日(木)16:30～18:00

環境総合館1階レクチャーホール

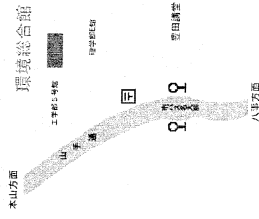
第8回 名古屋大学地震防災連続セミナー

災害社会史からみた 名古屋の近世と近代



北原 糸子

国立歴史民俗博物館 客員教授



平成15年12月10日(水)

17:00～18:30

環境総合館1階レクチャーホール

第10回 名古屋大学地震防災連続セミナー

リスク・コミュニケーションと 災害情報

災害情報

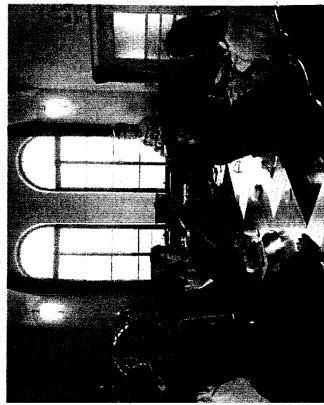
吉川肇子 (慶應義塾大学)

平成16年2月23日(月)

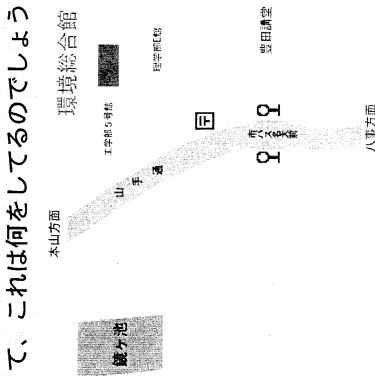
17:00~18:30

環境総合館1階レクチャーホール

私たちは危険と隣り合わせで生活しています。そのような危険をどう認識してどのように付き合うかについて心理学の立場からやさしく解説いただきます。



さて、これは何をしているのでしょうか？



主催 名古屋大学災害対策室

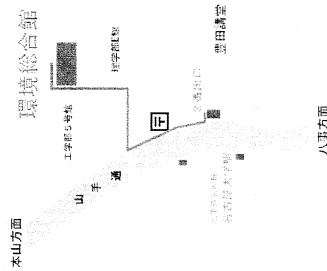
第9回 名古屋大学地震防災連続セミナー

“有珠山のホームドクターが語る！”

火山防災から学ぶ

岡田 弘

北海道大学教授



平成16年1月21日(水)

17:00~18:30

環境総合館1階レクチャーホール

〈主催〉名古屋大学災害対策室

第1回 名古屋大学 地震防災アカデミー

(地震防災連続セミナーから通算11回目)

阪神・淡路大震災から10年目を迎えて

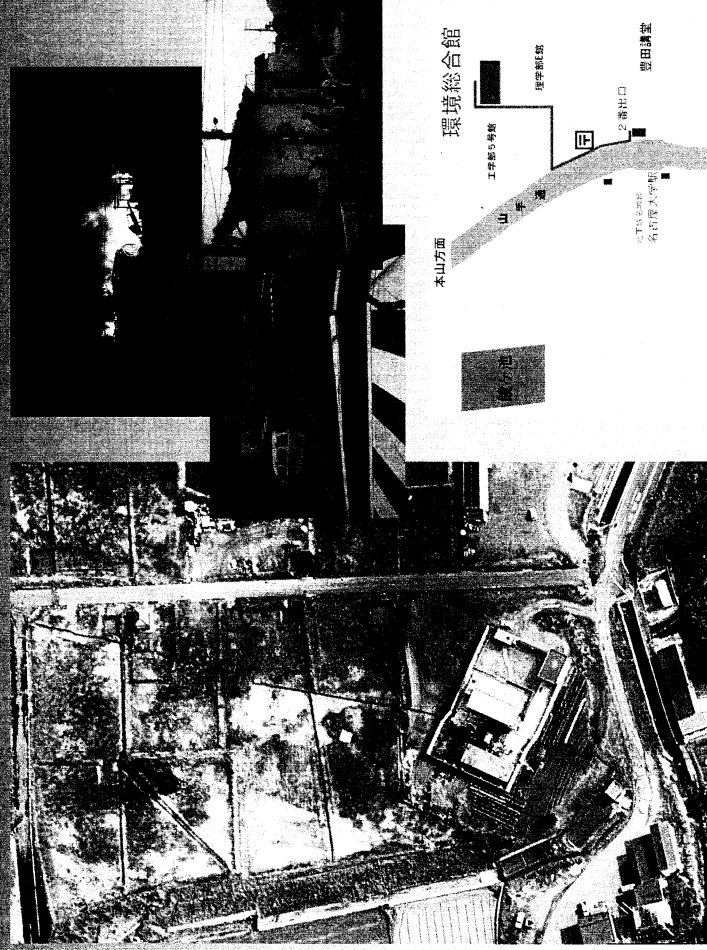
— 地域防災の劇的な変化とその方向性 —

鈴木 康弘

名古屋大学災害対策室 室長

平成16年5月20日(木) 17:00～18:30

環境総合館1F レクチャーホール



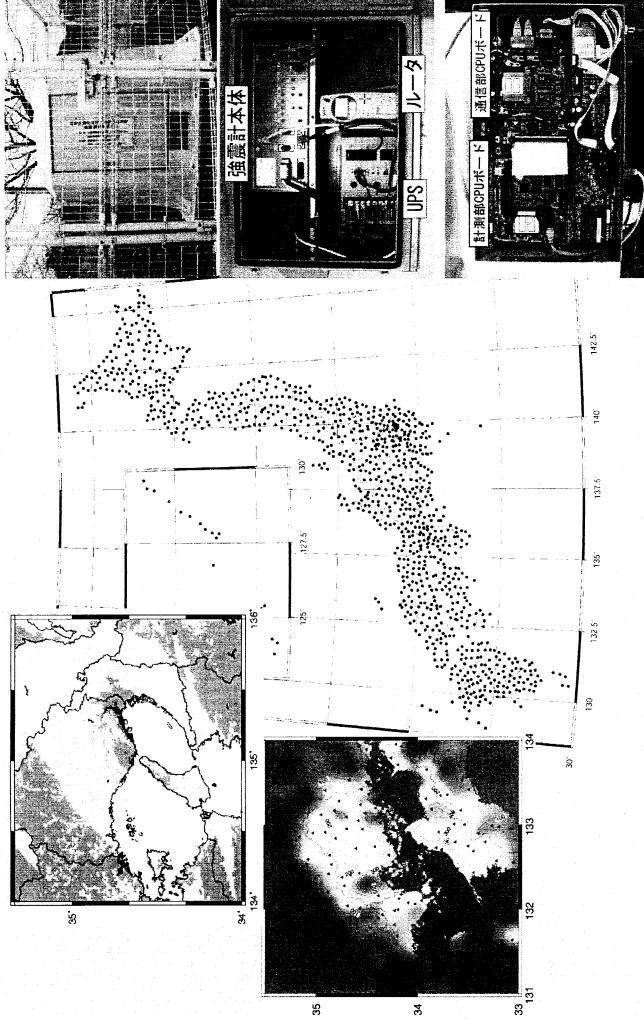
主催 名古屋大学災害対策室

第2回 名古屋大学 防災アカデミー

(地震防災連続セミナーから通算12回目)

現在と未来の強震動

— 地震動の観測と予測 —



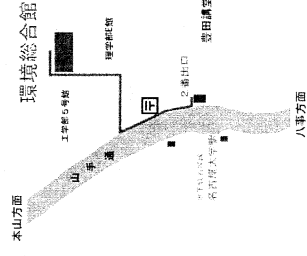
藤原 広行

防災科学技術研究所 プロジェクトディレクター

平成16年6月1日(火)

13:30～15:00

環境総合館1F レクチャーホール



主催 名古屋大学災害対策室

第3回 名古屋大学 防災アカデミー

科学の目で見る大震災の記録 — 関東大震災を例にして —

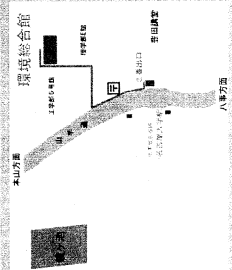


武村 雅之

鹿島建設株式会社 小堀研究室

平成16年7月13日(火) 13:30～15:00

環境総合館1F レクチャーホール



住家全壊率による地域別
震害の程度(1923年)

- 10%以上 (58)
- 5%～10% (68)
- 0.1%～5% (68)
- 0%～0.1% (68)
- 10%以上 (7)
- 30%以上 (7)

0 50km

主催 名古屋大学災害対策室

2004. 7. 13 梅雨豪雨水害

五十嵐川堤防決壊



第4回 名古屋大学防災アカデミー

治水と水防災 辻本 哲郎

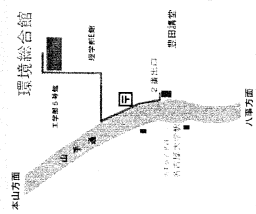
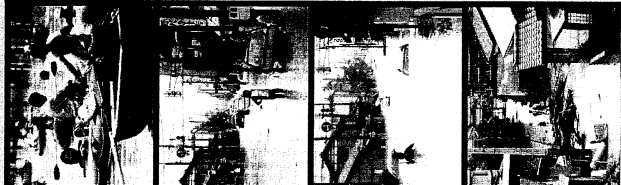
名古屋大学工学研究科教授

平成16年11月16日(火)

17:30～19:00

環境総合館1階 レクチャーホール

河川、流域管理としての治水と、
危機管理的な水防活動、
避難・救援活動などの
相違と連携のあり方とは？



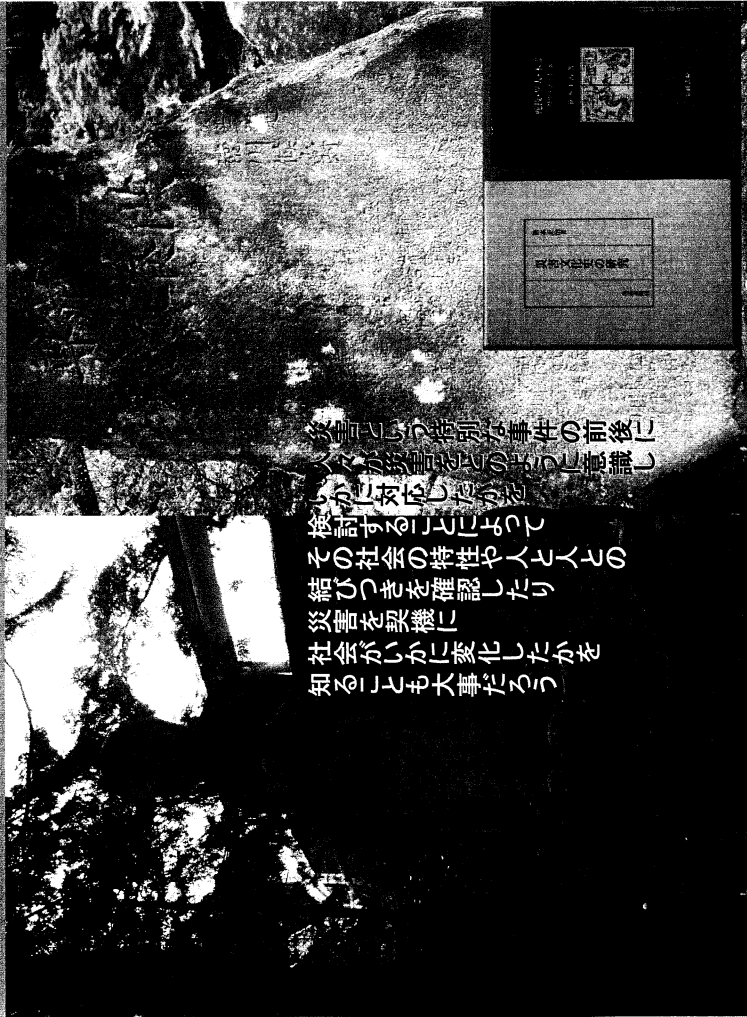
主催 名古屋大学災害対策室

【第7回名古屋大学防災アカデミー】

災害文化をめぐって

—土石流を中心に—

笹本 正治 信州大学人文学部教授



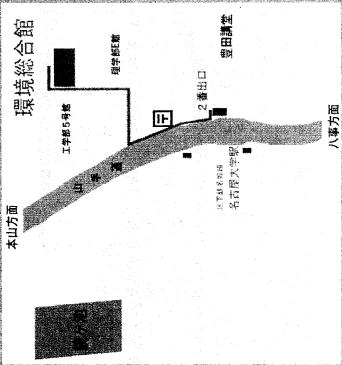
▲お地蔵さんと石碑は、雨末の土石流で約100人が死んだ際のもの(南木曾町)

平成16年12月8日(水)

17:30～19:00

環境総合館1階レクチャーホール

主催 名古屋大学災害対策室



第8回名古屋大学防災アカデミー



The Earth Simulator Center

地震発生予測に挑む

—コンピュータ地震なまの飼育法—

平原和朗 環境学研究科教授

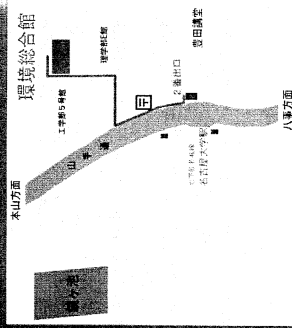


平成17年4月21日(木)

17:30～19:00

環境総合館1階 レクチャーホール

主催 名古屋大学災害対策室



第9回名古屋大学防災アカデミー

死都日本



石黒耀

作家・勤務医

災害国に生きる私たち

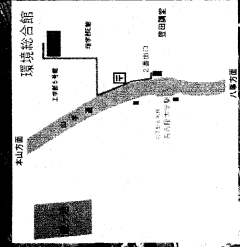
平成17年6月7日 (火) 17:30~19:00

環境総合館1F レクチャーホール

震災列島



主催 名古屋大学災害対策部 TEL 052-788-6088



第10回名古屋大学防災アカデミー

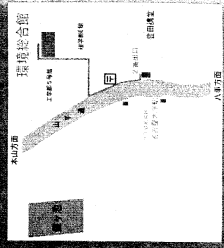
地震で死なないうために

大切な人を失わないうために

あなたの街
あなたの家
あなたの部屋
災害リスクマネジメントを
高めるために
そして 途上国の被災人の貢献

間違いだらけの 地震防災

学ぶべき本当の教訓と
今やらなくてはいけないこと



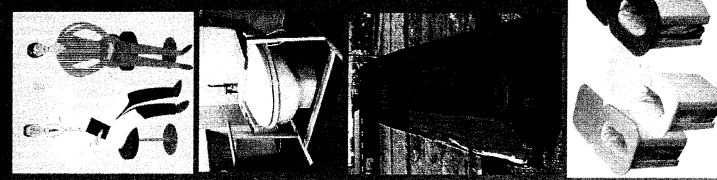
TEL 052-788-6088

災害時の 排泄

出さなければならぬ理由 出せなくなるわけ

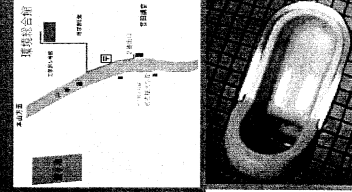
吉川羊子

名大病院泌尿器科医師
大学院医学系研究科助手



平成17年9月6日(火)
環境総合館1階レクチャーホール
17:30~19:00

主催：名古屋大学災害対策室

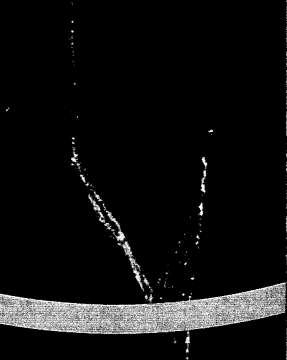


成熟した自然災害観をほぐくむ —火山文化の視点から—

藤井直之

名古屋大学大学院環境学研究科教授

利用



災害

平成17年7月19日(火)
17:30~19:00
環境総合館1階
レクチャーホール

藤井直之



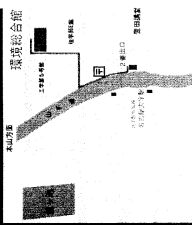
観測



有珠山火山防災マップ



ハザードマップ



第15回名古屋大学防災アカデミー



楽しいほっがいいく 〜ゲームで学ぶ防災の知恵〜

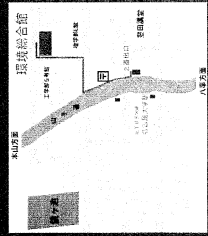


細川 眞司

(財)市民防災研究所 調査研究部長



12月12日(月)
17:30-19:00
環境総合館1階レクチャーホール



主催：名古屋大学災害対策室 TEL052-788-6038
<http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/~taisaku/>

